



高崎健康福祉大学

Takasaki University of Health and Welfare

2020

令和 2 年度

シラバス

健康福祉学部 社会福祉学科



令和2年度 社会福祉学科 シラバス目次

基礎教養ゼミ(教養基礎).....	5	英語 IVB(リテラシー).....	91
日本語表現法(教養基礎).....	8	英語 IVC(リテラシー).....	93
日本国憲法(教養基礎).....	10	Integrated English I(リテラシー).....	95
法学(教養基礎).....	12	Integrated English II(リテラシー).....	97
経済学(教養基礎).....	14	ドイツ語(リテラシー).....	99
社会学(教養基礎).....	17	フランス語(リテラシー).....	101
生涯健康論(教養基礎).....	19	ポルトガル語(リテラシー).....	103
生涯学習概論(教養基礎).....	22	中国語(リテラシー).....	105
生命と環境の科学(教養基礎).....	24	ハングル語(リテラシー).....	107
国際関係論(教養基礎).....	28	コンピュータ入門Ⅰ(リテラシー).....	109
体育理論(教養基礎).....	31	コンピュータ入門Ⅱ(リテラシー).....	111
体育実技(教養基礎).....	33	コンピュータ実習Ⅰ(リテラシー).....	113
キャリア形成論(教養基礎).....	36	コンピュータ実習Ⅱ(リテラシー).....	115
哲学(人間理解).....	39	世界の社会福祉発達史(専門教養科目).....	117
倫理学(人間理解).....	41	国際保健医療論(専門教養科目).....	119
心理学(人間理解).....	43	世界の歴史と日本(専門教養科目).....	122
文学と人間(人間理解).....	45	人間行動学(専門教養科目).....	124
芸術論(人間理解).....	47	健康運動実技(専門教養科目).....	126
ボランティア・市民活動論(人間理解).....	49	宗教と倫理(専門教養科目).....	128
人権論(人間理解).....	52	レクリエーション論(専門教養科目).....	130
人間関係論(人間理解).....	55	現代社会と福祉Ⅰ(専門導入科目).....	133
ジェンダー論(人間理解).....	57	現代社会と福祉Ⅱ(専門導入科目).....	136
共生の倫理(人間理解).....	59	相談援助の基盤と専門職Ⅰ(専門導入科目).....	139
チーム医療アプローチ論(人間理解).....	61	相談援助の基盤と専門職Ⅱ(専門導入科目).....	141
国際医療事情(人間理解).....	63	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ(専門導入科目).....	143
Introduction to Healthcare Sciences(人間理解).....	66	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ(専門導入科目).....	145
囲碁の世界(人間理解).....	69	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度(専門導入科目).....	147
英語 IA(リテラシー).....	71	障害者に対する支援と障害者自立支援制度(専門導入科目).....	150
英語 IB(リテラシー).....	73		152
英語 IC(リテラシー).....	75	人体の構造と機能及び疾病(専門導入科目).....	152
英語 IIA(リテラシー).....	77	社会調査の基礎(専門導入科目).....	154
英語 IIB(リテラシー).....	79	認知症の理解(専門導入科目).....	156
英語 IIC(リテラシー).....	81	障害の理解(専門導入科目).....	158
英語 IIIA(リテラシー).....	83	発達と老化の理解(専門導入科目).....	161
英語 IIIB(リテラシー).....	85	精神疾患とその治療Ⅰ(専門導入科目).....	163
英語 IIIC(リテラシー).....	87	精神保健の課題と支援Ⅰ(専門導入科目).....	165
英語 IVA(リテラシー).....	89		

令和2年度 社会福祉学科 シラバス目次

福祉基礎実習(専門導入科目)	167
福祉基礎演習(専門基幹科目)	169
相談援助演習Ⅰ(専門基幹科目)	171
相談援助演習Ⅱ(専門基幹科目)	174
相談援助演習Ⅲ(専門基幹科目)	177
相談援助演習Ⅳ(専門基幹科目)	180
相談援助演習Ⅴ(専門基幹科目)	183
特別講座Ⅰ(専門基幹科目)	185
特別講座Ⅱ(専門基幹科目)	186
社会保障Ⅰ(専門基幹科目)	187
社会保障Ⅱ(専門展開科目)	189
地域福祉の理論と方法Ⅰ(専門展開科目)	191
地域福祉の理論と方法Ⅱ(専門展開科目)	194
低所得者に対する支援と生活保護制度(専門展開科目) ..	197
相談援助の理論と方法Ⅰ(専門展開科目)	199
相談援助の理論と方法Ⅱ(専門展開科目)	201
相談援助の理論と方法Ⅲ(専門展開科目)	203
相談援助の理論と方法Ⅳ(専門展開科目)	205
福祉行財政と福祉計画(専門展開科目)	207
福祉サービスの組織と経営(専門展開科目)	210
保健医療サービス(専門展開科目)	212
権利擁護と成年後見制度(専門展開科目)	214
就労支援サービス(専門展開科目)	217
更生保護制度(専門展開科目)	219
相談援助実習指導Ⅰ(専門展開科目)	222
相談援助実習指導Ⅱ(専門展開科目)	224
相談援助実習指導Ⅲ(専門展開科目)	226
相談援助実習(専門展開科目)	228
精神疾患とその治療Ⅱ(専門導入科目)	230
精神保健の課題と支援Ⅱ(専門展開科目)	232
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)(専門展開科目)	235
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ(専門展開科目)	237
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ(専門展開科目)	239
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ(専門展開科目)	241
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ(専門展開科目)	244

精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ（専門展開科目）	247
精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ（専門展開科目）	249
精神障害者の生活支援システム（専門展開科目）	251
精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ（専門展開科目）	253
精神保健福祉援助演習（専門）Ⅱ（専門展開科目）	255
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ（専門展開科目）	257
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ（専門展開科目）	259
精神保健福祉援助実習指導Ⅲ（専門展開科目）	262
精神保健福祉援助実習（専門展開科目）	265
ケアマネジメント論（専門展開科目）	267
地方自治論（専門展開科目）	270
リハビリテーション論（専門展開科目）	272
レクリエーション実技（専門展開科目）	274
福祉レクリエーション論（専門展開科目）	277
福祉レクリエーション援助論（専門展開科目）	279
福祉レクリエーション援助技術（専門展開科目）	282
障害者福祉論（専門展開科目）	285
スクールソーシャルワーク論（専門展開科目）	287
医療ソーシャルワーク論（専門展開科目）	290
こども論（専門展開科目）	293
カウンセリング論（専門展開科目）	295
トータルボディトレーニング	297
こころとからだのしくみⅠ（専門展開科目）	300
こころとからだのしくみⅡ（専門展開科目）	302
障がい者スポーツ論（専門展開科目）	304
チーム医療アプローチ演習（応用専門科目）	307
介護ロボット論（専門展開科目）	309
国際福祉事情（専門展開科目）	311
介護の基本Ⅰ（専門展開科目）	313
介護の基本Ⅱ（専門展開科目）	315
介護の基本Ⅲ（専門展開科目）	317
介護の基本Ⅳ（専門展開科目）	319
介護の基本Ⅴ（専門展開科目）	321
介護の基本Ⅵ（専門展開科目）	323
生活支援技術Ⅰ（専門展開科目）	324
生活支援技術Ⅱ（専門展開科目）	326
生活支援技術Ⅲ（専門展開科目）	328
生活支援技術Ⅳ（専門展開科目）	330
生活支援技術Ⅴ（専門展開科目）	332

令和2年度 社会福祉学科 シラバス目次

介護過程Ⅰ(専門展開科目).....	336
介護過程Ⅱ(専門展開科目).....	338
介護過程Ⅲ(専門展開科目).....	340
介護過程Ⅳ(専門展開科目).....	342
介護過程Ⅴ(専門展開科目).....	344
介護総合演習Ⅰ(専門展開科目).....	346
介護総合演習Ⅱ(専門展開科目).....	349
介護総合演習Ⅲ(専門展開科目).....	351
介護総合演習Ⅳ(専門展開科目).....	354
介護実習Ⅰ(専門展開科目).....	357
介護実習Ⅱ(専門展開科目).....	359
介護実習Ⅲ(専門展開科目).....	361
医療的ケア論Ⅰ(専門展開科目).....	363
医療的ケア論Ⅱ(専門展開科目).....	366
医療的ケア論Ⅲ(専門展開科目).....	369
医療的ケア演習(専門展開科目).....	371
総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	373
総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	376
総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	378
総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	379
総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	380
総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	382
総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	384
総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	385
総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	386
総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	387
総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	388
総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	391
総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	393
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習).....	395
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習).....	398
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習).....	400
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習).....	401
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習).....	402
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習).....	404
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習).....	406
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習).....	407
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習).....	408
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習).....	409

総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習).....	410
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習).....	412
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習).....	413
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習).....	416
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習).....	419
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習).....	421
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習).....	422
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習).....	423
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習).....	425
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習).....	427
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習).....	428
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習).....	429
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習).....	430
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習).....	431
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習).....	434
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習).....	436
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習).....	438
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習).....	441
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習).....	443
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習).....	444
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習).....	445
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習).....	447
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習).....	449
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習).....	450
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習).....	451
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習).....	452
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習).....	453
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習).....	455
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習).....	456
卒業研究(卒業論文)(卒業研究及び演習).....	459
生涯学習社会と図書館(司書).....	460
図書館概論(司書).....	462
図書館制度・経営論(司書).....	465
図書館情報技術論(司書).....	467
図書館サービス概論(司書).....	469
情報サービス論(司書).....	471
児童サービス論(司書).....	473
情報サービス演習(司書).....	476
図書館情報資源概論(司書).....	479

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス目次

情報資源組織論(司書) 481

情報資源組織演習(司書).....483

図書館サービス特論(司書) 487

図書館情報資源特論(司書) 489

科目名		基礎教養ゼミ(教養基礎)			科目ナンバリング	LAB001
英文名		Freshman Seminar (FYE)			講義形態	講義
担当教員		町田 修三、根岸 恵子、小泉 英明、武藤 洋一				
科目に関連した実務経験		小泉: 人事、社員教育担当として企業にて勤務(経験) 武藤: 記者、編集者として新聞社にて勤務(経験)				
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		充実して実り多い大学生活を送るには、どうしたらいいのだろうか？大学で失敗しないためには、初年時に学生生活の送り方を修得しておくことが極めて大切である。本講義では大学生活のキーとなる、学習方法やレポート執筆等にかかる「学習スキル」、コミュニケーション能力をはじめとした「ソーシャルスキル」、読み書きや数的能力などの「アカデミックスキル」。学生にとって必要なこうしたスキルをしっかりと身につけていくことを、講義の目標としている。受講学生には、積極的に講義に参加する受講態度が求められる。 授業では、ジェネリックスキルをつけるため、できる限りアクティブラーニングを取り入れる。日本語作文能力と数学基礎力は、学習支援センターとのコラボレーションで提出と添削を繰り返して涵養を目指す。				
到達目標		1.大学での学習生活を確立する。 2.基礎学力を確認し、自己学習の方向性をつかむ。 3.社会人に必要とされる言葉使い・文章表現を習得する。■ 4.総合適性検査(SPI)を意識し、対応するための基礎力を養成する。 5.キャリアデザインの構築を図るために、社会常識・マナー等を学び、自ら考え、自ら問える力を養う。■				
評価方法		参加度 50%、提出物 50%で総合的に評価する。総合評価 60%を合格とする。				
使用教材		資料、プリント				
参考文献						
課題に対するフィードバック		提出物・レポート・小テストを返却し、解説をする。基礎力テストや実力テスト後に解説や結果を知らせる。				
オフィスアワー (研究室)		学習支援センター(2号館2階) 月～金開室 以下の時間に質問を受け付ける。 ●数的処理→常時 ●言語関係・レポート等→木曜 3 時限	メールアドレス (#→@)	machida#takasaki-u.ac.jp		
1	講義内容	大学で何を学ぶか(意義と目的)				
	該当到達目標	予習	事前にシラバスを読み、目標を確認し、大学生活をプランニングする。			1 時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。			1 時間
2	講義内容	書くためのスキル(ノート、レポート・論文の書き方)				
	該当到達目標	予習	事前配布した資料に目を通しておく。			1 時間
	1,2,3	復習	ノートテーキング、レポートの書き方をマスターする。			1 時間
3	講義内容	基礎力テスト(計算／言葉)				

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	言語・作文・計算や数式など基礎力を確認しておく。	1 時間
		復習	今までの学習を振り返り、復習する。	1 時間
4	該当到達目標 1,2,4	講義内容 解くためのワークⅠ（計算）		
		予習	計算方法や文章題の復習をしておく。	1 時間
		復習	配布した問題の残りを解く。	1 時間
5	該当到達目標 1,2,3	講義内容 考えるためのワークⅠ（言葉の多様性①GW）■		
		予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
		復習	添削を受けた作文を書き直す。	1 時間
6	該当到達目標 1,2,3	講義内容 コミュニケーションスキルⅠ（アクティブラーニング GW）		
		予習	事前配布した資料に目を通しておく。	1 時間
		復習	レポートを書く。	1 時間
7	該当到達目標 1,2,3	講義内容 考えるためのワークⅡ（言葉の多様性②）■		
		予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
		復習	添削を受けた作文を書き直す。	1 時間
8	該当到達目標 1,2,4	講義内容 解くためのワークⅡ（数的処理①）		
		予習	前回の問題を解いておく。	1 時間
		復習	配布した問題の残りを解く。	1 時間
9	該当到達目標 1,2,5	講義内容 キャリアデザイン■		
		予習	自らの人生設計について考えておく。	1 時間
		復習	レポート書き方を確認しておく。	1 時間
10	該当到達目標 1,2,3	講義内容 考えるためのスキルⅠ（新聞を読み説く）■		
		予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
		復習	添削を受けた作文を書き直す。	1 時間
11	該当到達目標 1,2,4	講義内容 解くためのワークⅢ（数的処理②）		
		予習	前回の問題を解いておく。	1 時間
		復習	配布した問題の残りを解く。	1 時間
12	該当到達目標 1,2,3,5	講義内容 コミュニケーションスキルⅡ（プレゼンテーション GW）		
		予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
		復習	添削を受けた作文を書き直す。	1 時間
13	該当到達目標 1,2	講義内容 シンポジウムーより充実した学生生活をめざして		
		予習	事前配布した資料に目を通しておく。	1 時間
		復習	興味あるトピックについて発表できるようにする。	1 時間
14	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 実力テスト		
		予習	今まで学習した内容を復習しておく。	1 時間
		復習	試験の内容を振り返り、学習する。	1 時間
15	該当到達目標 1,2,3,5	講義内容 考えるためのスキルⅡ（社会を正しく理解する）		
		予習	これまでの講義内容を振り返り、どう活用するかを考えておく。	1 時間
		復習	大学生生活を有意義に過ごすための方策を考える。	1 時間
合計時間（予習・復習）				30 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

備考	GW＝グループワーク 記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修や課題の作成等で各自必要な学習時間を補完すること。 ■：実務経験に基づく内容を示す。

科目名		日本語表現法(教養基礎)			科目ナンバリング	LAB002
英文名		Japanese expression method			講義形態	講義
担当教員		武藤 洋一				
科目に関連した実務経験		記者として上毛新聞社に勤務。記事全般、コラムを執筆。				
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	選択	2 単位	
種別						
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力			応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		日本人の極端な日本語能力低下が問題視される中で、「書き言葉」の表現力を向上させるために、まず自分の考えをまとめ、書くに至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と、生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、自分の考えをいかに文章化するかを修得する。同時に他者の考えを、発言や文面から把握するとともに、その内容に対する自分の意見を構築、交換、指摘する機会を設け、学士力向上を図る。 現代人がよく間違える慣用句や文章表現について、毎回実例を示しながら説明する。また、高校までに学ぶ機会が少なかったと思われる四字熟語・ことわざなどを、講義時間の一部を使って説明する。小論文を「書く→添削→返却」を 3 回程度実施する。				
到達目標		1.自分の「考え」をまとめ、意思表示できる。 2.日本語の基礎知識を表現・文法・語彙の三側面から確認し、理解できる。 3.日本語表現の基本的ミスを確認し、理解できる。■ 4.文章の組み立て方を理解し、習得できる。 5.日本語表現的に正確な文章が書けるようにする。■				
評価方法		筆記試験(80%)・授業参加度(20%)によって総合的に評価する。評価方法の基準は講義時に通達する。				
使用教材		担当教員作成のプリント。				
参考文献						
課題に対するフィードバック		提出した文章の欠点・修正点を謙虚に捉え、新たな文章作成の場に生かし、文章力向上に挑戦する。				
オフィスアワー (研究室)		授業の前後 1～2 時間。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は授業時に説明する。	
1	講義内容	原稿用紙の書き方(実際に執筆する)■				
	該当到達目標	予習	400 字詰め原稿用紙の使い方			1.5 時間
	1	復習	カッコや句読点の書き方 その日の出来事を原稿用紙に書いてみる			1.5 時間
2	講義内容	日常生活の心掛け 小テスト(漢字の特殊読み)				
	該当到達目標	予習	社会の変動に関心を持つ			1.5 時間
	1,4	復習	活字を読む習慣を身に付けるにはどうすべきか考える			1.5 時間
3	講義内容	三段論法と逆三角形■ 小テスト(書けそうで書けない漢字)				
	該当到達目標	予習	新聞記事を段落ごとに考えながら読む(新聞は図書館にある)			1.5 時間
	2,4	復習	新聞記事を「逆三角形」を意識しながら熟読する			1.5 時間
4	講義内容	文章をうまく見せる 3 力条■ 小テスト(同音異義語)				
	該当到達目標	予習	1 回目に書いた文章を見直す			1.5 時間
	2,4	復習	1 回目に書いた文章を書き直してみる			1.5 時間
5	講義内容	主語と述語■ 小テスト(四字熟語ことわざ①)				
	該当到達目標	予習	テキストをチェックしておく			1.5 時間
	2,3	復習	テキストの悪文例を正しく直す			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

6	講義内容	小論文執筆(複数のテーマから1つを選んで書く)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	4回目のプリントチェック	1.5 時間	
		復習	書き足りなかったことがないか	1.5 時間	
7	講義内容	修飾語■ 俳句 小テスト(間違い探し①)			
	該当到達目標 2,4	予習	文章はリズムが大切 俳句を作ってみる	1.5 時間	
		復習	プリントの悪文例を見直す	1.5 時間	
8	講義内容	話し言葉と書き言葉■ 小テスト(四字熟語ことわざ②)			
	該当到達目標 2,3	予習	「ら」抜き言葉の長所短所	1.5 時間	
		復習	話し言葉を書き言葉にしてみる	1.5 時間	
9	講義内容	手紙を書く			
	該当到達目標 1,4	予習	誰宛に書くか、何を書くか準備する	1.5 時間	
		復習	授業で書いたほかにも書いてみる	1.5 時間	
10	講義内容	センテンスは短く■ 小テスト(同義語反対語)			
	該当到達目標 3,4	予習	新聞のコラムを読む	1.5 時間	
		復習	悪文例を直す	1.5 時間	
11	講義内容	小論文執筆(同じ形容詞や動詞を何度も使わないように)■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	4回目、7回目のプリント見直し	1.5 時間	
		復習	別のテーマで書いてみる	1.5 時間	
12	講義内容	敬語 小テスト(四字熟語ことわざ③)			
	該当到達目標 3,4	予習	敬語の種類を調べる	1.5 時間	
		復習	プリントの問題を解く	1.5 時間	
13	講義内容	推敲■ 小テスト(間違い探し②)			
	該当到達目標 2,4,5	予習	書籍、新聞を声に出して読む	1.5 時間	
		復習	自分の文章を直してみる	1.5 時間	
14	講義内容	小論文執筆(小論文のテーマに沿ってタイトルを自分で書く)■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	社会問題を考える	1.5 時間	
		復習	別のテーマで書いてみる	1.5 時間	
15	講義内容	覚えておきたい短詩と台詞			
	該当到達目標 3,4,5	予習	知っている俳句短歌を思い出してみる	1.5 時間	
		復習	声に出して読んでおく	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す				

科目名	日本国憲法(教養基礎)				科目ナンバリング	LAB003
英文名	Japanese Constitution				講義形態	講義
担当教員	金井 洋行					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位			
種別						
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力			応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	憲法の基本理念と日本国憲法に関する基礎的知識を習得することを第一義的な学習目標とする。第二に、社会人として要求される価値規範意識を、憲法学習を通して醸成することを目指す。終局的に、身近な生活関係の中から人々の権利の保護や社会への参加の問題を探り出し、憲法上の課題の理解を深めることを目標とする。講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的あるいは国際的に大きな政治の動きがあった場合には、その話題を飛び入りのりに割り込ませることはある。日々の社会や政治の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりに考えておくことを期待する。					
到達目標	1.日本国憲法を貫いている思考や仕組みと日本国憲法の歴史的背景を理解することができる。 2.憲法が解決すべき紛争について、その歴史的、社会的背景を認識することができる。 3.市民相互間の法的関係や公的部門のそれに対する機能の関連性を考察することができる。 4.政治の世界で起きている出来事について、具体的な憲法規定と結びつけることができる。 5.主要な学説について、その対立の背景と主張のねらいを認識することができる。					
評価方法	・平常の授業に対する姿勢(15%)、中間テスト(25%)、期末の定期試験(60%) ・中間テストは概ね 3 回の知識テスト又はレポート、定期試験は知識と思考力のテスト					
使用教材	テーマ別レジュメ、概要・事例資料(テキスト:有斐閣新書『注釈憲法』) *テーマによっては DVD の視聴あり。					
参考文献						
課題に対するフィードバック	重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)					
オフィスアワー (研究室)	出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。			メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	憲法とは何か?ー憲法学習の意義と憲法の本質ー				
	該当到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 233-243 頁			2 時間
	1	復習	予備知識アンケート			0.5 時間
2	講義内容	国家・国民・政府ー憲法を構成する基本要素の内容ー				
	該当到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 5-6 頁、138-140 頁			1 時間
	1	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集			1.5 時間
3	講義内容	日本国憲法の制定過程				
	該当到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 2-4 頁、資料;「日本国憲法の有効性」			1 時間
	1,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集			1.5 時間
4	講義内容	日本国憲法の基本構造と特色				
	該当到達目標	予習	資料「日本国憲法の体系」熟読と疑問点の究明			1 時間
	1,2	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集			1.5 時間
5	講義内容	国民主権と天皇制				

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 5-26 頁	1 時間
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
6	講義内容	平和主義と9条解釈の変遷		
	該当到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 27-33 頁	1 時間
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
7	講義内容	基本的人権の沿革と観念		
	該当到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 40-44 頁、232-234 頁	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	講義内容	基本的人権規定の適用問題(範囲と限界)		
	該当到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 35-36 頁、40-45 頁	1 時間
	2,3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
9	講義内容	個人主義・自由主義・平等主義		
	該当到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 42-67 頁	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	講義内容	日本国憲法上の諸権利の性格(消極的権利と積極的権利)		
	該当到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 68-87 頁	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
11	講義内容	国会の地位と選挙の構造と機能		
	該当到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 109-121 頁、133-136 頁、145-149 頁	1 時間
	4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
12	講義内容	行政権の意義と内閣の組織・権限の特徴		
	該当到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 154-168 頁	1 時間
	4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
13	講義内容	司法権の意義と裁判のルール		
	該当到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 179-184 頁	1 時間
	4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
14	講義内容	権力分立と地方自治・分権		
	該当到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 111-120 頁、214-226 頁	1 時間
	1,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
15	講義内容	憲法改正と憲法保障		
	該当到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 227-243 頁	1 時間
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 当日に即答できない質問や要望については次回に文書をもって応答することを原則とする。 日々の社会や政治の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりに考えておくことを期待する。			

科目名	法学(教養基礎)				科目ナンバリング	LAB004
英文名	Law				講義形態	講義
担当教員	金井 洋行					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位			
種別						
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力		応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	法の存在意義を人生の節目で生じる法律問題を通して理解することを基幹的目標とする。生活上生じる法律問題や法的処理事項の背景にある法社会学的意味を考える。法律関係は権利義務の変動の関係であるので、それぞれ権利義務とその変動要因にどのような種類があるかを知ることを目指す。法律関係の基本的システムを習得することによって、社会的生活者に要求される法規範意識を身につける。 講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に大きな社会問題が発生した場合には、その話題あるいは関連する事項を飛び入的に割り込ませることがある。					
到達目標	1.法の存在意義や社会的機能の全体的な姿を理解することができる。 2.法制度の社会学的意義を理解することができる。 3.契約関係のシステムの意義と特色を理解することができる 4.家族関係の法的処理の方法を理解することができる。 5.法的紛争処理の限界を知り円滑な生活関係を維持する手法を考察することができる。					
評価方法	・平常の授業に対する姿勢(15%)、中間テスト(25%)、期末の定期試験(60%) ・中間テストは概ね 3 回の知識テスト又はレポート、定期試験は知識と思考力のテストを実施する。					
使用教材	テーマ別レジュメ、概要・事例資料(テキストに代替するプリント) *テーマによっては DVD の視聴あり。					
参考文献						
課題に対するフィードバック	重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)					
オフィスアワー (研究室)	出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。			メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	法の意義と機能				
	該当到達目標	予習	高校時の社会の教科書「法分野」の箇所を読んでおくこと			2 時間
	1,5	復習	予備知識アンケート			0.5 時間
2	講義内容	成人と法―一人の年齢と能力の法的意味				
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み			1 時間
	1,2,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集			1.5 時間
3	講義内容	就職と法―採用の法的意味と選別の法的問題				
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み			1 時間
	2,3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集			1.5 時間
4	講義内容	労働と法―労働契約の内容と労働条件の保護				
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み			1 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
5	講義内容	結婚と法－婚姻の要件と夫婦の法律関係		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
6	講義内容	親子と法その１－出生をめぐる法律問題と親子関係の形成		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
7	講義内容	親子と法その２－親権関係と扶養関係		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	講義内容	教育と法－義務教育の意義と就学過程の法律問題		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
9	講義内容	社会活動と法－団体の法律関係と団体生活の法律問題		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	講義内容	社会負担と法－租税等の国民負担と公共生活上の法律問題		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	2,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
11	講義内容	国際化と法－出入国管理の法律関係と涉外事件の処理		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
12	講義内容	財産関係と法－取引の法律関係と契約締結上の法律問題		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
13	講義内容	犯罪と法－犯罪・刑罰の法的意味と科罰手続の法律問題		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
14	講義内容	争い事と法－紛争の法的処理方法と裁判の仕組み		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
15	講義内容	老年期と法－介護・医療の法律問題と人の死の法的意味		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 当日に即答できない質問や要望については次回に文書をもって応答することを原則とする。 日々の社会の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりにその背景や解決策を考えておくことを期待する。			

科目名		経済学(教養基礎)			科目ナンバリング	LAB005
英文名		Economics			講義形態	講義
担当教員		町田 修三				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、多くの学生は十分な知識を持っていない。選挙権が与えられても経済知識なしで投票に行くのは危険である。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。レベルとしては、新聞やテレビのニュースがしっかりと理解できるようになることを想定している。また、医療分野を専攻する学生にとっては、医療の経済面からの考察も講義に取り入れるので参考に理解を深めてほしい。 授業開始時に学生から出された質問・疑問に答えながら、前回の復習をする。授業中はクイズをはじめとした問いかけを多く出し、可能な限りアクティブラーニングの導入を試みる。				
到達目標		1.日本の経済の現状を説明できる 2.需要と供給、市場メカニズムについて理解を深め、概説できる 3.景気や GDP について理解を深め、概説できる 4.国の予算や税金制度について説明できる 5.お金の流れや物価変動について説明できる 6.経済政策について理解を深め、他者に説明できる 7.為替レートの変動と貿易の実態について概説できる 8.新聞やテレビのニュースが理解でき、他者に解説できる				
評価方法		学期末試験 80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物(クイズ、小レポートなど)20%				
使用教材		必修テキストはない。講義では毎回資料、データを配布する。				
参考文献		推薦テキストは多数あるので、講義の中で必要に応じて紹介する。				
課題に対するフィードバック		コメントカードに記載された質問事項、疑問点等に関しては、次回の講義で回答する。クイズについても次回の講義で解説する。小レポートにはコメントを付して返却する。				
オフィスアワー (研究室)		月曜日 4 限目、金曜日 2 限目 研究室:1 号館 6 階 603		メールアドレス (#→@)	machida#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	イントロダクション(一部 AL[アクティブラーニング]実施)				
	該当到達目標 8	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく			1 時間
		復習	ニュースに触れる習慣(新聞、テレビ、ネット)を開始する			1 時間
2	講義内容	日本経済の流れ(世界との比較のなかで)				
	該当到達目標 1,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく			1 時間
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

3	講義内容	経済政策の2大潮流—マーケット or ケインズ(一部AL実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
4	講義内容	需要と供給(需要曲線の意味)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
5	講義内容	市場メカニズムと価格(どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
6	講義内容	価格の変動(どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
7	講義内容	国民所得Ⅰ(国の経済力はどう測るんだろう? GDPって何?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
8	講義内容	国民所得Ⅱ(あなたが1万円使うとGDPはいくら増える?)(一部AL実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
9	講義内容	財政(日本の借金は大丈夫? 消費税は何%に?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,4,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
10	講義内容	景気と失業(不景気で学生の就職はどうなる?)(一部AL実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
11	講義内容	金融(日本銀行は何をすること?)(一部AL実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,5,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
12	講義内容	経済政策のしくみ(アベノミクスは何をした?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,6,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
13	講義内容	為替レートメカニズム(円高、円安ってどうして起こるの?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,7,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
14	講義内容	世界と日本(日本の貿易は黒字? 赤字?)(一部AL実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,7,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
15	講義内容	まとめと確認のためのテスト		
	該当到達目標	予習	これまで学習した事項について目を通し、理解を深めておく	3 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4,5,6, 7,8	復習	期末試験の出題意図、講義の理解度の再確認と今後の学習の方向性を考える	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				39 時間
備考	AL(アクティブラーニング)は、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョン、ペアワーク、グループワークなど。 記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修(推薦テキストの講読、新聞・雑誌の経済記事講読等)により、必要な学修時間を各自で補完すること。			

科目名	社会学(教養基礎)			科目ナンバリング	LAB006
英文名	Sociology			講義形態	講義
担当教員	安達 正嗣				
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員ならびに主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施し調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。				
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 2単位		
種別	「社会福祉士」、「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	本科目は、国家資格「社会福祉士」・「精神保健福祉士」の指定科目であり、社会福祉学科学生の受講する科目である。社会学とは、中間集団(家族、地域、企業など)を媒介として、社会と個人との関係を追究する学問である。社会学を学ぶことで、社会福祉分野に関わる者にとっては不可欠となる現代社会の理解力を身につけることができる。 講義の進め方としては、毎回、前回の講義内容に関する小テストをおこない、さらにその後に前回におこなった採点済みの小テストを返却して復習的な解説をおこなった後に、その回の講義をおこなうことを繰り返すことによって、受講生が講義内容の理解を深められるようにしている。				
到達目標	(1)大学生として社会学の基本的な考え方を身につけることができる。 (2)社会学を通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。 (3)日常の人間関係を理解することによって、コミュニケーション能力を身につける。 (4)社会の仕組みを理解して、現代社会における自分自身の立ち位置を知ることができる。 (5)現代社会の社会問題を認識して、その解決を探る能力を身につけることができる。■				
評価方法	小テスト(毎回、講義の開始時に前回の講義の内容について数問のテストをおこなう。遅刻は厳禁。)50%、学期末試験 50%、合計 100%で評価する。				
使用教材	社会福祉士養成講座編集委員会編『社会理論と社会システム』中央法規出版				
参考文献	講義中に、適宜指示する。				
課題に対するフィードバック	各受講生は、小テストで講義の理解度を把握し、次回の講義時に返却された答案に関する解説を通じて、復習に役立て、現代社会と福祉を理解できるようになる。				
オフィスアワー (研究室)	火曜日 5限・6限		メールアドレス (#→@)	adachi-m#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	序章社会学とは(1～12頁)を解説する。			
	該当到達目標	予習	序章を読んでおくこと。		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	序章の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。		1.5 時間
2	講義内容	前回講義の小テスト実施。第1章現代社会の理解・第1節(14～31頁)を解説する。			
	該当到達目標	予習	第1章・第1節を読んでおくこと。		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	第1章・第1節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。		1.5 時間
3	講義内容	前回講義の小テスト実施。第1章現代社会の理解・第2節(32～44頁)を解説する。			
	該当到達目標	予習	第1章第2節を読んでおくこと。		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	第1章第2節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。		1.5 時間
4	講義内容	前回講義の小テスト実施。第1章現代社会の理解・第3節(45～57頁)を解説する。			
	該当到達目標	予習	第1章第3節を読んでおくこと。		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	第1章第3節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。		1.5 時間
5	講義内容	前回講義の小テスト実施。第1章現代社会の理解・第4節(58～71頁)を解説する。			
	該当到達目標	予習	第1章第4節を読んでおくこと。		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	第1章第4節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。		1.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

6	講義内容	前回講義の小テスト実施。第 1 章現代社会の理解・第 5 節(72～89 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 1 章第 5 節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	第 1 章第 5 節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	前回講義の小テスト実施。第 2 章生活の理解・第 1 節(91～104 頁)を解説する。高齢者に関して実務で得た調査結果を提示する。■		
	該当到達目標	予習	第 2 章第 1 節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第 2 章第 1 節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	前回講義の小テスト実施。第 2 章生活の理解・第 2 節(105～119 頁)を解説する。家族に関して実務で得た調査結果を提示する。■		
	該当到達目標	予習	第 2 章第 2 節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第 2 章第 2 節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	前回講義の小テスト実施。第 2 章生活の理解・第 3 節(120～136 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 2 章第 3 節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第 2 章第 3 節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	前回講義の小テスト実施。第 3 章人と社会の関係・第 1～2 節(137～163 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 3 章第 1～2 節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第 3 章第 1～2 節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	前回講義の小テスト実施。第 3 章人と社会の関係・第 3 節(164～175 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 3 章第 3 節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第 3 章第 3 節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	前回講義の小テスト実施。第 3 章人と社会の関係・第 4 節(176～186 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 3 章第 4 節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第 3 章第 4 節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	前回講義の小テスト実施。第 3 章人と社会の関係・第 5 節(187～198 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 3 章第 5 節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第 3 章第 5 節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	前回講義の小テスト実施。第 4 章社会問題の理解・第 1～3 節(199～238 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 4 章第 1～3 節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第 4 章第 1～3 節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	前回講義の小テスト実施。全講義を振り返り、社会学の考え方についてまとめる。		
	該当到達目標	予習	教科書とノートを読み直して、全講義の理解の確認をしておくこと。	3 時間
	1,2,3,4,5	復習	全講義の内容と概念について、再確認をしておくこと。	3 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間
備考	本講義は、社会福祉学科の学生のみが受講できる社会福祉士国家試験の指定科目である。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	生涯健康論(教養基礎)			科目ナンバリング	LAB007
英文名	Lifelong Health Theory			講義形態	講義
担当教員	渡邊 秀臣、五十嵐 康、蒲 章則				
科目に関連した実務経験	渡邊:非常勤医師(整形外科医)として病院に勤務(現在)				
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別	「福祉レクリエーションワーカー」指定科目				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	生涯を幸せて豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約 10 年も短い。本講義では、健康寿命の延伸に向けて生涯にわたる健康維持・管理について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎知識を身に着けることを目的としている。 講義においては、前半はテーマについて概要を説明し、後半は質疑応答する形式です。レポートについても発表する時間を持ちたい。				
到達目標	1.健康の定義と集団の健康評価指標を理解する。■ 2.個体の健康を維持するため生体の調節機構について理解する。■ 3.環境・生活習慣の変容と疾病発症の関連について理解する。■ 4.健康寿命延伸にむけた取り組みについて理解する。■				
評価方法	授業参加度(課題に対する回答等)およびレポート:60 点、期末試験:40 点で総合 60 点以上を合格とする。				
使用教材	テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。				
参考文献	参考書として、厚生統計協会刊の「国民衛生の動向」を利用する。				
課題に対するフィードバック	レポートに対しコメントする。				
オフィスアワー (研究室)	(金)12:30~13:00 13:30~14:30 研究室 4 号館 2 階学部長室		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	健康の定義と健康評価指標(渡邊) WHO の提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、<平均寿命>、<平均余命>、<健康寿命>、<最長寿命>などの呼び方があり、現在の日本で重要なのは、健康寿命であることを理解する。■			
	該当到達目標 1	予習	「国民衛生の動向」より健康評価諸指標の年代推移を把握する。		1.5 時間
		復習	健康の定義と健康評価指標の理解を深める。		1.5 時間
2	講義内容	健康を維持するための食物と物質代謝(五十嵐) 食物(栄養素)は健康に欠かすことのできないエネルギー源である。その物質代謝(同化・異化作用)に関わる体の構造とその働きを理解しながら健康維持について学習する。			
	該当到達目標 2	予習	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。		1.5 時間
		復習	食物のエネルギー代謝と健康について理解する。		1.5 時間
3	講義内容	恒常性維持機構の役割と相互作用(五十嵐) 生体には様々な生理機能をバランスよく正常に機能・維持するための調節機構、すなわち「恒常性維持機構(ホメオスタシス)」が備わっている。このシステムは主に 神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。また、食物の消化・吸収を担う腸管では細菌の侵入を防ぐ恒常性機構が働いている。これらの様々な維持機構の働きと相互作用について学習する。			

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

2	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	生体の恒常性機構と健康維持の関係を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	運動と健康(渡邊) 運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。■		
	該当到達目標 2,3,4	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	健康維持における運動の生理学的意義と健康寿命延伸に向けた運動について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	喫煙による健康障害(渡邊) たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの「喫煙と健康障害」のメカニズムについて理解する。「受動喫煙の影響」についても考える。■		
	該当到達目標 2,3,4	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	喫煙とその健康障害及び健康障害の機序を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	生活習慣病の起因となる肥満(五十嵐) 肥満は原因により原発性肥満(エネルギー摂取過多など)と二次性肥満(性腺機能低下など)に分けられるが、いずれも高血圧、糖代謝異常、脂質代謝異常などの代謝障害の基盤となり、虚血性心疾患や脳血管障害などの動脈硬化性疾患を発症する危険因子となる。それらの起因となる肥満の発症と予防について学習する。		
	該当到達目標 2,3,4	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	肥満とメタボリックシンドロームの病態と対策を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	生活習慣病の危険因子としての糖尿病(五十嵐) 2型糖尿病(インスリン抵抗性糖尿病)は、冠動脈や脳動脈の動脈硬化、さらには腎障害、視力障害及び神経障害の3大合併症の誘発のみならず、健康寿命短縮の危険因子でもある。危険因子としての糖尿病とその予防法について学習する。		
	該当到達目標 2,3,4	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	糖尿病の病態と対策を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	生活習慣病(脳血管障害)と認知症(五十嵐) 血管性認知症はアルツハイマー病に次いで2番目に多い認知症である。脳は全身の20%近い血液を必要とする臓器であることから、その発症は循環器障害などの生活習慣病と密接に関係する。ここでは血管性認知症と他の認知症の病態を比較しながら、その予防と治療の現状について学習する。		
	該当到達目標 1,3,4	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	認知症の病態と原因、予防、治療などの現状について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	ロコモティブシンドローム(渡邊) 脳卒中と運動器障害は介護の主要原因となっている。骨粗鬆症・サルコペニア・運動器不安定を特徴とするロコモティブシンドローム対策が健康寿命の延伸に重要である。ロコモティブシンドロームの早期診断と予防の重要性について理解する。■		
	該当到達目標 3,4	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	加齢に伴う運動器障害を理解し、早期診断と予防の重要性について理解する	1.5 時間
10	講義内容	生活習慣病(がん)と生活習慣(渡邊) 日本人の死亡原因の1位はがん、2位は心疾患、3位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣「がん発症危険因子」を知る。また、「がん予防のための生活習慣」及び早期発見・早期治療のための「がん検診」の重要性について理解する。■		
	該当到達目標	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	3,4	復習	生活習慣と発がんとの関係を理解し、がん対策基本計画などその対策について学習する。	1.5 時間
11	講義内容	WHOの歴史と活動内容(蒲) 第2次世界大戦後に設立された国際専門機関として、戦後から現代にいたるまでの活動変遷を検証する。WHOの取り組みを理解し、現在あるWHOの問題点、改善点を考察する。健康であることがいかにその国の活力(国力)に寄与するかを理解する。		
	該当到達目標	予習	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
	1,4	復習	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1.5 時間
12	講義内容	すべての人に健康を(蒲) アルマータ宣言で採択された「すべての人に健康を」スローガンのもとに、各国が公衆衛生の原点に立ち返り、保健行政戦略を作成、さらに現代進められている持続可能開発目標(SDGs)に向けたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)にいたることを検証する。		
	該当到達目標	予習	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
	1,4	復習	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1.5 時間
13	講義内容	途上国の保健医療の現状と保健行政戦略(蒲) 途上国の人種、風土、歴史的背景、宗教等を考察し、独自の保健行政戦略を実施しているが、その成果や反省点を検証し、日本における地域医療の課題を含めて、今後の対策を考察する		
	該当到達目標	予習	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
	1,3,4	復習	国際機関で発展途上国への保健戦略を学習する	1.5 時間
14	講義内容	厚生労働省の役割と健康への投資(蒲) 膨大な医療・介護予算をどのように有効に使うか、保健医療行政の立場から検証考察をする。各国の取り組みを比較検証し、今後の行政の取り組みを考える。		
	該当到達目標	予習	厚生労働省のウェブサイトで該当部分を学習する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	日本における厚生労働省の保健戦略と動向を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	地域における健康支援チーム構成員とその役割(チーム医療)(渡邊) これまでは、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支えあいに重点を置くとされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる<健康支援チームによるチーム医療>が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する。■		
	該当到達目標	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	4	復習	地域包括ケアシステムを理解し、地域における健康づくりチームの構成員としての各人の役割を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	生涯学習概論(教養基礎)				科目 ナンバリング	LAB008
英文名	Introduction to Lifelong Learning				講義形態	講義
担当教員	北村 陽					
科目に関連した 実務経験						
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数	選択 2 単位		
種別	「福祉レクリエーションワーカー」指定科目					
学位授与方針 との対応	✓	豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力			応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	我々の多くは「学校教育」を中心に「教育」を受けてきたが、人間が学ぶ場は学校だけではない。本授業では、「教育」ではなく「学習」の視点から、公民館・博物館・図書館等の社会教育施設における学習など、「生涯学習」について学ぶ。授業の進め方としては、各テーマについての説明を聞くだけではなく、話し合い活動を通じて課題に取り組むことによって理解を深めていく。 授業の進め方： 少人数や全体での話し合い活動に加え、フィールドワーク(生涯学習施設への訪問)、その成果の発表など多様な学習活動を行います。学校教育の最終段階である大学で学ぶ皆さんにとって、今後の人生で重要となる「生涯学習」について学ぶ意義は大きいと思います。ただし、上記のような活動を重視するため、他者と協力しながら積極的に「学ぼう」という意欲が無い人には不向きです。予習・復習については、小テストの学習等で補完してください。					
到達目標	1.「生涯学習」や「生涯学習社会」の理念について理解している。 2.社会教育施設等における学びの概要・特徴について理解している。 3.他者と協力しながら課題に積極的に取り組むことができる。					
評価方法	テストに 50%、日常点(授業への参加、授業態度、課題への取り組み、討論、授業に対する貢献度等)に 50%を配分して総合評価する。					
使用教材	『よくわかる生涯学習 改訂版』(香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編、ミネルヴァ書房、2019 年、2,500 円(税別))					
参考文献	講義中に適宜、紹介する。					
課題に対する フィードバック	試験前後に出題の意図等を説明する。					
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。			メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当到達目標	予習	シラバスを読んでおく。			1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、授業の概要を確認し、生涯学習を学ぶ意味を理解する。			1.5 時間
2	講義内容	「学習」とは何か				
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。			1.5 時間
3	講義内容	今なぜ「生涯学習」がクローズアップされるのか				
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。			1.5 時間
4	講義内容	人は発達段階に応じて何を学ぶか				
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。			1.5 時間
5	講義内容	就職すると人はどのような学習をするのか				
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	公民館とは何か		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	図書館とは何か		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	博物館とは何か		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	美術館とは何か		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	青年の家・少年自然の家とは何か		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	グループ発表①		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	グループ発表②		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	グループ発表③		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	グループ発表④		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	グループ発表⑤		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名		生命と環境の科学(教養基礎)			科目ナンバリング	LAB009
英文名		Science of Environment and Life			講義形態	講義
担当教員		奥 浩之				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・将来の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うことがあるので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。(パソコンは持参する必要はなく、自宅で使用できればよい。) 毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・将来の課題などを説明してゆく。生命分子の構造学習を行うことがある。				
到達目標		1.地球環境について元素、物質循環、気候変動の観点から説明できる。 2.生命を構成する分子(核酸、タンパク質)について、分子構造、反応機構、応用の観点から説明できる。 3.私たちの生活に関連して、食品、バイオマス、プラスチックごみ、医薬品や医療機器、のトピックスについて説明できる。 4.グローバルな視点から、新しい感染症、ワクチン開発、などのトピックスについて説明できる。 5.様々な文献や資料を参照し、レポート形式または要約・箇条書きの形式でまとめられるようになる。				
評価方法		レポート課題 50%、授業参加度 50%				
使用教材		使用しない(講義にて用いるスライドを配布予定)				
参考文献						
課題に対するフィードバック		提出されたレポート課題に対しては、コメントを付けて返却または講義時間内に課題の解説を行うことで受講学生へフィードバックする。				
オフィスアワー (研究室)		質問等は、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	生命と環境－自己紹介と研究について				
	該当到達目標	予習	(1)免疫系と免疫グロブリンについて調べてみよう。 (2)DNA 配列を測定する方法について調べてみよう。			1 時間
	1,5	復習	(1)抗体医薬品について (2)免疫グロブリンの分子構造と役割について(特に IgG を構成する重鎖と軽鎖はどのような結合で結びついているか? 着目してみよう。) (3)次世代シーケンサーについて			1.5 時間
2	講義内容	生命と環境－地球における元素の循環				
	該当到達目標	予習	元素周期表 (http://stw.mext.go.jp/series.html)を読んでみよう。			1 時間
	1,5	復習	(1)人体を構成する元素の存在比 (2)主要元素・微量・超微量元素の具体的な元素名 (3)様々な元素の生体または医薬品における役割			1.5 時間
3	講義内容	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化				

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	(1)ヒトの活動による、水需要の増大、化石燃料の大量燃焼、窒素肥料の大量使用と地球環境への影響について調べてみよう。	1 時間
	1,5	復習	(1)大気・土壌における物質循環 (2)水循環、窒素循環、炭素循環、硫黄循環、リン循環の特徴 (3)人類の活動による物質循環への影響	1.5 時間
4	講義内容	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化		
	該当到達目標	予習	(1)温室効果ガスとは？温室効果は何故起こるか？調べてみよう。	1 時間
	1,5	復習	(1)地球上での物質循環は気候変動と密接に関連する (大気を暖める要因と冷やす要因) (物質循環の詳細な研究による、地球環境変化の予測) (2)IPCC 第 5 次報告書(2014 年)における RCP シナリオ (気候モデルによって予測された 21 世紀末の世界の気温) (世界全体の CO ₂ 累積排出量と気温上昇量は比例する) (3)国連気候変動枠組条約 (日本における温室効果ガス削減目標)	1.5 時間
5	講義内容	生命と生体分子・・・DNA 二重らせんと X 線構造解析		
	該当到達目標	予習	ワトソンとクリックによる DNA 二重らせんモデル (1)当時用いられた分子モデル(ロンドン・サイエンスミュージアム) http://www.sciencemuseum.org.uk/broughttolife/objects/display?id=6145 (2)1953 年の論文 http://www.nature.com/nature/dna50/watsoncrick.pdf (3)DNA 構造について(英文なので、最初は図を見るのがよい) 特に Figure 5 を見て、3 種類の二重らせん構造があることに注目しよう http://www.nature.com/scitable/topicpage/discovery-of-dna-structure-and-function-watson-397	1 時間
	2,5	復習	(1)DNA の分子構造は X 線回折法によって求められる (2)ブラッグの回折条件式 (3)DNA 繊維写真の X 型パターン	1.5 時間
6	講義内容	生命と生体分子・・・タンパク質の構造と機能		
	該当到達目標	予習	(1)タンパク質を構成する 20 種類のアミノ酸とは？ (2)アミノ酸の“光学活性”とは？	1 時間
	2,5	復習	(1)アミノ酸 20 種類の分子構造 (2)X 線回折測定によるタンパク質の 3 次元構造解析 (3)NMR 測定によるタンパク質の 3 次元構造解析	1.5 時間
7	講義内容	生命と生体分子・・・さまざまなタンパク質		
	該当到達目標	予習	(1)膜タンパク質とは？ (2)リボソームにおけるタンパク質合成 (3)アイスクリームの成分について。特に、低脂肪アイスクリームはなぜ低脂肪なのか？調べてみよう。	1 時間
	2,5	復習	(1)70S リボソームと tRNA の分子構造(PDB ID: 4v4j) (PDB ID: 2tra)	1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

			(2)カルモデュリンの分子構造変化(PDB ID: 3cln)(PDB entry 2bbm)	
8	講義内容	生命と生体分子…ヘム蛋白(Mb、Hb、Cyt c、CYP450)		
	該当到達目標	予習	(1)ヘムタンパク質とは？ (2)ミオグロビンとヘモグロビンの違いは？ (3)CYP3A4 とは？	1 時間
	2,5	復習	(1)ミオグロビン (PDB ID, 1A6M) (2)チトクローム c (PDB ID, 2B4Z) (3)チトクローム P450 (PDB ID, 1W0E) (4)医薬品の代謝における CYP3A4 の影響について	1.5 時間
9	講義内容	ヒトの活動と環境…さまざまな医薬品		
	該当到達目標	予習	(1)コレステロールと高コレステロール血症 (2)認知症とコリン仮説について (3)ポリ乳酸とは？	1 時間
	2,5	復習	(1)スタチン (2)タクロリムス (3)ドネペジル (4)レボフロキサシン	1.5 時間
10	講義内容	ヒトの活動と環境…バイオマスとバイオリファイナリー		
	該当到達目標	予習	(1)バイオマスとは？ (2)バイオエタノールとは？ (3)プラスチックゴミ問題とは？	1 時間
	3,5	復習	(1)バイオリファイナリーとは？ (2)バイオガソリンの成分は？ (3)バイオマスプラスチックの具体的な事例は？	1.5 時間
11	講義内容	ヒトの活動と環境…食品の安全確保(加工食品の成分)		
	該当到達目標	予習	(1)アクリルアミドの分子構造、用途、注意点	1 時間
	3,5	復習	(1)行政(農水省)では加工食品の安全確保についてどのような活動をおこなわれているか？	1.5 時間
12	講義内容	ヒトの活動と環境:食えると甘い香りが発散するお菓子について		
	該当到達目標	予習	(1)ワインやコーヒーの香りを分析する装置について調べてみよう(ヘッドスペース装置の付いたガスクロトグラフィー/質量分析計) (2)ヒトにおける薬物代謝のしくみ	1 時間
	3,5	復習	(1)ヒトの体の匂いに関与する成分はどのようにして分析されたか？ (2)お菓子を食べてから、体表面から香気成分が発散するまでの経路は？ (ヒトにおける薬物代謝から説明してみよう。)	1.5 時間
13	講義内容	生命と環境…さまざまな感染症(AIDS, 結核, マラリアなど)		
	該当到達目標	予習	(1)感染症とは？	1 時間
	4,5	復習	(1)さまざまな感染症について (2)薬剤耐性について	1.5 時間
14	講義内容	生命と環境…インフルエンザワクチンの成分		
	該当到達目標	予習	(1)ワクチンによる予防免疫のしくみ	1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	4,5	復習	(1)様々なインフルエンザの治療薬について (2)様々なインフルエンザワクチンについて	1.5 時間
15	講義内容	生命と環境・・・グローバル化によって必要となる新しいワクチン		
	該当到達目標	予習	(1)蚊によって媒介される感染症とは？ (2)グローバル化におけるヒトの移動や経済活動の活発化について	1 時間
	4,5	復習	(1)グローバル化と感染症の拡大はどのように関係するか？ (2)新しいワクチンの開発例について	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完してください。			

科目名		国際関係論(教養基礎)			科目ナンバリング	LAB010
英文名		International Relations			講義形態	講義
担当教員		片桐 庸夫				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		新聞やテレビ等のニュースを見て、世界の動きや日本の外交について理解出来るようになること。配布プリントを中心に、講義を行います。現代世界を象徴するドキュメントを収録した DVD を数回用います。また、試験を 3 回程度実施します。その代わり、返却の際には、一人一人に文体、文の構成、意味の曖昧な表現、誤字脱字等について指導します。その代わり、前期試験は行いません。「復習」に挙げられている本は、参考文献も兼ねています。随時利用して下さい。予習・復習の結果、不明な点、わからない点などありましたら質問して下さい				
到達目標		1.現代世界の理解 2.第 2 次世界大戦後の世界の基本構造の理解 3.国家間の対立要因の理解 4.国家間の相互理解の理解 5.自由主義イデオロギーと社会主義イデオロギーの理解 6.現代の戦争の特徴についての理解 7.国家の安全保障の理解 8.核の下での平和の理解 9.国際秩序概念の理解 10.国際秩序の喪失と国際テロ、難民、民族や宗教の違いに基づく紛争発生要因の理解 11.戦後日本の原型についての理解 12.戦後日本外交の歩み、「戦後」克服の意味の理解 13.日本の課題である国際貢献問題の理解				
評価方法		講義中に行う 3 回程度の試験(60%)、講義に臨む態度(20%)、講義参加度(20%)等により総合評価を行う。				
使用教材		配布するプリントを教材として用いる。				
参考文献						
課題に対するフィードバック		原則として試験を行った翌週の講義の際に答案を返却する予定である。その際には、一人一人に論文やレポートの文体、文の構成、意味の曖昧な表現、誤字脱字等について指導する。				
オフィスアワー (研究室)		・前期木曜日の昼休み ・非常勤講師控室 随時来てください。講義の後に直接訊ねることも可です。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示します。	
1	講義内容	講義概要(講義の展開、出席の取り方、試験の方法、成績評価等)についての説明を行う。				
	該当到達目標	予習	必要ナシ			時間
		復習	必要ナシ			時間
2	講義内容	世界の混迷した状況や米国トランプ政権の一国主義、中国の影響力の拡大等について理解する。				
	該当到達目標	予習	1 週間分の新聞の 1,2 面の記事に目を通しておくこと。			1.5 時間
	1,3,7,8,10	復習	ノートテイキングした部分の加筆、整理、それに新聞記事の内容を付加すること。			1.5 時間
3	講義内容	「冷戦の特異性」の意味と大規模な戦争の後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立を理解する。				

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	プリントのウィーン会議の部分をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,9	復習	細谷雄一『国際秩序』中公新書の p.115-120,282 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
4	講義内容	戦勝同盟国間の対立の典型的例であるウィーン会議について理解する。		
	該当到達目標	予習	ウィーン会議参加国の価値観の共有についてプリントを利用して予習すること。	1.5 時間
	2,4,7	復習	『国際秩序』の p.121-124 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
5	講義内容	国際コミュニケーションにとって重要な価値観の共有の意味について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの価値観の共有の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	3,4,5	復習	『国際秩序』の p.128-130 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
6	講義内容	ウィーン会議とは正反対に共通の価値観の欠如していた米ソ間の体制間対立について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの体制間対立の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,8	復習	『国際秩序』の p.237-241 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
7	講義内容	米ソ間のイデオロギー対立について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントのイデオロギー対立の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	3,5,7	復習	『国際秩序』の p.237-241 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
8	講義内容	米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化(DVD 画像による)について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの安全保障観の相違と戦争の性格の変化の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	6,7,8	復習	DVD 画像を観ながらノートテイキングしたメモを参考にノートにまとめること。	1.5 時間
9	講義内容	冷戦の定義、それに基づく冷戦の起源と終焉について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの冷戦の定義とそれに基づく冷戦の起源と終焉についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,6,7,8	復習	永井陽之介『冷戦の起源』中央公論社の p.6-10 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
10	講義内容	世界を滅ぼすことも可能な究極の兵器である核の下の平和について理解する。		
	該当到達目標	予習	究極の兵器がもたらした核の下の平和についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,6,7,8	復習	『国際秩序』の p.253-255 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
11	講義内容	冷戦の逆説である戦後の長い平和について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントのガディスの逆説論についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,7,8,9	復習	『国際秩序』の p.256-260 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
12	講義内容	冷戦の終焉と終焉後の世界の不安定化の理由・要因について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの国際秩序維持勢力の喪失と国際秩序の喪失の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,7,9	復習	『国際秩序』の p.281-285 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
13	講義内容	冷戦後初の戦争「湾岸戦争」の意義、テロ・民族対立・宗教対立、難民の大量発生を理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの湾岸戦争、国際秩序なき時代についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	6,7,10	復習	『文明の衝突と 21 世紀の日本』集英社新書の P.21-36 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
14	講義内容	終戦、米国の対日占領政策、天皇制存置、SF 講和、憲法第 9 条、日米安保について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの終戦から SF 講和に至る項を読んでおくこと。	1.5 時間
	7,11,12	復習	小此木・赤木共編『冷戦期の国際政治』慶應義塾大学出版会の p.288-306 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

15	講義内容	「戦後」の克服の意味、今日の日本外交の課題について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの「戦後」の克服、国際貢献問題の項を読んでおく。	1.5 時間
	1,10,13	復習	講義中に配布する新聞の切り抜き記事を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				42 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完してください。			

科目名		体育理論(教養基礎)			科目 ナンバリング	LAB011
英文名		Physical Education: Theory			講義形態	講義
担当教員		大家 千枝子				
科目に関連した 実務経験		「元気に“動こう・歩こう”」実践リーダー養成講座の講師として、リーダー養成事業に従事している。 (群馬県保健予防課・2018 年度～)				
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	選択	1 単位	
種別						
学位授与方針 との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、生涯にわたり健康・体力づくりを実践するために必要な基礎知識を学ぶ。自らの健康・体力の現状を把握し、健康・体力づくりに適した身体活動について、その効果や実践方法を知り、実際の生活に活用する能力を養う。 講義中心だが、自身の「体力を知る」ために体育館にて新体力テストを実施する。また新聞を活用した課題を設定しているため、図書館も利用する。				
到達目標		1.現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、具体的に述べることができる。 2.自身の健康・体力の状況とともにわが国の健康・体力の現状を把握し、問題点をあげることができる。■ 3.自主的・継続的に健康の保持増進を図るためのアイデアを探り、方法を創造することができる。■ 4.教養を広げるための課題に積極的に取り組み、履修者同士でコミュニケーションをとることができる。 5.人間が創造した運動(文化)の意味を考え、運動への認識を深めることができる。				
評価方法		授業への取り組み実践点 30%、毎回のコメントシート 30%、確認テスト 40%				
使用教材		プリントを適宜配布する。				
参考文献		参考文献を適宜紹介する。				
課題に対する フィードバック		自分以外の履修者による課題(体力テストの結果など)や感想、評価を知ることが学生相互の刺激になるため、C-learning を使ってフィードバックする。最終日の確認テストは返却予定がないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。				
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス、大学での学び・健康とは・上達の秘訣を考える				
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。			0.5 時間
	1,2,5	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。			0.5 時間
2	講義内容	A 組:体力を知る(新体力テスト)・B 組:図書館利用術(図書館コラボ企画)				
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。配布された資料に目をとおす。			0.5 時間
	2,4	復習	C-learning に測定結果と必要事項を入力する。			0.5 時間
3	講義内容	A 組:図書館利用術(図書館コラボ企画)・B 組:体力を知る(新体力テスト)				
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。配布された資料に目をとおす。			0.5 時間
	2,4	復習	C-learning に測定結果と必要事項を入力する。			0.5 時間
4	講義内容	体力を評価する(体力とは)				
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。配布された資料に目をとおす。			0.5 時間
	2,4	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。			0.5 時間
5	講義内容	運動・スポーツの実施状況、体力、体格、継続の仕組みづくり、問題解決のための作戦を立てる■				
	該当到達目標	予習	配布された資料に目をとおす。			0.5 時間
	2,4	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。			0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

6	講義内容	体組成、体脂肪の測定方法、エネルギー消費量の算出方法、内臓脂肪について		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目をとす。フィットネスルームで体組成を測定しておく。	0.5 時間
	1,2	復習	今後どのように運動・スポーツを取り入れるか検討する。	0.5 時間
7	講義内容	トレーニングの原理・原則		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目をとす。	0.5 時間
	1,2	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
8	講義内容	まとめ、確認テスト		
	該当到達目標	予習	授業でとったノートを読み直し、確認テストに備える。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	確認テストについて、授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				8 時間
備考	【単位修得に必要な時間について】 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 【受講上の注意】 ①積極的に C-learning を活用する。スマホ所有やネット環境が整っていることが望ましい。(※整っていない場合は、大学 PC 室などを利用すること。)②欠席した際の配布物は早めに自ら取りに来ること。 【ルール】 次の行為は授業中にしないこと。①ガムをかむ、②授業と関係のないスマホの使用 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	体育実技(教養基礎)			科目ナンバリング	LAB012
英文名	Physical Education: Sports & Physical Activities			講義形態	演習
担当教員	大家 千枝子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位		
種別	「福祉レクリエーションワーカー」指定科目				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	さまざまな運動・スポーツの実践をとおして、体力の維持・向上をめざすとともに、運動・スポーツを楽しむ能力を身につける。また、運動・スポーツに関わる基礎知識を学び、健康的な生活を送るための自己管理能力を身につける。さらに、仲間や教員とのコミュニケーションを深める。 授業開始時には整列し、出席をとる。準備・後片付けなどの授業運営は受講生の積極的な姿勢を期待する。技術の高低や得意不得意、好き嫌い、勝ち負けにとらわれず、自分の持っている技術力をいかして、スポーツそのものを楽しむ能力や積極的に体を動かすことが求められる。授業終了時には、振り返りとして授業記録カードの提出がある。				
到達目標	1.運動・スポーツの基礎知識、各スポーツ種目の歴史、ルール、マナーを理解し、説明することができる。 2.授業の性質やグループ内の個人の役割を意識し、自らコミュニケーションをとって意欲的に活発に動ける。 3.知識を実践に生かす健康保持増進のための自己管理能力を身につける。 4.技術の高低や得意・不得意にとらわれず、運動・スポーツそのものを楽しむ能力を身につける。 5.種目特性によって異なる身体感覚、健康・体力に興味・関心をもち、簡潔に記録できる。				
評価方法	授業ごとの取り組みの評価 65%、確認テストまたは課題 15%、毎回のコメント記録 20%				
使用教材	プリントを適宜配布する。				
参考文献	参考文献は適宜紹介する。				
課題に対するフィードバック	毎回の授業後に授業記録カードの提出を求める。授業記録カードに付したコメントやスタンプは必ずチェックすること。また最終日には、授業で学んだことの整理・課題・目標到達度の確認(ルーブリックにて自己評価)を行う。課題は返却しないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。				
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス			
	該当到達目標 1,3	予習	シラバスを読んで講義目標などを理解する。要配慮の場合は事前に申し出る。		0.5 時間
		復習	到達目標、学位記授与方針、成績評価方法などを確認する。		0.5 時間
2	講義内容				
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。		0.5 時間
		復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。		0.5 時間
3	講義内容	バレーボール (特有の体さばきの理解と気づき)			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。バレーボールのルールを事前に理解しておく。		0.5 時間
		復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。		0.5 時間
4	講義内容	バレーボール (基本スキル習得とコミュニケーションスキルをあげる。ゲーム。)			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。バレーボールのルールを事前に理解しておく。		0.5 時間
		復習			0.5 時間
5	講義内容	テニス (基本スキルの習得・フォアとバックのフォームづくり)			

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。テニスのルールを事前に理解しておく。	0.5 時間	
		復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間	
6	講義内容	テニス（基本スキルの習得・フォアハンドストロークとバックハンドストローク）			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	テニス（基本スキルの習得・フォアハンドストロークとバックハンドストローク）	0.5 時間	
		復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間	
	講義内容	テニス（ローカルルール採用のゲーム）			
7	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。テニスのルールを事前に理解しておく。	0.5 時間	
		復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間	
8	講義内容	フットサル（基本スキルの習得とコミュニケーションスキルをあげる・ゲーム）			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。フットサルのルールを事前に理解しておく。	0.5 時間	
		復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間	
	講義内容	フットサル（基本スキルの習得とコミュニケーションスキルをあげる・ゲーム）			
9	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。冬の始まりで屋外の寒さに慣れる。	0.5 時間	
		復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間	
10	講義内容	バスケットボール（基本スキルの習得・ボールハンドリング・ドリブル・シュート）			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。バスケットボールのルールを事前に理解しておく。	0.5 時間	
		復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間	
	講義内容	バスケットボール（基本スキルの習得・パス・シュート・オフェンス・ディフェンス）			
11	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。バスケットボールのルールを事前に理解しておく。	0.5 時間	
		復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間	
12	講義内容	バスケットボール（基本スキルの習得とコミュニケーションスキルをあげる・ゲーム）			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。バスケットボールのルールを事前に理解しておく。	0.5 時間	
		復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間	
	講義内容	バドミントン（基本スキルの習得・簡易ゲーム）			
13	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。バドミントンのルールを事前に理解しておく。	0.5 時間	
		復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間	
14	講義内容	バドミントン(簡易ゲーム)とフィットネス活動(フィットネスルーム体験)			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。バドミントンのルールを事前に理解しておく。	0.5 時間	
		復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間	
	講義内容	まとめ、授業で学んだことの整理・確認テスト(または課題)・目標到達度の確認。			
15	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	これまで授業で学んだこと、自身の授業態度を振り返る。	0.5 時間	
		復習	目標達成度の確認。今後どのように運動・スポーツを継続できるか検討する。	0.5 時間	
合計時間(予習・復習)					15 時間
備考	【単位修得に必要な時間について】 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 【受講上の注意】 ①運動に適した服装(ジャージ、Tシャツなど)とシューズ(屋内外別)を着用すること。 (※ジーンズ・普段着での受講は不可。スマホや時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアスなどは外しておく。) ②原則として見学は認めない。配慮を必要とする学生は初回ガイダンス終了までに申し出ること。 ③貴重品は各自で管理すること。 ④授業で使用する用具は基本的に大学側で用意するが、個人所有のラケットなどがあれば持参を推奨する。 ⑤天候による施設変更がある。教務課掲示板やポータルサイトで確認すること。 ⑥フットサルコートの人芝がとれやすく、靴下やウエアに付着することがある				

【履修条件】

準備・後片付けなどの授業運営は受講生の積極的な姿勢を求める。また、技術の高低や得意不得意、好き嫌い、勝ち負けにとらわれず、自分の持っている技術力をいかして、スポーツそのものを楽しむ能力や積極的に体を動かすことが求められる。

【ルール】

授業開始時には整列し、出席をとる。授業終了時には、振り返りとして授業記録カードの提出がある。次の行為は授業中にしないこと。①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホの使用。

科目名		キャリア形成論(教養基礎)			科目ナンバリング	LAB013
英文名		Career Development			講義形態	講義
担当教員		小泉 英明				
科目に関連した実務経験		社員研修・人材育成・能力開発・キャリア開発のコンサルタント、トレーナーとして各企業・自治体で指導				
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		AI(人工知能)をはじめとする各種テクノロジーの進化や地球規模的な気候変動など、社会は今、大きな激動期を迎えています。そのような中で、私たちを取り巻く経済・雇用環境も目まぐるしく変わり、生活や仕事の内容までもが大きく変わりつつあります。 本講座ではそのような社会の動きを見据え、私たちが近い将来に求められる『能力』について理解を深めるとともに、キャリア形成の基盤づくりを行います。 授業では社会で求められている高次元のコミュニケーション能力や思考力、さらには問題解決能力などの『社会人基礎力』を身につけるとともに、ケーススタディ等によって社会適応力を習得します。また本学卒業後、社会人として適切なスタートを切ることができるよう、“自身”の強化プラン策定と目標管理ができる自律的人材の養成を目指します。				
到達目標		1.社会の出来事を理解し、社会に通用する就業観、勤労観を学ぶ。■ 2.自己の成長に向けて、自己を正しく理解するとともに、自己効力感を養う。■ 3.社会人基礎力を理解し、社会適応力を身につける。■ 4.コミュニケーションの本質を理解し、高次元のコミュニケーション力を身につける。■ 5.論理を組み合わせる手法を学び、論理的思考力を高める。■ 6.アイデアの出し方を学び、創造的思考力を高める。■ 7.気づく力を身につけ、問題発見能力を高める。■ 8.問題解決のスキルと手法を学び、問題解決能力を高める。■ 9.自己変革のために必要な自身の問題点を探る。■ 10.自律型人材に向けての目標管理ができる。■ 11.社会における人間関係を学び、社会適応力を高める。■				
評価方法		最終レポート 60%、授業後の提出課題 30%、授業参加度・授業態度 10% それぞれの評価基準については初回授業で説明します。総合評価 60%以上を合格とします。				
使用教材		講義内容を随時プリントして配布します。				
参考文献		授業内で提示します。				
課題に対するフィードバック		授業後の提出課題については、随時コメントをつけてフィードバックします。 最終レポートの後に、出題テーマの意図を掲示によって示します。				
オフィスアワー (研究室)		木曜日(12～17 時)	メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示します。		
1	講義内容	ガイダンス／キャリア形成のために必要なこと■				
	該当到達目標	予習	新聞、テレビなどのニュースから、社会の出来事を理解して臨む			1.5 時間
	1	復習	キャリア形成に必要なコアコンピタンスを理解する。(課題提出)			1.5 時間
2	講義内容	先行きの予測が困難な時代／社会が求める人材■				
	該当到達目標	予習	事前に配布する第 2 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。			1.5 時間
	1,3	復習	キャリア形成に必要な「社会人基礎力」について理解を深める。(課題提出)			1.5 時間
3	講義内容	自己の理解■				
	該当到達目標	予習	事前に配布する第 3 回講義プリントを読む。自己分析シートに記入する。			1.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	2	復習	自己理解と、自己効力感を理解する。自分のパーソナリティを確認する。	1.5 時間
4	講義内容	コミュニケーション力■		
	該当到達目標	予習	事前に配布する第 4 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,4	復習	チェックシートによって自身のコミュニケーション力を客観的につかむ。	1.5 時間
5	講義内容	実践コミュニケーション力■		
	該当到達目標	予習	事前に配布する第 5 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,4	復習	ディスカッションを振り返り、自身のストロング・ウィークポイントを知る。	1.5 時間
6	講義内容	気づく力■		
	該当到達目標	予習	事前に配布する第 6 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,7	復習	事例研究課題に取り組む。気づく力が問題解決の入り口であることを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	考える力 I (ロジカルシンキング・クリティカルシンキング)■		
	該当到達目標	予習	事前に配布する第 7 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,5	復習	事例研究によって論理的思考を理解する。(課題提出→第 9 回で使用)	1.5 時間
8	講義内容	考える力 II (クリエイティブシンキング)■		
	該当到達目標	予習	事前に配布する第 8 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,6,7,8	復習	事例研究によって創造的思考の重要性を理解する。アイデア発想演習。	1.5 時間
9	講義内容	創造力を伸ばす(グループディスカッション、ブレインストーミング)■		
	該当到達目標	予習	事前に配布する第 9 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,6,7,8,9	復習	創造力を伸ばす技法の理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	問題解決能力 I (問題点を探る・WHY ツリー)■		
	該当到達目標	予習	事前に配布する第 10 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,7,8,9	復習	自身が抱える問題の「問題点」を WHY ツリーで探る。	1.5 時間
11	講義内容	働く意味／「仕事力」と「就業力」■		
	該当到達目標	予習	事前に配布する第 11 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	1,3	復習	「仕事観」「就業観」を理解し、レポートを書く。(課題提出)	1.5 時間
12	講義内容	問題解決能力 II (問題解決の手法・HOW ツリー／目標設定・計画立案)■		
	該当到達目標	予習	事前に配布する第 12 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,8,9,10	復習	自身の課題を HOW ツリーで探り、目標設定と計画立案を行う。	1.5 時間
13	講義内容	社会における人間関係■		
	該当到達目標	予習	事前に配布する第 13 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,11	復習	人との接し方と、よりよい人間関係を築く方法を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	自己の確立(バリュープロポジション)■		
	該当到達目標	予習	事前に配布する第 14 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,10	復習	将来のキャリア形成に向けて、キャリア自律の重要性を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	ストレスマネジメント■		
	該当到達目標	予習	事前に配布する第 15 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,11	復習	ストレス対処法を理解し、ストレスに対する耐性力に高める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	事前に配布するプリントをもとに予習して授業に臨んでください。配布プリントはファイリングし、毎回持参してください。授業は積み上げ方式で進めていくので、授業後は必ず復習してください。新聞やテレビなどのニュースには常に関心を持ち、社会の出来事を理解し授業に臨んでください。 〔健康福祉学部の学生に求められる基本的な資質〕 ①人の役に立つという心構え ②生活者本位の視点			

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	③コミュニケーション能力 ④チームワーキングへの参画 ⑤自己研鑽

■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	哲学(人間理解)				科目ナンバリング	LAH001
英文名	Philosophy				講義形態	講義
担当教員	大石 桂子					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位			
種別						
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力		応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	「他者とどう関わっていけばよいか」「絶対に正しいことはあるのか」、「病気や“弱さ”にどう向き合うか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち考えるのが哲学である。本講義では身近な題材をもとに医療・福祉・健康分野に関わる者として考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や、統計からみえる社会情勢などを手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。 配布プリントを中心に講義を行い、定期的に課題を提示し、学生同士が意見交換する場を設けます。					
到達目標	1.人と人、人と社会の関係、平等性、自由と責任などについて、多様な視点から説明できる。 2.共生の意義や、弱者の排除が社会にもたらす影響を説明できる。 3.各テーマについて、自分の意見をもつことができる。 4.課題やグループワークを通して、自分の考えを他者に伝わりやすく表現できる。 5.自分と異なる他者の考えを受け止め、そこから新たな発見ができる。					
評価方法	定期試験(60%)、講義中に作成する課題(40%)に、参加態度を加えて総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。					
使用教材	講義中にプリントを配布する。					
参考文献						
課題に対するフィードバック	提出された課題の内容にコメントを付けて、授業中に紹介する。					
オフィスアワー (研究室)	水曜日の 2 時限、金曜日の 2 時限。 (1 号館 6 階 601)		メールアドレス (#→@)		oishi#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	ガイダンス				
	該当到達目標	予習	シラバスの内容をよく読み、講義の目標や取り扱う内容を理解する。			1 時間
	1	復習	「哲学」の目標、学ぶ意義について理解する。			1.5 時間
2	講義内容	自分と他者(1)「人に認められたい」のは本能? —ヘーゲル				
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。			1 時間
	1,3	復習	ヘーゲルのいう「承認への欲求」を理解する。			1.5 時間
3	講義内容	自分と他者(2)「本当の自分」とは何か —キルケゴール				
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。			1 時間
	1,3	復習	キルケゴールの「大衆と実存」の違いを理解する。			1.5 時間
4	講義内容	自分と他者(3)人と人の関係性 —ブーバー、サルトル				
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。			1 時間
	1,3	復習	第 2 回から第 4 回までの内容を整理する。			1.5 時間
5	講義内容	ディスカッション —これからの自分に大切なこと				

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,3,4,5	予習	第2回から第4回までの内容について、自分の考えをまとめる。	1 時間
		復習	自分にとって大切なことを改めて熟考し、課題を仕上げる。	1.5 時間
6	該当到達目標 2,3	講義内容	平等と共生(1)誰もが信じられる正しさはあるか ―ロールズ	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	「機会の平等」と「結果の平等」を理解する。	1.5 時間
7	該当到達目標 2,3,4	講義内容	平等と共生(2)環境は人の心にどう影響するのか	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	「無知のヴェール」について理解する。平等について課題を仕上げる。	2 時間
8	該当到達目標 1,3	講義内容	自由・正しい自己決定のために ―カント	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	「自律」の意義について理解する。	1.5 時間
9	該当到達目標 2,3	講義内容	心と身体(1)「私」を形づくるのは心か身体か ―ニーチェ	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	身体がものの見方や価値観に影響する例を考える。	1.5 時間
10	該当到達目標 2,3	講義内容	心と身体(2)人間の中心は脳なのか	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	脳死の問題について理解する。	1.5 時間
11	該当到達目標 2,3	講義内容	エンハンスメント(1)変化する「病」の定義	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	エンハンスメントや「医療化」について理解する。	1.5 時間
12	該当到達目標 2,3	講義内容	エンハンスメント(2)「弱さ」を否定する社会 ―ハーバーマス、サンデル	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	弱さを排除した場合の社会的影響について理解する。	1.5 時間
13	該当到達目標 2,3,4,5	講義内容	ディスカッション―医療技術と自己決定	
		予習	個人の欲求でどこまで医療技術を利用してよいか、自分の考えをまとめる。	1 時間
		復習	エンハンスメントについての自分の考えをまとめる。	1.5 時間
14	該当到達目標 1,3	講義内容	責任(1)責任の範囲はどこまで? ―アリストテレスほか	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	責任が問われる基準について理解する。	1.5 時間
15	該当到達目標 1,3,4	講義内容	責任(2)「何もしなかった」ことに責任はあるのか ―ヤスパース	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	講義中にあげた事例について、自分の考えを課題にまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				38 時間
備考	本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組んで下さい。 予習・復習については試験前の学習で補完して下さい。			

科目名		倫理学(人間理解)		科目ナンバリング	LAH002
英文名		Ethics		講義形態	講義
担当教員		出雲 春明			
科目に関連した実務経験					
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位	
種別					
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力
			基礎的知識力		応用・実践する能力
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 (テーマ・内容)		現代の医療をめぐる問題を取りあげ、それぞれのトピックを通じて、倫理学の諸理論、人々の多様な価値観について学ぶ。なるべく平易な表現を用いて講義を行う。講義前にシラバスを確認し、当該テーマについて自分がどのようなイメージを持っているのかについて、講義後はそれがどのように変わったのかについて確認しておくこと。配付された資料に基づいて必ず復習しておくこと。講義中、一つの問題をめぐる様々な、そしてしばしば対立する見解が示される。自分ならどの立場をとるか、対立する相手に対してどのように反論するか、常に考えながら講義に臨んでほしい。			
到達目標		1.医療に関連する倫理的諸問題について正確な知識を習得し、 2.自分の考えを表現することができる。 3.また、自分と対立する考えについても理解を深める。			
評価方法		授業への参加とその態度(20%)、小テスト・期末レポート(80%)から評価する。			
使用教材		講義中に資料を配布する。			
参考文献		加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療―バイオ・エシックスの練習問題』、PHP 新書、1999 年。 小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理―「いのち」は誰が決めるのか』、筑摩書房、2011 年。			
課題に対するフィードバック		講義中、課題を出し、自分の考えをまとめて提出してもらう場合がある。有意義な意見に関しては講義中に紹介する。			
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。	メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス―生命倫理学について			
	該当到達目標	予習	シラバスを読み講義の目的を理解する。		1 時間
	1	復習	生命倫理学の成立事情について、技術の発展と人間観の変化から理解する。		1.5 時間
2	講義内容	不妊治療(1)人工授精、体外受精			
	該当到達目標	予習	人工授精の定義を確認し、書籍、報道から関連情報を取得しておく。		1 時間
	1,2,3	復習	人工授精の特徴とそこで生じる倫理的問題について理解する。		1.5 時間
3	講義内容	不妊治療(2)代理母出産をめぐる議論			
	該当到達目標	予習	体外受精と人工授精の違い、代理母がなぜ求められるかを確認しておく。		1 時間
	1,2,3	復習	人工授精、体外受精、代理母の特徴とその倫理的問題について理解する。		1.5 時間
4	講義内容	遺伝子操作(1)ヒトゲノム計画がもたらす未来			
	該当到達目標	予習	ヒトゲノム計画とは何かを調べておく。		1 時間
	1,2,3	復習	遺伝情報が現在社会においてどのように利用されようとしているか理解する。		1.5 時間
5	講義内容	遺伝子操作(2)遺伝子診断技術がもたらす未来			
	該当到達目標	予習	遺伝子診断技術について調べておく。		1 時間
	1,2,3	復習	遺伝子診断技術がこれから社会に及ぼす変化を考えてみる。		1.5 時間
6	講義内容	人工妊娠中絶をめぐる問題			
	該当到達目標	予習	日本における人工妊娠中絶の法的規定について調べておく。		1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3	復習	人工妊娠中絶をめぐる現在の状況、議論について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	優生思想をめぐる問題		
	該当到達目標	予習	優生思想とは何かを調べておく。	1 時間
	1,2,3	復習	これまでの議論を優生思想の問題と関連させて振り返っておく。	1.5 時間
8	講義内容	インフォームド・コンセントと患者の権利		
	該当到達目標	予習	インフォームド・コンセントが求められた歴史的なきっかけを調べておく。	1 時間
	1, 2	復習	患者を主役とする医療という考え方について確認しておく。	1.5 時間
9	講義内容	QOL の追求		
	該当到達目標	予習	QOLとは何かを調べておく。	1 時間
	1,2,3	復習	様々な QOL のあり方について考えてみる。	1.5 時間
10	講義内容	告知をめぐる問題		
	該当到達目標	予習	告知をめぐる現状について調べてみる。	1 時間
	1,2	復習	告知について自分ならどのような選択をするか考えてみる。	1.5 時間
11	講義内容	延命医療について		
	該当到達目標	予習	延命医療について自分の考えをまとめてみる。	1 時間
	1,2,3	復習	延命と QOL を関連させて考えてみる。	1.5 時間
12	講義内容	安楽死について		
	該当到達目標	予習	安楽死の区分について調べてみる。	1 時間
	1,2	復習	安楽死の区分について理解し、自分の意見をまとめてみる。	1.5 時間
13	講義内容	臓器移植(1) 生体臓器移植		
	該当到達目標	予習	日本での生体臓器移植の位置づけについて調べてみる。	1 時間
	1,2,3	復習	生体臓器移植の特徴とその倫理的問題について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	臓器移植(2) 死後移植と臓器移植法改正		
	該当到達目標	予習	日本における昨今の死後移植の位置づけについて調べてみる。	1 時間
	1,2,3	復習	改正臓器移植法について理解し、自分の意見をまとめてみる。	1.5 時間
15	講義内容	総括—福祉に携わる者として		
	該当到達目標	予習	企業による不祥事の隠蔽事件について調べ、自分の考えをまとめてみる。	1 時間
	1,2,3	復習	資料に提示されたケースをもとに自らがいかに行動すべきか考える。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名		心理学(人間理解)			科目ナンバリング	LAH003
英文名		Psychology			講義形態	講義
担当教員		角野 善司				
科目に関連した実務経験		カウンセラーとして臨床心理センターに勤務(経験)				
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	選択	2 単位	
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、支援に必要な基礎的知識の習得を目指す。こころのしくみに関して心理的諸機能を概観し、心の発達や健康について理解したうえで、心理的支援の方法と実際を学ぶ。 授業期間全体を通じた授業の進め方:授業外学習の促進を意図して、毎回宿題として予習復習課題を課す。教科書の該当箇所に関する講義は、予習してあることを前提とするので、簡潔に進める。積極的に質問することを期待する。復習課題の解答解説は丁寧さを心掛ける。				
到達目標		1.心理学理論による人の理解とその技法の基礎について説明できる。 2.人の成長・発達と心理との関係について説明できる。■ 3.日常生活と心の健康との関係について説明できる。■ 4.心理的支援の方法と実際について説明できる。■				
評価方法		毎回の宿題 30%(復習課題 15%、予習課題 15%)、学期末テスト 70%(知識問題 50%、論述問題 20%)。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テストの得点に関わらず、単位を付与しない。				
使用教材		加藤伸司ほか「心理学理論と心理的支援[第 2 版]」ミネルヴァ書房 2014 年 2,800 円+税				
参考文献						
課題に対するフィードバック		宿題は毎回授業時に、学期末テストは事後に講評解説の機会を設ける。				
オフィスアワー (研究室)		初回授業時に告知するとともに、研究室ドアに掲出する(8 号館 405 室)		メールアドレス (#→@)	zsumino#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	こころのしくみの理解(1):心理学における主要な理論				
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所を精読する。			1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。			1.5 時間
2	講義内容	こころのしくみの理解(2):心と脳／情動・情緒				
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。			1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。			1.5 時間
3	講義内容	こころのしくみの理解(3):欲求・動機づけと行動				
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。			1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。			1.5 時間
4	講義内容	こころのしくみの理解(4):感覚・知覚・認知				
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。			1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。			1.5 時間
5	講義内容	こころのしくみの理解(5):学習・記憶・思考／知能・創造性				
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。			1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。			1.5 時間
6	講義内容	こころのしくみの理解(6):人格・性格／自己概念・自己実現				
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
7	講義内容	こころのしくみの理解(7):集団		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
8	講義内容	こころのしくみの理解(8):適応／人と環境		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
9	講義内容	人の成長・発達と心理:発達の概念■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
10	講義内容	日常生活と心の健康:ストレスとストレス■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
11	講義内容	心理的支援の方法と実際(1):心理検査の概要■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
12	講義内容	心理的支援の方法と実際(2):カウンセリングの概念と範囲■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
13	講義内容	心理的支援の方法と実際(3):カウンセリングとソーシャルワーク等の関連活動との関係■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
14	講義内容	心理的支援の方法と実際(4):心理療法の概要と実際■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでの学習内容を振り返る。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・宿題の提出は、C-learning による。 ・■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		文学と人間(人間理解)			科目ナンバリング	LAH004
英文名		Literature and Humanity			講義形態	講義
担当教員		斎藤 順二				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		現代人の基礎教養として、日本の名作文学を朗読 CD で味わうことで、文章表現による心のコミュニケーションを図ることができる。授業では、朗読 CD を活用して日本文学作品の梗概を理解しながら、人物相関図の板書とテキストの読解を行う。これをきっかけにして、さらに各自が近代文学に興味関心を抱いて原作を読み、発展させた読書につなげることが望ましい。				
到達目標		1.視聴覚教材を活用して「文学と人間」への洞察を深めることができる。 2.歴史の諸相における人間と人間生活の理解に役立てることができる。				
評価方法		まとめのレポートを 100 点満点で採点(90%)し、それに授業参加度を加味(10%)して総合評価する。				
使用教材		小田切進『日本の名作』(中央公論新社)定価(本体 720+税)				
参考文献						
課題に対するフィードバック		共通課題「授業で学んだ近代文学の名作の中から、人間と人間生活の理解に役立つと思われる 10 作品を選び、それぞれ 80～90 字で論評しなさい」を採点し、その結果を講評する。				
オフィスアワー (研究室)		質問等は、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	二葉亭四迷『浮雲』・森鷗外『舞姫』				
	該当到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。			1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。			1.5 時間
2	講義内容	森鷗外『高瀬舟』・『雁』				
	該当到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。			1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。			1.5 時間
3	講義内容	幸田露伴『五重塔』・樋口一葉『たけくらべ』				
	該当到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。			1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。			1.5 時間
4	講義内容	尾崎紅葉『金色夜叉』・徳富蘆花『不如帰』				
	該当到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。			1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。			1.5 時間
5	講義内容	泉鏡花『高野聖』・島崎藤村『破戒』『夜明け前』				
	該当到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。			1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。			1.5 時間
6	講義内容	夏目漱石『坊っちゃん』『こころ』				
	該当到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。			1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。			1.5 時間
7	講義内容	伊藤左千夫『野菊の墓』・田山花袋『田舎教師』				

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
8	講義内容	芥川龍之介『羅生門』『鼻』『地獄変』		
	該当到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
9	講義内容	有島武郎『或る女』・武者小路実篤『友情』		
	該当到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
10	講義内容	川端康成『伊豆の踊子』・小林多喜二『蟹工船』		
	該当到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
11	講義内容	林芙美子『放浪記』・尾崎士郎『人生劇場』		
	該当到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
12	講義内容	谷崎潤一郎『春琴抄』『細雪』		
	該当到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
13	講義内容	志賀直哉『暗夜行路』・太宰治『人間失格』		
	該当到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
14	講義内容	壺井栄『二十四の瞳』・井上靖『天平の甍』		
	該当到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
15	講義内容	学習の整理と展望(まとめのレポート)		
	該当到達目標	予習	これまでに学んだ近代文学の名作の中から 10 作品に絞り込む。	1.5 時間
	2	復習	知的好奇心から問題意識を持ち、さらに読書の幅を広げる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名		芸術論(人間理解)			科目ナンバリング	LAH005
英文名		Art Theory			講義形態	講義
担当教員		石原 綱成、志尾 睦子				
科目に関連した実務経験		志尾:映画上映・宣伝・企画・製作、イベントプロデュース				
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		この講義は芸術を通して、人間の営為の総体として芸術を学ぶ。それによって、豊かな人間性と教養を身につける。また、あらゆるジャンルの芸術(絵画、映像等)を深く理解する。 講義は前半が石原による芸術史、後半は志尾による映画芸術論となる(オムニバス形式)となる。				
到達目標		1.視覚芸術の歴史を理解できる 2.芸術を人間の営為の総体として理解できる。 3.映像芸術を通して、映画の文化史的意義を理解できる。■ 4.様々な文化を理解することで、グローバルな教養が身につく■				
評価方法		試験を実施する。(石原 50 点、志尾 50 点、計 100 点)				
使用教材		講義スライドの資料を配布する。				
参考文献		担当教員が逐次紹介する。				
課題に対するフィードバック		提出された感想シートやレポートについて逐一コメントなどを提示する。				
オフィスアワー (研究室)		石原:月曜 3 限、金曜 2 限、 志尾:火曜 2 限		メールアドレス (#→@)	石原: ishihara#takasaki-u.ac.jp 志尾: m-shio#takasaki-cc.jp	
1	講義内容	ガイダンス(石原・志尾)				
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する			1.5 時間
	2	復習	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する			1.5 時間
2	講義内容	芸術とは何かー芸術のイメージの調査ー				
	該当到達目標	予習	芸術における各自のイメージを箇条書きできるようにしておく			1.5 時間
	1,2,4	復習	配布したプリントをもとに芸術のジャンルを理解する			1.5 時間
3	講義内容	芸術史概説				
	該当到達目標	予習	芸術史の流れを体系的に理解しておく			1.5 時間
	1,2,4	復習	配布した資料を基に芸術史の歴史を理解する			1.5 時間
4	講義内容	宗教芸術とは何か				
	該当到達目標	予習	世界の主要な宗教の特色を理解する			1.5 時間
	1,2,4	復習	配布した資料を基にキリスト教の教義を理解する			1.5 時間
5	講義内容	キリスト教美術とシンボル				
	該当到達目標	予習	シンボルの本質について理解する			1.5 時間
	1,2,4	復習	キリスト教のシンボルの法則性を理解する			1.5 時間
6	講義内容	ルネサンス美術ー古典古代の芸術ー				
	該当到達目標	予習	配布したプリントをもとに遠近法とは何かを理解する			1.5 時間
	1,2,4	復習	遠近法と人間の「主体」への意識を考える			1.5 時間
7	講義内容	ルネサンス美術ー図像解釈学と美術ー				
	該当到達目標	予習	配布したプリントをもとにプラトンとアリストテレスの相違を理解する			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,4	復習	アイデア論の違いが視覚芸術にいかに関与するかを理解する	1.5 時間
8	講義内容	中間テスト		
	該当到達目標	予習	今まで学んだ内容を理解しておく	1.5 時間
	1,2,4	復習	試験内容を自分なりに再考する	1.5 時間
9	講義内容	メディア芸術とは何か 映画芸術の入り口に立つ■		
	該当到達目標	予習	メディア と称されるもののイメージを箇条書きできるようにしておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに映画の成り立ちを理解する	1.5 時間
10	講義内容	映画の誕生と変遷を辿る■		
	該当到達目標	予習	映画の仕組みを理解する	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに映画史を体系的に理解する	1.5 時間
11	講義内容	映画の表現方法について学ぶ■		
	該当到達目標	予習	様々な映像ジャンルを箇条書きできるようにしておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに表現方法の多様性を理解する	1.5 時間
12	講義内容	映画の構造を知る■		
	該当到達目標	予習	映画を組み立てているものの役割を理解する	1.5 時間
	2,3,4	復習	映画が総合芸術であるという本質を理解する	1.5 時間
13	講義内容	演習 1: 見えるもの 見えないもの 映画が伝えることを意識する■		
	該当到達目標	予習	映画を観てみる	1.5 時間
	2,3,4	復習	感想を自分なりの言葉にしてみる	1.5 時間
14	講義内容	演習 2: 演出とは何か■		
	該当到達目標	予習	課題のシナリオを読み、イメージを組み立ててみる	1.5 時間
	2,3,4	復習	映像表現の可能性と奥深さを楽しむ	1.5 時間
15	講義内容	総論: 映画は時代を映す鏡である 映画で世界を知る■		
	該当到達目標	予習	興味のある国について調べる	1.5 時間
	2,3,4	復習	映画が語る文化、時代性を考える	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		ボランティア・市民活動論(人間理解)		科目ナンバリング	LAH006
英文名		Civil and Voluntary Activities		講義形態	講義
担当教員		金井 敏			
科目に関連した実務経験		前職でボランティア・市民活動支援センターの運営支援に従事していました。また、様々なボランティア活動実践者と交流があります。 現在、大学ボランティア・市民活動支援センター(VSC)でセンター長として VSC を運営しています。			
学年・開講期		1 年 前期 選必・単位数 必修 2 単位			
種別		「初級障がい者スポーツ指導員」指定科目			
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力
			基礎的知識力		応用・実践する能力
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 (テーマ・内容)		ボランティア・市民活動は、手助けを求めている個人や団体に対して自主的に貢献する活動です。身近な地域や福祉、環境、情報、国際協力まで幅広く取り組まれ、今日の社会に不可欠な存在です。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践する力を養成します。 毎回の授業は、ボランティアに関する映像視聴、テーマに基づく講義、ゲストスピーカー講義(6 回予定)、ディスカッション、振り返り、次週の予定、という流れで進めます。			
到達目標		1.ボランティア・市民活動の対象者のニーズを学び、ボランティア・市民活動の意義を説明できる。■ 2.ボランティア・市民活動の多様な実践例を学ぶことにより、活動の実際の展開を説明できる。■ 3.ボランティア・市民活動支援センターを活用して、自身の関心に即した活動に参加する。■ 4.参加したボランティア・市民活動の実践を振り返り、成果や課題、次のチャレンジについて考察できる。■			
評価方法		成績評価 ①学期末レポートによる評価(60%)。なお、追再試は実施しません。 ②ボランティア活動に参加して作成する実践レポートによる評価(20%)。評価方法は、ボランティア実践の回数や時間ではなく、ボランティア活動に参加することによる学びを評価します。 ③授業のリアクションペーパー(主にゲストスピーカーの 6 回)による評価(20%)。 その他の評価 ①授業開講数の 2/3 以上を出席することにより、成績の評価対象とします。 ②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出(要添付書類)を提出すれば出席扱いとします。なお、15 分以上の遅刻は欠席とみなします。 ③ボランティア実践の時間(1 回当たり 4 時間×4 回=16 時間相当)も本時の講義時間に含めます。			
使用教材		各講義に即したオリジナル・レジュメや関係資料は授業にて配布します。テキストは使用しません。			
参考文献		必要に応じて適時、紹介します。			
課題に対するフィードバック		実践や授業内容などに関する質問や意見については、授業のなかで取りあげるなど随時、学生にフィードバックします。			
オフィスアワー (研究室)		月曜日 12 時 15 分～13 時 水曜日 12 時 15 分～13 時 で相談に応じます。 研究室:1 号館 3 階 310 研究室。	メールアドレス (#→@)	kanai#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い■ ボランティア・市民活動支援センター(VSC)の活用方法、授業の進め方を確認する。			
	該当到達目標 1,3	予習	シラバスの内容をよく読んで、現時点でのボランティアの理解を把握する。		1.5 時間
		復習	講義内容、学位授与方針、成績評価方法、VSC 利用方法などを確認する。		1.5 時間
2	講義内容	ボランティアの力を活かす仕組み～ボランティアセンターの役割■			
	該当到達目標	予習	自分の地元市町村のボランティアセンターの組織や活動内容を調べる。		1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4	復習	ボランティアセンターの活用方法を理解する。	1.5 時間
3	講義内容	子どもの明日と子育てをサポートするボランティア活動■		
	該当到達目標	予習	児童を対象としたボランティア活動を調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	児童を対象としたボランティアの意義や活動上の注意事項などを理解する。	1.5 時間
4	講義内容	人々はどのようにボランティアに取り組んできたか ～欧米と日本の歴史		
	該当到達目標	予習	世界の国々でボランティア活動がどのように組み込まれているか調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	欧米と日本のボランティア活動の歴史の違いや長所を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	障害者スポーツ・レクリエーションをサポートするボランティア活動■		
	該当到達目標	予習	障害者を対象としたスポーツやレクリエーションについて調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	障害者との接し方や支援の内容や方法を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	被災地に届け、災害支援ボランティア活動■		
	該当到達目標	予習	我が国における災害ボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	被災地におけるボランティア活動の内容や活動上の注意事項などを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	ユニバーサルデザイン・バリアフリーとボランティア活動■		
	該当到達目標	予習	バリアフリーに関わるボランティア活動を調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	バリアフリーをすすめるボランティア活動のあり方を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	身近な動物とボランティアの良い関係		
	該当到達目標	予習	動物を対象としたボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	動物に対するボランティア活動の実際や人間との共生について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	地域ささえあいのボランティア ～ふれあい・いきいきサロン～■		
	該当到達目標	予習	地域で取り組まれているふれあい・いきいきサロンについて調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	高齢者の介護予防や健康、子育て家庭を住民で支える活動について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	心と命をつなぐボランティア活動 ～いのちの電話の実践から考える■		
	該当到達目標	予習	心の悩みや自殺予防に取り組むボランティア活動を調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	いのちの電話の役割と学生でもできる活動について考察する。	1.5 時間
11	講義内容	国際貢献・多文化共生とボランティア活動■		
	該当到達目標	予習	海外で活躍するボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	国際貢献や多文化共生のボランティア活動のあり方を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	ボランティアとNPO ～学生でも創れるNPO 法人■		
	該当到達目標	予習	NPO 法人とは何かについて調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	NPO 法人の活動内容や設立の要件、ボランティアとの違いなどを理解する。	1.5 時間
13	講義内容	行政に協力するボランティア ～民生委員・児童委員の活躍～■		
	該当到達目標	予習	行政に協力するボランティアについて調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	民生委員・児童委員の活動を理解し、自分の地域の民生委員を確認する。	1.5 時間
14	講義内容	分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会～赤い羽根共同募金■		
	該当到達目標	予習	赤い羽根共同募金の概要や寄付の実際について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	赤い羽根共同募金のあり方や寄付の文化とは何かを理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ～新しい支え合いと20年後の自分の生き方■		
	該当到達目標	予習	さまざまなボランティア活動を通じて理解した人々の生活のしづらさや今後の課題について考える。	1.5 時間
	1,3,4	復習	ボランティア活動の講義と実際の実践活動を踏まえて、ボランティア活動のあり方や自身の将来の役割について考察する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	●ボランティア実践は、もちろん強制ではありません。自分の興味や関心のある分野や活動に参加する契機として設定しています。大学生として様々な活動にチャレンジしましょう。			

	●ボランティア・市民活動支援センター(VSC, 9号館1階)を活用してください。活動を始める前には必ず、ボランティア活動保険に加入すること。そのほかボランティアの相談に何でも応じます。 VSC 直通 TEL:027-352-1108, VSC メールアドレス:vsc@takasaki-u.ac.jp ●シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表しています。

科目名		人権論(人間理解)			科目ナンバリング	LAH007
英文名		Theory of Human Right			講義形態	講義
担当教員		金井 洋行				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		人権の観念について、他の観念－人道、倫理、文化規範、宗教的信念、条理原則等－との比較を通して分析し、人間の本性(human nature)との関係を理解する。日本国憲法に規定する「国民の権利」の内容を知り、その効力にどのような制約や限界があるかについて認識する。身近な生活体験から感得した権利侵害や不条理の発生について、人権の観点から考察する姿勢を身につける。 講義内容はできるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的にあるいは国際的に大きな人権をめぐる事象があった場合には、その話題を飛び入りの的に割り込ませることがある。				
到達目標		1.人権について特にヨーロッパの歴史的発展を背景に人道等の他の価値観との比較で観念できる。 2.人権の様々な観念から憲法の人権規定の適用関係を認識できる。 3.個々の人権の性格を、内面的と外面的、精神的と経済的、消極的と積極的、等の区分で理解できる。 4.人権の擁護がどのような考え方と仕組みによって行われるのかについて、憲法規定を通して認識できる。 5.人権に関する主要な争点について裁判所、特に最高裁判所の考え方を整理できる。				
評価方法		・平常の授業に対する姿勢(15%)、中間テスト(25%)、期末の定期試験(60%) ・中間テストは概ね 2 回の知識テスト。 定期試験は知識と思考力のテスト				
使用教材		テーマ別レジュメ、基礎知識資料(テキストに代替するプリント) * テーマによって DVD の視聴あり				
参考文献						
課題に対するフィードバック		重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)				
オフィスアワー (研究室)		出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	人権の観念と内容				
	該当到達目標	予習	日本国憲法における基本的人権の項目の教科書等による再チェック			2 時間
	1	復習	予備知識アンケート			0.5 時間
2	講義内容	人権の享有主体と人権規定の適用関係				
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み			1 時間
	1,2	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集			1.5 時間
3	講義内容	人権の制約と限界				
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み			1 時間
	1,2,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集			1.5 時間
4	講義内容	幸福追求権の意義と具体化				

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,4	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
5	講義内容	法の下での平等－平等権と平等原則－		
	該当到達目標 1,2,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
6	講義内容	人間の内心の価値と保護		
	該当到達目標 1,3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
7	講義内容	自由と自由主義		
	該当到達目標 1,3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	講義内容	表現の自由とその抑制		
	該当到達目標 3,4,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
9	講義内容	経済活動の自由と財産権		
	該当到達目標 3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	講義内容	人身の自由と刑事手続の保障		
	該当到達目標 3,4,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
11	講義内容	政治活動の自由と参政権		
	該当到達目標 3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
12	講義内容	生存権の意義と福祉国家の諸権利		
	該当到達目標 3,4,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
13	講義内容	教育を受ける権利と学習権		
	該当到達目標 3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
14	講義内容	人権の国際化		
	該当到達目標 3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
15	講義内容	人権の現状と今後の課題		
	該当到達目標 1,4	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 当日に即答できない質問や要望については次回に文書をもって応答することを原則とする。 日常の身の回りに起こる権利侵害や条理違反に目を向け、人権擁護の観点から自分なりに考えておくことを期待する。			

科目名	人間関係論(人間理解)				科目ナンバリング	LAH008
英文名	Theory of Human Relations				講義形態	講義
担当教員	富田 純喜					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位			
種別						
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力		応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	人間関係論といえば、ホーソン実験を基盤として体系化された理論を指すことが多い。また、社会科学における研究アプローチを指すこともある。本講義では、広く生活上の諸現象を人と人との関係から理解することを目的とする。 授業は主に講義形式で進めるが、ワークやグループディスカッションを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。					
到達目標	1.人間関係論の基礎的内容を理解している。 2.人間関係を多角的な視点から説明できる。 3.人間関係の構築に関する基礎的なアプローチを説明できる。					
評価方法	試験(70%)、授業内課題・参画度(30%)					
使用教材	菅野仁(2008)『友だち幻想―人と人のくつながりを考える―(ちくまプリマ―新書)』筑摩書房					
参考文献						
課題に対するフィードバック	試験前後に出題の意図等を説明する。					
オフィスアワー (研究室)	水曜 5 限、木曜 5 限(8 号館 406)		メールアドレス (#→@)		tomita-t#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	ガイダンス				
	該当到達目標	予習	各回の授業内容を確認し、人間関係について考えてみる。			1.5 時間
	1	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。			1.5 時間
2	講義内容	ホーソン実験と人間関係論				
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1.5 時間
	1	復習	人間関係論の成り立ちについて理解する。			1.5 時間
3	講義内容	「友人重視指向」の日本の高校生(はじめに)				
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。			1.5 時間
	2,3	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。			1.5 時間
4	講義内容	人は一人では生きられない?(第一章)				
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。			1.5 時間
	2,3	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。			1.5 時間
5	講義内容	幸せも苦しみも他者がもたらす(第二章)①前半				
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.27-37)を読み、言葉の意味等を調べておく。			1.5 時間
	2,3	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。			1.5 時間
6	講義内容	幸せも苦しみの他者がもたらす(第二章)②後半				
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.37-46)を読み、言葉の意味等を調べておく。			1.5 時間
	2,3	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。			1.5 時間
7	講義内容	共同性の幻想―なぜ「友だち」のことで悩みは尽きないのか(第三章)①前半				
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.47-58)を読み、言葉の意味等を調べておく。			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	2,3	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	共同性の幻想——なぜ「友だち」のことで悩みは尽きないのか(第三章)②後半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.58-79)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	「ルール関係」と「フィーリング共有関係」(第四章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	熱心さゆえの教育幻想(第五章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	家族との関係と、大人になること(第六章)①前半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.106-113)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	家族との関係と、大人になること(第六章)②後半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.113-120)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	「傷つきやすい私」と友だち幻想(第七章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
14	講義内容	言葉によって自分を作り変える(第八章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	現代社会における人間関係		
	該当到達目標	予習	これまでの講義内容を振り返る。	1.5 時間
	2,3	復習	現代社会における人間関係について自身の考えをまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名		ジェンダー論(人間理解)			科目ナンバリング	LAH009
英文名		Gender Theory			講義形態	講義
担当教員		前田 由美子				
科目に関連した実務経験		女性相談の非常勤相談員として行政機関に勤務(過去)				
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要(テーマ・内容)		人間の性とはどういう意味をもつのか。それによって形成されている秩序と、それゆえに起こるさまざまな葛藤を真摯にみつめ、性を制度設計に組み込む社会の問題を解き明かす。その上で、それらをどのように解決して行ったら良いのかを深く思索する。そうすることによってより豊かで包容力のある社会を創造する力を備え、行動する人になり、新しい自分や社会を発見することになるであろう。レジュメに基づき解説を行う。時にグループワークも行い、課題について考察を深める。集中講義なので、日ごとに短いレポートを作成提出してもらう。仕事の選択、恋愛、卒業後の人生設計において、この授業で学ぶ知識は大きな影響をもたらすはずである。自身のために、社会を創るために是非学んでほしい。				
到達目標		1.自分自身の内部にある「性」のとらえ方を見つめ直す。■ 2.内面化している固定的な性のイメージや制度に対する固定観念に気づく。■ 3.他者や社会への豊かなまなざしを持てる。■ 4.豊かな社会創造への力を身につける。■				
評価方法		レポートを 4 回課し、その合計で評価する。総合評価 60%以上で合格とする。				
使用教材		授業用プリント、文献資料等を随時配布する。必要に応じてメディア教材を使用する。				
参考文献						
課題に対するフィードバック		レポートを返却し、コメント解説を行う。				
オフィスアワー(研究室)		質問等は、授業中もしくは終了後に応じ解説する。		メールアドレス(#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	講義全体の説明				
	該当到達目標	予習	性別についての自分の考え方を見つめておく。			1.5 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価法などを確認する。			1.5 時間
2	講義内容	ジェンダーと言う概念				
	該当到達目標1	予習	文献資料に目を通す。			1.5 時間
		復習	ジェンダー概念について理解する。			1.5 時間
3	講義内容	生き物としての性とその多様性■				
	該当到達目標1,2	予習	文献資料を読んでおく。			1.5 時間
		復習	性の多様性を理解する。			1.5 時間
4	講義内容	セクシュアリティ・性的指向■				
	該当到達目標1,2,3	予習	文献資料を読んでおく。			1.5 時間
		復習	セクシュアリティの多様性について理解する。			1.5 時間
5	講義内容	性役割と性規範■				
	該当到達目標1,2	予習	文献資料を読んでおく。			1.5 時間
		復習	身の回りの性役割や性規範について気づく。			1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

6	講義内容	ジェンダー・アイデンティティ■		
	該当到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	ジェンダー・アイデンティティについて理解する。	1.5 時間
7	講義内容	性別と経済		
	該当到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	経済と性別のつながりを理解する。	1.5 時間
8	講義内容	女性とこども■		
	該当到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	女性と子どものつながりへの偏重を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	男性と子ども		
	該当到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	男性と子どものつながりの困難を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	労働と性別■		
	該当到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	労働と性別のつながりの問題を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	労働と性別とそれぞれの暮らし		
	該当到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ワーク・ライフ・バランスを理解し、問題解決法を考える。	1.5 時間
12	講義内容	男性のかかえる問題■		
	該当到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	男性をとりまく問題を理解し、女性の問題との関連を考える。	1.5 時間
13	講義内容	セクシュアル・ハラスメント■		
	該当到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	問題の本質を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	ドメスティック・バイオレンス■		
	該当到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	社会問題として理解する。	1.5 時間
15	講義内容	性別と社会の問題		
	該当到達目標	予習	全ての文献のつながりを理解する。	1.5 時間
	3,4	復習	問題の確認と解決法を考える。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	予め配布される資料を読み込み、授業での理解を深めるよう努力すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	共生の倫理(人間理解)				科目ナンバリング	LAH010
英文名	Ethics of Symbiosis				講義形態	講義
担当教員	大石 桂子					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位			
種別						
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と幅広い教養			学際的な視点から取り組む力	
		健康・医療および情報に関する知識・技能			応用・実践する能力	
		問題解決力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	現代では多様な価値観・文化をもった人々が、性別や年齢、職業や病気・障がいの有無などを超えて「共生」することが求められている。差別や排除をのりこえ、共生を実現するためどのような取り組みができるのか、基礎的な理論と方法の知識を習得することを目標にする。 授業ではパワーポイントを用いる。定期的に資料に関する分析、考察する機会を設ける。					
到達目標	1.現代社会での共生の意義について理解し、説明できる。 2.共生の歴史について理解し、説明できる。 3.共生を支える社会学、倫理学また教育や臨床的なアプローチを理解し、説明できる。 4.共生の具体的なあり方や事例について理解し、説明できる。 5.各テーマについて自分の考えをもつことができる。					
評価方法	定期試験(60%)、講義中に作成する課題(40%)に、参加態度を加えて総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。					
使用教材	講義中にプリントを配布する。					
参考文献	講義中に指示する。					
課題に対するフィードバック	提出課題の内容にコメントを添えて、講義中に紹介する。					
オフィスアワー (研究室)	月曜日の 3 時限、金曜日の 2 時限。 (1 号館 6 階 601)			メールアドレス (#→@)	oishi#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	ガイダンス				
	該当到達目標	予習	シラバスの内容に目を通し、到達目標などを確認する。			1 時間
	1	復習	講義の目的や学ぶ意義を理解する。			1.5 時間
2	講義内容	共生とは何か、共生に関わる社会意識				
	該当到達目標	予習	共生の定義を調べる。			1 時間
	1	復習	なぜ共生が必要とされるのか理解する。			1.5 時間
3	講義内容	多文化社会と価値の多様化				
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。			1 時間
	1,5	復習	価値の多様化の社会的な影響について、事例を考え課題を作成する。			1.5 時間
4	講義内容	分断と隔離の歴史				
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。			1 時間
	2,5	復習	近代以降に障がい者などの隔離が進んだ背景を理解する。			1.5 時間
5	講義内容	優生思想				
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。			1 時間
	2,5	復習	20 世紀初頭～現在の優生思想について、問題点を理解する。			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

6	講義内容	共生の歴史:ノーマライゼーションからエンパワーメントへ		
	該当到達目標	予習	ノーマライゼーションの定義を調べる。	1 時間
	2,4,5	復習	ノーマライゼーションの意義と、他の概念へ置き換わった背景を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	公共空間のユニバーサルデザイン		
	該当到達目標	予習	ユニバーサルデザインの定義を調べる。	1 時間
	4,5	復習	ユニバーサルデザインの意義を理解し、身近な実例を考える。	1.5 時間
8	講義内容	共生をめざして(1) 社会学からのアプローチ		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	世代間保障について理解し、課題を作成する。	2 時間
9	講義内容	共生をめざして(2) 倫理学からのアプローチ		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	共感の道徳的な役割を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	共生をめざして(3) 教育学からのアプローチ		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	学校教育での共生の取り組みを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	共生をめざして(4) 非行臨床からのアプローチ		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	矯正教育の意義と成果について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	共生をめざして(5) 認知症ケアの臨床からのアプローチ		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	介護での QOL 向上やコミュニケーション改善の取り組みを理解する。	1.5 時間
13	講義内容	「排除型社会」がもたらすリスク		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,5	復習	価値多様化の時代の「自己」のあり方、共済、相互扶助の意義を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	事例研究:多民族、多文化の共生		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	4,5	復習	講義の内容をふまえ、課題を作成する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでのノート・資料に目を通す。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	共生の意義、方法について理解し、自分の考えをまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				38 時間
備考	予習・復習については試験前の学習で補完すること。			

科目名		チーム医療アプローチ論(人間理解)			科目ナンバリング	LAH011
英文名		Team Approach to Health Care			講義形態	講義
担当教員		原田欣宏、大川喜代美、竹内真理、土井信幸、小笠原映子、渡邊秀臣、篠原智行、丸山健一、				
科目に関連した実務経験		原田(福祉):ソーシャルワーカーとして高齢者福祉施設・事業所等に勤務(経験) 大川(情報):診療報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務(経験) 竹内(栄養):管理栄養士として国立病院機構に勤務(経験)。健大附属クリニック管理栄養士兼務。 土井(薬学):薬剤師として主に薬局で勤務(経験) 小笠原(看護):看護師、訪問看護師として総合病院に勤務(経験) 渡邊(理学):整形外科医として医療機関に勤務(非常勤) 篠原(理学):急性期、回復期病院に勤務経験あり。現在は生活期病院に非常勤勤務				
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	選択	1 単位	
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要(テーマ・内容)		福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解する。 各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。				
到達目標		1.チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。■ 2.各専門職の役割と活動について理解できる。■ 3.チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。■				
評価方法		授業参加への積極性 40%、レポート 60%				
使用教材		講義のスライドを随時プリントして配布する。				
参考文献						
課題に対するフィードバック		・他学科の学生が参加していることから講義中に双方向型講義を行い、学生の考えや意見を導入しながら講義を展開する。 ・課題レポートを読んで感じた点や補足すべき点について文章化し、次回の授業時に受講生に配布する。				
オフィスアワー(研究室)		原田(福祉) 火曜 3 限(1 号館 506 研究室) 大川(情報) 木曜 1 限(1 号館 609 研究室) 竹内(栄養) 木曜 2・4 時限(1 号館 308 研究室) 土井(薬学) 12:00-13:00(7 号館 319 研究室) 小笠原(看護) 月曜 3 限(5 号館 403 研究室) 渡邊(理学) 金曜 3 限(4 号館 2 階学部長室) 篠原(理学) 水曜 3 限(3 号館 206 研究室) 丸山(子ども) 金曜 4 限、(8 号館 408 研究室)	メールアドレス(#→@)		原田(福祉) harada#takasaki-u.ac.jp 大川(情報) okawa-ki#takasaki-u.ac.jp 竹内(栄養) mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp 土井(薬学) doi-n#takasaki-u.ac.jp 小笠原(看護) ogasawara#takasaki-u.ac.jp 篠原(理学) shinohara-t#takasaki-u.ac.jp ※メールでの質問可の教員のみ掲載	
1	講義内容	チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について■				
	該当到達目標 1	予習	チーム医療とはどのようなものなのか、学習する。			1.5 時間
		復習	21 世紀の医療では、なぜ多職種協働のチーム医療が必須であるか理解する。			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

2	講義内容	チーム医療における看護師・保健師の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	チーム医療に関連する書籍、雑誌等を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3	復習	看護師・保健師の役割・活動、チーム医療における看護職の役割について講義内容から復習しておく。	1.5 時間
3	講義内容	チーム医療における理学療法士の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	理学療法士の一般的な役割について調べる	1.5 時間
	1,2,3	復習	チームにおけるリハビリテーションの位置づけを復習し、チーム医療に求められる個人の資質について考察する。	1.5 時間
4	講義内容	チーム医療における薬剤師の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	チーム医療における薬剤師の役割と活動	1.5 時間
	1,2,3	復習	チーム医療(病院・薬局)における薬剤師の役割と活動についてインターネット等の電子媒体を用いて調査する。	1.5 時間
5	講義内容	チーム医療における管理栄養士の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	事前に学習した他のコメディカルの役割と活動について復習し授業に臨む	1.5 時間
	1,2,3	復習	管理栄養士と他のコメディカルのチーム医療と、チーム内での役割や活動について考察する	1.5 時間
6	講義内容	チーム医療における社会福祉士の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	①高齢化社会の現状を調べる ②地域医療の進展を調べる ③社会福祉専門職の職場を調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	疾患と障害の関連を理解し、地域で自立した生活支援に必要なチーム医療のあり方を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	チーム医療における保育士・幼稚園教諭・小学校教諭、特別支援学校教諭の役割と活動		
	該当到達目標	予習	乳幼児期・学齢期に罹患しやすい病気の概要や主要な障害について予習をすること。	1.5 時間
	1,2,3	復習	保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭と各種医療職との連携のあり方について復習をすること。	1.5 時間
8	講義内容	チーム医療における診療情報士の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	診療情報管理士と病院事務について調べてみる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	診療情報管理士と病院事務について得た知識を整理する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	【キーワード】 専門職、チーム医療、チームアプローチ 「チーム医療アプローチ演習」(3または4年次開講)履修には、原則として本科目の単位修得が必要となる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		国際医療事情(人間理解)			科目ナンバリング	LAH012
英文名		International Healthcare			講義形態	講義
担当教員		クリストファー・ターン、町田 修三				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的として設置された科目である。特に本学学生は医療系を専攻する者が多いため、海外の医療に関する様々な事項を経験的に学ぶことに重点を置いている。具体的な内容としては、海外諸国の健康・医療教育、健康・医療の実態、医療制度、病医院や医師・コメディカル等の供給体制、病医院や医療施設の世界比較等について学ぶ。国際化を促進するため、学生には英語で日本の文化や医療の説明をしたり、医療に関する基礎的なディスカッションをしたりすることを取り入れる。また本講義では、学生が実際に海外に赴き実体験として国際医療事情を見聞することを強く推奨する。 海外研修に参加して、実際に海外の医療現場を経験することを強く勧める。その際、どのような視点を持ってリサーチするかの示唆と、見聞したことの要約法・分析法を教授する。リサーチ原稿の作成と発表までをもって1クールとする。				
到達目標		1.諸外国の医療教育を理解し、日本との違いを説明できる 2.諸外国の医療の実態を理解し、日本との違いを説明できる 3.諸外国の医療制度を理解し、日本との違いを説明できる 4.諸外国の病医院について学び、日本との違いを説明できる 5.日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる				
評価方法		最終レポート(50%)，提出物(20%)，発表，討論など授業参加度(30%) 海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス(30%)，研修レポート(30%)，研修中のパフォーマンス(40%)				
使用教材		特に指定はない。各自自分のリサーチ目的に沿った文献，教材を探すこと				
参考文献						
課題に対するフィードバック		レポートや提出物については、コメントを付して返却する。発表や討論等のパフォーマンスについては、その都度コメントやアドバイスを伝える				
オフィスアワー (研究室)		月曜日 4 限目、金曜日 2 限目 研究室:1 号館 6 階 603		メールアドレス (#→@)	machida#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	イントロダクション				
	該当到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく			1 時間
		復習	自分の興味のある国の医療事情リサーチを開始する			1.5 時間
2	講義内容	医療の国際化とは				
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく			1 時間
		復習	講義内容の復習、特に世界で進行中の医療の国際化についてしっかりと理解			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

			する	
3	講義内容	日本の医療教育, 医療制度, 医療事情 (一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
4	講義内容	日本の医療教育, 医療制度, 医療事情を英語で説明してみよう		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	5	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
5	講義内容	先進国(アメリカ, イギリス, ドイツ)の医療教育		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
6	講義内容	先進国の医療事情 I (一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
7	講義内容	先進国の医療事情 II (一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
8	講義内容	先進国の病院		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
9	講義内容	その他の先進国(北欧, カナダ, オーストラリアなど)の医療事情 I (一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
10	講義内容	その他の先進国の医療事情 II (一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
11	講義内容	中進国(台湾, シンガポール, 中国など), 途上国(ベトナム, インドネシア, タイなど)の医療教育		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
12	講義内容	中進国, 途上国の医療事情 I (一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情発表準備	1.5 時間
13	講義内容	中進国, 途上国の医療事情 II (一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情発表準備	1.5 時間
14	講義内容	学生プレゼンテーション		
	該当到達目標	予習	発表原稿とプレゼンテーションの準備	3 時間
	1,2,3,4,5	復習	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入	1.5 時間
15	講義内容	学生プレゼンテーションとまとめ		

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	発表原稿とプレゼンテーションの準備	3 時間
		復習	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入	1.5 時間
	合計時間(予習・復習)			41.5 時間
備考	AL(アクティブラーニング)は、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョンなど。 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名		Introduction to Healthcare Sciences(人間理解)			科目ナンバリング	LAH013
英文名		Introduction to Healthcare Sciences			講義形態	講義
担当教員		町田 修三、小澤 滯司、東福寺 幾夫、松尾 仁司、クリストファー・ターン、下川 哲昭、今井 純、大石 時子、富田 陽介				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。 数人の教員がオムニバス形式で英語にて、学生の理解度を確認しながら講義を展開する。英語を使用する授業であるので、予習用に授業で用いる教材・資料・データ等をあらかじめ配布する。授業にはこれらの資料を十分に下調べしたうえで臨むことが特に重要である。				
到達目標		1.医療に関する基礎的な内容に関して、英語での説明を理解できる 2.理解した内容について、第三者に説明できる 3.医療に関するトピックに関して、英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる 4.医療に関するトピックについて、外国の学生と話をすることができる				
評価方法		担当各教員による評価を総合して決定する。各教員は、毎回の授業参加度(20%程度)や講義終了時に課す提出物または小レポート(80%程度)により、それぞれの持ち点に応じて学生を評価する				
使用教材		各教員が作成した資料やデータを用いて講義する				
参考文献						
課題に対するフィードバック		提出物や小レポートには、コメントを付して返却する				
オフィスアワー (研究室)		月曜日 4 限目、金曜日 2 限目 研究室:1 号館 6 階 603		メールアドレス (#→@)	machida#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	Introduction of the course (町田)				
	該当到達目標 1	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく			1 時間
		復習	講義内容の復習、特に専門用語(英語)を覚える			1 時間
2	講義内容	Medical globalization and Japan's healthcare system (町田)				
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておく、授業に参加する準備をしておく			1.5 時間
		復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解			1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

3	講義内容	Healthcare system of foreign countries（町田）		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
4	講義内容	Introduction of nursing education in Japan and other countries（大石）		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
5	講義内容	Introduction to telemedicine（東福寺）		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
6	講義内容	Using Medline Plus to obtain medical information in English I（小澤）		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
7	講義内容	Using Medline Plus to obtain medical information in English II（小澤）		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
8	講義内容	Immunity and diseases I（今井）		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
9	講義内容	Immunity and diseases II（今井）		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
10	講義内容	Medical information system（松尾）		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
11	講義内容	Genes and cancer : basic understanding of the disease（下川）		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
12	講義内容	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation I（富田）		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
13	講義内容	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation II (富田)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく き, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
14	講義内容	Mental health and social skills (ターン)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく き, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
15	講義内容	Summary and concluding remarks (ターン)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく き, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				44 時間
備考	講義内容は学生の興味を持つような分野から、基礎的なものを選んでいる。学生の積極的な授業参加が求められる。 記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修により医療の国際化に関する理解を深め、単位修得に必要な時間を各自確保すること。			

科目名		囲碁の世界(人間理解)			科目 ナンバリング	LAH014
英文名		Introduction to Igo			講義形態	講義
担当教員		三谷 哲也				
科目に関連した 実務経験		2002 年日本棋院に入段、現在七段として東京本院に所属。				
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針 との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
		✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		近年、囲碁は脳を活性化し考える力を養うということで注目されている。囲碁を学ぶことで「考える力」と「集中力」を磨き、「先を読む力」を身につける。また、日本の伝統文化である囲碁を体得することで、言葉と世代を超えたコミュニケーション力を身につけ、国際交流のコミュニケーション力を高める。 授業は基本的に講義形式で打ち方の解説をした後、受講生同士で対局を行う。				
到達目標		1.全く囲碁を知らない状態から囲碁の世界を知り、19 路盤で最後まで打てるようになる。■ 2.いくつかのパターンの囲碁の心得を覚え、囲碁の考え方を身につける。■				
評価方法		毎回の授業貢献度、技術の習熟度を総合的に判断する(60%) 試験(20%)×2 回				
使用教材		光文社新書「東大教養囲碁講座」				
参考文献						
課題に対する フィードバック		試験後に解説を行う。				
オフィスアワー (研究室)		授業の前後 15 分ずつであるが、状況により次回の授業で対応となる場合がある。	メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	囲碁の歴史と基本ルール■				
	該当到達目標	予習	教科書 第 1 章 1～3 に目を通し講義の目的を理解する。			1.5 時間
	1,2	復習	囲碁の基本的なルールを理解する。			1.5 時間
2	講義内容	ルールの復習(1)■				
	該当到達目標	予習	教科書 第 2 章 1-1～1-3 に目を通し基本ルールを確認する。			1.5 時間
	1,2	復習	囲碁の 5 つの基本ルールを理解する。			1.5 時間
3	講義内容	ルールの復習(2)■				
	該当到達目標	予習	教科書 第 2 章 1-4～1-5 に目を通し基本ルールを確認する。			1.5 時間
	1,2	復習	打てない場所、打てる場所を理解する。			1.5 時間
4	講義内容	ルールの復習及び初歩技術(1)■				
	該当到達目標	予習	教科書 第 P97 に目を通し、囲碁の打ち方のポイントを確認する。			1.5 時間
	1,2	復習	基本的な 3 つの心得を理解する。			1.5 時間
5	講義内容	ルールの復習及び初歩技術(2)■				
	該当到達目標	予習	教科書 第 3 章 2 に目を通し、石の取り方を確認する。			1.5 時間
	1,2	復習	取れている石、シチョウを理解する。			1.5 時間
6	講義内容	問題演習■				
	該当到達目標	予習	教科書第 2 章 1～2 に目を通し基本的な考え方を理解する。			1.5 時間
	1,2	復習	地の数え方、石のつながりを理解する。			1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

7	講義内容	技術の解説(1)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P188～199に目を通し終盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の終盤の考え方を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	技術の解説(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P173～188に目を通し中盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の中盤の考え方を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	技術の解説(3)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P158～172に目を通し序盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の序盤の考え方を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	9 子局の解説・連碁(対局)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第 5 章 1 に目を通し 9 子局の打ち方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	9 子局の打ち方を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	技術の解説(4)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P207～220 に目を通し決め打ち碁のポイントを理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	隅の死活を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	技術の解説(5)とペア碁■		
	該当到達目標	予習	教科書 第 4 章に目を通し、19 路盤の考え方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の中盤の打ち方を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	問題演習■		
	該当到達目標	予習	教科書 第 2 章 4 に目を通し、石の追い方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	石の取り方、死活、終局の仕方を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	技術の解説(6)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P259～267 に目を通し、総合的な石の取り方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の序盤～中盤の打ち方を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	連碁対局 まとめ■		
	該当到達目標	予習	教科書 第 4 章～5 章に目を通し、これまで習ってきたことを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	囲碁の道具の片づけについても授業の一環である。スチューデントアシスタント(SA)の方がいても、積極的に片づけに関わること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	英語 IA(リテラシー)			科目 ナンバリング	LAL001
英文名	English IA			講義形態	演習
担当教員	山田 HAY 美由紀				
科目に関連した 実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針 との対応	✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	この講義では、福祉の現場において必要とされるコミュニケーション能力のツールとしての英語を習得する。各自が自分の考えを持って英語で意見交換できる課題、コミュニケーションを必要とするグループ活動課題等を通し、日常英語の語彙、リスニング能力、英語表現力を身につける。また、専門用語に使用される英語についての理解、発音、使用例などに触れる。時事問題について時勢に沿ったテーマを取り上げる時間も設ける。講義は学生の既習内容を考慮した上、英語で行う。質問、疑問、意見等はその都度か講義後に発言すること。質問や意見は、積極的な参加態度、自己表現として奨励し評価の対象となる。グループ課題終了後、自己評価・講義に対する評価用紙に意見を記入することもできる。				
到達目標	1.英語を使って自己の考えを口頭表現することができる。 2.コミュニケーションに必要な英語表現を学び、日常的に実践できる。 3.協力して課題を解決していくことにより、互いの能力を認め合い、個人を尊重する姿勢を身につける。				
評価方法	講義は実技中心のため、時間内のコミュニケーション状況（30%）、課題発表（50%）、講義への参加（20%）を評価する。個人課題は、講義の始めに毎回評価する。ペア、グループ課題は講義内での実践中、各人の英語によるコミュニケーションの様子を評価する。コミュニケーションのためのキーフレーズを毎時紹介するので、記録して課題実践中に使うことが期待される。講義内外でのコミュニケーション（参加度）も評価の対象となる。自己評価用紙の記入は行うが、筆記試験による評価は実施しない。講義に参加することが評価の対象になるので、欠席は3日を超えないよう留意すること。超える場合は要相談。				
使用教材	課題により印刷教材を配布する。				
参考文献					
課題に対する フィードバック	実技実施中、グループ課題発表後に口頭にてフィードバックする。				
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	講義内容、出欠、評価の概要について理解する。個人活動。			
	該当到達目標 1,2,3	予習	英語に触れる機会を増やすための個人課題を出すので、受講期間中続けること。		0.5 時間
		復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。		0.5 時間
2	講義内容	個人課題について発表し教員評価を受ける。簡単なグループ活動と発表。ペア活動の紹介と実践。			
	該当到達目標 1,2,3	予習	個人課題を続ける。		0.5 時間
		復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。		0.5 時間
3	講義内容	個人課題について発表し教員評価を受ける。ペア活動。グループ課題 1 の紹介。			
	該当到達目標 1,2,3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。		0.5 時間
		復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。		0.5 時間
4	講義内容	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題 1 について理解する。専門用語・時事問題等			

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3	予習	個人課題を修正しながら続ける。	0.5 時間
		復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
5	講義内容	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題 1 の実践。専門用語・時事問題等		
	該当到達目標 1,2,3	予習	個人課題を修正しながら続ける。	0.5 時間
		復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
6	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題 1 の実践。専門用語・時事問題等		
	該当到達目標 1,2,3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
		復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
7	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題 1 の実践。		
	該当到達目標 1,2,3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
		復習	グループ課題 1 の発表に向けて個人練習すること。	0.5 時間
8	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題 1 のリハーサル。		
	該当到達目標 1,2,3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
		復習	グループ課題 1 の発表に向けて個人練習すること。	0.5 時間
9	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題 1 の発表。		
	該当到達目標 1,2,3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
		復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
10	講義内容	発表について教員から口頭評価。自己評価・講義に対する評価(印刷物配布)。グループ課題 2 の説明		
	該当到達目標 1,2,3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
		復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
11	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題 2 の内容構成。英語押韻について		
	該当到達目標 1,2,3	予習	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5 時間
		復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
12	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題 2 の内容構成。英語押韻について		
	該当到達目標 1,2,3	予習	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5 時間
		復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
13	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題 2 の練習。英語押韻について		
	該当到達目標 1,2,3	予習	個人課題を続ける。グループ課題 2 の練習をしておく。	0.5 時間
		復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
14	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題 2 のリハーサル。		
	該当到達目標 1,2,3	予習	個人課題を続ける。グループ課題 2 の練習をしておく。	0.5 時間
		復習	グループ課題 2 の練習をしておく。	0.5 時間
15	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題の発表。口頭で評価。自己評価・講義に対する評価の記入(印刷物配布)。		
	該当到達目標 1,2,3	予習	個人課題を続ける。グループ課題 2 の練習をしておく。	0.5 時間
		復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	・講義内で電子辞書またはスマートフォンによる辞書検索を行うので持参すること。検索以外の使用については学生として品位のある態度で取り扱うこと。 ・コミュニケーションのためのフレーズを毎回紹介するので、記録して講義中に使用すること。記録用媒体はノート、スマートフォンなど個人で選択する。			

科目名		英語 IB(リテラシー)			科目ナンバリング	LAL001
英文名		English IB			講義形態	演習
担当教員		ステイシー・クローズ				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要(テーマ・内容)		The goal of this course is to provide a foundation for using English in practical situations. This course will emphasize the application of English speaking and writing skills to communicate personal and academic information. Students will use a variety formats (for example, videos, posters and speeches) to bring their ideas to life.				
到達目標		1.Communicate an authentic message in spoken or written form 2.Research and understand ideas of global or personal interest in English 3.Develop lifelong habits for studying, enjoying and using English				
評価方法		平常点 40%(単語試験、提出物など)、発表 30%、定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.				
使用教材		Provided by instructor				
参考文献						
課題に対するフィードバック		課題はコメントをつけて返却する。				
オフィスアワー(研究室)		月曜日の 2 限、質問はメールでも受け付ける(9 号館 307 研究室)		メールアドレス(#→@)	stacy-c#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	Introduction of the course				
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity			0.5 時間
	1,2,3	復習	Review the new words and phrases			0.5 時間
2	講義内容	Introducing yourself to others				
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity			0.5 時間
	1,2,3	復習	Review the new words and phrases			0.5 時間
3	講義内容	Narrative story techniques and practice				
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity			0.5 時間
	1,2,3	復習	Review the new words and phrases			0.5 時間
4	講義内容	Telling a narrative story				
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity			0.5 時間
	1,2,3	復習	Review the new words and phrases			0.5 時間
5	講義内容	Researching places around the world				
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity			0.5 時間
	2,3	復習	Review the new words and phrases			0.5 時間
6	講義内容	Presenting in conference poster style				
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity			0.5 時間
	1,3	復習	Review the new words and phrases			0.5 時間
7	講義内容	Practicing grammar and vocabulary for demonstrations				
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity			0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
8	講義内容	Practice for demonstration speeches		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
9	講義内容	Techniques and practice for presenting a demonstration		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
10	講義内容	Demonstration speeches		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
11	講義内容	Comparing cultures in professional settings		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
12	講義内容	Presenting a comparative culture topic		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
13	講義内容	Taking academic notes		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	2,3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
14	講義内容	Pop culture and life long learning of English		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
15	講義内容	Presenting a summary of popular culture topic		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	英語 IC(リテラシー)				科目ナンバリング	LAL001
英文名	English IC				講義形態	演習
担当教員	Angela Marli Karsten Tsunoda					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力			応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	● MAKING NEW FRIENDS (greetings and introductions) ● RELATIONSHIPS (talking about other people) ● SPORTS AND MUSIC (talking about interests) ● HEALTH AND INFORMATICS (talking about health and link it to informatics) ● GENERAL REVIEW/ FINAL REPORT INSTRUCTIONS (paragraph writing) ● SHORT TALK (giving opinion) Students' presentation styles will include: Power Point, Poster, Role-play and Handout.					
到達目標	1. Improve self-confidence and accurateness in English skills (writing, reading, speaking, listening) 2. Gain experience in presentations in English 3. Gain a Better understanding of oneself and of human life & culture related topics, while relating these to the use of English language.					
評価方法	Attendance & Participation in Class Discussions.....40% Study Assignments.....20% Project Presentation.....20% Final Report.....20%					
使用教材	None					
参考文献	None					
課題に対するフィードバック	● Peer Comments ● Self-assessment ● Teacher's oral and written comments ● Projects/Final Report evaluations					
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)		angelakarsten@hotmail.com	
1	講義内容	MAKING NEW FRIENDS 1 (Greetings and Introductions) – Introduction, practice				
	該当到達目標	予習	Be prepared to talk about oneself using simple English.			0.5 時間
	1,2,3	復習	Reread syllabus. Review target language. Complete study assignment.			0.5 時間
2	講義内容	MAKING NEW FRIENDS 2 (Greetings and Introductions) - Review, practice, production				
	該当到達目標	予習	Have study assignment ready to discuss.			0.5 時間
	1,2,3	復習	Connect with group members to prepare for presentation.			0.5 時間
3	講義内容	MAKING NEW FRIENDS 3 (Greetings and Introductions) – Production/Students' presentation				
	該当到達目標	予習	Be ready for own presentation and to ask questions to other groups.			0.5 時間
	1,2,3	復習	Complete written brainstorm/Think about following class's topic.			0.5 時間
4	講義内容	RELATIONSHIPS 1 (Talking about other people) – Introduction, practice				
	該当到達目標	予習	Be ready to give opinion about topic 2.			0.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3	復習	Review target language. Complete study assignment.	0.5 時間
5	講義内容	RELATIONSHIPS 2 (Talking about other people) – Review, practice, production		
	該当到達目標	予習	Have study assignment ready to discuss.	0.5 時間
	1,2,3	復習	Connect with group members to prepare for presentation.	0.5 時間
6	講義内容	RELATIONSHIPS 3 (Talking about other people)– Production/Students’ presentation		
	該当到達目標	予習	Be ready for own presentation and to ask questions to other groups.	0.5 時間
	1,2,3	復習	Complete written brainstorm/Think about following class’s topic.	0.5 時間
7	講義内容	SPORTS AND MUSIC 1 (interests) – Introduction, practice		
	該当到達目標	予習	Be ready to give opinion about topic 3.	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review target language. Complete study assignment.	0.5 時間
8	講義内容	SPORTS AND MUSIC 2 (interests)– Review, practice, production		
	該当到達目標	予習	Have study assignment ready to discuss.	0.5 時間
	1,2,3	復習	Connect with group members to prepare for presentation.	0.5 時間
9	講義内容	SPORTS AND MUSIC 3 (interests)– Production/Students’ presentation		
	該当到達目標	予習	Be ready for own presentation and to ask questions to other groups.	0.5 時間
	1,2,3	復習	Complete written brainstorm/Think about following class’s topic.	0.5 時間
10	講義内容	HEALTH AND INFORMATICS 1 (health linked to informatics)– Introduction, practice		
	該当到達目標	予習	Be ready to give opinion about topic 4.	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review target language. Complete study assignment	0.5 時間
11	講義内容	HEALTH AND INFORMATICS 2 (health linked to informatics)– Review, practice, production		
	該当到達目標	予習	Have study assignment ready to discuss.	0.5 時間
	1,2,3	復習	Connect with group members to prepare for presentation.	0.5 時間
12	講義内容	GENERAL REVIEW/ FINAL REPORT INSTRUCTIONS (paragraph writing)		
	該当到達目標	予習	Be ready to answer quiz about previous topics.	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review instructions for final report and start working on it.	0.5 時間
13	講義内容	HEALTH AND INFORMATICS 3 (health linked to informatics)– Production/Students’ presentation		
	該当到達目標	予習	Be ready for own presentation and to ask questions to other groups.	0.5 時間
	1,2,3	復習	Brainstorm about your topic of choice (from syllabus). Work on final report.	0.5 時間
14	講義内容	INDIVIDUAL SHORT TALK (giving opinion)		
	該当到達目標	予習	Be ready for short talk. Have final report ready to hand in to instructor.	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review topics and target language.	0.5 時間
15	講義内容	UNIVERSITY LIFE REFLECTIONS (first term wrap up/giving opinion)		
	該当到達目標	予習	Be ready to discuss about impressions of first term at university.	0.5 時間
	1,2,3	復習	Make sure all assignments were submitted. Talk to instructor in case of doubts.	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	英語 IIA(リテラシー)			科目ナンバリング	LAL002
英文名	English IIA			講義形態	演習
担当教員	クリス・ターン				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	英語をコミュニケーションの道具としてとらえ、英語によるコミュニケーション能力基礎の確立を目指す。この目的のために、まずジェスチャーや one word English、one phrase English から始めて、便利かつ最低限必要な英語表現を繰り返し練習する。複雑な文法や語法を無視してこうした練習を繰り返すことで、気楽に感じたことをそのまま口に出すくせをつけさせたい。授業は主に教員が自ら用意した教材を用いて行うが、ゲーム、ペアワーク、写真、ビデオ、音楽等を多く利用して、学生が積極的に授業に参加できるような雰囲気をつくっていきたい。発表の機会が増えると思う。学生の習熟度に応じ、講義のレベルを調整していく。				
到達目標	1.英語によるコミュニケーション能力の基礎を確立する。 2.英語による口語表現に親しむ。 3.英語によるプレゼンテーションを行う。				
評価方法	期末試験 50% 平常点 50%(授業への参加度、発言、発表課題など)の総合評価とする。				
使用教材	特に定めない。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	課題はコメントの上返却する。				
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 限、金曜日 3 限 (1 号館 3 階 315 研究室)		メールアドレス (#→@)	tarn#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	イントロダクション:講義の解説・自己紹介			
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで学習内容を確認しておく		0.5 時間
	1,2,3	復習	口語表現の復習		0.5 時間
2	講義内容	自己紹介してみよう			
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習		0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認		0.5 時間
3	講義内容	サバイバル・イングリッシュ① Where do I get the bus?			
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習		0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認		0.5 時間
4	講義内容	サバイバル・イングリッシュ② Could you repeat that?			
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習		0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認		0.5 時間
5	講義内容	便利な one phrase English① How is your family?			
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習		0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認		0.5 時間
6	講義内容	便利な one phrase English② Where do you live?			
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習		0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認		0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

7	講義内容	英語の話し方・意思の伝え方		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
8	講義内容	英語と日本語の違い		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
9	講義内容	外国について知ろう		
	該当到達目標	予習	外国について調べてくる	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
10	講義内容	外国や日本について知ろう		
	該当到達目標	予習	外国と日本の比較点をまとめる	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
11	講義内容	外国や日本について話そう		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
12	講義内容	英語だけで1時間過ごしてみよう(Q&A)		
	該当到達目標	予習	質問内容を考えてくる	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
13	講義内容	英語だけで1時間過ごしてみよう(何かを説明する)		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
14	講義内容	大学生活についてのスモール・トーク		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
15	講義内容	英語でプレゼンテーションにチャレンジしてみよう		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名		英語 IIB(リテラシー)			科目 ナンバリング	LAL002
英文名		English IIB			講義形態	演習
担当教員		Louise Arai				
科目に関連した 実務経験						
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別						
学位授与方針 との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。				
到達目標		1.福祉を学ぶ学生にとって基本的な英語の語彙を獲得する。 2.福祉についての英語を読めるようになる。 3.福祉について英語で話せるようになる。				
評価方法		Classroom participation 20%, Make a video 30%, Speaking test 30%, Reports 20%				
使用教材		Everything will be provided by the instructor				
参考文献						
課題に対する フィードバック		Most results from videos, tests and reports will be returned to students after marking.				
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	louisebarnett75@yahoo.co.nz	
1	講義内容	Introductions, review course syllabus, general review and assessment, useful English				
	該当到達目標	予習	Look at syllabus			0.5 時間
	1,2,3	復習	Make name card and read Useful English			0.5 時間
2	講義内容	Useful English－Roleplaying				
	該当到達目標	予習	Read handout			0.5 時間
	1,2,3	復習	Review handout			0.5 時間
3	講義内容	Care for the elderly				
	該当到達目標	予習	Read handout			0.5 時間
	1,2,3	復習	Review handout			0.5 時間
4	講義内容	Care for the elderly - Roleplay				
	該当到達目標	予習	Read handout			0.5 時間
	1,2,3	復習	Review handout			0.5 時間
5	講義内容	Writing an email				
	該当到達目標	予習	Prepare and email			0.5 時間
	1,2,3	復習	Send to the teacher			0.5 時間
6	講義内容	Making a video				
	該当到達目標	予習	Decide video topic.			0.5 時間
	1,2,3	復習	Work on video.			0.5 時間
7	講義内容	Emergencies				
	該当到達目標	予習	Think about emergency kit.			0.5 時間
	1,2,3	復習	Prepare an emergency kit.			0.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

8	講義内容	Emergencies－Roleplaying			
	該当到達目標	予習	Think about roleplay	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Review roleplay	0.5 時間	
9	講義内容	Make a blog			
	該当到達目標	予習	Prepare blog	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Prepare blog	0.5 時間	
10	講義内容	Blog presentation			
	該当到達目標	予習	Prepare blog	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Review blog	0.5 時間	
11	講義内容	In my opinion－Debate			
	該当到達目標	予習	Prepare for debate	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Prepare for debate	0.5 時間	
12	講義内容	In my Opinion－Debate			
	該当到達目標	予習	Prepare for debate	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Prepare for debate	0.5 時間	
13	講義内容	In my Opinion－Debate			
	該当到達目標	予習	Prepare for debate	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Prepare for debate	0.5 時間	
14	講義内容	Speaking Test			
	該当到達目標	予習	Prepare for test	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Review test	0.5 時間	
15	講義内容	Communication activities			
	該当到達目標	予習	Prepare for fun!	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Review the activities	0.5 時間	
合計時間(予習・復習)					15 時間
備考	Syllabus may change a little.				

科目名		英語 IIC(リテラシー)			科目ナンバリング	LAL002
英文名		English IIC			講義形態	演習
担当教員		ジム・ヘイ				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別						
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力			応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要(テーマ・内容)		大学生に必要とされるリスニング・スキル、コミュニケーション・スキル獲得のための講義を行う。授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。				
到達目標		1.英語の歌やゲームに親しみ、異文化に対する理解を深める。 2.基礎的な英語表現を理解する。 3.英語による日常的なコミュニケーション能力を獲得する。				
評価方法		授業参加度(10%)と小テスト／課題遂行度(30%)、試験(60%)から総合的に評価する。				
使用教材		特に定めない。				
参考文献						
課題に対するフィードバック		課題にはコメントの上返却する。				
オフィスアワー(研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス(#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	Introduction, rules, Greetings review				
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで学習内容を把握する			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習			0.5 時間
2	講義内容	TV Reporter pair work unit 1				
	該当到達目標	予習	アクティビティの準備			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習			0.5 時間
3	講義内容	TV Reporter pair work unit 2				
	該当到達目標	予習	アクティビティの準備			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習			0.5 時間
4	講義内容	be 動詞				
	該当到達目標	予習	アクティビティの準備			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習			0.5 時間
5	講義内容	Greetings unit 1				
	該当到達目標	予習	アクティビティの準備			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習			0.5 時間
6	講義内容	Greetings unit 2				
	該当到達目標	予習	アクティビティの準備			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習			0.5 時間
7	講義内容	He, She, It				
	該当到達目標	予習	アクティビティの準備			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習			0.5 時間
8	講義内容	過去形				

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3	予習	アクティビティの準備	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
9	講義内容	Songs and Poems 1			
	該当到達目標 1,2,3	予習	アクティビティの準備	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
	講義内容	Songs and Poems 2			
10	該当到達目標 1,2,3	予習	アクティビティの準備	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
	講義内容	“My Town” Listening unit			
	該当到達目標 1,2,3	予習	アクティビティの準備	0.5	時間
11		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
	講義内容	“ing” Form			
12	該当到達目標 1,2,3	予習	アクティビティの準備	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
	講義内容	Body Parts Unit			
	該当到達目標 1,2,3	予習	アクティビティの準備	0.5	時間
13		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
	講義内容	Body Parts Songs			
14	該当到達目標 1,2,3	予習	アクティビティの準備	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
	講義内容	Opposite unit and Games			
	該当到達目標 1,2,3	予習	アクティビティの準備	0.5	時間
15		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
	合計時間(予習・復習)				15 時間
備考					

科目名		英語 IIIA(リテラシー)			科目ナンバリング	LAL003
英文名		English IIIA			講義形態	演習
担当教員		ジム・ヘイ				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		2 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要(テーマ・内容)		大学生に必要とされるリスニング・スキル、コミュニケーション・スキル獲得のための講義を行う。授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。				
到達目標		1.英語の歌やゲームに親しみ、異文化に対する理解を深める。 2.基礎的な英語表現を理解する。 3.英語による日常的なコミュニケーション能力を獲得する。				
評価方法		授業参加度(10%)と小テスト／課題遂行度(30%)、試験(60%)から総合的に評価する。				
使用教材		特に定めない。				
参考文献						
課題に対するフィードバック		課題にはコメントの上返却する。				
オフィスアワー(研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス(#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	Introduction, rules, Greetings review				
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで学習内容を把握する			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習			0.5 時間
2	講義内容	TV Reporter pair work unit 1				
	該当到達目標	予習	アクティビティの準備			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習			0.5 時間
3	講義内容	TV Reporter pair work unit 2				
	該当到達目標	予習	アクティビティの準備			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習			0.5 時間
4	講義内容	be 動詞				
	該当到達目標	予習	アクティビティの準備			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習			0.5 時間
5	講義内容	Greetings unit 1				
	該当到達目標	予習	アクティビティの準備			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習			0.5 時間
6	講義内容	Greetings unit 2				
	該当到達目標	予習	アクティビティの準備			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習			0.5 時間
7	講義内容	He, She, It				
	該当到達目標	予習	アクティビティの準備			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習			0.5 時間
8	講義内容	過去形				

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3	予習	アクティビティの準備	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
9	講義内容	Songs and Poems 1			
	該当到達目標 1,2,3	予習	アクティビティの準備	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
10	講義内容	Songs and Poems 2			
	該当到達目標 1,2,3	予習	アクティビティの準備	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
11	講義内容	“My Town” Listening unit			
	該当到達目標 1,2,3	予習	アクティビティの準備	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
12	講義内容	“ing” Form			
	該当到達目標 1,2,3	予習	アクティビティの準備	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
13	講義内容	Body Parts Unit			
	該当到達目標 1,2,3	予習	アクティビティの準備	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
14	講義内容	Body Parts Songs			
	該当到達目標 1,2,3	予習	アクティビティの準備	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
15	講義内容	Opposite unit and Games			
	該当到達目標 1,2,3	予習	アクティビティの準備	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
合計時間(予習・復習)				15	時間
備考					

科目名	英語 IIIB(リテラシー)				科目ナンバリング	LAL003
英文名	English IIIB				講義形態	演習
担当教員	クリス・ターン					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力			応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	英語をコミュニケーションの道具としてとらえ、英語によるコミュニケーション能力基礎の確立を目指す。この目的のために、まずジェスチャーや one word English、one phrase English から始めて、便利かつ最低限必要な英語表現を繰り返し練習する。複雑な文法や語法を無視してこうした練習を繰り返すことで、気楽に感じたことをそのまま口に出すくせをつけさせたい。授業は主に教員が自ら用意した教材を用いて行うが、ゲーム、ペアワーク、写真、ビデオ、音楽等を多く利用して、学生が積極的に授業に参加できるような雰囲気をつくっていきたい。発表の機会が増えると思う。学生の習熟度に応じ、講義のレベルを調整していく。					
到達目標	1.英語によるコミュニケーション能力の基礎を確立する。 2.英語による口語表現に親しむ。 3.英語によるプレゼンテーションを行う。					
評価方法	期末試験 50% 平常点 50%(授業への参加度、発言、発表課題など)の総合評価とする。					
使用教材	特に定めない。					
参考文献						
課題に対するフィードバック	課題はコメントの上返却する。					
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 限、金曜日 3 限 (1 号館 3 階 315 研究室)			メールアドレス (#→@)	tarn#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	イントロダクション:講義の解説・自己紹介				
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで学習内容を確認しておく			0.5 時間
	1,2,3	復習	口語表現の復習			0.5 時間
2	講義内容	自己紹介してみよう				
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認			0.5 時間
3	講義内容	サバイバル・イングリッシュ① Where do I get the bus?				
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認			0.5 時間
4	講義内容	サバイバル・イングリッシュ② Could you repeat that?				
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認			0.5 時間
5	講義内容	便利な one phrase English① How is your family?				
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認			0.5 時間
6	講義内容	便利な one phrase English② Where do you live?				
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習			0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認			0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

7	講義内容	英語の話し方・意思の伝え方		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
8	講義内容	英語と日本語の違い		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
9	講義内容	外国について知ろう		
	該当到達目標	予習	外国について調べてくる	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
10	講義内容	外国や日本について知ろう		
	該当到達目標	予習	外国と日本の比較点をまとめる	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
11	講義内容	外国や日本について話そう		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
12	講義内容	英語だけで1時間過ごしてみよう(Q&A)		
	該当到達目標	予習	質問内容を考えてくる	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
13	講義内容	英語だけで1時間過ごしてみよう(何かを説明する)		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
14	講義内容	大学生活についてのスモール・トーク		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
15	講義内容	英語でプレゼンテーションにチャレンジしてみよう		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名		英語 IIIC(リテラシー)			科目ナンバリング	LAL003
英文名		English IIIC			講義形態	演習
担当教員		Louise Arai				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		2 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。				
到達目標		1.福祉を学ぶ学生にとって基本的な英語の語彙を獲得する。 2.福祉についての英語を読めるようになる。 3.福祉について英語で話せるようになる。				
評価方法		Classroom participation 20%, Make a video 30%, Speaking test 30%, Reports 20%				
使用教材		Everything will be provided by the instructor				
参考文献						
課題に対するフィードバック		Most results from videos, tests and reports will be returned to students after marking.				
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	louisebarnett75@yahoo.co.nz	
1	講義内容	Introductions, review course syllabus, general review and assessment, useful English				
	該当到達目標	予習	Look at syllabus			0.5 時間
	1,2,3	復習	Make name card and read Useful English			0.5 時間
2	講義内容	Useful English – Roleplaying				
	該当到達目標	予習	Read handout			0.5 時間
	1,2,3	復習	Review handout			0.5 時間
3	講義内容	Care for the elderly				
	該当到達目標	予習	Read handout			0.5 時間
	1,2,3	復習	Review handout			0.5 時間
4	講義内容	Care for the elderly - Roleplay				
	該当到達目標	予習	Read handout			0.5 時間
	1,2,3	復習	Review handout			0.5 時間
5	講義内容	Writing an email				
	該当到達目標	予習	Prepare and email			0.5 時間
	1,2,3	復習	Send to the teacher			0.5 時間
6	講義内容	Making a video				
	該当到達目標	予習	Decide video topic.			0.5 時間
	1,2,3	復習	Work on video.			0.5 時間
7	講義内容	Emergencies				
	該当到達目標	予習	Think about emergency kit.			0.5 時間
	1,2,3	復習	Prepare an emergency kit.			0.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

8	講義内容	Emergencies - Roleplaying			
	該当到達目標	予習	Think about roleplay	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Review roleplay	0.5 時間	
9	講義内容	Make a blog			
	該当到達目標	予習	Prepare blog	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Prepare blog	0.5 時間	
10	講義内容	Blog presentation			
	該当到達目標	予習	Prepare blog	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Review blog	0.5 時間	
11	講義内容	In my opinion - Debate			
	該当到達目標	予習	Prepare for debate	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Prepare for debate	0.5 時間	
12	講義内容	In my Opinion - Debate			
	該当到達目標	予習	Prepare for debate	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Prepare for debate	0.5 時間	
13	講義内容	In my Opinion - Debate			
	該当到達目標	予習	Prepare for debate	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Prepare for debate	0.5 時間	
14	講義内容	Speaking Test			
	該当到達目標	予習	Prepare for test	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Review test	0.5 時間	
15	講義内容	Communication activities			
	該当到達目標	予習	Prepare for fun!	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Review the activities	0.5 時間	
合計時間(予習・復習)					15 時間
備考	Syllabus may change a little.				

科目名	英語 IVA(リテラシー)				科目ナンバリング	LAL004
英文名	English IVA				講義形態	演習
担当教員	柳澤 順一					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力		応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。					
到達目標	1.大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2.一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3.リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。					
評価方法	期末試験 50% 平常点 50%(出席率、発表課題、授業での発言など)の総合評価とする。					
使用教材	Viva! San Francisco, Hiroto Ohyagi & Timothy Kiggell, Macmillan Language House (1998)					
参考文献						
課題に対するフィードバック	レポートは評価またはショートコメントを付した後返却する(学期末課題については返却しないことがある)。期末試験は採点后、得点を通知する(非常勤のため事務局経由での通知)。					
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)		jyanagisawa555#gmail.com	
1	講義内容	Introduction (1), Introductory DVD-Watching				
	該当到達目標	予習	特になし(語彙調べ)			0.5 時間
	1,2,3	復習	プリント練習問題の解法			0.5 時間
2	講義内容	Introduction (2), 英検 CAT の利用法				
	該当到達目標	予習	1 st & 2 nd Viewing 精読			0.5 時間
	1,2,3	復習	Face the Camera サマリー作成			0.5 時間
3	講義内容	Chapter 1 Where Do I Get the Bus?				
	該当到達目標	予習	1 st & 2 nd Viewing 精読			0.5 時間
	1,2,3	復習	Face the Camera サマリー作成			0.5 時間
4	講義内容	Chapter 2 Do You Have a Reservation Ma'am?				
	該当到達目標	予習	1 st & 2 nd Viewing 精読			0.5 時間
	1,2,3	復習	Face the Camera サマリー作成			0.5 時間
5	講義内容	Chapter 3 Could You Repeat That?				
	該当到達目標	予習	1 st & 2 nd Viewing 精読			0.5 時間
	1,2,3	復習	Face the Camera サマリー作成			0.5 時間
6	講義内容	Chapter 4 I'll Take the Wrangler Convertible				
	該当到達目標	予習	1 st & 2 nd Viewing 精読			0.5 時間
	1,2,3	復習	Face the Camera サマリー作成			0.5 時間
7	講義内容	Chapter 5 Would You Like Soup or Salad?				

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3	予習	1st & 2nd Viewing 精読	0.5 時間
		復習	Face the Camera サマリー作成	0.5 時間
8	講義内容	Review of Chapters 1-5; Additional DVD-Watching (1)		
	該当到達目標 1,2,3	予習	Chapter 1-5 の重要語句の暗唱	0.5 時間
		復習	練習問題プリントの解法、Communication Focus 1-5 の表現を整理	0.5 時間
9	講義内容	Additional DVD-Watching (2)		
	該当到達目標 1,2,3	予習	特になし(語彙調べ)	0.5 時間
		復習	練習問題プリントの解法	0.5 時間
10	講義内容	Chapter 6 Where's the Fitting Room?		
	該当到達目標 1,2,3	予習	1st & 2nd Viewing 精読	0.5 時間
		復習	Face the Camera サマリー作成	0.5 時間
11	講義内容	Chapter 7 Would You Mind Taking My Picture?		
	該当到達目標 1,2,3	予習	1st & 2nd Viewing 精読	0.5 時間
		復習	Face the Camera サマリー作成	0.5 時間
12	講義内容	Chapter 8 Good to See You!		
	該当到達目標 1,2,3	予習	1st & 2nd Viewing 精読	0.5 時間
		復習	Face the Camera サマリー作成	0.5 時間
13	講義内容	Chapter 9 I Enjoyed My Stay		
	該当到達目標 1,2,3	予習	1st & 2nd Viewing 精読	0.5 時間
		復習	Face the Camera サマリー作成	0.5 時間
14	講義内容	Chapter 10 Aisle Seat, Please		
	該当到達目標 1,2,3	予習	1st & 2nd Viewing 精読	0.5 時間
		復習	Face the Camera サマリー作成、英検 CAT ポートフォリオ作成	0.5 時間
15	講義内容	Review of Chapters 6-10		
	該当到達目標 1,2,3	予習	Chapter 6-10 の重要語句を暗唱	0.5 時間
		復習	Communication Focus 6-10 の表現を整理	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	CALL 教室を使用する。データ保存用の USB メモリを必ず持参すること。			

科目名	英語 IVB(リテラシー)				科目ナンバリング	LAL004
英文名	English IVB				講義形態	演習
担当教員	下田尾 誠					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力		応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	現代社会を取り巻く環境、日々の生活習慣が私たちの健康に及ぼす影響についての理解を平易な英文を読みながら深めることを目的とする。テキストは、ボキャブラリー、リスニング、リーディングのアクティビティを通して題材となる事柄への理解を深めるように構成されている。このテキストを通して、総合的な英力を高め、健康について考えるきっかけをつくることを講義のねらいとする。授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。					
到達目標	1.環境と健康についての基本的な語彙を修得する。 2.大学生基礎レベルのリーディング・スキルを身につける。 3.関連テーマについて英語で簡単な作文ができる表現力を身につける。					
評価方法	授業への参加度、発表、課題(50%)、期末試験(50%)で総合的に評価する。					
使用教材	Good Health, Better Life, Kinseido, 1,900 円					
参考文献	授業内で紹介する。					
課題に対するフィードバック	課題はコメントをつけて返却する。					
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。			メールアドレス (#→@)	shimotao.makoto#chuo.ac.jp	
1	講義内容	ガイダンス・Reading Strategies とは				
	該当到達目標	予習	教科書のまえがき、シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。			0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。			0.5 時間
2	講義内容	What country is the fattest in the world?				
	該当到達目標	予習	テキストの英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。			0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。			0.5 時間
3	講義内容	What do you know about sleep talking?				
	該当到達目標	予習	テキストの英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる			0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。			0.5 時間
4	講義内容	Why are bug bites dangerous?				
	該当到達目標	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。			0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。			0.5 時間
5	講義内容	What kind of bacteria can be found in the Great Barrier Reef?				
	該当到達目標	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。			0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。			0.5 時間
6	講義内容	How much caffeine can we take?				
	該当到達目標	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。			0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。			0.5 時間
7	講義内容	How does Oxytocin work to improve relationships?				

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文の内容理解を理解できているかを確認する。	0.5	時間
8	講義内容	What can happen when you are too clean?			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を再度読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認するする。	0.5	時間
9	講義内容	Does gender affect cancer susceptibility?			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	0.5	時間
10	講義内容	Why do we develop fear of heights with age?			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	0.5	時間
11	講義内容	What are the dangers of a sweltering summer?			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	0.5	時間
12	講義内容	Which makes a better athlete, a night owl or an early bird?			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	0.5	時間
13	講義内容	How better to release your stress?			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	0.5	時間
14	講義内容	What are the differences between real and robotic pets?			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	0.5	時間
15	講義内容	前期のまとめ、復習			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を再度読み、内容を再把握する。	0.5	時間
		復習	前期分の内容を総合的に理解する。	0.5	時間
合計時間(予習・復習)				15	時間
備考					

科目名	英語 IVC(リテラシー)			科目 ナンバリング	LAL004
英文名	English IVC			講義形態	演習
担当教員	飛田 ルミ				
科目に関連した 実務経験					
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針 との対応	✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	教材や課題により、「現代の介護や福祉をめぐる話題」に関して英語で理解すると共に、専門分野について話題提供を可能にする英語コミュニケーション能力を習得するための演習を行う。演習では教員と受講者の双方向コミュニケーションが可能な学習支援システムを活用したアクティブラーニングを実践し、課題としてプレゼンテーションを行うことにより、総合的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。				
到達目標	1.大学レベルの基本的な語彙・文法を習得する。 2.介護・福祉に関する英文読解に必要なリーディング・スキルを習得する。 3.総合的な英語コミュニケーション能力を高める。				
評価方法	授業への参加度、発表、課題(50%)、期末試験(50%)で総合的に評価する。				
使用教材	福祉・介護系学生のための総合英語 A Helping Hand(南雲堂)				
参考文献	授業で紹介する。				
課題に対する フィードバック	プレゼンテーションなどの課題に対して評価シートを返却しフィードバックをする。 レポート、小テスト、期末試験は採点の後返却する。				
オフィスアワー (研究室)	前期:月曜日 4 時限(非常勤講師室) 後期:木曜日 5 時限(非常勤講師室)		メールアドレス (#→@)	rtobita#ashitech.ac.jp	
1	講義内容	講義概要の説明 Unit 1 The four keys to successful caregiving			
	該当到達目標	予習	テキストの Vocabulary 問題を解いて Reading 課題の解釈をする		0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの内容把握と課題問題を復習する。		0.5 時間
2	講義内容	Unit 1 The four keys to successful caregiving			
	該当到達目標	予習	テキストの Vocabulary 問題を解いて Reading 課題の解釈をする		0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの内容把握と課題問題を復習する。		0.5 時間
3	講義内容	Unit 1 Dialogue Unit 2 Using mobility and lifting aids			
	該当到達目標	予習	テキストの Vocabulary 問題を解いて Reading 課題の解釈をする		0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの内容把握と課題問題を復習する。		0.5 時間
4	講義内容	Unit 2 Dialogue Unit 3 Helping people with meals			
	該当到達目標	予習	テキストの Vocabulary 問題を解いて Reading 課題の解釈をする		0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの内容把握と課題問題を復習する。		0.5 時間
5	講義内容	Unit 3 Dialogue Unit 4 Helping people using the toilet			
	該当到達目標	予習	テキストの Vocabulary 問題を解いて Reading 課題の解釈をする		0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの内容把握と課題問題を復習する。		0.5 時間
6	講義内容	Unit 4 Dialogue Unit 5 Helping people with their bath			
	該当到達目標	予習	テキストの Vocabulary 問題を解いて Reading 課題の解釈をする		0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの内容把握と課題問題を復習する。		0.5 時間
7	講義内容	Unit 5 Dialogue Unit 6 Helping people with dressing and grooming			
	該当到達目標	予習	テキストの Vocabulary 問題を解いて Reading 課題の解釈をする		0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3	復習	テキストの内容把握と課題問題を復習する。	0.5 時間
8	講義内容	Unit 6 Dialogue Unit 1～6 までの復習		
	該当到達目標	予習	テキストの Vocabulary 問題を解いて Reading 課題の解釈をする	0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの内容把握と課題問題を復習する。	0.5 時間
9	講義内容	Unit 7 Helping people change their position		
	該当到達目標	予習	テキストの Vocabulary 問題を解いて Reading 課題の解釈をする	0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの内容把握と課題問題を復習する。	0.5 時間
10	講義内容	Unit 7 Dialogue Unit 8 Helping with recreation activities		
	該当到達目標	予習	テキストの Vocabulary 問題を解いて Reading 課題の解釈をする	0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの内容把握と課題問題を復習する。	0.5 時間
11	講義内容	Unit 8 Dialogue Unit 9 Helping people to communicate		
	該当到達目標	予習	テキストの Vocabulary 問題を解いて Reading 課題の解釈をする	0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの内容把握と課題問題を復習する。	0.5 時間
12	講義内容	Unit 9 Dialogue Unit 10 Helping people suffering from disease and illness		
	該当到達目標	予習	テキストの Vocabulary 問題を解いて Reading 課題の解釈をする	0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの内容把握と課題問題を復習する。	0.5 時間
13	講義内容	Unit 10 Dialogue Unit 11 Helping children to develop		
	該当到達目標	予習	テキストの Vocabulary 問題を解いて Reading 課題の解釈をする	0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの内容把握と課題問題を復習する。	0.5 時間
14	講義内容	Unit 11 Dialogue Unit 12 Helping with Domestic Duties in a client's home		
	該当到達目標	予習	テキストの Vocabulary 問題を解いて Reading 課題の解釈をする	0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの内容把握と課題問題を復習する。	0.5 時間
15	講義内容	Unit 12 Dialogue Unit 7～12 の復習		
	該当到達目標	予習	テキストの Vocabulary 問題を解いて Reading 課題の解釈をする	0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの内容把握と課題問題を復習する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	Integrated English I(リテラシー)				科目ナンバリング	LAL005
英文名	Integrated English I				講義形態	講義
担当教員	クリス・ターン					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位			
種別						
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力		応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	本講義では、海外英語研修参加希望者を対象とする。英語による日常英会話レベルのコミュニケーション能力を獲得することを講義目標としている。教員より、コミュニケーションをとる必要がある様々な場面設定が提示される。受講生はその対応を考え、実践演習を行う。その後課題を分析し、再度実践演習を行う。また、学生生活で学んだ英語をまとめてノートを作成する。					
到達目標	1.コミュニケーションの基礎知識を学ぶ 2.海外での様々な場面を想定した英会話の練習をする 3.プレゼンテーションの実践演習を行う また海外英語研修に向けた事前準備や説明を行う。					
評価方法	授業内パフォーマンス 90%、提出物 10%					
使用教材	特に定めない。					
参考文献						
課題に対するフィードバック	提出物にはコメントをつけて返却する。個人面談を行う。					
オフィスアワー (研究室)	火曜 3 限、金曜 3 限 (1 号館 315 研究室)			メールアドレス (#→@)	tarn#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	What is communication?				
	該当到達目標	予習	なし			0.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容について要約する			0.5 時間
2	講義内容	Cognitive Psychology: Get to Know Yourself				
	該当到達目標	予習	自分自身について書く			0.5 時間
	1,2,3	復習	自分のインターナショナル・スキルについて書く			0.5 時間
3	講義内容	Social Skills				
	該当到達目標	予習	社会心理学について事前調べを行う			0.5 時間
	1,2,3	復習	改善すべき自分の社会的スキルについて書く			0.5 時間
4	講義内容	The Power of Imagination and Innovation				
	該当到達目標	予習	行きたい国、行きたい理由を挙げる			0.5 時間
	1,2,3	復習	その国について調べる			0.5 時間
5	講義内容	Learning to Control a Conversation				
	該当到達目標	予習	言葉が理解できない状況でどういくコミュニケーションが有効か考える			0.5 時間
	1,2,3	復習	ホストファミリーとの会話例を考える			0.5 時間
6	講義内容	Listening Strategies				
	該当到達目標	予習	訪問国の英語発音について調べる			0.5 時間
	1,2,3	復習	訪問国の短編映画やアニメを見る			0.5 時間
7	講義内容	Basic English: Self Introduction and First Step for Communication in English				
	該当到達目標	予習	自己紹介文を書く			0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3	復習	自己紹介文を仕上げる	0.5 時間
8	講義内容	Create your own English Database		
	該当到達目標	予習	ノートの準備をする	0.5 時間
	1,2,3	復習	English Database を作成する	0.5 時間
9	講義内容	Meet a Foreigner		
	該当到達目標	予習	外国人ゲストとの会話を考える	0.5 時間
	1,2,3	復習	外国人ゲストとの会話から、スピーキングの課題を見つける	0.5 時間
10	講義内容	Speech Basics: Talking to Audience		
	該当到達目標	予習	相手に伝わるプレゼンテーションについて調べる	0.5 時間
	1,2,3	復習	大学紹介についてのパワーポイントを作成する	0.5 時間
11	講義内容	Presentation 1		
	該当到達目標	予習	自分の学科(専門)についてのプレゼンテーションを作成する	0.5 時間
	1,2,3	復習	プレゼンテーションの直しと仕上げをする	0.5 時間
12	講義内容	Presentation 2		
	該当到達目標	予習	テーマについてのプレゼンテーションの準備をする	0.5 時間
	1,2,3	復習	プレゼンテーションの直しと仕上げをする	0.5 時間
13	講義内容	Make your own Textbook 1		
	該当到達目標	予習	海外研修・ホームステイを想定し自分自身のテキストブックを作成する	0.5 時間
	1,2,3	復習	海外研修・ホームステイを想定し自分自身のテキストブックを作成する	0.5 時間
14	講義内容	Do Group Work to Improve your Textbook		
	該当到達目標	予習	グループごとに各自のテキストブックについて話し合い改善する	0.5 時間
	1,2,3	復習	想定した研修やホームステイについてレポートを書く	0.5 時間
15	講義内容	Conclusion		
	該当到達目標	予習	これまでの授業の復習をする	0.5 時間
	1,2,3	復習	全講義を通して学んだことをレポートにする	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	本講義は海外英語研修参加者を対象とする。予習復習時間については各自補完すること。			

科目名		Integrated English II(リテラシー)			科目ナンバリング	LAL006
英文名		Integrated English II			講義形態	講義
担当教員		嶋田 和成				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		基本文法事項を整理しながら、TOEIC テスト受験に必要とされる基礎的な英語力養成を主眼とする。そのため授業では、TOEIC テスト形式の問題演習を中心に据えて、英語の基礎力を主にリスニングとリーディングの面から強化する。また、語彙を増やすことにも重点を置く。授業は、教科書を使って TOEIC テスト形式の模擬問題演習と受講生同士によるコミュニケーション活動の形で進める。				
到達目標		1.TOEIC テストの形式と内容を理解できる。 2.語彙力が身につく。 3.文法事項を理解できる。 4.リスニング力が身につく。 5.リーディング力が身につく。				
評価方法		授業への参加度、発表、課題(40%)、期末試験(60%)で評価する。				
使用教材		妻鳥千鶴子他.(2016). <i>First Time Trainer for the TOEIC® Test</i> . 東京:センゲージラーニング.2,000円				
参考文献		授業内で紹介する。				
課題に対するフィードバック		課題の解説をする。				
オフィスアワー (研究室)		木曜 3 限、金曜 5 限 (研究室:9 号館 3 階 303)		メールアドレス (#→@)	shimada-k # takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	ガイダンス・TOEIC テストとは				
	該当到達目標	予習	教科書の前書き、シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する。			0.5 時間
	1	復習	講義内容を理解し、TOEIC テストの概要と学習法を確認する。			0.5 時間
2	講義内容	Unit 1: Shopping				
	該当到達目標	予習	Unit 1 の語彙の意味を調べる。			0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 1 の練習問題の内容を理解する。			0.5 時間
3	講義内容	Unit 2: Daily Life				
	該当到達目標	予習	Unit 2 の語彙の意味を調べる。			0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 2 の練習問題の内容を理解する。			0.5 時間
4	講義内容	Unit 3: Transportation				
	該当到達目標	予習	Unit 3 の語彙の意味を調べる。			0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 3 の練習問題の内容を理解する。			0.5 時間
5	講義内容	Unit 4: Jobs				
	該当到達目標	予習	Unit 4 の語彙の意味を調べる。			0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 4 の練習問題の内容を理解する。			0.5 時間
6	講義内容	Unit 5: Meals				
	該当到達目標	予習	Unit 5 の語彙の意味を調べる。			0.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	2,3,4,5	復習	Unit 5 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
7	講義内容	Unit 6: Communication		
	該当到達目標	予習	Unit 6 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 6 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
8	講義内容	Units 1-6 のまとめ		
	該当到達目標	予習	指定されたリスニング・リーディングの問題を解く。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.5 時間
9	講義内容	Unit 7: Fun		
	該当到達目標	予習	Unit 7 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 7 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
10	講義内容	Unit 8: Office Work		
	該当到達目標	予習	Unit 8 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 8 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
11	講義内容	Unit 9: Meeting		
	該当到達目標	予習	Unit 9 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 9 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
12	講義内容	Unit 10: Travel		
	該当到達目標	予習	Unit 10 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 10 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
13	講義内容	Unit 11: Finance		
	該当到達目標	予習	Unit 11 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 11 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
14	講義内容	Unit 12: Business		
	該当到達目標	予習	Unit 12 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 12 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
15	講義内容	Units 7-12 のまとめ		
	該当到達目標	予習	指定されたリスニング・リーディングの問題を解く。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名		ドイツ語(リテラシー)			科目ナンバリング	LAL007
英文名		German			講義形態	講義
担当教員		出雲 春明				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		初習者がドイツ語に親しみ、講義終了後も学習を持続していくための足がかりを築く。 記述よりも実際に口に出して発音することを重視し、ドイツ語でのコミュニケーションに最低限必要な文法や挨拶などの定型表現を一緒に練習していく。				
到達目標		1.ドイツ語を正確に発音し、聞き取ることができる。 2.初級文法を用いて基本的な会話を行い、読み書きすることができる。				
評価方法		授業への参加とその態度(20%)、小テスト・期末テスト(80%)で評価する。				
使用教材		羽根田知子・熊谷知実『ネコと学ぶドイツ語』、三修社(¥2,400)。 なお、必要に応じて別途資料を配付する。				
参考文献						
課題に対するフィードバック		授業の進行に応じて、練習問題を課し、採点して返却する。				
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス―日常のなかのドイツ語と、ドイツ語のアルファベット―				
	該当到達目標	予習	シラバスを読み講義内容を理解する。テキスト Lektion1 に目を通しておく。			1 時間
	1	復習	アルファベットの読みを声に出して練習する。			1.5 時間
2	講義内容	Lektion1 母音の発音、ドイツ語の挨拶(1)				
	該当到達目標	予習	テキスト(p.1,8)を読み、付属の CD の対応する箇所を聞いておくこと。			1 時間
	1	復習	テキストと配付した資料を用いて発音練習をしておくこと。			1.5 時間
3	講義内容	Lektion1 子音の発音(1)、ドイツ語の挨拶(2)				
	該当到達目標	予習	テキスト(p.1-2,8)を読み、付属の CD を聞いておくこと。			1 時間
	1	復習	テキストと配付した資料を用いて発音練習をしておくこと。			1.5 時間
4	講義内容	Lektion1 子音の発音(2)、ドイツ語の数字(1)				
	該当到達目標	予習	テキスト(p.2,14)を読み、付属の CD を聞いておくこと。			1 時間
	1	復習	テキストと配付した資料を用いて発音練習をしておくこと。			1.5 時間
5	講義内容	Lektion1 特殊な発音、ドイツ語の数字(2)				
	該当到達目標	予習	テキスト(p.1-2,8)の対応箇所、配付資料を読み、付属の CD を聞いておくこと。			1 時間
	1	復習	テキストと配付した資料を用いて発音練習をしておくこと。			1.5 時間
6	講義内容	Lektion2 一般動詞の特徴とその人称変化(1)、ドイツ語の時刻表現				
	該当到達目標	予習	テキスト(p.4-5,14)を読み、付属の CD を聞いておくこと。			1 時間
	1,2	復習	テキスト(p.4)を用いて人称変化の練習をしておくこと。			1.5 時間
7	講義内容	Lektion2 ドイツ語の一般動詞の特徴とその人称変化(2)				
	該当到達目標	予習	テキスト(p.5-6)を読み、付属の CD を聞いておくこと。			1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	テキストに出てくる動詞を用いて人称変化の練習をしておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	Lektion2 ドイツ語の平叙文、疑問文、否定文、命令文(1)		
	該当到達目標	予習	テキスト(p.4-6)を読み、付属の CD を聞いておくこと。	1 時間
	1,2	復習	テキストに出てくる語句を用いて、ドイツ語での作文を練習しておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	Lektion2 ドイツ語の平叙文、疑問文、否定文、命令文(2)、ドイツ語での自己紹介		
	該当到達目標	予習	テキスト(p.7)を読み、付属の CD を聞いておくこと。	1 時間
	1,2	復習	作文の練習だけでなく、CD の音声を参照しながら、正しい発音か確認しておく。	1.5 時間
10	講義内容	Lektion3 sein 動詞の特徴とその人称変化(1)		
	該当到達目標	予習	テキスト(p.9-10,12)を読み、付属の CD を聞いておくこと。	1 時間
	1,2	復習	sein 動詞の変化を確認しておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	Lektion3 sein 動詞の特徴とその人称変化(2)		
	該当到達目標	予習	テキスト(p.9,13)を読み、付属の CD を聞いておくこと。	1 時間
	1,2	復習	sein 動詞の使い方をテキストの語句を用いて練習しておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	Lektion3 haben の特徴とその人称変化(1)		
	該当到達目標	予習	テキスト(p.9,11)を読み、付属の CD を聞いておくこと。	1 時間
	1,2	復習	haben の変化を確認、練習しておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	Lektion3 haben の特徴とその人称変化(2)		
	該当到達目標	予習	テキスト(p.9,13)を読み、付属の CD を聞いておくこと。	1 時間
	1,2	復習	haben の使い方をテキストの語句を用いて練習しておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	Lektion4 ドイツ語の名詞には性別がある(1)		
	該当到達目標	予習	テキスト(p.15-16)を読み、付属の CD を聞いておくこと。	1 時間
	1,2	復習	ドイツ語の名詞には男性、女性、中性名詞の区別があることを理解すること。	1.5 時間
15	講義内容	Lektion4 ドイツ語の名詞には性別がある(2)		
	該当到達目標	予習	テキスト(p.16-17)を読み、付属の CD を聞いておくこと。	1 時間
	1,2	復習	それぞれの名詞の性別について確認しておく。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名		フランス語(リテラシー)			科目ナンバリング	LAL008
英文名		French			講義形態	講義
担当教員		ロワイエ・アンヌ＝ソフィー				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力			応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要(テーマ・内容)		フランス語に興味を持ってもらう。教科書の内容を中心に進める。コミュニケーションを目的にした授業のため、フランス語を用いた会話を随時取り入れる。				
到達目標		1.フランス語で簡単な会話ができる 2.フランス語検定 5 級相当の文法を理解する				
評価方法		テキスト内のテストにて文法理解度を確認 50%、授業内の発言・ロールプレイ等 50%				
使用教材		「フランス語をひとつひとつわかりやすく。―超基礎からの個人授業」 学研教育出版 ISBN978-4-05-303813-5				
参考文献						
課題に対するフィードバック		授業内で取り組んだテストをチェックして返却する。				
オフィスアワー(研究室)		質問等は、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	主語になる代名詞 / être の使い方①				
	該当到達目標	予習	第 1 回で取り組む単元を CD で聞いておく。			0.5 時間
	1,2	復習	第 1 回で取り組んだ単元を再確認しておく。			0.5 時間
2	講義内容	être の使い方② / -er で終わる動詞①				
	該当到達目標	予習	第 2 回で取り組む単元を CD で聞いておく。			0.5 時間
	1,2	復習	第 2 回で取り組んだ単元を再確認しておく。			0.5 時間
3	講義内容	-er で終わる動詞② / avoir の使い方				
	該当到達目標	予習	第 3 回で取り組む単元を CD で聞いておく。			0.5 時間
	1,2	復習	第 3 回で取り組んだ単元を再確認しておく。			0.5 時間
4	講義内容	男性名詞と女性名詞 / 名詞の複数形				
	該当到達目標	予習	第 4 回で取り組む単元を CD で聞いておく。			0.5 時間
	1,2	復習	第 4 回で取り組んだ単元を再確認しておく。			0.5 時間
5	講義内容	The や this にあたる語 / 数えられない名詞				
	該当到達目標	予習	第 5 回で取り組む単元を CD で聞いておく。			0.5 時間
	1,2	復習	第 5 回で取り組んだ単元を再確認しておく。			0.5 時間
6	講義内容	「私の」「彼の」など / 形容詞の使い方				
	該当到達目標	予習	第 6 回で取り組む単元を CD で聞いておく。			0.5 時間
	1,2	復習	第 6 回で取り組んだ単元を再確認しておく。			0.5 時間
7	講義内容	否定文の作り方① / 否定文の作り方②				
	該当到達目標	予習	第 7 回で取り組む単元を CD で聞いておく。			0.5 時間
	1,2	復習	第 7 回で取り組んだ単元を再確認しておく。			0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

8	講義内容	疑問文の作り方① / 疑問文の作り方②		
	該当到達目標	予習	第8回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第8回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
9	講義内容	aller/venir の使い方 / -ir で終わる動詞		
	該当到達目標	予習	第9回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第9回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
10	講義内容	Faire の使い方 / 「いつ？」とたずねる文		
	該当到達目標	予習	第10回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第10回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
11	講義内容	「どこ？」とたずねる文 / 「なぜ？」とたずねる文		
	該当到達目標	予習	第11回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第11回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
12	講義内容	「どのように？」とたずねる文 / 値段や数をたずねる文		
	該当到達目標	予習	第12回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第12回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
13	講義内容	「どの？」「どんな？」とたずねる文 / 「何歳？」とたずねる文		
	該当到達目標	予習	第13回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第13回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
14	講義内容	「何時？」とたずねる文 / 「何？」「だれ？」とたずねる文		
	該当到達目標	予習	第14回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第14回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
15	講義内容	前置詞の使い方 / 「～しなさい」		
	該当到達目標	予習	第15回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第15回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名	ポルトガル語(リテラシー)				科目ナンバリング	LAL009
英文名	Portuguese				講義形態	講義
担当教員	伊勢島 セリア明美					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位			
種別						
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力			応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	ポルトガル語の基礎文法を習得することを目標とします。 又、ポルトガル語圏文化を紹介したいと思います。 テキストに沿って、文法事項を確認しながら、練習問題に答えて頂きます。 授業の後半は応用会話の練習及びリスニングを行います。					
到達目標	1.初歩レベルの日常会話 2.多文化に触れる					
評価方法	計 3 回のミニ会話の発表で 100%評価。 評価 60%以上を合格とします。					
使用教材	Vamos falar português! Edição Revisada・重松由美著・朝日出版社・2020 年改訂版・2,300 円＋税					
参考文献						
課題に対するフィードバック	応用会話の内容を確認し、必要に応じて補足の説明を行います。					
オフィスアワー (研究室)	授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。		メールアドレス	連絡手段は初回授業時に提示します。		
1	講義内容	ガイダンス、アルファベット、発音、基本挨拶の表現				
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する。			1.5 時間
	1	復習	文字と発音を確認する。数詞 0～10 を覚える。			1.5 時間
2	講義内容	飲み物・食べ物の注文				
	該当到達目標	予習	冠詞を覚える。数詞 11～30 を確認する。「飲み物・食べ物」を確認する。			1.5 時間
	1,2	復習	アイテムを指しながら質問が出来るようにする。「授業で使う表現」を覚える。			1.5 時間
3	講義内容	自己紹介				
	該当到達目標	予習	動詞 ser の活用形を覚える。「学校に関する言葉」を確認する。			1.5 時間
	1	復習	挨拶と自己紹介ができるようにする。「国籍」、「言語」を確認する。			1.5 時間
4	講義内容	相手の出身地・電話番号等を尋ねる				
	該当到達目標	予習	指示形容詞・指示代名詞を覚える。「国名」を確認する。			1.5 時間
	1	復習	疑問文と否定文の構文を確認する。「服と身の回り品」を確認する。			1.5 時間
5	講義内容	家族の紹介				
	該当到達目標	予習	所有形容詞を覚える。「家族」を覚える。			1.5 時間
	1,2	復習	家族の紹介ができるようにする。「職業」を確認する。			1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

6	講義内容	人・物を褒める		
	該当到達目標	予習	形容詞の変化形及び「形容詞」を覚える。	1.5 時間
	1	復習	持ち物についてコメントができるようにする。「性格・特徴」を覚える。	1.5 時間
7	講義内容	好きなものを伝える		
	該当到達目標	予習	直接法現在の活用形及び基本前置詞を覚える。巻末の「動詞」を確認する。	1.5 時間
	1	復習	相手の好みを聞けるようにする。「色」を覚える。	1.5 時間
8	講義内容	予定を伝える		
	該当到達目標	予習	不規則動詞 ir 及び fazer の活用形を覚える。「時を表す表現①」を確認する。	1.5 時間
	1	復習	疑問詞疑問文で相手の予定が聞けるようにする。「頻度を表す表現」を覚える。	1.5 時間
9	講義内容	許可や依頼の表現		
	該当到達目標	予習	不規則動詞 poder の活用形を覚える。数詞 31～100 を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	依頼・誘い・許可を求める文が言えるようにする。「建物と店」を確認する。	1.5 時間
10	講義内容	「～が欲しい」、「～がしたい」と願望や要求を伝える		
	該当到達目標	予習	不規則動詞 querer の活用形を覚える。「時を表す表現②」を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	日付と曜日の表現ができるようにする。「月」及び「曜日」を覚える。	1.5 時間
11	講義内容	今おこなっていることを伝える		
	該当到達目標	予習	不規則動詞 estar の活用形を覚える。「体調・気分を表す形容詞」を確認する。	1.5 時間
	1	復習	場所の説明ができるようにする。「場所を表す表現」を確認する。	1.5 時間
12	講義内容	過去の行動を伝える		
	該当到達目標	予習	直接法完全過去の活用形を覚える。「時を表す表現③」を覚える。	1.5 時間
	1	復習	時間の表現ができるようにする。「時間の表現」を覚える。	1.5 時間
13	講義内容	理由や原因を尋ねる		
	該当到達目標	予習	よく使う完全過去不規則動詞の活用形を覚える。	1.5 時間
	1,2	復習	不定語・否定語を使った文が言えるようにする。「接続詞」を覚える。	1.5 時間
14	講義内容	過去の習慣を言える		
	該当到達目標	予習	直接法不完全過去の活用形を覚える。「時を表す表現④」を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	過去から続いている動作が言えるようにする。「時を表す表現⑤」を覚える。	1.5 時間
15	講義内容	比較の表現		
	該当到達目標	予習	「副詞」を覚える。数詞 101～10000 を確認する。	1.5 時間
	1	復習	巻末の文法補足を確認する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	中国語(リテラシー)			科目ナンバリング	LAL010
英文名	Chinese			講義形態	講義
担当教員	渡邊 賢				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な語彙と構文とを身に付け、簡単なコミュニケーションができる語学力の養成を目指す。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。授業は全 15 回を通じて、音声および表記の反復学習を徹底する形で展開し、中国語基礎学力の定着を目指す。失敗を恐れず、積極的に楽しく学んでほしい。外国語学習には習慣性のある程度の忍耐が必要である。学生諸君には外国語の学習を通じて、習慣的学習や知的忍耐力を身に着けられたい。				
到達目標	1.中国の地理、風俗および言語とその多様性を理解する。 2.中国語音を表記する音声記号を習得する。 3.中国語音を表記する音声記号を正確に発音する能力を育成する。 4.中国語音を聞いて、弁別する聴力を育成する。 5.日常会話に不自由しない程度の語彙と語法とを習得する。				
評価方法	毎回の小試験 20%、発音中間試験 30%、学期末筆記試験 50%により評価する。 総合評価 60%以上を合格とみなす。				
使用教材	教科書『大学一年生のための合格中国語』小幡敏行著(朝日出版社) ISBN97-4-255-45224-1C1087				
参考文献					
課題に対するフィードバック	毎回の小試験は採点の上、返却する。各自、未熟な点をよく自覚し克服されたい。				
オフィスアワー (研究室)	授業開始前もしくは授業終了後に応じる。		メールアドレス	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス			
	該当到達目標	予習	シラバス内容、教科書第 8 頁「中国語について」を読み、講義目標や中国語の特性などについて理解する。		1 時間
	1	復習	不要		0 時間
2	講義内容	発音の基礎Ⅰ:ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。			
	該当到達目標	予習	不要		0 時間
	2,3,4	復習	業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。		1 時間
3	講義内容	発音の基礎Ⅱ:複合母音、「声(子音)」の唇音・舌先音・舌根音などを学習する。			
	該当到達目標	予習	不要		0 時間
	2,3,4	復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。		1 時間
4	講義内容	発音の基礎Ⅲ:鼻母音、「声(子音)」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。			
	該当到達目標	予習	不要		0 時間
	2,3,4	復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。		1 時間
5	講義内容	教科書第 1 課、名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習。			
	該当到達目標	予習	教科書第 1 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。		0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
6	講義内容	教科書第2課、指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第2課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
7	講義内容	教科書第3課、形容詞述語文や数量表現などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第3課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
8	講義内容	教科書第4課、存在文や構造助詞「的」などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第4課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
9	講義内容	教科書第5課、介詞構造や方位詞などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第5課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
10	講義内容	教科書第6課、連動文や能願動詞などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第7課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
11	講義内容	教科書第7課、数量補語や動態助詞の「了」と語気詞の「了」などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第7課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
12	講義内容	教科書第8課、動態助詞「過」や程度補語などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第8課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
13	講義内容	教科書第9課、能願動詞「会」「能」「可以」などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第9課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
14	講義内容	教科書第10課、方向補語や結果補語などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第10課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
15	講義内容	教科書第11課、主述述語文や比較表現などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第11課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				26 時間
備考	復習は机に向かうには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10分程度で構わぬので、必ず毎日、口や舌を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。毎回の積み重ねが肝要。後刻、自力でマスターしようとしてもほとんど不可能と心得よ。記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名		ハングル語(リテラシー)			科目ナンバリング	LAL011
英文名		Korean			講義形態	講義
担当教員		徐 明煥				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要(テーマ・内容)		はじめて韓国語をまなぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものについて覚える。ハングルの文字と単語の書き方、読み方から発音練習や会話表現の練習を行う。また、小テストを行うため、必ず予習・復習を行うこと。				
到達目標		1.韓国語の文字であるハングルの正確な読み書きができる。 2.基本文型を身に付けさせて簡単な日常会話ができる。 3.基本的な韓国語の 4 技能の「聞く」「話す」「読む」「書く」能力を向上させる。 4.初級レベルの韓国語運用能力を身につける。				
評価方法		出席 10%、宿題 20%、小テスト 20%、定期試験 50%				
使用教材		李淑炫(2011)『チェミナ韓国語―自然に身につく会話と文法 韓国語初級テキスト』白帝社 ISBN-13:978-4891748593				
参考文献						
課題に対するフィードバック		宿題にはコメントを付けて返却する。小テストを毎回返却し解説する。				
オフィスアワー(研究室)		質問等がある場合は授業の前後に応じる。もしくはメールで連絡すること。		メールアドレス(#→@)	intgvseo21jp#gmail.com	
1	講義内容	授業概要、ハングルについて、第 1 課:母音				
	該当到達目標	予習	テキストを用意し、12 頁～14 頁を読んでくる。韓国語のノートを用意する。			1.5 時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。			1.5 時間
2	講義内容	第 2 課:子音(平音と有声音)				
	該当到達目標	予習	22 頁～25 頁を読んでくる。			1.5 時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。			1.5 時間
3	講義内容	第 2 課:子音(激音と濃音)				
	該当到達目標	予習	26 頁～31 頁を読んでくる。			1.5 時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。			1.5 時間
4	講義内容	第 3 課:パッチム、パッチム 7 つの代表音				
	該当到達目標	予習	32 頁～37 頁を読んでくる。			1.5 時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。			1.5 時間
5	講義内容	第 4 課:二重母音、名前を書く、まとめ				
	該当到達目標	予習	38 頁～43 頁を読んでくる。			1.5 時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。			1.5 時間
6	講義内容	第 5 課:発音の変化、発音の基本、パッチム音の変化				
	該当到達目標	予習	46 頁～54 頁を読んでくる。			1.5 時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。			1.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

7	講義内容	第 6 課:主題を表す助詞「～は」、体言について、指定詞の丁寧な表現 I		
	該当到達目標	予習	56 頁～63 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	第 7 課:指示代名詞(これ・それ・あれ)、「～ではありません」		
	該当到達目標	予習	64 頁～71 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	第 8 課:主語を表す助詞「～が」、「～と」、「いる/ある、ない/いない」について、まとめ		
	該当到達目標	予習	72 頁～81 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	第 9 課:場所や位置を表す表現、数詞 I		
	該当到達目標	予習	82 頁～91 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	第 10 課:用言の丁寧形 I (改まった表現)、用言の否定形		
	該当到達目標	予習	92 頁～97 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	第 10 課:羅列の表現、場所を表す助詞、目的格を表す助詞、まとめ		
	該当到達目標	予習	97 頁～101 頁を読んでくる。まとめ	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	第 6 課～10 課、総合まとめ		
	該当到達目標	予習	第 6 課から第 10 課まで読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	今まで勉強した内容をもう一度、確認して理解しておく。	1.5 時間
14	講義内容	第 11 課:指定詞(丁寧な表現 II)逆接を表す表現数詞 II や時間の言い方		
	該当到達目標	予習	102 頁～105 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	第 11 課:数詞 II や時間の言い方		
	該当到達目標	予習	106 頁～111 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	数詞 I と数詞 II の使い分けや読み方を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	次回の授業時まで予習・復習を必ずすること。CD を活用し、テキストの読みを練習すること。 メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハングル語:名前」を必ず記入すること。			

科目名		コンピュータ入門 I (リテラシー)			科目 ナンバリング	LAL012
英文名		Introduction to Computer I			講義形態	講義
担当教員		田村 拓郎				
科目に関連した 実務経験						
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位		
種別						
学位授与方針 との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		コンピュータが扱う数、コンピュータでのデータ表現、計算の基本となる論理演算や論理回路などを学ぶことを通じて、コンピュータの動作の本質・背景を理解することができる。 授業では、自作教材にそって板書を中心に説明を行った後、その内容の課題を課す。				
到達目標		1.コンピュータで扱う数などのデータ表現の基礎を理解できる。 2.コンピュータの基本構造、動作原理を理解できる。 3.目的に応じて、情報の収集、処理、発信するための基礎知識を得る。				
評価方法		課題の提出状況(40%)、筆記試験(60%)を総合的に評価する。				
使用教材		自作教材				
参考文献						
課題に対する フィードバック		次回講義の最初に解説を行う。				
オフィスアワー (研究室)		月曜日 4,5 限		メールアドレス (#→@)	tamura-t#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	講義全体のガイダンス				
	該当到達目標	予習				0 時間
		復習	講義内容・到達目標・学位授与方針・成績評価方法などを理解する。			0.5 時間
2	講義内容	コンピュータシステムの基本構成、コンピュータの処理				
	該当到達目標 2,3	予習	事前に指定した事項について調べままとめておく。			0.5 時間
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。			2 時間
3	講義内容	情報処理の手順、フローチャート				
	該当到達目標 2,3	予習	事前に指定した事項について調べままとめておく。			0.5 時間
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。			2 時間
4	講義内容	コンピュータが扱うデータ				
	該当到達目標 1,2	予習	事前に指定した事項について調べままとめておく。			0.5 時間
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。			2 時間
5	講義内容	数の表現 2 進数				
	該当到達目標 1	予習	事前に指定した事項について調べままとめておく。			0.5 時間
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。			2 時間
6	講義内容	数の表現 8 進数、16 進数				
	該当到達目標 1	予習	事前に指定した事項について調べままとめておく。			0.5 時間
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。			2 時間
7	講義内容	小数の表現				
	該当到達目標 1	予習	事前に指定した事項について調べままとめておく。			0.5 時間
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。			2 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

8	講義内容	基数変換			
	該当到達目標 1	予習	事前に指定した事項について調べまとめておく。	0.5 時間	
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。	2 時間	
9	講義内容	四則演算			
	該当到達目標 1	予習	事前に指定した事項について調べまとめておく。	0.5 時間	
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。	2 時間	
10	講義内容	論理演算 AND、OR、NOT			
	該当到達目標 2	予習	事前に指定した事項について調べまとめておく。	0.5 時間	
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。	2 時間	
11	講義内容	論理演算 EOR、NAND、NOR			
	該当到達目標 2	予習	事前に指定した事項について調べまとめておく。	0.5 時間	
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。	2 時間	
12	講義内容	論理回路			
	該当到達目標 2	予習	事前に指定した事項について調べまとめておく。	0.5 時間	
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。	2 時間	
13	講義内容	加算回路			
	該当到達目標 2	予習	事前に指定した事項について調べまとめておく。	0.5 時間	
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。	2 時間	
14	講義内容	データと命令			
	該当到達目標 2,3	予習	事前に指定した事項について調べまとめておく。	0.5 時間	
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。	2 時間	
15	講義内容	講義のまとめ			
	該当到達目標 1,2,3	予習	これまでに学んだことを復習しておくこと。	0.5 時間	
		復習	これまでに学んだことを復習しておくこと。	4 時間	
合計時間(予習・復習)					39.5 時間
備考	予習復習については、試験前の学習で補完すること。				

科目名		コンピュータ入門Ⅱ(リテラシー)			科目 ナンバリング	LAL013
英文名		Introduction to ComputerⅡ			講義形態	講義
担当教員		田村 拓郎				
科目に関連した 実務経験						
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針 との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		コンピュータとその周辺を理解するために、コンピュータのハードウェアおよび各種の情報関連機器などに関して、基本的な知識を身につけることを目標とする。 授業では、自作教材にそって板書を中心に説明を行った後、その内容の課題を課す。				
到達目標		1.コンピュータおよびその周辺機器の基本構造、動作原理を理解できる。 2.目的に応じて、情報の収集、処理、発信するために必要なものの基礎知識を得る。 3.システム開発に関する基本的な知識を得る。				
評価方法		課題の提出状況(60%)、試験(40%)を総合的に評価する。				
使用教材		自作教材				
参考文献						
課題に対する フィードバック		次回講義の最初に解説を行う。				
オフィスアワー (研究室)		月曜日 4,5 限		メールアドレス (#→@)	tamura-t#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	講義全体のガイダンス				
	該当到達目標	予習				0 時間
		復習	講義内容・到達目標・学位授与方針・成績評価方法などを理解する。			0.5 時間
2	講義内容	コンピュータの仕組み				
	該当到達目標 1,2	予習	事前に指定した事項について調べままとめておく。			0.5 時間
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。			2 時間
3	講義内容	CPU の仕組み				
	該当到達目標 1,2	予習	事前に指定した事項について調べままとめておく。			0.5 時間
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。			2 時間
4	講義内容	記憶媒体の種類と用途				
	該当到達目標 1,2	予習	事前に指定した事項について調べままとめておく。			0.5 時間
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。			2 時間
5	講義内容	メモリの仕組み				
	該当到達目標 1,2	予習	事前に指定した事項について調べままとめておく。			0.5 時間
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。			2 時間
6	講義内容	ハードディスクの仕組み				
	該当到達目標 1,2	予習	事前に指定した事項について調べままとめておく。			0.5 時間
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。			2 時間
7	講義内容	ディスプレイの仕組み				
	該当到達目標 1,2	予習	事前に指定した事項について調べままとめておく。			0.5 時間
		復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。			2 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

8	講義内容	画像データ、プリンタの仕組み		
	該当到達目標	予習	事前に指定した事項について調べまとめておく。	0.5 時間
	1,2	復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。	2 時間
9	講義内容	ファイルの概念		
	該当到達目標	予習	事前に指定した事項について調べまとめておく。	0.5 時間
	1	復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。	2 時間
10	講義内容	インターネットの仕組み		
	該当到達目標	予習	事前に指定した事項について調べまとめておく。	0.5 時間
	1,2	復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。	2 時間
11	講義内容	ネットワークにおけるセキュリティー		
	該当到達目標	予習	事前に指定した事項について調べまとめておく。	0.5 時間
	1,2	復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。	2 時間
12	講義内容	データと命令		
	該当到達目標	予習	事前に指定した事項について調べまとめておく。	0.5 時間
	1	復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。	2 時間
13	講義内容	システム開発技法		
	該当到達目標	予習	事前に指定した事項について調べまとめておく。	0.5 時間
	3	復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。	2 時間
14	講義内容	システム開発環境		
	該当到達目標	予習	事前に指定した事項について調べまとめておく。	0.5 時間
	3	復習	専門用語の意味を再確認し、理解しておく。	2 時間
15	講義内容	講義のまとめ		
	該当到達目標	予習	これまでに学んだことを復習しておくこと。	0.5 時間
	1,2,3	復習	これまでに学んだことを復習しておくこと。	2 時間
合計時間(予習・復習)				35.5 時間
備考	予習復習については、試験前の学習で補完すること。			

科目名	コンピュータ実習 I (リテラシー)			科目 ナンバリング	LAL014
英文名	Computer Practice I			講義形態	実習
担当教員	鈴木 亮二				
科目に関連した 実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針 との対応		豊かな人間性と幅広い教養			学際的な視点から取り組む力
	✓	基礎的知識力			応用・実践する能力
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 (テーマ・内容)	パソコンはいまや文房具であり、それを使いこなすことはこれからの社会を生き抜く基礎力である。 本実習は文書作成・表計算・プレゼンテーションの各ソフトウェアを使用する確かな基礎力を習得する。 授業では、教科書にそって説明を行った後、その内容の課題を課す。				
到達目標	1.PC を自己の目的に合わせて使用することができる。 2.文書作成ではマイクロソフトの Word を使用してレポート等の作成が、自力でできる。 3.表計算作成ではマイクロソフトの Excel を使用して、データの整理や集計、グラフ作成ができる。 4.プレゼンテーションでは PowerPoint を使用して、プレゼンテーションの作成と実施ができる。				
評価方法	課題の提出状況 (40%)、提出された課題成果物の出来栄え (50%)、発表の実施評価 (10%)を総合的に評価する。				
使用教材	30 時間アカデミック Office2010 実教出版				
参考文献					
課題に対する フィードバック	課題の出来によっては、問題点を指摘し再提出を求める。				
オフィスアワー (研究室)	月曜日 4,5 限		メールアドレス (#→@)	suzuki-r #takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション、PC ログイン方法、eメールの使い方			
	該当到達目標	予習	不要		0 時間
		復習	授業時間外 PC の利用、eメールマナー		0.5 時間
2	講義内容	Windows 操作の基本、文字の入力、Word 文書作成の基本操作・文字の修飾			
	1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。		0 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。		0.5 時間
3	講義内容	Word 書式の設定、図表の挿入、文書を用いたプレゼンテーション実施			
	2	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。		0 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。		0.5 時間
4	講義内容	Word 課題文書の作成、編集、印刷			
	2	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。		0 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。		1 時間
5	講義内容	Excel 基本操作 データ入力の基礎、基本的なワークシート編集			
	3	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。		0 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。		0.5 時間
6	講義内容	Excel 基本操作 関数、罫線、セル書式の指定			

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	0 時間
	3	復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1 時間
7	講義内容	Excel 基本操作 グラフ作成		
	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	0 時間
3		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1 時間
	講義内容	Excel 基本操作 関数(条件判定、順位づけ)		
8	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	0 時間
	3	復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1 時間
9	講義内容	Excel 基本操作 関数を利用した検索		
	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	0 時間
3		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1 時間
	講義内容	Excel 基本操作 Excel の便利な機能		
10	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	0 時間
	3	復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	0.5 時間
11	講義内容	PowerPoint スライド作成の基本操作		
	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	0 時間
4		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	0.5 時間
	講義内容	PowerPoint 図形の描画		
12	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	0 時間
	4	復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1 時間
13	講義内容	PowerPoint プレゼンテーション効果の活用、アニメーションの設定		
	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	0 時間
4		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1 時間
	講義内容	PowerPoint 課題プレゼンテーション資料作成		
14	該当到達目標	予習	発表予定の資料について準備をしておくこと	1.5 時間
	1,2,4	復習	発表資料の作成を行うこと。	3 時間
15	講義内容	PowerPoint 課題プレゼンテーション実施		
	該当到達目標	予習	発表練習をしておくこと。	0.5 時間
1,4		復習	不要	0 時間
	合計時間(予習・復習)			
備考	授業時間外に PC 室を積極的に利用すること。			

科目名		コンピュータ実習Ⅱ（リテラシー）			科目ナンバリング	LAL015
英文名		Computer PracticeⅡ			講義形態	実習
担当教員		鈴木 亮二				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	選択	1 単位	
種別						
学位授与方針との対応			豊かな人間性と幅広い教養			学際的な視点から取り組む力
		✓	基礎的知識力			応用・実践する能力
			問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 (テーマ・内容)		パソコンはいまや文房具であり、それを使いこなすことはこれからの社会を生き抜く基礎力である。本実習は文書作成・表計算・プレゼンテーションの各ソフトウェアを使用する実社会での実践力を養う。 授業では、教科書にそって説明を行った後、その内容の課題を課す。後半では発表資料の作成およびプレゼンの課題を課す。				
到達目標		1.PC を自己の目的に合わせて使用することができる。 2.実社会において、データの整理や集計、グラフ作成ができる。 3.実社会において、プレゼンテーションの作成と実施ができる。				
評価方法		課題の提出状況(40%)、提出された課題成果物の出来栄え(50%)、発表の実施評価(10%)を総合的に評価する。				
使用教材		30 時間アカデミック Office2010 実教出版				
参考文献						
課題に対するフィードバック		課題の出来によっては、問題点を指摘し再提出を求める。				
オフィスアワー (研究室)		月曜日 4,5 限		メールアドレス (#→@)	suzuki-r#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	講義全体のガイダンス				
	該当到達目標	予習	不要			0 時間
		復習	講義内容・到達目標・学位授与方針・成績評価方法などを理解する。			0.5 時間
2	講義内容	Excel データ入力				
	該当到達目標 1,2	予習	Excel の操作について復習しておく。			0 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出する。			0.5 時間
3	講義内容	Excel ユーザ定義				
	該当到達目標 1,2	予習	該当する部分の教科書を読んでおく。			0 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出する。			0.5 時間
4	講義内容	Excel テーブル				
	該当到達目標 1,2	予習	該当する部分の教科書を読んでおく。			0 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出する。			1 時間
5	講義内容	Excel グラフの応用				
	該当到達目標 1,2	予習	該当する部分の教科書を読んでおく。			0 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出する。			0.5 時間
6	講義内容	Excel 関数応用(データベース関数)				

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおく。	0 時間
	1,2	復習	講義内容に関する課題を行い提出する。	1 時間
7	講義内容	Excel	マクロ作成	
	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおく。	0 時間
	1,2	復習	講義内容に関する課題を行い提出する。	1 時間
8	講義内容	Excel	実践的表計算処理	
	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおく。	0 時間
	1,2	復習	講義内容に関する課題を行い提出する。	1 時間
9	講義内容	Excel	Word との連携、差し込み印刷	
	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおく。	0 時間
	1,2	復習	講義内容に関する課題を行い提出する。	1 時間
10	講義内容	PowerPoint	発表企画	
	該当到達目標	予習	PowerPoint の操作について復習しておく。	0.5 時間
	1,3	復習	発表課題の企画を行う。	0.5 時間
11	講義内容	PowerPoint	全体構成	
	該当到達目標	予習	企画した発表に必要な図やグラフを考えておく。	0 時間
	1,3	復習	発表資料の作成を行う。	1 時間
12	講義内容	PowerPoint	プレゼンテーション効果の活用、アニメーション設定	
	該当到達目標	予習	発表資料の図やグラフ作成を行っておく。	0 時間
	1,3	復習	アニメーションなどを加えた発表資料の作成を行う。	1 時間
13	講義内容	PowerPoint	プレゼンテーション効果の活用、アニメーションの設定	
	該当到達目標	予習	発表資料の図やグラフは完成させておく。	0 時間
	1,3	復習	プレゼンテーション効果などを加え発表資料を完成させる。	1 時間
14	講義内容	PowerPoint	発表練習、修正	
	該当到達目標	予習	発表資料を完成させておく。	0 時間
	1,3	復習	発表練習に合わせ発表資料の修正を行う。	4 時間
15	講義内容	PowerPoint	課題プレゼンテーション実施	
	該当到達目標	予習	発表練習をしておくこと。	0.5 時間
	1,3	復習	不要	0 時間
合計時間(予習・復習)				15.5 時間
備考	授業時間外に PC 室を積極的に利用すること。自宅の PC を用いて仕上げて来ても良い。			

科目名		世界の社会福祉発達史(専門教養科目)			科目ナンバリング	LSH001
英文名		History of World Welfare			講義形態	講義
担当教員		戸澤 由美恵				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		今日、様々な人が社会福祉を必要としている。社会福祉が、その国の中でどのように発展してきたのか、各国の歴史的経緯を踏まえて、現状を理解する。 各国の 1・2 回目はイメージや理解を促すために視聴覚教材を視聴する。 授業時に配布するレジュメ・資料等に沿って進める。				
到達目標		1.視聴覚教材や配布資料等を参考に、その国の歴史や文化、人々の生活のイメージがもてる 2.歴史的文化的背景を踏まえた、その国の社会福祉制度の発達を理解できる 3.各国の人々の生活と社会福祉の現状を知り、自国や自身の生活との共通点・相違点等を考えることができる				
評価方法		定期試験で 80%、提出物(ミニレポートやリアクションペーパー)等で 20%を評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
使用教材		教科書は指定しない。 授業時にレジュメ・資料等を配布する。該当する国の学習回が終わるまで資料を持参すること。				
参考文献		参考文献等は、随時紹介する				
課題に対するフィードバック		ミニレポートやリアクションペーパーへの記入を通して授業内容の理解について確認する。必要に応じて、全体への追加説明やコメント等を行う。				
オフィスアワー (研究室)		水曜 2 限 3 階 303		メールアドレス (#→@)	tozawa#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで、授業内容や講義の目標などを理解する			0.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容、到達目標、評価方法などを確認し、全体像を把握する			0.5 時間
2	講義内容	アジアの社会福祉-マレーシア① マレーシアの歴史や文化をイメージする				
	該当到達目標	予習	世界史・地理(高校)の教科書・資料やインターネットを活用し、マレーシアを知る			1.5 時間
	1	復習	配布資料や映像を元に、マレーシアの新たな側面を確認しノートを整理する			1.5 時間
3	講義内容	アジアの社会福祉-マレーシア② マレーシアの社会福祉の考え方を理解する				
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、歴史的文化的背景を理解する			1.5 時間
	1,2	復習	配布資料等を読み、マレーシアの歴史的文化的背景をふまえた福祉観を知る			1.5 時間
4	講義内容	アジアの社会福祉-マレーシア③ マレーシアの社会福祉の現状を知る				
	該当到達目標	予習	配布資料等をノートに整理し、マレーシアの福祉観を理解する			1.5 時間
	2,3	復習	マレーシアの社会福祉の現状を理解し、自分なりの意見や感想を持つ			1.5 時間
5	講義内容	西欧の社会福祉-英国① 英国の歴史や文化をイメージする				
	該当到達目標	予習	世界史・地理(高校)の教科書・資料やインターネットを活用し、英国を知る			1.5 時間
	1	復習	配布資料や映像等を元に、英国の新たな側面を確認しノートを整理する			1.5 時間
6	講義内容	西欧の社会福祉-英国② 英国の社会福祉の考え方を理解する				
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、歴史的文化的背景を理解する			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	配布資料等を読み、歴史的文化的背景をふまえた英国の福祉観を知る	1.5 時間
7	講義内容	西欧の社会福祉－英国③ 英国の社会福祉の現状を知る		
	該当到達目標	予習	配布資料をノートに整理し、英国の福祉観を理解する	1.5 時間
	2,3	復習	英国の社会福祉の現状を理解し、自分なりの意見や感想を持つ	1.5 時間
8	講義内容	前半のまとめ		
	該当到達目標	予習	マレーシア・英国のノート作成を通し、不明な点を確認しておく	1.5 時間
	1,2,3	復習	二国の特徴を理解し、自分なりの感想や意見をもつ	1.5 時間
9	講義内容	北米の社会福祉－アメリカ合衆国① アメリカ合衆国の歴史や文化をイメージする		
	該当到達目標	予習	世界史・地理(高校)の教科書・資料やインターネットを活用し、アメリカ合衆国を知る	1.5 時間
	1	復習	配布資料や映像等を元に、アメリカ合衆国の新たな側面を確認しノートを整理する	1.5 時間
10	講義内容	北米の社会福祉－アメリカ合衆国② アメリカ合衆国の福祉の考え方を理解する		
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、歴史的文化的背景を理解する	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料等を読み、歴史的文化的背景をふまえたアメリカ合衆国の福祉観を知る	1.5 時間
11	講義内容	北米の社会福祉－アメリカ合衆国③ アメリカ合衆国の社会福祉の現状を知る		
	該当到達目標	予習	配布資料等をノートに整理し、アメリカ合衆国の福祉観を理解する	1.5 時間
	2,3	復習	アメリカ合衆国の社会福祉の現状を理解し、自分なりの意見や感想を持つ	1.5 時間
12	講義内容	北欧の社会福祉－スウェーデン① スウェーデンの歴史や文化をイメージする		
	該当到達目標	予習	世界史・地理(高校)の教科書・資料やインターネットを活用し、スウェーデンを知る	1.5 時間
	1	復習	配布資料や映像等を元に、スウェーデンの新たな一面を確認しノートを整理する	1.5 時間
13	講義内容	北欧の社会福祉－スウェーデン② スウェーデンの福祉の考え方を理解する		
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、歴史的文化的背景を理解する	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料等を読み、スウェーデン・北欧の歴史的文化的背景をふまえた福祉観を知る	1.5 時間
14	講義内容	北欧の社会福祉－スウェーデン③ スウェーデンの社会福祉の現状を知る		
	該当到達目標	予習	配布資料等をノートに整理し、スウェーデンの福祉観を理解する	1.5 時間
	2,3	復習	スウェーデンの社会福祉の現状を理解し、自分なりの意見や感想を持つ	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	アメリカ合衆国・スウェーデンのノート整理を通し、不明な点を確認しておく	1.5 時間
	1,2,3	復習	二国の特徴を理解し、自分なりの感想や意見をもつ。四カ国の学びを元に、日本の社会福祉について自分なりの意見をもつ	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				44.5 時間
備考	* 各国の1・2回目はイメージや理解を促すために視聴覚教材の視聴をするので、欠席に気をつけましょう。 * 授業時に配布するレジュメ・資料等に沿って進めていきますので、該当する国の学習回が終わるまで持参しましょう。 * 予習は、日頃から新聞を読み、ニュースや映画を見るなどして海外情勢や文化などに興味を持つようにしましょう。 * 復習は、レジュメ・配布資料等をノートに保存・整理しながら、紹介された文献・映画等を視聴し、試験前に不足時間を補うようにしましょう。 * 不明な点、疑問点等がある場合は、まずはメールで連絡してください。			

科目名		国際保健医療論(専門教養科目)			科目 ナンバリング	LSH002
英文名		Theory of International Health			講義形態	講義
担当教員		李 孟蓉				
科目に関連した 実務経験		在日外国人への健康支援(経験) 青年海外協力隊として開発途上国に支援(経験)				
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針 との対応		✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		世界における健康格差の実態を知り、医療従事者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ、新たな国連の目標である SDGs を軸に、グローバルヘルスの基本理念と戦略を学び、国際保健医療の活動の場を地球的視野で認識できる。また、地球規模の健康課題やその影響要因、国際保健医療の関連分野の活動の理念と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得し、グローバル化の時代に活躍する医療職を目指すことができる。 自作の授業資料や参考文献をもとに解説を加えて講義する。講義の中でワークショップやグループワークを取り入れて、参加型、協議型の授業も行う。グループワークとレポート課題の詳細については授業を進めながら提示する。				
到達目標		1.国際保健医療学、国際保健医療協力の概念と変遷を理解できる。 2.保健医療分野での国際協力の必要性と意義を理解できる。 3.世界の保健・医療・福祉の動向と課題、それに対する国際的戦略や取り組みおよび課題を理解できる。 4.異文化を理解し、異文化適応のプロセスを理解できる。■ 5.国際保健医療協力の実際や実践手法を理解できる。■ 6.在日外国人への健康支援を理解できる。■				
評価方法		レポート課題 70%、授業参加度 30% (グループワーク、プレゼンテーション等)を総合的評価する				
使用教材		配布資料				
参考文献		①「世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団」 山本敏晴 小学館 ②「国際協力―その新しい潮流」 下村恭人 有斐閣 ③「国際保健医療学」第 3 版 国際保健医療学会編 杏林書院 ④世界の厚生労働 2019 有限会社正陽文庫 ⑤「国民衛生、2 の動向 2018/2019」 厚生労働統計協会 ⑥「世界の貧国 1 日 1 ドルで暮らす人びと」 ジェレミーシーブルック 青土社 適宜参考書を紹介する				
課題に対する フィードバック		レポートの中でみられた疑問や課題を授業の中で再確認する。				
オフィスアワー (研究室)		火曜・水曜の 2 限、質問はメールでも対応する。 研究室:3 号館 2 階 208	メールアドレス (#→@)	ri#takasaki-u.ac.jp		
1	講義内容	国際保健、国際保健医療学の定義、国際保健医療協力の概念				
	該当到達目標	予習	国際保健医療協力に関する新聞・雑誌などの記事を読む。			1.5 時間
	1,2	復習	国際保健協力の定義、世界や国内の国際協力の概念が理解できる。			1.5 時間
2	講義内容	グローバルヘルスと国際保健医療協力の歴史				
	該当到達目標	予習	世界で起きている健康問題に関する新聞・雑誌などの記事を読む。			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	世界で起きている健康問題と支援の必要性を理解できる。	1.5 時間
3	講義内容	国際保健医療関連の国際機関、NGO の取り組みと日本の国際協力		
	該当到達目標	予習	参考文献①「世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団」、②国際協力—その新しい潮流に目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	国際保健医療協力の仕組み、国際保健医療関連の国際機関や NGO 団体、ODA の活動を理解できる。	1.5 時間
4	講義内容	プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション、MDGs の経緯と変遷、SDGs の目標		
	該当到達目標	予習	参考文献③「国際保健医療学」第3版の第1部1～4、10～11までを読む。	1.5 時間
	1,3	復習	世界の歴史の中でのプライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション、MDGs の基本理念と変遷、SDGs の目標と活動を理解できる。	1.5 時間
5	講義内容	諸外国における保健・医療・福祉		
	該当到達目標	予習	参考文献④世界の厚生労働 2019 p.102-136、事前配布資料を読んでおく	1.5 時間
	3	復習	ドイツ、フィランド、オーストラリア等の諸外国における保健・医療・福祉の動向と課題を理解できる	1.5 時間
6	講義内容	世界における健康の格差①（保健指標、母子保健）		
	該当到達目標	予習	参考文献⑤「国民衛生の動向 2019/2020」を参考し、日本における衛生の主要指標、保健と医療の動向（人口動態、生命表、母子保健など）について目を通しておく。	1.5 時間
	2,3	復習	世界で生じている健康格差の実態とその原因を理解できる。	1.5 時間
7	講義内容	世界における健康の格差②（感染症と非感染性疾患）		
	該当到達目標	予習	開発途上国の健康格差について情報を集め、その原因を考える。	1.5 時間
	2,3	復習	開発途上国の保健医療課題とその原因を理解できる	1.5 時間
8	講義内容	異文化と異文化適応		
	該当到達目標	予習	身近にある異文化体験をまとめておく	1.5 時間
	4	復習	文化が人々の生活様式へ与える影響を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	国際保健医療協力と異文化理解■ 元青年海外協力隊を招き、異文化の中での国際協力活動について事例をもとに解説を加えて講義する		
	該当到達目標	予習	世界で行われてる国際保健医療協力を調べる。	1.5 時間
	2,3,4	復習	国際協力として行われている支援について、目的、実際の活動内容、異文化適応が理解できる。	1.5 時間
10	講義内容	「貧困と格差」を考えるワークショップ①■ 国際協力の経験をもとに、国づくりを行うシミュレーションゲームをワークショップという形で取り入れて、各グループが協力しあえるように指導をしながら行う		
	該当到達目標	予習	参考書⑥「世界の貧国 1日1ドルで暮らす人びと」に目を通す	1.5 時間
	2,3,5	復習	世界の不平等や格差に気付くことができ、国の豊かさについて考えることができる。	1.5 時間
11	講義内容	「持続可能な開発目標の達成に向けて」を考えるワークショップ②■ SDGs の目標にて世界の課題、日本ができること、自分にできることを考えるワークショップという形で取り入れて、各グループが円滑にディスカッションを進めるように指導をしながら行う		
	該当到達目標	予習	第4回目の授業内容を再度確認しておく	1.5 時間
	2,3,5	復習	SDGs の目標を理解し、自分たちが取り組めることを考え、実践につなげることができる。	1.5 時間
12	講義内容	在日外国人の健康支援■ 在日外国人の背景や特性、健康問題、医療機関へのアクセス等について、事例をもとに解説を加えて講義する。		
	該当到達目標	予習	日本、群馬県内の在日外国人（人口、国籍、在留資格、居住地域、生活など）について調べ、体験、新聞等の媒体から実情に関心を持ち把握しておく。	1.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	4,6	復習	在日外国人が抱えている健康問題と支援が理解できる。	1.5 時間
13	講義内容	グローバルヘルス グループワーク①		
	該当到達目標	予習	世界で行われている国際協力を調べる。(ODA)	1.5 時間
	2,3,5	復習	国際保健医療協力における ODA の活動を理解できる	1.5 時間
14	講義内容	グローバルヘルス グループワーク②		
	該当到達目標	予習	世界で行われている国際協力を調べる。(NGO)	1.5 時間
	2,3,5	復習	国際保健医療協力における NGO の活動を理解できる	1.5 時間
15	講義内容	プレゼンテーション、まとめ		
	該当到達目標	予習	1～14 回目の授業資料に目を通す	1.5 時間
	2,3,4,5	復習	地球規模の健康課題や国際協力に必要な知識、方法が理解できる	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	世界の歴史と日本(専門教養科目)				科目ナンバリング	LSH003
英文名	The World History and Japan				講義形態	講義
担当教員	山本 麻子					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位			
種別						
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力			応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	多様化し複雑になっている現代社会において現代社会において就労し、よりよい人間関係を築いていくためには、異なる価値観の存在を認識し異文化への理解を深めることは重要だ。本講座では、イギリスの場合を一つのケーススタディとし、特定のテーマについてどのような背景・要因があり、どのような過程をたどり、どのような結果に至り、どのように現代に影響しているかを考察する。 長年在住したイギリスでの公的・私的な経験を参考に、テーマに即して、事例を紹介する。イギリス以外の国々にも言及しつつ、日本の諸側面と比較する。					
到達目標	1. テーマについての知識を深め、理解を深めることができる。 2. 先人たちの努力や業績を認識することができる。 3. 日本の該当する箇所と比較考察することができる。 4. 毎回の授業を通して、物事を多角的に考え、日常生活に応用することのできる能力を発揮させられる。					
評価方法	レポートが 50%、予習復習、授業中の態度等から 50%					
使用教材	決まった教材は使用しないが、必要に応じて、資料を配布する。また、参考資料を提示する。					
参考文献	同上					
課題に対するフィードバック	課題も含め、質問等にはできる限りフィードバックを与える。					
オフィスアワー (研究室)	質問および学習相談には授業開始前、もしくは終了後に応じる		メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する	
1	講義内容	ガイダンス・授業の進め方についてのイントロ「歴史とは何か」について				
	該当到達目標	予習	講座選択の理由、歴史とは何か、について考えてくる			1 時間
	1,2,3	復習	授業で扱った例について質問、コメントを考えてくる			1 時間
2	講義内容	イギリスの最近の話題から				
	該当到達目標	予習	前回の授業で出された課題についてコメント等を考えてくる			1 時間
	1,2,3,4	復習	授業で使用した資料を復習する			1 時間
3	講義内容	イギリスの教育 1: 多文化環境での学校; 実践例				
	該当到達目標	予習	前回の授業で出された課題について考えてくる			1 時間
	1,2,3,4	復習	授業で使用した資料を復習し、コメント等を考える			1 時間
4	講義内容	イギリスの教育 2: 学習の方法、内容等での日英の比較を含める				
	該当到達目標	予習	全体の授業で出された課題について考えてくる			1 時間
	1,2,3,4	復習	授業で使用した資料を復習する			1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

5	講義内容	産業革命 1: 背景と経過			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	前回の授業で出された課題について考えてくる	1 時間	
		復習	授業で使用した資料を復習し、コメントを考える	1 時間	
6	講義内容	産業革命 2: 影響と問題			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	前回の授業で出された課題について考えてくる	1 時間	
		復習	授業で使用した資料を復習し、コメントを考える	1 時間	
7	講義内容	女性の地位 1: 婦人参政権運動の背景と経過			
	該当到達目標 1,2,4	予習	前回の授業で出された課題について考えてくる	1 時間	
		復習	授業で使用した資料を復習する	1 時間	
8	講義内容	女性の地位 2: 経過の続きと結果等々			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	前回の授業で出された課題について考える	1 時間	
		復習	授業で使用した資料を復習する	1 時間	
9	講義内容	英語の歴史 1: 英語の歴史は英国の歴史(前半)			
	該当到達目標 1,2,4	予習	前回の授業で出された課題について考える	1 時間	
		復習	授業で使用した資料を復習し、コメントを考える	1 時間	
10	講義内容	英語の歴史 2: 英語の歴史は英国の歴史(後半)			
	該当到達目標 1,2,4	予習	前回の授業で出された課題について考える	1 時間	
		復習	授業で使用した資料を復習する	1 時間	
11	講義内容	シェイクスピアの時代の前後 1: スペインの無敵艦隊(背景)			
	該当到達目標 1,2,4	予習	前回の授業で出された課題について考えてくる	1 時間	
		復習	授業で使用した資料を復習し、コメントを考える	1 時間	
12	講義内容	シェイクスピアの時代の前後 2: シェイクスピアについて、背景、グローブ座等々			
	該当到達目標 1,4	予習	前回の授業で出された課題について考えてくる	1 時間	
		復習	授業で使用した資料を復習し、コメントがあれば書く	1 時間	
13	講義内容	これまでの復習等、レポートの書き方等			
	該当到達目標 1,2,4	予習	前回の授業で出された課題について書いてくる	1 時間	
		復習	レポートの題材、構成を推敲する	1 時間	
14	講義内容	マグナカルタ等について: 意義と背景、影響			
	該当到達目標 1,2,4	予習	前回の授業で出された課題について考える	1 時間	
		復習	授業で使用した資料を復習する	1 時間	
15	講義内容	まとめ			
	該当到達目標 2,3,4	予習	前回の授業で出された課題について考える	1 時間	
		復習	資料等を参考にこれまでの内容を概観する	1 時間	
合計時間(予習・復習)					30 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。				

科目名	人間行動学(専門教養科目)			科目ナンバリング	LSH004
英文名	Behavioral Science			講義形態	講義
担当教員	上原 徹・服部 卓				
科目に関連した実務経験	【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験 30 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている。 【服部】臨床心理士として大学病院等で勤務経験は約 30 年、現在に至る。				
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	学生が行動科学の基礎と応用を学ぶことで、臨床や対人支援の場面におけるクライアントの行動や、支援者である自らの行動との相互作用を理解することを講義目標とする。 授業は配布資料も使って要点をまとめ、一部 DVD を視聴しつつ進める。 前半を服部、後半を上原担当				
到達目標	1.医療などの対人支援における基本的姿勢を身につける 2.ケアを受ける人の心理や行動を理解できる 3.適切な対人的交流のための知識と技術が説明できる 4.他職種と機能的に連携する視点を持てる■ 5.行動科学や心理学の初級知識を解説できる				
評価方法	レポートを 90%とし、授業中の態度を 10%程度参考にして総合評価する。授業態度(静肅さ、不要な私語、真摯な姿勢など)に問題がある場合は、個別に減点する。				
使用教材	福村出版「行動科学への招待〔改訂版〕現代心理学のアプローチ」を教科書として用いるので必携。DVD 教材を用いた授業も加える。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	レポートについては、事前に課題内容を告知し、記載方法や出題意図、基準をフィードバックする。				
オフィスアワー (研究室)	月 4、金 3 研究室:1 号館 5 階 501		メールアドレス (#→@)	授業で提示する	
1	講義内容	青年期の心理と性格			
	該当到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。		0.5 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。		2.5 時間
2	講義内容	対人行動			
	該当到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。		1 時間
	1,2	復習	ノートを読むこと。		2 時間
3	講義内容	集団■			
	該当到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。		1 時間
	2,3,4	復習	ノートを読むこと。		2 時間
4	講義内容	異文化と自己			
	該当到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。		1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。		2 時間
5	講義内容	ヒューマンファクター ― 労働の心理学 ―			
	該当到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。		1 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	1,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
6	講義内容	きずなの発達		
	該当到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	2,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
7	講義内容	自己の形成と発達		
	該当到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	2,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
8	講義内容	医療における人間関係		
	該当到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートを読むこと。	2 時間
9	講義内容	健康		
	該当到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
		復習	ノートを読むこと。	2 時間
10	講義内容	学習と学習支援		
	該当到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
11	講義内容	知覚		
	該当到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
12	講義内容	記憶		
	該当到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
13	講義内容	思考		
	該当到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
14	講義内容	疲労・メンタルヘルスと現代の職場■		
	該当到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	4,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
15	講義内容	音楽と脳・まとめ■		
	該当到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	複数の学科学生が多数で聴講し、非常勤講師もお迎えするので、静粛に臨むこと。授業中の不必要な私語や不謹慎な態度は、厳に慎むこと(成績評価に影響する)。連絡先は、主任講師の上原がオリエンテーション時に案内する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	健康運動実技(専門教養科目)			科目ナンバリング	LSH005
英文名	Health Exercise Skills			講義形態	実習
担当教員	大家 千枝子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位		
種別					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	健康保持増進のための運動実践力育成と体力の向上を図る。そして生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質と能力を身につけるための入り口・一助となることを目標とする。				
到達目標	1.運動に対する欲求や運動が好きであることを感じることができる。 2.運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。 3.公正・協力・責任・参画・勇気などに対する意欲をもつことができる。 4.仲間や教員と積極的にコミュニケーションを図ることができる。 5.健康・安全を確保して、スポーツライフを継続するための工夫や仕組みを創造することができる。				
評価方法	授業ごとの取り組みの評価点 65%、課題 20%、記録(提出物・コメント)15%				
使用教材	プリントを適宜配布する。				
参考文献	参考文献を適宜紹介する。				
課題に対するフィードバック	毎回の授業後に授業記録カードの提出を求める。授業記録カードに付したコメントやスタンプは必ずチェックすること。また最終日には、授業で学んだことの整理・課題・目標到達度の確認(ルーブリックにて自己評価)を行う。課題は返却しないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。				
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス・履修者からの需要調査			
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで講義目標などを理解する。要配慮の場合は事前に申し出る。		0.5 時間
	3,4,5	復習	到達目標、学位記授与方針、成績評価方法などを確認する。		0.5 時間
2	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施			
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。		0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。		0.5 時間
3	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施			
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。		0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。		0.5 時間
4	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施			
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。		0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。		0.5 時間
5	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施			
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。		0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。		0.5 時間
6	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施			
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。		0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。		0.5 時間
7	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施			

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
8	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
9	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
		復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
10	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
11	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
12	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
13	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
14	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
15	講義内容	まとめ、授業で学んだことの整理・確認テスト(または課題)・目標到達度の確認		
	該当到達目標	予習	これまで授業で学んだこと、自身の授業態度を振り返る。	0.5 時間
		復習	目標達成度の確認。今後どのように運動・スポーツを継続できるか検討する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	【単位修得に必要な時間について】 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 【受講上の注意】 ①運動に適した服装(ジャージ、Tシャツなど)とシューズ(屋内外別)を着用すること。 (※ジーンズ・普段着での受講は不可。スマホや時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアスなどは外しておく。) ②原則として見学は認めない。配慮を必要とする学生は初回ガイダンス終了までに申し出ること。 ③貴重品は各自で管理すること。 ④授業で使用する用具は基本的に大学側で用意するが、個人所有のラケットなどがあれば持参を推奨する。 ⑤天候による施設変更がある。教務課掲示板やポータルサイトで確認すること。 ⑥フットサルコートの人混みがとれやすく、靴下やウェアに付着することがある 【履修条件】 準備・後片付けなどの授業運営は受講生の積極的な姿勢を求める。また、技術の高低や得意不得意、好き嫌い、勝ち負けにとらわれず、自分の持っている技術力をいかして、スポーツそのものを楽しむ能力や積極的に体を動かすことが求められる。 【ルール】 授業開始時には整列し、出席をとる。授業終了時には、振り返りとして授業記録カードの提出がある。次の行為は授業中にしないこと。①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホ使用。			

科目名		宗教と倫理(専門教養科目)			科目 ナンバリング	LSH006
英文名		Religion and Ethics			講義形態	講義
担当教員		出雲 春明				
科目に関連した 実務経験						
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針 との対応	✓	豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力			応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		東西の代表的な宗教・倫理思想に触れることで、世の多様な価値観への理解を養うことを目的とする。 また、それによって自己の在り方に対する客観的・批判的な視座を養う。 なるべく平易な表現を用いて講義を行う。シラバスを参考にして、講義中に取り扱う書物や人物についてあらかじめ調べておくことが望ましい。また、配付された資料を読むなど、復習は必ず行うこと。「宗教」は「非日常的なもの」として敬遠されることも多い。しかし、だからこそ、そこで語られる教えや物語は、しばしば漠然と過ごされている私たちの日常を省みる絶好の機会を提供してくれる。自分が普段どのような判断や行動をしているか常に考えつつ、講義に臨んでほしい。				
到達目標		1.講義で取り扱った諸宗教・倫理思想の基本について説明することができる。 2.そして、それを自己理解、他者理解に役立てることができる。				
評価方法		授業への参加と小レポート(30%)、期末レポート(70%)から評価する。				
使用教材		講義中に資料を配布する。				
参考文献		関根正雄(訳)『旧約聖書 ヨブ記』、岩波文庫、1971 年。 金子大栄『歎異抄』、岩波文庫、改版、1981 年。				
課題に対する フィードバック		毎回、授業終了時に意見や質問などを提出してもらう(小レポート)。質問に関しては次回授業時に解説の時間を設ける。有意義な意見に関しても紹介の時間を設ける。				
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス				
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、到達目標、評価方法などについて確認しておく。			1 時間
	1	復習	これからの講義内容の大枠について確認しておく。			1.5 時間
2	講義内容	『聖書』の思想：一神教の系譜				
	該当到達目標	予習	一神教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)それぞれの関係について調べておく。			1 時間
	1,2	復習	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、それぞれの特徴について確認しておく。			1.5 時間
3	講義内容	善人とは何か―『旧約聖書』(『ヨブ記』)より(1)「契約」について				
	該当到達目標	予習	『ヨブ記』の概略について調べておく。			1 時間
	1,2	復習	「旧約」、「新約」とは何か、「応報主義」とは何か理解する。			1.5 時間
4	講義内容	善人とは何か―『ヨブ記』より(2)生誕の災い				
	該当到達目標	予習	『ヨブ記』のプロローグを読んでおく。			1 時間
	1,2	復習	ヨブ記、ギリシア神話、仏教などにおけるペシミスティックな人間観を理解する。			1.5 時間
5	講義内容	善人とは何か―『ヨブ記』より(3)自己の在り方を省みる				

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2	予習	『ヨブ記』の登場人物の関係性について考えておく。	1 時間
		復習	自己と他者の間にある鏡像的な相互関係について理解する。	1.5 時間
6	該当到達目標 1,2	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(4)現代の事例から考える	
		予習	ヨブと彼の友人たちの議論を確認しておく。	1 時間
		復習	自己批判の欠如がもたらす事態について歴史的事件を通じて理解する。	1.5 時間
7	該当到達目標 1,2	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(5)「懺悔」ということ	
		予習	『ヨブ記』エピローグを読んでおく。	1 時間
		復習	聖書の思想における「懺悔」の位置づけについて理解する。	1.5 時間
8	該当到達目標 1,2	講義内容	旧約から新約へ:イエスの教え	
		予習	『ヨブ記』をめぐる議論について確認しておく。	1 時間
		復習	イエスの教えが登場してくる背景とその意義について理解する。	1.5 時間
9	該当到達目標 1	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(1)『歎異抄』について	
		予習	『歎異抄』とはどんな書か調べておく。	1 時間
		復習	『歎異抄』第三条の特異性について理解する。	1.5 時間
10	該当到達目標 1	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(2)罪の意識	
		予習	『歎異抄』第三条に関する様々な見解を確認しておく。	1 時間
		復習	親鸞の内面を支配していた深い罪の意識を理解する。	1.5 時間
11	該当到達目標 1,2	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(3)浄土思想の展開(1)	
		予習	親鸞の師である法然が登場してきた時代背景について調べておく。	1 時間
		復習	当時の人々の心に去来していた思いについて理解する。	1.5 時間
12	該当到達目標 1,2	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(4)浄土思想の展開(2)	
		予習	親鸞の生涯について調べておく。	1.5 時間
		復習	親鸞の罪の意識の由来について理解し、自らに引きつけて考える。	1.5 時間
13	該当到達目標 1,2	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(5)「悪人正機説」	
		予習	これまでの議論について確認しておく。	1.5 時間
		復習	『歎異抄』第三条の悪人正機説の意味を理解する。	1.5 時間
14	該当到達目標 1,2	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(6)悪の不可避性とそれゆえの無力	
		予習	親鸞における悪について自らに引きつけて考えておく。	1.5 時間
		復習	我々が気づかず捕らわれている自己中心的な考え方について理解する。	1.5 時間
15	該当到達目標 1,2	講義内容	総括—東西の宗教	
		予習	聖書の思想と浄土思想の核心部分について確認しておく。	1 時間
		復習	東西の宗教、倫理思想の共通点について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完してください。			

科目名	レクリエーション論(専門教養科目)			科目ナンバリング	LSE001
英文名	Recreation Theory			講義形態	講義
担当教員	大家 千枝子				
科目に関連した実務経験	レクリエーション・インストラクター養成講習会講師として、公認指導者養成に従事(現在)。(公益財団法人日本レクリエーション協会公認・群馬県レクリエーション協会主催、2015 年度より)				
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別	「福祉レクリエーションワーカー」指定科目				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	人びとの「心を元気にする」ための手助けができるレクリエーション支援の強み(専門性)を理解する。支援の目的とそれを達成するための方法の裏付けとなる人の心の仕組みを学ぶ。(※履修者が教員から一方的にレクリエーション支援を受ける授業ではない。) 教員による講義がベースとなるが、グループワークによるテーマに沿った共同作業も予定している。「心を元気にする」ための理論をその実践へと結び付けるため、各グループによるレクリエーション活動を用いた短時間のレクリエーション支援を行い、「集団をリードする」、「コミュニケーションを促進する」、「楽しい空間をつくる」という感覚を養う。授業ごとの意見や感想を C-learning で求めることがある。				
到達目標	1.レクリエーション支援の目的と手段について、理解し、説明できる。■ 2.レクリエーション活動の楽しさが心を元気にすることについて、理解できる。■ 3.コミュニケーションの促進がレクリエーション支援の基盤であることを理解できる。■ 4.授業の性質やグループ内での個人の役割について、理解し、行動することができる。 5.必要な資料や情報を収集し、意見をまとめ、期日を守って提出できる(C-learning も含む)。				
評価方法	グループ・ワークでの活発な議論・活動への貢献度 30%、授業での課題 35%、確認テスト 35% (※ 履修期間中、学内外のレク支援に自ら関わった場合は所定用紙提出で「課題」点に加点。)				
使用教材	「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」、公益財団法人日本レクリエーション協会、1,980 円(税込) ISBN 978-4-931180-95-6				
参考文献	「基本のアイスブレイキング・ゲーム」、公益財団法人日本レクリエーション協会、2,530 円(税込) ISBN978-4-931180-92-5 C2076				
課題に対するフィードバック	自分以外の履修者による課題や感想、評価を知ることが学生相互の刺激になるため、C-learning を使ってフィードバックする。また紙媒体の提出課題は、適宜返却を予定している。ただし最終日の確認テストは返却予定がないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。				
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス、さまざまな現場でのレク支援について理解を深める(視聴覚教材使用)■			
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。		0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。		0.5 時間
2	講義内容	レクリエーション支援の方法(アイスブレイキングのプログラムを体験する)■、グループわけ			
	該当到達目標	予習	自身がこれまで体験したレクリエーション活動について振り返る。		0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。		0.5 時間
3	講義内容	レクリエーション概論(レクリエーションの主旨と手段を理解する)■、レク支援の説明と日程抽選			
	該当到達目標	予習	テキスト第 1 章(p.9～17)を読んでおくこと。		0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。		0.5 時間
4	講義内容	楽しさと心の元気づくりの理論(楽しさをとおした心の元気づくりを理解する)			
	該当到達目標	予習	テキスト第 2 章(p.19～32)を読んでおくこと。		0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。		0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

5	講義内容	楽しさと心の元気づくりの理論(楽しさをとおした心の元気づくりを理解する)		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章(p.33～36)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
6	講義内容	レクリエーション支援の理論(コミュニケーションと信頼関係づくりの理論)		
	該当到達目標	予習	テキスト第3章(p.37～43)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
7	講義内容	レクリエーション支援の理論(良好な集団づくりの理論)		
	該当到達目標	予習	テキスト第3章(p.44～49)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
8	講義内容	レクリエーション支援の理論(自主的、主体的に楽しむ力を高める理論)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.50～55)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
9	講義内容	レクリエーション支援の方法(信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.57～65)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
10	講義内容	レクリエーション支援の方法(ホスピタリティの体験的理解 その1・その2)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.66～69)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
11	講義内容	レクリエーション支援の方法(ハードル設定の習得)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.70～82)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
12	講義内容	レクリエーション支援の方法(アレンジ方法の習得)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.70～82)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
13	講義内容	レクリエーション支援の方法(CSSプロセスの習得)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.70～82)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
14	講義内容	安全管理の方法■		
	該当到達目標	予習	これまでの自身のレク活動における安全管理について振り返る。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
15	講義内容	授業で学んだことの整理・確認テスト(または課題)・目標到達度の確認		
	該当到達目標	予習	これまでの授業を振り返る。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	確認テストについて、授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	【単位修得に必要な時間について】 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 【受講上の注意】 ①積極的に C-learning を活用する。スマホ所有やネット環境が整っていることが望ましい。(※整っていない場合は、大学 PC 室などを利用すること。)②欠席した際の配布物は早めに自ら取りに来ること。 【履修条件】 グループワークを行うため、積極的に参加する学生を求める。 【ルール】 レクリエーション論を学ぶうえで、信頼関係づくりの方法における「あたたかくもてなす意識と配慮」の観点より、次の行為は授業中にしないこと。①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホ使用、③マスクや帽子の着用(ただし事情がある場合を除く。) ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	現代社会と福祉Ⅰ（専門導入科目）			科目ナンバリング	SWI101
英文名	Contemporary Society and WelfareⅠ			講義形態	講義
担当教員	安達 正嗣				
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員ならびに主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施し調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった(経験)				
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位		
種別	「社会福祉士」、「精神保健福祉士」、「介護福祉士」、「福祉レクリエーションワーカー」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	現代社会と福祉との関係を具体的に明らかにするなかで、生活と福祉(具体的には家族、地域、社会組織、社会構造の変容などとの関連)について解説することによって、社会福祉や福祉政策について包括的かつ体系的に身につける。 毎回、前回の講義内容に関する小テストをおこない、さらに前回におこなった採点済みの小テストを返却して復習的な解説をおこなった後に、その回の講義をおこなうことを繰り返すことによって、受講生が講義内容に対する理解を深めるようにする。				
到達目標	(1)現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。 (2)現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、社会福祉に関する基本的な知識力を身につけることができる。 (3)現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、社会福祉問題の解決能力や対人間コミュニケーション能力を身につけることができる。 (4)現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、多分野との連携を考える学際的な視点から取り組む力を身につけることができる。 (5)現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、その解決を探るための応用・実践的な能力を身につけることができる。■ (6)現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、福祉専門家としての倫理性を会得して、社会福祉への貢献力を身につけることができる。				
評価方法	小テスト(毎回、講義の開始時に前回の講義内容について数問のテストをおこなう。遅刻は厳禁。)50%、学期末試験 50%、合計 100%で評価する。				
使用教材	社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』中央法規				
参考文献	講義中に、適宜指示する。				
課題に対するフィードバック	各受講生は、小テストで講義の理解度を自分自身で把握し、次回の講義時に返却された答案に関する解説を通じて、復習に役立てれば、現代社会と福祉について理解できるようになる。				
オフィスアワー (研究室)	火曜日 5 限・6 限		メールアドレス (#→@)	adachi-m#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	序章「視点と枠組み」(1～10 頁)を解説する。			
	該当到達目標	予習	教科書の序章を読んでおくこと。		1.5 時間
	1,2,6	復習	序章の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。		1.5 時間
2	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第 1 章社会の変化と福祉・第 1～2 節(12～17 頁)を解説する。			
	該当到達目標	予習	第 1 章・第 1～2 節を読んでおくこと。		1.5 時間
	2,3,6	復習	第 1 章・第 1～2 節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。		1.5 時間
3	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第 1 章社会の変化と福祉・第 3～5 節(18～30 頁)を解説する。			
	該当到達目標	予習	第 1 章・第 3～5 節を読んでおくこと。		1.5 時間
	2,3,6	復習	第 1 章・第 3～5 節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。		1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

4	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第２章福祉と福祉政策・第１～２節(32～42 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第２章・第１～２節を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,3,6	復習	第２章・第１～２節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
5	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第２章福祉と福祉政策・第３～４節(43～54 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第２章・第３～４節を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,3,6	復習	第２章・第３～４節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第３章福祉の思想と哲学・第１～２節(55～70 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第３章・第１～２節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,4,6	復習	第３章・第１～２節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第３章福祉の思想と哲学・第３節(71～76 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第３章・第３節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,4,6	復習	第３章・第３節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第４章社会政策と福祉政策・第１～３節(77～96 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第４章・第１～３節を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,3,4,6	復習	第４章・第１～３節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第５章福祉政策の発展過程・第１～２節(97～120 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第５章・第１～２節を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	第５章・第１～２節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第６章少子高齢化時代の福祉政策・第１節(121～128 頁)を解説する。実務経験で得た高齢者に関する調査結果を提示する。■		
	該当到達目標	予習	第６章・第１節を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	第６章・第１節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第６章少子高齢化時代の福祉政策・第２節(129～156 頁)を解説する。実務経験で得た高齢者に関する調査結果を提示する。■		
	該当到達目標	予習	第６章・第２節を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	第６章・第２節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第７章福祉政策における必要と資源・第１～２節(157～170 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第７章・第１～２節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第７章・第１～２節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第７章福祉政策における必要と資源・第３～４節(171～178 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第７章・第３～４節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第７章・第３～４節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第８章福祉政策の理念・主体・手法・第１～３節(179～202 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第８章・第１～３節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第８章・第１～３節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。前期講義全体を整理してまとめて解説する。		
	該当到達目標	予習	教科書とノートを読み直して、全講義の理解の確認をしておくこと。	3 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	全講義の内容と概念について、再確認をしておくこと。	3 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

備考	講義の内容が非常に広範囲に及ぶので、予習や復習において小テストを活用しながら、講義中に示した概念や制度などを整理しておくことが不可欠となる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	現代社会と福祉Ⅱ（専門導入科目）			科目ナンバリング	SWI102
英文名	Contemporary Society and WelfareⅡ			講義形態	講義
担当教員	安達 正嗣				
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において３年間、研究員ならびに主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施し調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった（経験）				
学年・開講期	１年 後期	選必・単位数	必修 ２単位		
種別	「社会福祉士」、「精神保健福祉士」、「介護福祉士」、「福祉レクリエーションワーカー」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	現代社会と福祉との関係を具体的に明らかにするなかで、生活と福祉（具体的には家族、地域、社会組織、社会構造の変容などとの関連）について解説することによって、社会福祉や福祉政策について包括的かつ体系的に身につける。 毎回、前回の講義内容に関する小テストをおこない、さらに前回におこなった採点済みの小テストを返却して復習的な解説をおこなった後に、その回の講義をおこなうことを繰り返すことによって、受講生が講義内容に対する理解を深めるようにする。				
到達目標	(1)現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。 (2)現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、社会福祉に関する基本的な知識力を身につけることができる。 (3)現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、社会福祉問題の解決能力や対人間コミュニケーション能力を身につけることができる。 (4)現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、多分野との連携を考える学際的な視点から取り組む力を身につけることができる。 (5)現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、その解決を探るための応用・実践的な能力を身につけることができる。■ (6)現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、福祉専門家としての倫理性を会得して、社会福祉への貢献力を身につけることができる。				
評価方法	小テスト（毎回、講義の開始時に前回の講義内容について数問のテストをおこなう。遅刻は厳禁。）50%、学期末試験 50%、合計 100%で評価する。				
使用教材	社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』中央法規				
参考文献	講義中に、適宜指示する。				
課題に対するフィードバック	各受講生は、小テストで講義の理解度を自分自身で把握し、次回の講義時に返却された答案に関する解説を通じて、復習に役立てれば、現代社会と福祉について理解できるようになる。				
オフィスアワー （研究室）	火曜日 5 限・6 限		メールアドレス （#→@）	adachi-m#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	第 9 章福祉政策の関連領域・第 1～2 節（203～212 頁）を解説する。			
	該当到達目標	予習	第 9 章・第 1～2 節を読んでおくこと。		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第 9 章・第 1～2 節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。		1.5 時間
2	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第 9 章福祉政策の関連領域・第 3～4 節（213～223 頁）を解説する。			
	該当到達目標	予習	第 9 章・第 3～4 節を読んでおくこと。		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第 9 章・第 3～4 節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。		1.5 時間
3	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第 9 章福祉政策の関連領域・第 5～7 節（224～242 頁）を解説する。			
	該当到達目標	予習	第 9 章・第 5～7 節を読んでおくこと。		1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4,5,6	復習	第 9 章・第 5～7 節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
4	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第 10 章社会福祉制度の体系・第 1 節(243～251 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 10 章・第 1 節を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,4,5,6	復習	第 10 章・第 1 節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
5	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第 10 章社会福祉制度の体系・第 2 節(252～264 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 10 章・第 2 節を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,4,5,6	復習	第 10 章・第 2 節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第 11 章福祉サービスの提供・第 1 節(265～273 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 11 章・第 1 節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,4,6	復習	第 11 章・第 1 節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第 11 章福祉サービスの提供・第 2 節(274～282 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 11 章・第 2 節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,4,6	復習	第 11 章・第 2 節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第 12 章福祉サービスと援助活動・第 1 節(283～296 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 12 章・第 1 節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第 12 章・第 1 節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第 12 章福祉サービスと援助活動・第 2 節(297～300 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 12 章・第 2 節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第 12 章・第 2 節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第 13 章福祉政策の国際比較・第 1 節 1～5(301～312 頁)を解説する。実務経験で得た高齢者に関する調査結果を提示する。■		
	該当到達目標	予習	第 13 章・第 1 節 1～5 を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,4,5,6	復習	第 13 章・第 1 節 1～5 の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第 13 章福祉政策の国際比較・第 1 節 6～8(313～319 頁)を解説する。実務経験で得た高齢者に関する調査結果を提示する。■		
	該当到達目標	予習	第 13 章・第 1 節 6～8 を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,4,5,6	復習	第 13 章・第 1 節 6～8 の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第 13 章福祉政策の国際比較・第 2 節 1～2(320～327 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 13 章・第 2 節 1～2 を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,4,5,6	復習	第 13 章・第 2 節 1～2 の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第 13 章福祉政策の国際比較・第 2 節 3～5(328～340 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 13 章・第 2 節 3～5 を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,4,5,6	復習	第 13 章・第 2 節 3～5 の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。第 14 章福祉政策の課題と展望・第 1～3 節(341～359 頁)を解説する。		

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 2,4,5,6	予習	第 14 章・第 1～3 節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 14 章・第 1～3 節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	前回講義に対する小テスト実施。後期講義全体を整理してまとめて解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	教科書とノートを読み直して、全講義の理解の確認をしておくこと。	3 時間
		復習	全講義の内容と概念について、再確認をしておくこと。	3 時間
	合計時間(予習・復習)			48 時間
備考	講義の内容が非常に広範囲に及ぶので、予習や復習において小テストを活用しながら、講義中に示した概念や制度などを整理しておくことが不可欠となる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅰ（専門導入科目）			科目ナンバリング	SWI103
英文名	Basic Social Work TheoryⅠ			講義形態	講義
担当教員	松沼 記代				
科目に関連した実務経験	社会福祉士として、デイサービスセンターで3年6か月経験 社会福祉士及び管理者として、グループホームで1年間経験 社会福祉士として、大学在職中に介護予防教室の運営8年間経験 社会福祉法人理事長として、高齢者介護サービスの運営9年間経験				
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修 2単位		
種別	「社会福祉士」「精神保健福祉士」「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	相談援助(ソーシャルワーク)を基盤とする社会福祉士・精神保健福祉士の専門範囲やその意義、ソーシャルワークの概念と理念、ソーシャルワークの形成・発展史について理解を深める。また、ソーシャルワークの価値・倫理の原則について学ぶ。さらに、生活支援・介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な基本的なコミュニケーションに関する知識を習得する。授業は、指定したテキストの中から重要な部分を抜粋して講義し、社会福祉における相談援助の理念や方法について具体例を示しながら、社会福祉士としてのあり方を教授する。また、社会福祉士国家試験指定科目であるため、国家試験で頻出する内容についても、整理して説明する。				
到達目標	1.相談援助を基盤とする社会福祉士の専門性について説明できる。■ 2.ソーシャルワークの概念と範囲、理念について説明できる。■ 3.ソーシャルワークの価値・倫理の概要を説明できる。■ 4.生活支援・介護実践の基盤となる人間の理解やコミュニケーションの概要と意義を説明できる。■				
評価方法	筆記試験 80%、レポート 10%、授業参加度 10%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
使用教材	「相談援助の基盤と専門職」／〔監修〕社会福祉士養成講座編集委員会／中央法規(最新版)教科書を中心に進めるが、資料を適時配布する。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	レポートにはコメントを付けて返却する。定期試験の前に出題の範囲や意図を提示する。				
オフィスアワー (研究室)	授業の前後の時間。質問や意見はメールからも、随時受け付ける。	メールアドレス (#→@)	k-matsunuma#takasaki-u.ac.jp		
1	講義内容	相談援助を基盤とする福祉専門職の役割と意義－社会福祉士・精神保健福祉士			
	該当到達目標	予習	テキストの前書き、第1章 1-1～3、シラバスの内容を把握する。		1 時間
	1	復習	当日の講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。		1 時間
2	講義内容	相談援助の定義と構成要素■			
	該当到達目標	予習	テキスト第2章 1-1～4を読んで、専門用語の意味と内容を把握する。		1 時間
	1,2	復習	授業範囲を復習し、内容を理解する。		1 時間
3	講義内容	相談援助の理念と実践Ⅰ①「ソーシャルワーカーと価値」■			
	該当到達目標	予習	テキスト第5章-1～2節専門用語の意味と内容を把握する。		1 時間
	3	復習	授業範囲を復習し、内容を理解する。よく理解できなかった用語を調べる。		1 時間
4	講義内容	相談援助の理念と実践Ⅰ②「人間関係の形成－自己覚知と他者理解」■			
	該当到達目標	予習	福祉専門職にとってなぜ自分や他者を理解する必要があるか考える。		1 時間
	4	復習	授業範囲を復習し、内容を理解する。よく理解できなかった用語を調べる。		1 時間
5	講義内容	相談援助の理念と実践Ⅰ③「コミュニケーションの基礎」■			

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	福祉専門職にとってなぜコミュニケーション技術が必要なのか考える	1 時間
	4	復習	授業で学んだコミュニケーション技術について、日常生活に当てはめて考える。	1 時間
6	講義内容	相談援助の理念と実践Ⅰ④「言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション」■		
	該当到達目標	予習	非言語コミュニケーションにはどのようなものがあるか考える。	1 時間
	4	復習	授業で学習したコミュニケーション技術を日常で実践し、考察する	1 時間
7	講義内容	相談援助の理念と実践Ⅰ⑤「記述によるコミュニケーション」■		
	該当到達目標	予習	分かりやすい文章を書く時に、何に気を付けたら良いか考える。	1 時間
	4	復習	学習した内容を意識して、レポートや日記を書く。	1 時間
8	講義内容	相談援助の理念と実践Ⅱ①「クライアント(利用者)の尊厳と自己決定」■		
	該当到達目標	予習	テキスト第6章第1節を読んで、専門用語の意味と内容を把握する。■	1 時間
	2,3	復習	授業で学んだ尊厳と自己決定が日常の中でどのように機能しているか考える。	1 時間
9	講義内容	相談援助の理念と実践Ⅱ②「自己決定と自立を促すための支援方法」DVD 視聴		
	該当到達目標	予習	自己決定と自立の関係について調べる。	1 時間
	2,3	復習	バイステックの原則を生活の中に当てはめて考える。	1 時間
10	講義内容	相談援助の理念と実践Ⅱ③「ノーマライゼーションを実現するための支援方法」■		
	該当到達目標	予習	テキスト第6章第1節を読んで、専門用語の意味と内容を把握する。	1 時間
	2,3	復習	生活の中でノーマライゼーションではない部分について考える。	1 時間
11	講義内容	相談援助の形成過程Ⅰ①「ソーシャルワークの源流」		
	該当到達目標	予習	テキスト第3章第1節を読んで、専門用語の意味と内容を把握する。	1 時間
	2	復習	授業範囲を復習し、内容を理解する。よく理解できなかった用語を調べる。	1 時間
12	講義内容	相談援助の形成過程Ⅰ②「ソーシャルワークの基礎確立期」		
	該当到達目標	予習	テキスト第3章第2節を読んで、専門用語の意味と内容を把握する。	1 時間
	2	復習	授業範囲を復習し、内容を理解する。よく理解できなかった用語を調べる。	1 時間
13	講義内容	相談援助の形成過程Ⅱ①「ソーシャルワークの発展期」		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章第1節を読んで、専門用語の意味と内容を把握する。	1 時間
	2	復習	授業範囲を復習し、内容を理解する。よく理解できなかった用語を調べる。	1 時間
14	講義内容	相談援助の形成過程Ⅱ②「ソーシャルワークの展開期から統合化へ」		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章第2-3節を読んで、専門用語の意味と内容を把握する。	1 時間
	2	復習	授業範囲を復習し、内容を理解する。よく理解できなかった用語を調べる。	1 時間
15	講義内容	まとめ・期末試験		
	該当到達目標	予習	これまで学んだ内容を整理し、必要な用語や内容を記憶する	4 時間
	1,2,3,4	復習	テキスト全体を復習し、内容を理解する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				33 時間
備考	予習・復習の時間については、試験前の学習で補填すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅱ（専門導入科目）			科目 ナンバリング	SWI104
英文名	Basic Social Work TheoryⅡ			講義形態	講義
担当教員	松沼 記代				
科目に関連した 実務経験	社会福祉士（生活相談員）として、デイサービスセンターで３年６か月経験 社会福祉士及び（管理者）として、認知症対象グループホームで１年間経験 社会福祉士として、大学在職中に介護予防教室の運営８年間経験 社会福祉士として、成年後見の実務（年に１・２名）に１５年従事 社会福祉士として、家庭裁判所調停員執務（月１回程度）２０年経験 ２１年間従事（継続中） 社会福祉法人理事長として、高齢者介護サービス事業の運営に９年間従事（継続中）				
学年・開講期	１年 後期	選必・単位数	必修 ２単位		
種別	「社会福祉士」「精神保健福祉士」「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針 との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	ジェネラリスト・ソーシャルワークの概要を理解し、社会福祉士として実践に必要なとされる知識や、相談援助（ソーシャルワーク）の倫理および権利擁護のあり方について学修する。授業は、指定したテキストの中から重要な部分を抜粋して講義し、社会福祉における相談援助の理念や方法について具体例を示しながら、社会福祉士としてのあり方を教授する。また、社会福祉士国家試験指定科目であるため、国家試験で頻出する内容についても、整理して説明する。				
到達目標	１.ジェネラリスト・ソーシャルワークの概要と展開の方法について説明できる。 ２.相談援助（ソーシャルワークの実践範囲と専門性及び倫理について説明できる。■ ３.権利擁護の概要と対象者別の活動について説明できる。■ ４.相談援助（ソーシャルワークにおける専門職の機能と実践的な活動について説明できる。■				
評価方法	筆記試験 80%、レポート 10%、授業参加度 10%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
使用教材	「相談援助の基盤と専門職」／〔監修〕社会福祉士養成講座編集委員会／中央法規（2015） 2,600 円 教科書を中心に進めるが、資料を適時配布する。				
参考文献					
課題に対する フィードバック	レポートにはコメントを付けて返却する。定期試験の前に出題の範囲や意図を提示する。				
オフィスアワー （研究室）	授業の前後の時間。 質問や意見はメ ールからも、随時受け付ける。		メールアドレス （#→@）	k-matsunuma#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク			
	該当到達目標	予習	テキスト第４章第３節を読んで、専門用語の意味と内容を把握する。		1 時間
	1	復習	当日の講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。		1 時間
2	講義内容	相談援助専門職の倫理と倫理的ジレンマ■			
	該当到達目標	予習	テキスト第７章を読んで、専門用語の意味と内容を把握する。		1 時間
	1,2	復習	授業範囲を復習し、内容を理解する。		1 時間
3	講義内容	総合的・包括的な相談援助の全体像■			
	該当到達目標	予習	テキスト第８章を読んで、専門用語の意味と内容を把握する。		1 時間
	1	復習	授業範囲を復習し、内容を理解する。よく理解できなかった用語を調べる。		1 時間
4	講義内容	総合的・包括的な相談援助を支える理論			
	該当到達目標	予習	テキスト第９章を読んで、専門用語の意味と内容を把握する。		1 時間
	1	復習	授業範囲を復習し、内容を理解する。よく理解できなかった用語を調べる。		1 時間
5	講義内容	相談援助実践における専門職の概念と範囲■			

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	テキスト第 10 章第 1 節・第 2 節を読んで、内容を把握する。	1 時間
	2	復習	授業範囲を復習し、内容を理解する。よく理解できなかった用語を調べる。	1 時間
6	講義内容	ソーシャルワークに関する諸外国の動向		
	該当到達目標	予習	テキスト第 10 章第 3 節を読んで内容を把握する。	1 時間
	2	復習	他の外国の社会福祉制度について調べる。	1 時間
7	講義内容	エンパワメントとセルフヘルプ■		
	該当到達目標	予習	第 6 章第 1 節を読んで、内容を把握する	1 時間
	1,2	復習	社会におけるエンパワメントとセルフヘルプの意義を考える	1 時間
8	講義内容	権利擁護の実際の活動 各種団体の役割と実際■		
	該当到達目標	予習	テキスト第 5 章第 3 節、第 11 章第 6 節を読んで、内容を把握する。	1 時間
	3	復習	権利擁護の機能について整理し、意義を考える。	1 時間
9	講義内容	介護サービスと権利擁護－介護における尊厳の保持・自立支援■		
	該当到達目標	予習	介護の社会的問題について、ニュース等から調べる。	1 時間
	3	復習	介護サービスにおける権利擁護について整理する。	1 時間
10	講義内容	障害者サービスと権利擁護－自立支援と人権尊重の方法		
	該当到達目標	予習	障害者の自立支援や人権尊重がどのように推進されているか調べる。	1 時間
	3	復習	障害者の権利擁護の実態を整理して、どのような課題があるか考える。	1 時間
11	講義内容	司法分野におけるソーシャルワークの現状■		
	該当到達目標	予習	司法分野における社会福祉士の役割を調べる。	1 時間
	2,4	復習	司法分野におけるソーシャルワークの課題を考える。	1 時間
12	講義内容	相談援助における専門職機能① 予防機能■		
	該当到達目標	予習	テキスト第 11 章第 2 節を読み、専門用語の意味を調べる。	1 時間
	4	復習	事例から予防の意義を考察して、今後の課題を整理する。	1 時間
13	講義内容	相談援助における専門職機能② 総合的支援機能		
	該当到達目標	予習	テキスト第 11 章第 2 節を読み、専門用語の意味を調べる。	1 時間
	4	復習	事例から予防の意義を考察して、今後の課題を整理する。	1 時間
14	講義内容	相談援助における専門職機能③ 社会資源開発機能■		
	該当到達目標	予習	テキスト第 11 章第 7 節を読み、内容を把握する。	1 時間
	4	復習	社会資源の把握と開発及びソーシャルアクションの意味を理解する。	1 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	学習した内容を整理し、重要な用語を覚える。	4 時間
	1,2,3,4	復習	社会福祉士として必要なソーシャルワークの基盤を整理して覚える。	1 時間
合計時間(予習・復習)				33 時間
備考	予習・復習の時間については、試験前の学習で補填すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ（専門導入科目）			科目ナンバリング	SWI105
英文名		Support and Long-Term care Insurance System for ElderlyⅠ			講義形態	講義
担当教員		原田 欣宏				
科目に関連した実務経験		介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務（経験）				
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位		
種別		「社会福祉士」、「介護福祉士」、「福祉レクリエーションワーカー」指定科目				
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要（テーマ・内容）		高齢者の生活を理解するために、高齢者に特徴的な健康に関する基礎的知識を理解する。そのうえで、専門職がどのような視点で支援を行うべきか、対象者や場面による違いをふまえた支援の方法について理解する。 各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。				
到達目標		1.高齢者の身体的特徴と、その介護方法について説明することができる■ 2.高齢者に関する社会問題への福祉専門職としての役割を説明することができる■ 3.高齢者福祉制度の発展過程の概要について説明することができる 4.介護の概要と専門職としての対応方法を説明することができる■				
評価方法		定期試験 90％，レポート 10％で評価する。 総合評価 60％以上を合格とする。				
使用教材		「高齢者に対する支援と介護保険制度」岡田・橋本編著 ミネルヴァ書房				
参考文献						
課題に対するフィードバック		小テストは提出後の授業で出題の意図と解答例を提示して説明する。 定期試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。				
オフィスアワー（研究室）		火曜 3 限		メールアドレス（#→@）	harada#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	ガイダンス, 1.現代社会における高齢者福祉と介護①高齢者福祉の歴史的展開				
	該当到達目標	予習	教科書の前書き、序章、シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する			1.5 時間
	1,2	復習	人口動向、世帯動向を理解する			1.5 時間
2	講義内容	序. ②超高齢社会, ③介護問題の顕在化《高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要》				
	該当到達目標	予習	教科書序章(序)2 超高齢社会, 3 介護問題の顕在化, に目を通す			1.5 時間
	1,2	復習	人口減少社会と課題、高齢者支援の基本的支援を理解する。			1.5 時間
3	講義内容	1.高齢者の生活状況①少子高齢化問題				
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章 1. (一)高齢者の生活状況 1 少子高齢社会と高齢者を取り巻く社会情勢, に目を通す			1.5 時間
	1,2	復習	産業、地域社会の変化と少子高齢化問題の関係を整理する。			1.5 時間
4	講義内容	1.②健康と保健・医療■				
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章 2(一)2 高齢者の健康と保健・医療に目を通す			1.5 時間
	1,2	復習	高齢者の疾病について整理する。			1.5 時間
5	講義内容	1.③経済状況と就労、介護需要				
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章 3 高齢者の経済状況と就労, 4 高齢者の福祉・介護需要に目を通す			1.5 時間
	1,2	復習	高齢者の社会参加と就労、生活ニーズを理解する。			1.5 時間
6	講義内容	2.高齢者の生活を支えるしくみ①制度の発達過程《高齢者福祉制度の発達過程》				

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 2,3	予習	第 2 章 1. 高齢者福祉制度の発達過程, に目を通す	1.5 時間
		復習	戦後から現在までの制度発達の過程を整理する.	1.5 時間
7	該当到達目標 2,3	講義内容	2.②老人福祉法《老人福祉法》■	
		予習	第 2 章 2.老人福祉制度, に目を通す	1.5 時間
	2,3	復習	措置制度について, 授業内容をまとめる	1.5 時間
		講義内容	2.③介護保険制度《介護保険法》	
8	該当到達目標 2,3	予習	第 2 章 3.介護保険制度, に目を通す	1.5 時間
		復習	介護保険制度の概要を整理する.	1.5 時間
9	該当到達目標 3	講義内容	2.④地域包括ケアシステム《介護保険法におけるネットワーキングと実際・介護予防》	
		予習	教科書第 2 章 4.地域包括ケアシステム, に目を通す.	1.5 時間
	3	復習	地域包括ケアシステムが目指す地域社会の在り方と, 専門職の役割を整理する.	1.5 時間
		講義内容	2.⑤保険制度関係, 今後の課題	
10	該当到達目標 3	予習	第 2 章⑤年金保険制度, ⑥医療保険制度, ⑦公的扶助制度, 社会保障制度の今後の課題, に目を通す	1.5 時間
		復習	社会保障制度全般の概要を整理する.	1.5 時間
11	該当到達目標 1,4	講義内容	3.介護のあり方①介護概論【老化に伴う心と体の変化と生活】《介護の概念や対象》《介護過程》■	
		予習	教科書第 3 章 1.介護の概念と対象, 2.介護過程, に目を通す	1.5 時間
	1,4	復習	介護の倫理的な配慮と, 運動機能, 臓器の変化に対する実践を理解する.	1.5 時間
		講義内容	3.②住環境【老化に伴う心と体の変化と生活】《介護と住環境》■	
12	該当到達目標 1,4	予習	教科書第 3 章 3.介護と住環境, に目を通す	1.5 時間
		復習	老化に伴う身体の変化, 住環境に合わせたケアのあり方についてまとめる	1.5 時間
13	該当到達目標 1,4	講義内容	3.③認知症ケア【老化に伴う心と体の変化と生活】《認知症ケア》■	
		予習	教科書第 3 章 4.認知症ケア, に目を通す	1.5 時間
	1,4	復習	記憶の低下, 意欲低下へのケアについてまとめる	1.5 時間
		講義内容	3.④生活支援としての視点【老化に伴う心と体の変化と生活】《終末期ケア》■	
14	該当到達目標 1,4	予習	教科書第 3 章 5.終末期のケア, に目を通す	1.5 時間
		復習	終末期ケアの福祉専門職がかかわる意義を整理する.	1.5 時間
15	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	まとめ	
		予習	この授業で扱った箇所をすべて確認すること	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	高齢者の身体機能の変化と支援体制の概要を整理する.	1.5 時間
		合計時間(予習・復習)		
備考	「予習」欄にある「目を通す」とは, 通読し不明な語句を事前に調べることを指す. 《社会福祉士》【介護福祉士】教育に含むべき事項を指す ■:実務経験に基づく内容を示す.			

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ（専門導入科目）			科目ナンバリング	SWI106
英文名	Support and Long-Term care Insurance System for ElderlyⅡ			講義形態	講義
担当教員	原田 欣宏				
科目に関連した実務経験	介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務（経験）				
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位		
種別	「社会福祉士」、「介護福祉士」、「福祉レクリエーションワーカー」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	高齢者福祉制度の概要を理解することが、援助の実践で専門職の必要性と連携についての理解につながるため、基礎的知識を本講義において学ぶ。特に、介護保険制度を具体的に活用する方法を学び現在起こっている高齢者の生活問題への対応方法について理解を深める。 各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。				
到達目標	1.高齢者権利擁護と、措置から契約制度に変化した理由を関連付けて説明することができる 2.高齢者福祉制度を活用して必要な支援を行うことができる場면을説明することができる■ 3.介護保険制度について、利用を希望する人が実際にサービス提供を受けるまでの流れを説明することができる 4.介護保険制度のサービス体系について説明することができる				
評価方法	定期試験 90％、課題 10％で評価する。 総合評価 60％以上を合格とする。				
使用教材	「高齢者に対する支援と介護保険制度」岡田・橋本編著ミネルヴァ書房				
参考文献					
課題に対するフィードバック	課題は提出後の授業で出題の意図と解答例を提示して説明する。 定期試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。				
オフィスアワー （研究室）	火曜 3 限		メールアドレス （#→@）	harada#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	介護保険制度の実際①介護保険制度創設の背景と目的			
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章 1, に目を通す。		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	介護保険制度の導入にいたる社会的背景についてまとめる。		1.5 時間
2	講義内容	②介護保険制度の仕組み、《介護報酬》■			
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章 2, に目を通す。		1.5 時間
	3,4	復習	要介護認定の流れとサービス利用料自己負担額の計算方法を整理する		1.5 時間
3	講義内容	③サービスの種類と保険給付(1)居宅サービス■			
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章 3, に目を通す。		1.5 時間
	3,4	復習	居宅サービスの概要を整理する		1.5 時間
4	講義内容	(2)施設サービス■			
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章 3, に目を通す。		1.5 時間
	3,4	復習	施設サービスの概要を整理する		1.5 時間
5	講義内容	(3)地域密着型サービス■			
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章 3, に目を通す。		1.5 時間
	3,4	復習	地域密着型サービスの概要を整理する		1.5 時間
6	講義内容	(4)予防給付、地域支援事業《地域包括支援センターの役割と実際》			
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章 3, に目を通す。		1.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	3,4	復習	予防給付と地域支援事業の関係を整理する.	1.5 時間
7	講義内容	④介護保険財政		
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章 4, に目を通す.	1.5 時間
	3,4	復習	国, 県, 市での負担割合や権限行使と	1.5 時間
8	講義内容	⑤支える組織・団体とその役割《介護保険法における組織及び団体の役割と実際》		
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章 5, に目を通す.	1.5 時間
	4	復習	各団体の役割を整理する.	1.5 時間
9	講義内容	高齢者を取り巻く諸課題①介護を支える様々な専門職《介護保険法における専門職の役割と実際》		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章 1, に目を通す.	1.5 時間
	2	復習	社会福祉士, 介護福祉士をはじめ関連する専門職の役割を整理する.	1.5 時間
10	講義内容	②福祉・介護人材の確保と育成		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章 2, に目を通す.	1.5 時間
	3,4	復習	処遇加算の概要と, その目的について整理する	1.5 時間
11	講義内容	③協働の視点		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章 3, に目を通す.	1.5 時間
	1,2,3	復習	チームアプローチの有効性について	1.5 時間
12	講義内容	④高齢者虐待《高齢者虐待防止法》		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章 4, に目を通す.	1.5 時間
	1,2	復習	高齢者虐待のうち行政が対応することを整理する.	1.5 時間
13	講義内容	⑤高齢者が安心して生活できる環境づくり《高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律・高齢者の居住の安定確保に関する法律》		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章 5, に目を通す	1.5 時間
	1,2	復習	住宅確保とバリアフリー政策による社会生活の実際を整理する.	1.5 時間
14	講義内容	⑥高齢者の権利擁護		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章 6, に目を通す.	1.5 時間
	1,2	復習	成年後見制度では対応できない課題を整理する.	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	この授業で扱った箇所をすべて確認すること	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	高齢者の制度を生活課題と結びつけて説明できるように整理する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	「予習」欄にある「目を通す」とは, 通読し不明な語句を事前に調べることを指す. 《社会福祉士》【介護福祉士】教育に含むべき事項を指す ■:実務経験に基づく内容を示す.			

科目名		児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度(専門導入科目)		科目ナンバリング	SWI107
英文名		Social Support and Welfare Services for Children and Their Families		講義形態	講義
担当教員		大川 健次郎			
科目に関連した実務経験		市区町村社会福祉協議会に勤務(経験)			
学年・開講期		2 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位	
種別		「社会福祉士」、「介護福祉士」、「福祉レクリエーションワーカー」指定科目			
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力
		✓	基礎的知識力		応用・実践する能力
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 (テーマ・内容)		児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要(子育て・ひとり親家庭、児童虐待及びDVの実態を含む)について理解できるようにする。児童・家庭福祉制度の発展過程について理解できるようにする。児童の権利について理解できるようにする。相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉に関わる他の法制度について理解できるようにする。支援を必要とする子ども・家族に対する援助についても学習する。 授業は、教科書とパワーポイントを使用して要点をまとめて進めていく。スライドは随時プリントして配布するので、必要に応じてこれに記入して学習を進めること。支援を必要とする子ども・家族に対する援助についても学習する。			
到達目標		1.現代社会における児童と家庭を取り巻く状況を理解し、今後の支援・制度の向かう方向性について理解できる。 2.児童・家庭福祉制度の発展過程を理解し、現代の制度との変遷、根底に繋がる理念について理解できる 3.児童の権利の変遷と概念を理解し現在の児童の権利の位置づけを説明できる。 4.児童・家庭福祉に関わる他の制度を活用し、相談援助活動に援用できる。■			
評価方法		定期試験 80% 授業参加度 20%			
使用教材		教科書「新・社会福祉士養成講座 15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版」 ISBN978-4-8058-5302-3			
参考文献					
課題に対するフィードバック		授業参加度をミニレポートで測る。ミニレポートにコメントをつけて返却し学生にフィードバックする。			
オフィスアワー (研究室)		火曜日 3 時限		メールアドレス (#→@)	okawa#takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際			
	該当到達目標 1	予習	教科書の「現代社会と子ども家庭」部分を熟読する		1.5 時間
		復習	ひとり親家庭、児童虐待、DV 地域における子育て支援、青少年の実態を理解する		1.5 時間
2	講義内容	児童・家庭福祉制度の発展過程と児童の定義と権利			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の「子ども家庭福祉とは何か」部分を熟読する		1.5 時間
		復習	児童と家庭の権利保障、児童・家庭福祉の発展を理解する		1.5 時間
3	講義内容	児童福祉法の理念と概要			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書「子ども家庭福祉の理念、子どものための福祉の原理」部分を熟読する		1.5 時間
		復習	児童福祉法の理念、児童憲章の理念を理解する		1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

4	講義内容	児童・家庭福祉の相談機関(児童相談所の役割と実際)		
	該当到達目標	予習	教科書「子ども家庭福祉の実施体制」部分を熟読する	1.5 時間
	1,4	復習	児童・家庭福祉制度における相談体制、主に児童相談所の枠割と組織を理解する	1.5 時間
5	講義内容	児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際		
	該当到達目標	予習	教科書「行政機関と関連機関、児童福祉施設、児童・家庭福祉サービスの利用方式」部分を熟読する	1.5 時間
	1,2,4	復習	児童・家庭福祉制度に関わる行政、NPO などの役割を理解する	1.5 時間
6	講義内容	児童虐待対策(児童虐待の防止等に関する法律を中心に)		
	該当到達目標	予習	教科書「児童虐待対策」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	児童虐待の現状、それに対応する児童虐待の防止等に関する法律を理解する	1.5 時間
7	講義内容	ひとり親家庭に関する福祉(母子及び父子並びに寡婦福祉法・児童扶養手当法を中心に)		
	該当到達目標	予習	教科書「ひとり親家庭の福祉」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	母子及び父子並びに寡婦福祉法、児童扶養手当法、売春防止法を理解する	1.5 時間
8	講義内容	子ども・子育て新制度		
	該当到達目標	予習	教科書「保育」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	保育をめぐる制度の流れ・概要、地域子育て支援の意味と歴史的経緯、地域子ども・子育て支援事業を理解する	1.5 時間
9	講義内容	ドメスティック・バイオレンスへの対応(DV 法・売春防止法を中心に)		
	該当到達目標	予習	教科書「子どもと家庭にかかわる女性福祉」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	女性福祉の歴史的経緯と婦人保護事業、DV 防止法について理解する	1.5 時間
10	講義内容	母子保健(母子保健法を中心に)		
	該当到達目標	予習	教科書「母子保健」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	母子保健の目的と趣旨、母子保健施策の現状と今後の課題について理解する	1.5 時間
11	講義内容	健全育成(児童手当法を中心に)		
	該当到達目標	予習	教科書「児童健全育成」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	少子化対策の流れ、児童手当法について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	子育て支援(次世代育成支援対策推進法、少子化社会対策基本法を中心に)		
	該当到達目標	予習	教科書「地域子育て支援」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	次世代育成支援対策推進法、少子化社会対策基本法について理解する	1.5 時間
13	講義内容	障害児に関する福祉(特別児童扶養手当等の支給に関する法律を中心に)		
	該当到達目標	予習	教科書「障害・難病のある子どもと家族への支援」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	特別児童扶養手当について理解する	1.5 時間
14	講義内容	児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際・児童・家庭福祉制度における多職種連携、ネットワーキングと実際		
	該当到達目標	予習	教科書「子ども家庭福祉の専門職」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	児童・家庭福祉に関わる行政機関と専門職、児童福祉施設の専門職員と資格、その他の専門職員と資格について理解する	1.5 時間
15	講義内容	家族・福祉に関する基本的知識と支援技術の学習■		
	該当到達目標	予習	教科書「子ども家庭福祉援助活動」部分を熟読する	1.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	4	復習	相談援助活動の必要性、基本的視点、方法、他専門実践について理解する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度(専門導入科目)			科目ナンバリング	SWI108
英文名	Social Support for the Persons with Disabilities and Independence Support System for the Persons with Disabilities			講義形態	講義
担当教員	根岸 洋人				
科目に関連した実務経験	高崎市障害者支援協議会副会長(現在) 高崎市障害者虐待対策協議会会長(現在)				
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位		
種別	「社会福祉士」、「精神保健福祉士」、「介護福祉士」、「福祉レクリエーションワーカー」、「初級障がい者スポーツ指導員」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	障害を持つ人々の存在は太古の昔から知られている。そしてその処遇は、その時代背景とともに変化してきている。現代を生きる我々には何が必要とされ、どんな課題が積み上げられているのだろうか。本講義では障害者福祉に関する基本的事項を理解し、歴史的背景にたつ現代の問題点を学修していく。 授業は講義形式で行う。授業内容によってはパワーポイントや映像資料を活用することもある。毎回授業終了後に C-Learning を利用したリアクションペーパーの作成を課す。授業の復習も含めて期限までの提出を求めます。				
到達目標	1.障害のある人の暮らしを理解し、現代社会の問題点と関連づけ説明することができる 2.障害者福祉の制度を理解し、その意義、問題点を指摘できる■ 3.歴史や制度を関連づけて障害のある人の自立とその支援方法を説明できる■				
評価方法	期末試験を実施し評価を行う。配分は以下の通りとする。 1.授業時のリアクションペーパーによる参加 20%(C-Learning を使用) 2.期末試験 80%				
使用教材	社会福祉学双書 障害者福祉論 全国社会福祉協議会				
参考文献	授業中に指示する				
課題に対するフィードバック	授業中に行う。さらに質問等がある場合はオフィスアワーを活用すること				
オフィスアワー (研究室)	火曜日 5 限及び金曜日 5 限		メールアドレス (#→@)	negishi#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション(障害者の生活実態・社会情勢・介護需要)			
	該当到達目標	予習	1 年次に履修した障害に関する科目内容を確認する		1 時間
	1,3	復習	インターネット等を使用し、授業で取り上げた歴史上の事項を復習しておく		1 時間
2	講義内容	障害の定義・理念(障害者基本法を含む)			
	該当到達目標	予習	ノーマライゼーションの理念について確認する		1 時間
	1,3	復習	ICF の概念について整理する		1 時間
3	講義内容	知的障害者福祉法とその関連制度			
	該当到達目標	予習	知的障害者福祉法について教科書を読む		1 時間
	1,2,3	復習	知的障害の障害特性や統計などを確認する		1 時間
4	講義内容	身体障害者福祉法とその関連制度(バリアフリー法を含む)			
	該当到達目標	予習	身体障害者福祉法について教科書を読む		1 時間
	1,2,3	復習	身体障害の特性や手帳制度などを整理し確認する		1 時間
5	講義内容	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の理解(医療観察法を含む)			
	該当到達目標	予習	精神保健福祉法について教科書を読む		1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3	復習	精神障害の特性や医療との関わりについて整理する	1 時間
6	講義内容	発達障害者支援法とその関連制度		
	該当到達目標	予習	発達障害者支援法について教科書を読む	1 時間
	1,2,3	復習	発達障害の特性や近年の状況についてインターネットで調べる	1 時間
7	講義内容	障害者福祉制度の発展過程		
	該当到達目標	予習	戦後の法制定の過程について教科書を読む	1 時間
	1,2,3	復習	インターネット等を使い、障害者自立支援法反対運動などを調べる	1 時間
8	講義内容	障害者総合支援法について(相談支援事業所及び専門職の役割と実際を含む)■		
	該当到達目標	予習	障害者総合支援法について教科書を読む	1 時間
	1,2,3	復習	総合支援法の規定するサービスについて整理する	1 時間
9	講義内容	障害のある人の所得保障		
	該当到達目標	予習	障害のない人の社会保障について学ぶ	1 時間
	1,2,3	復習	自分の住んでいる自治体の実施している障害者優遇について調べる	1 時間
10	講義内容	障害者の雇用・就労(地域移行や就労の実態を含む)		
	該当到達目標	予習	障害者雇用促進法について教科書を読む	1 時間
	1,2,3	復習	インターネット等を使用し、障害者の雇用の先進事例を調べる	1 時間
11	講義内容	障害のある人の教育		
	該当到達目標	予習	特別支援教育について学ぶ	1 時間
	1,2,3	復習	学校の種類や問題点等について整理する	1 時間
12	講義内容	障害者虐待防止方とその対策■		
	該当到達目標	予習	障害者虐待防止方について教科書を読む	1 時間
	1,2,3	復習	過去の虐待事件などを新聞記事やインターネットを通じて調べる	1 時間
13	講義内容	障害者の地域生活(多職種間の連携、ネットワーキング、連携と協働)■		
	該当到達目標	予習	生活のしづらさに関する調査を確認する	1 時間
	1,2,3	復習	地域生活を進めるための制度、相談員の役割について確認する	1 時間
14	講義内容	障害者と家族(家族への支援)		
	該当到達目標	予習	地域生活の実態について家族との同居の視点で統計を見る	1 時間
	1,2,3	復習	障害者家族の手記などを読む	1 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでの授業を振り返り整理しておく	1 時間
	3	復習	定期試験に向けて学習を行う	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	夏休み等の期間を利用して実際に障害のある人と接する機会(ボランティア活動等)をもつこと。ボランティア等の活動によってこの授業の内容は深まります。最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完してください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	人体の構造と機能及び疾病(専門導入科目)			科目ナンバリング	SWI109
英文名	Human Body Structure, Function and Diseases			講義形態	講義
担当教員	上原 徹				
科目に関連した実務経験	精神科医として大学病院等で勤務経験 30 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている				
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位		
種別	「社会福祉士」、「精神保健福祉士」、「介護福祉士」、「福祉レクリエーションワーカー」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	学生が、人体の構造と機能や疾病について理解する。人の成長と発達、心身の構造と機能、主な疾病や障害の概要、リハビリテーションや ICF・健康の概念、関連職種の業務、障害者総合支援法等の改正など、社会福祉士として必要な医学・保健知識を学ぶ。 授業は教科書を使って、要点を指示していく。最後の 2 回は、DVD による知識のまとめと解説を行う。				
到達目標	1.人体の構造と機能、心理機能について説明できる 2.主な疾病や障害の概要について解説できる 3.上記を、人の成長発達や日常生活との関係から理解できる■ 4.リハビリテーションや ICF、健康の概念について説明できる 5.社会福祉士・精神保健福祉士として必要な医学知識を整理できる。				
評価方法	期末筆記試験 90%、C ラーニングによる小テスト提出 10%で評価するが、授業態度(不必要な私語、真摯な姿勢など)に問題がある場合は個別に減点する。				
使用教材	「新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病 第 3 版 中央法規」を教科書に用いる				
参考文献					
課題に対するフィードバック	必要に応じて、期末試験問題や国家試験問題の解説やフィードバックを行う。				
オフィスアワー (研究室)	月 4、金 3 研究室:1 号館 5 階 501		メールアドレス (#→@)	授業で提示する	
1	講義内容	健康に関するイントロダクション■			
	該当する到達目標	予習	関心のあるテーマを調べておく		1 時間
	3,5	復習	授業の内容をまとめる		2 時間
2	講義内容	身体精神の成長と発達と老化■			
	該当する到達目標	予習	講義担当部分をノートにまとめること。		1 時間
	1,3,5	復習	小テストを参考に復習を徹底すること		2 時間
3	講義内容	人体の構造機能①■			
	該当する到達目標	予習	講義担当部分をノートにまとめること。		1 時間
	1,3,5	復習	小テストを参考に復習を徹底すること		2 時間
4	講義内容	人体の構造機能②■			
	該当する到達目標	予習	講義担当部分をノートにまとめること。		1 時間
	1,3,5	復習	小テストを参考に復習を徹底すること		2 時間
5	講義内容	脳血管障害、メタボリックシンドローム、がん、など			

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当する到達目標	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間
	2,5	復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間
6	講義内容	循環器、代謝、呼吸器疾患など		
	該当する到達目標	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間
	2,5	復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間
7	講義内容	消化器、血液、腎臓泌尿器疾患など		
	該当する到達目標	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間
	2,5	復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間
8	講義内容	骨関節、感染症、神経難病など		
	該当する到達目標	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間
	2,5	復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間
9	講義内容	視聴覚、内部、肢体、知的の各障害		
	該当する到達目標	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間
	2,5	復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間
10	講義内容	発達障害、精神障害、高次脳機能障害など		
	該当する到達目標	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間
	2,5	復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間
11	講義内容	リハビリテーションの概要		
	該当する到達目標	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間
	4,5	復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間
12	講義内容	ICF の概要		
	該当する到達目標	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間
	4,5	復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間
13	講義内容	健康のとらえ方■		
	該当する到達目標	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間
	3,4,5	復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間
14	講義内容	さまざまな保健衛生対策■		
	該当する到達目標	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間
	3,4,5	復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間
15	講義内容	まとめ■		
	該当する到達目標	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	社会調査の基礎(専門導入科目)			科目ナンバリング	SWI110
英文名	Social Research: Basic Level			講義形態	講義
担当教員	安達 正嗣				
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。				
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	必修 2単位		
種別	「社会福祉士」「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	社会調査の基本的な知識や技法について解説することによって、現代の社会福祉の業務における社会調査の大きな意義を理解する。 毎回、前回の講義内容に関する小テストをおこない、さらにその後に前回におこなった採点済みの小テストを返却して復習的な解説をおこなった後に、その回の講義をおこなうことを繰り返すことによって、受講生が講義内容の理解を深められるようにしている。				
到達目標	(1)大学生としての基礎的な知識力として、社会調査の基本を身につけることができる。 (2)社会調査を学ぶことを通じて、豊かな人間性と倫理性を身につけることができる。 (3)社会調査の技法を学ぶことで、問題解決能力やコミュニケーション能力を身につけることができる。 (4)社会調査を学ぶことで、他分野との連携に役立ち、学際的な視点を身につけることができる。 (5)社会調査の技法を会得することで、社会福祉現場での応用・実践力を身につけることができる。■ (6)社会調査の基礎を身につけることで、専門家としての倫理性を持って、社会福祉への貢献力を身につけることができる。				
評価方法	小テスト(毎回、講義の開始時に前回の講義内容について数問のテストをおこなう。遅刻は厳禁。)50%、学期末試験 50%、合計 100%で評価する。				
使用教材	社会福祉士養成講座編集委員会編『社会調査の基礎』中央法規出版。				
参考文献	講義中、適宜指示する。				
課題に対するフィードバック	各受講生は、小テストで講義の理解度を把握し、次回の講義時に返却された答案に関する解説を通じて、復習に役立て、現代社会と福祉を理解できるようになる。				
オフィスアワー (研究室)	火曜日 5限・6限		メールアドレス (#→@)	adachi-m#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	第1章社会福祉と社会調査・第1節(1～11頁)を解説する。			
	該当到達目標	予習	第1章・第1節を読んでおくこと。		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第1章・第1節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。		1.5 時間
2	講義内容	前回講義に関する小テスト実施。第1章社会福祉と社会調査・第2節(12～20頁)を解説する。			
	該当到達目標	予習	第1章・第2節を読んでおくこと。		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第1章・第2節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。		1.5 時間
3	講義内容	前回講義に関する小テスト実施。第1章社会福祉と社会調査・第3節(21～30頁)を解説する。			
	該当到達目標	予習	第1章・第3節を読んでおくこと。		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第1章・第3節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。		1.5 時間
4	講義内容	前回講義に関する小テスト実施。第2章社会調査の概要・第1～2節(31～44頁)を解説する。			
	該当到達目標	予習	第2章・第1～2節を読んでおくこと。		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第2章・第1～2節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。		1.5 時間
5	講義内容	前回講義に関する小テスト実施。第2章社会調査の概要・第3～4節(45～54頁)を解説する。			

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	第 2 章・第 3～4 節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 2 章・第 3～4 節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	前回講義に関する小テスト実施。第 3 章量的調査の方法・第 1 節(55～62 頁)を解説する。		
	該当到達目標 2,3,4,5,6	予習	第 3 章・第 1 節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 3 章・第 1 節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	前回講義に関する小テスト実施。第 3 章量的調査の方法・第 2～3 節(63～75 頁)を解説する。		
	該当到達目標 2,3,4,5,6	予習	第 3 章・第 2～3 節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 3 章・第 2～3 節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	前回講義に関する小テスト実施。第 3 章量的調査の方法・第 4 節 1～3(76～84 頁)を解説する。		
	該当到達目標 2,3,4,5,6	予習	第 3 章・第 4 節 1～3 を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 3 章・第 4 節 1～3 の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	前回講義に関する小テスト実施。第 3 章量的調査の方法・第 4 節 4～5(85～108 頁)を解説する。		
	該当到達目標 2,3,4,5,6	予習	第 3 章・第 4 節 4～5 を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 3 章・第 4 節 4～5 の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	前回講義に関する小テスト実施。第 4 章質的調査の方法・第 1～2 節(109～121 頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	第 4 章・第 1～2 節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 4 章・第 1～2 節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	前回講義に関する小テスト実施。第 4 章質的調査の方法・第 3～5 節(122～138 頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	第 4 章・第 3～5 節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 4 章・第 3～5 節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	前回講義に関する小テスト実施。第 4 章質的調査の方法・第 6～7 節(139～156 頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	第 4 章・第 6～7 節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 4 章・第 6～7 節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	前回講義に関する小テスト実施。第 5 章社会調査における倫理と個人情報保護(157～164 頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	第 5 章を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 5 章の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	前回講義に関する小テスト実施。第 6 章社会調査の実施にあたっての IT の活用方法と第 7 章社会科学としての社会調査(165～188 頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	第 6 章と第 7 章を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 6 章と第 7 章の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	前回講義に関する小テスト実施。講義全体を整理してまとめて解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	教科書とノートを読み直して、講義全体の理解の確認をしておくこと。	3 時間
		復習	全講義の内容と概念について、再確認をしておくこと。	3 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間
備考	講義の内容には、数学的な思考が必要な箇所もあるので、予習や復習において小テストを活用しながら、講義中に解説した内容を整理しておくことが不可欠となる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	認知症の理解(専門導入科目)			科目 ナンバリング	SWI111
英文名	Study of Dementia			講義形態	講義
担当教員	松沼 記代				
科目に関連した 実務経験	社会福祉士として、デイサービスセンターで 3 年 6 か月経験 社会福祉士及び管理者として、グループホームで 1 年間経験 社会福祉士として、大学在職中に介護予防教室の運営 8 年間経験 社会福祉法人理事長として、高齢者介護サービスの運営に従事(継続中)				
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位		
種別	介護福祉士国家試験指定科目				
学位授与方針 との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	近年増加する認知症に関する基礎知識やコミュニケーション及びケアの方法について学修する。福祉サービスに従事する者として、実践での対応方法や家族・地域市民への指導方法を修得する。 授業は、指定したテキストの中から重要な部分を抜粋して講義し、介護現場や相談援助機関におけるケアや支援の方法について、実践例を示しながら教授する。				
到達目標	1.認知症の定義や要因、症状等について説明できる。■ 2.認知症状や BOSD のケアの方法について説明できる。■ 3.認知症高齢者の思いや置かれている状況について説明できる。■ 4.認知症の予防方法について説明できる。■				
評価方法	筆記試験 80%、レポート(10%)、授業参加度(10%)で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
使用教材	「認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント第 3 版」／山口晴保・佐土根朗・松沼記代・山上徹也／協同医書出版社／2016 年／3,500 円教科書を中心に進めるが、資料を適時配布する。				
参考文献					
課題に対する フィードバック	レポートにはコメントを付けて返却する。定期試験の前に出題の範囲や意図を提示する。				
オフィスアワー (研究室)	授業の前後の時間。質問や意見はメールからも、随時受け付ける。		メールアドレス (#→@)	k-matsunuma#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	認知症に伴うこころとからだの変化(ビデオ“ボケなんか恐くない”視聴)■			
	該当到達目標	予習	認知症高齢者の人の特徴や現状について調べる。		1 時間
	1,2	復習	講義内容とビデオの感想をまとめる。到達目標、成績評価方法を確認する。		1 時間
2	講義内容	認知症の基礎的理解■			
	該当到達目標	予習	テキスト第 1 章第 1 節と第 3 節を読んで、定義や特徴を把握する。		1 時間
	1,3	復習	授業範囲を復習し、内容を理解する。		1 時間
3	講義内容	認知症の原因疾患と症状(アルツハイマー型認知症を中心に)■			
	該当到達目標	予習	テキスト第 2 章第 5 節を読んで、認知症の原因疾患と症状について把握する。		1 時間
	1,3	復習	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。		1 時間
4	講義内容	認知症の症状～中核症状の理解とケアの原則■			
	該当到達目標	予習	テキスト第 2 章第 1 節を読んで、中核症状について把握する。		1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。		1 時間
5	講義内容	認知症の症状～生活障害の理解とケアの原則■			
	該当到達目標	予習	テキスト第 2 章第 2 節を読んで、生活障害について把握する。		1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3	復習	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1 時間
6	講義内容	認知症の症状－行動・心理症状(BPSD)の理解とケアの原則①■		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章第3節を読んで、BPSDの行動症状について把握する。	1 時間
	2,3	復習	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1 時間
7	講義内容	認知症の症状－行動・心理症状(BPSD)の理解とケアの原則②■		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章第3節を読んで、BPSDの心理症状について把握する。	1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1 時間
8	講義内容	脳血管性認知症・レビー小体型認知症の特徴とケアの原則■		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章第5節を読んで、概要を把握する。	1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1 時間
9	講義内容	認知症の評価尺度、治療と予防■		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章第4節・第6節・第7節を読んで、概要を把握する。	1 時間
	1,2,4	復習	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1 時間
10	講義内容	認知症を取り巻く状況－ケアの歴史と現状■		
	該当到達目標	予習	テキスト第3章・第4章を読んで、概要を把握する。	1 時間
	1,2	復習	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1 時間
11	講義内容	認知症ケアの実際：施設・在宅サービスにおける援助とケア DVD 視聴■		
	該当到達目標	予習	デイサービスや小規模多機能施設等の概要を把握する。	1 時間
	2,3	復習	ボランティア先や実習先でのケアのあり方と比較する。	1 時間
12	講義内容	施設職員への支援■		
	該当到達目標	予習	テキスト第5章第2節を読んで、概要を把握する。	1 時間
	2,3	復習	身近な人や実習先で出会った施設職員に、現状について話を聴く。	1 時間
13	講義内容	家族への支援■		
	該当到達目標	予習	テキスト第5章第1節を読んで、概要を把握する。	1 時間
	2,3	復習	認知症の方を抱える家族から話を聴く。	1 時間
14	講義内容	認知症の人の地域生活支援■		
	該当到達目標	予習	テキスト第6章を読んで、概要を把握する。	1 時間
	4	復習	福祉専門職として認知症ケアや予防対策にどのように関わるか考える。	1 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまで学んだ認知症ケアの内容と課題について確認する。	3 時間
	1,2,3,4	復習	認知症の概要やケアの方法を実践で活かせるように整理する。	2 時間
合計時間(予習・復習)				33 時間
備考	予習・復習の時間については、試験前の学習で補填すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		障害の理解(専門導入科目)		科目 ナンバリング	SWI112	
英文名		Methodology of People with Disabilities Support		講義形態	講義	
担当教員		大塚 光彦				
科目に関連した 実務経験		・実務者として、①県立身体障害者リハビリテーションセンター(旧称)、②県立点字図書館、 ③県立ふれあいスポーツプラザ、④県立ゆうあいピック記念温水プールに勤務(経験) ・指導員(実習生担当・就労支援担当)として、地域活動支援センターに勤務(現在)				
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位		
種別		「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針 との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		1.三障がい(身体・知的・精神)について■ ①国際的な定義、日本における定義及び基本法等を習得する。 ②三障がいの基本的な医学基礎知識を習得する。 ③三障がいを心理的・社会的側面から理解する。 2.障がいの受容について■ 「後天性障がい」と「先天性障がい」の違いについて理解する。 3.ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザイン等について現状と課題を理解する。■ 上記 3 つを講義目標とし、教科書に基づき、三障がいの基礎的理解を深めることが出来るように、 身体障がいに重点をおき、かつ知的障がい、精神障がいについても各 2 回ずつ授業を行い、総合 理解を深め知識を習得出来るように進行します。ゲストの都合により、授業の順番に変更が生じる 場合があります。なお、ゲストは先天性及び後天性の障がいの方々をお呼びしています。				
到達目標		1.総合的に障がいを理解し、三障がいの特性を説明できる。 2.三障がいに対する基本的な専門用語を説明できる。 3.「ゲストスピーカー」の講義内容を十分に理解し、積極的に質疑することにより、その障がいについ て、総合的にミニレポートを書くことが出来る。				
評価方法		成績評価 1.毎授業態度及びミニレポート(リアクションペーパーに記載)による評価(40%) 2.ゲストスピーカー3～4 回のミニレポート(リアクションペーパーに記載)による評価(20%) 3.筆記試験 40% その他の評価 実習や忌引き等による欠席は届け出(場合により要添付書類)を提出すれば出席扱いとします。 なお、15 分以上の遅刻は欠席とみなします。				
使用教材		・公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会 新版 障がい者スポーツ指導教本 初級・中級 ・授業時に関係資料(PP 補助資料)及新聞等の関係記事のコピー等を配布				
参考文献		・編集 介護福祉士養成講座「障害の理解」				
課題に対する フィードバック		ミニレポートにある質問や意見については、次回の授業の中で随時取り上げて、学生にフィードバックします。				
オフィスアワー (研究室)		授業前後の教室及び非常勤講師控室 で対応します。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	障がいの定義・分類と概要について・障がいの基礎的理解■				
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 P34～36 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと			2 時間
		復習	講義内容、到達目標等を確認する。			2 時間
2	講義内容	国際生活機能分類について				

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	教科書 P26～27 を読んで講義の目標等を理解する。	2 時間
	1,2	復習	専門用語の意味を理解しておくこと 講義内容を理解し、四肢の名称等を確認する。	2 時間
3	講義内容	障がいの種類及び四肢の名称について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P72～74 を読んで講義の目標等を理解する。	2 時間
	1,2	復習	専門用語の意味を理解しておくこと 講義内容、到達目標等を確認する。	2 時間
4	講義内容	脳性麻痺について(種類・原因・特性)		
	該当到達目標	予習	教科書 P150 を読んで講義の目標等を理解する。	2 時間
	1,2,3	復習	専門用語の意味を理解しておくこと 講義内容、到達目標等を確認する。	2 時間
5	講義内容	脊髄損傷について(種類・原因・特性)		
	該当到達目標	予習	教科書 P148～149 を読んで講義の目標等を理解する。	2 時間
	1,2,3	復習	専門用語の意味を理解しておくこと 講義内容、到達目標等を確認する。	2 時間
6	講義内容	催奇形性について		
	該当到達目標	予習	講義内容(薬害等)について下調べし、理解する。	2 時間
	1,2,3	復習	専門用語の意味を理解しておくこと 講義内容、到達目標等を確認する。	2 時間
7	講義内容	義肢・装具について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P180～184 を読んで講義の目標等を理解する。	2 時間
	1,2	復習	専門用語の意味を理解しておくこと 講義内容、到達目標等を確認する。	2 時間
8	講義内容	切断・離断について		
	該当到達目標	予習	教科書 P152～153 を読んで講義の目標等を理解する。	2 時間
	1,2,3	復習	専門用語の意味を理解しておくこと 講義内容、到達目標等を確認する。	2 時間
9	講義内容	視覚障がいについて・点字について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P154～159 を読んで講義の目標等を理解する。	2 時間
	1,2	復習	専門用語の意味を理解しておくこと 講義内容、到達目標等を確認する。	2 時間
10	講義内容	聴覚障がいについて・手話について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P160～163 を読んで講義の目標等を理解する。	2 時間
	1,2	復習	専門用語の意味を理解しておくこと 講義内容、到達目標等を確認する。	2 時間
11	講義内容	知的障がいについて■		
	該当到達目標	予習	教科書 P168～175 を読んで講義の目標等を理解する。	2 時間
	1,2	復習	専門用語の意味を理解しておくこと 講義内容、到達目標等を確認する。	2 時間
12	講義内容	知的障がいについて・重度知的障がい者とそのあり方について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P170 他を読んで講義の目標等を理解する。	2 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

			専門用語の意味を理解しておくこと	
	1,2	復習	講義内容、到達目標等を確認する。	2 時間
13	講義内容	精神障がいについて・スポーツ活動を通してのリハビリテーションについて■		
	該当到達目標	予習	教科書 P176～177 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと	2 時間
	1,2	復習	講義内容、到達目標等を確認する。	2 時間
14	講義内容	精神障がいについて・就労支援について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P177～179 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと	2 時間
	1,2	復習	講義内容、到達目標等を確認する。	2 時間
15	講義内容	その他の障がいについて■		
	該当到達目標	予習	教科書 P164～167 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと	2 時間
	1,2	復習	講義内容、到達目標等を確認する。	2 時間
合計時間(予習・復習)				60 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	発達と老化の理解(専門導入科目)			科目ナンバリング	SWI113
英文名	Development and Aging			講義形態	講義
担当教員	角野 善司				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位		
種別	介護福祉士指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	生涯にわたる心理・身体的機能の発達に伴う変化と、それを踏まえた援助に必要な基礎的知識を修得する。 とりわけ、発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を修得することを目指す。 授業期間全体を通じた授業の進め方: 受講者には、予習復習にしっかりと取り組んでもらいたい。教科書の該当箇所に関する講義は、予習をしてあることを前提とするので、簡潔に進める。積極的に質問をすることを期待する。復習課題の解答解説は丁寧さを心掛ける。なお、理解を深めるために必要に応じて視聴覚教材を活用する。				
到達目標	1.主要な発達理論について説明できる。 2.生涯発達および各発達段階の概要と課題を説明できる。 3.老化が及ぼす心理的影響について説明できる。 4.高齢者の心理への対応を説明できる。				
評価方法	毎回の宿題 30%(復習課題 15%、予習課題 15%)、学期中 3 回程度のレポート 30%、学期末テスト 40%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テストの得点に関わらず単位を付与しない。				
使用教材	最新 介護福祉士養成講座「発達と老化の理解」 中央法規出版				
参考文献					
課題に対するフィードバック	宿題・レポートは毎回授業時に、学期末テストは事後に講評解説の機会を設ける。				
オフィスアワー (研究室)	初回授業時に告知するとともに、研究室ドアに掲出する(8号館 405 室)		メールアドレス (#→@)	zsumino#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	人間の成長と発達の基礎的理解(1)発達の概念と主要な理論			
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所を精読する。		1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を始める。		1.5 時間
2	講義内容	人間の成長と発達の基礎的理解(2)生涯発達			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。		1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。		1.5 時間
3	講義内容	人間の成長と発達の基礎的理解(3)発達段階と発達課題			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。		1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートを作成する。		1.5 時間
4	講義内容	人間の成長と発達の基礎的理解(4)胎児期・乳児期の発達			
	該当到達目標 2	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。		1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を始める。		1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

5	講義内容	人間の成長と発達の基礎的理解(5) 幼児期の発達		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
6	講義内容	人間の成長と発達の基礎的理解(6) 児童期の発達		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
7	講義内容	人間の成長と発達の基礎的理解(7) 青年期の発達		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
8	講義内容	人間の成長と発達の基礎的理解(8) 成人期の発達		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートを作成する。	1.5 時間
9	講義内容	老年期の発達と成熟(1) 老年期の定義		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を始める。	1.5 時間
10	講義内容	老年期の発達と成熟(2) 老年期の発達課題		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
11	講義内容	老化に伴うところとからだの変化と日常生活(1) 老化に伴う心身の変化の特徴		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
12	講義内容	老化に伴うところとからだの変化と日常生活(2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
13	講義内容	老化に伴うところとからだの変化と日常生活(3) 高齢者の心理(1) 記憶・知能		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
14	講義内容	老化に伴うところとからだの変化と日常生活(4) 高齢者の心理(2) パーソナリティと適応		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
15	講義内容	高齢者の医療制度および保健医療職との連携		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートを作成する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	宿題の提出は、C-learning による。			

科目名		精神疾患とその治療Ⅰ（専門導入科目）			科目 ナンバリング	SWI114
英文名		Psychiatric Disorders and the Treatment ApproachⅠ			講義形態	講義
担当教員		上原 徹				
科目に関連した 実務経験		精神科医として大学病院等で勤務経験 30 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている				
学年・開講期		3 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位		
種別		「精神保健福祉士」「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針 との対応			豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力
		✓	基礎的知識力			応用・実践する能力
			問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 (テーマ・内容)		学生が、支援専門職である社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士として必要となる、精神医学や精神疾患に関する基本的な知識(成因、症状、診断、治療、経過、支援)を身につけることができる。精神医療機関と治療構造について習得し、チーム医療の視点を生かした援助方法を理解できる。精神保健医療福祉における関連機関の連繋と、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の役割を身につける。 授業は DVD を視聴しつつ説明を加えながら進める。時々資料集を使って、要点をまとめていく。授業の最後に理解度確認のための小テストを行う。				
到達目標		1.精神機能や心理社会的問題の概要を説明できる 2.代表的な疾患の基本的概要を解説できる 3.精神科医療機関における治療構造や治療の内容特性を解説できる 4.精神障害を援助するために必要な精神保健福祉の知識を整理できる 5.チーム医療の担う専門職の役割と医療福祉連携を理解できる■				
評価方法		期末筆記試験 90%、C ラーニングによる小テスト提出 10%で評価するが、授業態度(不必要な私語、静粛な姿勢など)に問題がある場合は個別に減点する。				
使用教材		教科書は特に指定しない。				
参考文献		資料集として「保健医療福祉関連専門職を目指す人のための精神医学と精神医療」三恵社(上原 徹 著)を適宜利用するが購入義務はない。DVD 教材やスライド上映を加える。 なお、参考書としては、精神保健福祉士養成講座第 1 巻「精神疾患とその治療」中央法規出版を推奨する。				
課題に対する フィードバック		専門職としての必要な課題をフィードバックする。必要に応じて、試験問題の解説を行う。				
オフィスアワー (研究室)		月 4、金 3 研究室:1 号館 5 階 501	メールアドレス (#→@)		授業で提示する	
1	講義内容	精神医学や精神医療のイントロダクション(歴史、診断分類、検査)				
	該当到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。			0.5 時間
	1,2	復習	資料を用いて自習する。			2.5 時間
2	講義内容	統合失調症とは？				
	該当到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。			1 時間
	2,3	復習	資料を用いて自習する。			2 時間
3	講義内容	双極性障害(躁うつ病)とは？				
	該当到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。			1 時間
	2,3	復習	資料を用いて自習する。			2 時間
4	講義内容	うつ病とは？				
	該当到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。			1 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	2,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
5	講義内容	神経症・不安障害とは？		
	該当到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	2,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
6	講義内容	摂食障害		
	該当到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	2,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
7	講義内容	PTSD やストレスに関連する病		
	該当到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	2,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
8	講義内容	アルコールや物質依存とは？		
	該当到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	2,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
9	講義内容	睡眠障害		
	該当到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	2,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
10	講義内容	認知症		
	該当到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	2,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
11	講義内容	小児の精神疾患		
	該当到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	2,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
12	講義内容	外因性・器質性・症状性疾患など		
	該当到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	2,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
13	講義内容	精神科の治療法や支援について		
	該当到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	3,4	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
14	講義内容	リハビリテーションや心理社会アプローチ■		
	該当到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	3,4,5	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
15	講義内容	まとめ■		
	該当到達目標	予習	資料を用いて自習する。	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	試験問題を復習する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	他学部との共同開講のため多くの学生が受講する。したがって、不必要な私語は厳に慎むこと。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	精神保健の課題と支援Ⅰ（専門導入科目）			科目ナンバリング	SWI115
英文名	Issues in Mental Health and Support SystemⅠ			講義形態	講義
担当教員	横澤 岳志				
科目に関連した実務経験	精神保健福祉士として精神科病院及び併設する障害福祉サービス事業所に勤務（現在）				
学年・開講期	1 年 後期 選必・単位数 必修 2 単位				
種別	「精神保健福祉士」「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	精神疾患が国民の 5 大疾病のひとつとして数えられる現代社会において、精神保健への取り組みがますます重要視されている。本講義は、精神保健福祉士を目指す学生が様々な精神保健についての基本的な知識を習得し、様々な課題解決に向けた実践の基礎となることを目指す。教科書の重要項目をパワーポイントで整理しながら、授業を進めていく。				
到達目標	1.精神保健の概要を理解する 2.精神の健康とライフサイクルや生活習慣との関連を理解する 3.精神の健康に関わる支援のあり方を理解する■ 4.精神保健と家族の課題について理解する■ 5.精神保健と学校教育の課題について理解する				
評価方法	授業態度を 30%、定期試験を 70%の比重で評価し、合計で 60%以上を合格とする。なお、レポートにより評価に加点する場合あり。				
使用教材	新・精神保健福祉士養成講座 2 精神保健の課題と支援（中央法規出版）				
参考文献					
課題に対するフィードバック	定期試験後に解答を提示する。 レポートにはコメントをつけて返却する。				
オフィスアワー （研究室）	質問等には授業の開始前もしくは終了後にも教室や講師控室で応じる。		メールアドレス （#→@）	tak.yoyo0120#gmail.com	
1	講義内容	精神保健の概要と課題 ①精神保健の概要			
	該当到達目標	予習	教科書の第 1 章第 1 節に目を通す		1.5 時間
	1	復習	精神保健の概要について理解する		1.5 時間
2	講義内容	精神保健の概要と課題 ②精神保健の歴史 ③精神保健の課題			
	該当到達目標	予習	教科書の第 1 章 第 2 節～第 3 節に目を通す		1.5 時間
	1	復習	精神保健の歴史や課題について理解する		1.5 時間
3	講義内容	精神の健康とその要因 ①社会構造の変化と新しい健康観			
	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章 第 1 節に目を通す		1.5 時間
	2	復習	社会構造の変化と新しい健康観について理解する		1.5 時間
4	講義内容	精神の健康とその要因 ②ライフサイクルと精神の健康			
	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章 第 2 節に目を通す		1.5 時間
	2	復習	ライフサイクルにおける精神の健康について理解する		1.5 時間
5	講義内容	精神の健康とその要因 ③ストレスと精神の健康 ④生活習慣と精神の健康#			
	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章 第 3 節～第 4 節に目を通す		1.5 時間
	2	復習	ストレスや生活習慣による精神の健康への影響について理解する		1.5 時間
6	講義内容	精神の健康とその要因 ⑤精神の健康、精神疾患、身体疾患に由来する障害			
	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章 第 5 節に目を通す		1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	2	復習	精神疾患や精神障害について理解する	1.5 時間
7	講義内容	精神の健康への関与と支援 ①精神の健康に関する心的態度 ②精神保健に関する予防の概念と対象■		
	該当到達目標	予習	教科書の第3章 第1節～第2節に目を通す	1.5 時間
	3	復習	心的プロセスと精神保健に関する予防について理解する	1.5 時間
8	講義内容	精神の健康への関与と支援 ③精神保健に関する国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携 ④精神保健に関する専門職種■		
	該当到達目標	予習	教科書の第3章 第3節～第4節に目を通す	1.5 時間
	3	復習	精神保健に関する自治体等の役割について理解する	1.5 時間
9	講義内容	精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ ①現代日本の家族特徴 ②結婚生活と精神保健		
	該当到達目標	予習	教科書の第4章 第1節～第2節に目を通す	1.5 時間
	4	復習	家族関係や結婚生活における精神保健について理解する	1.5 時間
10	講義内容	精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ ③出産・育児をめぐる精神保健 ④社会的ひきこもりをめぐる精神保健		
	該当到達目標	予習	教科書の第4章 第3節～第4節に目を通す	1.5 時間
	4	復習	出産や育児をめぐる精神保健やひきこもりをめぐる精神保健について理解する	1.5 時間
11	講義内容	精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ ⑤病気療養と介護をめぐる精神保健 ⑥高齢者の精神保健		
	該当到達目標	予習	教科書の第4章 第5節～第6節に目を通す	1.5 時間
	4	復習	病気療養や介護をめぐる精神保健と高齢者の精神保健について理解する	1.5 時間
12	講義内容	精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ ⑦家庭内の問題を相談する機関 ⑧家庭内の問題を相談する機関における精神保健福祉士の役割■		
	該当到達目標	予習	教科書の第4章 第7節～第8節に目を通す	1.5 時間
	4	復習	各種相談機関と精神保健福祉士の役割について理解する	1.5 時間
13	講義内容	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ ①現代日本の学校教育と生徒児童の特徴		
	該当到達目標	予習	教科書の第5章 第1節に目を通す	1.5 時間
	5	復習	現代の学校教育と生徒児童の特徴について理解する(不登校、いじめ、自殺)	1.5 時間
14	講義内容	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ ①現代日本の学校教育と生徒児童の特徴 ②教員の精神保健		
	該当到達目標	予習	教科書の第5章 第1節～第2節に目を通す	1.5 時間
	5	復習	現代の学校教育と生徒児童の特徴(暴力、非行)と教職員の精神保健について理解する	1.5 時間
15	講義内容	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ ③関与する専門職と関係法規 ④学校における精神保健福祉士の役割		
	該当到達目標	予習	教科書の第5章 第3節～第4節に目を通す	1.5 時間
	5	復習	学校に関与する専門職と学校における精神保健福祉士の役割について理解する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	福祉基礎実習(専門導入科目)			科目ナンバリング	SWI116
英文名	Introduction of Field Study in Social Work			講義形態	実習
担当教員	石坂 公俊ほか				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	社会福祉コース必修 1 単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	社会福祉分野の制度, サービスに関する考え方や理念, 援助方法など専門的な学習を深めるには, 実際の現場体験が重要である。この福祉基礎実習では社会福祉分野に関する体験を通じて基礎的な学習を深め, 実習教育の意義と実習にかかる基礎的理解を目的とする。 実習指導は実習担当教員がゼミ別に行う。実習計画書の作成, 実習報告会など, グループワークを活用して進めていく。				
到達目標	1.専門的社会福祉の学習に興味を持つことができる。 2.学内学習と実習の関係を理解できる。 3.援助・被援助関係を体験的・基礎的に理解できる。				
評価方法	実習状況(実習担当者から届く評価表, 実習中の巡回教員による所見, 実習後に提出する学生の報告書や自己評価)を勘案し総合的に評価する。				
使用教材	福祉基礎実習の手引き及び福祉基礎実習ノート				
参考文献					
課題に対するフィードバック	実習の手引きと個人で作成したノートを提出期限内に提出した学生には, 授業担当者からのコメントや指導を通して返却する。実習報告会に向けて作成した資料は資料集として当日配布を予定している。				
オフィスアワー (研究室)	ゼミ別ガイダンスでアナウンスする		メールアドレス (#→@)	ゼミ別ガイダンスでアナウンスする	
講義内容	福祉基礎実習は社会福祉分野における援助対象者やサービス利用者, 施設・機関・団体の種別, ソーシャルワーカーやケアワーカーなどの職種について, 現場を体験しながら理解を深める。 (1)実習指導＝全体会およびゼミ学習 ①福祉現場におけるマナー, 実習生としての態度や姿勢 ②実習先の概要 ③実習計画書の作成 ④実習報告書の作成、振り返り ⑤実習報告会の開催 (2)実習時間 計 15～18 時間(2～3 日程度) (3)実習予定先 高齢者(特別養護老人ホーム, デイサービスセンター, グループホーム), 障害児(デイサービス, 学童クラブ), 知的・精神障害者(就労継続支援事業, 地域活動支援センター)施設や団体のほか, 社会福祉協議会などがある。実習先は学生の希望を考慮しながら, 大学が決定する。 (4)実習内容(例) 施設等利用者との交流, 話し相手, 身の回りの手伝い, 作業の手伝い, 簡易な介護, 環境美化, 行事の準備や手伝い等				
	予習	実習先に関する予習, 実習指導で準備した資料の確認。			8 時間
	復習	実習先で教わったことの再確認, 実習記録の作成, 報告会用資料準備。			8 時間

合計時間(予習・復習)		16 時間
備考	◆実習事務は、実習指導室が担当する。不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、必ず来室して確認すること。 ◆実習指導室:大学 1 号館 5 階 TEL:027-352-1292(直通) 利用時間:実習期間外 9 時 30 分～17 時 30 分(月～金) 実習期間中 9 時 00 分～18 時 00 分(月～金※原則)	

科目名	福祉基礎演習(専門基幹科目)			科目ナンバリング	SWC201
英文名	Seminar in Social Welfare Practice			講義形態	演習
担当教員	金井 敏、上原 徹、戸澤 由美恵、原田 欣宏、池田 朋広、渡邊 洋子、大口 達也、出雲 春明				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	大学生としての基礎的学習スキルを身につけるとともに、福祉マインドの育成を目指し、4 年間にわたる専門的学習の素地を形成する。コミュニケーション力を高め、専門職として必要となる応用力や人間的態度についての基本を学ぶ。具体的には、今日の福祉の発展に貢献した、国内外の偉人を取り上げ、その生涯や価値観を主体的に学ぶことを通じて、福祉に対する関心を深め動機づけを図る。グループ学習を通じて、読む・書く・話す・調べる・発表する・調べる・議論する・まとめる力を身につける。 グループ形式でアクティブラーニングの手法を取り入れ、学生の主体性を尊重しながら授業運営を行う。				
到達目標	1.大学生としての基礎的学習スキルを身につけることができる。 2.福祉マインドを理解できる。 3.専門科目の履修に必要な基礎的能力を身につけることができる。 4.他者と関わる上で必要となる対人関係能力を獲得できる。 5.社会福祉支援者を目指す学生としての責任感を自覚できる。				
評価方法	演習の活発な議論・活動への貢献度(50%)、自分の担当のレジュメづくりやグループなどでの発表(50%)、などで総合的に評価します。ただし、演習形式での授業なので、遅刻・欠席の多い学生には 20%を超えた比重で(30%程度までの)成績評価の減点をする場合があります。				
使用教材	共通の教科書は指定しないが、各ゼミや担当教官が輪読で使用する図書などの紹介や、指導教員から資料などの配布がある。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	各ゼミにおいて提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜返却を予定している。 履修者は返却された資料を必ず復習すること。				
オフィスアワー (研究室)	オリエンテーション時に案内する。		メールアドレス (#→@)	オリエンテーション時に案内する。	
1	講義内容	オリエンテーション、ゼミ内でのグループ分け等			
	該当到達目標	予習	不要	0 時間	
	1,4	復習	初回ゼミにおいて指導教員から説明があった点、今後の授業方針の確認		0.5 時間
2	講義内容	指導教員によるゼミの方針説明、グループ学習におけるルール説明等			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,4	復習	グループ学習に関するルール確認、グループ内の役割確認、その他		0.5 時間
3	講義内容	グループ学習・グループ発表			
	該当到達目標	予習	レジュメを使った発表を行います。自分が担当となった項目について、指定されたやり方でレジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。		0.5 時間
	1,3	復習	グループ担当者間で割り当てられた役割に沿った準備、設定。		0.5 時間
4	講義内容	指導教員による授業(関連事項に関する講義、グループ発表準備等)			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	他グループの説明を聞いてわからなかった専門用語の確認		0.5 時間
5	講義内容	指導教員による授業(関連事項に関する講義、グループ発表準備等)			

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	自分達の発表内容について分担を再度確認し、内容の詳細を詰めること。	0.5	時間
		復習	他グループの説明を聞いてわからなかった専門用語の確認	0.5	時間
6	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 指導教員による授業(関連事項に関する講義、グループ発表準備等)			
		予習	自分達の発表内容について分担を再度確認し、内容を検討すること。	0.5	時間
		復習	他グループの発表を思い出し、自分たちの発表に活かせる手法を検討する。	0.5	時間
7	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 指導教員による授業(関連事項に関する講義、グループ発表準備等)			
		予習	自分達の発表内容について分担を再度確認し、内容を検討すること。	0.5	時間
		復習	他グループの発表を思い出し、自分たちの発表に活かせる手法を検討する。	0.5	時間
8	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 グループ学習・グループ発表			
		予習	自分達の発表内容について分担を再度確認し、詳細を詰めること。	0.5	時間
		復習	他グループの発表を思い出し、自分たちの発表に活かせる手法を検討する。	0.5	時間
9	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 指導教員による授業(関連事項に関する講義、グループ発表講評等)			
		予習	自分達の発表内容について分担を再度確認し、詳細を詰めること。	0.5	時間
		復習	他グループの発表を思い出し、自分たちの発表に活かせる手法を検討する。	0.5	時間
10	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 指導教員による授業(関連事項に関する講義、グループ発表準備等)			
		予習	自分達の発表内容について分担を再度確認し、詳細を詰めること。	0.5	時間
		復習	他グループの発表を思い出し、自分たちの発表に活かせる手法を検討する。	0.5	時間
11	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 指導教員による授業(関連事項に関する講義、グループ発表準備等)			
		予習	自分達の発表内容について分担を再度確認し、メンバーと討論を行うこと。	0.5	時間
		復習	他グループの発表を思い出し、自分たちの発表に活かせる手法を検討する。	0.5	時間
12	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 指導教員による授業(関連事項に関する講義、グループ発表講評等)			
		予習	自分達の発表内容について分担を再度確認し、メンバーと討論を行うこと。	0.5	時間
		復習	他グループの発表を思い出し、自分たちの発表に活かせる手法を検討する。	0.5	時間
13	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 グループ学習・グループ発表			
		予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5	時間
		復習	講義内容を受けて、討論に際して各自で準備を進める。	0.5	時間
14	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容 まとめと討論			
		予習	最終発表に関する指示を受けているため、内容を確認して予習すること。	0.5	時間
		復習	討論した内容について、各自で感じたことなどを指定様式に記入する。	0.5	時間
15	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容 まとめと討論			
		予習	最終発表に関する指示を受けているため、内容を確認して予習すること。	0.5	時間
		復習	討論した内容について、各自で感じたことなどを指定様式に記入する。	1.0	時間
合計時間(予習・復習)				16	時間
備考	・受講するためには、各担当指導教員名(ゼミ)での履修登録が必要。 ・予習・復習についての時間は参考であり、単位修得に必要な時間との差異は各自で補完すること。				

科目名	相談援助演習Ⅰ（専門基幹科目）			科目ナンバリング	SWC202
英文名	Seminar in Social Work PracticeⅠ			講義形態	演習
担当教員	永田 理香、根岸 洋人、大川 健次郎、石坂 公俊、大口 達也				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別	社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	今日、さまざまな人々が社会福祉の支援を必要としている。ソーシャルワーカーとして、利用者や家族とともによりよい問題解決の方法を求める姿勢を身につけ、実践に必要なソーシャルワークの技術を習得する。また、ロールプレイ、個人やグループによる発表・ディスカッション・ディベート、ワークシート作成等を行い、自らの思考を整理し発表する力を獲得する。最終的に、習得した知識と基礎的技術を、実習等で主体的に活用することができる。 授業は演習形式で行います。グループワークを中心に行うので遅刻、欠席には注意すること。復習は、返却された資料を必ず確認し、長期休暇や実習直前にも行い、技術として活用できるようにしましょう。				
到達目標	1.相談援助演習が社会福祉士養成(科目)の中でどのような位置づけを持っているのかを理解し、学ぶ意義が説明できる。 2.自分を他者に伝えるという体験を通して、自分自身のことを意識的に考え、基本的対人関係を培える。 3.利用者とその環境を理解する時の枠組みとなる自身の性格や価値観への考察を深めることができる。 4. 利用者の理解を深めよりよい援助関係をつくる要素として、自己開示を理解し、価値観の多様性が他者理解を深めることを理解できる。 5.コミュニケーションは不完全なものと認識し、言語的・非言語的コミュニケーションの両方を使って送り手の真意を読み取れる感受性や自身のコミュニケーションスタイルへの自己覚知を高める必要性が理解できる。 6.利用者一人ひとりが価値ある存在となるために、社会福祉士がもつべき人間観や福祉観、援助観について学習し、人々の権利を擁護する上で必ず遵守しなければならない倫理原則を知る。 7.演習全体を通して、自らの感性に磨きをかけ、将来的に社会福祉士として現場に従事するために必要な課題や目標等を発見することができる。				
評価方法	担当教員が、ゼミ別実施する。單元ごとに、演習への取組状況(グループワークやロールプレイへの取組姿勢、提出物、課題作成等)により総合的に評価する。なお、演習内容の性質上、以下について留意し出席すること。 1.遅刻・欠席の連絡は、できるだけ事前に担当教員に連絡する 2.演習課題に対し、主体的に判断し、積極的に参加・発言する姿勢を心がける				
使用教材	教科書「ソーシャルワーク演習ワークブック(第2版)」ソーシャルワーク演習教材開発研究会編(みらい) ISBN978-4-86015-284-0 その他、各演習に必要な教材を随時指示・配布する。				
参考文献	授業中に指示する				
課題に対するフィードバック	提出物等について、担当教員がコメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。再提出もありうる。履修者は返却された資料を必ず復習すること。				

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

オフィスアワー (研究室)		担当教員のオフィスアワーについては 5 階実習指導室前の掲示板に掲示		メールアドレス (#→@)	オフィスアワーと同様に掲示
1	講義内容	オリエンテーション・第 1 章 オリエンテーション			
	該当到達目標	予習	シラバス等を読み、演習のねらいを知る		0.5 時間
	1	復習	教科書・配布資料等を基にオリエンテーション内容を再確認して演習の全体像を把握する		1 時間
2	講義内容	第 2 章 アイスブレイキング・演習に向けての準備体操			
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元を読み、演習のねらいと手順を理解する		0.5 時間
	1,2	復習	演習を通して理解したグループメンバーとの関係性、今後の学びを考える		1 時間
3	講義内容	第 3 章 自己理解①自己概念(自己覚知)			
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元を読み、演習のねらいと手順を理解する		0.5 時間
	12,3	復習	教科書や演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる		1 時間
4	講義内容	第 3 章 自己理解②家族関係			
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元を読み、演習のねらいと手順を理解する		0.5 時間
	1,2,3	復習	教科書や演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる		1 時間
5	講義内容	第 4 章 自己開示と他者理解①自己開示			
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元を読み、演習のねらいと手順を理解する		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書や演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる		1 時間
6	講義内容	第 4 章 自己開示と他者理解②共感			
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元を読み、演習のねらいと手順を理解する		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書や演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる		1 時間
7	講義内容	第 4 章 自己開示と他者理解③価値観			
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元を読み、演習のねらいと手順を理解する		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書や演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる		1 時間
8	講義内容	第 3・4 章 ふりかえりとまとめ			
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元を読み、演習のねらいと手順を理解する		0.5 時間
	1,2,3,4,7	復習	教科書や演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる		1 時間
9	講義内容	第 5 章 コミュニケーション①言語的コミュニケーション(基本的なコミュニケーション技術の習得)			
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元を読み、演習のねらいと手順を理解する		0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	教科書や演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる		1 時間
10	講義内容	第 5 章 コミュニケーション②非言語的コミュニケーション			
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元を読み、演習のねらいと手順を理解する。		0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	教科書や演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる		1 時間
11	講義内容	第 5 章 コミュニケーション③ふりかえりとまとめ 0.5			
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元を読み、演習のねらいと手順を理解する。		0.5 時間
	1,2,3,4,7	復習	教科書や演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる		1 時間
12	講義内容	第 6 章 ソーシャルワークの価値と倫理①価値			
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元を読み、演習のねらいと手順を理解する。		0.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	教科書や演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる		1 時間
13	講義内容	第 6 章 ソーシャルワークの価値と倫理②倫理			
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元を読み、演習のねらいと手順を理解する		0.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	教科書や演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる		1 時間
14	講義内容	第 6 章 ソーシャルワークの価値と倫理③ふりかえりとまとめ			
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元を読み、演習のねらいと手順を理解する		0.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4,5,6, 7	復習	教科書や演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	教科書の単元や配布資料を読み、半期の内容・全体像を再確認する	0.5 時間
	1,2,3,4,5,6, 7	復習	演習全体を通して自己の課題を発見し、相談援助演習Ⅱ・Ⅲの目標等を考える	1 時間
合計時間(予習・復習)				22.5 時間
備考	相談援助演習Ⅰで購入したテキストは、2年次の相談援助演習Ⅱ・Ⅲでも継続使用します。最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、まずは担当教員にメールで連絡してください。			

科目名		相談援助演習Ⅱ(専門基幹科目)		科目ナンバリング	SWC203
英文名		Seminar in Social Work PracticeⅡ		講義形態	演習
担当教員		金井 敏、永田 理香、石坂 公俊、戸澤 由美恵、根岸 洋人、大川 健次郎、大口 達也			
科目に関連した実務経験					
学年・開講期		2 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位	
種別		「社会福祉士」「精神保健福祉士」「介護福祉士」指定科目			
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力
		✓	基礎的知識力		応用・実践する能力
		✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 (テーマ・内容)		今日、さまざまな人々が社会福祉の支援を必要としている。ソーシャルワーカーとして、利用者や家族とともにによりよい問題解決の方法を求める姿勢を身につけ、実践に必要なソーシャルワークの技術を習得する。また、ロールプレイ、個人やグループによる発表・ディスカッション・ディベート、ワークシート作成等を行い、自らの思考を整理し発表する力を獲得する。最終的に、習得した知識と基礎的技術を、実習等で主体的に活用することができる。 授業期間全体を通じて、グループワークを中心に学ぶ。			
到達目標		1.コミュニケーションを促進する要素を理解し、ロールプレイ等を通して面接技法を使った面接のイメージがもてる。 2.記録の意味やアセスメント・プランニングの意義を理解し、目標設定と支援計画を作成して具体的な方法を習得する。 3.ケースカンファレンスの意義と運営方法、援助の評価と効果測定の実際を学び、支援や課題等を多角度・客観的に捉えることができる。 4.コミュニティワークのプロセスをふまえ、地域の福祉ニーズの明確化、広報・合意形成、プログラム立案の技術を習得する。			
評価方法		担当教員が、ゼミ別を実施する单元ごとに、演習への取組状況(グループワークやロールプレイへの取組姿勢、提出物、課題作成等)により総合的に評価する。なお、演習内容の性質上、以下について留意すること。 ①遅刻・欠席の連絡は、できるだけ事前に担当教員に連絡する ②演習課題に対し、主体的に判断し、積極的に参加・発言する姿勢を心がける			
使用教材		教科書「ソーシャルワーク演習ワークブック(第2版)」ソーシャルワーク演習教材開発研究会編(みらい) ISBN978-4-86015-284-0 その他、各演習に必要な教材を随時指示・配布する。			
参考文献		各单元や演習に必要な参考文献等は随時周知する。			
課題に対するフィードバック		各ゼミにおいて提出を求めるレポートやワークシート、リアクションペーパー等については、適宜返却を予定している。履修者は返却された資料を必ず復習すること。			
オフィスアワー (研究室)		担当教員のオフィスアワーは5階実習指導室前の掲示板に掲示します。	メールアドレス (#→@)	担当教員のメールアドレスは初回授業時に提示します。	
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	相談援助演習Ⅰの資料を整理し、復習する		1 時間
		復習	教科書の該当单元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する		1 時間
2	講義内容	第7章 面接技法①コミュニケーションと面接(基本的な面接技術の習得) 対人空間や非言語的コミュニケーションを意識的に活用する演習を通して、その重要性を学ぶ			
	該当到達目標 1	予習	教科書の該当单元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する		0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する		1 時間
3	講義内容	第7章 面接技法②面接のイメージを持つ 初回面接の映像を見て、信頼関係を結ぶ面接のイメージをつくる			

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1	予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
4	該当到達目標 1	講義内容 第7章 面接技法③面接技法を体験する ソーシャルワーカー役とクライアント役でロールプレイを行いながら、面接技法を実践する		
		予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
5	該当到達目標 2	講義内容 第8章 記録技法(記録の技術の習得) 逐語録を使用しロールプレイし、フェイスシート、プロセスシートの作成をする		
		予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
6	該当到達目標 2	講義内容 第9章 アセスメントとプランニング①アセスメントの実際(情報の収集・整理・伝達の技術の習得) ロールプレイ面接を行いアセスメントにおける情報の収集と分析およびニーズ把握を理解する		
		予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
7	該当到達目標 2	講義内容 第9章 アセスメントとプランニング②プランニングの実際(課題の発見・分析・解決の技術の習得) メンバー各自がプランニングを行い、その後グループに分かれて分かち合いプランニングを深める		
		予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
8	該当到達目標 3	講義内容 第10章 ケースカンファレンス ケースカンファレンスを開催・運営するうえでの留意点を理解する		
		予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
9	該当到達目標 3	講義内容 第11章 評価と効果測定①相談援助における評価の意義・視点 評価の視点について、一つの相談援助のプログラムを評価することから、理解を深める		
		予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
10	該当到達目標 3	講義内容 第11章 評価と効果測定②相談援助の展開における効果測定の実際 演習を通じて結果の指標となる評価尺度・基準を作成する		
		予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
11	該当到達目標 4	講義内容 第12章 コミュニティワークのプロセス①地域の福祉ニーズ(課題)の明確化 既存の福祉調査から福祉ニーズを分析し、課題を明確にする		
		予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
12	該当到達目標 4	講義内容 第12章 コミュニティワークのプロセス②広報・宣伝活動の意義と方法 明確となった福祉ニーズを住民に理解してもらうための広報紙を作成する		
		予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

13	講義内容	第12章 コミュニティワークのプロセス③プログラム立案とマネジメント 問題を解決するためのボランティア養成プログラムを立案する		
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
14	講義内容	第14章 クロージング 自己の成長や変化、ソーシャルワーカーとしての適正を自己評価する		
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
15	講義内容	まとめ ゼミのメンバーと振り返りを行い、半期の学びを共有する		
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、半期の内容・全体像を再確認する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミのメンバーで行った振り返りで、半期の学びを整理する	1 時間
合計時間(予習・復習)				23 時間
備考	復習は、返却された資料を必ず確認し、長期休暇や実習直前にも行い、技術として活用できるようにしましょう。 テキストは、1年次に相談援助演習Ⅰで購入したものを継続使用しますので、新たに購入の必要はありません。 不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、まずはメールで連絡してください。			

科目名	相談援助演習Ⅲ(専門基幹科目)			科目 ナンバリング	SWC204
英文名	Seminar in Social Work PracticeⅢ			講義形態	演習
担当教員	金井 敏、永田 理香、石坂 公俊、戸澤 由美恵、根岸 洋人、大川 健次郎、大口 達也				
科目に関連した 実務経験					
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別	「社会福祉士」「精神保健福祉士」「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	今日、さまざまな人々が社会福祉の支援を必要としている。ソーシャルワーカーとして、利用者や家族とともによりよい問題解決の方法を求める姿勢を身につけ、実践に必要なソーシャルワークの技術を習得する。また、ロールプレイ、個人やグループによる発表・ディスカッション・ディベート、ワークシート作成等を行い、自らの思考を整理し発表する力を獲得する。最終的に、習得した知識と基礎的技術を実習等で主体的に活用し、応用力を発揮できる。 授業期間全体を通じて、グループワークを中心に学びます。				
到達目標	1.事例研究の意味や方法を学び、支援や課題等を多角度・客観的に捉えて整理・発表することができる。 2.チームワークの重要性を理解し、チームでの取り組みを考えることができる。 3.リーダーシップの重要性を理解し、グループに合ったリーダーシップがとれるようになる。 4.スーパービジョンの必要性や基礎理論を理解し、実習スーパービジョンの機能と方法について理解できる 5.利用者の権利擁護・社会正義、人と環境の相互作用、受容の意味を理解し、個人としての価値観、専門職としての価値観の違いについて考察することができる				
評価方法	担当教員が、ゼミ別に実施する单元ごとに、演習への取組状況(グループワークやロールプレイへの取組姿勢、提出物、課題作成等)により総合的に評価する。なお、演習内容の性質上、以下について留意すること。 ①遅刻・欠席の連絡は、できるだけ事前に担当教員に連絡する ②演習課題に対し、主体的に判断し、積極的に参加・発言する姿勢を心がける				
使用教材	教科書「ソーシャルワーク演習ワークブック(第2版)」ソーシャルワーク演習教材開発研究会編(みらい) ISBN978-4-86015-284-0 その他、各演習に必要な教材を随時指示・配布する。				
参考文献	各单元や演習に必要な参考文献等は随時周知する。				
課題に対する フィードバック	各ゼミにおいて提出を求めるレポートやワークシート、リアクションペーパーについては、適宜返却を予定している。履修者は返却された資料を必ず復習すること。				
オフィスアワー (研究室)	担当教員のオフィスアワーは5階実習指導室前の掲示板に掲示します。		メールアドレス (#→@)	担当教員のメールアドレスは初回授業時に提示します。	
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	相談援助演習Ⅱの資料を整理し、復習する		1 時間
		復習	教科書や配布資料を元に、半期の全体像を理解する		1 時間
2	講義内容	第13章 事例研究①事例研究の基礎知識 事例研究の実践現場での活用例を元に、実習における事例研究のポイントを理解する			
	該当到達目標 1	予習	教科書の該当单元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する		0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する		1 時間
3	講義内容	第13章 事例研究②事例研究の技術 その1 事例の経過を整理する重要性和整理法を踏まえ、事例の着眼点や検討方法のポイントを理解する			

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1	予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
4	講義内容	第13章 事例研究②事例研究の技術 その2 グループ討議形式でのミニ事例研究を通して、ソフトアプローチとハードアプローチの吟味と決断を理解する		
	該当到達目標 1	予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
5	講義内容	第13章 事例研究③事例研究の実践 グループ討議形式で事例研究を実践し、支援者が陥りがちなパターンリズムや福祉マインドの重要性に気づく		
	該当到達目標 1	予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
6	講義内容	第15章 チームワーク①(グループダイナミクス活用技術の習得) コミュニケーション演習を通してチームワークの重要性について学ぶ		
	該当到達目標 2	予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
7	講義内容	第15章 チームワーク② チームで課題に取り組み、チームで起きる様々な事柄について深く考える		
	該当到達目標 2	予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
8	講義内容	第16章 リーダーシップ① リーダーシップの重要性、リーダーシップのスタイルについて学ぶ		
	該当到達目標 3	予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
9	講義内容	第16章 リーダーシップ② 知的障害者の支援事例を通して、リーダーの役割を自覚できるようにする		
	該当到達目標 3	予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
10	講義内容	第17章 スーパービジョン①スーパービジョンの機能と方法 事例検討を通し、スーパーバイザー及びスーパーバイジーに求められる役割について考察する。		
	該当到達目標 4	予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
11	講義内容	第17章 スーパービジョン②実習スーパービジョンの機能と方法 事例検討を通し、実習指導者及び実習生に求められる役割について考察する。		
	該当到達目標 4	予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
		復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
12	講義内容	第18章 ソーシャルワークの視点① グループワークを通し、自らの行動傾向及びその背景にある個人としての価値観について考察する。		
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	5	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
13	講義内容	第18章 ソーシャルワークの視点② 専門職に求められる価値観の形成に向け、自らの課題を整理する。		
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	5	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
14	講義内容	第14章 クロージング 自己の成長や変化、ソーシャルワーカーとしての適正を自己評価する		
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
15	講義内容	まとめ ゼミのメンバーと振り返りを行い、半期の学びを共有する		
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元や配布資料を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	ゼミのメンバーと行った振り返りで、半期の学びを整理する	1 時間
合計時間(予習・復習)				23 時間
備考	復習は、返却された資料やワークシートを必ず確認し、長期休暇や実習直前にも行い、技術として活用できるようにしましょう。 テキストは、1年次に相談援助演習Ⅰで購入したものを継続使用しますので、新たに購入の必要はありません。 不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、まずはメールで担当教員に連絡してください。			

科目名		相談援助演習Ⅳ(専門基幹科目)			科目ナンバリング	SWS205
英文名		Seminar in Social Work PracticeⅣ			講義形態	演習
担当教員		金井 敏、永田 理香、戸澤 由美恵、根岸 洋人、大川 健次郎、石坂 公俊、大口 達也				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		3 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位		
種別		「社会福祉士」「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおいてソーシャルワーカーが活用する基礎的な支援技術を学んだ。この演習Ⅳでは、ソーシャルワーカーが身につけるべき価値・倫理・知識・技術を実践的なさまざまな事例を通して習得する。ソーシャルワーカーの職場は多種多様であり、相談者のニーズも多様化している。対象や分野の異なる事例の相談援助の展開過程として疑似体験しながら学ぶことにより、総合的・包括的な援助について相談援助実習に応用できる力を養うことができる。				
到達目標		1. 課題別の事例を疑似体験し、ソーシャルワーカーの価値や倫理について考察できる。 2. 事例演習を通してインテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結とアフターケアの過程を説明できる 3. 事例演習を通してアウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発について理解できる 4. アセスメントやエコマップなど基本的な情報をまとめ、支援プランを作成することができる。 5. 事例研究の方法を理解し、テキストに記載された事例について検討シートを作成できる。 6. 多職種連携による事例検討の実施方法を説明できる。				
評価方法		演習への取組状況(事例シートの作成、事例の発表・ディスカッション、提出物、課題作成等)により総合的に評価する。なお、演習にのぞむ姿勢やゼミへの貢献度も評価の要素として想定している。				
使用教材		教科書「ソーシャルワーク演習ケースブック(第2版)」ソーシャルワーク演習教材開発研究会編(みらい)ISBN978-4-86015-273-4				
参考文献		その他、演習に必要な教材は各ゼミ担当教員が随時指示・配布する。				
課題に対するフィードバック		学生からの質問や意見は、担当教員が回答やコメントを提示するなど随時フィードバックする。				
オフィスアワー (研究室)		担当教員のオフィスアワーは5階実習指導室前の掲示板に掲示する。		メールアドレス (#→@)	授業にて教員から個別に周知する	
1	講義内容	Chapter1 相談援助演習における事例研究の意味と方法				
	該当到達目標	予習	教科書の該当単元を読み、演習としての事例研究を理解する。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	演習内容を振り返り、事例検討の具体的な実施方法を整理する。			1 時間
2	講義内容	Chapter2 インシデント事例からソーシャルワークの意味を知る 差別・偏見(社会正義・社会的排除)				
	該当到達目標	予習	教科書の該当事例を読み、事例をイメージできるようにする。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	事例におけるワーカーの価値や倫理を確認する。			1 時間
3	講義内容	Chapter2 インシデント事例からソーシャルワークの意味を知る 自立支援(ホームレス)				
	該当到達目標	予習	教科書の該当事例を読み、事例をイメージできるようにする。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	事例におけるワーカーの価値や倫理を確認する。			1 時間
4	講義内容	Chapter2 インシデント事例からソーシャルワークの意味を知る クライアントの利益の最優先				
	該当到達目標	予習	教科書の該当事例を読み、事例をイメージできるようにする。			0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4	復習	事例におけるワーカーの価値や倫理を確認する。	1 時間
5	講義内容	Chapter2 インシデント事例からソーシャルワークの意味を知る 受容・非審判的態度(低所得者)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当事例を読み、事例をイメージできるようにする。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	事例におけるワーカーの価値や倫理を確認する。	1 時間
6	講義内容	Chapter3 ソーシャルワークのプロセスを理解する事例 児童虐待を受けて児童養護施設に入所した子どもと家族への支援事例		
	該当到達目標	予習	教科書の該当事例を読み、事例についてワーカーの支援方法をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	事例から学べたことを振り返り、実習で活用できる支援方法などを整理する。	1 時間
7	講義内容	Chapter3 ソーシャルワークのプロセスを理解する事例 小児科(急性期病院)での家族支援の事例		
	該当到達目標	予習	教科書の該当事例を読み、事例についてワーカーの支援方法をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	事例から学べたことを振り返り、実習で活用できる支援方法などを整理する。	1 時間
8	講義内容	Chapter3 ソーシャルワークのプロセスを理解する事例 特別養護老人ホームへの新規入所者の支援事例		
	該当到達目標	予習	教科書の該当事例を読み、事例についてワーカーの支援方法をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	事例から学べたことを振り返り、実習で活用できる支援方法などを整理する。	1 時間
9	講義内容	Chapter3 ソーシャルワークのプロセスを理解する事例 デイサービス利用時にわかった家庭内の高齢者虐待の事例		
	該当到達目標	予習	教科書の該当事例を読み、事例についてワーカーの支援方法をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	事例から学べたことを振り返り、実習で活用できる支援方法などを整理する。	1 時間
10	講義内容	Chapter3 ソーシャルワークのプロセスを理解する事例 認知症の夫を介護する妻への支援事例		
	該当到達目標	予習	教科書の該当事例を読み、事例についてワーカーの支援方法をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	事例から学べたことを振り返り、実習で活用できる支援方法などを整理する。	1 時間
11	講義内容	Chapter3 ソーシャルワークのプロセスを理解する事例 知的障害者の地域生活移行支援の事例		
	該当到達目標	予習	教科書の該当事例を読み、事例についてワーカーの支援方法をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	事例から学べたことを振り返り、実習で活用できる支援方法などを整理する。	1 時間
12	講義内容	Chapter3 ソーシャルワークのプロセスを理解する事例 金銭管理・福祉サービス利用に関する相談事例		
	該当到達目標	予習	教科書の該当事例を読み、事例についてワーカーの支援方法をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	事例から学べたことを振り返り、実習で活用できる支援方法などを整理する。	1 時間
13	講義内容	Chapter4 地域福祉活動の事例(地域福祉の計画) 地域福祉計画・活動計画を行政と社会福祉協議会とで協働して策定する事例		
	該当到達目標	予習	教科書の該当事例を読み、事例についてワーカーの支援方法をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	事例から学べたことを振り返り、実習で活用できる支援方法などを整理する。	1 時間
14	講義内容	Chapter4 地域福祉活動の事例(地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握) 子どもが参加する福祉教育の事例		
	該当到達目標	予習	教科書の該当事例を読み、事例についてワーカーの支援方法をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	事例から学べたことを振り返り、実習で活用できる支援方法などを整理する。	1 時間
15	講義内容	まとめ 事例研究の意味と方法について確認する		
	該当到達目標	予習	半期の事例検討の内容を振り返る。	1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4,5	復習	実習時に行う事例検討の実施方法や内容を検討する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				23 時間
備考	本科目は実習指導ゼミと並行して進めるので、実習計画書づくりと連動していることに留意してください。メンバーも実習指導ゼミと同じです。実習が円滑にすすむように、ゼミ生同士で学ぶ姿勢を欠かさないようにしましょう。最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完してください。			

科目名		相談援助演習Ⅴ(専門基幹科目)			科目ナンバリング	SWS206
英文名		Seminar in Social Work PracticeⅤ			講義形態	演習
担当教員		金井 敏、永田 理香、戸澤 由美恵、根岸 洋人、大川 健次郎、石坂 公俊、大口 達也				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		3 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位		
種別		「社会福祉士」「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		相談援助に関わる知識と技術について「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」で学んだことを基に、相談援助実習での個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として修得する。最終的には、社会福祉士としての価値と倫理を確立することを目的とする。				
到達目標		7. 自身が体験した個別事例を報告書にまとめ検討することができる 8. 個別の事例を一般化し、学習した理論と結びつけて考えることができる 9. 社会福祉としての価値と倫理を自分自身の中で確立する				
評価方法		演習への参加姿勢と貢献度、ワークシートの記載内容、提出物等で総合的に評価する				
使用教材		教科書「ソーシャルワーク演習ケースブック(第2版)」ソーシャルワーク演習教材開発研究会編(みらい)ISBN978-4-86015-273-4				
参考文献		その他、演習に必要な教材は各ゼミ担当教員が随時指示・配布する。				
課題に対するフィードバック		授業中に随時行う。また、事例報告書の作成については授業時間外でも随時実施する				
オフィスアワー (研究室)		担当教員のオフィスアワーは5階実習指導室前の掲示板に掲示する。		メールアドレス (#→@)	授業にて教員から個別に周知する	
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当到達目標	予習	実習ノート等の必要資料を整理し揃える			0.5 時間
	1,2,3	復習	事例報告のルールを確認する			1 時間
2	講義内容	個別事例の報告と検討				
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備、発表内容に合わせて制度、社会資源を確認しておく			1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を振り返り、援助技術の理論と結びつけて考える			0.5 時間
3	講義内容	個別事例の報告と検討				
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備、発表内容に合わせて制度、社会資源を確認しておく			1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を振り返り、援助技術の理論と結びつけて考える			0.5 時間
4	講義内容	個別事例の報告と検討				
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備、発表内容に合わせて制度、社会資源を確認しておく			1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を振り返り、援助技術の理論と結びつけて考える			0.5 時間
5	講義内容	個別事例の報告と検討				
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備、発表内容に合わせて制度、社会資源を確認しておく			1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を振り返り、援助技術の理論と結びつけて考える			0.5 時間
6	講義内容	個別事例の報告と検討				
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備、発表内容に合わせて制度、社会資源を確認しておく			1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を振り返り、援助技術の理論と結びつけて考える			0.5 時間
7	講義内容	個別事例の報告と検討				
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備、発表内容に合わせて制度、社会資源を確認しておく			1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を振り返り、援助技術の理論と結びつけて考える			0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

8	講義内容	個別事例の報告と検討		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備、発表内容に合わせて制度、社会資源を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を振り返り、援助技術の理論と結びつけて考える	0.5 時間
9	講義内容	個別事例の報告と検討		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備、発表内容に合わせて制度、社会資源を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を振り返り、援助技術の理論と結びつけて考える	0.5 時間
10	講義内容	個別事例の報告と検討		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備、発表内容に合わせて制度、社会資源を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を振り返り、援助技術の理論と結びつけて考える	0.5 時間
11	講義内容	個別事例の報告と検討		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備、発表内容に合わせて制度、社会資源を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を振り返り、援助技術の理論と結びつけて考える	0.5 時間
12	講義内容	個別事例の報告と検討		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備、発表内容に合わせて制度、社会資源を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を振り返り、援助技術の理論と結びつけて考える	0.5 時間
13	講義内容	個別事例の報告と検討		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備、発表内容に合わせて制度、社会資源を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を振り返り、援助技術の理論と結びつけて考える	0.5 時間
14	講義内容	個別事例の報告と検討		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備、発表内容に合わせて制度、社会資源を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を振り返り、援助技術の理論と結びつけて考える	0.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでに発表された資料をまとめる	1 時間
	1,2,3	復習	自分自身の経験と重ねて社会福祉士として必要な価値と倫理について考える	1 時間
合計時間(予習・復習)				23 時間
備考	本科目は実習指導ゼミと並行して進めるので、留意してください。メンバーも実習指導ゼミと同じです。実習が円滑にすすむように、ゼミ生同士で学ぶ姿勢を欠かさないようにしましょう。 最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完してください			

科目名	特別講座 I（専門基幹科目）			科目 ナンバリング	SWC207
英文名	Special Lectureship I			講義形態	演習
担当教員	社会福祉学科教員				
科目に関連した 実務経験					
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針 との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	福祉・介護ニーズは多様化・複雑化しており、質の高いサービスを確保するためには、従事者の確保と共に、専門性の向上を図ることが求められてきている。そこで本科目では、高い倫理性に基づき福祉社会の発展に積極的に関わることができる専門職の育成を目指し、福祉実践に活かせる知識・技術の体系的理解及び応用力の形成を目的とする。 段階的に設定した課題への取り組みを中心に学習を進める。単元の終わりには小テスト、期末には総合試験を行い、学習課題の定着度を測定する。				
到達目標	1.福祉・介護ニーズの多様化・複雑化に伴い求められる、福祉の専門性について理解することができる。 2.福祉専門職に求められる価値・倫理に基づき、利用者理解の視点を明確化することができる。 3.対人援助に関する理論と実践を統合し、福祉現場で応用する力を身につけることができる。				
評価方法	定期試験 80%、課題提出 20%で評価する。総合評価 60%以上で合格とする。				
使用教材	適宜参考資料等を配布する。				
参考文献					
課題に対する フィードバック	提出された課題については、担当教員が内容を確認しフィードバックを行なう。返却された課題は必ず復習を行なうこと。				
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。	メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。		
講義内容	アクティブラーニングの手法を用い、現在の福祉専門職に求められる能力について多面的な考察を行なう。また、ポートフォリオシステムを活用し、学生が学習過程を省察してまとめるプロセスを通して、将来に向けた自己の課題を明確化できるよう支援する。				
	予習	学習課題における重要語句を調べ、考察の視点を明確化する。			毎 1.5 時間
	復習	学習過程を省察し、自己の課題を明確化する。			毎 1.5 時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	予習・復習については、試験前の学習で補完すること。				

科目名	特別講座Ⅱ（専門基幹科目）			科目 ナンバリング	SWC208
英文名	Special LectureshipⅡ			講義形態	演習
担当教員	社会福祉学科教員				
科目に関連した 実務経験					
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針 との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	福祉・介護ニーズは多様化・複雑化しており、質の高いサービスを確保するためには、従事者の確保と共に、専門性の向上を図ることが求められてきている。そこで本科目では、高い倫理性に基づき福祉社会の発展に積極的に関わることができる専門職の育成を目指し、福祉実践に活かせる知識・技術の体系的理解及び応用力の形成を目的とする。 段階的に設定した課題への取り組みを中心に学習を進める。単元の終わりには小テスト、期末には総合試験を行い、学習課題の定着度を測定する。				
到達目標	1.福祉専門職としてのキャリアを主体的にデザインできる力を身につける。 2.国家資格取得の意味とキャリア形成との関わりについて理解することができる。 3.福祉専門職に求められる社会人基礎力について理解することができる。				
評価方法	定期試験 80%、課題提出 20%で評価する。総合評価 60%以上で合格とする。				
使用教材	適宜参考資料等を配布する。				
参考文献					
課題に対する フィードバック	提出された課題については、担当教員が内容を確認しフィードバックを行なう。返却された課題は必ず復習を行なうこと。				
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。	メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。		
講義内容	アクティブラーニングの手法を用い、現在の福祉専門職に求められる能力について多面的な考察を行なう。また、ポートフォリオシステムを活用し、学生が学習過程を省察してまとめるプロセスを通して、将来に向けた自己の課題を明確化できるよう支援する。				
	予習	学習課題における重要語句を調べ、考察の視点を明確化する。			毎 1.5 時間
	復習	学習過程を省察し、自己の課題を明確化する。			毎 1.5 時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	予習・復習については、試験前の学習で補完すること。				

科目名	社会保障Ⅰ（専門基幹科目）				科目ナンバリング	SWS301
英文名	Social SecurityⅠ				講義形態	講義
担当教員	石坂 公俊					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位			
種別	「社会福祉士」「精神保健福祉士」指定科目					
学位授与方針との対応		豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力			応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	1.社会保障制度の概要及び公的年金制度, 医療保険制度を理解する。 2.社会福祉士・精神保健福祉士等の業務を遂行するのに必要な社会保障制度の知識の修得を図る。 上記 2 つを講義目標とし, 基本的に講義形式で行うが, 講義の中では VTR 等も援用する。					
到達目標	1.社会保障制度の概要を他の制度と関連付けて有機的に理解できる。 2.社会保障関連項目の財源構成等を諸外国の比較的視点を併せて理解できる。 3.公的年金制度を理解できる。 4.医療保険制度を理解できる。					
評価方法	学修意欲(10%), リアクションペーパー(10%), 中間試験(30%), 期末試験(50%)					
使用教材	『社会保障』中央法規出版					
参考文献	特記事項なし					
課題に対するフィードバック	授業時に実施する国家試験過去問題は解説を行う 提出されたリアクションペーパーに対してコメントを付けて返却する					
オフィスアワー (研究室)	水曜日 4 時限, 質問はメールでも受け付ける。(1 号館 5 階 503 研究室)		メールアドレス (#→@)		kimi#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当到達目標	予習	シラバスを読み, 講義目標, 到達目標, 講義計画などを理解する。			1.5 時間
	1	復習	オリエンテーションで説明した講義目標, 到達目標, 講義計画, 成績評価方法などを確認する。			1 時間
2	講義内容	現代社会と社会保障				
	該当到達目標	予習	テキスト第 1 章までを精読し, 疑問点, 確認したい事項などをまとめておく。			1 時間
	1,2	復習	配付した資料を精読し, 講義内容の整理及び確認をする。			1.5 時間
3	講義内容	社会保障の歴史				
	該当到達目標	予習	テキスト第 2 章を精読し, 疑問点, 確認したい事項などをまとめておく。			1 時間
	1,2	復習	配付した資料を精読し, 講義内容の整理及び確認をする。			1.5 時間
4	講義内容	社会保障の構造				
	該当到達目標	予習	テキスト第 3 章を精読し, 疑問点, 確認したい事項などをまとめておく。			1 時間
	1,2	復習	配付した資料を精読し, 講義内容の整理及び確認をする。			1.5 時間
5	講義内容	社会保障の財源と費用				
	該当到達目標	予習	テキスト第 4 章を精読し, 疑問点, 確認したい事項などをまとめておく。			1 時間
	1,2	復習	配付した資料を精読し, 講義内容の整理及び確認をする。			1.5 時間
6	講義内容	社会保障の概要, 中間まとめ				

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2	予習	これまで配付した資料を精読し、要点をまとめておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
7	講義内容	年金保険制度①沿革と概要		
	該当到達目標 3	予習	テキスト第５章第１節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
8	講義内容	年金保険制度②国民年金制度と厚生年金制度		
	該当到達目標 3	予習	テキスト第５章第２節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
9	講義内容	年金保険制度③年金保険制度をめぐる諸動向		
	該当到達目標 3	予習	テキスト第５章第３節及び第４節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
10	講義内容	年金保険制度④年金制度まとめ		
	該当到達目標 3	予習	これまで配付した資料を精読し、要点をまとめておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
11	講義内容	医療保険制度①医療保険制度の沿革と概要		
	該当到達目標 4	予習	テキスト第６章第１節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
12	講義内容	医療保険制度②健康保険制度と国民健康保険制度		
	該当到達目標 4	予習	テキスト第６章第２節、第３節及び第４節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
13	講義内容	医療保険制度③国民医療費と医療をめぐる動向		
	該当到達目標 4	予習	テキスト第６章第５節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
14	講義内容	医療保険制度④医療保険制度まとめ		
	該当到達目標 1,2,4	予習	これまで配付した資料を精読し、要点をまとめておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
15	講義内容	講義のまとめ、試験対策など		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	これまでの学修内容を整理し、疑問点、確認したいことなどをまとめておく。	1.5 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。定期テストの準備を行う。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				38 時間
備考	指定した教科書の該当頁は事前に通読しておくこと。リアクションペーパーを課すことがあるが、提出されたものを受講者で情報共有するケースもあるのでそのつもりで提出すること。 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。			

科目名	社会保障Ⅱ（専門展開科目）			科目 ナンバリング	SWS302
英文名	Social SecurityⅡ			講義形態	講義
担当教員	原田 欣宏				
科目に関連した 実務経験	介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務（経験）				
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別	「社会福祉士」「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針 との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	この講義では、社会福祉制度全般を取り扱う。分野別で学んだ知識と実習で体感した実践を結びつけるために、制度全般を概観しつつ、近年の分野別の問題が社会全般に与える影響を立体的に理解することを目的とする。 授業は教科書と配布資料で講義を行い、PowerPoint で要点を説明する。全講義の半分（8 回）が終了したところを目途に課題としてレポートを実施する。				
到達目標	1.介護保険と労働保険の制度を現在の社会問題と関連づけて理解する■ 2.社会福祉制度が対応する社会保障の範囲について理解する 3.社会保障における今後の課題を理解することができる 4.諸外国の制度と比較して日本における課題を理解することができる				
評価方法	課題 10%, 期末試験 90%, 総合評価で 60%以上を合格とする				
使用教材	『社会保障』 中央法規出版				
参考文献					
課題に対する フィードバック	課題は、提出期限後に授業内にて解説を行う。期末試験は、試験終了後に出題意図を説明する。				
オフィスアワー （研究室）	火曜 3 限		メールアドレス （#→@）	harada#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	ガイダンス			
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読み、講義目標、到達目標、講義計画などを理解する		1.5 時間
		復習	ガイダンスで説明した内容を確認する。		1.5 時間
2	講義内容	介護保険制度①介護保険制度創設の経緯、介護保険制度の概要■			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書第 7 章を読み、疑問点を質問できるように準備する		1.5 時間
		復習	1990 年代の介護保険創設期に創設、改訂された法制度を整理する		1.5 時間
3	講義内容	介護保険制度②介護保険制度をめぐる最近の動向■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書第 7 章を読み、疑問点を質問できるように準備する		1.5 時間
		復習	2025 年問題について整理する。		1.5 時間
4	講義内容	労働保険制度①労働保険制度の概要と沿革、労働者災害補償保険			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書第 8 章を読み、疑問点を質問できるように準備する		1.5 時間
		復習	雇用保険と労働保険の違いを整理する。		1.5 時間
5	講義内容	労働保険制度②雇用保険、求職者支援制度、労働保険制度をめぐる最近の動向			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書第 8 章を読み、疑問点を質問できるように準備する		1.5 時間
		復習	求職者支援について、具体的な制度をあげて対象者の要件を整理する		1.5 時間
6	講義内容	社会福祉制度①社会福祉制度の沿革と概要、生活保護制度（公的扶助）			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書第 9 章を読み、疑問点を質問できるように準備する		1.5 時間
		復習	1945 年敗戦後より 1980 年ころまでの所得補償中心政策の概要をまとめる		1.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

7	講義内容	社会福祉制度②児童福祉, 障害者福祉		
	該当到達目標	予習	教科書第 9 章を読み, 疑問点を質問できるように準備する	1.5 時間
	1,2,3	復習	2000 年代に入ってから改定された制度の趣旨を整理する	1.5 時間
8	講義内容	社会福祉制度③ひとり親家庭の支援, 高齢者福祉, 社会手当制度		
	該当到達目標	予習	教科書第 9 章を読み, 疑問点を質問できるように準備する	1.5 時間
	1,2	復習	ひとり親支援の具体的な政策について整理する	1.5 時間
9	講義内容	社会保障と民間保険①民間保険に期待される役割, 古典的な社会保険と民間保険の比較		
	該当到達目標	予習	教科書第 10 章を読み, 疑問点を質問できるように準備する	1.5 時間
	1,2	復習	民間保険に期待される役割を整理する	1.5 時間
10	講義内容	社会保障と民間保険②民間保険の概要, 企業年金と個人年金		
	該当到達目標	予習	教科書第 10 章を読み, 疑問点を質問できるように準備する	1.5 時間
	1,2,3	復習	企業年金の役割について整理する	1.5 時間
11	講義内容	社会保障が当面する課題①少子化の動向, 少子化への取り組み		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 章を読み, 疑問点を質問できるように準備する	1.5 時間
	1,2	復習	少子高齢化の統計資料を確認し, 実施している政策を整理する	1.5 時間
12	講義内容	社会保障が当面する課題②労働市場への変化と社会保障		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 章を読み, 疑問点を質問できるように準備する	1.5 時間
	1,2,3	復習	高齢者の労働と現在の政策との関係性を整理する	1.5 時間
13	講義内容	諸外国における社会保障制度①社会保障の類型		
	該当到達目標	予習	教科書第 12 章を読み, 疑問点を質問できるように準備する	1.5 時間
	1,2,4	復習	類型ごとに当てはまる諸国と, その政策の特徴を整理する	1.5 時間
14	講義内容	諸外国における社会保障制度②諸外国の社会保障		
	該当到達目標	予習	教科書第 12 章を読み, 疑問点を質問できるように準備する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書に挙げた諸国の歴史的背景と社会保障政策のつながりを整理する	1.5 時間
15	講義内容	諸外国における社会保障制度③社会保障の国際化, まとめ		
	該当到達目標	予習	この講義をとおしての疑問点を質問できるように準備する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	諸国の労働事情を整理する, この授業全体の不明な点を整理する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名		地域福祉の理論と方法Ⅰ（専門展開科目）		科目ナンバリング	SWS303
英文名		Theory and Method of Community careⅠ		講義形態	講義
担当教員		金井 敏			
科目に関連した実務経験		地域福祉の実践主体である社会福祉協議会に勤務し、市町村社会福祉協議会やボランティアセンター、社会福祉法人・施設、民生委員・児童委員、里親などの支援業務に従事していました。現在、行政の計画づくりや社会福祉法人の役員など実務に携わっています。			
学年・開講期		2年 前期	選必・単位数	選択 2単位	
種別		「社会福祉士」「精神保健福祉士」指定科目			
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力
		✓	基礎的知識力		応用・実践する能力
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 (テーマ・内容)		地域福祉の推進は、今後の社会福祉実践や政策を展開するうえで基調的なものであり、メインストリームとなっています。この講義では、地域福祉の実践や理論の歴史、地域福祉の主体者としての地域住民や行政、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、専門職などの社会資源、福祉サービスと評価、権利擁護、災害支援、英米の地域福祉など多岐にわたる実践領域を学びます。日々変化する地域福祉の実相をリアルに捉え、将来のソーシャルワーカーとして地域福祉を活用できる力を養います。さらに、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に合格する学習水準を獲得することを目標とします。 毎回の授業は、前回の振り返りまたは地域福祉に関する映像資料の視聴、テーマに基づく講義、ディスカッション、小テストまたは小レポート、次週の予定、という流れで進めます。			
到達目標		1.地域福祉の歴史的展開を踏まえて、新しいサービスシステムとしての地域福祉について説明できる。■ 2.行政と住民の協働の視点から、地域組織や福祉団体などの主体形成と社会資源について説明できる。■ 3.ニーズ把握やサービス開発などコミュニティソーシャルワークの機能について説明できる。■ 4.地域自立支援の諸活動、福祉サービスの評価について説明できる。■ 5.日本の地域福祉に影響を与えたイギリスとアメリカにおける福祉の歴史と実践を説明できる。■			
評価方法		成績評価 ①期末試験による評価 70% ②毎回の授業時に課す小テストまたはレポート等による評価 30% その他の評価 ①授業開講数の 2/3 以上を出席することにより、成績の評価対象とします。 ②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出(要添付書類)を提出すれば出席扱いとします。なお、15 分以上の遅刻は欠席とみなします。			
使用教材		教科書「地域福祉の理論と方法(第3版)」社会福祉養成講座編集委員会(中央法規出版) ISBN 978-4-8058-5105-0			
参考文献		その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付します。			
課題に対するフィードバック		リアクションペーパー等による質問や意見については授業のなかで回答するなど、随時、学生にフィードバックする。			
オフィスアワー (研究室)		月曜日 12 時 15 分～13 時 水曜日 12 時 15 分～13 時 で相談に応じます。 研究室:1 号館 3 階 310 研究室。	メールアドレス (#→@)	kanai#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	授業に関するガイダンス、地域福祉にのぞむ姿勢			
	該当到達目標	予習	教科書の全体構成、シラバスの講義目標や内容に目を通し、理解する。		2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価の方法などを確認する。		1.5 時間
2	講義内容	新しい社会福祉システムとしての地域福祉■			
	該当到達目標	予習	教科書の第1章 第1節～第5節を読む。		1 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	地域福祉の発展や位置づけ, 住民との関係, 新しい生活課題などを理解する。	1.5 時間
3	講義内容	地域福祉の理論の発展と広がり■		
	該当到達目標	予習	教科書の第２章 第１節を読む。	1 時間
	1,2,5	復習	地域福祉の概念や理論の展開の歴史などを理解する。	1.5 時間
4	講義内容	地域福祉の理念と圏域, 組織のタイプ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第２章 第２～４節を読む。自分の生活する圏域名を調べる。	2.5 時間
	1,2	復習	地域自立生活の視点や福祉圏域の設定, コミュニティ型とアソシエーション型の連携を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	地域福祉の主体と福祉教育■		
	該当到達目標	予習	教科書の第３章 第１～３節を読む。	1 時間
	1,2	復習	地域福祉と福祉教育の関係, 福祉教育の内容を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	地方分権化と地域福祉計画■		
	該当到達目標	予習	教科書の第４章 第１節を読む。地元市町村の福祉計画を調べる。	3 時間
	1,2	復習	地域福祉計画の定義や内容を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	社会福祉協議会の組織と歴史■		
	該当到達目標	予習	教科書の第４章 第２節を読む。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	社会福祉協議会の組織構成, 歴史, 法的使命を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	社会福祉協議会の現状と課題■		
	該当到達目標	予習	教科書の第４章 第２節を読む。地元市町村の社協活動を調べる。	3 時間
	1,2,3,4	復習	社会福祉協議会の課題や組織のあり方などを理解する。	1.5 時間
9	講義内容	社会福祉法人の役割と意義■		
	該当到達目標	予習	教科書の第４章 第３節を読む。地元の社会福祉法人の地域公益事業を調べる。	2 時間
	1,2,3,4	復習	社会福祉法人の概要や法人改革と地域貢献などを理解する。	1.5 時間
10	講義内容	特定非営利活動法人の役割■		
	該当到達目標	予習	教科書の第４章 第４節を読む。地元の特定非営利活動法人の活動を調べる。	2 時間
	1,2,4	復習	特定非営利活動法人の概要と市民活動の役割を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	民生委員・児童委員の役割■		
	該当到達目標	予習	教科書の第４章 第５節を読む。地元の民生委員・児童委員の活動を調べる。	2 時間
	1,2	復習	民生委員・児童委員の職務と組織, 活動内容, 課題などを理解する。	1.5 時間
12	講義内容	福祉コミュニティビジネスと企業の社会貢献		
	該当到達目標	予習	教科書の第４章 第６節を読む。	1 時間
	1,2	復習	コミュニティビジネスや企業の社会貢献の実際と課題について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	コミュニティソーシャルワークの考え方■		
	該当到達目標	予習	教科書の第５章 第１～２節を読む。	1 時間
	1,2,3	復習	コミュニティソーシャルワークの考えたかや展開方法などを理解する。	1.5 時間
14	講義内容	コミュニティソーシャルワークの方法とアプローチ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第５章 第３～４節を読む。専門職の資格を調べる。	2 時間
	1,2,3	復習	コミュニティソーシャルワークの基本的な展開プロセスやマネジメント, 多職種連携のあり方について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	専門職と住民の関係■		
	該当到達目標	予習	教科書の第５章 第５節を読む。	1 時間
	1,2,3,4	復習	地域組織化と専門職の役割, 住民主体の支援方法を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

備考	●期末試験の準備として8時間以上の復習時間を確保してください。なお、学生の出身市町村の福祉の実態や計画の策定状況を調べるなど予習を課します。また、日ごろから新聞を読む、地域の情報を調べる、ボランティア活動に参加するなど、地域福祉について関心を高めておいてください。 ●シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表しています。

科目名		地域福祉の理論と方法Ⅱ（専門展開科目）		科目ナンバリング	SWS304
英文名		Theory and Method of Community careⅡ		講義形態	講義
担当教員		金井 敏			
科目に関連した実務経験		地域福祉の実践主体である社会福祉協議会に勤務し、市町村社会福祉協議会やボランティアセンター、社会福祉法人・施設、民生委員・児童委員、里親などの支援業務に従事していました。現在、行政の計画づくりや社会福祉法人の役員など実務に携わっています。			
学年・開講期		2 年 後期	選必・単位数	選択	2 単位
種別		「社会福祉士」「精神保健福祉士」指定科目			
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力
		✓	基礎的知識力		応用・実践する能力
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 (テーマ・内容)		地域福祉の推進は、今後の社会福祉実践や政策を展開するうえで基調的なものであり、メインストリームとなっています。この講義では、地域福祉の実践や理論の歴史、地域福祉の主体者としての地域住民や行政、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、専門職などの社会資源、福祉サービスと評価、権利擁護、災害支援、英米の地域福祉など多岐にわたる実践領域を学びます。日々変化する地域福祉の実相をリアルに捉え、将来のソーシャルワーカーとして地域福祉を活用できる力を養います。さらに、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に合格する学習水準を獲得することを目標とします。 毎回の授業は、前回の振り返りまたは地域福祉に関する映像資料の視聴、テーマに基づく講義、ディスカッション、小テストまたは小レポート、次週の予定、という流れで進めます。			
到達目標		1.地域福祉の歴史的展開を踏まえて、新しいサービスシステムとしての地域福祉について説明できる。■ 2.行政と住民の協働の視点から、地域組織や福祉団体などの主体形成と社会資源について説明できる。■ 3.ニーズ把握やサービス開発などコミュニティソーシャルワークの機能について説明できる。■ 4.地域自立支援の諸活動、福祉サービスの評価について説明できる。■ 5.日本の地域福祉に影響を与えたイギリスとアメリカにおける福祉の歴史と実践を説明できる。■			
評価方法		成績評価 ①期末試験による評価 70% ②毎回の授業時に課す小テストまたはレポート等による評価 30% その他の評価 ①授業開講数の 2/3 以上を出席することにより、成績の評価対象とします。 ②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出(要添付書類)を提出すれば出席扱いとします。なお、15 分以上の遅刻は欠席とみなします。			
使用教材		教科書「地域福祉の理論と方法(第 3 版)」社会福祉養成講座編集委員会(中央法規出版) ISBN 978-4-8058-5105-0			
参考文献		その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付します。			
課題に対するフィードバック		リアクションペーパー等による質問や意見については授業のなかで回答するなど、随時、学生にフィードバックする。			
オフィスアワー (研究室)		月曜日 12 時 15 分～13 時 水曜日 12 時 15 分～13 時 で相談に応じます。 研究室:1 号館 3 階 310 研究室。	メールアドレス (#→@)	kanai#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	地域福祉推進における住民参加の意義■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第 6 章 第 1 節を読む。		1 時間
		復習	住民の捉え方、住民参加の形態と役割を理解する。		1.5 時間
2	講義内容	市町村行政における住民参加■			
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章 第 2 節を読む。		1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3	復習	地方分権改革, 福祉行政・福祉計画の策定と住民参加などを理解する。	1.5 時間
3	講義内容	住民の代表性と参加方法■		
	該当到達目標	予習	教科書の第6章 第3節を読む。自身の福祉への参加状況を調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	住民参加のレベルや参加保障を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	ソーシャルサポートネットワーク■		
	該当到達目標	予習	教科書の第7章 第1～2節を読む。	1 時間
	1,2,3	復習	助けあいの歴史, フォーマルとインフォーマルの違い, エコロジカルアプローチなど理解する。	1.5 時間
5	講義内容	地域における社会資源の活用と開発■		
	該当到達目標	予習	教科書の第8章 第1～2節を読む。自分が活用している社会資源を調べる。	3 時間
	1,2,3,4	復習	社会資源の活用の意義, サービスの開発方法などを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	地域における財源確保とまちづくり■		
	該当到達目標	予習	教科書の第8章 第3～4節を読む。民間の助成金を調べる。	2 時間
	1,2,3	復習	法人税や優遇税制, 助成金, まちづくりとソーシャルアクションを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	地域における福祉ニーズの把握方法と実際■		
	該当到達目標	予習	教科書の第9章 第1～2節を読む。論文3つのニーズを読む。	3 時間
	1,2,3	復習	アウトリーチの手法, 福祉ニーズの把握方法を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	地域トータルケアシステムの構築と実際■		
	該当到達目標	予習	教科書の第10章 第1～3節を読む。	1 時間
	1,2,3	復習	保健・医療・福祉・介護の連携とトータルケアシステムの構築の実際を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	ソーシャルケア従事者の研修と組織化■		
	該当到達目標	予習	教科書の第10章 第4節を読む。連携する専門職を調べる。	2 時間
	1,2,3,4	復習	ソーシャルケア従事者, 研修の実施と組織づくりを理解する。	1.5 時間
10	講義内容	地域における福祉サービスの評価方法と実際■		
	該当到達目標	予習	教科書の第11章 第1～3節を読む。都道府県福祉サービス第三者評価事業の実施状況を調べる。	2 時間
	3,4	復習	福祉サービス評価の背景, 評価の考え方, 評価方法を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	福祉サービスのプログラム評価, 福祉サービスの利用援助■		
	該当到達目標	予習	教科書の第11章 第4節を読む。日常生活自立支援事業を調べる。	2 時間
	3,4	復習	福祉サービスのプログラム評価の方法, 日常生活自立支援事業・運営適正化委員会などを理解する。	1.5 時間
12	講義内容	災害支援と地域福祉■		
	該当到達目標	予習	教科書の第12章 第1～2節を読む。災害時の住民の助けあいや福祉専門職が果たす役割を調べる。	3 時間
	2,3,4	復習	災害支援の法律や考え方, 災害支援の実際などを理解する。	1.5 時間
13	講義内容	日本の地域福祉に影響を与えたイギリスの考え方		
	該当到達目標	予習	教科書の第13章 第1節を読む。	1 時間
	5	復習	イギリスのソーシャルワーク体制, コミュニティケア改革, 日本への影響などを理解する。	1.5 時間
14	講義内容	日本の地域福祉に影響を与えたアメリカの考え方■		
	該当到達目標	予習	教科書の第13章 第2節を読む。	1 時間
	5	復習	アメリカのソーシャルワークの特徴, コミュニティでの展開などを理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ 地域福祉の実践手法とソーシャルワーカーのあり方		
	該当到達目標	予習	教科書の全体を振り返る。自身の関心や地域福祉の公私の仕組み, 共助のあり方などについて考える。	1 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4,5	復習	地域福祉の実践手法としての住民活動や行政施策, 社協や法人の福祉実践, ソーシャルワーカーのあり方について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間
備考	●期末試験の準備として 8 時間以上の復習時間を確保してください。なお, 学生の出身市町村の福祉の実態や計画の策定状況を調べるなど予習を課します。また, 日ごろから新聞を読む, 地域の情報を調べる, ボランティア活動に参加するなど, 地域福祉について関心を高めておいてください。 ●シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表しています。			

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度(専門展開科目)			科目 ナンバリング	SWS305	
英文名	Social Support for Low Income Families and Public Assistance			講義形態	講義	
担当教員	石坂 公俊					
科目に関連した 実務経験						
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位			
種別	「社会福祉士」「精神保健福祉士」指定科目					
学位授与方針 との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力		
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	1.生活に困窮している人びとの生活実態と課題, さらにこれを取り巻く社会情勢, 福祉需要とその実 際について理解する。 2.相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護に係る他の法制度について理解す る。 3.自立支援プログラムの意義について理解する。 4.福祉専門職として果たすべき役割を理解する。 上記 4 つを講義目標とし, 基本的に講義形式で行うが, 講義の中では VTR 等も援用する。					
到達目標	1.生活に困窮している人びとの生活課題や福祉需要について理解できる。 2.生活保護制度や関連する制度・対策等を理解できる。 3.福祉専門職としての役割, 他職種との連携について理解できる。					
評価方法	学修意欲(10%), リアクションペーパー(20%), 期末試験(70%)					
使用教材	『低所得者に対すると生活保護制度』中央法規出版					
参考文献	特記事項なし					
課題に対する フィードバック	授業時に実施する国家試験過去問題は解説を行う 提出されたリアクションペーパーに対してコメントを付けて返却する					
オフィスアワー (研究室)	水曜日 4 時限, 質問はメールでも受け 付ける。(1 号館 5 階 503 研究室)	メールアドレス (#→@)	kimi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション				
	1	該当到達目標	予習	シラバスを読み, 講義目標, 到達目標, 講義計画などを理解する。		1.5 時間
		復習	オリエンテーションで説明した講義目標, 到達目標, 講義計画, 成績評価方法 などを確認する。			1 時間
2	講義内容	貧困・低所得者問題と社会的排除① 様々な貧困の定義				
	1,2	該当到達目標	予習	テキスト第 1 章及び第 2 章第 1 節までを精読し, 疑問点, 確認したい事項な どをまとめておく。		1 時間
		復習	配付した資料を精読し, 講義内容の整理及び確認をする。			1.5 時間
3	講義内容	貧困・低所得者問題と社会的排除② 社会的排除としての貧困				
	1,2	該当到達目標	予習	テキスト第 2 章第 1 節・第 3 節までを精読し, 疑問点, 確認したい事項などを まとめておく。		1 時間
		復習	配付した資料を精読し, 講義内容の整理及び確認をする。			1.5 時間
4	講義内容	公的扶助制度の歴史① ヨーロッパの救貧法				
	該当到達目標	予習	テキスト第 3 章第 1 節を精読し, 疑問点, 確認したい事項などをまとめておく。			1 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
5	講義内容	公的扶助制度の歴史② 戦前・戦中・戦後の日本		
	該当到達目標	予習	テキスト第３章第２節及び第３節までを精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	1,2	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
6	講義内容	生活保護制度の仕組み① 生活保護法の目的、原理、原則		
	該当到達目標	予習	テキスト第４章第１節及び第２節までを精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	2,3	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
7	講義内容	生活保護制度の仕組み② 生活保護の種類と内容		
	該当到達目標	予習	テキスト第４章第３節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	2,3	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
8	講義内容	生活保護制度の仕組み③ 保護施設、被保護者の権利と義務など		
	該当到達目標	予習	テキスト第４章第４～８節までを精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	2,3	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
9	講義内容	最低生活保障と生活保護基準		
	該当到達目標	予習	テキスト第５章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	2,3	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
10	講義内容	生活保護の動向		
	該当到達目標	予習	テキスト第６章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	2,3	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
11	講義内容	低所得者対策の概要(住宅政策を含む)		
	該当到達目標	予習	テキスト第７章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	2,3	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
12	講義内容	生活保護制度の運営実施体制と関係機関・団体(福祉事務所の役割と実際を含む)		
	該当到達目標	予習	テキスト第８章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	2,3	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
13	講義内容	貧困・低所得者に対する相談支援活動(多職種連携・ネットワーキングを含む)		
	該当到達目標	予習	テキスト第９章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	2	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
14	講義内容	生活保護における自立支援(自立支援プログラムの意義と実際を含む)		
	該当到達目標	予習	テキスト第９章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	2	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
15	講義内容	講義のまとめ、試験対策など		
	該当到達目標	予習	これまでの学修内容を整理し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。定期テストの準備を行う。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				38 時間
備考	指定した教科書の該当頁は事前に通読しておくこと。リアクションペーパーを課すことがあるが、提出されたものを受講者で情報共有するケースもあるのでそのつもりで提出すること。 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。			

科目名		相談援助の理論と方法Ⅰ（専門展開科目）		科目ナンバリング	SWS306
英文名		Theory and Method of Social WorkⅠ		講義形態	講義
担当教員		永田 理香			
科目に関連した実務経験		県スクールソーシャルワーカーとして中学校に勤務（経験）			
学年・開講期		2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位	
種別		「社会福祉士」、「福祉レクリエーションワーカー」指定科目			
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力
		✓	基礎的知識力		応用・実践する能力
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 （テーマ・内容）		ソーシャルワークを統一したものとして理論的に捉え、社会福祉における相談援助の構成要素及びプロセスについて学ぶことを目的とする。 ・授業の最後に過去問等の確認問題を課し、講義内容の定着を促す。 ・相談援助実習において求められる基本的なソーシャルワークのプロセスが理解できるよう、事例を交え解説を行う。 ・国家試験で問われるポイントを解説し、受験対策につながる学習方法の習得を目指す。			
到達目標		1.相談援助の構成要素について説明することができる。 2.援助関係の構築プロセスを説明することができる。 3.相談援助の展開過程について具体的に述べることができる。■			
評価方法		定期試験 70%、課題提出 30%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。			
使用教材		『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法Ⅰ』社会福祉士養成講座編集委員会（中央法規出版） ISBN978-4-8058-5103-6 教科書その他、レジュメ・資料等を随時配布する。			
参考文献					
課題に対するフィードバック		授業の最後にリアクションペーパーを記入し、予習・復習の状況及び授業内容の理解について確認する。授業の冒頭において、リアクションペーパーの記述内容を紹介しながら復習を行なう。			
オフィスアワー （研究室）		火曜日 3 時限と水曜日 2 時限	メールアドレス （#→@）	メールアドレスは初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス			
	該当到達目標	予習	相談援助の法的位置づけについて調べる。シラバスの内容を読んで講義目標及び到達目標を理解する。		1.5 時間
		復習	詳細シラバスにおける講義内容等を確認する。		1.5 時間
2	講義内容	相談援助とは			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書第 1 章を読み、分からない用語を調べる。		1.5 時間
		復習	ソーシャルワークの定義及び構成要素を理解する。		1.5 時間
3	講義内容	相談援助の構造			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書第 2 章第 1 節 2 節を読み、分からない用語を調べる。		1.5 時間
		復習	人と環境の関係、社会資源の見方、ニーズについて理解する。		1.5 時間
4	講義内容	相談援助の機能			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書第 2 章第 3 節を読み、分からない用語を調べる。		1.5 時間
		復習	ソーシャルワーカーの役割について理解する。		1.5 時間
5	講義内容	人と環境の相互作用			
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章を読み、分からない用語を調べる。		1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	ソーシャルワークにおけるシステム理論について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	相談援助における援助関係①援助関係の形成プロセス		
	該当到達目標	予習	教科書第4章第1節2節を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	援助関係の形成プロセスについて理解する。	1.5 時間
7	講義内容	相談援助における援助関係②援助関係の質と自己覚知		
	該当到達目標	予習	教科書第4章第3節第4節を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	ソーシャルワーカーに求められる自己覚知について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	相談援助の展開過程①相談援助の展開過程の流れ■		
	該当到達目標	予習	教科書第5章第1節を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	3	復習	相談援助の展開過程の目的と対象を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	相談援助の展開過程②ケース発見とインテーク■		
	該当到達目標	予習	教科書第5章第2節を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	ケース発見における注意点及びインテークの段階について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	相談援助の展開過程③問題把握とニーズ確定■		
	該当到達目標	予習	教科書第5章第2-4節を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	ニーズ確定までのプロセスについて理解する。	1.5 時間
11	講義内容	相談援助の展開過程④アセスメントと目標設定■		
	該当到達目標	予習	教科書第5章第5節第6節を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	アセスメント結果から支援目標の設定プロセスについて理解する。	1.5 時間
12	講義内容	相談援助の展開過程⑤プランニングと支援の実施■		
	該当到達目標	予習	教科書第5章第7節第8節を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	支援計画の立案から実施のプロセスについて理解する。	1.5 時間
13	講義内容	相談援助の展開過程⑥モニタリングと評価・終結■		
	該当到達目標	予習	教科書第6章を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	モニタリングの目的及び評価・終結段階における注意事項について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	相談援助のためのアウトリーチ技術		
	該当到達目標	予習	教科書第7章を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	アウトリーチの対象及び具体的方法について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	相談援助のための契約の技術		
	該当到達目標	予習	教科書第8章を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	2	復習	ソーシャルワークにおける契約の意義について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ（専門展開科目）			科目ナンバリング	SWS307
英文名	Theory and Method of Social Work I			講義形態	講義
担当教員	永田 理香				
科目に関連した実務経験	県スクールソーシャルワーカーとして中学校に勤務（経験）				
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別	「社会福祉士」、「福祉レクリエーションワーカー」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	相談援助プロセスの詳細について学び、ソーシャルワークの基本的技術について理解する。 ・授業の最後に過去問等の確認問題を課し、講義内容の定着を促す。 ・相談援助実習において求められる基本的なソーシャルワークのプロセスが理解できるよう、事例を交え解説を行う。 ・国家試験で問われるポイントを解説し、受験対策につながる学習方法の習得を目指す。				
到達目標	1.相談援助の展開に必要な技術について説明できる。■ 2.相談援助における面接の技術について説明できる。 3.相談援助における記録の技術について説明できる。				
評価方法	定期試験 70%、課題提出 30%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
使用教材	『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法Ⅰ』社会福祉士養成講座編集委員会（中央法規出版） ISBN978-4-8058-5103-6 教科書の他、レジュメ・資料等を随時配布する。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	授業の最後にリアクションペーパーを記入し、予習・復習の状況及び授業内容の理解について確認する。授業の冒頭において、リアクションペーパーの記述内容を紹介しながら復習を行なう。				
オフィスアワー （研究室）	火曜日 3 時限と水曜日 2 時限		メールアドレス （#→@）	メールアドレスは初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス			
	該当到達目標	予習	ソーシャルワークの全体像について確認する。シラバスの内容を読んで講義目標及び到達目標を理解する。		1.5 時間
		復習	詳細シラバスにおける講義内容等を確認する。		1.5 時間
2	講義内容	相談援助のためのアセスメントの技術①アセスメントの特性とは■			
	該当到達目標	予習	教科書第 9 章第 1 節を読み、分からない用語を調べる。		1.5 時間
	1	復習	アセスメントの特性及び面接における言語反応について理解する。		1.5 時間
3	講義内容	相談援助のためのアセスメントの技術②アセスメントツールの活用方法■			
	該当到達目標	予習	第 9 章第 2 節第 3 節を読み、分からない用語を調べる。		1.5 時間
	1	復習	アセスメントツール及び情報の組織化について理解する。		1.5 時間
4	講義内容	相談援助のための介入の技術①介入の意義と目的■			
	該当到達目標	予習	第 10 章第 1 節を読み、分からない用語を調べる。		1.5 時間
	1	復習	介入の意義とターゲットについて理解する。		1.5 時間
5	講義内容	相談援助のための介入の技術②介入方法と留意点■			
	該当到達目標	予習	第 10 章第 2 節を読み、分からない用語を調べる。		1.5 時間
	1	復習	介入の技術と留意点について理解する。		1.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

6	講義内容	相談援助のための経過観察(モニタリング)■			
	該当到達目標 1	予習	第 11 章第 1 節を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間	
		復習	モニタリングの手続きについて理解する。	1.5 時間	
7	講義内容	相談援助のための再アセスメント■			
	該当到達目標 1	予習	第 11 章第 2 節を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間	
		復習	再アセスメントの手順と援助の方向について理解する。	1.5 時間	
8	講義内容	相談援助のための効果測定・評価■			
	該当到達目標 1	予習	第 11 章第 3 節第 4 節を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間	
		復習	効果測定の方法及び評価について理解する。	1.5 時間	
9	講義内容	相談援助のための面接の技術①面接の基本姿勢			
	該当到達目標 2	予習	第 12 章第 1 節第 2 節を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間	
		復習	面接の目的及び基本姿勢について理解する。	1.5 時間	
10	講義内容	相談援助のための面接の技術②面接におけるコミュニケーション			
	該当到達目標 2	予習	第 12 章第 3 節第 4 節を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間	
		復習	面接の構造及び面接技法について理解する。	1.5 時間	
11	講義内容	相談援助のための記録の技術①記録の意義と活用			
	該当到達目標 3	予習	第 13 章第 1 節第 2 節を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間	
		復習	記録の意義及び種類について理解する。	1.5 時間	
12	講義内容	相談援助のための記録の技術②記録の方法と IT 化			
	該当到達目標 3	予習	第 13 章第 3 節第 4 節を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間	
		復習	記録の技術の実際と IT 化について理解する。	1.5 時間	
13	講義内容	相談援助のための交渉の技術			
	該当到達目標 2	予習	第 14 章第 1 節第 2 節を読んで、分からない用語を調べる。	1.5 時間	
		復習	交渉の意義と方法について理解する。	1.5 時間	
14	講義内容	相談援助の事例研究①■			
	該当到達目標 1	予習	過去の国家試験において出題された事例問題を解く。	1.5 時間	
		復習	間違えた問題を解き直す。	1.5 時間	
15	講義内容	相談援助の事例研究②■			
	該当到達目標 1	予習	過去の国家試験において出題された事例問題を解く。	1.5 時間	
		復習	間違えた問題を解き直す。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	相談援助の理論と方法Ⅲ(専門展開科目)				科目ナンバリング	SWS308
英文名	Theory and Method of Social WorkⅢ				講義形態	講義
担当教員	戸澤 由美恵					
科目に関連した実務経験	国立療養所栗生楽泉園人権擁護委員会外部委員(現在)					
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位			
種別	「社会福祉士」指定科目					
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力		
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	ソーシャルワークを統一したものとして論理的にとらえ、個人や小集団・組織や地域社会など様々な対象に広がりをもった活動であることを理解する。 単元ごとの予習用のワークシート・レジュメ等を配布し、それらに沿って解説を行っていきます。あわせて、事例や視聴覚教材などを活用しながら進めます					
到達目標	1.相談援助の対象と相談援助の展開過程が説明できる■ 2.相談援助の業務に必要な技術(ケースマネジメント・コーディネーションとネットワーク)について説明ができる■ 3.グループを活用した相談援助について説明ができる■ 4.相談援助における社会資源の活用、スーパービジョンとコンサルテーションについて説明ができる■ 5.相談援助演習や相談援助実習指導・実習との関連性を意識して考えることができる。					
評価方法	定期試験で 80%、ワークシートや小テストで 20%を評価する。総合評価の 60%以上を合格とする。					
使用教材	「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法Ⅱ」(中央法規出版) ISBN978-4-8058-5104-3 授業時にレジュメや資料等を配布する。資料は該当する単元の学習回が終わるまで持参すること。 必要に応じて、二年次使用の「相談援助の理論と方法Ⅰ」(中央法規出版)を用いて予習・復習をすること。					
参考文献	参考文献等は随時紹介する					
課題に対するフィードバック	ワークシートやリアクションペーパーの記入を通して予習復習の状況及び授業の理解について確認する。 必要に応じて、補足説明やコメントを行う。					
オフィスアワー (研究室)	水曜 2 限 3 階 303			メールアドレス (#→@)	tozawa#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当到達目標	予習	テキストの「はじめに」と「目次」を読んで、目的や学習内容などを理解する			0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	詳細シラバスを確認し、科目の全体像と国家試験における教科の位置づけを理解する			1.5 時間
2	講義内容	相談援助における対象の理解①社会福祉援助活動の概念と定義■				
	該当到達目標	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる			1.5 時間
	1	復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める			1.5 時間
3	講義内容	相談援助における対象の理解②相談援助の対象をどうとらえるか■				
	該当到達目標	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる			1.5 時間
	1,5	復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める			1.5 時間
4	講義内容	ケースマネジメント(ケアマネジメント)①ケースマネジメントの基本■				
	該当到達目標	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる			1.5 時間
	2	復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める			1.5 時間
5	講義内容	ケースマネジメント(ケアマネジメント)②ケースマネジメントの過程				

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	2	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
			復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
6	講義内容	ケースマネジメント(ケアマネジメント)③ケースマネジメントにおけるアセスメントの特徴				
	該当到達目標	2	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
			復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
7	講義内容	ケースマネジメント(ケアマネジメント)④ケアプランの作成・実施の特徴				
	該当到達目標	2	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
			復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
8	講義内容	ケースマネジメント(ケアマネジメント)⑤ケースマネジメントの特徴、ケースマネジメントとソーシャルワークの関係■				
	該当到達目標	2,5	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
			復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
9	講義内容	グループを活用した相談援助①グループを活用した相談援助■				
	該当到達目標	3	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
			復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
10	講義内容	グループを活用した相談援助②自助グループを活用した相談援助				
	該当到達目標	3,5	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
			復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
11	講義内容	コーディネーションとネットワーキング①コーディネーションの目的と意義、方法・技術・留意点■				
	該当到達目標	2	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
			復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
12	講義内容	コーディネーションとネットワーキング②ネットワーキングの意義と目的、方法、地域福祉を推進するための総合的なネットワークの形成とシステム化■				
	該当到達目標	2,5	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
			復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
13	講義内容	相談援助における社会資源の活用・調整・開発■				
	該当到達目標	4	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
			復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
14	講義内容	スーパービジョンとコンサルテーションの技術■				
	該当到達目標	4,5	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
			復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
15	講義内容	まとめ				
	該当到達目標	1,2,3,4,5	予習	テキストやワークシート、配布資料等を再読する	1.5	時間
			復習	本科目と相談援助演習・実習指導・実習等の全てを統合させ、現場実習に活用する	1.5	時間
					合計時間(予習・復習)	44 時間
備考	* 日頃から新聞を読み、ニュースを見るなどして政治や経済、社会福祉の問題や制度の改正などに興味をもつようにしましょう。 * 復習は試験前や長期休暇にも行い、不足を補うようにしましょう * 不明な点、疑問点等がある場合は、まずはメールで連絡してください ■:実務経験に基づく内容を示す。					

科目名	相談援助の理論と方法Ⅳ(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWS309
英文名	Theory and Method of Social WorkⅣ			講義形態	講義
担当教員	戸澤 由美恵				
科目に関連した実務経験	国立療養所栗生楽泉園人権擁護委員会外部委員(現在)				
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別	「社会福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	ソーシャルワークを統一したものとして論理的にとらえ、個人や小集団・組織や地域社会など様々な対象に広がりをもった活動であることを理解する。 単元ごとの予習用のワークシートやレジュメ等を配布し、それらに沿って解説を行う。あわせて、事例や視聴覚教材などを活用しながら進める。				
到達目標	1.相談援助における実践モデルとアプローチが説明できる■ 2.相談援助におけるケースカンファレンスの技術について説明ができる 3.相談援助における個人情報の保護について説明ができる■ 4.相談援助における情報通信技術(ICT)の活用について説明できる■ 5.相談援助における事例研究・事例検討について説明することができる■ 6.相談援助演習や相談援助実習指導・実習との関連性を意識して考えることができる。				
評価方法	定期試験で 70%、ワークシートや小テストで 30%を評価する。総合評価の 60%以上を合格とする。				
使用教材	「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法Ⅱ」(中央法規出版) ISBN978-4-8058-5104-3 授業時にレジュメや資料等を配布する。資料は該当する単元の学習回が終わるまで持参すること。 必要に応じて、二年次使用の「相談援助の理論と方法Ⅰ」(中央法規出版)を用いて予習・復習をすること。				
参考文献	参考文献等は随時紹介する				
課題に対するフィードバック	ワークシートやリアクションペーパーの記入を通して予習復習の状況及び授業の理解について確認する。必要に応じて、補足説明やコメントを行う。				
オフィスアワー (研究室)	水曜 2 限 3 階 303		メールアドレス (#→@)	tozawa#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当到達目標	予習	目次をよみ後期学習内容の全体像を理解する		0.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	現場実習との統合を意識する		1.5 時間
2	講義内容	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ① 実践モデルとその意味■			
	該当到達目標	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる		1.5 時間
	1	復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める		1.5 時間
3	講義内容	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ② 治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル■			
	該当到達目標	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる		1.5 時間
	1,6	復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める		1.5 時間
4	講義内容	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ③ ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル■			
	該当到達目標	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる		1.5 時間
	1,6	復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める		1.5 時間
5	講義内容	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ① 心理社会的アプローチ、機能的アプローチ■			

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,6	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
		復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
6	該当到達目標 1,6	講義内容 さまざまな実践モデルとアプローチⅡ② 課題中心アプローチ、危機介入アプローチ■			
		予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
	1,6	復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
		講義内容 さまざまな実践モデルとアプローチⅡ③ 行動変容アプローチ			
7	1,6	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
		復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
8	1,6	講義内容 さまざまな実践モデルとアプローチⅢ① エンパワメントアプローチ■			
		予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
	1,6	復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
		講義内容 さまざまな実践モデルとアプローチⅢ② ナラティブアプローチ■			
9	1,6	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
		復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
10	1,6	講義内容 さまざまな実践モデルとアプローチⅢ③ その他のアプローチ、アプローチをめぐる課題			
		予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
	1,6	復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
		講義内容 ケースカンファレンスの技術			
11	1,2,6	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
		復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
12	3,6	講義内容 相談援助における個人情報の保護■			
		予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
	3,6	復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
		講義内容 相談援助における情報通信技術(ICT)の活用■			
13	4,6	予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
		復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
14	5,6	講義内容 事例研究・事例分析■			
		予習	該当するテキスト箇所を読み、わからない語句や専門用語等を調べる	1.5	時間
	1,2,3,4,5,6	復習	テキストやワークシート、配布資料等を再読し、授業内容の正しい理解に努める	1.5	時間
		講義内容 まとめ			
15	1,2,3,4,5,6	予習	これまでの配布資料やワークシート等を整理し、理解の不足箇所を確認する	1.5	時間
		復習	まとめを通して、自分の学習課題について見通しをもつ	1.5	時間
合計時間(予習・復習)					44 時間
備考	* 日頃から新聞を読み、ニュースを見るなどして政治や経済、社会福祉の問題や制度の改正などに興味を持つようにしましょう。 * 復習は、配布資料やワークシート・ミニテスト等を確認し、試験前や長期休暇にも行い、不足を補うようにしましょう。 * 不明な点、疑問点等がある場合は、まずはメールで連絡してください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名		福祉行財政と福祉計画(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWS310
英文名		Administration and Planning of Social Welfare			講義形態	講義
担当教員		山本 馨				
科目に関連した実務経験		ゲストスピーカーとして、福祉計画策定に携わった方を講師に招く				
学年・開講期		3 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別		「社会福祉士」「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		福祉行財政と福祉計画は、日本の社会福祉の根幹をなす制度的な仕組みである。 社会福祉法第 6 条では、社会福祉サービスを「計画的に」実施するよう国や地方公共団体に求めている。これを受けて、現在の社会福祉は国や地方自治体等が策定するさまざまな社会福祉計画に基づいて進められている。 そこでこの講義では、まず前半で日本の福祉行政及び財政の基本的な構造や機能などについて検討し、その知識を基に後半では行政等が策定している社会福祉計画を中心に、目的・機能・計画の策定・実施・評価方法などについて検討する。 社会福祉士には、現場実践における専門性のみならず、福祉計画策定等の場において専門性の発揮が強く求められる。社会の期待に応えられる社会福祉士を養成するため、国家予算や福祉財源を理解し、ソーシャルワークの専門性を活かした福祉計画を策定するために必要な知識の修得も目指す。 授業は講義形式で行う。日本の社会福祉を成立させている制度的枠組みについての理論的理解を図ると同時に、国家試験科目であるため、テキストの重点事項の理解も目指す。				
到達目標		1.社会福祉に関連する行政の実施体制や制度の現状について理解することができる。 2.国・地方財政に占める福祉財源の状況を理解し、現場実践の財源根拠を説明できる。 3.福祉財源と福祉計画の関係を理解し、各種福祉計画の内容や予算配分等の知識を身につけられる。 4.各種福祉計画の策定過程、策定方法、意義、評価方法を学び、計画策定に関与する力を身につけられる。■ 5.福祉行政の組織及び団体、専門職の役割を、福祉計画との関係から説明することができる。				
評価方法		【評価点】(100 点満点) レポート課題又は小テスト 30% 期末試験(レポート提出)70% 総合評価 60%以上で合格とする				
使用教材		『新・社会福祉士養成講座 福祉行財政と福祉計画』社会福祉士養成講座編集委員会(中央法規) その他、必要な資料は随時プリントして配布する。				
参考文献						
課題に対するフィードバック		期末試験(レポート)にコメントをつけて返却する。 質問、レポート課題は講義中あるいはメールで回答及び説明をする。				
オフィスアワー (研究室)		個人的な質問は質問用紙あるいはメールで提出を受け付けし回答する。	メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する		
1	講義内容	福祉行政と法制度(福祉行政と法令等との関係)				
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章に目を通す			1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,	復習	福祉行政と法制度 福祉行政と法令等との関係について理解する	1.5 時間
2	講義内容	福祉行政の組織(国・地方の役割と関係)		
	該当到達目標	予習	教科書第2章に目を通す	1.5 時間
	1,2,3,5	復習	福祉行政の組織 国・地方の役割と関係について理解する	1.5 時間
3	講義内容	国の福祉財政(国の一般会計予算と社会保障関係費の動向)		
	該当到達目標	予習	教科書第3章第1,2節に目を通す	1.5 時間
	1,2,3,5	復習	国の一般会計予算と社会保障関係費の動向について理解する	1.5 時間
4	講義内容	地方の福祉財政①(地方自治体の福祉財政と民生費の動向:都道府県・市区町村の役割)		
	該当到達目標	予習	教科書第3章第3節に目を通す	1.5 時間
	1,2,3,5	復習	地方自治体の福祉財政と民生費の動向について理解する	1.5 時間
5	講義内容	地方の福祉財政②(民間社会福祉事業の財源、福祉サービスの利用と費用負担)		
	該当到達目標	予習	教科書第3章第4,5節に目を通す	1.5 時間
	1,2,3,5	復習	民間社会福祉事業の財源、福祉サービスの利用と費用負担について理解する	1.5 時間
6	講義内容	グループラーニング(国と都道府県と市区町村の役割)		
	該当到達目標	予習	第1章から第3章までを復習する	1.5 時間
	1,2,3,5	復習	福祉行政の組織のあり方について理解する	1.5 時間
7	講義内容	福祉行政の組織(団体と専門職の役割)		
	該当到達目標	予習	教科書第4章に目を通す	1.5 時間
	1,2,3,5	復習	福祉行政の組織 団体と専門職の役割について理解する	1.5 時間
8	講義内容	福祉計画総論①(福祉計画の意義と目的、住民参加の意義)		
	該当到達目標	予習	教科書第5・6章に目を通す	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	福祉計画の意義と目的、住民参加の意義について理解する	1.5 時間
9	講義内容	福祉計画総論②(計画行政と計画策定の方法)		
	該当到達目標	予習	教科書第7章第1節に目を通す	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	福祉計画の事例研究の視点について理解する	1.5 時間
10	講義内容	福祉計画各論①(老人福祉計画・介護保険事業計画)		
	該当到達目標	予習	教科書第7章第2節に目を通す	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	老人福祉計画・介護保険事業計画について理解する	1.5 時間
11	講義内容	福祉計画各論②(障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画)		
	該当到達目標	予習	教科書第7章第3節に目を通す	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画について理解する	1.5 時間
12	講義内容	福祉計画各論③(子ども・子育て支援計画・母子及び寡婦自立支援計画・次世代育成支援計画)		
	該当到達目標	予習	教科書第7章第4節に目を通す	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	次世代育成支援行動計画等について理解する	1.5 時間
13	講義内容	福祉計画各論④(地域福祉計画と福祉関連計画)		
	該当到達目標	予習	教科書第7章第5節に目を通す	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	地域福祉計画と福祉関連計画について理解する	1.5 時間
14	講義内容	本科目の内容の総括		

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	これまで学んだことを整理しておく	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	福祉行政と福祉計画の全体像についてまとめる	1.5 時間
15	講義内容	地域福祉計画の実際 ゲストスピーカーとの対談■		
	該当到達目標	予習	地域福祉計画、地域福祉支援計画、地域福祉活動計画について予習する	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	地域福祉計画策定の実際について理解を深める	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				44 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	福祉サービスの組織と経営(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWS311
英文名	Organization and Management of the Welfare Service			講義形態	講義
担当教員	山本 馨				
科目に関連した実務経験	ゲストスピーカーとして、社会福祉法人理事長等の福祉サービス経営者を講師に招く				
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別	「社会福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、特定非営利活動法人、医療法人、営利法人など)、福祉サービスの組織と経営、管理運営に関する基本的事項について理解する。 授業は講義形式で行う。国家試験科目であるため、テキストの重点事項を中心に進めていく。同時に、社会福祉法人の経営等について、学問的アプローチを試みる。				
到達目標	1.社会福祉士国家試験の受験科目として、合格するための必要な知識を身につける。 2.将来、福祉現場において様々な課題に出会ったときに、主体的に組織変革に取り組めるように、福祉サービスに係る組織と経営に関する基本的事項を修得する。■ 3.ソーシャルワーカーとして、活躍できる人材を育成することを視野に入れた講義内容とする。				
評価方法	レポート課題又は小テスト 30% 期末試験(レポート提出)70% 総合評価 60%以上で合格とする				
使用教材	「福祉サービスの組織と経営」(中央法規)。必要に応じて資料配布				
参考文献					
課題に対するフィードバック	期末試験(レポート)にコメントをつけて返却する。 質問、レポート課題は講義中に回答及び説明する。				
オフィスアワー (研究室)	個人的な質問は、質問用紙あるいはメールで受け付けし回答する。	メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する		
1	講義内容	ガイダンス 福祉サービスにおける組織と経営(組織で行う福祉サービス、社会市場における経営)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の前書き、シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。 福祉サービスの組織の意義と課題について考察しておく。		1.5 時間
		復習	シラバスの内容の確認、国試対策、福祉サービスの特徴、社会市場における経営の概念等を理解する。		1.5 時間
2	講義内容	福祉サービスにかかわる組織や団体(法人とは何か。社会福祉法人改革)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第 1 章～第 2 章に目を通す。		1.5 時間
		復習	法人の法的意味、社会福祉法人改革の概要を理解する。		1.5 時間
3	講義内容	グループラーニング(福祉サービス実施主体)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	福祉サービスを提供している法人について教科書を読み整理しておく。		1.5 時間
		復習	法人の種類と福祉サービスとの関係を理解する。		1.5 時間
4	講義内容	福祉サービス事業主体の経営①			
	該当到達目標	予習	教科書の第 3 章第 1 節～第 3 節に目を通す。		1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3	復習	社会福祉法人の経営戦略、事業計画の策定等について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	福祉サービス事業主体の経営②		
	該当到達目標	予習	教科書の第３章第４節～第６節に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	経営管理の基礎理論（集団の力学、リーダーシップ等について理解する。）	1.5 時間
6	講義内容	福祉サービス事業経営者との対談①■		
	該当到達目標	予習	社会福祉法人の経営戦略に関する教科書の該当部分に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	社会福祉法人の経営戦略の実際について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	福祉サービス事業主体の経営③（NPO 法人、有限会社等による福祉サービス経営）		
	該当到達目標	予習	教科書の第４章第１節に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	社会福祉法人以外の経営主体による経営の特徴を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	福祉サービスのマネジメント		
	該当到達目標	予習	教科書の第３章第４節～第６節該当部分に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	マネジメント理論における福祉サービスの特徴等について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	福祉サービス事業経営者との対談②■		
	該当到達目標	予習	教科書の福祉サービスのマネジメント部分に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	社会福祉法人以外の主体による福祉サービス経営の実態について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	福祉サービスの管理運営の方法①（ドラッカーの経営学）		
	該当到達目標	予習	教科書の第４章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	ドラッカーの経営学の基礎を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	福祉サービスの管理運営の方法②		
	該当到達目標	予習	教科書の第５章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	人事管理や労務管理、人材育成の理論について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	福祉サービスの管理運営の方法③（情報管理と戦略的広報）		
	該当到達目標	予習	教科書の第７章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	福祉サービス経営に必要な情報管理と戦略的広報について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	福祉サービスの管理運営の方法④（会計管理と財務管理、財務分析）		
	該当到達目標	予習	教科書の第６章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	会計管理と財務管理、財務分析を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	財務分析実習①		
	該当到達目標	予習	パソコンを使った財務分析の方法に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	自分が興味のある福祉サービス提供法人の財務分析を実際に行ってみる。	1.5 時間
15	講義内容	財務分析実習②		
	該当到達目標	予習	パソコンを使った財務分析の方法に目を通す。	1 時間
	1,2,3	復習	自分が興味のある福祉サービス提供法人の財務分析を実際に行ってみる。	1.5 時間
合計時間（予習・復習）				44.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■：実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	保健医療サービス(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWS312
英文名	Health Care System and Medical Service			講義形態	講義
担当教員	河村 俊一				
科目に関連した実務経験	社会福祉士として地域包括支援センター4年(勤務)、 介護支援専門員として居宅介護支援事業所2年(勤務)、 生活相談員(社会福祉士)として特別養護老人ホーム等8年(勤務)、 社会福祉士として医療機関5年(現在) 代表理事(社会福祉士)非営利型一般社団法人として地域活動を5年(現在)				
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	選択 2単位		
種別	「社会福祉士」「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	学生が医療と福祉の密接な関係を理解し、相談援助場面で必要となる医療保険制度や保健医療システムの基本を学ぶ。現場で的確に専門職と連携をするための基本的な知識を獲得する。利用者のエンパワメントを目指した支援方法を導くための役割を学ぶ。 授業については、具体的な事例や現状の課題などを含め、仕組みだけでなく、支援活動における視点などを踏まえて進めていく。				
到達目標	1.日本の医療保険制度や医療費の現状について説明ができる。■ 2.医療保険制度、介護保険制度における報酬制度について説明ができる。■ 3.医療ソーシャルワーカーとしての役割が説明できる。■ 4.患者の権利、専門職としての視点や実践について説明することができる。■ 5.チームアプローチとその取り組む施設やあり方について説明することができる。				
評価方法	授業態度 10%、レポート 10%、筆記試験 80%を参考に総合的評価 60%を合格とする。				
使用教材	「新・社会福祉養成講座 17 保健医療サービス 中央法規」を必ず持参、その他資料などを配布。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	レポートをもとに授業内において総合的なコメントや授業内容への反映を行う。 試験後については出題意図を記載したものを配布します。				
オフィスアワー (研究室)	講義内容等に関する質問は、講義前または講義終了後、もしくはメールにて受け付けます。		メールアドレス (#→@)	info#ids-ancre.org	
1	講義内容	ガイダンス			
	該当到達目標	予習	テキスト内容の全体やシラバスの内容をよく読んで、講義目標を確認する。		1.5 時間
	1	復習	講義の内容、進め方、授業に臨む態度、成績評価などについて確認する。		1.5 時間
2	講義内容	現在の保健医療サービスの全体像と仕組み■			
	該当到達目標	予習	医療保険、介護保険など制度の概要を事前に調べておく。		1.5 時間
	1,2	復習	保健医療サービスとは何か、構造を理解する。		1.5 時間
3	講義内容	戦後の保健医療サービスの整備・拡充、医療法改正にみる今日的課題■			
	該当到達目標	予習	テキスト第1章第2,3節に目を通す。		1.5 時間
	1,2	復習	医療現場における情報提供のあり方や医療計画について理解する。		1.5 時間
4	講義内容	医療連携・チーム医療の推進と社会福祉士、精神保健福祉士■			
	該当到達目標	予習	テキスト第1章第4節に目を通す。		1.5 時間
	3	復習	医療ソーシャルワーカー業務指針の理解と地域医療連携について理解する。		1.5 時間
5	講義内容	医療法による医療施設の機能・類型■			
	該当到達目標	予習	テキスト第2章第1節に目を通す。		1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	1	復習	医療法における医療施設の種別やその要件等について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	保健医療政策、診療報酬による医療施設の機能・類型■		
	該当到達目標	予習	テキスト第２章第２、３節に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	拠点病院の種類や病棟の類型について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	介護保険法における施設等の機能・類型■		
	該当到達目標	予習	テキスト第２章第４節に目を通す、	1.5 時間
	2	復習	施設サービス、在宅サービスごとの事業形態について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	地域包括ケアシステムと在宅医療■		
	該当到達目標	予習	テキスト第２章第５節に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	地域包括ケアシステムが目指すことや現状について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み■		
	該当到達目標	予習	テキスト第３章第１節に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	医療ソーシャルワーカー業務指針と面接に求められる力量について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割■		
	該当到達目標	予習	テキスト第３章第２、３、４節に目を通す。	1.5 時間
	3,4,5	復習	ミクロ・マクロ・メゾソーシャルワークについて理解する。	1.5 時間
11	講義内容	保健医療サービス専門職とチームアプローチ■		
	該当到達目標	予習	テキスト第４章第１節に目を通す。	1.5 時間
	5	復習	他の職種についての理解とチームアプローチの展開過程を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	保健医療サービス専門職の基本姿勢■		
	該当到達目標	予習	テキスト第４章第２、３節に目を通す。	1.5 時間
	3,4	復習	患者の権利と専門職の視点や役割について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	医療保険制度、介護保険制度と報酬・公的負担医療■		
	該当到達目標	予習	テキスト第５章第１、２節に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	医療保険、介護保険、公費医療それぞれの報酬体系について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	保健医療の専門職との連携と実践■		
	該当到達目標	予習	テキスト第６章に目を通す。	1.5 時間
	3,4,5	復習	チーム形成とそのあり方、適切な社会資源活用について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでの授業内容、テキスト、配布資料に目を通しておく。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業と別で実施する試験の自己採点、解答に悩んだ問題などに再度取り組む。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	講義開始時には、学籍番号順にて着席してください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	権利擁護と成年後見制度(専門展開科目)			科目 ナンバリング	SWS313
英文名	Protection of Human Rights and Adult Guardianship			講義形態	講義
担当教員	大口 達也				
科目に関連した 実務経験	社会福祉士として地域包括支援センター(行政直営)に勤務(経験) 社会福祉士として基幹型地域包括支援センター(行政直営)に勤務(経験) 社会福祉士・専門相談員として高齢者権利擁護支援センター(東京都)に勤務(経験) 社会福祉士として公益社団法人の権利擁護ネットワーク組織に勤務(経験)				
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択・2 単位		
種別	「社会福祉士」「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針 との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	平成 28 年 5 月に「成年後見制度の利用の促進に関する法律」が施行され、社会福祉士が成年後見制度や任意後見制度を理解し、法律等に基づきながら権利擁護実践を行うことが、社会から強く求められている。社会の期待に応えられる社会福祉士を養成するために、法律や制度、権利擁護の「本質」を理解し、実践的な知識を修得することを目指す。実践的な知識は、E ラーニング教材を用いて反復学習し、アクティブラーニングを用いて定着させ、修得できるようにする。				
到達目標	1. 社会福祉士が憲法、民法、行政法等を学ぶ必要性を事例を挙げて説明できる。■ 2. 成年後見制度や任意後見制度、日常生活自立支援事業等をわかりやすく説明できる。■ 3. 権利擁護にかかわる組織・団体・専門職と社会福祉士がどのように関わるべきか説明できる。■ 4. 社会福祉士の権利擁護実践における対応上のポイントや基本的視点を説明できる。■ 5. 「最終 E ラーニングテスト」で全問正解を連続達成し、実践的な知識が定着する。				
評価方法	【評価点】(100 点満点) (1) E ラーニング教材取組状況(50 点) (2) 最終 E ラーニングテスト(35 点) (3) アクティブラーニング等への取組状況(15 点) 【評価基準】 ■ 本科目では講義と予習・復習において、「予習用」「講義用」「挑戦用」の 3 種類の E ラーニング教材を使用する。各教材の取組状況(実施回数、正答率等)を基準として評価点を算出する(0 点～50 点) ■ 「最終 E ラーニングテスト」を実施し、全問正解を 2 連続達成した場合には、評価点 35 点、達成できなかった場合には、取組状況(実施回数、正答率等)を基準として評価点を算出する。(0 点～30 点※連続達成を目指すインセンティブ付与のため、31 点～34 点は算出しない) ■ なお、アクティブラーニング等への取組状況(話し合い、提出物等)についても評価点を算出する。(0 点～15 点)				
使用教材	教科書①『伊藤真の民法入門第 6 版－講義再現版』伊藤真著(日本評論社)ISBN 978-4535523050 教科書②『仕事がはかどるケアマネ術シリーズ③ あなたの悩みを解決できる！成年後見』池田恵利子著(第一法規株式会社)ISBN 978-4-474-05647-3 その他、必要な資料は随時プリントして配布する。 なお、講義ではスマホ等を用いた E ラーニング教材を使用する。スマホ等を所持していない学生については配慮を行う。E ラーニング教材の使用法等、詳細は初回ガイダンスで説明する。				
参考文献	授業内で随時紹介する。				
課題に対する フィードバック	E ラーニング教材を用いた講義では、随時、講義内で取り組むべき課題を提示する。提示した課題については講義内でポイントを解説する。なお、課題への取組状況(正答率)を集計・分析し、クラス全体で理解が困難な内容を特定する。特定できた内容については文書等に整理して解説する。実践的な知識の定着化のために、講義では随時アクティブラーニングによる課題を提示する。課題への取組結果は、その場で教員からフィードバックする。				

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

オフィスアワー (研究室)		火曜日 3 時限, 水曜日 2 時限		メールアドレス (#→@)	oguchi#takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	オリエンテーション講義の到達目標、内容、進め方、Eラーニング使用方法、成績評価等の説明			
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義の目標や内容等を確認する。		1.5 時間
		復習	Eラーニングを使用して、講義で教員が提示した質問アンケートに回答する。		1.5 時間
2	講義内容	日本国憲法(相談援助活動と方の関わりを含む)、法とは何か■			
	該当到達目標	予習	予習用 Eラーニングを使用して、講義内容を確認する。		1.5 時間
	1,5	復習	挑戦用 Eラーニングに挑戦して、講義内容を再確認する。		1.5 時間
3	講義内容	民法 ① 意思能力、行為能力、契約、代理■			
	該当到達目標	予習	予習用 Eラーニングを使用して、講義内容を確認する。		1.5 時間
	1,3,5	復習	挑戦用 Eラーニングに挑戦して、講義内容を再確認する。		1.5 時間
4	講義内容	民法 ② 親族、婚姻、離婚、親子■			
	該当到達目標	予習	予習用 Eラーニングを使用して、講義内容を確認する。		1.5 時間
	1,3,5	復習	挑戦用 Eラーニングに挑戦して、講義内容を再確認する。		1.5 時間
5	講義内容	民法 ③ 養子・親権■			
	該当到達目標	予習	予習用 Eラーニングを使用して、講義内容を確認する。		1.5 時間
	1,3,5	復習	挑戦用 Eラーニングに挑戦して、講義内容を再確認する。		1.5 時間
6	講義内容	民法 ④ 扶養・相続。遺言■			
	該当到達目標	予習	予習用 Eラーニングを使用して、講義内容を確認する。		1.5 時間
	1,3,4,5	復習	挑戦用 Eラーニングに挑戦して、講義内容を再確認する。		1.5 時間
7	講義内容	成年後見制度等 ① 成年後見制度とは、任意後見制度とは、成年後見制度利用支援事業■			
	該当到達目標	予習	予習用 Eラーニングを使用して、講義内容を確認する。		1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	挑戦用 Eラーニングに挑戦して、講義内容を再確認する。		1.5 時間
8	講義内容	成年後見制度 ② 後見・補佐・補助の理解、申立ての手続き、市区町村長申立て■			
	該当到達目標	予習	予習用 Eラーニングを使用して、講義内容を確認する。		1.5 時間
	1,2,3,5	復習	挑戦用 Eラーニングに挑戦して、講義内容を再確認する。		1.5 時間
9	講義内容	成年後見制度 ③ 同意権・取消権・代理権・任意後見契約■			
	該当到達目標	予習	予習用 Eラーニングを使用して、講義内容を確認する。		1.5 時間
	1,2,3,5	復習	挑戦用 Eラーニングに挑戦して、講義内容を再確認する。		1.5 時間
10	講義内容	任意後見制度 任意後見、未成年後見、日常生活自立支援事業■			
	該当到達目標	予習	予習用 Eラーニングを使用して、講義内容を確認する。		1.5 時間
	1,2,3,5	復習	挑戦用 Eラーニングに挑戦して、講義内容を再確認する。		1.5 時間
11	講義内容	成年後見制度等 ④ 日常生活自立支援事業、成年後見制度等まとめ■			
	該当到達目標	予習	予習用 Eラーニングを使用して、講義内容を確認する。		1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	挑戦用 Eラーニングに挑戦して、講義内容を再確認する。		1.5 時間
12	講義内容	行政法 ① 行政行為■			
	該当到達目標	予習	予習用 Eラーニングを使用して、講義内容を確認する。		1.5 時間
	1,3,5	復習	挑戦用 Eラーニングに挑戦して、講義内容を再確認する。		1.5 時間
13	講義内容	行政法 ② 行政事件訴訟法、行政不服審査制度、行政手続法、国家賠償法、行政手続法■			
	該当到達目標	予習	予習用 Eラーニングを使用して、講義内容を確認する。		1.5 時間
	1,3,5	復習	挑戦用 Eラーニングに挑戦して、講義内容を再確認する。		1.5 時間
14	講義内容	社会福祉士の権利擁護実践(虐待対応・権利擁護に係る組織、団体の役割と実際)■			
	該当到達目標	予習	予習用 Eラーニングを使用して、講義内容を確認する。		1.5 時間
	3,4	復習	挑戦用 Eラーニングに挑戦して、講義内容を再確認する。		1.5 時間
15	講義内容	社会福祉士に求められる権利擁護実践■			

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	予習用 E ラーニングを使用して、講義内容を確認する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	挑戦用 E ラーニングに挑戦して、講義内容を再確認する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	最終 E ラーニングテストは、授業外で 18 時間以上の時間を要する。計画的に実施すること。			

科目名	就労支援サービス(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWS314
英文名	Employment Support Service			講義形態	講義
担当教員	鈴木 美和				
科目に関連した実務経験	社会福祉士として地域活動支援センターに勤務(18 年)、就労継続 B 型に勤務(1 年)				
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位		
種別	「社会福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	1.働くことの意味を知り、相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。 2.支援の対象像を把握し、就労支援に係る組織、団体及び専門職の役割について理解する。 3.就労支援分野の連携について理解し、重層的なネットワークの構築を知る。 授業は教科書と教員の作成するプリントを使って要点をまとめていく。プリントの内容はパワーポイントでも提示する。理解を促進するために関連する DVD 等を使用する。				
到達目標	1.就労支援の対象者と労働に関する法律・制度とを関連付ける。■ 2.日本の労働市場の変化と現状を把握する。 3.就労支援の対象者について類別し、支援の流れを説明する。■				
評価方法	レポート課題 60%、小レポート 20%、コメントカード 20%				
使用教材	新・社会福祉士養成講座 18 就労支援サービス				
参考文献					
課題に対するフィードバック	小レポートやコメントカード(感想)については、提示の意図を説明し、提出後授業の中でコメントや解説を行う他、必要に応じ追加資料を用意する。				
オフィスアワー (研究室)	授業開始前もしくは終了後に応じますが、メールでも受け付けます。		メールアドレス (#→@)	tenkei-syuro#carol.ne.jp	
1	講義内容	自己紹介 ガイダンス 働くことの意味と社会福祉士の役割■			
	該当到達目標	予習	教科書前書き、序章、シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。		1 時間
	1,2	復習	働くことの意味と考え、講義内容を理解する。		1 時間
2	講義内容	雇用・就労の動向と施策			
	該当到達目標	予習	教科書の第 1 章に目を通す。		1 時間
	1,2	復習	レジュメにそって、用語を整理し、日本における労働の現状を把握する。		1 時間
3	講義内容	障害者と就労支援■			
	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章第 1~2 節に目を通す。		1 時間
	1,2,3	復習	レジュメにそって、障害者の就労に関する状況を理解する。		1 時間
4	講義内容	障害者と就労支援■			
	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章第 3~6 節に目を通す。		1 時間
	1,2,3	復習	レジュメにそって、障害者の雇用施策や就労支援について理解する。		1 時間
5	講義内容	低所得者と就労支援			
	該当到達目標	予習	教科書の第 3 章に目を通す。		1 時間
	1,2,3	復習	レジュメにそって、低所得者の状況と就労支援について理解する。		1 時間
6	講義内容	専門職の役割と実際～当事者へのインタビュー～■			

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,3	予習	教科書の第 4 章に目を通す。	1 時間
		復習	障害者の就労支援の実際について理解する。	1 時間
7	講義内容	就労支援の連携と実際■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 5 章に目を通す。	1 時間
	1,3	復習	レジュメにそって、専門職や社会的資源を整理し、理解する。	1 時間
8	講義内容	さまざまな働き方の支援		
	該当到達目標	予習	教科書の終章に目を通す。	1 時間
	1,2,3	復習	社会福祉士と就労支援について理解する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				16 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	更生保護制度(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWS315
英文名	Rehabilitation and Probation			講義形態	講義
担当教員	廣川 洋一				
科目に関連した実務経験	・保護観察所保護観察官として更生保護に従事(現在) ・少年院に法務教官として勤務(経験) ・保護観察所長として医療観察に従事(経験) ・地方更生保護委員会で委員や保護観察官として仮釈放審査等に従事(現在) ・保護司(現在)				
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位		
種別	「社会福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	犯罪をした者や非行のある少年を社会内で改善更生させる更生保護制度は、この 10 年間で大幅に改革されました。医療観察制度において、保護観察所は対象者の社会復帰のための役割を果たしています。一方、社会福祉士の資格などが見直され、社会福祉専攻科目として、選択必修のひとつに、「更生保護制度」が加えられています。社会福祉と更生保護の連携はいかにあるべきでしょうか。そして、「再犯防止推進法」が制定され、国や地方公共団体による新たな取組が進められようとしています。 更生保護は、警察・検察・裁判・矯正という国の刑事司法制度の流れの末尾に位置し、これらは「国家の強制力」を背景にしている点で社会福祉とは立場が異なります。更生保護を理解するためには、広く犯罪者や非行少年に関心を持ち、更生保護法・刑法・少年法・児童福祉法・医療観察法などを学ぶとともに、その担い手を知る必要があります。 この授業では、学生が、社会福祉との相違に配慮しつつ、更生保護の理念と実際及び心神喪失者等医療観察制度について効率的に幅広く学びながら、社会福祉士の国家試験問題をクリアできるようになることを目指します。授業は講義中心で、第 2 回以降は、前回までの授業を復習し、次の講義につなげていく形式で進められます。毎回、教科書の該当部分を読み、配布するプリントでは過去の国家試験問題を解いていきます。授業の理解度等を把握するため、毎回、授業終了時に簡単なアンケートを行います。毎回、教科書の該当ページを示すので、予習・復習を続けてください。第 8 回では期末テストを実施し、レポートの提出も求めます。				
到達目標	1.更生保護の意義と歴史を説明できる。■ 2.成人の刑事司法手続きと少年保護事件の手続きを説明できる。■ 3.更生保護の行政機関と民間協力組織を説明できる。■ 4.仮釈放制度と生活環境調整を説明できる。■ 5.保護観察の概要を説明できる。■ 6.更生緊急保護制度を説明できる。■ 7.更生保護事業と関係機関との連携の在り方を説明できる。■ 8.心神喪失者等医療観察制度を説明できる。■ 9.恩赦制度の概要を説明できる。■ 10.犯罪被害者等支援活動を説明できる。■ 11.再犯防止推進計画について説明できる。■				
評価方法	評価の基準～授業は講義中心で、教科書とプリントで学習します。毎回簡単なアンケートを実施して出				

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

		席等を確認します。最終回(第8回)の講義後、期末テストでは、過去の国家試験問題から出題し、最終レポートの課題を示しますので、2週間以内に必ず提出してください。 授業参加度 50%、期末テスト 20%、レポート提出 30%で評価し、総合評価 60%以上を合格とします。		
使用教材		「更生保護入門(第5版)」松本勝編著(成文堂)2,100円＋税 2019年3月発行 毎回の授業で使用し、第8回までにほぼ全文を読破します。第1回は教科書を入手していない学生に配慮し、配布する資料で講義します。		
参考文献		「犯罪白書」(法務省のホームページから入手可能)		
課題に対するフィードバック		毎回の授業で簡単なアンケートを行います。次の授業でフィードバックします。また、メールがあれば、返信で解説します。期末テストの正答は、授業で配布した国家試験問題で確認できます。提出したレポートは返却しませんが、フィードバックを求める学生には、メールにより対応します。		
オフィスアワー (研究室)		授業日は午後1時から講師控室にいます。授業・犯罪等に関する質問等は、いつでもメールで受け付けます。	メールアドレス (#→@)	nra25159#nifty.com
1	講義内容	ガイダンス。成人及び少年の刑事司法制度の概要及び更生保護と社会福祉の相違点を学ぶ。江戸時代の法度と掟、長谷川平蔵の人足寄場、明治時代の免囚保護、昭和の司法保護、戦後の更生保護制度を概観する。受刑の視点から吉田松陰、西郷隆盛、高野長英に触れる。■		
	該当到達目標	予習	法務省のホームページで「刑事政策」「犯罪白書」等に目を通す。教科書を入手している学生は、「はじめに」「第1章 更生保護の意義と歴史」「第2章 刑事司法手続の概要」を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容をプリントで復習し、教科書 p1～p29(第1章及び第2章)を読む。	1.5 時間
2	講義内容	更生保護制度を掌る行政機関及びその担い手、民間組織・団体について学ぶ。第1回の復習として、プリントと教科書を引用し、更生保護と社会福祉の関係性、刑罰に関する古典学派と近代学派の考え方、罪刑法定主義、犯罪の3要件、検察官の役割、更生保護法などを復習する。刑事司法手続の流れ、少年事件の手続等を学ぶ。関連する過去の国家試験問題を解説する。■		
	該当到達目標	予習	前回配布した資料(プリント)と教科書 p1～p29を復習し、教科書 p30～p40「第3章 更生保護の機構」を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書とプリントを照合し、官民の更生保護機関・団体について理解する。	1.5 時間
3	講義内容	仮釈放制度の概要と生活環境調整及び刑の一部執行猶予制度について学ぶ。典型的な事例を用いて、講義の第1回及び第2回を復習し、仮釈放の事例にも学ぶ。関連する過去の国家試験問題を解説する。■		
	該当到達目標	予習	教科書 p41～p68「第4章 仮釈放等の制度」「第5章 生活環境調整と就労支援」及び同 p252～p272「第16章 刑の一部執行猶予制度」を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,4	復習	教科書とプリントを確認して仮釈放制度と生活環境調整、刑の一部執行猶予制度について復習する。	1.5 時間
4	講義内容	保護観察の目的と方法(指導監督と補導援護)、保護観察の種類と対象、保護観察期間、良好措置と不良措置など、保護観察について具体的に学ぶ。改正少年法、新少年院法、少年鑑別所法について学ぶ。児童自立支援施設と少年院を比較する。関連する過去の国家試験問題を解説する。■		
	該当到達目標	予習	教科書 p69～83「第6章 保護観察概説」及び同 p252～p272「第16章 刑の一部執行猶予制度」に目を通す。	1.5 時間
	2,5	復習	教科書とプリントで保護観察について復習し、次回の講義に備える。	1.5 時間
5	講義内容	保護観察各論及び更生緊急保護制度について学ぶ。遵守事項、不良措置、専門的処遇プログラムの進め方について学ぶ。応急の救護と更生緊急保護について学ぶ。関連する過去の国家試験問題を解説する。恩赦制度について学ぶ。■		
	該当到達目標	予習	教科書 p69～p99で「第6章 保護観察概説」を確認し、「第7章 保護観察各論(処遇)」、同 p119～p136「第9章 更生緊急保護」に目を通す。恩赦制度について、同 p162～173に目を通す。	1.5 時間
	5,6,9	復習	教科書とプリントで保護観察及び応急の救護と更生緊急保護、恩赦制度を復習する。	1.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

6	講義内容	更生緊急保護、更生保護事業の概要及び犯罪被害者等支援活動について学ぶ。関連する過去の国家試験問題を解説する。■		
	該当到達目標	予習	教科書 p119～p161「第 9 章 更生緊急保護」「第 10 章 更生保護事業」、同 p174～p183「第 12 章 犯罪被害者等支援活動」を読む。	1.5 時間
	7,10	復習	教科書とプリントで復習する。	1.5 時間
7	講義内容	医療観察制度の概要について学ぶ。同制度に関連する過去の国家試験問題を解説する。■		
	該当到達目標	予習	教科書 p234～p251「第 15 章 心神喪失者等医療観察制度の概要」に目を通す。	1.5 時間
	8	復習	教科書とプリントで復習する。	1.5 時間
8	講義内容	犯罪予防と民間協力組織・多機関連携・再犯防止推進計画について学ぶ。最近 3 年分の更生保護に関する国家試験問題を解く。レポートの課題を示す。■		
	該当到達目標	予習	教科書 p184～p227「第 13 章 犯罪予防と民間協力組織」「第 14 章 犯罪者の社会内処遇における多機関連携」、同 p276～p286「第 17 章 再犯防止推進法」の該当部分に目を通す。これまでのプリントと教科書を見直す。	1.5 時間
	7,11	復習	教科書とプリントで復習する。2 週間以内にレポートを作成して教務課に提出する。	2.5 時間
合計時間(予習・復習)				25 時間
備考	授業当日に配布したプリントは、次回以降に講師から受け取ることができます。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		相談援助実習指導Ⅰ（専門展開科目）			科目ナンバリング	SWS318
英文名		Guidance to Social Work PracticumⅠ			講義形態	演習
担当教員		金井 敏、永田 理香、戸澤 由美恵、根岸 洋人、大川 健次郎、石坂 公俊、大口 達也				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		2 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位		
種別		「社会福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
		✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要（テーマ・内容）		1.相談援助実習の意義を理解し、実習の問題意識や目的意識を明確にする。 2.相談援助実習に必要な倫理や態度、知識や技術等について理解を深める。 3.現場職員によるゲストスピーカーを招き、業務の実際や職員に求められる姿勢、実習の内容など実習に向けての動機づけを行う。				
到達目標		1.相談援助実習の意義について理解できる。 2.相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術に理解し、実践的な技術等を体得できる。 3.社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等を総合的に対応できる能力を習得できる。				
評価方法		授業への取組状況を勘案し総合的に評価する。				
使用教材		テキスト『社会福祉小六法』（ミネルヴァ書房）				
参考文献		その他、適宜必要な資料を配布する。				
課題に対するフィードバック		実習担当教員が提出物について、コメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。修正・改善等の指示を受けた提出物は、実習担当教員の指示に従って再提出すること。				
オフィスアワー（研究室）		担当教員のオフィスアワーは 5 階実習指導室前の掲示板に掲示する。		メールアドレス（#→@）	授業にて担当教員から個別に周知する。	
1	講義内容	全体オリエンテーション・ゼミ別オリエンテーション				
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、到達目標、授業計画を理解する。			4 時間
	1	復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。			1 時間
2	講義内容	実習先と対象理解① 児童分野・身体障害分野				
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。			1.5 時間
	1,2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。			1 時間
3	講義内容	実習先と対象理解①の振り返り 児童分野・身体障害分野				
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。			1.5 時間
	1,2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。			1 時間
4	講義内容	実習先と対象理解② 行政分野・社会福祉協議会分野				
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。			1.5 時間
	1,2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。			1 時間
5	講義内容	実習先と対象理解②の振り返り 行政分野・社会福祉協議会分野				
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。			1.5 時間
	1,2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。			1 時間
6	講義内容	実習先と対象理解③ 高齢分野（相談）・高齢分野（入所）				

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1 時間
7	講義内容	実習先と対象理解③の振り返り 高齢分野(相談)・高齢分野(入所)		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1 時間
8	講義内容	実習先と対象理解④ 知的障害分野・医療分野		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1 時間
9	講義内容	実習先と対象理解④の振り返り 知的障害分野・医療分野		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1 時間
10	講義内容	実習報告会①		
	該当到達目標	予習	実習先の実習期間, 形態, 要件等について調べる	1 時間
	2,3	復習	実習報告会レポートのまとめ	1.5 時間
11	講義内容	実習報告会②		
	該当到達目標	予習	実習先の実習内容等について調べる	1 時間
	2,3	復習	実習報告会レポートのまとめ	1.5 時間
12	講義内容	実習先選択相談会		
	該当到達目標	予習	実習先の種類や内容, 利用者に関する概要を整理する。	1 時間
	2,3	復習	実習先選択相談会レポートのまとめ	1.5 時間
13	講義内容	実習先事前学習①		
	該当到達目標	予習	実習先の関連法令, 条例規則等について整理する。	1 時間
	1,2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1.5 時間
14	講義内容	実習先事前学習②		
	該当到達目標	予習	実習先の利用者, ニーズに関して整理する。	1 時間
	1,2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1.5 時間
15	講義内容	実習先事前学習③		
	該当到達目標	予習	実習先の地域的条件や関連する社会資源等について整理する。	1 時間
	1,2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				40 時間
備考	実習指導は実習担当教員がゼミ別に行います。 この科目は相談援助実習に行く学生を対象にしています。科目の履修にあたってはさまざまなルールが存在します。詳細はガイダンス等でお伝えしますので、ガイダンスには必ず出席してください。出席できない場合は実習指導室に事前に連絡すること。 その他、実習にかかわる実習事務等は、実習指導室が担当します。 実習事務に関して、不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、必ず来室して確認してください。 実習指導室: 大学 1 号館 5 階 TEL: 027-352-1292(直通) 利用時間: 実習期間外 9 時 00 分～17 時 00 分(月～金)、実習期間中 9 時 00 分～18 時 00 分(月～金※原則)			

科目名		相談援助実習指導Ⅱ（専門展開科目）			科目ナンバリング	SWS319
英文名		Guidance to Social Work PracticumⅡ			講義形態	演習
担当教員		金井 敏、永田 理香、戸澤 由美恵、根岸 洋人、大川 健次郎、石坂 公俊、大口 達也				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		3 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位		
種別		「社会福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力			応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		- 相談援助実習に係る個別指導および集団指導を通して、専門的な知識や実践的な技術等を体得する。 - 社会福祉士に求められる倫理観や課題把握能力、相談対応力を修得し、専門職としての資質を高める。 - 授業期間全体を通じて、相談援助実習に必要な知識・技術をグループワーク形式中心に学ぶ。実習指導は実習担当教員がゼミ別に行う。				
到達目標		1. 利用者(対象者)の生活と現在の状況、これまでの経験と今後のこと、抱えている課題等を多くの角度から捉え考察を深めることができる。 2. 社会資源や他の機関(組織)との連携を軸にした問題解決の基礎的な手順や方法を学び、利用者(対象者)の具体的なニーズを発見し、アセスメントを行うことができる。 3. 実習先の法制度上の設置目的や役割を知り、それぞれの援助現場が、歴史の流れの中で法制度とともに存在してきたことの意味を説明できるようになる。 4. 実習指導職員による助言や指導から、社会福祉士に求められる倫理観、価値、行動基準を学び、自らの感情の表出、言動のあり方について考察を深められ、自己覚知できるようになる。				
評価方法		事前学習を含めた実習状況を勘案し総合的に評価する。				
使用教材		相談援助実習の『実習手引き』等、実習指導に必要な共通教材は開講時指示する。				
参考文献		その他、実習ゼミ別に必要な教材を指示・配布する。				
課題に対するフィードバック		実習担当教員が提出物について、コメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。修正・改善等の指示を受けた提出物は、実習担当教員の指示に従って再提出すること。				
オフィスアワー (研究室)		担当教員のオフィスアワーは 5 階実習指導室前の掲示板に掲示する。	メールアドレス (#→@)	授業にて実習担当教員から個別に周知する		
1	講義内容	全体オリエンテーション(実習と実習指導の意義)				
	該当到達目標	予習	ボランティア実施、ボランティア学習報告書作成、個人票作成、実習先情報収集			4 時間
	1,2	復習	配布物や実習の手引きの内容を再確認する。			1 時間
2	講義内容	実習ゼミ別に示された課題(個人票修正、概要表作成等)に取り組む。				
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(個人票修正、概要表作成等)に取り組む。			1.5 時間
	1,2,3	復習	オリエンテーション内容を再確認する。ボランティア学習報告書のフィードバックがあった場合には、実習に活かせるように気づきを整理する。			1 時間
3	講義内容	実習先概要表の作成等を通じた実習先に関する基本的な理解 ①実習先の根拠となる法制度、組織の理念・目的、役割・機能、計画、事業・業務等の情報整理				
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(個人票修正、概要表作成等)に取り組む。			1.5 時間
	2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。			1 時間
4	講義内容	実習先概要表の作成等を通じた実習先に関する基本的な理解 ②実習先の利用者、一日の流れ、月間・年間スケジュール、行事の意義、地域特性等の情報整理				
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(個人票修正、概要表作成等)に取り組む。			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
5	講義内容	実習先の関連業務(介護、保育、看護、医療等)に関する基本的な理解		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(個人票修正、概要表作成等)に取り組む	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
6	講義内容	実習先の相談援助に係る専門的な知識や技術に関する理解 ①実習指導者の主な業務内容や専門的技術、利用者(対象者)との関わり方、自己覚知等		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習計画書下案作成等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
7	講義内容	実習先の相談援助に係る専門的な知識や技術に関する理解 ②実践力(コミュニケーション、情報収集、ネットワーク、チームアプローチ)や専門職の倫理等		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習計画書下案作成等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,4	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
8	講義内容	実習先の相談援助に係る専門的な知識や技術に関する理解 ③支援計画の策定やモニタリング、評価の方法、スーパービジョン等		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習計画書下案作成等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,4	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
9	講義内容	実習計画書の作成指導① 実習計画書の概要、実習プログラムについての理解		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習計画書下案作成等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
10	講義内容	実習計画書の作成指導② 実習プログラムに基づいた実習目標、実習テーマの設定		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習計画書作成等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
11	講義内容	実習計画書の作成指導③ 実習テーマに基づいた達成課題・方法の設定		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習計画書作成等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	実習計画書を完成させる	1 時間
12	講義内容	実習先事前訪問(実習計画書の三者協議を含む)		
	該当到達目標	予習	実習先と事前訪問の日程調整を行う。事前訪問の準備。	1 時間
	1,2,3	復習	事前訪問を振り返り、気づきや反省点を整理する。	1.5 時間
13	講義内容	実習先事前訪問の振り返り		
	該当到達目標	予習	事前訪問の気づきや反省点を、課題(実習計画書等)に反映させる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題(実習計画書等)に反映させる。	1 時間
14	講義内容	「実習記録ノート」への記録内容および記録方法に関する理解		
	該当到達目標	予習	『実習の手引き』の「実習記録ノート」の内容確認。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	実習中の服装や持ち物等を点検し、事前準備を行う。	1 時間
15	講義内容	実習直前オリエンテーション		
	該当到達目標	予習	『実習の手引き』の「実習が始まったら」「事務手続き・事後対応」の内容確認。	1 時間
	4	復習	オリエンテーションの内容を踏まえ、実習前の準備状況を再確認する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				40 時間
備考	実習にかかわる実習事務等は、実習指導室が担当します。 実習事務に関して、不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、必ず来室して確認してください。 実習指導室:大学1号館5階 TEL:027-352-1292(直通) 利用時間:実習期間外9時00分～17時00分(月～金)、実習期間中9時00分～18時00分(月～金※原則)			

科目名		相談援助実習指導Ⅲ(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWS320
英文名		Guidance to Social Work PracticumⅢ			講義形態	演習
担当教員		金井 敏、永田 理香、戸澤 由美恵、根岸 洋人、大川 健次郎、石坂 公俊、大口 達也				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		3 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位		
種別		「社会福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		実習で経験した援助活動を専門的援助技術として概念化・理念化し、体系立てる力を涵養する。実習記録や実習経験を共有し、課題整理を通じて、社会福祉士としての専門的な技術を修得する。グループワークを中心に相談援助実習の振り返りを行い、実習報告会の発表に向けて準備する。実習指導は実習担当教員がゼミ別に行う。				
到達目標		1. 実習先の業務内容、仕事の流れ、チームワーク、利用者との関わり方等を学び、業務に必要な知識や技術および組織人、個人としての従事者のあり方や役割を説明できるようになる。 2. 利用者との関わり、実習指導職員による助言や指導から、社会福祉士に求められる倫理観、価値、行動基準を学び、自らの感情の表出、言動のあり方について考察を深められ、自己覚知できるようになる。 3. 利用者(対象者)の生活と現在の状況、これまでの経験と今後のこと、抱えている課題等を多くの角度から捉え考察を深めることができる。 4. 社会資源や他の機関(組織)との連携を軸にした問題解決の基礎的な手順や方法を学び、利用者(対象者)の具体的なニーズを発見し、アセスメントを行うことができる。 5. 実習先の法制度上の設置目的や役割を知り、それぞれの援助現場が、歴史の流れの中で法制度とともに存在してきたことの意味を説明できるようになる。 6. 実習全体を通して、新たな学習意欲・目標等を発見し、将来的に社会福祉士として現場に従事することへの希望と展望を見出すことができる。				
評価方法		事後学習を含めた実習状況を勘案し総合的に評価する。				
使用教材		実習指導に必要な共通教材は開講時指示する。				
参考文献		その他、実習ゼミ別に必要な教材を指示・配布する。				
課題に対するフィードバック		実習担当教員が提出物について、コメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。修正・改善等の指示を受けた提出物は、実習担当教員の指示に従って再提出すること。				
オフィスアワー (研究室)		担当教員のオフィスアワーは 5 階実習指導室前の掲示板に掲示する。		メールアドレス (#→@)	授業にて実習担当教員から個別に周知する	
1	講義内容	実習巡回指導① 前半実習の振り返り、実習上の課題についての個別指導				
	該当到達目標	予習	実習記録の振り返り、巡回指導時のゼミ別課題への取組、実習指導教員や実習指導者への質問事項等検討。			2 時間
	1,2,3,4,5	復習	実習巡回指導の記録作成。実習巡回指導を踏まえた実習課題・内容の見直し、実習指導者との調整等。			2 時間
2	講義内容	実習巡回指導② 後半実習の振り返り、実習上の課題についての個別指導				
	該当到達目標	予習	実習記録の振り返り、巡回指導時のゼミ別課題への取組、実習指導教員や実習指導者への質問事項等検討。			2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	実習巡回指導の記録作成。実習巡回指導を踏まえた実習課題・内容の見直し、実習指導者との調整等。			2 時間
3	講義内容	全体オリエンテーション				
	該当到達目標	予習	提出物(実習内容(概要)、実習後の自己評価、実習終了届)の作成および実習指導室への提出。実習先へのお礼状の作成・郵送。			2 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4,5,6	復習	オリエンテーション内容を再確認する。	0.5 時間
4	講義内容	実習記録や実習体験等を踏まえた課題の整理① 実習経験の共有と分かち合い		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(発表準備等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	実習報告書及び報告に向けて、共有・分かち合いで得た気づきを整理する。	1 時間
5	講義内容	実習記録や実習体験等を踏まえた課題の整理② 分かち合いによる自己覚知の促し		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(発表準備等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	実習報告書及び報告に向けて、自己覚知の内容を整理する。	1 時間
6	講義内容	実習記録や実習体験等を踏まえた課題の整理③ 実習テーマ、達成課題の振りかえり		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(発表準備等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	実習報告書及び報告に向けて、課題の達成、未達成を再整理する。	1 時間
7	講義内容	実習記録や実習体験等を踏まえた課題の整理④ 実習テーマ、達成課題の振りかえり		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(発表準備等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	実習報告書及び報告に向けて、実習プログラム別に気づきを整理する。	1 時間
8	講義内容	実習記録や実習体験等を踏まえた課題の整理⑤ 事例検討等を通じた振りかえり		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(発表準備等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	講義中に教員から指導があった事項を、事例検討等のポイントを整理する。	1 時間
9	講義内容	実習報告書の作成指導① 実習の目的と課題、実習内容について		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習報告書下案作成等)に取り組む。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
10	講義内容	実習報告書の作成指導② 援助者としての自己理解と課題について		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習報告書下案作成等)に取り組む。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
11	講義内容	実習計画書の作成指導③ 実習テーマに基づいた達成課題・方法の設定		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習報告書作成等)に取り組む。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	2 時間
12	講義内容	実習報告会の準備① 実習報告会の役割分担・発表内容の検討等		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(発表資料作成、内容検討等)に取り組む。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
13	講義内容	実習報告会の準備② 実習報告会の発表内容の共有、改善点の検討等		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(発表資料作成、内容検討等)に取り組む。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
14	講義内容	実習報告会の準備③ 実習報告会の発表内容の共有、リハーサル等		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(発表資料作成、内容検討等)に取り組む。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	発表資料の最終的な見直しを行い、代表者が資料を提出する。	1 時間
15	講義内容	実習報告会(実習評価全体総括会)		
	該当到達目標	予習	実習報告会の準備、リハーサル等。	3 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	実習報告会での気づきを踏まえ、実習後の目標等を考える。	1 時間
合計時間(予習・復習)				46 時間
備考	実習にかかわる実習事務等は、実習指導室が担当します。 不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、必ず来室して確認してください。 実習指導室:大学1号館5階 TEL:027-352-1292(直通)			

科目名	相談援助実習(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWS321
英文名	Social Work Practicum			講義形態	実習
担当教員	金井 敏、永田 理香、戸澤 由美恵、根岸 洋人、石坂 公俊、大川 健次郎、大口 達也				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	3 年 通年	選必・単位数	選択 4 単位		
種別	「社会福祉士」、「福祉レクリエーションワーカー」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。 実習は夏季休業中に行われる。各自に指導担当教員が割り振られ、実習巡回指導や帰校日指導を行う。				
到達目標	1.実習先の業務内容を理解し実習生として適切に行動できる 2.実習計画書に従い、目標変更、課題設定をすることができる 3.実習指導者及び担当教員のスーパービジョンを受け、主体的に実習に取り組むことができる 4.社会福祉士として必要となる技術を習得し、実践できる				
評価方法	実習状況を勘案し総合的に評価する				
使用教材	実習の手引き他				
参考文献					
課題に対するフィードバック	実習巡回指導や帰校日の指導、実習ノートや実習報告会等を通じて行う 実習先の指導者からもフィードバックを受ける				
オフィスアワー (研究室)	担当教員のオフィスアワーは 5 階実習指導室の掲示板に掲示する。	メールアドレス (#→@)	担当教員のメールアドレスは 5 階実習指導室の掲示板に掲示する。		
講義内容	相談援助実習 ※ 実習内容の詳細は実習先によって異なるが、次に掲げる事項について学生は実習指導者による指導を受ける。 ※ 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーション ※ 人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との援助関係の形成。利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む。)とその評価。 ※ 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際。 ※ 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解。 ※ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 ※ 当該実習先が地域社会の中の設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解				
	予習	実習の準備をしっかりと行うこと			適宜実施

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	復習	実習ノートの作成及び整理	適宜実施
			合計時間(予習・復習)
備考	この科目を履修するためには相談援助実習指導Ⅰを履修済であること。また、相談援助実習指導ⅡⅢ、相談援助演習ⅣⅤを同時に履修する必要がある。 実習ガイダンスにて詳細を説明するので必ず参加すること。		

科目名		精神疾患とその治療Ⅱ（専門導入科目）		科目 ナンバリング	SWP301
英文名		Psychiatric Disorders and the Treatment ApproachⅡ		講義形態	講義
担当教員		上原 徹			
科目に関連した 実務経験		精神科医として大学病院等で勤務経験 30 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている			
学年・開講期		3 年 後期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位	
種別		精神保健福祉士国家試験指定科目			
学位授与方針 との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力
		✓	基礎的知識力		応用・実践する能力
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 （テーマ・内容）		学生が、「精神疾患とその治療Ⅰ」や「精神保健の課題と支援Ⅰ」で学習した総論内容を基盤に、各論として精神保健福祉の知識を深め、精神保健福祉士として必要な知識を高め、真摯な態度を養うことができる。 授業は教科書を使って、要点を指示していく。最終回は、パワーポイントによるまとめを行う。			
到達目標		1.各精神疾患や具体的な心理社会的問題の状態と治療について十分に説明できる 2.精神保健福祉士として担うべき中核業務を解説できる 3.社会的な要請に伴う職域の拡大やチーム医療の重要性を意識できる 4.精神科医療機関や治療構造に関わる実践的な知識を整理できる 5.医療福祉連携に関わる誠実な支援姿勢を培うことができる。■			
評価方法		国家試験形式に準じた筆記試験 100%で評価するが、授業態度（静粛さや不必要な私語など）に問題がある場合は個別に厳しく減点する。			
使用教材		新・精神保健福祉士養成講座 第 1 巻「精神疾患とその治療」中央法規出版、を教科書として用いるので必携。			
参考文献		適宜スライド上映を加える			
課題に対する フィードバック		授業中に過去の国家試験における精神神経系の問題の解説を行い、専門職としての必要な課題をフィードバックする。必要に応じて、定期試験問題の解説を行う。			
オフィスアワー （研究室）		月 4、金 3 研究室:1 号館 5 階 501	メールアドレス （#→@）	授業で提示する	
1	講義内容	精神医療のイントロダクション			
	該当到達目標 1	予習	「精神疾患とその治療Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。		0.5 時間
		復習	別途準備する資料を用いて復習する。		2.5 時間
2	講義内容	成因と分類、状態と診断、評価と検査			
	該当到達目標 1	予習	「精神疾患とその治療Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。		1 時間
		復習	別途準備する資料を用いて復習する。		2 時間
3	講義内容	器質性精神障害や神経認知障害			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	「精神疾患とその治療Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。		1 時間
		復習	別途準備する資料を用いて復習する。		2 時間
4	講義内容	精神作用物質使用による精神および行動の障害			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	「精神疾患とその治療Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。		1 時間
		復習	別途準備する資料を用いて復習する。		2 時間
5	講義内容	統合失調症			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	「精神疾患とその治療Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。		1 時間
		復習	別途準備する資料を用いて復習する。		2 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

6	講義内容	双極性障害とうつ病性障害		
	該当到達目標	予習	「精神疾患とその治療Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
7	講義内容	神経症性障害、身体症状性障害、解離性障害		
	該当到達目標	予習	「精神疾患とその治療Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
8	講義内容	摂食障害特論		
	該当到達目標	予習	「精神疾患とその治療Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
9	講義内容	睡眠障害、身体要因による精神行動症候群		
	該当到達目標	予習	「精神疾患とその治療Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
10	講義内容	神経発達障害、小児青年期に発症する行動情緒の障害、知的障害		
	該当到達目標	予習	「精神疾患とその治療Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
11	講義内容	精神科薬物療法や生物身体的療法		
	該当到達目標	予習	「精神疾患とその治療Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
12	講義内容	精神療法や心理社会療法、リハビリテーション		
	該当到達目標	予習	「精神疾患とその治療Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
13	講義内容	治療構造と専門病棟、人権擁護、入院形態、チーム医療と精神保健福祉塩役割■		
	該当到達目標	予習	「精神疾患とその治療Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
	2,3,4,5	復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
14	講義内容	精神保健福祉法、救急、再発予防、退院促進、医療と福祉及び関連機関の連携■		
	該当到達目標	予習	「精神疾患とその治療Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
	2,3,4,5	復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
15	講義内容	まとめ■		
	該当到達目標	予習	資料を用いて自習する。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	試験問題を復習する。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	精神保健福祉士希望者は必修である。「精神疾患とその治療Ⅰ」の履修を済ませていることがのぞましい。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	精神保健の課題と支援Ⅱ（専門展開科目）			科目ナンバリング	SWP302
英文名	Issues in Mental Health and Support SystemⅡ			講義形態	講義
担当教員	横澤 岳志				
科目に関連した実務経験	精神保健福祉士として精神科病院及び併設する障害福祉サービス事業所に勤務（現在）				
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位		
種別	「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	精神疾患が国民の 5 大疾病のひとつとして数えられる現代社会において、精神保健への取り組みがますます重要視されている。本講義は、精神保健福祉士を目指す学生が様々な精神保健についての基本的な知識を習得し、様々な課題解決に向けた実践の基礎となることを目指す。 教科書の重要項目をパワーポイントで整理しながら、授業を進めていく				
到達目標	1.精神保健と労働問題との関連を理解する 2.精神保健の各分野に関与する精神保健福祉士の役割を理解する■ 3.現代社会に起こりうる様々な問題と精神保健との関連を理解する 4.地域精神保健活動について理解する 5.諸外国の精神保健活動について理解する				
評価方法	出席率を 30%、定期試験を 70%の比重で評価し、合計で 60%以上を合格とする。なお、レポートにより、評価に加点する場合あり。				
使用教材	新・精神保健福祉士養成講座 2 精神保健の課題と支援（中央法規出版）				
参考文献					
課題に対するフィードバック	定期試験後に解答を提示する。 レポートにはコメントをつけて返却する。				
オフィスアワー （研究室）	質問等には、授業の開始前もしくは終了後にも教室や講師控室で応じる。		メールアドレス （#→@）	tak.yoyo0120#gmail.com	
1	講義内容	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ ①現代日本の労働環境 ②うつ病と過労自殺			
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章 第 1 節～第 2 節に目を通す		1.5 時間
	1	復習	現代の労働環境やうつ病、過労自殺について理解する		1.5 時間
2	講義内容	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ ③飲酒やギャンブルなど依存に関する問題 ④心身症と生活習慣病			
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章 第 3 節～第 4 節に目を通す		1.5 時間
	1	復習	依存の問題と心身症について理解する		1.5 時間
3	講義内容	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ ⑤職場内の問題を解決するための機関および関係法規 ⑥職場における精神保健福祉士の役割			
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章 第 5 節～第 6 節に目を通す		1.5 時間
	1	復習	職場における問題解決のための機関や精神保健福祉士の役割を理解する		1.5 時間
4	講義内容	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 ①発達障害に対する対策 ②アルコール問題に関す			

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

		る対策		
	該当到達目標	予習	教科書の第 7 章 第 1 節～第 2 節に目を通す	1.5 時間
	2	復習	発達障害対策とアルコール問題対策について理解する	1.5 時間
5	講義内容	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 ③薬物依存対策 ④うつ病と自殺防止対策		
	該当到達目標	予習	教科書の第 7 章 第 3 節～第 4 節に目を通す	1.5 時間
	2	復習	薬物依存対策と自殺防止対策について理解する	1.5 時間
6	講義内容	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 ⑤認知症高齢者に対する対策 ⑥社会的ひきこもりに対する対策		
	該当到達目標	予習	教科書の第 7 章 第 5 節～第 6 節に目を通す	1.5 時間
	2	復習	認知症高齢者対策と社会的ひきこもり対策について理解する	1.5 時間
7	講義内容	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割■ ⑦災害時の精神保健に対する対策 ⑧精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割		
	該当到達目標	予習	教科書の第 7 章 第 7 節～第 8 節に目を通す	1.5 時間
	2	復習	災害時の精神保健と精神保健に関わる精神保健福祉士の役割を理解する	1.5 時間
8	講義内容	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ ①現代社会と精神保健 ②災害被災者の精神保健		
	該当到達目標	予習	教科書の第 8 章 第 1 節～第 2 節に目を通す	1.5 時間
	3	復習	現代社会と精神保健、災害被災者の精神保健について理解する	1.5 時間
9	講義内容	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ ③犯罪被害者の精神保健 ④ニート・若年無業者と精神保健		
	該当到達目標	予習	教科書の第 8 章 第 3 節～第 4 節に目を通す	1.5 時間
	3	復習	犯罪被害者の精神保健、ニート・若年無業者と精神保健について理解する	1.5 時間
10	講義内容	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ ⑤ホームレスおよび貧困問題と精神保健 ⑥性別違和と精神保健		
	該当到達目標	予習	教科書の第 8 章 第 5 節～第 6 節に目を通す	1.5 時間
	3	復習	ホームレスと貧困問題、性別違和と精神保健について理解する	1.5 時間
11	講義内容	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ ⑦多文化と精神保健 ⑧緩和ケアと精神保健		
	該当到達目標	予習	教科書の第 8 章 第 7 節～第 8 節に目を通す	1.5 時間
	3	復習	多文化と精神保健、緩和ケアと精神保健について理解する	1.5 時間
12	講義内容	地域精神保健に関する諸活動■ ①精神保健に関する調査 ②資源開発		
	該当到達目標	予習	教科書の第 9 章 第 1 節～第 2 節に目を通す	1.5 時間
	4	復習	精神保健に関する調査、資源開発について理解する	1.5 時間
13	講義内容	地域精神保健に関する諸活動■ ③ネットワークづくり ④地域精神保健と関係法規		
	該当到達目標	予習	教科書の第 9 章 第 3 節～第 4 節に目を通す	1.5 時間
	4	復習	ネットワークづくりや地域精神保健について理解する	1.5 時間
14	講義内容	地域精神保健に関する諸活動 ⑤精神保健に関する人材育成 諸外国の精神保健活動の現状および対策 ①世界の精神保健の実情		
	該当到達目標	予習	教科書の第 9 章 第 5 節、第 10 章 第 1 節に目を通す	1.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	4,5	復習	精神保健に関する人材育成と世界の精神保健の実情について理解する	1.5 時間
15	講義内容	諸外国の精神保健活動の現状および対策 ②WHO などの国際機関の活動		
	該当到達目標	予習	教科書の第 10 章 第 2 節に目を通す	1.5 時間
	5	復習	WHO などの国際機関の活動について理解する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWP303
英文名	Basic Theory of Mental Health Social Work (advanced)			講義形態	講義
担当教員	池田 朋広				
科目に関連した実務経験	①精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)として大学病院において 21 年の勤務経験あり。 ②非常勤として精神科クリニックデイケアに勤務。 ③精神保健参与員(精神保健福祉士)として、地方裁判所に登録。 ④外部講師(精神保健福祉士)として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加。				
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位		
種別	「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要(テーマ・内容)	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要を知る。精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について学ぶ。おもに教科書と映像資料を用いて、事例からの学びを深める。				
到達目標	1.精神障害者の相談援助における権利擁護の基本的考え方と意義について理解する。■ 2.精神保健福祉領域の多職種チームにおける、ソーシャルワーカー独自の意義と役割について理解する。■				
評価方法	出席回数と授業の終わりに行なうリアクションペーパーの割合を 40%、期末試験の成績が 60%で総合評価する				
使用教材	中法法規出版 新・精神保健福祉士養成講座 3 第 2 版				
参考文献					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの内容について、翌週の授業の冒頭にまとめてフィードバックする。				
オフィスアワー(研究室)	火曜日 3 時限, 水曜日 2 時限		メールアドレス(#→@)	ikedat#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	精神保健福祉士の実践―現場実践の紹介―■			
	該当到達目標	予習	不要		0 時間
	1,2	復習	教科書を読み、我が国における精神科ソーシャルワーカーの歴史を知る		1.5 時間
2	講義内容	精神保健福祉士の誕生と経緯			
	該当到達目標	予習	Y 問題について調べる		2 時間
	1,2	復習	精神科におけるソーシャルワーカーの歴史を整理して理解する。		1.5 時間
3	講義内容	精神保健福祉士の活動の広がり■			
	該当到達目標	予習	精神保健福祉士がどのような機関で働いているかを調べる		2 時間
	1,2	復習	精神保健福祉士が働く分野と、各分野の実際の業務内容をまとめる		1.5 時間
4	講義内容	社会から求められる精神保健福祉士の役割			
	該当到達目標	予習	基礎で勉強したソーシャルワーカーに共通して求められる役割をおさらいする		1.5 時間
	1,2	復習	社会から見て精神保健福祉士にどのような業務が求められているかを理解する		1.5 時間
5	講義内容	パターナリズムと代理行為の諸問題について■			
	該当到達目標	予習	ソーシャルワークにおける権利擁護の国際的な流れを調べる		2 時間
	1,2	復習	パターナリズムについて調べてまとめる		1.5 時間
6	講義内容	民間の施設・組織における相談援助の専門職について			
	該当到達目標	予習	生活指導員、相談支援専門員、サービス管理責任者の業務について調べる		1.5 時間
	1,2	復習	精神障害者の生活への支援内容(医療・就労・住居)についてまとめる		1.5 時間
7	講義内容	精神保健福祉センター・保健所等の公的機関における精神保健福祉士の業務			
	該当到達目標	予習	公務員として働いている精神保健福祉士の職種を調べる		1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	公務員としての立場とソーシャルワーカーとしての専門性の狭間の葛藤を考える	1.5 時間
8	講義内容	精神保健福祉士の専門職としての役割■		
	該当到達目標	予習	意思決定支援における精神保健福祉士の支援方法について調べる	1.5 時間
	1,2	復習	精神保健福祉士が国家資格であることの意義についてまとめる	1.5 時間
9	講義内容	精神保健福祉活動における包括的な援助を行うための多職種連携について理解する■		
	該当到達目標	予習	多職種連携における各職種の役割についてまとめる	1.5 時間
	1,2	復習	多職種連携の種類、チームビルディングについてまとめる	1.5 時間
10	講義内容	精神障害者の人権擁護と精神保健福祉士の役割について理解する■		
	該当到達目標	予習	障害者権利条約における理念と意義についてまとめる	1.5 時間
	1,2	復習	精神科医療における精神保健福祉士の位置付の現状と問題点を整理する	1.5 時間
11	講義内容	専門職倫理と倫理的ジレンマ■		
	該当到達目標	予習	ソーシャルワーカーの倫理綱領全文を読む	1.5 時間
	1,2	復習	バーンアウトについて調べて理解する	1.5 時間
12	講義内容	精神保健福祉活動における包括的な援助について理解する■		
	該当到達目標	予習	ソーシャルワーク理論からみて「総合的かつ包括的」援助の意味するところを理解する	1.5 時間
	1,2	復習	地域を基盤としてクライアントのニーズに基づく支援のアセスメントについて事例からまとめる	1.5 時間
13	講義内容	ソーシャルワーカーにおけるアプローチの具体例①■		
	該当到達目標	予習	ストレングス視点による支援の長所を調べる	1.5 時間
	1,2	復習	エンパワメントされたクライアントの変化を調べる	1.5 時間
14	講義内容	ソーシャルワーカーにおけるアプローチの具体例②■		
	該当到達目標	予習	ナラティブアプローチについてまとめる	1.5 時間
	1,2	復習	グループ活動を通じた支援の在り方のモデルを調べる	1.5 時間
15	講義内容	当事者へのパートナーシップの在り方③について■		
	該当到達目標	予習	ピアサポート活動とフェロシップについて調べる	1.5 時間
	1,2	復習	当事者と精神保健福祉士のパートナーシップの望ましい在り方をまとめる	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	視聴覚教材を使用する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ（専門展開科目）			科目ナンバリング	SWP304
英文名	Mental Health Theory and PracticeⅠ			講義形態	講義
担当教員	須田 俊宏				
科目に関連した実務経験	常勤の精神保健福祉士として精神科病院に勤務（2007年4月～）				
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2単位		
種別	精神保健福祉士国家試験指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	1. わが国の精神保健福祉制度の変遷を踏まえ、その時代における一般社会と精神障がい者の関係性や置かれていた状況を理解する。精神障がい者の人権がどのように侵害されてきたか、それを保障する努力はどのようになされてきたかを学ぶ。 2. 精神保健福祉士の倫理観、基礎知識を身に着け、持つべき視点と専門性は何かを考える。 3. 精神科リハビリテーションの理念、意義と基本原則を学び、リハビリテーションが効果的にこなわれるための基礎知識を養う。				
到達目標	1. わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向、諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷を理解する。 2. 精神疾患や精神障がい者が差別、偏見の対象となりやすい理由を考え、それらがもたらすスティグマ、権利侵害、周囲からの孤立、家族の立場、自立を妨げる障壁等を理解する。 3. 精神科リハビリテーションの基本的な考え方、チーム構成、医療と地域の連携等援助方法の基礎を理解する。 4. 精神科リハビリテーションのプロセスを理解すると共に、疾病とライフサイクルとの相互関係についても理解を深める。 5. 「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」を受講するための準備学習をおこなう。				
評価方法	定期試験 70%、授業への参加度 30%				
使用教材	新・精神保健福祉士養成講座 4 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ 第2版（中央出版） ISBN978-4-8058-3946-1 このほか、適宜資料を配布する。				
参考文献	NHK 福祉系テレビ番組、DVD、インターネット動画等を用いる場合もある。				
課題に対するフィードバック	フィードバックや質問等は随時、直接またはメール等で受け付ける。				
オフィスアワー （研究室）	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス （#→@）	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス（講義予定、評価方法等の説明）			
	該当到達目標	予習	本科目に関するシラバスを読み、先輩等から情報収集をする。		2 時間
		復習	本科目を履修するか否かの意思を固める。		1 時間
2	講義内容	精神保健医療福祉の歴史と動向①			
	該当到達目標 1	予習	テキストの第1章第1節に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	テキスト、レジュメの内容を確認。関連事項の情報を調べる。		1.5 時間
3	講義内容	精神保健医療福祉の歴史と動向②			
	該当到達目標 1	予習	テキストの第1章第2節に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	テキスト、レジュメの内容を確認。関連事項の情報を調べる。		1.5 時間
4	講義内容	精神障がい者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識①			
	該当到達目標 2	予習	テキストの第2章第1節に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	テキスト、レジュメの内容を確認。関連事項の情報を調べる。		1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

5	講義内容	精神障がい者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識②		
	該当到達目標	予習	テキストの第２章第２節に目を通しておく。	1.5 時間
	2	復習	テキスト、レジュメの内容を確認。関連事項の情報を調べる。	1.5 時間
6	講義内容	精神障がい者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識③		
	該当到達目標	予習	テキストの第２章第３節に目を通しておく。	1.5 時間
	2	復習	テキスト、レジュメの内容を確認。関連事項の情報を調べる。	1.5 時間
7	講義内容	精神障がい者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識④		
	該当到達目標	予習	テキストの第２章第４節に目を通しておく。	1.5 時間
	2	復習	テキスト、レジュメの内容を確認。関連事項の情報を調べる。	1.5 時間
8	講義内容	精神科リハビリテーションの概念と構成①		
	該当到達目標	予習	テキストの第３章第１節に目を通しておく。	1.5 時間
	3	復習	テキスト、レジュメの内容を確認。関連事項の情報を調べる。	1.5 時間
9	講義内容	精神科リハビリテーションの概念と構成②■		
	該当到達目標	予習	テキストの第３章第２節に目を通しておく。	1.5 時間
	3	復習	テキスト、レジュメの内容を確認。関連事項の情報を調べる。	1.5 時間
10	講義内容	精神科リハビリテーションの概念と構成③■		
	該当到達目標	予習	テキストの第３章第３節１～３に目を通しておく。	1.5 時間
	3	復習	テキスト、レジュメの内容を確認。関連事項の情報を調べる。	1.5 時間
11	講義内容	精神科リハビリテーションの概念と構成④■		
	該当到達目標	予習	テキストの第３章第３節４～５に目を通しておく。	1.5 時間
	3	復習	テキスト、レジュメの内容を確認。関連事項の情報を調べる。	1.5 時間
12	講義内容	精神科リハビリテーションのプロセス①■		
	該当到達目標	予習	テキストの第４章第１節に目を通しておく。	1.5 時間
	4	復習	テキスト、レジュメの内容を確認。関連事項の情報を調べる。	1.5 時間
13	講義内容	精神科リハビリテーションのプロセス②■		
	該当到達目標	予習	テキストの第４章第２節に目を通しておく。	1.5 時間
	4	復習	テキスト、レジュメの内容を確認。関連事項の情報を調べる。	1.5 時間
14	講義内容	精神科リハビリテーションのプロセス③■		
	該当到達目標	予習	テキストの第４章第３節に目を通しておく。	1.5 時間
	4	復習	テキスト、レジュメの内容を確認。関連事項の情報を調べる。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	既習内容の振り返り。	6 時間
	1,2,3,4,5	復習	期末試験対策と復習。	2 時間
合計時間(予習・復習)				50 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（専門展開科目）			科目ナンバリング	SWP305
英文名	Mental Health Theory and PracticeⅡ			講義形態	講義
担当教員	白鳥 浩丈				
科目に関連した実務経験	2001.4 月～精神科病院にて精神保健福祉士として勤務、2020.4 月～就労移行支援事業所に勤務				
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位		
種別	精神保健福祉士国家試験指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	1.医療機関における精神科リハビリテーション、地域を基盤とした相談援助、相談援助のための面接技術、スーパービジョンとコンサルテーション等について学び、精神保健福祉士の役割への理解を深める。 2.精神保健福祉士国家試験レベルに対応できる基礎知識を身に着けること。 3.精神保健福祉に関するニュースやトピック等がある場合にはそれに言及することもある。また、実際の現場で何が生じ、何が行われているのかについても適宜紹介してゆきたい。				
到達目標	1. 医療機関におけるリハビリテーションでの精神保健福祉士の役割と、多職種との協働や連携のあり方について理解する。 2. 精神保健福祉士にとって不可欠な視野・視点を提供してくれる実践理論の枠組みとしての「実践モデル」について学び、その活用について理解を深める。 3. 地域を基盤とした相談援助の展開を念頭に、「ケース発見」から「終結・アフターケア」に至る一連の過程を理解する。 4. 相談援助活動において用いられる面接の種類とその特性、留意点、基本的姿勢について学び、その上でコミュニケーション技法や種々の面接技法についての理解を深める。 5. ミクロ、メゾ、マクロ各レベルにかかわる相談支援におけるスーパービジョンについて、また、精神保健福祉士の専門性を社会的に発揮できる方法とされるコンサルテーションについて理解する。				
評価方法	定期試験 70%, 授業態度 30%				
使用教材	新・精神保健福祉士養成講座 4 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ [第 2 版](中央法規) ISBN978-4-8058-3946-1 必要に応じてテキストを用いて予習・復習をすること。授業では適宜資料を配布する。必要時に動画や画像資料等を使用する。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	講義での質問時または発表後に、適宜フィードバックする。				
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス			
	該当到達目標	予習	テキストの目次に目を通しておく		1 時間
		復習	本科目の目標、授業内容を再確認する		1 時間
2	講義内容	精神専門療法①■			
	該当到達目標 1	予習	テキストの第 5 章第 1 節 1～3 に目を通しておく		1 時間
		復習	テキスト、レジュメ内容の確認、関連事項等の理解に努める		1 時間
3	講義内容	精神専門療法②■			
	該当到達目標	予習	テキストの第 5 章第 1 節 4～6 に目を通しておく		1 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	1	復習	テキスト、レジュメ内容の確認、関連事項等の理解に努める	1 時間
4	講義内容	家族教育プログラム■		
	該当到達目標	予習	テキストの第５章第２節に目を通しておく	1 時間
	1	復習	テキスト、レジュメ内容の確認、関連事項等の理解に努める	1 時間
5	講義内容	精神科デイケア■		
	該当到達目標	予習	テキストの第５章第３節に目を通しておく	1 時間
	1	復習	テキスト、レジュメ内容の確認、関連事項等の理解に努める	1 時間
6	講義内容	医療機関のアウトリーチ■		
	該当到達目標	予習	テキストの第５章第４節に目を通しておく	1 時間
	1	復習	テキスト、レジュメ内容の確認、関連事項等の理解に努める	1 時間
7	講義内容	チーム医療の概要■		
	該当到達目標	予習	テキストの第５章第５節に目を通しておく	1 時間
	1	復習	テキスト、レジュメ内容の確認、関連事項等の理解に努める	1 時間
8	講義内容	医療機関における多職種との協働・連携■		
	該当到達目標	予習	テキストの第５章第６節に目を通しておく	1 時間
	1	復習	テキスト、レジュメ内容の確認、関連事項等の理解に努める	1 時間
9	講義内容	精神障害者支援の実践モデル■		
	該当到達目標	予習	テキストの第６章に目を通しておく	1 時間
	2	復習	テキスト、レジュメ内容の確認、関連事項等の理解に努める	1 時間
10	講義内容	相談援助の過程および対象との援助関係①■		
	該当到達目標	予習	テキストの第７章第１～４節に目を通しておく	1 時間
	3	復習	テキスト、レジュメ内容の確認、関連事項等の理解に努める	1 時間
11	講義内容	相談援助の過程および対象との援助関係②■		
	該当到達目標	予習	テキストの第７章第５～８節に目を通しておく	1 時間
	3	復習	テキスト、レジュメ内容の確認、関連事項等の理解に努める	1 時間
12	講義内容	相談援助活動のための面接技術■		
	該当到達目標	予習	テキストの第８章に目を通しておく	1 時間
	4	復習	テキスト、レジュメ内容の確認、関連事項等の理解に努める	1 時間
13	講義内容	スーパービジョン		
	該当到達目標	予習	テキストの第９章第１節に目を通しておく	1 時間
	5	復習	テキスト、レジュメ内容の確認、関連事項等の理解に努める	1 時間
14	講義内容	コンサルテーション■		
	該当到達目標	予習	テキストの第９章第２節に目を通しておく	1 時間
	5	復習	テキスト、レジュメ内容の確認、関連事項等の理解に努める	1 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	既習事項の振り返り	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	定期試験対策、復習等	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWP306
英文名	Mental Health Theory and PracticeⅢ			講義形態	講義
担当教員	福永 晋太郎				
科目に関連した実務経験	精神保健福祉士・社会福祉士として、診療所において精神科ソーシャルワーカー業務を行っている。 ※群馬県精神保健福祉士会 中部地区 担当理事(教育研修委員会, 司法ソーシャルワーク委員会, ソーシャルワーカーデー委員会, 広報委員会 担当理事, 災害支援委員会 委員)				
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位		
種別	「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	精神障害は、疾患と障害が共存していると言われます。それはすなわち、多くの場合精神障害者が、精神疾患を有するだけでなく、生活課題をも有していることを意味します。それゆえ、精神障害を持つ方は、治療とともに、障害を克服するためのリハビリテーション・プログラムや福祉的な観点からの専門的な関わりを必要としています。そのうえさらに、ソーシャルワーカーには、障害を作り出す要因としての社会の側への働きかけの責任があり、それらの実践に必要な知識と技術の習得が必須となっています。本授業では、精神保健福祉領域で行われている、効果的で専門的な実践の方法について、学びを深めていきます。 講義においては、前半は各テーマについて概要を説明し、後半はグループワーク・質疑応答といった形式で進める。				
到達目標	1.精神保健福祉領域で用いられる専門概念、理論・モデルを理解し説明できる 2.精神保健福祉領域の関連施設の機能と役割を理解し説明できる■ 3.精神保健福祉領域のソーシャルワーク実践の特徴を語れる素養を身につける■				
評価方法	定期試験 60%, リアクションペーパー・出席点等 40%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
使用教材	『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ 第2版 中央法規出版』				
参考文献					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーで寄せられた考察・意見・質問は、次回以降の授業時に取り上げる。 また、随時、直接、メール等でも受け付ける。				
オフィスアワー (研究室)	質問等は、講義内の他、開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス、障害者リハビリテーションの歴史			
	該当到達目標	予習	教科書の前書き、シラバスを読んでおく。		1 時間
	1	復習	講義内容、到達目標、成績評価方法を確認する。		1 時間
2	講義内容	精神保健医療福祉の歴史と動向			
	該当到達目標	予習	教科書 p.2-58 を読む		1 時間
	1,3	復習	講義内容を見直す・振り返る		1 時間
3	講義内容	精神保健福祉士における活動の歴史			
	該当到達目標	予習	教科書 p.60-70 を読む		1 時間
	1,3	復習	講義内容を見直す・振り返る		1 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

4	講義内容	精神障害者支援の理念		
	該当到達目標	予習	教科書 p.71-82 を読む	1 時間
	1	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
5	講義内容	精神保健医療福祉領域における支援対象		
	該当到達目標	予習	教科書 p.83-93 を読む	1 時間
	1	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
6	講義内容	精神障害者の人権		
	該当到達目標	予習	教科書 p.94-104 を読む	1 時間
	1	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
7	講義内容	精神科リハビリテーションの概念		
	該当到達目標	予習	教科書 p.106-113 を読む	1 時間
	1	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
8	講義内容	精神科リハビリテーションの理念、意義と基本原則		
	該当到達目標	予習	教科書 p.114-121 を読む	1 時間
	1,2	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
9	講義内容	精神科リハビリテーションの構成と展開■		
	該当到達目標	予習	教科書 p.122-155 を読む	1 時間
	2	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
10	講義内容	視聴覚教材の鑑賞 ※作品未定、講義内で決定予定		
	該当到達目標	予習	—	1 時間
	2	復習	—	1 時間
11	講義内容	精神科リハビリテーションのプロセス		
	該当到達目標	予習	教科書 p.158-169 を読む	1 時間
	1	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
12	講義内容	リハビリテーションのプロセス■		
	該当到達目標	予習	教科書 p.170-181 を読む	1 時間
	1,2	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
13	講義内容	精神科リハビリテーションのアプローチ■		
	該当到達目標	予習	教科書 p.170-181 を読む	1 時間
	1,3	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
14	講義内容	ライフサイクルと精神科リハビリテーション■		
	該当到達目標	予習	教科書 p.182-186 を読む	1 時間
	1,3	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
15	講義内容	まとめ・定期試験準備・出題意図の説明		
	該当到達目標	予習	これまでの授業を復習しておく	1 時間
	1,2,3	復習	講義内容を見直す・振り返る	3 時間
合計時間(予習・復習)				32 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ(専門展開科目)			科目 ナンバリング	SWP307
英文名	Mental Health Theory and PracticeⅣ			講義形態	講義
担当教員	福永 晋太郎				
科目に関連した 実務経験	精神保健福祉士・社会福祉士として、診療所において精神科ソーシャルワーカー業務を行っている。 ※群馬県精神保健福祉士会 中部地区(前橋市) 担当理事(教育研修委員会, 司法ソーシャルワーク委員会, ソーシャルワーカーデー委員会, 広報委員会 担当理事, 災害支援委員会 委員)				
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位		
種別	「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針 との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	1.精神障害者(および精神病歴を持つ人)の権利回復に重点を置き、当事者の自己実現、家族を含めた生活の質の向上、地域移行を促進するための相談援助活動の理論と方法を習得すること 2.精神保健福祉士国家試験レベルに対応できる倫理観、基礎知識、応用力を身に着けること 上記 2 つを講義目標とし、この授業は 4 年次に精神保健福祉援助実習に行くこと、PSW 国家試験を受験することを前提に展開する。3 年次の相談援助実習の経験をふまえ、社会福祉士と精神保健福祉士の相違点、特性をクローズアップする。ソーシャルワーカーが対応するケースにはいろいろな生きづらさを抱えた人がいる。教科書や参考書ではあまり触れられない症状、生活課題等を織り交ぜて展開する。				
到達目標	1.当事者の権利性が著しく侵害されてきた歴史、社会的背景をふまえ、結果として生じた社会的入院の肥大化、当事者と家族の生活のしづらさ、今後の支援のあるべき方向性等を説明できる■ 2.精神保健リハビリテーションの基本的な考え方、チーム構成、入退院支援、地域移行、定着等援助方法の基礎を理解し説明できる■ 3.近未来の精神保健リハビリテーションのあるべき方向性を展望できる				
評価方法	定期試験 60%, リアクションペーパー・出席点等 40%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
使用教材	『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ 第2版 中央法規出版』				
参考文献					
課題に対する フィードバック	リアクションペーパーで寄せられた考察・意見・質問は、次回以降の授業時に取り上げる。 また、随時、直接、メール等でも受け付ける。				
オフィスアワー (研究室)	質問等は、講義内の他、開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス(講義予定、評価方法等の説明)			
	該当到達目標	予習	教科書の前書き、シラバスを読んでおく。		1 時間
	1	復習	講義内容、到達目標、成績評価方法を確認する。		1 時間
2	講義内容	精神専門療法■			
	該当到達目標	予習	教科書 p.188-214 を読む		1 時間
	1,3	復習	講義内容を見直す・振り返る		1 時間
3	講義内容	家族教育プログラムと精神科デイケア■			
	該当到達目標	予習	教科書 p.215-231 を読む		1 時間
	1,3	復習	講義内容を見直す・振り返る		1 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

4	講義内容	医療機関のアウトリーチ		
	該当到達目標	予習	教科書 p.232-242 を読む	1 時間
	1	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
5	講義内容	チーム医療の概要		
	該当到達目標	予習	教科書 p.243-255 を読む	1 時間
	1	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
6	講義内容	精神障害者支援の実践モデル①		
	該当到達目標	予習	教科書 p.258-271 を読む	1 時間
	1	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
7	講義内容	相談援助の家庭及び対象との援助関係①		
	該当到達目標	予習	教科書 p.274-289 を読む	1 時間
	1	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
8	講義内容	相談援助の家庭及び対象との援助関係②■		
	該当到達目標	予習	教科書 p.290-303 を読む	1 時間
	1,2	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
9	講義内容	相談援助活動のための面接技術		
	該当到達目標	予習	教科書 p.306-321 を読む	1 時間
	1,2	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
10	講義内容	スーパービジョン		
	該当到達目標	予習	教科書 p.324-332 を読む	1 時間
	1	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
11	講義内容	コンサルテーション		
	該当到達目標	予習	教科書 p.333-345 を読む	1 時間
	1	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
12	講義内容	診療報酬制度と健康保険制度■		
	該当到達目標	予習	これまでの授業を復習しておく	1 時間
	1,2	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
13	講義内容	精神保健福祉施策と諸制度■		
	該当到達目標	予習	これまでの授業を復習しておく	1 時間
	1,3	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
14	講義内容	精神障害者支援の実践モデル②■		
	該当到達目標	予習	これまでの授業を復習しておく	1 時間
	1,3	復習	講義内容を見直す・振り返る	1 時間
15	講義内容	まとめ・定期試験準備・出題意図の説明		
	該当到達目標	予習	これまでの授業を復習しておく	1 時間
	1,2,3	復習	講義内容を見直す・振り返る	3 時間
合計時間(予習・復習)				32 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ（専門展開科目）		科目ナンバリング	SWP308
英文名		Systems and services for mental health and welfareⅠ		講義形態	講義
担当教員		池田 朋広			
科目に関連した実務経験		①精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として大学病院において 21 年の勤務経験あり。 ②非常勤として精神科クリニックデイケアに勤務。 ③精神保健参与員（精神保健福祉士）として、地方裁判所に登録。 ④外部講師（精神保健福祉士）として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加。			
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位	
種別		「精神保健福祉士」指定科目			
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力
		✓	基礎的知識力		応用・実践する能力
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要（テーマ・内容）		精神保健福祉法及び精神障害者支援に関連した制度とサービスについて学ぶ。 教科書に沿って進めながら、精神障害者の身の回りで起こっている現実を、リアリティーを持って感じてもらえるよう、映像資料や配布資料なども用いて授業を行う。			
到達目標		1.精神障害者の支援に必要な制度の概要を理解し、その活用方法について具体的なイメージを持つ。■ 2.精神保健福祉法について正しく理解し、この法が実際の精神障害者への支援にどのように影響しているかを知る。■			
評価方法		出席回数と授業の終わりに行なうリアクションペーパーの割合を 40%、期末試験の成績が 60%で総合評価する			
使用教材		中法法規出版 新・精神保健福祉士養成講座 6 第 5 版			
参考文献					
課題に対するフィードバック		リアクションペーパーの内容について、翌週の授業の冒頭にまとめてフィードバックする。			
オフィスアワー（研究室）		火曜日 3 時限、水曜日 2 時限		メールアドレス（#→@）	ikedat#takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	ソーシャルワーク実践と精神保健福祉に関する制度とサービス			
	該当到達目標	予習	不要		0 時間
	1,2	復習	社会的事故という考え方についてまとめる		1.5 時間
2	講義内容	精神障害者の社会的対応の歴史から社会的課題について			
	該当到達目標	予習	精神病患者監護法について調べる		1.5 時間
	1,2	復習	精神障害者の社会的対応の歴史について、各自の考えをまとめる		2 時間
3	講義内容	精神障害者の精神医療の進歩とともに権利擁護の側面について			
	該当到達目標	予習	ヨーロッパ、アメリカ、日本の精神医療の歴史を概観できる資料を準備する		2 時間
	1,2	復習	ヨーロッパ、アメリカ、日本での精神医療の進歩の歴史をまとめる。		1.5 時間
4	講義内容	精神保健福祉法第 1 条から 8 条までの概要、精神保健福祉士の役割について■			
	該当到達目標	予習	精神保健福祉法第 1 条から 8 条までの条文の概要をまとめる		1.5 時間
	1,2	復習	精神保健福祉法第 1 条から 8 条まで～精神保健福祉士の役割をまとめる		2 時間
5	講義内容	精神保健福祉法第 9 条から 16 条まで、第 20 条から 50 条までの概要の意義■			
	該当到達目標	予習	精神保健福祉法第 9 条から 16 条まで、第 20 条から 50 条までの概要をまとめる		1.5 時間
	1,2	復習	精神保健福祉法第 9 条から 16、20 条から 50 条までの精神保健福祉士の役割をまとめる		1.5 時間
6	講義内容	障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスの概要			
	該当到達目標	予習	障害者総合支援法における障害者の福祉サービスについて全体を概観する		1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスとして提供されている支援をまとめる	1.5 時間
7	講義内容	精神障害者等を対象とした福祉施策・事業について■		
	該当到達目標	予習	精神障害者のアウトリーチ支援について調べる	1.5 時間
	1,2	復習	精神障害者の福祉施策・事業を整理し、課題をまとめる	1.5 時間
8	講義内容	精神障害者に関連する社会保障制度の概要と医療保険制度について		
	該当到達目標	予習	現状の社会保障制度と医療保険制度の成り立ちを調べる	1.5 時間
	1,2	復習	精神障害者の医療活用における福祉医療制度の実際の活用手順を整理する	1.5 時間
9	講義内容	65 歳以上の精神障害者が利用する介護保険制度の意義とその内容について■		
	該当到達目標	予習	介護保険への加入、掛け金の支払い等市町村が保険者になっている制度の概要を役所に置かれているチラシやネットなどから把握する	1.5 時間
	1,2	復習	65 歳以上の精神障害者が利用できる介護保険施設における利用しにくさの代表的な課題についてまとめる	1.5 時間
10	講義内容	精神障害者の日常生活を支える経済的支援制度とその意義について■		
	該当到達目標	予習	精神障害者の日常生活を支える生活保護制度、公的年金、社会手当、雇用保険について調べる	1.5 時間
	1,2	復習	税の減免制度、都道府県等の独自の施策について調べる■	1.5 時間
11	講義内容	精神障害者の相談援助にかかわる組織、団体、関係機関及び専門家について		
	該当到達目標	予習	精神障害者の生活を支援するための具体的なサービスをわかる範囲で調べる	1.5 時間
	1,2	復習	精神障害者の相談援助にかかわる専門職の業務についてまとめる	1.5 時間
12	講義内容	福祉サービス提供施設・機関における生活支援と就労・就学支援について■		
	該当到達目標	予習	精神障害者の就労・就学支援について調べる	1.5 時間
	1,2	復習	精神障害者の生活支援と就労・就学支援の相談援助にかかわる専門職についてまとめる	1.5 時間
13	講義内容	精神障害者の相談援助にかかわるインフォーマルな社会資源とその役割■		
	該当到達目標	予習	精神障害者の相談援助にかかわる家族やボランティアの役割を調べる	1.5 時間
	1,2	復習	精神障害者の家族会に関する概要を調べてまとめる	1.5 時間
14	講義内容	精神障害者の相談援助にかかわるセルフヘルプグループ、ピアサポート活動について■		
	該当到達目標	予習	セルフヘルプグループの成り立ちについて調べる	1.5 時間
	1,2	復習	社会福祉法人浦河べてるの家における支援活動の概要を理解する	1.5 時間
15	講義内容	精神障害者の相談援助にかかわる専門職や地域住民の役割について■		
	該当到達目標	予習	精神障害者の相談援助にかかわる地域住民とのコンフリクト事例を調べる	1.5 時間
	1,2	復習	精神障害者の相談援助にかかわるコミュニティソーシャルワークの意義についてまとめる	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	視聴覚教材を使用する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ（専門展開科目）			科目ナンバリング	SWP309
英文名	Systems and services for mental health and welfareⅡ			講義形態	講義
担当教員	池田 朋広				
科目に関連した実務経験	①精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として大学病院において 21 年の勤務経験あり。 ②非常勤として精神科クリニックデイケアに勤務。 ③精神保健参与員（精神保健福祉士）として、地方裁判所に登録。 ④外部講師（精神保健福祉士）として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加。				
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位		
種別	「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	精神障害者に関連した司法制度や医療観察法制度について理解を深め、社会資源の開発・調整に役立つ社会調査について学ぶ。教科書に沿って進めながら、精神障害者の身の回りで起こっている現実を、リアリティーを持って感じてもらえるよう、映像資料や配布資料なども用いて授業を行う。				
到達目標	1.更生保護法、医療観察法の概要を理解し、実際の支援を具体的にイメージできるようになる。■ 2.社会資源の調整、開発にかかわる社会調査の概要と活用について基礎的な知識を得る。■				
評価方法	出席回数と授業の終わりに行なうリアクションペーパーの割合を 40%、期末試験の成績が 60%で総合評価する				
使用教材	中法法規出版 新・精神保健福祉士養成講座 6 第 5 版				
参考文献					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの内容について、翌週の授業の冒頭にまとめてフィードバックする。				
オフィスアワー （研究室）	火曜日 3 時限、水曜日 2 時限		メールアドレス （#→@）	ikedat#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	刑事司法と更生保護の概要、および仮釈放・保護観察のプロセスについて■			
	該当到達目標	予習	不要		0 時間
	1,2	復習	更生保護と精神障害者福祉の関係について理解する		1.5 時間
2	講義内容	薬物使用者への支援について			
	該当到達目標	予習	薬物依存症者とはどのような人なのかについて調べる		1.5 時間
	1,2	復習	薬物使用者への支援のあり方についてまとめる		2 時間
3	講義内容	保護観察所の役割と保護観察官の役割について			
	該当到達目標	予習	保護観察所の役割・業務「生活環境の調整」の内容につて調べる		2 時間
	1,2	復習	更生保護と保護観察官・保護司の役割についてまとめる		1.5 時間
4	講義内容	司法・医療・福祉の連携の必要性を理解する■			
	該当到達目標	予習	更生保護の歴史から司法・福祉のそれぞれの立場について調べる		1.5 時間
	1,2	復習	特別な対応が必要な受刑者に対する支援のあり方についてまとめる		2 時間
5	講義内容	保護観察所と地方更生保護委員会、民間協力者について■			
	該当到達目標	予習	精神障害者における更生保護制度の民間協力者について調べる		1.5 時間
	1,2	復習	具体的な犯罪予防活動を調べる		1.5 時間
6	講義内容	保護観察官の業務の実際について知り、仕事への想いを聞く（外部講師）■			
	該当到達目標	予習	保護観察官について、教科書を復習する		1.5 時間
	1,2	復習	保護観察官の実際の仕事のイメージを持つ		1.5 時間
7	講義内容	医療観察法の意義、成立過程について■			

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	医療観察制度の概要を調べる	1.5	時間
	1,2	復習	精神障害者の犯した過去の犯罪を 2 つ取り上げ、その社会的対応の問題点を整理する	1.5	時間
8	講義内容	医療観察法の当初審判の流れ、対象者の権利擁護と精神保健参与員の役割について■			
	該当到達目標	予習	医療観察法における審判関連統計資料を調べて理解する	1.5	時間
	1,2	復習	精神保健参与員の守秘義務についてまとめる	1.5	時間
	講義内容	医療観察法に指定入院医療機関と実際の処遇理念、多職種チームアプローチについて■			
9	該当到達目標	予習	指定入院医療機関と実際のカンファレンスに参加する多職種を調べる	1.5	時間
	1,2	復習	精神保健福祉士の行う権利擁護に関する業務について調べる	1.5	時間
	講義内容	指定通院医療機関と精神保健福祉士の役割、地域処遇について■			
	該当到達目標	予習	CPA 会議の参加職種を調べる	1.5	時間
10	1,2	復習	通院対象者の処遇について調べる	1.5	時間
	講義内容	医療観察法と社会復帰調整官の関係、およびその役割について■			
11	該当到達目標	予習	社会復帰調整官の業務内容について調べる	1.5	時間
	1,2	復習	地域処遇計画とケア会議の関係についてまとめる	1.5	時間
	講義内容	社会復帰調整官の業務の実際について知り、仕事への想いを聞く(外部講師)■			
	該当到達目標	予習	社会復帰調整について、教科書を復習する	1.5	時間
12	1,2	復習	社会復帰調整官の実際の仕事のイメージを持つ	1.5	時間
	講義内容	社会調査に関して全体像を知り、社会調査の意義と目的について			
13	該当到達目標	予習	全数調査と標本調査について意味を調べる	1.5	時間
	1,2	復習	社会調査のデータ処理の誤差について、その内容を調べる	1.5	時間
	講義内容	社会調査における守るべき倫理指針、倫理綱領について			
	該当到達目標	予習	社会調査における倫理とは何かについて調べる	1.5	時間
14	1,2	復習	適正な調査実施と結果発表における倫理的配慮についてまとめる	1.5	時間
	講義内容	量的調査の方法と活用方法について			
15	該当到達目標	予習	量的調査の目的について調べる	1.5	時間
	1,2	復習	質問紙の作成方法の留意点を整理する	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				45	時間
備考	視聴覚教材を使用する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名		精神障害者の生活支援システム(専門展開科目)		科目ナンバリング	SWP310
英文名		Life Support System for People with Mental Illness		講義形態	講義
担当教員		佐藤 晶彦			
科目に関連した実務経験		精神保健福祉士として精神科病院に勤務(現在)			
学年・開講期		2 年 前期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位	
種別		「精神保健福祉」指定科目			
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要(テーマ・内容)		1.精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。 2.精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。 3.職業リハの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。 4.行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。 講義型授業を基本に、適宜ディスカッションやグループワークを取り入れながら行う。			
到達目標		1.精神障害者を支援する専門職として基礎的な知識を身につけ、精神保健福祉士に不可欠な人権意識を高め、さまざまな制度改革、社会改革の必要性についても考察できる。■ 2.精神障害者の生活支援の意義や特徴、精神科病院における精神保健福祉士の役割等について理解できる。■ 3.国家試験に準じた期末試験に 6 割以上正答できる。			
評価方法		学期末試験 60%、授業貢献度 40%			
使用教材		新・精神保健福祉士養成講座 精神障害者の生活支援システム 中央法規出版 必要時にスライドや資料を印刷して配布			
参考文献					
課題に対するフィードバック		講義中のグループディスカッション時や発表後に適宜コメント等フィードバックする。			
オフィスアワー(研究室)		質問等は授業開始前や終了後に 応じる。	メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス			
	該当到達目標	予習	テキストのはじめにとコンテンツに目を通しておく		0.5 時間
	1,2	復習	講義にて進めた箇所のテキスト・プリントの再読		1 時間
2	講義内容	精神障害者の概念・障害の定義			
	該当到達目標	予習	第 1 章 P2～P12 に目を通しておく		1 時間
	1,2	復習	講義にて進めた箇所のテキスト・プリントの再読		1 時間
3	講義内容	障害者総合支援法と精神保健福祉法			
	該当到達目標	予習	第 1 章 P13～P25 に目を通しておく		1 時間
	1,2	復習	講義にて進めた箇所のテキスト・プリントの再読		1 時間
4	講義内容	精神障害者の生活の実際			
	該当到達目標	予習	第 2 章 P26～P61 に目を通しておく		1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	講義にて進めた箇所のテキスト・プリントの再読	1 時間
5	講義内容	精神障害者の生活と人権		
	該当到達目標	予習	第3章 P62～P79 に目を通しておく	1 時間
	1,2	復習	講義にて進めた箇所のテキスト・プリントの再読	1 時間
6	講義内容	地域生活支援システム		
	該当到達目標	予習	第4章 P80～P90 に目を通しておく	1 時間
	1,2	復習	講義にて進めた箇所のテキスト・プリントの再読	1 時間
7	講義内容	雇用・就業以外の就労と余暇活動■		
	該当到達目標	予習	第4章 P91～P99 に目を通しておく	1 時間
	1,2	復習	講義にて進めた箇所のテキスト・プリントの再読	1 時間
8	講義内容	ソーシャルサポートネットワーク		
	該当到達目標	予習	第4章 P100～P135 に目を通しておく	1 時間
	1,2	復習	講義にて進めた箇所のテキスト・プリントの再読	1 時間
9	講義内容	居住支援制度の歴史的展開		
	該当到達目標	予習	第5章 P136～P154 に目を通しておく	1 時間
	1,2	復習	講義にて進めた箇所のテキスト・プリントの再読	1 時間
10	講義内容	居住支援の実践と精神保健福祉士■		
	該当到達目標	予習	第5章 P155～P175 に目を通しておく	1 時間
	1,2	復習	講義にて進めた箇所のテキスト・プリントの再読	1 時間
11	講義内容	雇用・就業支援制度の概要		
	該当到達目標	予習	第6章 P176～P194 に目を通しておく	1 時間
	1,2	復習	講義にて進めた箇所のテキスト・プリントの再読	1 時間
12	講義内容	雇用・就業支援の実践と専門職■		
	該当到達目標	予習	第6章 P195～P211 に目を通しておく	1 時間
	1,2	復習	講義にて進めた箇所のテキスト・プリントの再読	1 時間
13	講義内容	福祉的就労における支援の実践■		
	該当到達目標	予習	第6章 P212～P225 に目を通しておく	1 時間
	1,2	復習	講義にて進めた箇所のテキスト・プリントの再読	1 時間
14	講義内容	行政における相談援助システム		
	該当到達目標	予習	第7章 P226～P259 に目を通しておく	1 時間
	1,2	復習	講義にて進めた箇所のテキスト・プリントの再読	1 時間
15	講義内容	まとめ(期末試験)		
	該当到達目標	予習	各章の始まりと今まで配布したプリントに目を通しておく	1 時間
	1,2,3	復習	講義にて進めた箇所のテキスト・プリントの再読	1 時間
合計時間(予習・復習)				29.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅰ(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWP311
英文名	Seminar in Social Work in Mental Health (advanced)Ⅰ			講義形態	演習
担当教員	小沼 聖治、上原 徹、池田 朋広				
科目に関連した実務経験	【小沼】精神保健福祉士として、地域の障害福祉サービス事業所等で9年間の実務経験がある 【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験30年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている 【池田】精神保健福祉士として大学病院等で20年以上の実務経験があり、現在も非常勤として精神保健福祉士の実務を行っている				
学年・開講期	4年 前期	選必・単位数	社会福祉コース選択 1単位		
種別	「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	精神保健福祉援助の現場ならびに現職の精神科ソーシャルワーカーにふれながら、精神保健福祉士の具体像を持ち、現場で求められる感覚、知識、技術を学ぶ。 4年次の精神保健福祉援助実習に行くことを前提に、精神保健福祉の実践現場について中心に学ぶ。実習配属先である病院、クリニック、福祉施設等を訪れ、相談援助実習で学んだこと、座学で得た知識との接点を探る。その上で、夏の精神保健福祉援助実習のテーマや課題を明らかにする。				
到達目標	1.精神科病院、精神保健福祉援助の現場を知る。■ 2.専門職としての精神保健福祉士が持つべき価値と倫理を認識する。■ 3.専門職としてクライアント(患者、家族)と援助関係を形成するための知識、技術を習得する。■ 4.クライアントに求められる具体的なワーカー像を持つ。				
評価方法	定期試験 40%、授業への参加度 30%、レポート課題等 30%。				
使用教材	毎回の授業時に適宜レジュメを配付する。				
参考文献	授業内でその都度紹介する。				
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの記入を求めるため、次回の授業で、記述された質問や意見等のフィードバックを適宜行う。				
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	オリエンテーション(講義内容、スケジュール、評価方法等の説明)			
	該当到達目標	予習	本科目に関するシラバスを読み、授業の具体的なイメージを持つ。		1 時間
	1	復習	本科目の目標、授業展開、実習との関連性を再確認する。		1 時間
2	講義内容	自己理解と自己覚知			
	該当到達目標	予習	自分自身をどう理解し、表現するかを考える。		1 時間
	2,3	復習	自分の長所と短所を言語化する。		1 時間
3	講義内容	他者理解ならびに関係性の持ち方			
	該当到達目標	予習	前回の授業をうけて、自分の個性を文書化しておく。		1 時間
	2,3	復習	自己イメージと他者イメージを織り交ぜ考察する。		1 時間
4	講義内容	精神保健福祉の歴史、精神保健福祉士倫理綱領			
	該当到達目標	予習	日本の精神保健福祉の発展経緯、倫理綱領を理解する。		1 時間
	1,2,4	復習	授業で学んだことを再考察する。		1 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

5	講義内容	現代社会における精神保健福祉分野の課題について■		
	該当到達目標	予習	自分の意見を整理しておく。	1 時間
	1	復習	グループ討議で出た意見やアイデアを再考察する。	1 時間
6	講義内容	利用者理解① インテーク■		
	該当到達目標	予習	初回面接の目的や意義について考える。	1 時間
	2,3,4	復習	授業で学んだこと、他の学生の意見やアイデアについて再考察する。	1 時間
7	講義内容	利用者理解② アセスメント・利用者を取り巻く人や環境の理解■		
	該当到達目標	予習	クライアントが置かれた環境、生活について考える。	1 時間
	2,3,4	復習	授業で学んだこと、他の学生の意見やアイデアについて再考察する。	1 時間
8	講義内容	個人に対する相談援助技術① プランニング(支援計画の作成)		
	該当到達目標	予習	クライアントと協働作業でプランニングを行う必要性について考える。	1 時間
	2,3,4	復習	グループ討議の結果を再考察する。	1 時間
9	講義内容	個人に対する相談援助技術② モニタリング		
	該当到達目標	予習	アセスメントとモニタリングの関連性について整理する。	1 時間
	2,3,4	復習	モニタリングを行う目的や意義について考察する。	1 時間
10	講義内容	多職種連携(チームアプローチ)の理解		
	該当到達目標	予習	生活支援において、なぜ多職種連携が必要なのかを考える。	1 時間
	2,4	復習	チームアプローチにおける精神保健福祉士の役割について考察する。	1 時間
11	講義内容	集団援助技術(グループワーク)の理解①		
	該当到達目標	予習	グループワークの基本原則を整理する。	1 時間
	2,3	復習	個人だけではなく、グループに働きかける意義を考える。	1 時間
12	講義内容	集団援助技術(グループワーク)の理解②		
	該当到達目標	予習	グループワークの展開プロセスとそれぞれの時期の特徴を整理する。	1 時間
	2,3	復習	準備期・開始期・作業期・終結期における精神保健福祉士の役割を考察する。	1 時間
13	講義内容	地域福祉の基盤整備にかかわる相談援助① 福祉ニーズの把握とコミュニティアセスメント		
	該当到達目標	予習	福祉ニーズを把握するための量的・質的調査の概要をまとめる。	1 時間
	2,3	復習	コミュニティアセスメントに必要な視点を考える。	1 時間
14	講義内容	地域福祉の基盤整備にかかわる相談援助② ソーシャルアクション		
	該当到達目標	予習	ソーシャルアクションの概要と意義について理解する。	1 時間
	2,3	復習	ソーシャルアクションの展開における精神保健福祉士の役割について考察する。	1 時間
15	講義内容	精神保健福祉援助実習に向けての事前準備		
	該当到達目標	予習	自身が目指すべき精神保健福祉士像を整理する。	1 時間
	4	復習	精神保健福祉援助実習に向けての達成目標と必要な事前課題を考える。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	※メールは、大学から支給されたアカウントから送信し、「件名」に学籍番号と氏名を入力すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ(専門展開科目)			科目 ナンバリング	SWP312
英文名	Seminar in Social Work in Mental Health (advanced)Ⅱ			講義形態	演習
担当教員	小沼 聖治、上原 徹、池田 朋広				
科目に関連した 実務経験	【小沼】精神保健福祉士として、地域の障害福祉サービス事業所等で9年間の実務経験がある 【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験 30 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている 【池田】精神保健福祉士として大学病院等で 20 年以上の実務経験があり、現在も非常勤として精神保健福祉士の実務を行っている				
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	社会福祉コース選択 1 単位		
種別	「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。精神保健福祉士の職務と意義を再確認し、具体的なキャリア像を持つ。 授業は、相談援助実習、精神保健福祉援助実習の両方を終えた学生が、理論と実践の相互関係、自らの傾向、関心事を纏め、卒後のキャリア像形成の一助となるように展開する。2 月上旬の国家試験での合格を目標に、特に事例問題の出題傾向や対策について学習をすすめる。				
到達目標	1.精神保健福祉活動の具体的な支援内容を理解する。■ 2.現場で求められる感覚、知識、技術を理解する。■ 3.優れた精神保健福祉士になるために、基礎、応用的知識と技術を身に付け具体的なキャリア像を持つ。				
評価方法	定期試験 40%、授業への参加度 30%、レポート課題等 30%。				
使用教材	毎回の授業時に適宜レジュメを配付する。				
参考文献	授業内でその都度紹介する。				
課題に対する フィードバック	毎回リアクションペーパーの記入を求めるため、次回の授業で、記述された質問や意見等のフィードバックを適宜行う。				
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は授業時に提示する。	
1	講義内容	オリエンテーション(講義予定、評価方法等の説明)			
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読み、ソーシャルワーカーを目指す自分自身の到達目標を整理する。		1 時間
		復習	授業展開、精神保健福祉援助実習との関連性を理解する。		1 時間
2	講義内容	前期(同科目Ⅰ)の振り返り①			
	該当到達目標 1	予習	実習体験をもとに、同科目Ⅰで学んだ内容と関連づけて考える。		1 時間
		復習	グループ討議の結果を考察する。		1 時間
3	講義内容	前期(同科目Ⅰ)の振り返り②			
	該当到達目標 1	予習	実習体験をもとに、同科目Ⅰで学んだ内容と関連づけて考える。		1 時間
		復習	グループ討議の結果を考察する。		1 時間
4	講義内容	実習体験に基づく事例検討①			
	該当到達目標	予習	実習での体験をもとに、自分の考えを事前に整理する。		1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	グループ討議の結果を考察する。	1 時間
5	講義内容	実習体験に基づく事例検討②		
	該当到達目標	予習	実習での体験をもとに、自分の考えを事前に整理する。	1 時間
	1,2	復習	グループ討議の結果を考察する。	1 時間
6	講義内容	実習体験に基づく事例検討③		
	該当到達目標	予習	実習での体験をもとに、自分の考えを事前に整理する。	1 時間
	1,2,3	復習	グループ討議の結果を考察する。	1 時間
7	講義内容	実習体験に基づく事例検討④		
	該当到達目標	予習	実習での体験をもとに、自分の考えを事前に整理する。	1 時間
	1,2,3	復習	グループ討議の結果を考察する。	1 時間
8	講義内容	実習体験に基づく事例検討⑤■		
	該当到達目標	予習	実習での体験をもとに、自分の考えを事前に整理する。	1 時間
	2,3	復習	グループ討議の結果を考察する。	1 時間
9	講義内容	実習体験に基づく事例検討⑥■		
	該当到達目標	予習	実習での体験をもとに、自分の考えを事前に整理する。	1 時間
	2,3	復習	グループ討議の結果を考察する。	1 時間
10	講義内容	精神保健福祉士になるために①		
	該当到達目標	予習	精神保健福祉士に求められる基本的な知識を習得する。	1 時間
	2,3	復習	授業で検討したテーマについて再考察する。	1 時間
11	講義内容	精神保健福祉士になるために②		
	該当到達目標	予習	精神保健福祉士に求められる基本的な知識を習得する。	1 時間
	2,3	復習	授業で検討したテーマについて再考察する。	1 時間
12	講義内容	精神保健福祉士になるために③		
	該当到達目標	予習	精神保健福祉士に求められる価値と自身が抱く価値観を整理する。	1 時間
	2,3	復習	授業で検討したテーマについて再考察する。	1 時間
13	講義内容	精神保健福祉士になるために④		
	該当到達目標	予習	精神保健福祉士に求められる価値と自身が抱く価値観を整理する。	1 時間
	2,3	復習	授業で検討したテーマについて再考察する。	1 時間
14	講義内容	精神保健福祉士になるために⑤■		
	該当到達目標	予習	精神保健福祉士として求められる実践的な援助技術を試行する。	1 時間
	1,2,3	復習	授業で検討したテーマについて再考察する。	1 時間
15	講義内容	精神保健福祉士になるために⑥■		
	該当到達目標	予習	精神保健福祉士として求められる実践的な援助技術を試行する。	1 時間
	1,2,3	復習	授業で検討したテーマについて再考察する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	※メールは、大学から支給されたアカウントから送信し、「件名」に学籍番号と氏名を入力すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ（専門展開科目）			科目ナンバリング	SWP313
英文名	Guidance to Field Study in Social Work in Mental HealthⅠ			講義形態	演習
担当教員	池田 朋広、上原 徹				
科目に関連した実務経験	上原：精神科医として大学病院等で勤務経験 30 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている 池田：精神保健福祉士として大学病院等で 20 年以上の実務経験があり、現在も非常勤として精神保健福祉士の実務を行っている。				
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	社会福祉コース選択 1 単位		
種別	「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	精神保健福祉援助実習を行う医療分野及び施設分野に関する基本的な理解を整理することができる。各分野に関する基本的学習を少人数で行う。実習の心構えや実習の動機を明確化し、実習テーマ検討、実習課題の決定、実習計画案の作成を行う。実習に向けた具体的な準備を始める。基本は演習形式で授業を行うが、必要に応じて講義形式にて行うこともある。レポートやアクションペーパーの内容を踏まえ、適宜内容を補足する。視聴覚教材を使用する。				
到達目標	1.実習の動機や意義を説明できる。 2.実習 2 分野の基本的知識を説明できる。 3.実習課題と計画案を作成できる。■ 4.他者と関わる上で必要となる対人関係力を獲得できる。■ 5 精神保健福祉支援者を目指す学生としての倫理感を認識できる。■				
評価方法	演習の活発な議論・活動への貢献度(50%)、自分の担当のレジュメづくりやグループなどでの発表(50%)、などで総合的に評価します。ただし、演習形式での授業なので、欠席や遅刻の多い学生には 20%を超えた比重で(30%程度までの)成績評価の減点をする場合があります。単位取得には、無断欠席がないことなど付帯条件があるため、ガイダンス時に必ず確認すること。				
使用教材	中法法規出版 新・精神保健福祉士養成講座 9 第 2 版 誠信書房 ケースワークの原則 新訳 改訂版 F・P・バイスティック 著				
参考文献	資料等は適宜、授業で配布する。				
課題に対するフィードバック	各ゼミにおいて提出を求めるレポートやアクションペーパーについては、適宜返却を予定している。履修者は返却された資料を必ず復習すること。				
オフィスアワー （研究室）	火曜日 3 時限、水曜日 2 時限		メールアドレス （#→@）	ikedat#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	ガイダンス、グループ分け、個別指導等			
	該当到達目標	予習	不要		0 時間
	1	復習	初回ゼミにおいて指導教員から説明があった点、今後の授業方針の確認		1.5 時間
2	講義内容	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解の確認■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		1.5 時間
	1,2,3	復習	グループ学習に関するルール確認、グループ内の役割確認、その他		1.5 時間
3	講義内容	精神保健医療福祉の利用者に関する基本的な理解の確認			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する		2 時間
	1,2,3	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認		1.5 時間
4	講義内容	精神科医療機関と関連問題■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する		1.5 時間
	1,2,3	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認		1.5 時間
5	講義内容	精神保健と関連問題■			

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	2 時間
		復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認	1.5 時間
6	該当到達目標 1,2,3	講義内容 障害者関係施設と関連問題		
		予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	1.5 時間
		復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認	1.5 時間
7	該当到達目標 1,2,3	講義内容 行政関係機関と関連問題■		
		予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	1.5 時間
		復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認	1.5 時間
8	該当到達目標 1,2,4	講義内容 グループ学習・グループ発表		
		予習	レジュメを使った発表を行います。自分が担当となった項目について、指定されたやり方でレジュメを作成し、発表の準備をしておくこと	1.5 時間
		復習	グループ担当者間で割り当てられた役割に沿った準備、設定	1.5 時間
9	該当到達目標 1,2,4	講義内容 グループ学習・グループ発表		
		予習	自分達の発表内容について分担を再度確認し、詳細を詰めること	1.5 時間
		復習	他グループの発表を思い出し、自分たちの発表に活かせる手法を検討する	1.5 時間
10	該当到達目標 1,2,4	講義内容 精神保健福祉領域のアセスメントの方法		
		予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	1.5 時間
		復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認	1.5 時間
11	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 アセスメントに基づくプランニングの方法		
		予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	1.5 時間
		復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認	1.5 時間
12	該当到達目標 1,4,5	講義内容 グループ学習・グループ発表		
		予習	自分達の発表内容について分担を再度確認し、メンバーと討論を行うこと	1.5 時間
		復習	他グループの発表を思い出し、自分たちの発表に活かせる手法を検討する	1.5 時間
13	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 精神保健福祉援助介入と評価方法■		
		予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	1.5 時間
		復習	講義内容を受けて、討論に際して各自で準備を進める	1.5 時間
14	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 精神保健福祉援助介入と評価方法■		
		予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	1.5 時間
		復習	講義内容を受けて、討論に際して各自で準備を進める	1.5 時間
15	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容 まとめと討論		
		予習	最終発表に関する指示を受けているため、内容を確認して予習すること	1.5 時間
		復習	討論した内容について、各自で感じたことなどを指定様式に記入する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	予習、復習に必要な時間は最低限の時間を表示するが、演習期間中は必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず指示されたことや教わったことを書き出すなどの自習が必要である。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWP314
英文名	Guidance to Field Study in Social Work in Mental HealthⅡ			講義形態	演習
担当教員	上原 徹、池田 朋広、				
科目に関連した実務経験	【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験 30 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている 【池田】精神保健福祉士・社会福祉士として大学病院等で約 20 年の実務経験があり、現在も非常勤として精神保健福祉士の実務を行っている				
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	社会福祉コース選択 1 単位		
種別	「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	実習を行う医療分野及び施設分野に関する応用的な知識を深めることができる。実際に配属された実習機関や施設に関する情報を収集し、各自が実行可能な実習計画書を作成する。精神保健福祉援助実習に向け必要となる知識や技術を、実習ゼミにおける個別指導や集団指導を通して身につける。事前訪問を実行し、そこでの指導内容の説明をもとに、具体的な準備を主体的に進めることができる。 基本は演習形式で授業を行うが、必要に応じて講義形式にて行うこともある。レポートやリアクションペーパーの内容を踏まえ、適宜内容を補足する。視聴覚教材を使用する。				
到達目標	1.配属先での実習動機や実習意義を説明できる。 2.配属先 2 分野の応用的知識を説明できる。 3.配属先に合致した実習課題と実習計画を完成できる。 4.実習で必要となるコミュニケーション力を向上できる。■ 5.精神保健福祉実習を行う学生としての倫理感を確立できる。■				
評価方法	個別の実習課題や実習計画書の作成状況(50%)、演習での活発な議論・活動への貢献度(30%)、個別訪問を通じた実習準備(20%)などで総合的に評価します。演習形式での授業なので、遅刻の多い学生には 20%を超えた比重で(30%程度の)成績評価の減点をする場合があります。学内実習運営規定に準拠し、健康問題や気象状況など相応の理由なく 1 回でも欠席した場合は、実習参加資格(単位)が得られません。				
使用教材	4 月ガイダンスで各自に配布される「実習ノート」「実習の手引き」は必携。適宜資料などの配布や、DVD 教材も利用する。				
参考文献	中央法規「精神保健福祉援助実習指導・実習」(PSW 講座 9)を参考書として用いる。				
課題に対するフィードバック	提出を求めるレポートや報告書の草稿、発表ファイルについては、各自に校正やコメントを加えた上で返却する。履修者は返却された資料を復習すること。				
オフィスアワー (研究室)	【上原】月 4、金 3 501 研究室		メールアドレス (#→@)	授業で提示する	
1	講義内容	ガイダンス、配属先確認とオリエンテーションの実施			
	該当到達目標 1,2	予習	実習指導Ⅰで課された課題を仕上げる		1 時間
		復習	初回ゼミにおいて指導教員から説明があった点、今後の授業方針の確認		2 時間
2	講義内容	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解の再確認■			
	該当到達目標 1,2	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		1.5 時間
		復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認		1.5 時間
3	講義内容	精神保健医療福祉の利用者に関する基本的な理解の再確認■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認	1.5 時間
4	講義内容	精神保健福祉士の職業倫理と法的責務		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	1.5 時間
	1,2,5	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認	1.5 時間
5	講義内容	実習配属先の施設・機関・事業者等に関する概要の説明と確認		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認	1.5 時間
6	講義内容	実習配属先の施設・機関・事業者等に関する概要についての情報収集と指導		
	該当到達目標	予習	自分の実習配属先について確認し、内容を検討すること。	1.5 時間
	1,2	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認。	1.5 時間
7	講義内容	実習配属先の施設・機関・事業者等に関する概要についての情報収集と指導		
	該当到達目標	予習	自分の実習配属先について確認し、質問を準備すること。	1.5 時間
	1,2	復習	グループ担当者間で割り当てられた役割に沿った準備、設定。	1.5 時間
8	講義内容	実習配属先の施設・機関・事業者等の事前訪問に関する発表		
	該当到達目標	予習	自分の実習配属先について詳細を詰めること。	1.5 時間
	1,2	復習	他グループの発表を思い出し、自分の実習に活かせる手法を検討する。	1.5 時間
9	講義内容	個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解(個人情報保護法の理解を含む)■		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	1.5 時間
	1,4,5	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認。	1.5 時間
10	講義内容	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解		
	該当到達目標	予習	自分の実習内容について確認し、詳細を詰めること。	1.5 時間
	1,2	復習	他グループの発表を思い出し、自分の実習に活かせる手法を検討する。	1.5 時間
11	講義内容	実習計画書の作成指導		
	該当到達目標	予習	自分の計画について確認と修正を行うこと。	1.5 時間
	1,2	復習	他の発表を思い出し、自分の実習に活かせる手法を検討する。	1.5 時間
12	講義内容	実習計画書の完成		
	該当到達目標	予習	自分の計画について再度確認を行うこと。	1.5 時間
	1,2	復習	自分の計画に活かせる事項を検討する。	1.5 時間
13	講義内容	実習先との実習計画書に関する協議■		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	1.5 時間
	1,3,4,5	復習	協議を受けて、討論に際して各自で準備を進める。	1.5 時間
14	講義内容	実習直前オリエンテーション		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容を受けて、討論に際して各自で準備を進める。	1.5 時間
15	講義内容	まとめと討論		
	該当到達目標	予習	最終発表に関する指示を受けているため、内容を確認して予習すること。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	討論した内容について、各自で感じたことなどを指定様式に記入する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

備考	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得希望者は必修。履修するためには、必須単位取得済など、付帯条件がある。予め「履修ガイド」を熟読し、必要な単位がすでに取りれているか各自で確認すること。 予習、復習時間は最低限の時間を表示するが、期間中は指示されたことや学習したことを確認整理するなど自習が必要である。 履修登録、各指導教員のオフィスアワー、連絡方法は、初回授業(ガイダンス)時に直接案内される。 ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWP315
英文名	Guidance to Field Study in Social Work in Mental Health Ⅲ			講義形態	演習
担当教員	上原 徹、池田 朋広、				
科目に関連した実務経験	【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験 30 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている 【池田】精神保健福祉士・社会福祉士として大学病院等で約 20 年の実務経験があり、現在も非常勤として精神保健福祉士の実務を行っている				
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	社会福祉コース選択 1 単位		
種別	「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	精神保健福祉援助実習で得た体験を共有し、実習記録や課題の整理を行うことを通して、精神保健福祉士として必要となる専門的技術の確立を目指す。実習報告会を計画、準備、実施し、実習の総括を行う。個別・集団指導をととして、各自が精神保健福祉士として自己に求められる課題を考察して報告する。 各回において、前半は課題やテーマについて概要を説明し、後半はグループワークやプレゼンテーション、質疑応答、報告書の自主作成といった形式で進める。				
到達目標	1.配属先での実習体験を言語化できる。 2.配属先 2 分野の概要と機能について説明できる。 3.配属先の利用者の特徴について説明できる。 4.精神保健福祉士を含む専門職の職務について説明できる。 5.精神保健福祉士を目指す学生として自己の課題を言語化できる。■				
評価方法	実習報告会でのプレゼンテーション貢献度(50%)、実習報告書の完成度(50%)、などで総合的に評価します。ただし演習形式での授業なので、遅刻の多い学生には 20%を超えた比重で(30%程度までの)成績評価の減点をする場合があります。学内実習運営規定に準拠し、健康問題や気象状況など相応の理由なく1回でも無断欠席した場合は単位が得られません。				
使用教材	4 月の実習ガイダンスで配布される「実習ノート」「実習の手引き」は必携。補足資料等は適宜、授業で配布する。昨年度の実習報告書も目を通しておくことが望ましい。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	提出を求めるレポートや報告書の草稿、発表ファイルについては、各自に校正やコメントを加えた上で返却する。履修者は返却された資料を復習し、指導教官と完成に向けたやりとりをすること。				
オフィスアワー (研究室)	【上原】月 4、金 3 501 研究室		メールアドレス (#→@)	授業で提示する	
1	講義内容	実習後の提出書式、資料等の確認			
	該当到達目標	予習	実習で課された課題を仕上げる		3 時間
	1,2	復習	初回ゼミにおいて指導教員から説明があった点、今後の授業方針の確認		0.5 時間
2	講義内容	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理①			
	該当到達目標	予習	次の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		1.5 時間
	1,2	復習	グループ学習に関するルール確認、グループ内の役割確認、その他		1.5 時間
3	講義内容	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理②			
	該当到達目標	予習	次の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		1.5 時間
	1,2	復習	グループ学習に関するルール確認、グループ内の役割確認、その他		1.5 時間
4	講義内容	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理③■			

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,5	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	1.5 時間
		復習	グループ担当者間で割り当てられた役割に沿った準備、設定。	1.5 時間
5	講義内容	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理④		
	該当到達目標 1,2,3	予習	自分の実習内容について確認し、内容の詳細を詰めること。	1.5 時間
		復習	他グループの説明を聞いてわからなかった専門用語の確認	1.5 時間
6	講義内容	実習総括レポート(報告書原稿)の作成①		
	該当到達目標 1,2,3	予習	自分の報告書について確認し、内容を検討すること。	1.5 時間
		復習	他メンバーの報告を思い出し、自分の報告に活かせる手法を検討する。	1.5 時間
7	講義内容	実習総括レポート(報告書原稿)の作成②		
	該当到達目標 1,2,3	予習	自分の報告書について確認し、内容を検討すること。	1.5 時間
		復習	他メンバーの報告を思い出し、自分の報告に活かせる手法を検討する。	1.5 時間
8	講義内容	実習総括レポート(報告書原稿)の作成③		
	該当到達目標 1,2,3	予習	自分の報告書について確認し、詳細を詰めること。	1 時間
		復習	他メンバーの報告を思い出し、自分の報告に活かせる手法を検討する。	2 時間
9	講義内容	実習総括レポート(報告書原稿)の作成④■		
	該当到達目標 1,4,5	予習	報告書の内容について再度確認し、詳細を詰めること。	1 時間
		復習	自分の報告書を完成させる。	2 時間
10	講義内容	実習報告会準備①		
	該当到達目標 1,2,3	予習	自分の実習内容について確認し、詳細を詰めること。	1 時間
		復習	他グループの発表を思い出し、自分たちに活かせる手法を検討する。	2 時間
11	講義内容	実習報告会準備②		
	該当到達目標 1,2,3	予習	自分たちの発表について確認し、メンバーと討論を行うこと。	1 時間
		復習	他グループの発表を思い出し、自分たちに活かせる手法を検討する。	2 時間
12	講義内容	実習報告会準備③		
	該当到達目標 1,2,3	予習	自分たちの発表について再度確認し、討論を行うこと。	1 時間
		復習	自分たちの発表を完成する。	2 時間
13	講義内容	実習報告会(実習評価全体総括会)■		
	該当到達目標 1,3,4,5	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	2 時間
		復習	報告会を受けて、討論されたことに際して各自で考察を進める。	1 時間
14	講義内容	実習報告会の振り返り■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	1.5 時間
		復習	ふりかえりの内容を受けて、各自が自己覚知を深める。	1.5 時間
15	講義内容	まとめと討論■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	最終発表に関する指示を受けているため、内容を確認して予習すること。	1.5 時間
		復習	討論した内容について、各自で感じたことなどを指定様式に記入する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45.5 時間
備考	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得希望者は必修。プレゼンテーションに関しては、学生が自主的自立的に協働して役割を遂行することが求められる。履修登録、各指導教員のオフィスアワーや連絡方法は、初回授業時に直接案内される。			

	■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	精神保健福祉援助実習(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWP316
英文名	Field Study in Social Work in Mental Health			講義形態	実習
担当教員	上原 徹、池田 朋広、				
科目に関連した実務経験	【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験 30 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている 【池田】精神保健福祉士・社会福祉士として大学病院等で約 20 年の実務経験があり、現在も非常勤として精神保健福祉士の実務を行っている				
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	社会福祉コース選択 4 単位		
種別	「精神保健福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	精神保健福祉士の価値、理論をもってクライアントの社会的復権、権利擁護を行う実践者として「職場実習」「職種実習」「精神保健福祉ソーシャルワーク実習」という各過程で研鑽を積む。精神保健チームの一員として、他の専門職者と連携、協力しながら活動を展開する。長期在院患者を中心としたクライアントの地域移行を支援し、定着をめざす関わりを実践する。 実習は各機関によるプログラムに従って進み、各日の修了時刻前には振り返りの指導がある。				
到達目標	1.受診、入院、退院援助ができる(職場実習)■ 2.デイケア、グループワーク業務等が実践できる(職種実習)■ 3.就労、在宅、教育その他社会生活上の指導援助ができる(職種実習) 4.経済的問題、家族問題の調整をはかることができる(ソーシャルワーク実習)■ 5.地域活動の業務を担うことができる(ソーシャルワーク実習)■ 6.クライアントの地域生活を支援し、社会参加の機会を創出する(ソーシャルワーク実習)■				
評価方法	実習先からの評価票、連絡報告、実習指導教員による評価、実習報告会での報告レジュメ、集大成として作成される「実習報告書」の内容をもとに総合的に行う。				
使用教材	全員に配布する「実習の手引き」、「実習ノート」、中央法規による「精神保健福祉援助実習指導・実習」を参考書として用いる(精神保健福祉士養成講座 9)。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	実習後に提出が課される「実習ノート」は、実習指導教員による最終チェックにコメントを付して返却される。「実習報告書」は冊子印刷の後、実習生全員に配布される。				
オフィスアワー (研究室)	担当教員が決定後指示する	メールアドレス (#→@)	授業で提示する		
講義内容	基本的な実習時間数は 210 時間(目安 27 日間)だが、すでに相談援助実習を修了した者は 60 時間免除され 150 時間(目安 20 日間)となる。精神科医療機関での実習、障害福祉サービス事業所等での実習の二本立てとなる。実習は、規定の要件を満たした実習指定施設(医療機関、障害福祉サービス事業所等)における配属実習で、規定の要件を満たした実習指導職員の下で行う。実習は、基本的に事前学習で作成した「実習計画書」等に沿って展開する。規定の要件を満たした実習指導担当教員は、実習期間中、巡回指導や帰校日等を通して連絡調整、実習中の個別指導を十分に行う。■				
	予習	既習科目(精神保健福祉援助実習指導ⅠおよびⅡ)で学んだ内容、事前学習の見直し、実習指導Ⅱで実習先の確認を得ながら立案した「実習計画書」の確認等。毎回指示される			8 時間
	復習	実習終了後、提出が義務付けられている所定書式、「実習後の自己評価」等の記入による振り返り、反省等。毎回指示される			8 時間
合計時間(予習・復習)					16 時間
備考	各自に指導担当教員が割り振られ、実習巡回指導や帰校日指導を行う。 実習は夏季休業中に行われるので、研究室来室などの相談は事前にメールなどで連絡を取ること。				

	■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名		ケアマネジメント論(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWA301
英文名		Care Management Theory			講義形態	講義
担当教員		河村 俊一				
科目に関連した実務経験		社会福祉士として地域包括支援センター4 年(勤務) 介護支援専門員として居宅介護支援事業所 2 年(勤務) 生活相談員(社会福祉士)として特別養護老人ホーム等 8 年(勤務) 社会福祉士として医療機関 5 年(現在) 代表理事(社会福祉士)非営利型一般社団法人として地域活動を 6 年(現在)				
学年・開講期		2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要(テーマ・内容)		ケア実践におけるマネジメントは、介護保険制度を機にその必要性が重要視されている。マネジメントの基本的な理解とケアマネジメントの仕組みと視点について学びを深め、実際の実践場面を通じてその取り組みについて理解を深めることができる。将来の相談援助業務において実践的なマネジメント視点を持つことができる。 授業については、具体的な事例や現状の課題などを含め、仕組みだけでなく、支援活動における視点などを踏まえて進めていきます。				
到達目標		1.マネジメントの必要性を理解することができる。■ 2.他分野におけるマネジメントの活用とケアマネジメントのあり方を理解できる。 3.地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントの実践について説明することができる。■ 4.生活や社会に起こる課題とケアマネジメントで行うことができることについて説明することができる。■				
評価方法		課題 70%, 出席状況、受講姿勢 30% 総合評価で 60%以上を合格とする				
使用教材		「人間行動理解」で磨くケアマネジメント実践力 中央法規出版 必ず持参する。				
参考文献						
課題に対するフィードバック		課題は、提出期限後に授業内にて解説を行う。				
オフィスアワー(研究室)		講義における質問、相談は授業前後にも受け付けます。 予習等で確認が必要な場合は、メールにて相談をお受けします。		メールアドレス(#→@)	講義ガイダンスの際に案内します。	
1	講義内容	ガイダンス、ケアマネジメントとは何か■				
	該当到達目標1	予習	他の教科で学んだ「ケアマネジメント」などの用語が出ている箇所を確認する。			1.5 時間
		復習	ケアマネジメントの定義について整理する。			1.5 時間
2	講義内容	多用されるマネジメントについて■				
	該当到達目標1,2	予習	どのような分野でマネジメントが使用されているか調べる。			1.5 時間
		復習	多分野で活用されているマネジメントとケアマネジメントについて整理する。			1.5 時間
3	講義内容	対人援助職に必要な基本的な姿勢・知識・スキル■				

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	テキスト第 1 章に目を通す。	1.5 時間
	1	復習	対人援助職に要求される力について理解できる。	1.5 時間
4	講義内容	自己覚知、自分を知ること■		
	該当到達目標	予習	テキスト第 2 章に目を通す。	1.5 時間
1,4		復習	自己覚知について理解し、自己受容、他者受容、自分の考え方を理解できる。	1.5 時間
	講義内容	職業倫理と価値観■		
5	該当到達目標	予習	職業倫理についての解釈を調べる。	1.5 時間
	1,4	復習	ケアマネジャーに求められる職業倫理と考え方を理解できる。	1.5 時間
6	講義内容	暮らしから考えるマネジメントの視点		
	該当到達目標	予習	人の暮らしの構成要素、生活行動について調べる。	1.5 時間
1,2		復習	ケアマネジメントの機能、ニーズとディマンドを理解できる。	1.5 時間
	講義内容	ケアマネジメントにおけるコーディネーション力■		
7	該当到達目標	予習	医療、福祉専門職とその職種の役割を調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	援助的関係性において、連携、協働、実践について理解できる。	1.5 時間
8	講義内容	面接のプロセス、統合的アセスメント■		
	該当到達目標	予習	テキスト第 8 章に目を通す。	1.5 時間
1,4		復習	面接における段階的アプローチのポイントについて理解できる。	1.5 時間
	講義内容	アセスメント等における面接のあり方■		
9	該当到達目標	予習	テキスト第 3 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,4	復習	面接時における注意点や配慮すべき内容について理解できる。	1.5 時間
10	講義内容	ケアマネジメントの過程① ケアマネジメントの仕組みと事例■		
	該当到達目標	予習	テキスト第 3.4 章に目を通す。	1.5 時間
1,4		復習	事例を通じて、ケアマネジメントの支援段階を理解できる。	1.5 時間
	講義内容	ケアマネジメントの過程② アセスメント情報、解決すべき課題の整理、プラン作成■		
11	該当到達目標	予習	介護保険制度におけるケアプラン作成の流れについて確認する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	アセスメントに必要な情報や視点、課題への視点について理解できる。	1.5 時間
12	講義内容	ケアマネジメントの過程③ モニタリング、再アセスメント■		
	該当到達目標	予習	介護保険サービス利用における課題等について情報収集を行う。	1.5 時間
1,3,4		復習	モニタリング、再アセスメントにおける視点を理解できる。	1.5 時間
	講義内容	事例から理解するケアマネジメント(介護者負担軽減と家庭環境の変化)■		
13	該当到達目標	予習	テキスト第 10 章に目を通す。	1.5 時間
	1,4	復習	世帯構成やライフステージが及ぼす生活への影響について理解できる。	1.5 時間
14	講義内容	事例から理解するケアマネジメント(虐待事例)■		
	該当到達目標	予習	高齢者虐待防止法等関連する法律について情報収集する。	1.5 時間
1,3,4		復習	虐待事例へのケアマネジメント視点について理解できる。	1.5 時間
	講義内容	まとめ・振り返り		
15	該当到達目標	予習	これまでの講義、配布資料等の読み返し。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容で扱った事例等を再度見直し、自らの視点の変化を確認する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	講義内容や制度等で不明な点や質問がある場合は、授業中に質問を受け、その場で考えていく又は回答をしていくような進め方で行いますので、積極的な授業参加を期待します。			

講義にて配布した資料は各自ファイリングしておくことをお勧めします。

■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	地方自治論(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWA302
英文名	Theory of Local Autonomy			講義形態	講義
担当教員	田村 孝夫				
科目に関連した実務経験	群馬県庁に勤務(経験) 助役(現在の副村長)の経験				
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	私たちの身近で起きている行政、政治、経済などの社会事例を教材にして、わが国の地方分権社会における地方自治のあり方を学ぶ。 講義は事前配布するレジュメに沿って進めるが、地方自治に関する大ニュースが起きた場合は講義で取り上げるので、社会の動きや日々の報道に関心を持つことを期待する。				
到達目標	地方自治を取り巻く出来事等が、どのような法制度や財政制度、また関係者などによって行われているかを深く理解することができる。 1.地方分権改革により大きく変貌した地方自治体の現在の姿を理解することができること。 2.社会に出る前に、私たちの暮らしと深い関係にある地方自治の実像と課題を見ることができると。■ 3.地方自治のシステムを理解することにより、地方自治に対する興味と学ぶ意欲を持つことができること。■				
評価方法	筆記試験(70%)、授業参加度(30%)で総合的に評価する。				
使用教材	レジュメを配布する。また、適宜プロジェクターを使用する。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	試験の後に、出題の意図を解説する。				
オフィスアワー (研究室)	質問等は、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	地方自治とは何か			
	該当到達目標	予習	レジュメの「地方自治とは何か」に目を通す。		1.5 時間
	1	復習	地方自治が民主政治の基礎であることを理解する。		1.5 時間
2	講義内容	地方自治の歴史			
	該当到達目標	予習	レジュメの「地方自治の歴史」に目を通す。		1.5 時間
	1	復習	中央集権の強いわが国における地方自治の苦難の歴史を理解する。		1.5 時間
3	講義内容	自治体のいろいろ			
	該当到達目標	予習	レジュメの「自治体のいろいろ」に目を通す。		1.5 時間
	1	復習	自治体の種類により、行政施策や役割が異なることを理解する。		1.5 時間
4	講義内容	地方自治体の仕事(1)どんな仕事をしているか■			
	該当到達目標	予習	レジュメの「地方自治体の仕事(1)どんな仕事をしているか」に目を通す。		1.5 時間
	2	復習	わが国の地方自治体がいかに広範囲な業務を行っているかを理解する。		1.5 時間
5	講義内容	地方自治体の仕事(2)地域福祉行政の責任■			

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	レジュメの「地方自治体の仕事(2)地域福祉行政の責任」に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	わが国の福祉行政は、地方自治体が中心となっていて行っていることを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	住民の権利と義務		
	該当到達目標	予習	レジュメの「住民の権利と義務」に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	主権者を主権者たらしめている住民の権利と義務について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	地方自治体の執行機関		
	該当到達目標	予習	レジュメの「地方自治体の執行機関」に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	肥大する地方自治体の執行機関について、その背景を含めて理解する。	1.5 時間
8	講義内容	地方自治体の議決機関		
	該当到達目標	予習	レジュメの「地方自治体の議決機関」に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	チェック機関たる議会にとって、必要な改革とは何かを理解する。	1.5 時間
9	講義内容	地方自治体の職員:地方公務員		
	該当到達目標	予習	レジュメの「地方自治体の職員:地方公務員」に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	地方自治体の人的資源ともいうべき地方公務員について、公務員制度を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	地方財政のしくみ		
	該当到達目標	予習	レジュメの「地方財政のしくみ」に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	国、地方を通じて重要性が高まっている財政の基本制度を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	地方財政の現状と課題■		
	該当到達目標	予習	レジュメの「地方財政の現状と課題」に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	厳しい状況におかれている地方財政の実態と課題について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	地方自治体の政策活動		
	該当到達目標	予習	レジュメの「地方自治体の政策活動」に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	近時、注目されている地方自治体独自の政策活動についてその歴史も含めて理解する。	1.5 時間
13	講義内容	条例と規則		
	該当到達目標	予習	レジュメの「条例と規則」に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	わが国の法体系のなかにおける地方自治体法制について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	市町村合併		
	該当到達目標	予習	レジュメの「市町村合併とコミュニティづくり」に目を通す。	1.5 時間
	1	復習	地方の地殻変動ともいうべき平成の大合併につき全国及び群馬県の状況を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	レジュメ全体に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	地方自治体の行政が、実は我々の身近な生活に深く関わっていることを理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	リハビリテーション論(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWA304
英文名	Studies in Rehabilitation			講義形態	講義
担当教員	解良 武士				
科目に関連した実務経験	理学療法士として、大学病院 5 年間、急性期病院・慢性期病院等の非常勤勤務(22 年間)				
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別	「福祉レクリエーションワーカー」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	リハビリテーションチームの一員として、介護を必要とする対象者の特徴や特性に関する知識を身につけるとともに、リハビリテーションの視点を持って介護を提供する実践能力を修得する。 前半の関連する疾病と障害との理解の内容については、各グループで自己学習、プレゼンテーションを行ってもらう。また後半は、4 号館で実技・実習を通じてリハビリテーションについて理解を深める。				
到達目標	1.【認知領域】リハビリテーションの概念を述べることができる。 2.【認知領域】介護を必要とする対象者の特徴や特性を述べることができる。 3.【精神運動領域】リハビリテーションの視点を持った介護技術を実施してみせことができる。■ 4.【情意領域】リハビリテーションの視点を持った介護技術についての意見を示すことができる。■				
評価方法	以下の項目で評価を行い、100 点中 60 点以上を獲得した場合を合格とする。 提出物・グループワーク(50 点) 筆記試験(50 点)				
使用教材	配布資料				
参考文献	指定なし				
課題に対するフィードバック	課題発表に対して講義中に随時フィードバックする				
オフィスアワー (研究室)	月曜 2 限目、金曜 2 限目		メールアドレス (#→@)	kera#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション、リハビリテーションの概念			
	該当到達目標 1	予習	リハビリテーションの概念を下調べする。		1.5 時間
		復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。		1.5 時間
2	講義内容	障害の概念、リハビリテーションチーム、リハビリテーションの流れ			
	該当到達目標 1	予習	障害の概念およびリハビリテーションチームを構成する専門職種について下調べする。		1.5 時間
		復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。		1.5 時間
3	講義内容	ADL・QOL のとらえ方			
	該当到達目標 1	予習	ADL および QOL の概念を下調べする。		1.5 時間
		復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。		1.5 時間
4	講義内容	生活不活発病(廃用症候群)とリハビリテーション			
	該当到達目標 2	予習	生活不活発病(廃用症候群)について下調べする。		1.5 時間
		復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。		1.5 時間
5	講義内容	高齢者の特徴とリハビリテーション(老年症候群・認知症)			
	該当到達目標 2	予習	高齢者の運動および精神特性について下調べする。		1.5 時間
		復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。		1.5 時間
6	講義内容	疾患の特徴とリハビリテーション(脳血管障害・骨折など)			
	該当到達目標	予習	脳血管障害および骨折の症状について下調べする。		1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	2	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
7	講義内容	環境設定とリハビリテーション		
	該当到達目標	予習	介護保険法および障害者総合支援法について下調べする。	1.5 時間
	2	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
8	講義内容	実習①姿勢・動作のとらえ方■		
	該当到達目標	予習	バランスがよい姿勢と悪い姿勢の違いについて考える。	1.5 時間
	2	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
9	講義内容	実習②運動療法(ストレッチ、筋力増強運動など)■		
	該当到達目標	予習	これまでにやったことがあるストレッチ、筋トレを書き出す。	1.5 時間
	3,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
10	講義内容	実習③-1 リハビリテーション介護(ポジショニング・寝返り・起き上がり)【前半】■		
	該当到達目標	予習	他の講義・実習で習った介護方法(ポジショニング・寝返り・起き上がり)の資料を集め、復習する。コースによって習っていない人はそれを下調べする。	1.5 時間
	3,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
11	講義内容	実習③-2 リハビリテーション介護(ポジショニング・寝返り・起き上がり)【後半】■ 実習④-1 リハビリテーション介護(車椅子関連動作)【前半】		
	該当到達目標	予習	車椅子の基本的構造について下調べする。	1.5 時間
	3,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
12	講義内容	実習④-2 リハビリテーション介護(車椅子関連動作)【後半】■		
	該当到達目標	予習	車椅子からベッドへの乗り移り(移乗)方法について下調べする。	1.5 時間
	3,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
13	講義内容	実習⑤リハビリテーション介護(歩行と歩行補助具、補装具)		
	該当到達目標	予習	歩行補助具、補装具にはどのようなものがあるのかを下調べする。	1.5 時間
	3,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
14	講義内容	実習⑥リハビリテーション介護(福祉用具)		
	該当到達目標	予習	福祉用具にはどのようなものがあるのかを下調べする。	1.5 時間
	3,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでの配布資料を用いて第1～14回の授業内容を概括する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	これまでの配布資料を整理し、授業内容をまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		レクリエーション実技(専門展開科目)		科目ナンバリング	SWA305
英文名		Practical Recreational Activities		講義形態	演習
担当教員		大家 千枝子			
科目に関連した実務経験		レクリエーション・インストラクター養成講習会講師として、公認指導者養成事業に従事している。(公益財団法人日本レクリエーション協会公認・群馬県レクリエーション協会主催、2015 年度～)			
学年・開講期		2 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位	
種別		「福祉レクリエーションワーカー」指定科目			
学位授与方針との対応		豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力
		基礎的知識力		✓	応用・実践する能力
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 (テーマ・内容)		人びとの「心を元気にする」ための手助けができるレクリエーション支援の強み(専門性)を理解し、そのための具体的な支援の方法を身につける。支援の手段として用いるレクリエーション活動を学んだうえで、受講者自身が実際に支援演習を行い、理論と実技の学習成果を実践力へとつなげる。前半は教員によるレクチャーがベースだが、「心を元気にする」ための理論を実践へと結び付けるため、授業のまとめとして、各自でプログラムを立案し、レクリエーション支援を行う。			
到達目標		1.あたたかくもてなす意識を持ちながら意思疎通を図ることで信頼関係を構築するホスピタリティを理解し、他人に感じさせることができる。■ 2.コミュニケーションを段階的に促進することで良好な集団づくりを進めるアイスブレイキングのプログラムやモデル、効果を高める技術について説明することができる。■ 3.成功体験によって、仲間との達成感の共有を促し、自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法について理解し、立案したプログラムの中に反映させることができる。■ 4.支援の手段として活用できるさまざまなレクリエーション活動に興味をもつ、経験をもととする。 5.理論と実技の学習成果を生かし、目的・対象に応じた具体的な支援の演習を行うことができる。			
評価方法		授業や授業期間中の取り組みを反映した実践点 40%、レク支援演習 60%			
使用教材		「楽しさをとおした心の元気づくり」、公益財団法人日本レクリエーション協会、2017 年、1,800 円(税別)			
参考文献		「基本のアイスブレイキング」、監修 宇田川光雄、公益財団法人日本レクリエーション協会、2014 年、2,300 円(税別)			
課題に対するフィードバック		自分以外の履修者による課題や感想、評価を知ることが学生相互の刺激になるため、C-learning やコメントシートを使ってフィードバックする。また授業期間中における紙媒体の提出課題は、適宜返却を予定している。ただし最終課題は返却する予定はないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。			
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。	メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス、さまざまな現場でのレク支援について理解を深める(視聴覚教材使用)			
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義目標などを理解する。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	到達目標、学位記授与方針、成績評価方法などを確認する。		0.5 時間
2	講義内容	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ			
	該当到達目標	予習	これまでの自身が受けてきたレク支援を振り返る。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ホスピタリティやアイスブレイキングの方法や展開方法について復習する		0.5 時間
3	講義内容	良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング			
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	C-learning に回答する。		0.5 時間
4	講義内容	自主的、主体的に楽しむ力を高めるレクリエーション活動の展開方法			
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	C-learning に回答する。		0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

5	講義内容	モデル・プログラムの習得(プログラムを立案する際の見本を体験する)		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	C-learning に回答する。	0.5 時間
6	講義内容	レクリエーション活動の習得(4つの柱を中心に個々の活動について学ぶ)		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	C-learning に回答する。	0.5 時間
7	講義内容	安全管理方法とレク支援演習実施について■		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	C-learning に回答する。	0.5 時間
8	講義内容	レクリエーション支援演習の準備 プログラムの立案 その1■		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	抽選でわりあてられた自身のレク支援課題を検討する。	0.5 時間
9	講義内容	レクリエーション支援演習の準備 プログラムの立案 その2 予行演習		
	該当到達目標	予習	企画書・プログラム内容・進行表の作成。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	企画書・プログラム内容・進行表を作成。担当教員チェックを受ける。	0.5 時間
10	講義内容	レクリエーション支援演習の実施 その1		
	該当到達目標	予習	支援者は予行演習。対象者は事前に連絡された指示に従って準備する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	支援者は発表後のプログラム進行表の作成、対象者は評価シートを入力。	0.5 時間
11	講義内容	レクリエーション支援演習の実施 その2		
	該当到達目標	予習	支援者は予行演習。対象者は事前に連絡された指示に従って準備する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	支援者は発表後の書類作成、対象者は評価シートを入力。	0.5 時間
12	講義内容	レクリエーション支援演習の実施 その3		
	該当到達目標	予習	支援者は予行演習。対象者は事前に連絡された指示に従って準備する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	支援者は発表後の書類作成、対象者は評価シートを入力。	0.5 時間
13	講義内容	レクリエーション支援演習の実施 その4		
	該当到達目標	予習	支援者は予行演習。対象者は事前に連絡された指示に従って準備する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	支援者は発表後の書類作成、対象者は評価シートを入力。	0.5 時間
14	講義内容	レクリエーション支援演習の実施 その5		
	該当到達目標	予習	支援者は予行演習。対象者は事前に連絡された指示に従って準備する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	支援者は発表後の書類作成、対象者は評価シートを入力。	0.5 時間
15	講義内容	レクリエーション支援演習の振り返りとまとめ、授業で学んだことの整理。目標到達度の確認。■		
	該当到達目標	予習	これまでの授業で学んだこと、自身の支援演習を振り返る。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	目標到達度の確認。今後のレク支援活動の発展方法を検討する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	【単位修得に必要な時間について】 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 【受講上の注意】 ①積極的に C-learning を活用する。スマホ所有やネット環境が整っていることが望ましい。(※整っていない場合は、大学 PC 室などを利用すること。)②欠席した際の配布物は早めに自ら取りに来ること。 【履修条件】 積極的に参加する学生を求める。 【ルール】 レクリエーション実技における、信頼関係づくりの方法「あたたかくもてなす意識と配慮」の観点より、次の行為は授業中にしないこと。①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホ使用、③マスクや帽子的着用(事情がある場合を除く。) ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	福祉レクリエーション論(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWA306
英文名	Welfare and Recreation			講義形態	講義
担当教員	松沼 記代				
科目に関連した実務経験	社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、デイサービスセンターで3年6か月経験 社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、グループホームで1年間経験 社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、大学在職中に介護予防教室の運営8年間経験				
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	選択 2単位		
種別	「福祉レクリエーションワーカー」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	社会福祉実践におけるレクリエーションが、利用者の喜びや生きがいと深く結びついたものであり、利用者のQOLの向上に欠かせないものであることを理解する。また、福祉レクリエーションがどのような分野で応用されているか理解する。 授業は、教員が作成した資料を使用し、学生が福祉の現場や相談機関で利用者の自立・生きがい支援を行う上で必要な理論や方法、技術を獲得できるように、講義や演習(ロールプレイ、グループワーク)を中心に行う。				
到達目標	1.社会福祉・医療・保健分野でのレクリエーション・サービスの意義について説明できる。■ 2.レクリエーションの歴史、課題について説明できる。■ 3.福祉レクリエーションワーカーの役割について説明できる。■ 4.福祉レクリエーションの実践方法について説明できる。■				
評価方法	筆記試験 80%、レポート(15%)、授業参加度(5%)で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
使用教材	資料を適時配布する。				
参考文献	『楽しさの追求を支える理論と支援の方法』 ～理論に根ざした福祉レクリエーション支援の方法～(2014年度第2刷版)				
課題に対するフィードバック	レポートにはコメントを付けて返却する。 定期試験の前に出題の範囲や意図を提示する。				
オフィスアワー (研究室)	授業の前後の時間。質問や意見はメールからも、随時受け付ける。		メールアドレス (#→@)	k-matsunuma#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	福祉レクリエーションとは① 意義と目的■			
	該当到達目標	予習	福祉施設におけるレクリエーションの実情を確認する。		1 時間
	1	復習	当日の講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。		1 時間
2	講義内容	福祉レクリエーションとは② 歩み■			
	該当到達目標	予習	レクリエーションが生活の中でどのように活かされているか調べる		1 時間
	1,2	復習	レクリエーションの歴史から今後の課題を考える。		1 時間
3	講義内容	福祉レクリエーション支援の理解① 楽しさの追求■			
	該当到達目標	予習	日常の中の楽しい活動について調べる。		1 時間
	1,2	復習	配布資料の内容を確認し、生活の中に活かす。		1 時間
4	講義内容	福祉レクリエーション支援の理解② 楽しさを見通すための方法■			

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,3	予習	日常の中の楽しい活動について調べる。	1 時間
		復習	配布資料の内容を確認し、生活の中に活かす。	1.5 時間
5	該当到達目標 1,3	講義内容 福祉レクリエーション支援の理解③ 支援者のあり方■		
		予習	実践できるレクリエーション活動を考える	1 時間
		復習	配布資料の内容を確認し、支援する際のポイントを整理する。	1 時間
6	該当到達目標 1,3	講義内容 楽しさ追求のための支援の方法① APIE プロセス■		
		予習	レクリエーションが生活の中でどのように活かされているか調べる	1 時間
		復習	配布資料の内容を確認し、支援する際のポイントを整理する。	1.5 時間
7	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 楽しさ追求のための支援の方法② TR サービスモデル■		
		予習	北米のレクリエーション支援の現状について調べる。	1 時間
		復習	我が国への TR サービスの応用について考える	1.5 時間
8	該当到達目標 3,4	講義内容 楽しさ追求のための支援の方法③ 行動変容と自己効力感		
		予習	行動変容と自己効力感について調べる。	1 時間
		復習	行動変容を必要とする課題や自己効力感をもつことの意義を考える	1 時間
9	該当到達目標 3,4	講義内容 高齢者を対象にした福祉サービスでの実践例① デイサービスセンター・小規模多機能型施設■		
		予習	高齢者の在宅サービスについて調べる	1 時間
		復習	高齢者の在宅サービスにおけるレクリエーション支援の方法を確認する	1 時間
10	該当到達目標 3,4	講義内容 高齢者を対象にした福祉サービスでの実践例② 特別養護老人ホーム■		
		予習	高齢者の入所施設におけるレクリエーション支援について調べる	1 時間
		復習	高齢者の入所施設におけるレクリエーション支援の方法を確認する	1 時間
11	該当到達目標 3,4	講義内容 高齢者を対象にした福祉サービスでの実践例③ 介護予防プログラム■		
		予習	高齢者の介護予防の実施機関について調べる	1 時間
		復習	高齢者の介護予防のレクリエーション支援の方法を確認する	1 時間
12	該当到達目標 3,4	講義内容 障がい児・者を対象にした福祉レクリエーション支援		
		予習	障がい児・者の入所施設について調べる	1 時間
		復習	障がい児・者の入所施設におけるレクリエーション支援の方法を確認する	1 時間
13	該当到達目標 3,4	講義内容 児童を対象にした福祉サービスでの実践例		
		予習	児童の福祉サービスについて確認する。	1 時間
		復習	児童の入所施設におけるレクリエーション支援の方法を確認する	1 時間
14	該当到達目標 3,4	講義内容 病院内における福祉レクリエーション支援の実践例		
		予習	病院におけるレクリエーション支援について調べる。	1 時間
		復習	病院でレクリエーション支援を実践する上での方法と課題を整理する。	1 時間
15	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 まとめ		
		予習	これまで学んだレクリエーション支援の内容と課題について確認する。	2 時間
		復習	レクリエーションが生活にどのように活かされるか考える。	1 時間
合計時間(予習・復習)				32.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	福祉レクリエーション援助論(専門展開科目)			科目 ナンバリング	SWA307
英文名	Welfare and Assistance in Recreation			講義形態	講義
担当教員	高橋 紀子				
科目に関連した 実務経験	元(財)日本レクリエーション協会指導部 現東京レクリエーション協会公認講師・専門委員 地域密着型デイサービス介護職員 特別養護老人ホーム・デイサービスでのレクリエーション支援 障がい者施設でのレクリエーション療法 精神科デイケアでのレクリエーション療法				
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別	「福祉レクリエーションワーカー」指定科目				
学位授与方針 との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	福祉ニーズを有する人々が生きがいをもって生活できるように、個々の障害やニーズにあったレクリエーションを援助するための知識や方法を修得する。 授業は、実際にレクリエーションを実践するなど体験学習を中心に進める。				
到達目標	1.福祉レクリエーション援助の意義や方法を理解する。 2.実際の援助場面で対象者に合わせた活動の支援を行うことができる。■ 3.支援の方法について多職種・他職種と連携して支援することができる。■				
評価方法	定期試験 50%、レポート(5 回)50%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
使用教材	随時資料を配布する。				
参考文献					
課題に対する フィードバック	レポートについては、随時フィードバックをおこなう。定期試験の後、振り返りまとめを行う。				
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。	メールアドレス (#→@)	takahashi#lvnw.jp		
1	講義内容	福祉レクリエーション援助の専門性			
	該当到達目標 1	予習	レクリエーションとは何かについて、今までの復習をする		1 時間
		復習	福祉レクリエーション援助の専門性について理解する		1 時間
2	講義内容	福祉レクリエーション援助の目的			
	該当到達目標 1	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。		1 時間
		復習	援助の目的について復習しておくこと。		1 時間
3	講義内容	生きがい支援－生活習慣の視点から			
	該当到達目標 1,2	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。		1 時間
		復習	生きがいとはなにか生活習慣の視点とはどのようなことか、授業中での振り返りと学びを深めておくこと		1 時間
4	講義内容	福祉レクリエーション援助過程 アセスメントの方法■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。		1 時間
		復習	アセスメントをする上での福祉職としての知識を深めておくこと。心身機能・身体		1 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

			構造および支援に対する姿勢について。	
5	講義内容	福祉レクリエーション援助計画の方法■		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
	1,2	復習	対象者に即した援助計画とは何かについて、担当部分について理解を深めておくこと。	1 時間
6	講義内容	福祉レクリエーション援助の実施方法■		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
	1,2	復習	福祉レクリエーション援助の実施方法とは何が大切か理解を深めておくこと。	1 時間
7	講義内容	個別レクリエーションのための方法		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
	1,2,3	復習	対象に合わせた援助の実施方法の目的・目標とはどのようなものか、その支援の配慮について理解を深めておくこと。	1 時間
8	講義内容	グループレクリエーション援助の意義と効果		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
	1,2,3	復習	集団を介した個別援助について理解を深めておくこと。	1 時間
9	講義内容	グループレクリエーション援助計画の方法と実践		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
	1,2,3	復習	集団を介した個別援助について計画について配慮する点等理解を深めておくこと。	1 時間
10	講義内容	福祉レクリエーションの評価の方法■		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
	1,2,3	復習	援助の評価方法について復習し自らの課題について調べてくること。	1 時間
11	講義内容	レジャーカウンセリングとレジャーエデュケーションの発展		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
	1,2,3	復習	生きがい支援・レジャー支援・レジャー教育について、講義内容と資料を確認し理解を深めてくること。	1 時間
12	講義内容	レジャーエデュケーションの実践例		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
	1,2	復習	対象者に合わせたレジャー教育について理解を深めてくること。	1 時間
13	講義内容	福祉レクリエーション援助と社会資源の活用		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
	1,2,3	復習	社会資源について挙げ、他に何かないか確認してくること。	1 時間
14	講義内容	福祉レクリエーション援助におけるイベントプログラムの考え方と活用方法		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
	1,2,3	復習	施設・地域のイベントの必要性について理解し活用方法について考察してくる	1 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
	1,2,3	復習	福祉レクリエーション援助の必要性和目的等について理解を深める。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間

備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	福祉レクリエーション援助技術(専門展開科目)			科目 ナンバリング	SWA308
英文名	Social Work in Welfare and Recreation			講義形態	演習
担当教員	高橋 紀子				
科目に関連した 実務経験	元(財)日本レクリエーション協会指導部 現東京レクリエーション協会公認講師・専門委員 地域密着型デイサービス介護職員 特別養護老人ホーム・デイサービスでのレクリエーション支援 障がい者施設でのレクリエーション療法 精神科デイケアでのレクリエーション療法				
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位		
種別	「福祉レクリエーションワーカー」指定科目				
学位授与方針 との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	福祉レクリエーション活動の実践について理解し、援助に必要な「活動分析」や「活動アレンジ」の技術、及びコミュニケーションスキルを身につける。また、福祉レクリエーションの援助過程におけるアセスメント・計画・実践・評価の方法を修得する。 授業は、実際にレクリエーションを実践するなど体験学習を中心に進める。				
到達目標	1.医療・福祉現場でレクリエーションを活用するために必要な「活動分析」や「活動アレンジ」ができる。 2.コミュニケーションスキルを修得し、対人援助にレクリエーション活動支援を応用することができる。 3.福祉レクリエーション援助過程における個別及び集団のアセスメント、計画、実践、評価ができる。■				
評価方法	ロールプレイ 50%、レポート(5 回)50%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
使用教材	随時資料を配布する。				
参考文献					
課題に対する フィードバック	レポートおよびロールプレイについて 随時フィードバックを行う。				
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	takahashi#lvnw.jp	
1	講義内容	福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の開発とアレンジ ①レクリエーション財の考え方・捉え方			
	該当到達目標 1,2	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。		1 時間
		復習	レク財について理解し、レク財について調べておくこと。		1 時間
2	講義内容	福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の開発とアレンジ ②レクリエーション財分類 ③福祉レクリエーション援助に既存のレクリエーション財をどのように効果的にいかすか			
	該当到達目標 1,2	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。		1 時間
		復習	レク財の分類とレク財の持つ効果について理解を深めておくこと。		1 時間
3	講義内容	レクリエーション活動分析の考え方と方法 ①活動分析の必要性 ②活動分析の視点			

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
		復習	活動分析について理解を深めておくこと。	1 時間
4	講義内容	レクリエーション活動分析の考え方と方法 ③活動分析の方法 ④活動分析をどのように活用するか		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
		復習	効果ある福祉レク支援を展開するうえでの活動分析について理解を深めておくこと。	1 時間
5	講義内容	個人の心身状況に対応したレクリエーション財の選択・開発・アレンジ		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
		復習	対象の理解、疾病の理解を深めた上でのレク財の選択の必要性について理解を深めておく。	1 時間
6	講義内容	事例から学ぶレクリエーション財提供の方法		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
		復習	各事例に即したレク財の選択、展開方法等について理解を深めておくこと。	1 時間
7	講義内容	福祉レクリエーション援助のための対人援助技術を学ぶ		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
		復習	対人支援に関する方法について理解を深めておくこと。	1 時間
8	講義内容	援助者のためのコミュニケーション技法について体得する		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
		復習	コミュニケーション技術についての理解を深めておくこと。	1 時間
9	講義内容	ホスピタリティトレーニング		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと	1 時間
		復習	気配り配慮等について理解を深め自己覚知をおこなう	1 時間
10	講義内容	様々な療法を知る		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
		復習	対象者に大切な様々な療法についての理解と他の職種の理解を深める。	1 時間
11	講義内容	福祉レクリエーション援助の実際■ ①老人保健施設の入所者に対するレクリエーション支援について ②特別養護老人ホームの入居者に対するレクリエーション支援について ③デイケアにおけるレクリエーション支援について ④デイサービスにおけるレクリエーション支援について		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
		復習	場面における福祉レクリエーション援助についての理解を深める。	1 時間
12	講義内容	福祉レクリエーション援助の実際■ ⑤知的障害者施設におけるレクリエーション支援について ⑥児童施設におけるレクリエーション支援について ⑦地域等におけるボランティアとしてのレクリエーション支援について		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3	復習	場面における福祉レクリエーション援助についての理解を深める。	1 時間
13	講義内容	福祉レクリエーション援助の実際■ ⑧支援案を作成する		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
	1,2,3	復習	支援案作成を完成させる。	1 時間
14	講義内容	福祉レクリエーション援助の実際■ ⑨援助の実際を体験する		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
	1,2,3	復習	支援の実際についての振り返りを行い自ら分析評価を行う。	1 時間
15	講義内容	福祉レクリエーション援助の実際■ ⑩振り返りを行い次へのステップとする ⑪まとめ		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1 時間
	1,2,3	復習	福祉レクリエーション援助に関する必要性和理解を深める。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	障害者福祉論(専門展開科目)			科目 ナンバリング	SWA309
英文名	Social Welfare for People with Disabilities			講義形態	講義
担当教員	根岸 洋人				
科目に関連した 実務経験	高崎市障害者支援協議会副会長(現在) 高崎市障害者虐待対策協議会会長(現在)				
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別					
学位授与方針 との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	障害者福祉の理念、諸外国との比較、問題点に焦点を当てて授業を行う。「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」で取り上げた内容をさらに深めていくためにひとつひとつの項目に焦点をあて、各論的に構成する。本授業では様々な問題についてトピック的に取り上げ、毎回テーマが変更するような 90 分完結型の講義で学修していく。 授業は講義形式で進める。パワーポイント及び映像資料を使用する。履修人数によっては学生に発言を求めることがある。				
到達目標	1.障害のある人々を取り巻く環境を理解しその問題点や課題を指摘できる■ 2.積極的に授業に参加し、障害のある人をめぐる問題に対して、自分自身の意見をまとめ、発表することができる				
評価方法	期末試験(論述形式)80%、C-learning による授業参加 20%				
使用教材	プリント配布				
参考文献	授業中に指示する				
課題に対する フィードバック	C-learning を通して行う				
オフィスアワー (研究室)	火曜 5 限及び金曜 5 限		メールアドレス (#→@)	negishi#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	障害表記			
	該当到達目標	予習	2 年次の必修科目である障害者自立支援制度の内容をふりかえる		1 時間
	1,2	復習	障害者の差別表現について文献、ネット等で調べる		1 時間
2	講義内容	障害理解の到達点			
	該当到達目標	予習	自身の中高生時代の道徳教育について振り返る		1 時間
	1,2	復習	障害者を取り上げた絵本、映像などを探し視聴してみる		1 時間
3	講義内容	権利を守る制度■			
	該当到達目標	予習	他教科で学んでいる権利擁護に関する制度を復習しておく		1 時間
	1,2	復習	障害者の権利が侵害されている事例を新聞記事等で探してみる		1 時間
4	講義内容	障害者と犯罪			
	該当到達目標	予習	犯罪白書などの統計を事前に見ておく		1 時間
	1,2	復習	地域生活定着支援センターなどの制度を整理しておく		1 時間
5	講義内容	障害者の地域生活■			
	該当到達目標	予習	生活のしづらさに関する調査を読む		1 時間
	1,2	復習	地域で暮らすことのメリット、デメリットについて自分自身の考えをまとめる		1 時間
6	講義内容	問題行動への対応			
	該当到達目標	予習	心理学や行動分析などの他教科の学習内容を復習しておく		1 時間
	1,2	復習	PDCA サイクルを基にした行動変容について調べてみる		1 時間
7	講義内容	障害者と家族			

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2	予習	障害者家族による手記などの書籍を読んでみる	1 時間
		復習	保育や看護などの視点から障害者家族の支援をどう捉えているか確認する	1 時間
8	講義内容	障害者ときょうだい		
	該当到達目標 1,2	予習	必要なし	1 時間
		復習	授業で紹介する書籍を読む	1 時間
9	講義内容	障害者の余暇支援		
	該当到達目標 1,2	予習	児童館での障害児の受け入れ状況について調べる	1 時間
		復習	障害者が余暇のために使える公的制度について調べる	1 時間
10	講義内容	障害者とスポーツ		
	該当到達目標 1,2	予習	パラリンピックの種目にどのようなものがあるか調べまとめておく	1 時間
		復習	障害者スポーツのイベント等に参加してみる	1 時間
11	講義内容	重症心身障害児		
	該当到達目標 1,2	予習	児童福祉法の重症心身障害児施設について調べる	1 時間
		復習	重症心身障害児の QOL について自身の考えをまとめる	1 時間
12	講義内容	出生前診断		
	該当到達目標 1,2	予習	近年導入された出生前診断についてネット・新聞記事などを調べる	1 時間
		復習	出生前診断についての自分自身の考えをまとめる	1 時間
13	講義内容	発達障害とその支援		
	該当到達目標 1,2	予習	他の授業で学習している発達障害の定義、障害特性についてふりかえる	1 時間
		復習	大人の発達障害者が抱えている問題について整理する	1 時間
14	講義内容	老障介護		
	該当到達目標 1,2	予習	日本の高齢化率、老老介護についてインターネット等で調べる	1 時間
		復習	老障介護問題を解決するためには何が必要か、自身の考えをまとめる	1 時間
15	講義内容	援助者の基本姿勢		
	該当到達目標 1,2	予習	これまでの授業内容を振り返り、援助者のあり方について考えておく	1 時間
		復習	実習やボランティア等での経験を踏まえ、自分の援助者としての価値を見直す	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	障害のある人について学ぶにあたって、実際に障害のある人と関わりを持つことは非常に大切です。春休み等を利用してボランティア等に参加してください。最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完してください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		スクールソーシャルワーク論(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWA310
英文名		School Social Work			講義形態	講義
担当教員		高木 政代				
科目に関連した実務経験		スクールソーシャルワーカーとして教育センターに勤務(現在)				
学年・開講期		2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要(テーマ・内容)		スクールソーシャルワークについて、その沿革からそれが必要とされる背景、視点、機能および役割などとともにスクールソーシャルワークの実践モデルや具体的な支援方法について取り上げ、体系的に学ぶ。テキストに沿った内容を資料や映像を用い、授業を行う。				
到達目標		1.スクールソーシャルワークの概念を述べることができる。 2.今日の学校教育現場が抱える課題とその実態について述べることができる。 3.学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を述べることができる。 4.スクールソーシャルワークの支援方法について自分の考えを示すことができる。■				
評価方法		成績評価 ①学期末レポートによる評価(70%) 尚、追再試は実施しない。 ②毎回の授業時に課す小テストまたはレポート等による評価(30%) その他の評価 ①授業開講数の 2/3 以上を出席することにより、成績の評価対象とする。 ②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届出(添付書類)を提出すれば出席扱いとする。 尚、15 分以上の遅刻は欠席とみなす。				
使用教材		『スクール[学校]ソーシャルワーク論』 社団法人日本社会福祉士養成校協会一監修 門田光司・富島喜揮・山下英三郎・山野則子一編集 中央法規 2012 ISBN 978-4-8058-3629-3 その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントし配布する。				
参考文献		「スクールソーシャルワーク論」日本スクールソーシャルワーク協会編 学苑社 2008				
課題に対するフィードバック		リアクションペーパー等による質問や意見については授業の中で回答するなど、随時、学生にフィードバックする。				
オフィスアワー(研究室)		質問等は、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス(#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス				
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書の全体構成、シラバスの講義目標や内容に目を通し、理解する。			2 時間
		復習	講義内容、到達目標、成績評価の方法などを確認する。			1 時間
2	講義内容	学校の概要				
	該当到達目標 1,3	予習	学校組織や教員の役割、関連法について下調べを行う。			1 時間
		復習	資料を用いて授業内容を再確認する。			2 時間
3	講義内容	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢①不登校、非行、児童虐待、子どもの貧困■				

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2	予習	教科書第 1 章 第 1 節～第 3 節を読む。	1 時間
		復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
4	該当到達目標 1,2	講義内容	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢②外国籍の就学、学習障害、特別支援教育、その他■	
		予習	教科書第 1 章 第 4 節～第 8 節を読む。	1 時間
		復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
5	該当到達目標 1,3	講義内容	スクールソーシャルワークの価値・倫理	
		予習	教科書第 2 章 第 1 節～第 2 節を読む。子どもの権利条約および児童福祉法について下調べを行う。	1 時間
		復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
6	該当到達目標 1,3	講義内容	アメリカや諸外国及び日本のスクールソーシャルワークの発展過程の概要	
		予習	教科書第 3 章 第 1 節～第 2 節を読む。	1 時間
		復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
7	該当到達目標 3,4	講義内容	スクールソーシャルワークの実践プロセス■	
		予習	アセスメント、プランニング、援助の実行について下調べを行う。教科書第 5 章 第 1 節を読む。	1 時間
		復習	教科書・資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
8	該当到達目標 3,4	講義内容	スクールソーシャルワークの実践モデル①■	
		予習	実践モデルについて下調べを行う。教科書第 5 章 第 2・第 3 節を読む。	1 時間
		復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
9	該当到達目標 3,4	講義内容	スクールソーシャルワークの実践モデル②■	
		予習	実践モデルについて下調べを行う。教科書第 5 章 第 4・第 5 節を読む。	1 時間
		復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
10	該当到達目標 3,4	講義内容	マイクロレベルのスクールソーシャルワーク①■	
		予習	個別支援方法について下調べを行う。教科書第 6 章 第 1 節-1 を読む。	1 時間
		復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
11	該当到達目標 3,4	講義内容	マイクロレベルのスクールソーシャルワーク②■	
		予習	集団支援方法について下調べを行う。教科書第 6 章 第 1 節-2 を読む。	1 時間
		復習	教科書・資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
12	該当到達目標 3,4	講義内容	メゾレベルのスクールソーシャルワーク①■	
		予習	教科書第 6 章 第 2 節-1、2 を読む。チームアプローチ、ケース会議について調べる。	1 時間
		復習	教科書・資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
13	該当到達目標 3,4	講義内容	メゾレベルのスクールソーシャルワーク②■	
		予習	教科書第 6 章 第 2 節-3 を読む。要保護児童対策地域協議会について調べる。	1 時間
		復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
14	該当到達目標	講義内容	マクロレベルのスクールソーシャルワーク	
		予習	教科書第 6 章 第 3 節を読む。スクールソーシャルワーカー活用事業について調べる。	1 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	3,4	復習	教科書・資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
15	講義内容	スクールソーシャルワーカーとスーパービジョン■		
	該当到達目標	予習	教科書第 7 章を読む。	1 時間
	1,2,3,4	復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	医療ソーシャルワーク論(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWA311
英文名	Social Work in Health Service			講義形態	講義
担当教員	尾方 仁				
科目に関連した実務経験	国立西群馬病院→国立高崎病院→国立病院機構高崎総合医療センター→国立病院機構西群馬病院→国立病院機構渋川医療センターで 38 年間医療ソーシャルワーカーとして勤務。 令和元年 10 月に独立型社会福祉事務所「おがた社会福祉事務所」開設				
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	保健医療分野で社会福祉を実践する職種として「医療ソーシャルワーカー」の存在が挙げられる。しかし、保健医療分野(特に病院)では医師、看護師をはじめとする業務独占国家資格者による医療モデルが未だに主流であり、その中で名称独占の「社会福祉士」「精神保健福祉士」が患者・家族の生活モデルに視点を置いた支援を行うためには、それなりの知識と技術、考え方が必要である。 本講では将来「医療ソーシャルワーカー」という職業を視野に入れている学生に、最低限理解しておいてもらいたい基礎的内容を学んでもらうことを目的とする。 教科書に添って進め、特に重要な部分はそのつどパワーポイントを作成・表示し、ノートに書き写してもらう。また、その他必要な補足資料などはプリントして教室で配布する。				
到達目標	1.医療ソーシャルワークの歴史を理解する。 2.医療ソーシャルワーカーの倫理と価値、業務を理解する。 3.傷病から生ずる生活問題について理解する。■ 4.医療ソーシャルワーカーに必要な医学的知識等を理解する。 5.連携、チーム医療について理解する。■ 6.医療ソーシャルワーカーの支援技術について理解する。■				
評価方法	以下の項目で評価を行い、100 点中 60 点以上を獲得した場合を合格とする。 1.期末試験(筆記)による評価 70% 2.講義に臨む姿勢(授業態度) 30% その他の評価 1.授業開講数の 2/3 以上の出席で評価対象とする。(但し、忌引き等は届け出により出席扱いとする。) 2.正当な理由無く 15 分以上遅刻した場合は欠席とみなす。				
使用教材	「保健医療ソーシャルワークの基礎―実践力の構築―」 公益社団法人日本医療社会福祉協会編(相川書房) ISBN978-4-7501-039-4				
参考文献					
課題に対するフィードバック	授業の中で質問時間を設けるなど随時フィードバックを行う。				
オフィスアワー (研究室)	質問等には授業開始前もしくは終了後に教室で応じるとともに、メールで受け付ける。	メールアドレス (#→@)	ogajn0413#ksh.biglobe.ne.jp		
1	講義内容	ガイダンス(医療ソーシャルワーカーの業務紹介並びに授業の進め方等を確認)			

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	医療ソーシャルワーカーについて学習する。	1 時間
		復習	医療ソーシャルワーカーの全体的イメージを確認する。	2 時間
2	該当到達目標 1,5	講義内容	医療における社会保障政策の動向	
		予習	教科書の第 1 章第 1 節～第 5 節を読む。	1 時間
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間
3	該当到達目標 1,3,5	講義内容	医療ソーシャルワークの成立過程と今後の課題	
		予習	教科書の第 2 章第 1 節～第 3 節を読む。	1 時間
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間
4	該当到達目標 1,2,3	講義内容	医療ソーシャルワークの倫理と価値	
		予習	教科書の第 3 章第 1 節～第 2 節を読む。	1 時間
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間
5	該当到達目標 2,3,4	講義内容	家族の理解と生活機能障害	
		予習	教科書の第 4 章第 1 節～第 2 節、第 5 章第 1 節～第 3 節を読む。	1 時間
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間
6	該当到達目標 2,3,4,5	講義内容	必要な医学的知識と傷病の理解	
		予習	教科書の第 6 章第 1 節～第 4 節を読む。	1 時間
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間
7	該当到達目標 2,4,5	講義内容	連携とチーム医療	
		予習	教科書の第 7 章第 1 節～第 3 節を読む。	1 時間
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間
8	該当到達目標 1,4,5	講義内容	診療報酬とソーシャルワーク	
		予習	教科書第 8 章第 1 節～第 3 節を読む。	1 時間
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間
9	該当到達目標 1,2,4,6	講義内容	面接技術①■	
		予習	教科書第 9 章第 1 節～第 9 節を読む	1 時間
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間
10	該当到達目標 1,2,4,6	講義内容	面接技術②(演習含む)■	
		予習	教科書第 9 章第 1 節～第 9 節を読む。	1 時間
		復習	教科書と授業内容と授業内容と演習を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間
11	該当到達目標 2,3,4,5,6	講義内容	アセスメント①■	
		予習	教科書第 10 章第 1 節～第 3 節を読む。	1 時間
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間
12	該当到達目標 2,3,4,5,6	講義内容	アセスメント②(演習含む)■	
		予習	教科書第 10 章第 1 節～第 3 節を読む。	1 時間
		復習	教科書と授業内容と演習を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間
13	該当到達目標 2,3,4,5	講義内容	ソーシャルワーク記録と実践事例検討■	
		予習	教科書第 11 章～第 12 章を読む	1 時間
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

14	講義内容	実践に必要な社会制度■			
	該当到達目標 2,3,4,5	予習	資料等にて知識として必要な社会制度を予習	1 時間	
		復習	資料と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間	
15	講義内容	医療ソーシャルワーカー業務のまとめ■			
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	医療ソーシャルワークについての振り返りを行う。	1 時間	
		復習	医療ソーシャルワークについての理解を深める。	2 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名		こども論(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWA312
英文名		Theory of Child			講義形態	講義
担当教員		大川 健次郎				
科目に関連した実務経験		市区町村社会福祉協議会(経験)				
学年・開講期		3 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要(テーマ・内容)		こども論では、社会が子どもをどのように捉えてきたか、子どもの持つ権利とは何かについて学び、その上で、子育て、子育てを支援するための具体的な施策を取り上げて、その現状を把握し、その課題・あり方について考察できるようにする。支援を必要とする子ども・家族に対する援助についても学習する。 授業は資料を配布し、それを使用して要点をまとめていく。支援を必要とする子ども・家族に対する援助についても学習する。				
到達目標		1.社会が子どもをどのように捉えてきたのかを理解できる。 2.子どもの権利について理解できる。 3.子どもの権利条約について説明できる。 4.子どもの自立について理解できる。■				
評価方法		定期試験 80% 授業参加度 20%				
使用教材		講義時に必要な資料を配布する				
参考文献						
課題に対するフィードバック		授業参加度をミニレポートで測る。ミニレポートにコメントをつけて返却し学生にフィードバックする				
オフィスアワー(研究室)		火曜日 3 時限		メールアドレス(#→@)	okawa#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	子ども観(古代・中世)				
	該当到達目標1	予習	古代の児童救済事業について調べてくること			1.5 時間
		復習	聖徳太子の行った事業についての理解、律令における子どもの位置づけについて理解する			1.5 時間
2	講義内容	子ども観(近世・近代)				
	該当到達目標1	予習	江戸時代における子どもの問題について調べてくること			1.5 時間
		復習	近世における児童保護についての理解、明治維新と子どもの生活について理解する			1.5 時間
3	講義内容	子ども観(大正から戦前まで)				
	該当到達目標1	予習	資本主義社会における子どもの問題について調べてくること			1.5 時間
		復習	学制頒布、徴兵制による子どもへの影響について理解する			1.5 時間
4	講義内容	子ども観(戦後から高度経済成長まで)				
	該当到達目標1	予習	戦後の荒廃時における子どもの問題について調べてくること			1.5 時間
		復習	工業化が進む中での子どもの生活について理解する			1.5 時間
5	講義内容	子ども観(高度経済成長から 1970 年代まで)				
	該当到達目標	予習	高度経済成長がもたらした子どもの生活のマイナス面について調べてくること			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1	復習	地域共同体という基盤が不在となった時の家族関係と子どもの生活について理解する	1.5 時間
6	講義内容	子ども観(1980年代から現在まで)		
	該当到達目標	予習	国際家族年が社会に与えた影響について調べてくること	1.5 時間
	1	復習	我が国の少子化対策について理解する	1.5 時間
7	講義内容	権利概念について		
	該当到達目標	予習	自然法的規範説と実定法的規範説について調べてくること	1.5 時間
	2	復習	フランス人権宣言、アメリカ独立宣言における権利概念、対立の調整概念について理解する	1.5 時間
8	講義内容	受動的権利		
	該当到達目標	予習	受動的権利の概念について調べてくること	1.5 時間
	2	復習	受動的権利と社会権的特質の関係について理解する	1.5 時間
9	講義内容	能動的権利		
	該当到達目標	予習	能動的権利の概念について調べてくること	1.5 時間
	2	復習	能動的権利と自由権的特質の関係について理解する	1.5 時間
10	講義内容	子どもの権利の特質		
	該当到達目標	予習	ホワイトハウス会議宣言について調べてくること	1.5 時間
	2	復習	受動的権利の限界と能動的権利の位置づけについて理解する	1.5 時間
11	講義内容	子どもの権利条約		
	該当到達目標	予習	子どもの権利条約の特徴について調べてくること	1.5 時間
	2, 3	復習	子どもの権利条約が採択されるまでの歴史、ウェルビーイング概念について理解する	1.5 時間
12	講義内容	子どもの権利を擁護する		
	該当到達目標	予習	アドボカシー概念について調べてくること	1.5 時間
	2, 3	復習	子どもゆえの権利擁護の必要性、施設職員とアドボカシーの思いのすれ違いについて理解する	1.5 時間
13	講義内容	子どもの権利ノート		
	該当到達目標	予習	子どもの権利ノートとは何か調べてくること	1.5 時間
	2, 3	復習	子どもの権利ノート配布の必要性、役割、特徴について理解する	1.5 時間
14	講義内容	子どもの自立とは何か		
	該当到達目標	予習	自分が考える「子どもの自立」とは何か整理してくる	1.5 時間
	4	復習	日本における子どもの自立概念を理解する	1.5 時間
15	講義内容	子どもの自立支援■		
	該当到達目標	予習	動的調和的共生とは何か調べてくること	1.5 時間
	4	復習	自立支援のために必要と不可欠なことを理解する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		カウンセリング論(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWA313
英文名		Counseling			講義形態	講義
担当教員		角野 善司				
科目に関連した実務経験		カウンセラーとして臨床心理センターに勤務(経験)				
学年・開講期		2 年 後期	選必・単位数	選択	2 単位	
種別		福祉レクリエーションワーカー指定科目				
学位授与方針との対応			豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力
			基礎的知識力		✓	応用・実践する能力
			問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要(テーマ・内容)		カウンセリング・心理療法の理論・歴史・方法に関する知識を修得する。 さらに、カウンセラーに求められるクライアントへの関わりについて学び、考察を深める。 授業期間全体を通じた授業の進め方:1 年後期「心理学」(人間理解科目)での学習内容を基礎として学習を進める。受講者には、予習復習にしっかりと取り組んでももらいたい。教科書の該当箇所に関する講義は、予習をしてあることを前提とするので、簡潔に進める。積極的に質問をすることを期待する。復習課題の解答解説は丁寧さを心掛ける。なお、理解を深めるために必要に応じて視聴覚教材を活用する。				
到達目標		1.各学派のカウンセリング・心理療法に関する諸概念を説明できる。■ 2.カウンセリングの視点を利用者支援に活用できる。■				
評価方法		毎回の宿題 30%(復習課題 15%、予習課題 15%)、学期末テスト 50%、学期末レポート 20%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テスト・レポートの得点に関わらず、単位を付与しない。				
使用教材		加藤伸司ほか「心理学理論と心理的支援[第 2 版]」ミネルヴァ書房 2014 年 2,800 円+税 ※人間理解科目「心理学」においても使用。				
参考文献						
課題に対するフィードバック		宿題は毎回授業時に、学期末テスト・レポートは事後に講評解説の機会を設ける。				
オフィスアワー(研究室)		初回授業時に告知するとともに、研究室ドアに掲出する(8 号館 405 室)		メールアドレス(#→@)	zsumino#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	カウンセリングの目的、対象、方法■				
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所を精読する。			1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。			1.5 時間
2	講義内容	ピアカウンセリングの目的、方法■				
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。			1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。			1.5 時間
3	講義内容	カウンセリングとソーシャルワークとの関係■				
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。			1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。			1.5 時間
4	講義内容	心理療法の概要と実際(1)精神分析■				
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。			1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。			1.5 時間
5	講義内容	心理療法の概要と実際(2)来談者中心療法■				
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。			1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。			1.5 時間
6	講義内容	心理療法の概要と実際(3)行動療法・認知行動療法■				
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。			1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

7	講義内容	心理療法の概要と実際(4)家族療法■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
8	講義内容	心理療法の概要と実際(5)ブリーフ・サイコセラピー■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
9	講義内容	心理療法の概要と実際(6)遊戯療法■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
10	講義内容	心理療法の概要と実際(7)心理劇■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
11	講義内容	心理療法の概要と実際(8)動作療法■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
12	講義内容	心理療法の概要と実際(9)SST(生活技能訓練)■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
13	講義内容	心理療法の概要と実際(10)福祉現場におけるセラピューティック・アクティビティ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
14	講義内容	心理療法の概要と実際(11)その他の心理療法■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ■		
	該当到達目標	予習	これまでの学習内容を振り返る。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・各福祉士の国家試験で頻出の範囲である。履修して、しっかりと学習してほしい。 ・人間理解科目「心理学」を履修済であることを前提に授業を進める。 ・宿題の提出は、C-learning による。 ・■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		トータルボディトレーニング		科目ナンバリング	SWA314
英文名		Total Body Training		講義形態	講義
担当教員		大家 千枝子			
科目に関連した実務経験					
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位	
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		✓	応用・実践する能力
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 (テーマ・内容)		基本的な運動プログラム作成の知識や機器の活用方法を学び、トレーニングを実践する。また運動前後のストレッチングや機器を使わないレジスタンストレーニングの方法を身につける。このほか、介護業務で発生しやすい腰痛に対して、介護作業別の対策および腰痛予防エクササイズを知り、腰痛になりにくい体をつくるためのエクササイズについて学ぶ。 ウォーミングアップ時間の確保のため、余裕をもって登校し、遅刻しない姿勢を求める。準備・後片付けなど積極的な姿勢を求める。準備・後片付けなどの授業運営は受講生の積極的な姿勢を求める。身体組成やエアロバイク、パワーマックスによるテスト結果、ウェルラウンドの強度と回数などのデータは各自に用意されたファイルで管理する。授業終了時には、振り返りとして記録カードへ記入が必要とされ、ファイルごと提出してもらう。			
到達目標		1.機器の名称、使い方やエネルギー消費量の算出方法などについて理解し、説明できる。 2.前後の体操を含めて、自分に合った適切な負荷(強度や回数)を選んでトレーニングできる。 3 自分の健康・体力について関心・興味をもち、自らすすんでフィットネス活動を実践できる。 4.授業の性質や履修者の中での個人の役割を理解、意識し、行動できる。 5.トレーニングの効果を実感できる(体力の向上、筋肉量・体脂肪量の調節、精神面など)。			
評価方法		授業ごとの取り組みを反映した実践点 50%、最終日のテスト 15%、半期間のトレーニング成果 15%、記録・提出物 20%			
使用教材		プリントを適宜配布する。			
参考文献		参考文献を適宜紹介する。			
課題に対するフィードバック		毎回の授業後にフィジカルデータファイルの提出を求める。ファイルの中の授業記録カードに付したコメントやスタンプは必ずチェックすること。授業期間中に使用したフィジカルデータファイルについては、希望するものには返却する。ただし、試験期間終了日までに自ら取りに来ること。			
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。	メールアドレス (#→@)	初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス・ルーブリックの作成			
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。		0.5 時間
	3,4	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。		0.5 時間
2	講義内容	体組成測定、体力テスト(1 回目)			
	該当到達目標	予習	測定項目を確認し、暴飲暴食や寝不足を控える。		0.5 時間
	3,4	復習	測定項目とそれらの正しい測定方法、測定機器の使い方を復習して覚える。		0.5 時間
3	講義内容	結果の評価、機器の正しい使用方法			
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	体組成と体力の結果から、自身の生活を見直し、健康的な生活をこころがける。		0.5 時間
4	講義内容	ウォーキング・ジョギングと運動前後の体操			
	該当到達目標	予習	実施内容を確認し、ウォーキングやジョギングについて調べておく。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	学んだストレッチや体操を実践してみる。		0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

5	講義内容	介護作業別の対策および腰痛予防エクササイズ		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
	2,3,4	復習	学んだ予防エクササイズを実践してみる。	0.5 時間
6	講義内容	フィットネス機器を使ったトレーニング(基本)		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
7	講義内容	油圧マシンを使ったウェルラウンドエクササイズ(基本)		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
8	講義内容	油圧マシンを使ったウェルラウンドエクササイズ(応用)		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
9	講義内容	運動処方 of 現状とレジスタンストレーニングの実際		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
10	講義内容	フィットネスプログラムの作成と実践		
	該当到達目標	予習	フィットネスプログラムを検討する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
11	講義内容	フィットネスプログラムの作成と実践		
	該当到達目標	予習	フィットネスプログラムを検討する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
12	講義内容	体組成・体力測定(2回目)		
	該当到達目標	予習	フィットネスプログラムを検討する。	0.5 時間
	3,4	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
13	講義内容	フィットネスプログラムの作成と実践		
	該当到達目標	予習	フィットネスプログラムを検討する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
14	講義内容	ウォーキング(大学周辺)または他のエクササイズ体験(TABATAトレーニングなど)		
	該当到達目標	予習	フィットネスプログラムを検討する。	0.5 時間
	1,3,4	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
15	講義内容	まとめ・フィジカルデータファイルの提出・ルーブリックを使った自己採点		
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読みなおして、目標の到達度を確認する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	【単位修得に必要な時間について】 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 【受講上の注意】 ①運動に適した服装(ジャージ、Tシャツなど)とシューズ(屋内外別)を着用すること。 (※ジーンズ・普段着での受講は不可。スマホや時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアスなどは外しておく。) ②原則として見学は認めない。配慮を必要とする学生は初回ガイダンス終了までに申し出ること。 ③貴重品は各自で管理すること。 【履修条件】 技術の高低や得意不得意、好き嫌い、勝ち負けにとらわれず、自分の持っている技術力をいかして、スポーツそのものを楽しむ能力や積極的に体を動かすことが求められる。 【ルール】			

	授業開始時には整列し、出席をとる。授業終了時には、振り返りとして授業記録カードの提出がある。次の行為は授業中にしないこと。①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホの使用。

科目名	こころとからだのしくみⅠ（専門展開科目）			科目ナンバリング	SWA315
英文名	Mind and BodyⅠ			講義形態	講義
担当教員	渡邊 洋子				
科目に関連した実務経験	厚生労働省看護師国家資格を取得し、特定機能病院に勤務していた				
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位、介護福祉コース必修 2 単位		
種別	「福祉レクリエーションワーカー」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	「こころとからだのしくみ」は、介護サービスを実際に提供する際の根拠を学び、理解していくためのものである。介護を必要とする人は増加し、多様化している。これらに応えられる様、基礎を学び、実践に応用できる力を養うことを目標とする。 授業終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出してください。それをもとに次回の講義冒頭で補足します。またミニレポートやアンケート回答を課しています。				
到達目標	1. こころのしくみの基礎概念(人間の基本的欲求・社会的欲求、自己概念と尊厳、学習・記憶・思考感情・動機づけ・適応等)について理解できる。 2. からだのしくみの基礎事項(生命維持・恒常性のしくみ、人体各部の名称、ボデイメカニクス、関節可動域等)について理解できる。 3. 実践に直接関連する基礎的知識（移動、身じたく、入浴・清潔保持、食事、排泄、睡眠等、利用者の生活・自立支援に必要な介護等）や、機能低下、障害がおよぼす影響、医療職との連携等について理解できる。■ 4. 死にゆく人のこころとからだのしくみ(「死」の捉え方、終末期から死に至る体の理解、「死」に対するこころの理解、医療職との連携等)について理解できる。■				
評価方法	出席状況及びリアクションペーパー、授業態度 40%、筆記試験 60%				
使用教材	講義資料・参考資料等は、随時プリントして配布する。				
参考文献	講義時に、提示および紹介する				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーを授業の冒頭で共有し、理解を深める				
オフィスアワー (研究室)	火曜 2 時限(重複を避けて時間を確保するために、メール等でご予約ください。) 研究室:1 号館 5 階 505 研究室		メールアドレス (#→@)	wyoko#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	ガイダンス			
	該当到達目標	予習	教科書の前書き、シラバスの内容を読み講義の目標などを理解する。		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容、到達目標、成績評価方法等を確認する。		1.5 時間
2	講義内容	こころのしくみの理解 1			
	該当到達目標	予習	教科書:1 章 1-1、1-2 に目を通す(P10～P17)		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	人間の欲求や自己実現・尊厳について理解する。		1.5 時間
3	講義内容	こころのしくみの理解 2			
	該当到達目標	予習	教科書:1 章 1-2～1-3 に目を通す(P20～P23)		1.5 時間
	2,3	復習	脳のしくみ、学習・記憶・思考・感情・認知、意欲について理解する。		1.5 時間
4	講義内容	からだのしくみの理解 1			
	該当到達目標	予習	教科書:2 章 2-1 に目を通す(p36～P42)		1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	2,3	復習	生命維持・恒常性のしくみ、バイタルサインについて理解する。	1.5 時間
5	講義内容	からだのしくみの理解 2 人体各部位の構造と役割、名称について理解する■		
	該当到達目標	予習	教科書:2章 2-1 に目を通す(P43～P62)	1.5 時間
	2,3	復習	体の部位の役割(細胞・遺伝、脳・神経、骨・筋肉等)について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	からだの動き		
	該当到達目標	予習	教科書:2章 2-2 に目を通す(P63～P72)	1.5 時間
	2,3	復習	機能低下、骨・関節・筋肉の働き、ボデイメカニクスについて理解する。	1.5 時間
7	講義内容	移動に関連したしくみ 1		
	該当到達目標	予習	教科書:4章 4-1 に目を通す(P106～P112)	1.5 時間
	2,3	復習	基本的な姿勢や体位、移動に関連したところのしくみについて理解する。	1.5 時間
8	講義内容	移動に関連したしくみ 2 介護に必要な姿勢や、用具について理解する■		
	該当到達目標	予習	教科書:4章 4-2 に目を通す(P112～P118)	1.5 時間
	2,3	復習	仰臥位、座位、立位、歩行、車いす移動について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	移動に関連したしくみ 3		
	該当到達目標	予習	教科書:4章 4-2、4-3 に目を通す(P119～P130)	1.5 時間
	2,3	復習	機能低下が移動に及ぼす影響と観察のポイント・対応について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	身じたくに関連したしくみ 1		
	該当到達目標	予習	教科書:3章 3-1 に目を通す(P76～P87)	1.5 時間
	2,3	復習	身じたくのしくみ、効果、こころのしくみ、からだのしくみについて理解する。	1.5 時間
11	講義内容	身じたくに関連したしくみ 2 事例をもとに、観察等のポイントについて理解する■		
	該当到達目標	予習	教科書:3章 3-2、3-3 に目を通す(P88～P102)	1.5 時間
	2,3	復習	機能低下による身体への影響と変化の気づき、観察ポイントや対応を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	入浴・清潔保持に関連したしくみ 1		
	該当到達目標	予習	教科書:6章 6-1、に目を通す(P172～P183)	1.5 時間
	2,3	復習	入浴・清潔の意義と効果、皮膚のしくみについて理解する。	1.5 時間
13	講義内容	入浴・清潔保持に関連したしくみ 2 人体の構造と合わせて人体への影響について理解する■		
	該当到達目標	予習	教科書:6章 6-1、6-2 に目を通す(P172～P194)	1.5 時間
	2,3	復習	機能低下(皮膚、視覚、運動、等)がおよぼす影響について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	入浴・清潔保持に関連したしくみ 3		
	該当到達目標	予習	教科書:6章 6-2、6-3 に目を通す(P184～P206)	1.5 時間
	2,3	復習	観察のポイントと気づきと対応(医療職との連携)について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめおよび試験対策		
	該当到達目標	予習	これまでの授業内容を整理し、理解不足を確認しておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	まとめを通して試験勉強を行う	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		こころとからだのしくみⅡ（専門展開科目）			科目 ナンバリング	SWA316
英文名		Mind and Body II			講義形態	講義
担当教員		渡邊 洋子				
科目に関連した 実務経験		厚生労働省看護師国家資格を取得し、特定機能病院に勤務していた				
学年・開講期		2 年 後期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位、介護福祉コース必修 2 単位		
種別						
学位授与方針 との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		「こころとからだのしくみ」は、介護サービスを実際に提供する際の根拠を学び、理解していくためのものである。介護を必要とする人は増加し、多様化している。これらに応えられる様、基礎を学び、実践に応用できることを目標とする。 授業終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出してください。それをもとに次の講義冒頭で補足します。またミニレポートやアンケート回答を課しています。				
到達目標		1. こころのしくみの基礎概念（人間の基本的欲求・社会的欲求、自己概念と尊厳、学習・記憶・思考・感情・動機づけ・適応等）について理解できる。 2. からだのしくみの基礎事項（生命維持・恒常性のしくみ、人体各部の名称、ボデイメカニクス、関節可動域等）について理解できる。 3. 実践に直接関連する基礎的知識（移動、身じたく、入浴・清潔保持、食事、排泄、睡眠等、利用者の生活・自立支援に必要な介護等）や、機能低下、障害がおよぼす影響、医療職との連携等について理解できる。■ 4. 死にゆく人のこころとからだのしくみ（「死」の捉え方、終末期から死に至る体の理解、「死」に対するこころの理解、医療職との連携等）について理解できる。■				
評価方法		出席状況及びリアクションペーパー、授業態度 40%、筆記試験 60%				
使用教材		講義資料・参考資料等は、随時プリントして配布する。				
参考文献		講義時に、提示および紹介する				
課題に対する フィードバック		リアクションペーパーを授業の冒頭で共有し、理解を深める				
オフィスアワー (研究室)		火曜 2 時限（重複を避けて時間を確保するために、メール等でご予約ください。） 研究室：1 号館 5 階 505 研究室		メールアドレス (#→@)	wyoko#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	ガイダンス				
	該当到達目標	予習	教科書の前書き、シラバスの内容を読み講義の目標などを理解する。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容、到達目標、成績評価方法等を確認する。			1.5 時間
2	講義内容	前期のまとめ（こころとからだのしくみⅠ）				
	該当到達目標	予習	教科書：序章、1 章、2 章、3 章、4 章、6 章に目を通す (P2～P132、P172～P205)			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	こころにしくみ、からだのしくみ、移動、身じたく・清潔、について理解する			1.5 時間
3	講義内容	食事に関連したしくみ 1				
	該当到達目標	予習	教科書：5 章 5-1、に目を通す (P134～P140)			1.5 時間
	2,3	復習	からだに必要な栄養素、摂食と嚥下運動等について理解する。			1.5 時間
4	講義内容	食事に関連したしくみ 2 人体の構造と照らし、消化器のしくみ、機能低下等について理解する■				
	該当到達目標	予習	教科書：5 章 5-1、5-2 に目を通す (P134～P159)			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	2,3	復習	消化器のしくみ、食事の種類、機能低下について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	食事に関連したしくみ 3		
	該当到達目標	予習	教科書:5章 5-2、5-3 に目を通す(P134～P169)	1.5 時間
	2,3	復習	観察ポイント、緊急性を伴う異常、医療職との連携について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	排泄に関連したしくみ 1 人体の構造と照らし、排せつの意義を知る■		
	該当到達目標	予習	教科書:7章 7-1、に目を通す(P208～P219)	1.5 時間
	2,3	復習	正常な排泄行為、排尿のしくみ、排便のしくみについて理解する。	1.5 時間
7	講義内容	排泄に関連したしくみ 2		
	該当到達目標	予習	教科書:7章 7-1、7-2 に目を通す(P208～P230)	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	心身の機能障害(尿失禁や、便秘・下痢等)について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	排泄に関連したしくみ 3		
	該当到達目標	予習	教科書:7章 7-1、7-2、7-3 に目を通す(P208～P239)	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	排泄日誌の書き方、便秘・下痢・皮膚等の観察、使用用具の確認の仕方等について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	睡眠に関連したしくみ 1 人にとっての活動と休息の意義を知る■		
	該当到達目標	予習	教科書:8章 8-1、に目を通す(P242～P239)	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	睡眠の役割や睡眠のリズム、こころのしくみについて理解する。	1.5 時間
10	講義内容	睡眠に関連したしくみ 2		
	該当到達目標	予習	教科書:8章 8-1、8-2 に目を通す(P242～P258)	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	加齢、疾患、薬物等による睡眠障害について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	睡眠に関連したしくみ 3		
	該当到達目標	予習	教科書:8章 8-1、8-2、8-3 に目を通す(P242～P266)	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	睡眠日誌、不眠への対応について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	死にゆく人に関連したしくみ 1		
	該当到達目標	予習	教科書:9章 9-1、に目を通す(P268～P275)	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	「死」の捉え方について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	死にゆく人に関連したしくみ 2		
	該当到達目標	予習	教科書:9章 9-2、9-3 に目を通す(P276～P289)	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	「死」にたいするからだの変化と、こころの変化について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	死にゆく人に関連したしくみ 3 自己の考える死生観についてまとめる■		
	該当到達目標	予習	教科書:9章 9-3、9-4 に目を通す(P284～P296)	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	終末期ケアとグリーフケアを理解する。	1.5 時間
15	講義内容	これまでのまとめと、試験対策		
	該当到達目標	予習	これまでの授業内容を整理し、理解不足を確認しておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	まとめを通して試験勉強を行う	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	障がい者スポーツ論(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWA317
英文名	Sports for the persons with disabilities			講義形態	講義
担当教員	大塚 光彦				
科目に関連した実務経験	・実務者として①県立身体障害者リハビリテーションセンター(旧称)、②県立点字図書館、③県立ふれあいスポーツプラザ、④県立ゆうあいピック記念温水プールに勤務(経験) ・日本代表スタッフとして、長野冬季パラリンピック・カナダ国際身体障害者スキー大会に参加(経験) ・指導員(実習生担当・就労支援担当)として、地域活動支援センターに勤務(現在)				
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別	初級障がい者スポーツ指導員指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	障がい者スポーツは、障がいの特性を理解し、一般に親しんでいるスポーツのルールを、少し工夫するだけで障がい者(児)等対象者に合わせて、誰にでも楽しく安全に安心してできるもので、「適応する(adapted)」という意味でアダプテッド・スポーツとも呼ばれている。さらに近年では、東京パラリンピックを見据え、パラスポーツと呼ばれている。また三障がい(身体・知的・精神)のスポーツ・レクリエーションを幅広く知ることにより、基本的な障がいの種類や特徴を学ぶ。また障がい者スポーツの歴史や制度等、パラリンピック(夏・冬季)競技の DVD による学習と実技も組み入れ、各種競技を知ることにより、指導上の留意点と安全な指導法を習得する。一人でも多くの障がい者に、スポーツの場へ出るきっかけをつくる支援ができるようになることを目指します。 障がい者スポーツの特性に応じた基本的な技術と基礎的な手話を習得出来るように進行します。ゲストの都合により、授業の順番に変更が生じる場合があります。ゲストは元パラリンピックメダリストを予定しています。				
到達目標	1.障がいの特性に応じたスポーツの指導ができる。■ 2.対象者に合わせて、楽しく安心して安全に指導できる。■ 3.きっかけづくりを支援できる。■ 4.基本的な技術を習得する。■ 5 基礎的な手話を習得する。■				
評価方法	成績評価 1.毎授業態度及びミニレポート(リアクションペーパーに記載)による評価(40%) 2.ゲストスピーカー1 回のミニレポート(リアクションペーパーに記載)による評価(20%) 3.筆記試験 40% その他の評価 実習や忌引き等による欠席は届け出(場合により要添付書類)を提出すれば出席扱いとします。 なお、15 分以上の遅刻は欠席とみなします。				
使用教材	公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会 新版 障がい者スポーツ指導教本 初級・中級				
参考文献	・著 藤田紀昭「障害者(アダプテッド)スポーツの世界」 ・著者代表植木章三「アダプテッド・スポーツ概論」				

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

課題に対するフィードバック		ミニレポートにある質問や意見については、次回の授業の中で随時取り上げて、学生にフィードバックします。		
オフィスアワー (研究室)		質問などがある者は、授業前後の教室及び非常勤講師控室で対応します。	メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示します。
1	講義内容	障がい者スポーツの意義と理念について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P10～13 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと。	2 時間
	1,2,3	復習	講義内容、到達目標等を確認する。	2 時間
2	講義内容	組織と制度について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P13～17 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと。資料による手話(指文字)ア行の予習	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標等を確認する。資料による手話(指文字)ア行の復習	2 時間
3	講義内容	車いすの操作方法及び介助方法について(実技)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P78・P104 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと。資料による手話(指文字)カ行の予習	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標等を確認する。資料による手話(指文字)カ行の復習	2 時間
4	講義内容	パラリンピック競技(夏・冬季)について■		
	該当到達目標	予習	教科書前書き及び P15 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと。資料による手話(指文字)サ行の予習	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標等を確認する。資料による手話(指文字)サ行の復習	2 時間
5	講義内容	全国障害者スポーツ大会について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P64～71 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと。資料による手話(指文字)タ行の予習	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標等を確認する。資料による手話(指文字)タ行の復習	2 時間
6	講義内容	全国障害者スポーツ大会競技種目について(伴走・実技)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P79 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと。資料による手話(指文字)ナ行の予習	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標等を確認する。資料による手話(指文字)ナ行の復習	2 時間
7	講義内容	知的障がい者とスポーツ・レクリエーションについて■		
	該当到達目標	予習	教科書 P44～49 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと。資料による手話(指文字)ハ行の予習	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標等を確認する。資料による手話(指文字)ハ行の復習	2 時間
8	講義内容	精神障がい者とスポーツ・レクリエーションについて■		
	該当到達目標	予習	教科書 P50～53 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと。資料による手話(指文字)マ行の予習	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標等を確認する。資料による手話(指文字)マ行の復習	2 時間
9	講義内容	全国障害者スポーツ大会競技種目について(FD・実技)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P92～95 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと。資料による手話(指文字)ヤ行の予習	2 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標等を確認する。資料による手話(指文字)や行の復習	2 時間
10	講義内容	障がいの理解とスポーツについて■		
	該当到達目標	予習	教科書 P34～39 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと。資料による手話(指文字)ラ行の予習	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標等を確認する。資料による手話(指文字)ラ行の復習	2 時間
11	講義内容	安全管理について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P54～62 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと。資料による手話(指文字)ワ行の予習	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標等を確認する。資料による手話(指文字)ワ行の復習	2 時間
12	講義内容	重度障がい者のスポーツについて(ボッチャ・実技)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P228～233 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと。資料による手話(指文字)の予習	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標等を確認する。資料による手話(指文字)の復習	2 時間
13	講義内容	障がいに応じたスポーツの工夫について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P222～227 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと。資料による手話(指文字)の予習	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	教科書 P222～227 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと。資料による手話(指文字)の予習	2 時間
14	講義内容	ボランティア論について		
	該当到達目標	予習	教科書 P28～31 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと。資料による手話(指文字)の予習	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標等を確認する。資料による手話(指文字)の復習	2 時間
15	講義内容	障がい者との交流(実技)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P234～235 を読んで講義の目標等を理解する。 専門用語の意味を理解しておくこと。	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標等を確認する。	2 時間
合計時間(予習・復習)				60 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		チーム医療アプローチ演習(応用専門科目)			科目ナンバリング	HNA394
英文名		Interprofessional Practice			講義形態	演習
担当教員		小笠原映子(看護)、篠原智行(理学)、大林恭子(薬学)、木村憲洋(情報)、竹内真理(栄養)				
科目に関連した実務経験		小笠原(看護):看護師、訪問看護師として総合病院に勤務(経験) 篠原(理学):理学療法士として急性期、回復期病院に勤務(経験)。生活期病院に非常勤勤務。 大林(薬学):薬剤師として大学病院に勤務(経験) 木村(情報):病院経営企画及び診療情報管理にて病院に勤務(経験) 竹内(栄養):管理栄養士として国立病院機構に勤務(経験)。健大附属クリニック管理栄養士兼務。				
学年・開講期		4 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位		
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要(テーマ・内容)		チーム医療が必要な事例を用いて、福祉・医療系の各専門職の役割・活動および患者、家族に必要な福祉・医療活動について検討する。さらにチーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性、および専門職の連携の課題について学ぶ。 1 回目の講義は、テーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。 2～8 回目の講義は、グループワークの形式で進める。				
到達目標		1. 各専門職の役割と活動について説明できる。 2. チーム医療展開における情報伝達・共有の必要性について説明できる。 3. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性を説明できる。■ 4. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題を考察できる。■				
評価方法		演習参加への積極性 20%、レポート 50%、グループ発表の内容 30%の総合評価				
使用教材		関連する資料を随時配布する。				
参考文献						
課題に対するフィードバック		模擬症例検討を行う際には、グループごとに結果をまとめて発表させ、それに対して教員と他チームの学生による検討を行いフィードバックする。				
オフィスアワー(研究室)		小笠原(看護):月曜 3 限 5 号館 403 研究室 篠原(理学):水曜 3 限 3 号館 206 研究室 大林(薬学):月曜 1 限 7 号館 307 研究室 木村(情報):月曜 1 限 1 号館 610 研究室 竹内(栄養):木曜 2 限 1 号館 308 研究室	メールアドレス(#→@)		小笠原(看護) ogasawara#takasaki-u.ac.jp 篠原(理学) shinohara-t#takasaki-u.ac.jp 大林(薬学) obayashi#takasaki-u.ac.jp 木村(情報) norihiro#takasaki-u.ac.jp 竹内(栄養) mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	ガイダンス／チーム医療アプローチについて				
	該当到達目標	予習	チーム医療について調べておく。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	演習の目標や進め方、提出物を確認する。			1.5 時間
2	講義内容	チームカンファレンスの目的と方法■				
	該当到達目標	予習	各専門職の役割、チームカンファレンスの目的について調べておく。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	チームカンファレンスの目的、方法、留意点を整理する。			1.5 時間
3	講義内容	効果的な情報伝達と共有①■				
	該当到達目標	予習	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	情報伝達と共有方法の工夫を整理する。			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

4	講義内容	効果的な情報伝達と共有②		
	該当到達目標	予習	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	情報伝達と共有方法の工夫を整理する。	1.5 時間
5	講義内容	模擬症例検討①(模擬症例に対する自職種の役割、アプローチについて)		
	該当到達目標	予習	疾病と治療について学習し、自職種の関わり方をまとめる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを整理する。	1.5 時間
6	講義内容	模擬症例検討②(模擬症例に対する自職種の役割、アプローチについて)		
	該当到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを整理する。	1.5 時間
7	講義内容	模擬症例検討③(模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチについて) *グループワーク■		
	該当到達目標	予習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを他職種に説明する方法について準備しておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 時間
8	講義内容	模擬症例検討④(模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチについて) *グループワーク発表■		
	該当到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	【履修条件】原則、チーム医療アプローチ論を履修していること。 【キーワード】専門職、チーム医療、多職種連携 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	介護ロボット論(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWA319
英文名	Theory of Nursing Care Robot			講義形態	講義
担当教員	大口 達也、ターン・クリストファー、中村 賢治				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択・2 単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	平成 25 年、日本の成長戦略を示した「日本再興戦略」が閣議決定され、介護ロボットの開発や普及に向けた事業が全国で推進され、平成 29 年には、介護ロボットの導入支援・活用推進等を担う「プロジェクトコーディネーター」の必要性が提唱され、福祉現場での配置が進められている。 本講義では、社会福祉士や介護福祉士が専門性と援助技術を駆使して、「プロジェクトコーディネーター」として果たすべき役割を学び、介護ロボットに関する最新の制度や知識、活用方法等を修得し、実践現場での導入支援・活用推進等を行うことができる能力を身につけることを目指す。 基本は講義形式であるが、アクティブラーニングをとりいれ、企画・検討するためのグループワークや演習等を行うこともある。				
到達目標	6. 専門職が介護ロボットに関する制度や知識、活用方法等を学ぶ必要性を説明できる。 7. 介護ロボットの機能や特徴、導入方法等を分かりやすく説明できる。 8. 介護ロボットの活用意義を QOL 向上の観点から考察し、議論することができる。 9. 高齢者に限らず、児童や障害者等、幅広い領域での活用可能性を説明することができる。				
評価方法	【評価点】(100 点満点) (1) 授業課題への取組状況(50 点) ※毎回の取組課題、小レポート等 (2) 取組課題の内容(50 点) ※グループワークで取り組んだ課題の内容を評価する				
使用教材	講義に必要な資料は随時プリントして配布する。 ※国や県、業者、先進事例の先行研究から抜粋した資料を用意する。 事前学習の方法など、詳細は初回ガイダンスで説明する。				
参考文献	授業内で随時紹介する。				
課題に対するフィードバック	授業課題への取組結果は、次の授業で教員からフィードバックする。				
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 時限, 水曜日 2 時限		メールアドレス (#→@)	oguchi#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション ― 講義の到達目標、内容、進め方、成績評価等の説明			
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義の目標や内容等を確認する。		1.5 時間
		復習	介護ロボットについてインターネット等で調べる		1.5 時間
2	講義内容	人工知能(AI)の歴史と限界			
	該当到達目標 1,3,4	予習	第 2 回講義の事前知識を予習する		1.5 時間
		復習	人工知能(AI)に関わる書籍や映画等を調べて参照する		1.5 時間
3	講義内容	最も関心をもった介護ロボットを PR する			
	該当到達目標 1,2,3	予習	第 3 回講義の事前知識を予習する		1.5 時間
		復習	身近な人に介護ロボットについて説明する		1.5 時間
4	講義内容	介護ロボットに関するニュース記事をまとめる			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 4 回講義の事前知識を予習する。		1.5 時間
		復習	身近な人に介護ロボットに関するニュース記事を説明する		1.5 時間
5	講義内容	ソーシャルワーカーが行う QOL の向上と介護ロボット			

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 5 回講義の事前知識を予習する。	1.5 時間
		復習	福祉現場での介護ロボット活用についてインターネット等で調べる	1.5 時間
6	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	人間の QOL 向上に向けたソーシャルワーカーの実践、介護ロボットに関わる制度・施策	
		予習	第 6 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	介護ロボットに関わる制度や施策が実践現場で有効かを考える	1.5 時間
7	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	介護ロボットの種類と機能や特徴、現代日本社会における活用範囲、導入実績	
		予習	第 7 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	日常生活において、どのようなロボットが配置されているかを考える	1.5 時間
8	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	海外の介護ロボット事情	
		予習	第 8 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	授業の感想をシートにまとめる(小レポート)	1.5 時間
9	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	介護ロボットの将来展望・地域社会での活用展望	
		予習	第 9 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	授業の感想をシートにまとめる(小レポート)	1.5 時間
10	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	介護ロボットの活用実践事例 ― 特別養護老人ホームでの活用	
		予習	第 10 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	授業の感想をシートにまとめる(小レポート)	1.5 時間
11	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	介護ロボットの取扱演習 ― 介護ロボットを実際に動かしてみる①	
		予習	第 11 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	演習でうまくできなかったことの改善策を考える	1.5 時間
12	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	介護ロボットの取扱演習 ― 介護ロボットを実際に動かしてみる②	
		予習	第 12 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	演習でうまくできなかったことの改善策を考える	1.5 時間
13	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	介護ロボットの取扱演習 ― 介護ロボットを実際に動かしてみる③	
		予習	第 13 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	演習でうまくできなかったことの改善策を考える	1.5 時間
14	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	介護ロボットの開発と研究 ― コミュニケーションロボットの可能性	
		予習	第 14 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	授業の感想をシートにまとめる(小レポート)	1.5 時間
15	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	講義のまとめ	
		予習	第 15 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	授業の感想をシートにまとめる(小レポート)	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	第 1 回の授業で受講者数を確認して、14 回の授業形式を確定する。受講者人数により、シラバスの内容を変更する場合があるが、その際には変更したシラバスを再配布する。			

科目名	国際福祉事情(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWA320
英文名	International Welfare Situation			講義形態	講義
担当教員	原田 欣宏、大口 達也				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	福祉に関わる制度やサービスの提供方法は大きく異なる。各国の歴史や文化の違いを理解しながらも海外の福祉政策や課題を理解することは、我が国の福祉政策や実践の在り方を検討するための基盤となる。 このため、この講義では主としてヨーロッパ、とくに本学の海外研修先、および受入校の諸国に関する福祉の諸事情について、具体的に状況を紹介していく。 各講義ではテーマについて概要を説明する。授業は PowerPoint により要点を提示する。				
到達目標	1.ヨーロッパ(特にドイツ、フィンランド)の福祉に関する課題を理解することができる。 2.日本と諸外国の福祉政策と文化の違いについて比較検討することができる。 3.国際交流によって来日する学生に対して日本と外国の福祉課題を比較説明することができる。				
評価方法	1.授業課題への取組状況(30 点)※小レポート・授業内容への質問や感想等 2.中間課題(20 点)※文献調査レポート 3.最終プレゼンテーション(50 点)※日本との比較をプレゼンテーションする 総合評価で 60%以上を合格とする				
使用教材	「知ってほしい国ドイツ」新野、飯田、梅田 編著(高文献) この他、授業時に資料を配布する				
参考文献					
課題に対するフィードバック	課題、レポートは、提出期限後に授業内にて解説を行う。最終プレゼンテーションは、作成過程で指導を行いながら説明する。				
オフィスアワー (研究室)	火曜 3 限 1 号館 506 研究室		メールアドレス (#→@)	harada#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	ガイダンス、諸外国と日本との比較の意義			
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、到達目標、講義計画などを理解する		1.5 時間
	1	復習	授業で扱う各国の概要を確認する。		1.5 時間
2	講義内容	ヨーロッパの風土と歴史①			
	該当到達目標	予習	ドイツの概要(政治体制、面積、人口など基本的な情報)を確認する		1.5 時間
	1,2	復習	日本との違いをまとめる		1.5 時間
3	講義内容	ヨーロッパの風土と歴史②			
	該当到達目標	予習	ドイツ人の文化(好み、伝統的な行事、など)について調べる		1.5 時間
	1,2	復習	家族に対する考え方をまとめる		1.5 時間
4	講義内容	日本との比較検討①在宅介護			
	該当到達目標	予習	日本の在宅介護の課題について調べる		1.5 時間
	1,2	復習	ヨーロッパとの比較を整理する		1.5 時間
5	講義内容	日本との比較検討②人権			
	該当到達目標	予習	日本の成年後見制度の課題について調べる		1.5 時間
	1,2	復習	ヨーロッパとの比較を整理する		1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

6	講義内容	日本との比較検討③児童福祉		
	該当到達目標	予習	日本の児童福祉の課題について調べる	1.5 時間
	1,2	復習	ヨーロッパとの比較を整理する	1.5 時間
7	講義内容	日本との比較検討④家族		
	該当到達目標	予習	日本の家族観についての課題を調べる	1.5 時間
	1,2	復習	諸外国と日本の家族支援の考え方を整理する	1.5 時間
8	講義内容	ヨーロッパの福祉事情①		
	該当到達目標	予習	ドイツの介護保険制度の概要について調べる	1.5 時間
	1,2	復習	在宅サービスと施設サービスの違いをまとめる	1.5 時間
9	講義内容	ヨーロッパの福祉事情②		
	該当到達目標	予習	ドイツの児童福祉について調べる	1.5 時間
	1,2	復習	日本との比較を行うために資料を調べまとめる	1.5 時間
10	講義内容	ヨーロッパの福祉事情③		
	該当到達目標	予習	ドイツの世話人法について調べる	1.5 時間
	1,2	復習	日本の成年後見法との違いを理解する.	1.5 時間
11	講義内容	ヨーロッパの福祉事情④まとめ		
	該当到達目標	予習	移民についての現状を新聞記事などから調べる	1.5 時間
	1,2	復習	日本の移民難民政策との違いを整理する.	1.5 時間
12	講義内容	現代社会の課題比較①文化や習慣, イデオロギー		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションを行うため, パワーポイントで整理する	1.5 時間
	1,2,3	復習	意見交換した内容を整理する.	1.5 時間
13	講義内容	現代社会の課題比較②福祉的課題		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションを行うため, パワーポイントで整理する	1.5 時間
	1,2,3	復習	意見交換した内容を整理する.	1.5 時間
14	講義内容	現代社会の課題比較③人権問題		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションを行うため, パワーポイントで整理する	1.5 時間
	1,2,3	復習	意見交換した内容を整理する	1.5 時間
15	講義内容	現代社会の課題比較④まとめ		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションを行うため, パワーポイントで整理する	1.5 時間
	1,2,3	復習	意見交換した内容を整理する.	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	予習・復習の時間については, 試験前の学習で補完すること			

科目名		介護の基本Ⅰ（専門展開科目）			科目ナンバリング	SWK301
英文名		Foundations of CareⅠ			講義形態	講義
担当教員		渡邊 洋子				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位		
種別		「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力			応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		介護を必要とする人を「生活者」として受けとめ、個性を活かした介護実践や、自立に向けた介護や、尊厳の保持について理解する。また、要介護状態にある利用者は、日常生活場面において、どのような支援や介護実践を必要としているかについて理解する。さらに介護実践では、利用者と介護者の信頼関係に基づいた安全で安心できる介護実践について理解する。 授業終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出させる。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。またミニレポートやアンケート回答を課す。				
到達目標		1.生活の概念を理解した上で、現代社会における生活の特徴を説明できる。 2.様々な日常生活場面における支援や介護実践の方法を、根拠に基づき説明できる。 3.様々な日常生活場面において、安全で安心できる支援や介護実践を、説明できる。				
評価方法		授業参加度 20%・ミニレポート 20%・期末筆記試験 60%				
使用教材		西村洋子編『介護の基本』メヂカルフレンド社 講義の際に、レジュメ及び資料を作成し、毎回、配布する				
参考文献						
課題に対するフィードバック		ミニレポートは、翌週の講義の冒頭で紹介し、学習目標の到達度を確認する。また疑問質問に対応する。 期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。				
オフィスアワー (研究室)		火曜 2 時限 研究室:1 号館 5 階 505 (メール等でご予約ください。)		メールアドレス (#→@)	初回授業時に配布する詳細シラバスに記載	
1	講義内容	ガイダンス・他己紹介～自己理解と他者理解				
	該当到達目標 1	予習	シラバスを精読し、学習目標を理解する・開講日時を確認する			1 時間
		復習	講義内容、到達目標、評価方法等を確認する			1.5 時間
2	講義内容	介護と「生活」				
	該当到達目標 1	予習	『介護の基本』第 1 章・第 7 章を精読する			1 時間
		復習	「生活」の概念から、現代社会における「生活」の特徴を理解する			1.5 時間
3	講義内容	日常生活支援の基本①～環境				
	該当到達目標 1,2	予習	『介護の基本』第 5 章・第 6 章を精読する			1 時間
		復習	利用者を支援・介護する「環境」や介護福祉を取り巻く状況を理解する			1.5 時間
4	講義内容	日常生活支援の基本②～体勢と体位				
	該当到達目標	予習	『介護の基本』第 5 章・第 6 章を精読する			1 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	2,3	復習	人間の身体の構造及び支援・介護する上での基本的な体性や体位を理解する	1.5 時間
5	講義内容	日常生活支援の基本③～自然な動きとボディメカニクス		
	該当到達目標	予習	『介護の基本』第５章・第６章を精読する	1 時間
	2,3	復習	人間の自然な動きとボディメカニクスによる効率化した支援・介護を理解する	1.5 時間
6	講義内容	日常生活支援の基本④～移動と福祉用具の活用(車椅子)		
	該当到達目標	予習	『介護の基本』第５章・第６章を精読する	1 時間
	2,3	復習	移動の目的及び車椅子の活用を理解する	1.5 時間
7	講義内容	日常生活支援の基本⑤～移動と福祉用具の活用(様々な自助具)		
	該当到達目標	予習	『介護の基本』第５章・第６章を精読する	1 時間
	2,3	復習	様々な日常生活場面における自助具の活用を理解する	1.5 時間
8	講義内容	日常生活支援の基本⑥～衣類選択の重要性と着脱介護		
	該当到達目標	予習	『介護の基本』第５章・第６章を精読する	1 時間
	2,3	復習	衣類選択の重要性及び着脱方法を理解する	1.5 時間
9	講義内容	日常生活支援の基本⑦～食べる行為と食事介護		
	該当到達目標	予習	『介護の基本』第５章・第６章を精読する	1 時間
	2,3	復習	食事の目的及びメカニズム、支援・介護方法を理解する	1.5 時間
10	講義内容	日常生活支援の基本⑧～排尿のメカニズムと排泄介護		
	該当到達目標	予習	『介護の基本』第５章・第６章を精読する	1 時間
	2,3	復習	排尿のメカニズム及び解剖、生理を把握し、支援・介護方法を理解する	1.5 時間
11	講義内容	日常生活支援の基本⑨～排便のメカニズムと排泄介護		
	該当到達目標	予習	『介護の基本』第５章・第６章を精読する	1 時間
	2,3	復習	排便のメカニズム及び解剖、生理を把握し、支援・介護方法を理解する	1.5 時間
12	講義内容	日常生活支援の基本⑩～皮膚の構造と清潔保持の重要性		
	該当到達目標	予習	『介護の基本』第５章・第６章を精読する	1 時間
	2,3	復習	皮膚構造及び解剖、生理を把握し、清潔保持の役割を理解する	1.5 時間
13	講義内容	日常生活支援の基本⑪～清潔保持介護と方法		
	該当到達目標	予習	『介護の基本』第５章・第６章を精読する	1 時間
	2,3	復習	身体部位による清潔保持の相違や、介護方法を理解する	1.5 時間
14	講義内容	日常生活支援の基本⑫～清潔保持介護と福祉用具の活用		
	該当到達目標	予習	『介護の基本』第５章・第６章を精読する	1 時間
	2,3	復習	清潔保持介護における福祉用具の活用を理解する	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	教科書、レジュメ及び資料から、これまでの講義内容や不明瞭な箇所を確認する	1 時間
	1,2,3	復習	教科書、レジュメ及び資料から、これまでの講義内容を習得する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名		介護の基本Ⅱ（専門展開科目）		科目ナンバリング	SWK302
英文名		Foundations of CareⅡ		講義形態	講義
担当教員		渡邊 洋子			
科目に関連した実務経験					
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位	
種別		「介護福祉士」指定科目			
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力
		✓	基礎的知識力		応用・実践する能力
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 (テーマ・内容)		生活者としての利用者の個性を活かした介護実践や、自立に向けた介護、終末期の介護を理解する。その上で、利用者と介護者の信頼関係に基づき、安全で安心できる介護実践について理解する。また介護専門職としての職業倫理やリスクマネジメント、健康管理についても理解する。 授業終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出させる。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。またミニレポートやアンケート回答を課す。			
到達目標		1.介護の歴史や関係法規から、概念や役割、専門性を説明できる。 2.安全で安心できる介護実践や、生活環境を利用者の視点で説明できる。 3.介護実践における職業倫理やリスクマネジメント、健康管理を専門職員の視点で説明できる。 4.利用者の個性を活かした介護実践や、自立に向けた介護、終末期の介護を説明できる。			
評価方法		授業参加度 20%・ミニレポート 20%・期末筆記試験 60%			
使用教材		西村洋子編『介護の基本』メヂカルフレンド社 講義の際に、レジュメ及び資料を作成し、毎回、配布する			
参考文献					
課題に対するフィードバック		ミニレポートは、翌週の講義の冒頭で紹介し、学習目標の到達度を確認する。また疑問質問に対応する。 期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。			
オフィスアワー (研究室)		火曜 2 時限 研究室:1 号館 5 階 505 (メール等でご予約ください。)	メールアドレス (#→@)	初回授業時に配布する詳細シラバスに記載	
1	講義内容	介護とは～対象ケアから抽象的概念へ			
	該当到達目標	予習	シラバスを精読し、学習目標を理解する・開講日時を確認する		1 時間
		復習	講義内容、到達目標、評価方法等を確認する		1.5 時間
2	講義内容	介護を必要とする人の理解①高齢者の尊厳を支える介護と自立に向けた介護			
	該当到達目標 1,4	予習	『介護の基本』第 6 章・第 7 章を精読する		1 時間
		復習	年代別にみる高齢者の世界から、社会情勢や価値観形成を理解する		1.5 時間
3	講義内容	介護を必要とする人の理解②肢体不自由児者の尊厳を支える介護と自立に向けた介護			
	該当到達目標 1,2,4	予習	『介護の基本』第 9 章を精読する		1 時間
		復習	障害分類や統計的傾向、肢体不自由児者の生活像と介護方法を理解する		1.5 時間
4	講義内容	介護を必要とする人の理解③知的障害児者の尊厳を支える介護と自立に向けた介護			

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,4	予習	『介護の基本』第 9 章を精読する	1 時間
		復習	知的障害児者の生活像と介護方法を理解する	1.5 時間
5	講義内容	介護を必要とする人の理解④内部障害者の尊厳を支える介護と自立に向けた介護		
	該当到達目標 1,2,4	予習	『介護の基本』第 9 章を精読する	1 時間
		復習	内部障害者となる原因疾患及び生活像と介護方法を理解する	1.5 時間
6	講義内容	介護の普及と関係法規～介護サービスを考える		
	該当到達目標 1,4	予習	『介護の基本』第 2 章・第 3 章を精読する	1 時間
		復習	わが国における介護の変遷から、介護の普及と関係法規を理解する	1.5 時間
7	講義内容	介護の主要な概念		
	該当到達目標 1,4	予習	『介護の基本』第 3 章を精読する	1 時間
		復習	3 つの主要な概念から介護を理論的に理解する	1.5 時間
8	講義内容	介護サービスのしくみと介護従事者の倫理や専門性		
	該当到達目標 2,3,4	予習	『介護の基本』第 8 章・第 10 章を精読する	1 時間
		復習	介護サービス提供におけるしくみ及び専門性、倫理を理解する	1.5 時間
9	講義内容	介護における安全確保とリスクマネジメント・介護従事者の安全		
	該当到達目標 2,3,4	予習	『介護の基本』第 11 章・第 12 章・第 13 章を精読する	1 時間
		復習	介護における安全確保とリスクマネジメントを理解する	1.5 時間
10	講義内容	終末期の介護①～範疇と死にゆく人々の過程と支援		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	『介護の基本』第 12 章を精読する	1 時間
		復習	終末期にある利用者の身体的変化や心理的变化を理解する	1.5 時間
11	講義内容	終末期の介護②死生観形成を促すために		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	『介護の基本』第 12 章を精読する	1 時間
		復習	終末期にある利用者の支援・介護方法について考える	1.5 時間
12	講義内容	終末期の介護③死生観を育むために		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	『介護の基本』第 12 章を精読する	1 時間
		復習	終末期にある利用者の支援・介護方法について理解する	1.5 時間
13	講義内容	終末期の介護④死生観を共有するために		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	『介護の基本』第 12 章を精読する	1 時間
		復習	終末期にある利用者の支援・介護方法について理解を深める	1.5 時間
14	講義内容	終末期の介護⑤死生観を確立するために		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	『介護の基本』第 12 章を精読する	1 時間
		復習	終末期にある利用者の支援・介護方法について理解を深める	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書、レジュメ及び資料から、これまでの講義内容や不明瞭な箇所を確認する	1 時間
		復習	教科書、レジュメ及び資料から、これまでの講義内容を習得する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名	介護の基本Ⅲ（専門展開科目）				科目ナンバリング	SWK303
英文名	Foundations of CareⅢ				講義形態	講義
担当教員	内田 幸子					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位			
種別	「介護福祉士」指定科目					
学位授与方針との対応		豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力			応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	介護を要する人たちが、その人らしく生活していくことができるよう、潜在能力を引き出し、自立を目指すような生活支援の考え方を理解し、家政学の観点から家事支援(衣生活、住生活)を行うための知識を習得する。到達目標を達成できるよう、プリント・パワーポイントによる講義を進める。また、国家試験の過去問トレーニングを行い、解説し、理解度を確認する。					
到達目標	1.生活支援の考え方、生活支援に必要な基礎的な知識を習得する。 2.家事支援(衣生活)を行うための基礎的な知識を習得する。 3.家事支援(住生活)を行うための基礎的な知識を習得する。					
評価方法	定期試験 80%、授業貢献度 20%で評価する 総合評価 60%以上を合格とする					
使用教材	適宜プリントを配布する 教科書「新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」介護福祉士養成講座編集委員会(中央法規) ISBN978-4-8058-5766-3					
参考文献	参考図書「福祉のための家政学」中川英子著(建帛社)ISBN978-4-7679-3364-1					
課題に対するフィードバック	定期試験後に掲示で正解を示す					
オフィスアワー (研究室)	月曜日 3 限 水曜日 3 限			メールアドレス (#→@)	uchida#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	ガイダンス 家事援助のための知識				
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する			1.5 時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する			1.5 時間
2	講義内容	衣生活の基本知識				
	該当到達目標	予習	教科書該当ページに目を通す			1.5 時間
	1,2	復習	衣生活の意義(衣生活とは、装うことの意味)について理解する			1.5 時間
3	講義内容	被服素材の種類と特徴				
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す			1.5 時間
	1,2	復習	被服素材の種類と特徴について理解する			1.5 時間
4	講義内容	被服の洗濯				
	該当到達目標	予習	教科書該当ページに目を通す			1.5 時間
	1,2	復習	被服洗濯について理解する			1.5 時間
5	講義内容	高齢者に適した衣服の選択				
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す			1.5 時間
	1,2	復習	高齢者に適した衣服の選択について理解する			1.5 時間
6	講義内容	障害者に適した衣服の選択				
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す			1.5 時間
	1,2	復習	障害者に適した衣服の選択について理解する			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

7	講義内容	着やすく心地よい被服		
	該当到達目標	予習	教科書該当ページに目を通す	1.5 時間
	1,2	復習	着やすく心地よい被服について理解する	1.5 時間
8	講義内容	ユニバーサルデザインと衣服		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1.5 時間
	1,2	復習	ユニバーサルデザインと衣服について理解する	1.5 時間
9	講義内容	居住環境の整備の意義と目的		
	該当到達目標	予習	教科書該当ページに目を通す	1.5 時間
	1,3	復習	居住環境の整備の意義と目的について理解する	1.5 時間
10	講義内容	快適な居住環境		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1.5 時間
	1,3	復習	快適な居住環境について理解する	1.5 時間
11	講義内容	生活空間と介護		
	該当到達目標	予習	教科書該当ページに目を通す	1.5 時間
	1,3	復習	生活空間と介護について理解する	1.5 時間
12	講義内容	居住環境とアセスメント		
	該当到達目標	予習	教科書該当ページに目を通す	1.5 時間
	1,3	復習	居住環境とアセスメントについて理解する	1.5 時間
13	講義内容	住宅改修の留意点と制度		
	該当到達目標	予習	教科書該当ページに目を通す	1.5 時間
	1,3	復習	住宅改修の留意点と制度について理解する	1.5 時間
14	講義内容	安心して快適な生活の場づくり		
	該当到達目標	予習	教科書該当ページに目を通す	1.5 時間
	1,3	復習	安心して快適な生活の場づくりについて理解する	1.5 時間
15	講義内容	まとめ及び学習到達度の確認		
	該当到達目標	予習	教科書、プリント、ノートを読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	衣生活、住生活についての生活支援の知識を習得する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	各回のテーマを決め講義し、授業内容に関連する介護福祉士国家試験過去問を提示して解く			

科目名	介護の基本Ⅳ(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWK304
英文名	Foundations of CareⅣ			講義形態	講義
担当教員	河野 敦子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位		
種別	「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	高齢者のくらしの実際(食生活と家庭経営、生活感、生活様式等)の多様性等を理解する。また、自分自身の生活を理解するための科学的な基礎知識や、高齢者・障がい者の生活を理解するための科学的な基礎知識を習得することを目指す。授業は必要事項を板書する。必要に応じて資料を配布。また、グループワークを行う。				
到達目標	1.介護福祉士が食生活支援をする上で必要な知識について、その概要を説明できる。 2.家庭生活の営みについて説明できる。 3.食文化と食生活の変化について説明できる。 4.主な栄養素の種類と消化・吸収について説明できる。 5.食品の分類、食事バランスガイド、衛生、購入・保存について説明できる。 6.調理の基本(調理法、調理器具、食器)および食品の調理性について説明できる。 7.高齢者・障がい者の身体変化および食生活と栄養について説明できる。				
評価方法	定期試験 70%、小テスト 30%				
使用教材	新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ 介護福祉養成講座編集委員会 編集(中央法規)				
参考文献					
課題に対するフィードバック	試験までに小テストを 3 回行い、その解答および解説を実施し理解を深める。				
オフィスアワー (研究室)	授業の前後に質問は受け付けます。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス			
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。		1 時間
	1	復習	講義内容、到達目標、成績評価方法などを確認する。		1 時間
2	講義内容	家庭生活と家庭経営			
	該当到達目標	予習	教科書の第 3 章 第 1 節に目を通す。		1 時間
	2	復習	高齢者や障がいのある人の家庭生活の構成要素を理解する。		1 時間
3	講義内容	食生活の意義			
	該当到達目標	予習	教科書の第 3 章 第 2 節 p.217～218 に目を通す。		1 時間
	3	復習	食生活の意義、食文化や食生活の変化を確認し、介護者としての食の支援留意すべき点について理解する。		1 時間
4	講義内容	栄養素の消化と吸収			
	該当到達目標	予習	教科書の第 3 章 第 2 節 p.217～222 に目を通す。		1 時間
	4	復習	主な栄養素の種類と消化・吸収について理解する。		1 時間
5	講義内容	食品の分類			
	該当到達目標	予習	教科書の第 3 章 第 2 節 p.223～224 に目を通す。		1 時間
	5	復習	食品成分表、6 つの基礎食品、食事バランスガイドについて理解する。 小テスト①に向けて復習をする。		2 時間
6	講義内容	食品の衛生、小テスト①			

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 5	予習	教科書の第3章 第2節 p.228～229 に目を通す。	1 時間
		復習	食品の変質と食中毒について理解する。	1 時間
7	講義内容	食品の購入と保存、小テスト①解説		
	該当到達目標 5	予習	教科書の第3章 第2節 p.224～228 に目を通す。	1 時間
		復習	食品の購入選択、食品の表示、保存について理解する。	1 時間
8	講義内容	調理の基本		
	該当到達目標 6	予習	教科書の第3章 第2節 p.228～232 に目を通す。	1 時間
		復習	調理の準備、調理操作、調理器具・設備について理解する。	1 時間
9	講義内容	食品の調理性		
	該当到達目標 6	予習	教科書の第3章 第2節 p.232～236 に目を通す。	1 時間
		復習	食品ごとの調理における特性を理解する。 小テスト②に向けて復習をする。	2 時間
10	講義内容	高齢者の身体機能と栄養、小テスト②		
	該当到達目標 7	予習	教科書の第3章 第2節 p.236～238 に目を通す。	1 時間
		復習	加齢に伴う身体機能の変化と栄養について理解する。	1 時間
11	講義内容	高齢者の食事と調理、小テスト②解説		
	該当到達目標 7	予習	教科書の第3章 第2節 p.236～242 に目を通す。	1 時間
		復習	食品、調理形態による高齢者への配慮について理解する。	1 時間
12	講義内容	高齢者・障がい者の介護と食生活		
	該当到達目標 7	予習	教科書の第3章 第2節 p.242～244 に目を通す。	1 時間
		復習	高齢者や障がいのある人への食事における調理形態の配慮、食器の配慮について理解する。	1 時間
13	講義内容	高齢者の疾病と食事		
	該当到達目標 7	予習	教科書の第3章 第2節 p.244～245 に目を通す。	1 時間
		復習	高齢期になりやすい疾病と、その予防や対応について理解する。 小テスト③に向けて復習をする。	2 時間
14	講義内容	食生活と健康、小テスト③		
	該当到達目標 7	予習	健康の概念と国民健康づくり対策について調べておく。	1 時間
		復習	健康づくりの3要素と、生活習慣病予防のための食生活のポイントについて理解する。	1 時間
15	講義内容	生活を支えるサービス(仕組み)の現状と課題、小テスト③解説		
	該当到達目標 7	予習	教科書の第3章 第2節 p.245～246 に目を通す。	1 時間
		復習	食生活に関する施策や高齢者・障がい者を支援する社会的ネットワークについて理解する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				33 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位習得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名		介護の基本Ⅴ(専門展開科目)		科目ナンバリング	SWK305
英文名		Foundations of Care Ⅴ		講義形態	講義
担当教員		大口 達也			
科目に関連した実務経験					
学年・開講期		2 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位	
種別		「介護福祉士」指定科目			
学位授与方針との対応		豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力
		基礎的知識力		✓	応用・実践する能力
		問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 (テーマ・内容)		平成 25 年、日本の成長戦略を示した「日本再興戦略」が閣議決定され、介護ロボットの開発や普及に向けた事業が全国で推進され、平成 29 年には、介護ロボットの導入支援・活用推進等を担う「プロジェクトコーディネーター」の必要性が提唱され、福祉現場での配置が進められている。 本講義では、介護福祉士が専門性と援助技術を駆使して、「プロジェクトコーディネーター」として果たすべき役割を学び、介護ロボットに関する最新の制度や知識、活用方法等を修得し、今までの介護実習等の経験を活かし、実践現場での導入支援・活用推進等を行うことができる能力を身につけることを目指す。基本は講義形式であるが、アクティブラーニングをとりいれ、企画・検討するためのグループワークや演習等を行うこともある。			
到達目標		10. 介護福祉士が介護ロボットに関する制度や知識、活用方法等を学ぶ必要性を説明できる。 11. 介護ロボットの機能や特徴、導入方法等を分かりやすく説明できる。 12. ロボットを活用して、介護の知識やスキルの向上に取り組むことができる。 13. 高齢者に限らず、児童や障害者等、幅広い領域での活用可能性を説明することができる。			
評価方法		【評価点】(100 点満点) (1)授業課題への取組状況(50 点) ※毎回の取組課題、ゲストスピーカーへの感想等 (2)取組課題の内容(20 点) ※グループワークで取り組んだ課題の内容を評価する (3)最終課題(30 点) ※ロボットを活用して介護の知識やスキルの向上に取り組む			
使用教材		講義に必要な資料は随時プリントして配布する。 ※国や県、業者、先進事例の先行研究から抜粋した資料を用意する。 事前学習の方法など、詳細は初回ガイダンスで説明する。			
参考文献		授業内で随時紹介する。			
課題に対するフィードバック		授業課題への取組結果は、次の授業で教員からフィードバックする。			
オフィスアワー (研究室)		火曜日 3 時限, 水曜日 2 時限	メールアドレス (#→@)	oguchi#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション ― 講義の到達目標、内容、進め方、成績評価等の説明			
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義の目標や内容等を確認する。		1.5 時間
		復習	介護ロボットについてインターネット等で調べる		1.5 時間
2	講義内容	人工知能(AI)の歴史と限界			
	該当到達目標 1,3,4	予習	第 2 回講義の事前知識を予習する		1.5 時間
		復習	人工知能(AI)に関わる書籍や映画等を調べて参照する		1.5 時間
3	講義内容	最も関心をもった介護ロボットを PR する			
	該当到達目標 1,2,3	予習	第 3 回講義の事前知識を予習する		1.5 時間
		復習	身近な人に介護ロボットについて説明する		1.5 時間
4	講義内容	介護ロボットに関するニュース記事をまとめる			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 4 回講義の事前知識を予習する。		1.5 時間
		復習	身近な人に介護ロボットに関するニュース記事を説明する		1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

5	講義内容	介護ロボットの種類と機能や特徴、現代日本社会における活用範囲、導入実績		
	該当到達目標	予習	第５回講義の事前知識を予習する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	日常生活において、どのようなロボットが配置されているかを考える	1.5 時間
6	講義内容	介護ロボットの開発と研究 ― コミュニケーションロボットの可能性		
	該当到達目標	予習	第６回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業の感想をシートにまとめる	1.5 時間
7	講義内容	介護ロボットの取扱演習 ― 介護ロボットを実際に動かしてみる①		
	該当到達目標	予習	第７回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	演習でうまくできなかったことの改善策を考える	1.5 時間
8	講義内容	介護ロボットの取扱演習 ― 介護ロボットを実際に動かしてみる②		
	該当到達目標	予習	第８回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	演習でうまくできなかったことの改善策を考える	1.5 時間
9	講義内容	最終課題の説明と各自での方向性検討		
	該当到達目標	予習	第９回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	最終課題の方向性を確定する。	1.5 時間
10	講義内容	最終課題の企画会議(1) ― 計画の策定		
	該当到達目標	予習	第１０回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	計画を完成させる	1.5 時間
11	講義内容	最終課題の企画会議(2) ― 構成の検討		
	該当到達目標	予習	第１１回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	構成を確定させる	1.5 時間
12	講義内容	最終課題の企画会議(3) ― 具体的な内容の検討		
	該当到達目標	予習	第１２回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	内容に基づき必要な道具等をそろえる	1.5 時間
13	講義内容	最終課題の準備・練習		
	該当到達目標	予習	第１３回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	準備・練習の反省点を踏まえて改善を検討する	1.5 時間
14	講義内容	最終課題の発表		
	該当到達目標	予習	最終課題の発表練習	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	発表の反省を行う	1.5 時間
15	講義内容	最終課題と講義の振り返り・フィードバック		
	該当到達目標	予習	最終課題の反省を授業で説明できるようにする	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義の総括	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	介護の基本VI(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWK306
英文名	Foundations of CareVI			講義形態	講義
担当教員	堀口 美奈子、渡邊 洋子、原田 欣宏				
科目に関連した実務経験	堀口:介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務(経験) 渡邊:厚生労働省看護師国家資格を取得し、特定機能病院に勤務(経験) 原田:介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務(経験)				
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位		
種別	「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	介護福祉領域における生活ニーズが変化・多様化するなかで、高い倫理観を持ちながら、より実践的に取り組むことのできる専門職が求められている。そのため本科目では、介護福祉実践の場面へ積極的にに関わり、尊厳を支えるケアを具現化するために必要となる知識や技術について、総合的に理解する。 授業は、教員が準備した資料等を使用し、講義等を行う。				
到達目標	1.社会の複雑に変化・多様化する生活ニーズに求められる、介護福祉の専門性について理解できる。■ 2.介護福祉士国家資格に基づく専門性を高め、専門職としてのキャリア形成力を身につけられる。■ 3.介護福祉職のリーダー的存在として必要な理論や知識を統合し、現場実践力を養うことができる。■				
評価方法	定期試験 80%、課題提出 20%で評価する。総合評価 60%以上で合格とする。				
使用教材	適宜参考資料等を配布する。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	提出された課題については、担当教員が内容を確認し、フィードバックを行う。返却された課題は、必ず復習を行うこと。				
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。	メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。		
講義内容	主体的な学びに関する認知過程や学習プロセスの手法をもとに、現代社会における介護福祉専門職に求められる能力について多方面から考察を行う。また、学習過程の PDCA サイクルを回して学生自ら省察を行い、自己の課題や将来の展望を明確化できるよう支援を行う。■				
	予習	学習時に頻出する重要語句を調べ、考察するための視点を養う。			22.5 時間
	復習	学習過程の省察を行い、自らの課題を明らかにする。			22.5 時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	予習・復習の時間については、試験前の学習で補填すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	生活支援技術Ⅰ（専門展開科目）			科目ナンバリング	SWK307
英文名	Practice Living support Technique in CareⅠ			講義形態	演習
担当教員	堀口 美奈子				
科目に関連した実務経験	介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務（経験）				
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位		
種別	「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	介護は、どのような状態の人であっても、その人の自立や自律を尊重しつつ潜在能力を引き出し、その人らしく生活できるよう支援する活動である。そこで本科目では、介護を必要とする人の状況に合わせた介護技術について学び、根拠に基づいた介護を提供できる能力を、演習を通して身に付ける。 授業では、授業回に関する講義の他、事例などを踏まえた演習を行う。演習では個人ワークの他、グループワークを行い、相互作用による学習の定着を図る。				
到達目標	1.利用者のニーズに応じた基礎的な介護技術を実践できる。■ 2.実践する介護技術について、その根拠を自分の言葉で説明できる。■ 3.利用者と介護者にとって、安全安楽に配慮した介護を実践できる。■ 4.利用者との信頼関係構築やチームケアに必要な対人関係能力が獲得できる。				
評価方法	授業参加度 20%、ミニレポート 40%、定期試験 40%				
使用教材	生活支援技術Ⅰ・介護福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版・2019 年・2,200 円税別 生活支援技術Ⅱ・介護福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版・2019 年・2,200 円税別 教科書は、授業時演習テーマに沿った部分の学習に使用。その他、適宜レジュメを配布する。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	提出を求めるレポートは、適宜コメント等をつけて返却する。質問やフィードバック等は、随時、直接またはメール等にて受け付ける。				
オフィスアワー （研究室）	月曜・水曜 3 限		メールアドレス （#→@）	初回授業時にアナウンスする。	
1	講義内容	オリエンテーション、生活支援の考え方、自立に向けた居住環境の整備①			
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する		1.5 時間
	1,2,3	復習	今後の授業内容を確認し、授業で取ったノートを読み返す		1.5 時間
2	講義内容	自立に向けた睡眠の介護および居住環境の整備②■			
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入		1.5 時間
3	講義内容	自立に向けた移乗・移動の介護①（人に触れるということ・体位変換）■			
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入		1.5 時間
4	講義内容	自立に向けた移乗・移動の介護②（体位変換）および居住環境の整備③■			
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入		1.5 時間
5	講義内容	自立に向けた移乗・移乗の介護③（起き上がり、立ち上がり、移乗）■			

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1.5	時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
6	講義内容	自立に向けた移乗・移乗の介護④(起き上がり、立ち上がり、移乗)■			
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1.5	時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
	講義内容	自立に向けた移乗・移動の介護⑤(移乗)■			
7	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1.5	時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
	講義内容	自立に向けた移乗・移動の介護⑥(移動)■			
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1.5	時間
8	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
	講義内容	自立に向けた身じたくの介護①(衣服着脱)■			
9	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1.5	時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
	講義内容	自立に向けた排泄の介護■			
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通	1.5	時間
10	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
	講義内容	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①(部分浴)および身じたくの介護②(整容)■			
11	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1.5	時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
	講義内容	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②(入浴)■			
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1.5	時間
12	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
	講義内容	自立に向けた居住環境の整備③			
13	該当到達目標	予習	事前に配布するレジュメをよく読み、授業内容を把握する	1.5	時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
	講義内容	介護技術総合演習①■			
	該当到達目標	予習	事前に配布するレジュメをよく読み、授業内容を把握する	1.5	時間
14	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
	講義内容	介護技術総合演習②・まとめ■			
15	該当到達目標	予習	前期に行った介護技術項目に関する教科書、配付物を読み返す	1.5	時間
	1,2,3,4	復習	検討内容について、各自で感じたことなどを指定様式に記入する	1.5	時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	授業準備や後片付け、使用教室の掃除は、生活を支える介護を学ぶ授業の一環として、共同で実施する。事前準備の際は、演習時間を確保するため、毎日に担当を決めて行う。 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	生活支援技術Ⅱ(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWK308
英文名	Practice Living support Technique in CareⅡ			講義形態	演習
担当教員	堀口 美奈子				
科目に関連した実務経験	介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務(経験)				
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位		
種別	「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	介護は、どのような状態の人であっても、その人の自立や自律を尊重しつつ潜在能力を引き出し、その人らしく生活できるよう支援する活動である。そこで本科目では、介護を必要とする人の状況に合わせた介護技術について学び、根拠に基づいた介護を提供できる能力を、演習を通して身に付ける。 授業では、授業回に関する講義の他、事例などを踏まえた演習を行う。演習では個人ワークの他、グループワークを行い、相互作用による学習の定着を図る。				
到達目標	1.多様な生活場面に応じた介護技術を、基礎をふまえて適切に実践できる。■ 2.実践する介護技術について、その根拠を自分の言葉で説明できる。■ 3.利用者と介護者にとって、安全安楽に配慮した介護を実践できる。■ 4.利用者との信頼関係構築やチームケアに必要な対人関係能力を獲得する。				
評価方法	授業参加度 20%、ミニレポート 40%、定期試験 40%				
使用教材	生活支援技術Ⅱ・介護福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版・2019 年・2,200 円税別教科書は、授業時演習テーマに沿った部分の学習に使用。その他、適宜レジュメを配布する。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	提出を求めるレポートは、適宜コメント等をつけて返却する。質問やフィードバック等は、随時、直接またはメール等にて受け付ける。				
オフィスアワー (研究室)	月曜・水曜 3 限		メールアドレス (#→@)	初回授業時にアナウンスする。	
1	講義内容	オリエンテーション、前期試験レビュー・発展的検討			
	該当到達目標	予習	シラバス内容、前期試験内容の確認		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入		1.5 時間
2	講義内容	自立に向けた食事の介護■			
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入		1.5 時間
3	講義内容	自立に向けた身じたくの介護(口腔ケア、感染症予防)■			
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入		1.5 時間
4	講義内容	自立に向けた身じたく介護の実践的展開■			
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入		1.5 時間
5	講義内容	自立に向けた移動介護の実践的展開■			

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書内容、前期学習内容に目を通す	1.5	時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
6	講義内容	自立に向けた食事介護の実践的展開■			
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書内容、前期学習内容に目を通す	1.5	時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
	講義内容	自立に向けた入浴・清潔保持の介護の実践的展開■			
7	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書内容、前期学習内容に目を通す	1.5	時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
	講義内容	自立に向けた排泄介護の実践的展開■			
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書内容、前期学習内容に目を通す	1.5	時間
8	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
	講義内容	自立に向けた睡眠の介護の実践的展開■			
9	該当到達目標	予習	事前に配布するレジュメをよく読み、授業内容を把握する	1.5	時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
	講義内容	終末期の介護①(段階に応じたケアの方法)■			
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1.5	時間
10	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
	講義内容	終末期の介護②(ケアの方法と考え方)■			
11	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1.5	時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
	講義内容	基礎介護技術総合演習			
	該当到達目標	予習	事前に配布するレジュメをよく読み、授業内容を把握する	1.5	時間
12	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	1.5	時間
	講義内容	自立に向けた住環境整備と介護技術総合演習①(事例その1)■			
13	該当到達目標	予習	事前に配布するレジュメをよく読み、授業内容を把握する	1.5	時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ内容の確認、関連事項の情報サーチ	1.5	時間
	講義内容	自立に向けた住環境整備と介護技術総合演習②(事例その2)■			
	該当到達目標	予習	事前に配布するレジュメをよく読み、授業内容を把握する	1.5	時間
14	1,2,3,4	復習	レジュメ内容の確認、関連事項の情報サーチ	1.5	時間
	講義内容	まとめ■			
15	該当到達目標	予習	後期に行った介護技術項目に関する教科書、配付物を読み返す	1.5	時間
	1,2,3,4	復習	検討内容について、各自で感じたことなどを指定様式に記入する	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				45	時間
備考	授業準備や後片付け、使用教室の掃除は、生活を支える介護を学ぶ授業の一環として、共同で実施する。事前準備の際は、演習時間を確保するため、日毎に担当を決めて行う。 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	生活支援技術Ⅲ(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWK309
英文名	Practice Living support Technique in CareⅢ			講義形態	演習
担当教員	内田 幸子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位		
種別	「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	介護を要する人たちがその人らしく生活していくことができるよう、潜在能力を引き出し、自立を目指すような生活支援の考え方を理解し、家政学の観点から家事支援(衣生活、住生活)を行うための知識と技術を、実習・演習を通して身につける。授業ではグループワークによる演習のほか、現場における実践力を身につけられるよう衣生活実習、住生活実習を行う。演習・実習内容に沿ったレポートを課す。				
到達目標	1.対人サービスを行うための生活支援の考え方と基礎的な知識と技術を習得する。 2.家事支援(衣生活)を行うための基礎的な技術を習得する。 3.家事支援(住生活)を行うための基礎的な技術を習得する。				
評価方法	授業実践 30%、製作品 20%、レポート 50%により評価する 総合評価 60%以上を合格とする				
使用教材	適宜プリントを配布する 教科書「新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」介護福祉士養成講座編集委員会(中央法規) ISBN978-4-8058-5766-3				
参考文献	参考図書「福祉のための家政学実習」中川英子著(建帛社)ISBN978-4-7679-3605-5				
課題に対するフィードバック	製作品、レポートは評価して返却する				
オフィスアワー (研究室)	月曜日 3 限 水曜日 3 限		メールアドレス (#→@)	uhida#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	ガイダンス 家事支援の意義と目的 自立に向けた家事の介護			
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する		1 時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する		1.5 時間
2	講義内容	繊維の種類と特徴			
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す		1 時間
	1,2	復習	繊維の種類と特徴を理解する		1.5 時間
3	講義内容	衣服の手入れと管理①(洗濯実習)			
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す		1 時間
	1,2	復習	衣服の基本的な洗濯方法を身につけ、レポートを作成する		1.5 時間
4	講義内容	衣服の手入れと管理②(しみぬき、アイロンがけ)			
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す		1 時間
	1,2	復習	衣服のしみぬき、アイロンがけの技術を身につけ、レポートを作成する		1.5 時間
5	講義内容	縫製の基礎①手縫いの方法、ボタンつけ、スナップつけ			
	該当到達目標	予習	教科書該当ページを読む		1 時間
	1,2	復習	手縫いの方法、ボタンつけ、スナップつけの技術を身につける		1.5 時間
6	講義内容	縫製の基礎②ミシン縫い、三つ折り縫い、マジックテープつけ、ゴムとおし			
	該当到達目標	予習	教科書該当ページを読む		1 時間
	1,2	復習	ミシン縫い、三つ折り縫い、マジックテープつけ、ゴムとおしの技術を身につける		1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

7	講義内容	高齢者のための衣服(寝具、寝巻き、紙おむつ)		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,2	復習	高齢者のための衣服について理解し、レポートを作成する	1.5 時間
8	講義内容	障害者のための衣服(衣服の工夫事例)		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,2	復習	障害者のための衣服について理解し、レポートを作成する	1.5 時間
9	講義内容	快適な室内環境(温熱環境、照明、騒音、換気)		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,3	復習	快適な室内環境(温熱環境、照明、騒音、換気)について理解する	1.5 時間
10	講義内容	住まいの維持と管理(室内の整理整頓・掃除・衛生管理)		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,3	復習	住まいの維持と管理について理解し、レポートを作成する	1.5 時間
11	講義内容	高齢者の住環境整備の手順とコーディネート(グループワークによる事例検討)		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,3	復習	高齢者の住環境整備の手順の進め方を理解する	1.5 時間
12	講義内容	住宅改修(グループワークによる事例検討)		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,3	復習	住宅改修の事例検討を通して症例別住環境整備を理解し、レポートを作成する	1.5 時間
13	講義内容	防犯と防災(一人暮らしの危険、地震と火災時の対処)		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,3	復習	防犯と防災(一人暮らしの危険、地震と火災時の対処)について理解する	1.5 時間
14	講義内容	福祉住環境マップの作成(グループワークによるマップ作成)		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,3	復習	福祉住環境マップの作成を通してバリアフリーの街づくりを考える	1.5 時間
15	講義内容	家事支援における介護技術		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,2,3	復習	家事支援における介護技術を身につける	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				22.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名		生活支援技術Ⅳ(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWK310
英文名		Practice Living support Technique in CareⅣ			講義形態	講義
担当教員		河野 敦子				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		2 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位		
種別		「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		介護福祉士として高齢者の自立に向けた食の支援をする上で必要な調理の基礎について、実習を通して修得することを目 標とする。また、高齢者・障がい者のための献立作成を行い、その内容を実習することで実践力を養うことを目標としている。始めに調理ポイントのデモンストレーションを行った上で、授業を展開する。				
到達目標		1.衛生に留意し、安全に調理ができる。 2.日常の基本的な調理ができる。 3.日常の基本的な献立をたてることができる。				
評価方法		筆記試験 30%、実技試験 20%、レポート 30%、実習への積極性 20%				
使用教材		初回の授業でレジュメを配布する。				
参考文献						
課題に対するフィードバック		レポートには毎回コメントをつけて返却する。				
オフィスアワー (研究室)		授業の前後で質問を受け付けます。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	オリエンテーション(授業の進め方、実習室の使い方、計量、包丁の扱い方、レポートの書き方) 自立に向けた食事の介護				
	該当到達目標	予 習	シラバスの内容を読んで授業目標などを理解しておく。			1 時間
	1	復 習	授業内容のレポートを作成し、提出する。			1 時間
2	講義内容	基本の調理(和風 1):ご飯、豚肉の生姜焼き、ポテトサラダ、みそ汁				
	該当到達目標	予 習	ご飯の炊き方とだし汁の取り方について調べておく。			1 時間
	1,2	復 習	実施内容のレポートを作成し、提出する。			1 時間
3	講義内容	基本の調理(和風 2):ひじきご飯、ほうれん草のごま和え、沢煮椀、さつま芋とりんごの茶巾				
	該当到達目標	予 習	味つけご飯の作り方、野菜の茹で方、和え衣について調べておく。			1 時間
	1,2	復 習	実施内容のレポートを作成し、提出する。			1 時間
4	講義内容	基本の調理(和風 3):さつま芋ご飯、筑前煮、酢の物、すまし汁				
	該当到達目標	予 習	煮物の作り方、合わせ酢について調べておく。			1 時間
	1,2	復 習	実施内容のレポートを作成し、提出する。			1 時間
5	講義内容	基本の調理(洋風 1):サフランライスとインディアンカレー、フルーツサラダ				
	該当到達目標	予 習	ソース(ルー)の調理について調べておく。			1 時間
	1,2	復 習	実施内容のレポートを作成し、提出する。			1 時間
6	講義内容	基本の調理(中華 1):中華ちまき、トマトの卵炒め、ワンタンスープ、杏仁豆腐				
	該当到達目標	予 習	もち米の扱い方について確認しておく。蒸し料理について調べておく。			1 時間
	1,2	復 習	実施内容のレポートを作成し、提出する。			1 時間
7	講義内容	基本の調理(和風 4):ちらし寿司、青菜のお浸し、豚汁				
	該当到達目標	予 習	すし飯の作り方について調べておく。			1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1 時間
8	講義内容	基本の調理(麺):おっきりこみ(手打ち麺)、茶わん蒸し、白玉団子		
	該当到達目標	予習	小麦粉の種類と用途について確認しておく。	1 時間
	1,2	復習	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1 時間
9	講義内容	軟菜食:全がゆ、かぶら蒸し、白和え、かきたま汁、いきなり団子		
	該当到達目標	予習	かゆの炊き方と種類について、軟菜食について調べておく。	1 時間
	1,2	復習	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1 時間
10	講義内容	介護食(アラカルト):フレンチトースト、小田巻蒸し、バイクドポテト、ブラマンジェ		
	該当到達目標	予習	咀嚼、嚥下機能の低下に伴う食事作りについて調べておく。	1 時間
	1,2	復習	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1 時間
11	講義内容	行事食 1(おせち料理):松風焼き、栗きんとん、紅白なます、雑煮		
	該当到達目標	予習	おせち料理の意味について調べておく。	1 時間
	1,2	復習	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1 時間
12	講義内容	行事食 2(クリスマス料理):グラタン、カナッペ、チョコマフィン		
	該当到達目標	予習	クリスマス料理の意味について調べておく。	1 時間
	1,2	復習	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1 時間
13	講義内容	自主献立:高齢者のための献立作成		
	該当到達目標	予習	高齢者の嗜好に合う献立について調べておく。	1 時間
	1,3	復習	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1 時間
14	講義内容	自主献立の実習、実技テスト		
	該当到達目標	予習	自主献立の手順を確認しておく。 実技テストに向けて、包丁の練習をしておく。	1 時間
	1,2,3	復習	献立 1 食分を完成させ提出する。	1 時間
15	講義内容	まとめ、筆記試験		
	該当到達目標	予習	自主献立についてまとめておく。	1 時間
	1,2,3	復習	全レポートを作成し、提出する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位習得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名	生活支援技術Ⅴ（専門展開科目）			科目ナンバリング	SWK311
英文名	Practice Living support Technique in CareⅤ			講義形態	演習
担当教員	松沼 記代				
科目に関連した実務経験	社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、デイサービスセンターで3年6か月経験 社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、グループホームで1年間経験 社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、大学在職中に介護予防教室の運営8年間経験				
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2単位		
種別	「介護福祉士」、「福祉レクリエーションワーカー」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	介護の実践場面で尊厳を支えるケアを具現化するために、利用者の生活の楽しみや生きがいを支えるレクリエーション・サービスの方法についてする。対象者別の支援方法について理解する。 授業は、教員が作成した資料を使用し、学生が介護現場で利用者の自立・生きがい支援を行う上で必要な理論や方法、技術を獲得できるように、講義や演習(ロールプレイ、グループワーク)を中心に行う。				
到達目標	1.社会福祉及び介護実践におけるレクリエーションの意義と概要及び支援の方法を理解する。 2.福祉レクリエーション支援の方法と技術を理解できる。■ 3.福祉レクリエーションワーカーの役割を理解できる。■ 4.福祉レクリエーション支援の方法と技術を習得できる。■ 5.福祉レクリエーションの課題について理解fできる。■				
評価方法	定期試験 40%、レポート課題 30%、授業参加度 30%で評価する。総合評価 60%以上を合格点とする。				
使用教材	配布資料				
参考文献	『楽しさの追求を支える理論と支援の方法』～理論に根ざした福祉レクリエーション支援の方法～（2014年度第2刷版）				
課題に対するフィードバック	レポート課題にはコメントを付けて返却する。定期試験は配布資料の内容から出題し、持込み可とする。				
オフィスアワー (研究室)	授業の前後の時間。 質問や意見は、メールからでも随時受け付ける。		メールアドレス (#→@)	k-matsunuma#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	介護サービスにおける尊厳を支えるケアと福祉レクリエーションのあり方①■ 休息・睡眠の介護			
	該当到達目標	予習	介護サービスにおけるレクリエーションの実情を確認する。		1 時間
	1	復習	尊厳支えるケアとレクリエーションの位置づけを整理する。		1 時間
2	講義内容	介護サービスにおける尊厳を支えるケアと福祉レクリエーションのあり方②■			
	該当到達目標	予習	介護サービスにおけるレクリエーションの実情を調べる		1 時間
	1	復習	尊厳支えるケアとレクリエーションの位置づけを整理する		1 時間
3	講義内容	福祉レクリエーション支援の理解① 楽しさの追求■			
	該当到達目標	予習	日常の中の楽しい活動について調べる。		1 時間
	2	復習	配布資料の内容を確認し、生活の中に活かす。		1 時間
4	講義内容	福祉レクリエーション支援の理解② 楽しさを見通すための方法■			

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	日常の中の楽しい活動について調べる。	1 時間
	2	復習	配布資料の内容を確認し、生活の中に活かす。	1 時間
5	講義内容	福祉レクリエーション支援の理解③ 歩み		
	該当到達目標	予習	レクリエーションが生活の中でどのように活かされているか調べる	1 時間
	1,5	復習	レクリエーションの歴史から今後の課題を考える。	1 時間
6	講義内容	楽しさ追求のための支援の方法① APIE プロセス		
	該当到達目標	予習	レクリエーションが生活の中でどのように活かされているか調べる	1 時間
	1,2	復習	レクリエーションの歴史から今後の課題を考える。	1 時間
7	講義内容	楽しさ追求のための支援の方法② TR サービスモデル 行動変容と自己効力感■		
	該当到達目標	予習	行動変容と自己効力感について調べる。	1 時間
	1,2	復習	行動変容を必要とする課題や自己効力感をもつことの意義を考える	1 時間
8	講義内容	福祉レクリエーション支援の方法 支援者のあり方■		
	該当到達目標	予習	実践できるレクリエーション活動を考える	1 時間
	1,2	復習	配布資料の内容を確認し、支援する際のポイントを整理する。	1 時間
9	講義内容	高齢者の尊厳を支えるための福祉レクの方法① 在宅サービス編■		
	該当到達目標	予習	高齢者の在宅サービスについて調べる	1 時間
	1,2	復習	高齢者の在宅サービスにおけるレクリエーション支援の方法を確認する	1 時間
10	講義内容	高齢者の尊厳を支えるための福祉レクの方法② 入所施設編■		
	該当到達目標	予習	高齢者の入所施設におけるレクリエーション支援について調べる	1 時間
	1,2	復習	高齢者の入所施設におけるレクリエーション支援の方法を確認する	1 時間
11	講義内容	高齢者の尊厳を支えるための福祉レクの方法③ 介護予防編■		
	該当到達目標	予習	高齢者の介護予防の実施機関について調べる	1 時間
	1,2	復習	高齢者の介護予防のレクリエーション支援の方法確認する	1 時間
12	講義内容	障がい児・者の尊厳を支えるための福祉レクの方法 入所施設編		
	該当到達目標	予習	障がい児・者の入所施設について調べる	1 時間
	1,2	復習	障がい児・者の入所施設におけるレクリエーション支援の方法確認する	1 時間
13	講義内容	高齢者入所施設における福祉レク支援の方法と計画① 個別■		
	該当到達目標	予習	第 10 回で学んだ高齢者入所施設におけるレク支援の方法を確認する	1 時間
	2,3,4	復習	授業中に考えたレク支援計画を見直し、完成させる	1 時間
14	講義内容	高齢者入所施設における福祉レク支援の方法と計画② グループワーク■		
	該当到達目標	予習	作成した計画を他者に説明できるように準備する	1 時間
	2,3,4	復習	グループで決定したレクリエーション計画書を整理し、完成させる	1 時間
15	講義内容	高齢者入所施設における福祉レク支援① 準備過程(グループワーク)■		
	該当到達目標	予習	グループで作成したレクリエーション支援計画書を確認する	1 時間
	2,3,4	復習	準備過程で必要な道具を準備する	1 時間
16	講義内容	高齢者入所施設における福祉レク支援② 準備過程(グループワーク)■		
	該当到達目標	予習	準備過程で必要な道具を準備する	1 時間
	2,3,4	復習	準備過程で必要な道具を確認し、必要な物を補う	1 時間
17	講義内容	高齢者入所施設における福祉レク支援③ 展開過程(グループワーク)■		
	該当到達目標	予習	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する	1 時間
	2,3,4	復習	所属するグループや他のグループの支援について評価する、	1 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

18	講義内容	高齢者入所施設における福祉レク支援④ 展開過程(グループワーク)■		
	該当到達目標	予習	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する	1 時間
	2,3,4	復習	所属するグループや他のグループの支援の中で活用できるものを整理する	1 時間
19	講義内容	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援の方法と計画① 個別■		
	該当到達目標	予習	第9回で学んだ高齢者在宅サービスにおけるレク支援の方法を確認する	1 時間
	2,3,4	復習	授業中に考えたレク支援計画を見直し、完成させる	1 時間
20	講義内容	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援の方法と計画② グループワーク■		
	該当到達目標	予習	作成した計画を他者に説明できるように準備する	1 時間
	2,3,4	復習	グループで決定したレクリエーション計画書を整理し、完成させる	1 時間
21	講義内容	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援① 準備過程(グループワーク)■		
	該当到達目標	予習	グループで作成したレクリエーション支援計画書を確認する	1 時間
	2,3,4	復習	準備過程で必要な道具を準備する	1 時間
22	講義内容	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援② 準備過程(グループワーク)■		
	該当到達目標	予習	準備過程で必要な道具を準備する	1 時間
	2,3,4	復習	準備過程で必要な道具を確認し、必要な物を補う	1 時間
23	講義内容	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援③ 展開過程(グループワーク)■		
	該当到達目標	予習	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する	1 時間
	2,3,4	復習	所属するグループや他のグループの支援について評価する、	1 時間
24	講義内容	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援④ 展開過程(グループワーク)■		
	該当到達目標	予習	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する	1 時間
	2,3,4	復習	所属するグループや他のグループの支援の中で活用できるものを整理する	1 時間
25	講義内容	障がい児・者生活介護施設における福祉レク支援の方法と計画 (グループワーク)		
	該当到達目標	予習	第12回で学んだ高齢者入所施設におけるレク支援の方法を確認する	1 時間
	2,3,4	復習	授業中に考えたレク支援計画を見直し、完成させる	1 時間
26	講義内容	障がい児・者生活介護施設における福祉レク支援① 準備過程(グループワーク)		
	該当到達目標	予習	グループで作成したレクリエーション支援計画書を確認する	1 時間
	2,3,4	復習	準備過程で必要な道具を準備する	1 時間
27	講義内容	障がい児・者生活介護施設における福祉レク支援② 準備過程(グループワーク)		
	該当到達目標	予習	準備過程で必要な道具を準備す	1 時間
	2,3,4	復習	準備過程で必要な道具を確認し、必要な物を補う	1 時間
28	講義内容	障がい児・者生活介護施設における福祉レク支援③ 展開過程(グループワーク)		
	該当到達目標	予習	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する	1 時間
	2,3,4	復習	所属するグループや他のグループの支援について評価する	1 時間
29	講義内容	障がい児・者生活介護施設における福祉レク支援④ 展開過程(グループワーク)		
	該当到達目標	予習	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する	1 時間
	2,3,4	復習	所属するグループや他のグループの支援の中で活用できるものを整理する	1 時間
30	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまで学習した内容を整理し、福祉レクリエーションの課題について考える。	2 時間
	5	復習	これまで学習した内容やレク支援におけるポイントを実習等で活かす	3 時間
合計時間(予習・復習)				63 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		介護過程Ⅰ（専門展開科目）			科目ナンバリング	SWK312
英文名		Care ProcessⅠ			講義形態	演習
担当教員		渡邊 洋子				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1 単位		
種別						
学位授与方針との対応			豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力
			基礎的知識力			応用・実践する能力
		✓	問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 (テーマ・内容)		生活の場で介護がどのように展開されているか、自分が見過ぎてきたことや自然に感じていたことを振り返り、暮らし方や他者との関わりを考察し可視化することで介護過程の基礎を学ぶ。 授業終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出させる。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。				
到達目標		1.演習内容をもとに他者の意見を聞き、自分の意見を述べることができる。 2.生活場面で行われている事象の意味を考察し、文章にまとめることができる。 3.あらゆる生活場面での介護を展開する理由を他者に説明できる				
評価方法		課題作成 50%、期末試験 50%、総合評価 60%以上を合格とする				
使用教材		川廷宗之・永野淳子「アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック」みらい(2016 年)				
参考文献						
課題に対するフィードバック		課題作成は、授業内で解説を行う。 期末試験後に、問題出題意図を説明する				
オフィスアワー (研究室)		火曜 2 時限 研究室:1 号館 5 階 505 (メール等ご予約ください。)		メールアドレス (#→@)	初回授業時に配布する詳細シラバスに記載	
1	講義内容	オリエンテーション, 考える介護のイメージ				
	該当到達目標	予習	教科書「序章」を読んでおくこと			1 時間
	1,2	復習	生活支援技術Ⅰ(排泄介助)と授業内容の関連を確認する			0.5 時間
2	講義内容	なぜ「考える介護」を展開するのか(介護過程の意義)				
	該当到達目標	予習	教科書 1 章第 2 節を読んでおくこと			1 時間
	1,2	復習	生活支援技術Ⅰ(排泄介助)と授業内容の関連を確認する			0.5 時間
3	講義内容	状況を観察する				
	該当到達目標	予習	教科書 1 章 3・4 節を読んでおくこと			1 時間
	1,2	復習	生活支援技術Ⅰ(移動・家事)と授業内容の関連を確認すること			0.5 時間
4	講義内容	聞き取る・聴き取る・・・他者とののかかわり方を確認する・観察結果に基づく背景と展望の推測				
	該当到達目標	予習	教科書 1 章 5・6 節を読んでおくこと			1 時間
	1,2	復習	生活支援技術Ⅰ(コミュニケーション)と授業内容の関連を確認すること			0.5 時間
5	講義内容	自分のものの見方を確認する・問題解決型の思考過程について				
	該当到達目標	予習	教科書 1 章 7・8 節を読んでおくこと			1 時間
	1,2	復習	高齢者の若いころの生活状況と現在のレクリエーション活動を確認する			0.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

6	講義内容	介護過程全体のプロセス(介護過程の展開)		
	該当到達目標	予習	教科書 2 章 1 節を読んでおくこと	1 時間
	1,2	復習	介護過程の 7 段階について説明できるように, 授業内容を振り返る	0.5 時間
7	講義内容	インテーク<初めての出会い>		
	該当到達目標	予習	教科書 2 章 2 節を読んでおくこと	1 時間
	1,2,3	復習	共感, 受容と肯定の違いについて説明できるようにまとめる	0.5 時間
8	講義内容	アセスメント 1<情報の収集>		
	該当到達目標	予習	教科書 2 章 3 節を読んでおくこと	1 時間
	1,2,3	復習	言語・非言語コミュニケーションを通して情報収集する理由をまとめる	0.5 時間
9	講義内容	アセスメント 2<情報の統合化>		
	該当到達目標	予習	教科書 2 章 4 節を読んでおくこと	1 時間
	1,2,3	復習	構成要素間の矢印の方向ごとの関係性について自分の考えをまとめる	0.5 時間
10	講義内容	アセスメント 3<課題の分析・明確化>		
	該当到達目標	予習	教科書 2 章 5 節を読んでおくこと	1 時間
	1,2,3	復習	利用者の要望, 希望と必要性について分けて説明する意味をまとめる	0.5 時間
11	講義内容	介護目標の設定		
	該当到達目標	予習	教科書 2 章 6 節を読んでおくこと	1 時間
	1,2,3	復習	評価可能で具体的に目標を設定するポイントをまとめる	0.5 時間
12	講義内容	介護計画の立案・実施		
	該当到達目標	予習	教科書 2 章 7・8 節を読んでおくこと	1 時間
	1,2,3	復習	介護計画を実施するために生じる介護者と利用者の思いのずれをまとめる	0.5 時間
13	講義内容	モニタリング・介護記録の作成		
	該当到達目標	予習	教科書 2 章 9 節を読んでおくこと	1 時間
	1,2,3	復習	モニタリングの必要性について説明ができるようにまとめる	0.5 時間
14	講義内容	介護計画の評価		
	該当到達目標	予習	教科書 2 章 10 節を読んでおくこと	1 時間
	1,2,3	復習	介護計画と介護過程の評価する内容の違いをまとめる	0.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	教科書や配布資料を読み, 内容と介護過程の意味を再確認する	1 時間
	1,2,3	復習	演習全体を振り返り, 介護過程を展開する理由をまとめる	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				22.5 時間
備考	教科書は「介護過程Ⅱ」においても継続使用します。			

科目名		介護過程Ⅱ（専門展開科目）			科目ナンバリング	SWK313
英文名		Care ProcessⅡ			講義形態	演習
担当教員		渡邊 洋子				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1 単位		
種別						
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
		✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		事例を通して介護の理念とスキルに基づく介護過程の展開方法を理解することができる。 授業終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出させる。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。またミニレポートやアンケート回答を課す。				
到達目標		1.事例を通して利用者の希望を把握し、生活課題と支援方法を文章にまとめる考え方を理解することができる。 2.情報の分析、解釈、生活課題、計画の作成に関する基本的な考え方を説明することができる。 3.事例を通して介護福祉士としての理念、価値観、リスクマネジメント、チームケアを実践するための介護過程を展開する方法を説明することができる。				
評価方法		課題作成 50%, 期末試験 50%, 総合評価 60%以上を合格とする				
使用教材		川廷宗之・永野淳子「アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック」みらい(2016 年)				
参考文献						
課題に対するフィードバック		課題作成は、授業内で解説を行う。期末試験後に、問題出題意図を説明する				
オフィスアワー (研究室)		火曜 2 時限 研究室:1 号館 5 階 505 (メール等ご予約ください。)		メールアドレス (#→@)	初回授業時に配布する詳細シラバスに記載	
1	講義内容	オリエンテーション、介護過程の意義、独居利用者の在宅生活の継続に向けた事例 1				
	該当到達目標	予習	第 3 章第 1 節を読んでおくこと			1.5 時間
	1	復習	事例における利用者と家族の生活課題についてまとめる			0.5 時間
2	講義内容	独居利用者の在宅生活の継続に向けた事例 2				
	該当到達目標	予習	第 3 章第 1 節を読んでおくこと			1.5 時間
	1	復習	誰が読んでもわかりやすい具体的な介護計画に仕上げる。			0.5 時間
3	講義内容	介護施設から自宅へ外泊する利用者の事例 1				
	該当到達目標	予習	第 3 章第 2 節を読んでおくこと			1.5 時間
	1	復習	事例における利用者と家族の生活課題についてまとめる。			0.5 時間
4	講義内容	介護施設から自宅へ外泊する利用者の事例 2				
	該当到達目標	予習	第 3 章第 2 節を読んでおくこと			1.5 時間
	1,2	復習	利用者の希望を重視した介護計画を立案しまとめること			0.5 時間
5	講義内容	尊厳を守る介護				
	該当到達目標	予習	第 4 章第 1 節を読んでおくこと			1.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3	復習	利用者の尊厳を守るためにどのような心構えが必要かまとめる。	0.5 時間
6	講義内容	価値の問題と介護過程		
	該当到達目標	予習	第 4 章第 2 節を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,3	復習	介護過程の評価の段階で行わなければならないことをまとめること。	0.5 時間
7	講義内容	倫理的葛藤と介護過程		
	該当到達目標	予習	第 4 章第 3 節を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,3	復習	倫理的葛藤の向き合い方, 解決方法についてまとめること	0.5 時間
8	講義内容	利用者主体の介護過程		
	該当到達目標	予習	第 4 章第 4 節を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,3	復習	他者の性格や好み, こだわりを理解して, 適切に説明できるようにまとめる	0.5 時間
9	講義内容	個別化の実践と介護過程		
	該当到達目標	予習	第 4 章第 5 節を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,3	復習	個別化を実践するうえで気を付けることを説明できるようにまとめる	0.5 時間
10	講義内容	自立支援に向けた介護過程		
	該当到達目標	予習	第 4 章第 6 節を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,3	復習	自己決定の自立を実現するための注意点をまとめる	0.5 時間
11	講義内容	人権(権利擁護)と介護過程		
	該当到達目標	予習	第 4 章第 7 節を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,3	復習	利用者を守るために必要な法律について説明できるようにまとめる	0.5 時間
12	講義内容	リスクマネジメントと介護過程		
	該当到達目標	予習	第 4 章第 8 節を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,3	復習	リスクマネジメントにおいて必要な視点をまとめる。	0.5 時間
13	講義内容	チームケアの実践と介護過程		
	該当到達目標	予習	第 4 章第 9 節を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,3	復習	チームケアを行う上での課題の解決方法を提案できるようにまとめる。	0.5 時間
14	講義内容	多職種連携と介護過程		
	該当到達目標	予習	第 4 章第 10 節を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,3	復習	多職種連携を行う上での介護福祉士の専門性を説明できるようにまとめる	0.5 時間
15	講義内容	まとめ, 介護過程の展開		
	該当到達目標	予習	介護過程の展開方法と注意点をこれまでの授業内容から振り返る	1.5 時間
	1,2,3	復習	介護過程の展開を行うために, 現在不足していることをまとめる。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				22.5 時間
備考				

科目名	介護過程Ⅲ(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWK314
英文名	Care ProcessⅢ			講義形態	演習
担当教員	堀口 美奈子				
科目に関連した実務経験	介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務(10 年)				
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1 単位		
種別	「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	介護を必要とする人の「QOL(生活、人生、生命の質)」を高めていくためには、介護過程の計画的な実践が欠かせない。そこで本科目では、介護過程の意義を理解し、根拠に基づく介護が展開できるよう、他の科目で学習した知識や技術を統合し、事例から解決すべき生活上の課題を挙げられるようになることを、演習を通して学ぶ。 授業では、事例を基に、個人ワークやグループワークを実施する。自分でまとめたことの発表や他者意見を聴くことによって、クラスメイトとともに介護過程を展開する力を育てることを目指しているため、出席することが大切になる。				
到達目標	1.介護過程の全体像について説明できる。■ 2.事例について専門的視点を基に情報を収集できる。■ 3.収集した情報の分析を行うことができる。■ 4.解決すべき生活上の課題を明確にできる。■ 5.自分の考えた介護過程について、相手に伝わるよう根拠を示しながら説明できる。 6.相手の話を聞き、自分の介護過程に関する思考を深めることができる。				
評価方法	授業参加度 20%、ミニレポート 40%、定期試験 40%				
使用教材	教科書は使用せず、教員作成資料を基に授業を行う。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	提出を求める事例シートは、適宜コメント等をつけて返却する。質問やフィードバック等は、随時、直接またはメール等にて受け付ける。				
オフィスアワー (研究室)	月曜・水曜 3 限		メールアドレス (#→@)	初回授業時にアナウンスする。	
1	講義内容	オリエンテーション、介護過程の意義と目的■			
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する		0.5 時間
	1	復習	今後の授業内容を確認し、授業で取ったノートを読み返す		0.5 時間
2	講義内容	介護過程の理解、介護過程の全体像の理解			
	該当到達目標	予習	授業で配付する資料を読み、授業内容を把握する		0.5 時間
	1	復習	授業で取ったノートを読み返し、しっかり復習する		0.5 時間
3	講義内容	「アセスメント」の実際事例Ⅰ①情報収集■			
	該当到達目標	予習	授業で配付するレジュメを読み、授業内容を把握する		0.5 時間
	2,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ		0.5 時間
4	講義内容	「アセスメント」の実際事例Ⅰ②情報分析■			
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく		0.5 時間
	3,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ		0.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

5	講義内容	「アセスメント」の実際事例Ⅰ③生活上課題抽出・優先順決定■			
	該当到達目標 4,5,6	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間	
		復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間	
6	講義内容	「アセスメント」の実際事例Ⅰ④まとめ			
	該当到達目標 1,5,6	予習	これまでの演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間	
		復習	自分の書いたものと例示を比べる、資料内容確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間	
7	講義内容	「アセスメント」の実際事例Ⅱ①情報収集■			
	該当到達目標 2,5,6	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間	
		復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間	
8	講義内容	「アセスメント」の実際事例Ⅱ②生活の様子項目 A 情報分析■			
	該当到達目標 3,5,6	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間	
		復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間	
9	講義内容	「アセスメント」の実際事例Ⅱ③生活の様子項目 A 生活上課題抽出■			
	該当到達目標 4,5,6	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間	
		復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間	
10	講義内容	「アセスメント」の実際事例Ⅱ④生活の様子項目 B 情報分析■			
	該当到達目標 3,5,6	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間	
		復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間	
11	講義内容	「アセスメント」の実際事例Ⅱ⑤生活の様子項目 B 生活上課題抽出■			
	該当到達目標 4,5,6	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間	
		復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間	
12	講義内容	「アセスメント」の実際事例Ⅱ⑥生活の様子項目 C 情報分析■			
	該当到達目標 3,5,6	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間	
		復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間	
13	講義内容	「アセスメント」の実際事例Ⅱ⑦生活の様子項目 C 生活上課題抽出■			
	該当到達目標 4,5,6	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間	
		復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間	
14	講義内容	「アセスメント」の実際事例Ⅱ⑧優先順決定・まとめ■			
	該当到達目標 1,5,6	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間	
		復習	自分の書いたものと例示を比べる、資料内容確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間	
15	講義内容	まとめ			
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	介護過程のアセスメントについて理解できたか自己評価する	0.5 時間	
		復習	自己評価の結果、不十分な所は再度学習する	0.5 時間	
合計時間(予習・復習)					15 時間
備考	授業時の配布資料は、積み重ねた思考過程を示すものであるため、忘れずに持参する。 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	介護過程Ⅳ(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWK315
英文名	Care ProcessⅣ			講義形態	演習
担当教員	原田 欣宏				
科目に関連した実務経験	介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務				
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1 単位		
種別	介護福祉士養成課程指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	介護を必要とする人の「QOL(生活の質、生命の質)」を高めていくためには、介護過程の計画的な実践が欠かせない。そこで本科目では、事例を通して介護過程の展開(アセスメント、介護計画の作成、実施、評価)を学び、根拠に基づく介護実践を提供できる能力を身につけることを目標にする。各演習ではグループワークを中心に実施し、進行の程度に合わせて要点を説明する。				
到達目標	1.介護過程の展開過程を具体的に説明できる。 2.事例について専門的視点を基にアセスメントを行える。■ 3.解決すべき生活上の課題を明確にできる。■ 4.根拠に基づく介護計画を立案し、実施や評価について説明できる。 5.自分の考えた介護過程について、相手に伝わるよう根拠を示しながら説明できる。 6.相手の話を聞き、自分の介護過程に関する思考を深めることができる。				
評価方法	授業参加度 20%、レポート 40%、定期試験 40%				
使用教材	授業時に資料を配布する				
参考文献					
課題に対するフィードバック	提出を求める事例シートは、適宜コメント等をつけて返却する。質問やフィードバック等は、随時、直接またはメール等にて受け付ける。				
オフィスアワー (研究室)	火曜 3 時限、水曜 3 時限 1 号館 5 階 506		メールアドレス (#→@)	harada#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション、介護過程Ⅲ振り返り			
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する		0.5 時間
	1	復習	今後の授業内容を確認し、授業で取ったノートを読み返す		0.5 時間
2	講義内容	「介護過程の実践的展開」事例Ⅰ① 情報収集■			
	該当到達目標	予習	授業で配付する資料を読み、授業内容を把握する		0.5 時間
	2,5,6	復習	授業で取ったノートを読み返し、しっかり復習する		0.5 時間
3	講義内容	「介護過程の実践的展開」事例Ⅰ② 情報分析■			
	該当到達目標	予習	授業で配付するレジュメを読み、授業内容を把握する		0.5 時間
	2,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ		0.5 時間
4	講義内容	「介護過程の実践的展開」事例Ⅰ③ 分析検討■			
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく		0.5 時間
	2,3,5,6	復習	自分の書いたものと例示を比べる、資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ		0.5 時間
5	講義内容	「介護過程の実践的展開」事例Ⅰ④ 計画作成			
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく		0.5 時間
	4,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ		0.5 時間
6	講義内容	「介護過程の実践的展開」事例Ⅰ⑤ 計画検討			
	該当到達目標	予習	これまでの演習テーマに関する自分の考えをまとめておく		0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	4,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
7	講義内容	「介護過程の実践的展開」事例Ⅰ⑥ 実施・評価		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	1,4,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
8	講義内容	「介護過程の実践的展開」事例Ⅰ⑦ まとめ		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	1,5,6	復習	自分の書いたものと例示を比べる、資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
9	講義内容	「介護過程の実践的展開」事例Ⅱ① 情報収集■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	2,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
10	講義内容	「介護過程の実践的展開」事例Ⅱ② 情報分析■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	2,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
11	講義内容	「介護過程の実践的展開」事例Ⅱ③ 分析検討■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	2,3,5,6	復習	自分の書いたものと例示を比べる、資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
12	講義内容	「介護過程の実践的展開」事例Ⅱ④ 計画作成		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	4,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
13	講義内容	「介護過程の実践的展開」事例Ⅱ⑤ 計画検討		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	4,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
14	講義内容	「介護過程の実践的展開」事例Ⅱ⑥ 実施・評価		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	1,4,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
15	講義内容	まとめ■		
	該当到達目標	予習	介護過程の一連の思考過程について理解できたか自己評価する	0.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	自己評価の結果、不十分な所は再度学習する	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	授業は個人ワークやグループワークの形態で実施し、まとめたことの発表や振り返りを行う中で、クラスメイトとともに介護過程を展開する力を育てることを目指しているため、出席することが大切になる。 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名		介護過程Ⅴ(専門展開科目)		科目ナンバリング	SWK316
英文名		Care ProcessⅤ		講義形態	演習
担当教員		原田 欣宏			
科目に関連した実務経験		介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務			
学年・開講期		3 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1 単位	
種別		介護福祉士養成課程指定科目			
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要(テーマ・内容)		実習の経験を踏まえて、専門職として実践的な「介護過程の展開」とは何かを理解し、必要なスキルを身につける。他職種との連携における介護福祉士の役割を自覚する。各演習ではグループワークを中心に実施し、進行の程度に合わせて要点を説明する。			
到達目標		1.アセスメントに基づいた介護過程の展開方法を説明することができる。 2.本人からの情報だけではなく、家族、他職種との連携を、ニーズの把握することができる、 3.介護過程とチームアプローチの実際と実践方法を説明することができる 4.本人、家族の意向をふまえながら立案する介護計画の課題について理解することができる■			
評価方法		授業参加度 20%、レポート 40%、定期試験 40%			
使用教材		授業時に資料を配布する			
参考文献					
課題に対するフィードバック		課題作成は、授業内で解説を行う。期末試験後に、問題出題意図を説明する			
オフィスアワー(研究室)		火曜 3 限 (1 号館 5 階 506 研究室)	メールアドレス (#→@)	harada#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション・介護過程とチームアプローチの実際とはなにか【介護過程とチームアプローチ】			
	該当到達目標 1,2,3	予習	介護過程Ⅲ・Ⅳまでの授業内容を読み返す		0.5 時間
		復習	他の教科で学んだ「多職種連携」「チームアプローチ」に関すること、授業内容を整理する		0.5 時間
2	講義内容	事例①「医療ニーズのある独居男性への支援」 アセスメント【介護過程の意義と基礎的理解】			
	該当到達目標 1,2,3	予習	高血圧に関するケアの方法について確認すること		0.5 時間
		復習	授業での議論を踏まえてアセスメントの内容を整理する		0.5 時間
3	講義内容	事例①「医療ニーズのある独居男性への支援」 情報の統合・分析・解釈			
	該当到達目標 1,2,3	予習	住宅改修に関する情報を事前に確認すること		0.5 時間
		復習	授業での議論を踏まえて情報の統合・分析・解釈の文章を整理すること		0.5 時間
4	講義内容	事例①「医療ニーズのある独居男性への支援」 目標・サービス内容【介護過程の展開の理解】■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	脳梗塞後遺症に対する生活リハビリの方法を確認すること		0.5 時間
		復習	授業での議論を踏まえて目標・サービス内容の文章を整理すること		0.5 時間
5	講義内容	事例②「老健退所後の意欲を喚起する支援」 アセスメント			
	該当到達目標 1,2,3	予習	老人保健施設で実施可能なケア内容を確認すること		0.5 時間
		復習	授業での議論を踏まえてアセスメントの内容を整理する		0.5 時間
6	講義内容	事例②「老健退所後の意欲を喚起する支援」 情報の統合・分析・解釈			
	該当到達目標	予習	短下肢装具を利用する人のケアについて確認すること		0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3	復習	授業での議論を踏まえて情報の統合・分析・解釈の文章を整理すること	0.5 時間
7	講義内容	事例②「老健退所後の意欲を喚起する支援」 目標・サービス内容■		
	該当到達目標	予習	興味関心のあることに取り組むための環境整備について情報を確認すること	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業での議論を踏まえて目標・サービス内容の文章を整理すること	0.5 時間
8	講義内容	事例③「在宅復帰のための本人と家族への支援」 アセスメント		
	該当到達目標	予習	排泄に関する医療介護両面のケアについて確認すること	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業での議論を踏まえてアセスメントの内容を整理する	0.5 時間
9	講義内容	事例③「在宅復帰のための本人と家族への支援」 情報の統合・分析・解釈		
	該当到達目標	予習	施設の生活環境を整える方法について確認する	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業での議論を踏まえて情報の統合・分析・解釈の文章を整理すること	0.5 時間
10	講義内容	事例③「在宅復帰のための本人と家族への支援」 目標・サービス内容■		
	該当到達目標	予習	在宅に向けた生活動作の支援方法を確認する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業での議論を踏まえて目標・サービス内容の文章を整理すること	0.5 時間
11	講義内容	事例④「帰宅願望への支援」 アセスメント		
	該当到達目標	予習	転倒防止に向けた生活環境の整備方法について確認すること	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業での議論を踏まえてアセスメントの内容を整理する	0.5 時間
12	講義内容	事例④「帰宅願望への支援」 統合・分析・解釈		
	該当到達目標	予習	脳梗塞後遺症と大腸がんの医学的管理について確認すること	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業での議論を踏まえて情報の統合・分析・解釈の文章を整理すること	0.5 時間
13	講義内容	事例④「帰宅願望への支援」 目標・サービス内容■		
	該当到達目標	予習	本人と介護者の意向にずれがあるときの支援について整理する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業での議論を踏まえて目標・サービス内容の文章を整理すること	0.5 時間
14	講義内容	まとめ① アセスメントの実際		
	該当到達目標	予習	事例①～④において検討したアセスメントで残された課題を整理する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業での議論を踏まえてアセスメントを実践するときのポイントを整理する	0.5 時間
15	講義内容	まとめ② 統合・分析・解釈の実際		
	該当到達目標	予習	事例①～④において検討した情報の統合・分析・解釈で残された課題を整理する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	利用者ニーズと現実の生活を統合するポイントを整理する	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	授業は個人ワークとグループワークを組み合わせながら、事例検討を中心に実施する。他者の意見を取り入れながら、より良いケアの提供を目指す姿勢が重要である。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	介護総合演習Ⅰ（専門展開科目）				科目ナンバリング	SWK317
英文名	Guidance of practice care trainingⅠ				講義形態	演習
担当教員	堀口 美奈子、渡邊 洋子、原田 欣宏					
科目に関連した実務経験	堀口：介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務（10年） 渡邊：厚生労働省看護師国家資格を取得し、特定機能病院に勤務 原田：介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務					
学年・開講期	1年	後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1単位		
種別	「介護福祉士」指定科目					
学位授与方針との対応		豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力			応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	介護実習Ⅰにむけて必要な技術と知識を修得する。また、介護福祉士になるために必要な自己の課題を明確にし、自分で学ぶ力を培う。実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーションなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学修とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学修とする。 授業は、教員が作成した資料等を使用し、講義やグループワークを行う。また個別指導では、配属先施設等の資料に基づいて個別の学習目標を設定し、介護実習Ⅰにて活用する。					
到達目標	1.基本的な介護の知識・技術・倫理を理解し、具体的な介護につながる過程を説明できる。■ 2.介護実習Ⅰの目的や目標を理解し、実習で学ぶことを具体的に説明できる。 3.現場に活かせる記録等の書き方や作成の方法を説明できる。■ 4.自己の課題を明確にし、現場実践に基本的なコミュニケーションについて説明できる。■					
評価方法	学習態度 40%（授業中、グループ演習時の態度） 課題の理解度 30%（授業時の演習、課題に対しての理解度） 提出物 30%（個人票、誓約書など必要書類の内容及び提出状況）					
使用教材	介護実習の手引き、配布資料					
参考文献						
課題に対するフィードバック	レポートにはコメントを付けて返却する。 定期試験の前に出題の範囲や意図を説明する。					
オフィスアワー （研究室）	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。			メールアドレス （＃→＠）	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス、実習全体の理解				
	該当到達目標	予習	介護福祉士の専門性について確認する。			0.5 時間
	1,2	復習	当日の講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。			0.5 時間
2	講義内容	介護実習施設の機能及び役割① 高齢者入所施設の法的位置づけ■				
	該当到達目標	予習	高齢者の入所施設について調べる。			0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。			0.5 時間
3	講義内容	介護実習施設の機能及び役割② 居宅サービス法的位置づけ■				
	該当到達目標	予習	高齢者の居宅サービスについて調べる。			0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5 時間
4	講義内容	介護実習施設の機能及び役割③ 障害者サービス法的位置づけ■		
	該当到達目標	予習	障害者の制度について調べる。	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5 時間
5	講義内容	介護実習施設の利用者の身体的・精神的・社会的特徴の理解① 入所施設編■		
	該当到達目標	予習	高齢者入所施設の利用者の事例について調べる	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5 時間
6	講義内容	介護実習施設の利用者の身体的・精神的・社会的特徴の理解② 居宅サービス編■		
	該当到達目標	予習	高齢者の居宅サービスを調べ、利用者の事例を調べる	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5 時間
7	講義内容	障害をもつ利用者とのコミュニケーションの方法(認知症高齢者含む)■		
	該当到達目標	予習	高齢者や障害者の病気や障害の特徴について確認する。	0.5 時間
	1,2	復習	授業内容を復習し、理解する。自分のコミュニケーションの方法を振り返る。	0.5 時間
8	講義内容	他者理解と自己覚知■		
	該当到達目標	予習	相談援助の基盤と専門職Ⅰで学習した、他者と自己理解の方法を確認する。	0.5 時間
	4	復習	授業の内容を復習し、理解する。自己覚知のシートを完成する。	0.5 時間
9	講義内容	介護実習Ⅰの目標、課題の明確化① 提出書類の作成方法■		
	該当到達目標	予習	実習の手引きから介護実習の位置づけを確認する。	0.5 時間
	3,4	復習	個人票(目標作成含む)の下書きを完成する。	0.5 時間
10	講義内容	介護実習Ⅰの目標、課題の明確化② 提出書類の作成(個別指導)		
	該当到達目標	予習	実習の手引きから記録用の書類について確認する。	0.5 時間
	3,4	復習	個人票(目標作成含む)のを完成する。	0.5 時間
11	講義内容	介護実習Ⅰの目標、課題の明確化③ 提出書類の作成(個別指導)		
	該当到達目標	予習	自己の課題を明確化する。	0.5 時間
	3,4	復習	個人票・誓約書等を実習指導室に提出する。担当教員と面談する。	0.5 時間
12	講義内容	実習記録の意義と記載方法の理解① 日誌の書き方、目標の立て方■		
	該当到達目標	予習	相談援助の基盤と専門職Ⅰで学んだ記録の書き方を確認する。	0.5 時間
	3,4	復習	実習記録の書き方を学習するために、日常の1日の記録を作成する	0.5 時間
13	講義内容	実習記録の意義と記載方法の理解② プロセスレコードの書き方■		
	該当到達目標	予習	違和感のあった過去の事例を確認する。	0.5 時間
	3,4	復習	違和感のあった事例をプロセスレコードに沿って記述して、考察する。	0.5 時間
14	講義内容	その他の記録類の意義と記載方法及び諸手続きの方法の理解■		
	該当到達目標	予習	実習の手引きを一読する	0.5 時間
	3	復習	実習の手引きを確認する。実習施設で事前オリエンテーションを受ける。	0.5 時間
15	講義内容	実習ガイダンス		
	該当到達目標	予習	事前オリエンテーションの内容を教員に報告する。実習内容を確認する。	0.5 時間
	1,2	復習	実習の手引きを読み、提出用書類について確認する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	予習・復習の時間については、実習前の学習で補填すること。			

	■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名		介護総合演習Ⅱ(専門展開科目)		科目ナンバリング	SWK318
英文名		Guidance of practice care trainingⅡ		講義形態	演習
担当教員		原田 欣宏、渡邊 洋子、堀口 美奈子			
科目に関連した実務経験		原田:介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務 渡邊:看護師として特定機能病院に勤務 堀口:介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務			
学年・開講期		2年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1単位	
種別		介護福祉士養成課程指定科目			
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力
			基礎的知識力		応用・実践する能力
		✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 (テーマ・内容)		利用者個別のニーズを理解できる能力をつけるための学修を行う。そのためにアセスメントの実施方法について学ぶ。また、介護実習Ⅰの学びを振り返り、次の実習に向けて介護実習前の介護技術の確認や実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学修とする。 各演習はグループワークを用いて互いに実習の学びを紹介することで学びを深め、教員よりコメントすることで正確な理解につながるように展開する。			
到達目標		1.利用者やスタッフとのコミュニケーションをより深化したものになるように、ニーズの把握に必要な知識を身に付けることができる 2.介護過程の展開をふまえた記録の作成について理解することができる■ 3.アセスメント用紙の基本的な使い方や意味について理解することができる 4.介護実習Ⅱにおける講義目標を理解することができる			
評価方法		学習態度 40%(授業中、グループ演習時の態度)、課題の理解度 30%(授業時の演習、課題に対する理解度)、提出物 30%(個人票、誓約書など必要書類の内容及び提出状況)			
使用教材		介護実習の手引き			
参考文献					
課題に対するフィードバック		課題の意図は提出前に説明する。提出物に関する書き方の指導を行ったうえで提出を求める。			
オフィスアワー (研究室)		原田＝火曜 3限 渡邊＝火曜 2限 堀口＝月曜・水曜 3限	メールアドレス (#→@)	harada#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	介護実習Ⅰのまとめ① 日誌			
	該当到達目標	予習	介護実習Ⅰで作成した課題を読み返す		0.5 時間
		復習	授業で考えた日誌から報告書に記載する項目について検討する		0.5 時間
2	講義内容	介護実習Ⅰのまとめ② プロセスレコード			
	該当到達目標	予習	介護実習Ⅰで考えたプロセスレコードについて説明することを準備する		0.5 時間
		復習	授業で考えたプロセスレコードからの学びから報告書に記載する内容を検討する		0.5 時間
3	講義内容	介護実習Ⅰのまとめ③ 評価票			
	該当到達目標	予習	介護実習Ⅰで学んだことについて報告書に記載する内容を検討する		0.5 時間
		復習	授業で考えた評価票からの指摘を受けて報告書に記載する内容を検討する		0.5 時間
4	講義内容	介護実習Ⅰのまとめ④ 報告書			
	該当到達目標	予習	報告書を作成する		0.5 時間
		復習	授業中に指摘を受けた箇所を修正する		0.5 時間
5	講義内容	介護実習施設の機能及び役割、法的位置づけの理解 ①高齢者施設			

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	他の授業で学んだ内容を調べておく	0.5 時間
		復習	実習施設で働いている職員の役割をまとめる	0.5 時間
6	講義内容	介護実習施設の機能及び役割、法的位置づけの理解 ②障害者施設		
	該当到達目標	予習	他の事業で学んだ内容を調べておく	0.5 時間
		復習	実習施設で働いている職員の役割をまとめる	0.5 時間
7	講義内容	具体的な介護過程の展開① 食事■		
	該当到達目標	予習	生活支援技術の該当箇所について読んでおく	0.5 時間
		復習	介護を行う上で関係する職員の役割をまとめる	0.5 時間
8	講義内容	具体的な介護過程の展開② 排泄■		
	該当到達目標	予習	生活支援技術の該当箇所について読んでおく	0.5 時間
		復習	介護を行う上で関係する職員の役割をまとめる	0.5 時間
9	講義内容	介護実習Ⅱの目標、課題の明確化①		
	該当到達目標	予習	個人票など、提出物を作成する	0.5 時間
		復習	指導によって修正箇所を考え直す	0.5 時間
10	講義内容	介護実習Ⅱの目標、課題の明確化②		
	該当到達目標	予習	個人票など、提出物を作成する	0.5 時間
		復習	指導によって修正箇所を考え直す	0.5 時間
11	講義内容	具体的な介護過程の展開③ 入浴		
	該当到達目標	予習	生活支援技術の該当箇所について読んでおく	0.5 時間
		復習	介護を行う上で関係する職員の役割をまとめる	0.5 時間
12	講義内容	具体的な介護過程の展開④ 移動		
	該当到達目標	予習	生活支援技術の該当箇所について読んでおく	0.5 時間
		復習	介護を行う上で関係する職員の役割をまとめる	0.5 時間
13	講義内容	実習中の対応困難の場面討議① 認知症ケア		
	該当到達目標	予習	認知症ケアについて、ほかの科目で学んだことを見直す	0.5 時間
		復習	実際にどのような声かけを行うか、考えてまとめる	0.5 時間
14	講義内容	実習中の対応困難の場面討議② 寝たきり		
	該当到達目標	予習	脳梗塞後遺症、糖尿病に関するケアの注意点を他の教科で学んだことを確認する	0.5 時間
		復習	実際にどのような声かけを行うべきか、考えてまとめる	0.5 時間
15	講義内容	実習直前ガイダンス		
	該当到達目標	予習	実習先として配属された事業所の概要を実習指導室などにある資料で確認する	0.5 時間
		復習	実習で行う課題について確認し、必要な資料と教科書を準備しておく	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	授業は、教員が作成した資料等を使用し、講義やグループワークを行う。また個別指導では、配属先施設等の資料に基づいて個別の学習目標を設定し、介護実習Ⅱにて活用する。予習・復習の時間については、直前ガイダンス前までに自己学習で補填すること ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名		介護総合演習Ⅲ(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWK319
英文名		Guidance of practice care trainingⅢ			講義形態	演習
担当教員		渡邊 洋子、原田 欣宏、堀口 美奈子				
科目に関連した実務経験		渡邊:厚生労働省看護師国家資格を取得し、特定機能病院に勤務していた 原田:介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務 堀口:介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務(10年)				
学年・開講期		2 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1 単位		
種別						
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
		✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		学生が養成施設等で学習する機会を介護実習Ⅱの期間中に備えることで、効率的な振返りを可能にする。 一連の介護過程から、利用者のニーズを把握し、個別援助計画(介護計画)を立案するための知識と技術を習得する。 介護実習Ⅲにおける事前の知識及び技術の確認、施設等へのオリエンテーション、介護過程の展開を総合的に習得する。 レジュメや資料等を参考に講義、グループ演習や討議を行う。また配属施設の資料をもとに施設特性や、学生個人の実習目標を設定し、介護実習に活用する。				
到達目標		1.介護実習を通し、利用者特性を理解した上で、ニーズの差異を説明できる。 2.介護実習を通し、個々の利用者に応じた介護方法を説明できる。 3.様々な介護場面を通して、個々の利用者に応じた介護方法、 4.様々な介護場面を通して、利用者のニーズに沿った資源及び福祉用具の活用を説明できる。 5.様々な介護場面を通して、利用者のニーズに沿った他職種連携を説明できる。 6.個々の利用者に応じた個別援助計画(介護計画)立案、実施、評価できる。■				
評価方法		学習態度 40%(グループ演習や授業への参加度)・課題の理解度 30%(授業時の演習、課題に対しての理解度)・提出物 30%(個人票・誓約書など必要書類の内容及び提出状況)				
使用教材		実習の手引き、レジュメ及び資料を配布する				
参考文献						
課題に対するフィードバック		介護実習Ⅱにおいて、施設評価及び自己評価をもとに、面談し、個々の学生の課題を抽出する 介護実習Ⅲの事前指導において、個々の学生の興味や課題を踏まえ、目標や課題を明確化する 演習において、提出された宿題にはコメント後に返却し、授業を通して、内容を共有する 演習におけるグループ討議を通して、多角的な思考を促すよう対応する				
オフィスアワー (研究室)		火曜 2 時限<渡邊> 金曜 1 時限<原田> 月曜・水曜 3 時限<堀口> (予めメール等でご予約ください。)		メールアドレス (#→@)	直前ガイダンス等で、各担当教員からアナウンスします。	
1	講義内容	帰校日指導				
	該当到達目標	予習	利用者特性を理解した上でニーズの差異や、個々に応じた介護方法を理解す			0.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

			る	
	1,2	復習	実習日誌及び課題の習熟度を補完する	1 時間
2	講義内容	介護実習Ⅱまとめ①		
	該当到達目標	予習	グループ討議から、利用者特性やニーズの差異を学ぶ	0.5 時間
	1,2	復習	利用者特性を理解した上でニーズの差異や、個々に応じた介護方法を理解する	1 時間
3	講義内容	介護実習Ⅱまとめ②		
	該当到達目標	予習	プロセスレコードから、利用者特性、ニーズの差異や抽出方法を学ぶ	0.5 時間
	1,2	復習	利用者特性を理解した上でニーズの差異や、個々に応じた介護方法を理解する	1 時間
4	講義内容	介護実習Ⅱまとめ③		
	該当到達目標	予習	プロセスレコードから、利用者特性、ニーズの差異や抽出方法を学ぶ	0.5 時間
	1,2	復習	利用者特性を理解した上でニーズの差異や、個々に応じた介護方法を理解する	1 時間
5	講義内容	介護実習Ⅱまとめ④ 評価フィードバック		
	該当到達目標	予習	施設評価及び自己評価を踏まえ、介護実習Ⅱをフィードバックする	0.5 時間
	1,2	復習	介護実習Ⅱをフィードバックし、自己覚知及び課題を理解する	1 時間
6	講義内容	個別援助計画の考え方① 介護計画におけるアセスメントの必要性和概要■		
	該当到達目標	予習	実習手引き及び自身の実習ファイルを精読する	0.5 時間
	3,4,5,6	復習	介護計画におけるアセスメントの必要性和概要を理解できる	1 時間
7	講義内容	個別援助計画の考え方② 介護計画におけるアセスメントのプロセスと実際■		
	該当到達目標	予習	レジュメ及び資料を精読する・宿題に取り組む	0.5 時間
	3,4,5,6	復習	介護計画におけるアセスメントのプロセスと実際を理解する	1 時間
8	講義内容	介護計画におけるアセスメント演習① 情報の解釈と統合■		
	該当到達目標	予習	レジュメ及び資料を精読する・宿題に取り組む	0.5 時間
	3,4,5,6	復習	介護計画における情報の解釈と統合を理解する	1 時間
9	講義内容	介護計画におけるアセスメント演習② 情報の解釈と統合■		
	該当到達目標	予習	レジュメ及び資料を精読する	0.5 時間
	3,4,5,6	復習	介護計画における情報の解釈と統合を理解する	1 時間
10	講義内容	介護実習Ⅲ事前指導① 個人目標及び課題の抽出		
	該当到達目標	予習	介護実習Ⅱにおける課題を踏まえ、介護実習Ⅲの目標を抽出する	0.5 時間
	1,2	復習	介護実習Ⅲにおける個人目標及び課題を抽出する	1 時間
11	講義内容	介護実習Ⅲ事前指導② 個人目標及び課題の明確化		
	該当到達目標	予習	介護実習Ⅱにおける課題を踏まえ、介護実習Ⅲの目標を明確化する	0.5 時間
	1,2	復習	介護実習Ⅲにおける個人目標及び課題を明確化する	1 時間
12	講義内容	介護計画におけるアセスメント演習③ 生活課題及び目標設定の試み■		
	該当到達目標	予習	既存の事例を精読する	0.5 時間
	3,4,5,6	復習	介護計画における生活課題及び目標設定の試みを理解する	1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

13	講義内容	介護計画におけるアセスメント演習④ 生活課題及び目標設定の特定■			
	該当到達目標 3,4,5,6	予習	既存の事例を精読する	0.5 時間	
		復習	介護計画における生活課題及び目標設定の特定を理解する	1 時間	
14	講義内容	介護計画におけるアセスメント演習⑤ 発表及び総括■			
	該当到達目標 3,4,5,6	予習	既存の事例を精読する	0.5 時間	
		復習	介護計画における様々な生活課題及び目標設定から、多角的な視点を理解する	1 時間	
15	講義内容	介護実習Ⅲ直前ガイダンス■			
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	事前オリエンテーションの内容を教員に報告する。実習内容を確認する。	0.5 時間	
		復習	実習の手引きを読み、提出用書類について確認する。	1 時間	
合計時間(予習・復習)					22.5 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名		介護総合演習Ⅳ(専門展開科目)			科目ナンバリング	SKW320
英文名		Guidance of practice care trainingⅣ			講義形態	演習
担当教員		堀口 美奈子、渡邊 洋子、原田 欣宏				
科目に関連した実務経験		堀口:介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務(10年) 渡邊:厚生労働省看護師国家資格を取得し、特定機能病院に勤務 原田:介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務				
学年・開講期		3年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1単位		
種別		「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力		応用・実践する能力	
		✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要(テーマ・内容)		将来、幅広く福祉の分野で活躍できる専門職になるためには、学内での学習と介護実習における学びを総合的に振り返り、主体的に考えて介護福祉を実践できる力の獲得が求められる。そこで本科目では、介護実習Ⅲの実習期間中に学生による学内学習日を設け、実習を振り返りながら、介護計画や実践について理解を深める。また、介護実習Ⅲ終了後、実習で展開した介護実践を客観的に振り返り、自己の介護観を養うとともに、学習効果を総合的にまとめて発表することで介護福祉に関する研究姿勢を学ぶ。 プロセスレコードや事例検討によって実習を振り返りながら事例に関する研究を行い、まとめた研究を介護事例検討発表会で報告する。				
到達目標		1.利用者の状況に応じた介護福祉士としての関わりを思考できる。■ 2.自分の学びを整理し、理論に結び付けて説明することができる。■ 3.他者の学びについて理解し、自分の体験と比較検討することができる。■ 4.自分の考えや学びの結果について、他者に分かりやすく説明できる。 5.学びを分析し、福祉実践における今後の課題を見いだすことができる。■ 6.これまでの学びと自己評価から、自己の介護観を明確にすることができる。■				
評価方法		学習態度(グループ演習や授業への貢献度)30%、課題の理解度(演習・課題に対する理解度)30%、提出物(レポート等の提出状況)40%				
使用教材		介護実習の手引き、介護実習Ⅲで作成した介護計画や実習記録等				
参考文献						
課題に対するフィードバック		フィードバックや質問等は、随時、メールまたは直接行う。介護実習事例報告会での報告レジュメ、実習の集大成として作成される実習報告書は、冊子印刷後、全員に配布される。				
オフィスアワー(研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス(#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	帰校日指導				
	該当到達目標	予習	介護実習Ⅲで作成した介護計画や実習記録等を整理する			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	演習内容の確認、介護計画・記録の書き方等の見直し			0.5 時間
2	講義内容	介護実習Ⅲまとめ①(グループワークその1)■				
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	演習内容の確認			0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

3	講義内容	介護実習Ⅲまとめ②(グループワークその2、個人面談その1)■		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	演習内容の確認	0.5 時間
4	講義内容	介護実習Ⅲプロセスレコード①(グループワークその1、個人面談その2)■		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	演習内容の確認、全体討議後の要点をまとめておく	0.5 時間
5	講義内容	介護実習Ⅲプロセスレコード②(グループワークその2、個人面談その3)■		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	演習内容の確認、全体討議後の要点をまとめておく	0.5 時間
6	講義内容	事例研究の方法		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	0.5 時間
	1,2,4,5	復習	演習内容の確認、関連事項等のサーチ、事例研究の検討	0.5 時間
7	講義内容	事例研究①(介護実習事例に基づく研究その1)■		
	該当到達目標	予習	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5 時間
8	講義内容	事例研究②(介護実習事例に基づく研究その2)■		
	該当到達目標	予習	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5 時間
9	講義内容	事例研究③(介護実習事例に基づく研究その3)■		
	該当到達目標	予習	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5 時間
10	講義内容	事例研究④(介護実習事例に基づく研究その4)■		
	該当到達目標	予習	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5 時間
11	講義内容	事例研究⑤(介護実習事例に基づく研究その5)■		
	該当到達目標	予習	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5 時間
12	講義内容	事例研究⑥(介護実習事例に基づく研究その6)■		
	該当到達目標	予習	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5 時間
13	講義内容	事例研究⑦(介護実習事例に基づく研究その7)および事例研究発表準備■		
	該当到達目標	予習	自分の研究内容について詳細をつめる、自分の発表方法を検討する	0.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容、発表方法の見直し	0.5 時間
14	講義内容	「介護事例検討発表会」①(事例研究内容の発表その1)		
	該当到達目標	予習	自分でまとめた事例について目を通しておく	0.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	演習内容の確認、振り返り	0.5 時間
15	講義内容	「介護事例検討発表会」②(事例研究内容の発表その2)		
	該当到達目標	予習	自分でまとめた事例について目を通しておく	0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4,5,6	復習	演習内容の確認、振り返り	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補填すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	介護実習Ⅰ（専門展開科目）			科目ナンバリング	SWK321
英文名	Practice Care TrainingⅠ			講義形態	実習
担当教員	堀口 美奈子、渡邊 洋子、原田 欣宏				
科目に関連した実務経験	堀口：介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務（経験） 渡邊：厚生労働省看護師国家資格を取得し、特定機能病院に勤務（経験） 原田：介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務（経験）				
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位		
種別	「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	実習をととして、施設の概要や利用者の特性、職員の役割、介護福祉の専門性、記録類の意義について学修する。また、実際の体験から見えた自己の特性や課題について理解する。介護福祉士として求められる生活支援技術やコミュニケーション等を実践し、1 日の出来事を実習日誌等にまとめ、考察する。また、実習全体のまとめとして実習レポートを作成する。 この授業は現場実習のため、学生は実習先の指導者に対して積極的に質問を行い、なお不明な点や学習の進め方について巡回指導時に教員代入り指導を受ける。				
到達目標	1.施設や事業所の概要と特徴、介護職員の役割を説明できる。■ 2.利用者の生活環境や個別性、特性について説明できる。■ 3.利用者とコミュニケーションを積極的に図ることができる。■ 4.介護福祉士に必要な技術（コミュニケーション、介助）を実施できる。■ 5.毎日の実習を振り返り、自己の課題や介護観を明確にすることができる。■ 6.1 日の出来事を実習日誌等にまとめ、考察することができる。記録の意義を説明することができる。■				
評価方法	実習課題 40%（日誌、レポートなどの記録） 介護実習評価票 30%（施設からの評価票） 教員評価 30%（手引きの「1.目的、2.目標、3.具体的目標と内容」に関する巡回指導時の口頭報告内容）				
使用教材	介護実習の手引き				
参考文献					
課題に対するフィードバック	介護総合演習Ⅱの授業内で実習を振り返りながら、口頭指導を行う。				
オフィスアワー （研究室）	質問及び学習相談には、実習開始前、実習中、もしくは終了後に応じる。	メールアドレス （＃→＠）	連絡手段は事前ガイダンス時にアナウンスする。		
講義内容	実習期間は 12 日間（96 時間）として実施する。 到達目標に向けて、実習施設の実習指導者によって立案される実習計画により、以下の点を実施する。 1)施設・事業所の沿革と事業内容、特徴を理解する。 2)介護職員の業務内容と他職種の役割を知る。 3)利用者の生活環境（生活スペース等の物的環境、他利用者や職員等の人的環境）について理解する。				

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	4)積極的なコミュニケーションを通じて、利用者の個別性や特性について理解する。		
	5)生活支援技術の原則に沿って、実習指導者とともに介助を実施する。		
	6)介護関係の記録の様式について学ぶ。		
	7)利用者のプライバシー保護や守秘義務の重要性について学ぶ。		
	予習	介護総合演習Ⅰおよび関連科目を参考に、実習中の疑問点を見直す。	22.5 時間
	復習	日誌に記載しながら、不明な点を教科書などで確認する。	22.5 時間
合計時間(予習・復習)			45 時間
備考	質問などは実習巡回指導時のほか、メールなどを活用して行う。詳細は直前ガイダンスにて説明する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	介護実習Ⅱ(専門展開科目)			科目ナンバリング	SWK322
英文名	Practice Care TrainingⅡ			講義形態	実習
担当教員	原田 欣宏、渡邊 洋子、堀口 美奈子				
科目に関連した実務経験	原田:介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務 渡邊:厚生労働省看護師国家資格を取得し、特定機能病院に勤務 堀口:介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務				
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 4 単位		
種別	「介護福祉士」指定科目				
学位授与方針との対応	豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
	基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	利用者の障害のレベルによるニーズの違い、利用者の特性を理解し、個々に応じた援助技術を修得する。 この授業は現場実習のため、学生は実習先の指導者に対して積極的に質問を行い、なお不明な点や学習の進め方について巡回指導時に教員より指導を受ける。				
到達目標	1.実習施設的环境や概況を理解する。■ 2.介護職員の1日の業務内容や実習施設の社会的役割について理解する。■ 3.利用者と積極的に交流を図り、コミュニケーション技術を修得する。■ 4.高齢者や障害(児)者の特徴を理解した上で、個々に応じた介護技術を修得する。■ 5.利用者のニーズを把握するためのアセスメントについて理解する。■ 6.障害者の自立支援と社会資源の活用について理解する。■ 7.介護職員間及び他の専門職種との連携について理解する。■ 8.施設における記録の実践について学び、記録の意義について理解する。■ 9.介護者のあり方及び自己の学習課題を理解する。■				
評価方法	①実習課題(日誌、レポートなどの記録)40%、②介護実習評価票(施設からの評価票)30%、③教員評価(手引きの「1.目的、2.目標、3.具体的目標と内容」に関する巡回指導時の口頭報告内容40%、 合計 60%以上で単位認定を行う				
使用教材	介護実習の手引き				
参考文献					
課題に対するフィードバック	介護総合演習Ⅲの授業内で実習を振り返りながら口頭指導を行う。				
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、実習巡回指導時のほか、実習前後にも応じる。	メールアドレス (#→@)	原田 harada#takasaki-u.ac.jp 渡邊 wyoko#takasaki-u.ac.jp 堀口 horiguchi-m#takasaki-u.ac.jp		
講義内容	実習期間は22日間(176時間)として実施する。 到達目標に向けて、実習施設の実習指導者によって立案される実習計画により、以下の点を実施する。 1)施設種別の特性や周辺環境を理解する■ 2)利用者の施設での生活の理解、介護職員の業務と役割、施設の社会的役割、家族や家族会への対応について学ぶ■ 3)利用者の話への傾聴、表情や仕草の観察からニーズの把握、利用者の個性の違いの理解と、聴覚障害、視覚障害、運動障害等のある利用者とのコミュニケーション技術を修得する■ 4)利用者の障害の程度に応じた環境整備の理解と援助技術の修得を学ぶ■ 5)利用者の身体的状態、利用者の心理的状況、社会的環境・関係の把握する方法を学ぶ■ 6)障害者の自立への過程や発達保障の視点と人権尊重、自立支援、地域ボランティア、自立生活福祉用具の給付や貸与の制度について理解する■ 7)介護職員間及び他の専門職種との連携を理解する■				

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	予習	介護総合演習Ⅱおよび関連科目を参考に、実習中の疑問点を見直す	時間
	復習	日誌に記載しながら、不明な点を教科書などで確認する。	時間
合計時間(予習・復習)			時間
備考	質問などは実習巡回指導時のほか、メールなどを活用して行う。詳細は直前ガイダンスにて説明する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	介護実習Ⅲ(専門展開科目)			科目 ナンバリング	SWK323
英文名	Practice Care TrainingⅢ			講義形態	実習
担当教員	渡邊 洋子、原田 欣宏、堀口 美奈子				
科目に関連した 実務経験	渡邊:厚生労働省看護師国家資格を取得し、特定機能病院に勤務していた(経験) 原田:介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務(経験) 堀口:介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務(経験)				
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 4 単位		
種別					
学位授与方針 との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	介護実習を通して、知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。 国家資格に求められる資質、技能、倫理、自己課題等、総合的に対応できる能力を身につける。 配属された施設において、介護が必要な人々の生活に介入する。様々な技術や知識を習得したことを、 帰宅後に再確認し、実習日誌に整理する。また特定のケースをもとに必要な情報を収集し、事例検討に 向けて用意周到に準備を行う。				
到達目標	個々の生活リズムや個性を理解できる。 様々な生活の場において個別ケアを理解できる。 利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じ て、チームの一員としての介護福祉士の役割を理解できる。 利用者の課題を明確にするために、利用者のニーズに沿った介護計画を作成できる。 介護計画実施後の評価、および評価から再アセスメントした計画を導くことができる。 一連の介護過程の展開から、他科目で学習した知識や技術を総合し、具体的な介護サービスの提供の 基本となる実践力を習得できる。■				
評価方法	施設実習担当者による評価表、実習担当教員による所見、実習後に提出する学生の報告書や自己評価 を総合的に評価する。				
使用教材	学科作成の実習の手引き				
参考文献					
課題に対する フィードバック	実習の手引きと個人で作成したノートを提出期限内に提出した学生には、授業担当者からのコメントを付 して返却する。実習報告会に向けて作成した資料は資料集として当日配布を予定している。				
オフィスアワー (研究室)	火曜 2 時限<渡邊> 金曜 1 時限<原田> 月曜・水曜 3 時限<堀口> (予めメール等でご予約ください。)	メールアドレス (#→@)		直前ガイダンス等で、各担当教員から アナウンスします。	
講義内容	上記の到達目標に向けて、実習先に 24 日間(192 時間)通い、実習を行う■ 1.利用者やその関係者(家族・親族・友人)等、施設・事業者・機関・団体等の職員等との基本的なコミュ ニケーションをはじめとする円滑な人間関係を形成する 2.利用者やその関係者(家族・親族・友人)等との援助関係を形成する 3.利用者やその関係者(家族・親族・友人)等への権利擁護及び介護計画の立案及び実施、評価を実践 する				

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	4.多職種が連携することで利用者を、多角的に援助するチームアプローチの実際を理解する		
	5.介護福祉士としての職業倫理、施設・職員の就業規定など、組織の一員としての役割と責任を理解する		
	6.施設・事業者・機関・団体等の運営やサービス提供のしくみや管理の実際を理解する		
	7.当該実習先が、地域社会における施設・事業者・機関・団体等としての役割を理解する		
	8.当該実習先が、地域社会へ働きかけるアウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用等を、具体的に理解する		
	予習	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認	期間中適宜
	復習	実習先で学んだことの再確認、現場で得た実体験のまとめ 報告会用資料準備	期間中適宜
合計時間(予習・復習)			時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名		医療的ケア論Ⅰ（専門展開科目）			科目ナンバリング	SWK324
英文名		Theory of Medical CareⅠ			講義形態	講義
担当教員		渡邊 洋子				
科目に関連した実務経験		厚生労働省看護師資格を取得し、特定機能病院に勤務した経験あり				
学年・開講期		3 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要（テーマ・内容）		医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などを習得する。喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、急変状態に対応するための基礎知識を習得する。また吸引をうける利用者や家族への対応を理解し、急変時や事故発生時への対応を習得する。さらに喀痰吸引を実施する際、必要な観察力や異常を察知する能力、医療職員との連携を理解する。授業終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出させる。それをもとに次の講義冒頭で補足する。				
到達目標		1.医療的ケアの必要性を理解し、倫理的な意味を説明できる。 2.医療的ケアにおける関係法規や他職種との連携を説明できる。 3.医療的ケアにおける安全な療養生活の必要性を理解し、実践できる。■ 4.医療的ケアにおける感染予防及び清潔保持の必要性を理解し、実践できる。■ 5.医療的ケアにおいて呼吸器系の解剖、生理を正しく理解し、喀痰吸引を実践できる。■ 6.医療的ケアにおいて呼吸器系の解剖、生理を正しく理解し状況に応じ医療職員との連携が実践できる。				
評価方法		授業参加度 20%・ミニレポート 20%・期末筆記試験 60%				
使用教材		川井太加子編『医療的ケア』メヂカルフレンド社 講義の際に、レジュメと資料を作成し、毎回、配布する				
参考文献						
課題に対するフィードバック		ミニレポートは、翌週の講義の冒頭で紹介し、学習目標の到達度を確認する。また疑問質問に対応する。 期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。				
オフィスアワー（研究室）		火曜 2 時限 研究室：1 号館 5 階 505 （メール等でご予約ください。）		メールアドレス（#→@）	初回授業時に配布する詳細シラバスに記載	
1	講義内容	ガイダンス・医療的ケアとは？				
	該当到達目標 1	予習	シラバスを精読し、学習目標を理解する・開講日時を確認する			1 時間
		復習	講義内容、到達目標、評価方法等を確認する			1.5 時間
2	講義内容	人間と社会				
	該当到達目標 1,2	予習	教科書第 2 章を精読する			1 時間
		復習	医療的ケアにおける人間と社会の位置づけを理解する			1.5 時間
3	講義内容	保健医療制度とチーム医療①保健医療に関する制度と関係法規				

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2	予習	教科書第３章を精読する	1 時間
		復習	保健医療に関する制度と関係法規を理解する	1.5 時間
4	該当到達目標 1,2	講義内容 保健医療制度とチーム医療②チーム医療と介護職員と他職種との連携		
		予習	教科書第３章を精読する	1 時間
		復習	チーム医療と介護職員と他職種との連携を理解する	1.5 時間
5	該当到達目標 3,4,5	講義内容 安全な療養生活①たんの吸引や経管栄養の安全な実施■		
		予習	教科書第４章を精読する	1 時間
		復習	たんの吸引や経管栄養の安全な実施方法を理解する	1.5 時間
6	該当到達目標 3,4,5	講義内容 安全な療養生活②救急蘇生法		
		予習	教科書第４章を精読する	1 時間
		復習	救急蘇生法の必要性和手順を理解する	1.5 時間
7	該当到達目標 3,4	講義内容 清潔保持と感染予防①感染のメカニズムと感染予防		
		予習	教科書第５章を精読する	1 時間
		復習	感染のメカニズムと感染予防を理解する	1.5 時間
8	該当到達目標 3,4	講義内容 清潔保持と感染予防②療養環境の清潔と消毒法		
		予習	教科書第５章を精読する	1 時間
		復習	療養環境の清潔と消毒法を理解する	1.5 時間
9	該当到達目標 3,4,5	講義内容 高齢者及び障害児者の痰の吸引①呼吸器系と呼吸のしくみ		
		予習	教科書第１章を精読する	1 時間
		復習	人の呼吸器系と呼吸のしくみを理解する	1.5 時間
10	該当到達目標 3,4,5	講義内容 高齢者及び障害児者の痰の吸引②痰の吸引		
		予習	教科書第１章を精読する	1 時間
		復習	痰の吸引を理解する	1.5 時間
11	該当到達目標 3,4,5	講義内容 高齢者及び障害児者の痰の吸引③人工呼吸器と吸引		
		予習	教科書第１章を精読する	1 時間
		復習	人工呼吸器及び吸引の手技を理解する	1.5 時間
12	該当到達目標 3,4,5	講義内容 高齢者及び障害児者の痰の吸引④子どもの吸引		
		予習	教科書第１章を精読する	1 時間
		復習	子どもの吸引を理解する	1.5 時間
13	該当到達目標 1,3,4,5	講義内容 高齢者及び障害児者の痰の吸引⑤吸引を受ける利用者と家族への対応		
		予習	教科書第１章を精読する	1 時間
		復習	吸引を受ける利用者と家族への対応を理解する	1.5 時間
14	該当到達目標 1,3,4,5,6	講義内容 高齢者及び障害児者の痰の吸引⑥ヒヤリハットやアクシデントへの対応・医療職員との連携		
		予習	教科書第１章を精読する	1 時間
		復習	ヒヤリハットやアクシデントへの対応・医療職員との連携を理解する	1.5 時間
15	該当到達目標	講義内容 まとめ		
		予習	教科書、レジュメ及び資料から、これまでの講義内容や不明瞭な箇所を確認する	1 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	1,3,4,5,6	復習	教科書、レジュメ及び資料から、これまでの講義内容を習得する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		医療的ケア論Ⅱ（専門展開科目）			科目ナンバリング	SWK325
英文名		Theory of Medical CareⅡ			講義形態	講義
担当教員		渡邊 洋子				
科目に関連した実務経験		厚生労働省看護師資格を取得し、特定機能病院に勤務した経験あり				
学年・開講期		4 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位		
種別						
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などを習得する。経管栄養に必要な人体の構造と機能、急変状態に対応するための基礎知識を習得する。また経管栄養をうける利用者や家族への対応を理解し、急変時や事故発生時への対応を習得する。さらに経管栄養を実施する際、必要な観察力や異常を察知する能力、医療職員との連携を理解する。 授業終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出させる。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。				
到達目標		1.医療的ケアにおける安全な療養生活の必要性を理解し、実践できる。 2.包括的な健康状態を理解し、バイタルサインを測定し、正常と異常の判別及び、緊急対応を実践できる。■ 3.医療的ケアにおける清潔保持の必要性を理解し、物品等の消毒を実践できる。 4.医療的ケアにおいて呼吸器系及び消化器系の解剖、生理を正しく理解し、経管栄養を実践できる。■ 5.医療的ケアにおいて呼吸器系及び消化器系の解剖、生理を正しく理解し、状況に応じ医療職員との連携が実践できる。■				
評価方法		授業参加度 20%・ミニレポート 20%・期末筆記試験 60%				
使用教材		川井太加子編『医療的ケア』メヂカルフレンド社 講義の際に、レジュメと資料を作成し、毎回、配布する				
参考文献						
課題に対するフィードバック		ミニレポートは、翌週の講義の冒頭で紹介し、学習目標の到達度を確認する。また疑問質問に対応する。 期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。				
オフィスアワー (研究室)		火曜 2 時限 研究室:1 号館 5 階 505 (メール等ご予約ください。)		メールアドレス (#→@)	初回授業時に配布する詳細シラバスに記載	
1	講義内容	ガイダンス				
	該当到達目標 1	予習	シラバスを精読し、学習目標を理解する・開講日時を確認する			1 時間
		復習	講義内容、到達目標、評価方法等を確認する			1.5 時間
2	講義内容	療養環境の清潔と消毒法				
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章を精読する			1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,3	復習	医療的ケアにおける療養環境の清潔と消毒法を理解する	1.5 時間
3	講義内容	健康状態の把握① 身体及び精神の健康		
	該当到達目標	予習	教科書第6章を精読する	1 時間
	1,2	復習	医療的ケアにおける身体及び精神の健康を理解する	1.5 時間
4	講義内容	健康状態の把握② バイタルサインと急変状態の対応＊		
	該当到達目標	予習	教科書第6章を精読する	1 時間
	1,2	復習	医療的ケアにおけるバイタルサインと急変状態の対応	1.5 時間
5	講義内容	高齢者及び障害児者の経管栄養① 消化器系のしきみとはたらき		
	該当到達目標	予習	教科書第2章を精読する	1 時間
	4,5	復習	経管栄養における消化器系のしきみとはたらきを理解する	1.5 時間
6	講義内容	高齢者及び障害児者の経管栄養② 消化吸収及び消化器系症状		
	該当到達目標	予習	教科書第2章を精読する	1 時間
	4,5	復習	経管栄養における消化吸収及び消化器症状を理解する	1.5 時間
7	講義内容	高齢者及び障害児者の経管栄養③ 経管栄養法と留意事項■		
	該当到達目標	予習	教科書第2章を精読する	1 時間
	4,5	復習	医療的ケアにおける経管栄養法及び留意事項を理解する	1.5 時間
8	講義内容	高齢者及び障害児者の経管栄養④ 生命維持における栄養・水分摂取・消化機能		
	該当到達目標	予習	教科書第2章を精読する	1 時間
	4,5	復習	経管栄養における栄養や水分摂取の必要性や消化機能を理解する	1.5 時間
9	講義内容	高齢者及び障害児者の経管栄養⑤ 経管栄養の分類内容とその知識		
	該当到達目標	予習	教科書第2章を精読する	1 時間
	4,5	復習	経管栄養における栄養剤の分類内容とその扱い方を理解する	1.5 時間
10	講義内容	高齢者及び障害児者の経管栄養⑥ 子どもの経管栄養法		
	該当到達目標	予習	教科書第2章を精読する	1 時間
	4,5	復習	子どもの経管栄養法を理解する	1.5 時間
11	講義内容	高齢者及び障害児者の経管栄養⑦ 経管栄養にかかわる感染と予防		
	該当到達目標	予習	教科書第2章を精読する	1 時間
	4,5	復習	経管栄養における感染とその予防を理解する	1.5 時間
12	講義内容	高齢者及び障害児者の経管栄養⑧ 経管栄養をうける利用者と家族への対応		
	該当到達目標	予習	教科書第2章を精読する	1 時間
	4,5	復習	経管栄養をうける利用者と家族への対応を理解する	1.5 時間
13	講義内容	高齢者及び障害児者の経管栄養⑨ ヒヤリハットやアクシデント		
	該当到達目標	予習	教科書第2章を精読する	1 時間
	4,5	復習	経管栄養におけるヒヤリハットやアクシデントへの対応を理解する	1.5 時間
14	講義内容	高齢者及び障害児者の経管栄養⑩ 急変や事故発生時の対応と医療職員との連携		
	該当到達目標	予習	教科書第2章を精読する	1 時間
	4,5	復習	経管栄養における急変や事故発生時の対応と医療職員との連携を理解する	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	教科書、レジュメ及び資料から、これまでの講義内容や不明瞭な箇所を確認する	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	教科書、レジュメ及び資料から、これまでの講義内容を習得する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		医療的ケア論Ⅲ(専門展開科目)		科目ナンバリング	SWK326
英文名		Theory of Medical CareⅢ		講義形態	講義
担当教員		渡邊 洋子			
科目に関連した実務経験		厚生労働省看護師資格を取得し、特定機能病院に勤務した経験あり			
学年・開講期		4 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1 単位	
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などを習得する。経管栄養に必要な人体の構造と機能、急変状態に対応するための基礎知識を習得する。また経管栄養や喀痰吸引をうける利用者や家族への個別対応を理解し、急変時や事故発生時への対応を習得する。さらに経管栄養や喀痰吸引を実施する際、必要な観察力や異常を察知する応用力や、医療職員との協働について理解する。 授業終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出させる。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。			
到達目標		1.医療的ケアの必要性を理解し、倫理的なケアを、個々の状況に合わせて実践できる。 2.関係法規や他職種との連携の必要性を理解し、個々の状況に合わせて実践できる。 3.安全な療養生活の必要性を理解し、個々の状況に合わせて実践できる。 4.感染予防及び清潔保持の必要性を理解し、個々の状況に合わせて実践できる。■ 5.呼吸器系の解剖、生理を正しく理解し、喀痰吸引を、個々の状況に合わせて実践できる。■ 6.消化器系の解剖、生理を正しく理解し、経管栄養を、個々の状況に合わせて実践できる。■			
評価方法		授業参加度 50%・実技チェック 50%			
使用教材		川井太加子編『医療的ケア』メヂカルフレンド社 演習時にワークシート及び資料を作成し、配布する			
参考文献					
課題に対するフィードバック		演習の際に、課題に沿ったワークシートを使用する。手順方法への気づきや疑問を記入し考察する。翌週には、個別のワークシートに赤入れし、返却し、受講生全員にフィードバックし、習熟度を高める。			
オフィスアワー (研究室)		火曜 2 時限 研究室:1 号館 5 階 505 (メール等でご予約ください。)	メールアドレス (#→@)	初回授業時に配布する詳細シラバスに記載	
1	講義内容	高齢者及び障害児者の食事① 事例から経管栄養について考える			
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章・2 章・3 章・4 章・5 章・第二部第 2 章を精読する		1 時間
	1,2,3,4,6	復習	個々の状況に合せた経管栄養法を理解する		1.5 時間
2	講義内容	高齢者及び障害児者の食事② 事例から胃瘻や腸瘻について考える			
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章・2 章・3 章・4 章・5 章・第二部第 2 章を精読する		1 時間
	1,2,3,4,6	復習	個々の状況に合せた胃瘻や腸瘻を理解する		1.5 時間
3	講義内容	緊急時の対応① 高齢者に多い突発事故への対応			
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章・2 章・3 章・4 章・5 章・6 章を精読する		1 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4	復習	高齢者に多い突発事故とその対応を理解する	1.5 時間
4	講義内容	緊急時の対応② 施設におけるリスクマネジメント		
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章・2 章・3 章・4 章・5 章・6 章を精読する	1 時間
	1,2,3,4	復習	施設におけるリスクとリスクマネジメントを理解する	1.5 時間
5	講義内容	在宅酸素療法① 気管切開及び人工呼吸器のしくみ■		
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章・2 章・3 章・4 章・5 章・第二部第 1 章を精読する	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	気管切開及び人工呼吸器のしくみを理解する	1.5 時間
6	講義内容	在宅酸素療法② 吸引と吸入のしくみ		
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章・2 章・3 章・4 章・5 章・第二部第 1 章を精読する	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	吸引器のしくみ及び名称、吸引の手順や留意事項を理解する	1.5 時間
7	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	教科書、レジュメ及び資料から、これまでの講義内容や不明瞭な箇所を確認する	1 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	教科書、レジュメ及び資料から、これまでの講義内容を習得する	1.5 時間
8	講義内容			
	該当到達目標	予習		1 時間
		復習		1.5 時間
合計時間(予習・復習)				17.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		医療的ケア演習(専門展開科目)		科目ナンバリング	SWK327
英文名		Seminar in Medical Care		講義形態	演習
担当教員		渡邊 洋子			
科目に関連した実務経験		厚生労働省看護師資格を取得し、特定機能病院に勤務した経験あり			
学年・開講期		4 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1 単位	
種別					
学位授与方針との対応			豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力
			基礎的知識力	✓	応用・実践する能力
			問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力
講義概要 (テーマ・内容)		医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などを習得する。経管栄養に必要な人体の構造と機能、急変状態に対応するための基礎知識を習得する。また経管栄養や喀痰吸引をうける利用者や家族への個別対応を理解し、急変時や事故発生時への対応を習得する。さらに経管栄養や喀痰吸引を実施する際、必要な観察力や異常を察知する応用力や、医療職員との協働について理解する。 授業終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出させる。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。			
到達目標		1.医療的ケアの必要性を理解し、倫理的なケアを、個々の状況に合わせて実践できる。■ 2.関係法規や他職種との連携の必要性を理解し、個々の状況に合わせて実践できる。 3.安全な療養生活の必要性を理解し、個々の状況に合わせて実践できる。 4.感染予防及び清潔保持の必要性を理解し、個々の状況に合わせて実践できる。 5.呼吸器系の解剖、生理を正しく理解し、喀痰吸引を、個々の状況に合わせて実践できる。 6.消化器系の解剖、生理を正しく理解し、経管栄養を、個々の状況に合わせて実践できる。			
評価方法		授業参加度 50%・実技チェック 50%			
使用教材		川井太加子編『医療的ケア』メヂカルフレンド社 演習時にワークシート及び資料を作成し、配布する			
参考文献					
課題に対するフィードバック		演習の際に、課題に沿ったワークシートを使用する。手順方法への気づきや疑問を記入し考察する。その後、個別のワークシートに赤入れ返却する。返却の際に、疑問点や考察を要約し、受講生全員にフィードバックし、習熟度を高める。			
オフィスアワー (研究室)		火曜 2 時限 研究室:1 号館 5 階 505 (メール等でご予約ください。)	メールアドレス (#→@)	初回授業時に配布する詳細シラバスに記載	
1	講義内容	高齢者及び障害児者の痰の吸引① 吸引器のしくみ・準備と後片付け(清潔保持)			
	該当到達目標	予習	教科書第二部第 1 章を精読する		1 時間
	1,2,3,4,5	復習	痰の吸引における吸引器のしくみを理解し、準備や後片付けを実践する		1.5 時間
2	講義内容	高齢者及び障害児者の痰の吸引② 口腔及び鼻腔吸引の実際 *			
	該当到達目標	予習	教科書第二部第 1 章を精読する		1 時間
	1,2,3,4,5	復習	口腔及び鼻腔における吸引の実際を理解する		1.5 時間
3	講義内容	高齢者及び障害児者の痰の吸引③ 気管カニューレ内吸引の実際・観察、記録及び報告			

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	教科書第二部第 1 章を精読する	1 時間
		復習	気管カニューレ内吸引の実際や観察点を理解し、記録や報告を実践する	1.5 時間
4	講義内容	高齢者及び障害児者の経管栄養① 経管栄養の器材のしくみ・準備と後片付け(清潔保持)		
	該当到達目標 1,2,3,4,6	予習	教科書第二部第 2 章を精読する	1 時間
		復習	経管栄養の器材のしくみを理解し、準備や後片付けを実践する	1.5 時間
5	講義内容	高齢者及び障害児者の経管栄養② 胃瘻及び腸瘻による経管栄養の実際		
	該当到達目標 1,2,3,4,6	予習	教科書第二部第 2 章を精読する	1 時間
		復習	胃瘻及び腸瘻による経管栄養の実際を理解する	1.5 時間
6	講義内容	高齢者及び障害児者の経管栄養③ 経鼻による経管栄養の実際・観察、記録及び報告■		
	該当到達目標 1,2,3,4,6	予習	教科書第二部第 2 章を精読する	1 時間
		復習	経鼻による経管栄養の実際や観察点を理解し、記録や報告を実践する	1.5 時間
7	講義内容	救急蘇生法－AED による救急蘇生法の実際		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書第 6 章を精読する	1 時間
		復習	AED による救急蘇生法の実際を理解する	1.5 時間
8	講義内容	まとめ		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	教科書、ワークシート及資料から、これまでの演習内容や不明瞭な箇所を確認する	1 時間
		復習	教科書、ワークシート及資料から、これまでの演習内容を習得する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				20 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		総合演習Ⅰ（卒業研究及び演習）			科目 ナンバリング	SWT401
英文名		Seminar in Advanced StudiesⅠ			講義形態	講義
担当教員		安達 正嗣				
科目に関連した 実務経験		兵庫県庁の家庭問題研究所において３年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。				
学年・開講期		３年 前期	選必・単位数	必修 １単位		
種別						
学位授与方針 との対応			豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		現代の日本社会において、高齢化に関する福祉社会学的ならびに家族社会学的な視点・分析能力の養成は、さまざまな学術分野のみならず、社会福祉・精神保健・介護の現場のなかで重要性を増してきている。本演習では、高齢者福祉のあり方を考えることを通じて、こうした視点・分析能力を身につけることを目指すものである。 受講生が主体となって、司会と報告者の役割をおこない、教科書の担当章に関する報告者の報告内容・レジュメをめぐって議論して、担当教員が適宜に助言しながら、教科書の内容の理解を深めるものである。				
到達目標		(1) 高齢化の現状と高齢者福祉政策の動向について理解できる。 (2) 高齢社会における課題を明確化して認識することができる。 (3) 受講生が自らの問題意識から研究テーマを発見でき、プレゼンテーションの能力を養うことができる。 (4) 福祉社会学・家族社会学の研究手法(調査方法を含む)を習得できる。■ (5) ゼミ論を作成することによって、卒論を作成する能力を身につけることができる。				
評価方法		受講生に対する評価の内訳は、演習中の研究課題への取り組みに対する評価(50%)、学期末に提出するレポート(プレ・ゼミ論)の評価(50%)、合計 100%で評価する。				
使用教材		直井道子・中野いく子・和気純子『高齢者福祉の世界』有斐閣アルマ(補訂版)				
参考文献		講義中、適宜指示する。				
課題に対する フィードバック		毎回の報告、提出された学期末レポートについて、コメントをつけて返却して、書き直したレポートを点検する。				
オフィスアワー (研究室)		火曜日 5 限・6 限		メールアドレス (#→@)	adachi-m#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション(自己紹介、教科書とゼミ運営・今後の予定の説明、教科書の各章に関する報告の順番の決定、ゼミ長の選出)。実務経験で得た調査データの分析を通じた政策提言に関して解説する。■				
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書を読んで、自分の報告したい章を３つ以上、選んでおくこと。			1.5 時間
		復習	自分が報告することになった章を熟読し、関連の資料や文献を調べて、報告レジュメを作成しておくこと。			1.5 時間
2	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。				
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。			1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。			1.5 時間
3	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。				

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
4	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
5	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
6	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
7	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
8	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
9	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
10	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	報告者はレジメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	報告者はレジメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	報告者はレジメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	報告者はレジメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	プレ・ゼミ論の作成について解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	教科書の内容とこれまでの議論を整理しておくこと。	3 時間
		復習	プレ・ゼミ論の作成をすること。	3 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間
備考	報告者が無断欠席をすると、単位が不可となります。必ず、報告者以外の受講生は、質問や意見を述べるのが義務となっています。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究及び演習）				科目 ナンバリング	SWT401
英文名	Seminar in Advanced Studies I				講義形態	講義
担当教員	金井 敏					
科目に関連した 実務経験	コミュニティソーシャルワークの実践主体としての社会福祉協議会に勤務していた。実務を担当するとともに、ソーシャルワーカーの育成にも従事した。現在、行政や社協、民生委員協議会、団体の計画づくりや実践の企画・評価に携わっている。					
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	地域福祉実践を中心としてコミュニティソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。 ゼミの運営は学生が主体的に協力しながら運営する。研究・実践活動は、歴代のゼミの先輩が実践してきた内容＝ふれあい・いきいきサロン、大類地域福祉教育の会運営、赤い羽共同募金などの企画・運営・振り返りをベースとします。教員は自身の研究テーマと教育スタンスにより、フィールドの実践やアドバイスを行います。					
到達目標	1.現地演習を通じて、地域住民や団体が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。■ 2.現地演習を通じて、地域団体の運営方法や事業の企画、広報、連絡調整の技術を修得する。■ 3.コミュニティソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。■ 4.ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。■					
評価方法	①専門分野における演習の取り組み、②地域課題への取り組み、③グループ学習による取り組み、による専門的な学修、知識の獲得等により評価 100%。					
使用教材	テキストは使用しない。					
参考文献	その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付します。					
課題に対する フィードバック	演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。					
オフィスアワー (研究室)	月曜日 12 時 15 分～13 時 水曜日 12 時 15 分～13 時 で相談に応じます。 研究室:1 号館 3 階 310 研究室。		メールアドレス (#→@)		kanai#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、到達目標、授業計画を理解する。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			1.5 時間
2	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■				
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			1.5 時間
3	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■				
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			1.5 時間
4	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■				
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			1.5 時間
5	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■				
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
6	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
7	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
8	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
9	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
10	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
11	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
12	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
13	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
14	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
15	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	●シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表しています。			

科目名	総合演習 I（卒業研究及び演習）			科目 ナンバリング	SWT401
英文名	Seminar in Advanced Studies I			講義形態	演習
担当教員	上原 徹				
科目に関連した 実務経験	精神科医として大学病院等で勤務経験 30 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている				
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
	✓	基礎的知識力		応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	これまでの学習の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学習、知識の獲得することができる。 4 月の段階で「精神医療」、「メンタルヘルス」、「PSW」、「MSW」、「小児保健福祉(こどもの疾病、障害、虐待などの社会問題)」、などをキーワードに、各自興味のある課題分野の中から研究発表会に向けて具体的テーマを決定する。主なゼミ時間は自主的調査や自律的学習に利用し、月 1 回程度進捗状況をゼミで報告する。学習調査の結果を 9 月中にまとめ、10 月末に予定されている報告会でプレゼンテーションと質疑応答を担当する。適宜、DVD を利用した情報提供も行う。				
到達目標	調査報告の基礎を理解することができる。テーマを選定し、計画を立てることができる。■				
評価方法	発表テーマの立案、調査計画に関する課題の提出、出席や参加度から 60%以上を合格とする。				
使用教材	必要に応じて指示する				
参考文献	田坂広志 著 「なぜ、働くのか」、「成長し続けるための 77 の言葉」「忘れられた叢智」				
課題に対する フィードバック	能動的に課題のフィードバックや相談を進める。				
オフィスアワー (研究室)	月 4、金 3 研究室:1 号館 5 階 501	メールアドレス (#→@)	授業で提示する		
講義内容	初回の講義時間に講義全体についてのオリエンテーションを行う■				
	予習	毎回指示する			8 時間
	復習	毎回指示する			8 時間
合計時間(予習・復習)					16 時間
備考	精神保健福祉や医療保健領域に興味関心・問題意識があること。自主的な学習や調査に抵抗感や苦手意識がないこと。自発的・自律的にゼミ時間を自身の学習調査に活用できること、自分から積極的に教員とアポイント(連絡や相談)を取ることでできる学生を強く求める。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究及び演習）			科目 ナンバリング	SWT401
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅠ			講義形態	演習
担当教員	永田 理香				
科目に関連した 実務経験	研修担当者として社会福祉研修実施機関（県社会福祉協議会）に勤務（経験）				
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	現在、福祉人材確保政策において人材育成の重要性が注目され、キャリアパスの策定や人材育成 認証評価制度等の取組みが進められてきている。本演習では、人材育成を組織的な学習・教育活 動と捉え、福祉専門職が将来展望を持ちながらキャリアアップできる人材育成のあり方について学 んでいく。 基本的な研究の流れと方法が理解できるよう、個人のニーズに合わせ段階的に演習を進めてい く。プレゼンテーションスキルの向上を目指し、スライドの構成・作成方法、発表方法について実践的 に指導を行なう。				
到達目標	1.福祉人材育成の今日的動向について理解できる。■ 2.福祉人材育成における課題を明確化することができる。■ 3.研究テーマに基づき研究計画を立案することができる。				
評価方法	問題解決学習を中心とした授業展開とするため、段階的に形成的評価を行なう。その内訳は、授業 における発言内容（30%）、研究計画の妥当性（30%）、研究活動への貢献度（40%）とし、60%以上 を合格とする。				
使用教材	必要に応じて指示する				
参考文献					
課題に対する フィードバック	提出された課題については、出題した意図ついて解説を行い、コメントを付け返却を行なう。				
オフィスアワー （研究室）	火曜日 3 時限と水曜日 2 時限	メールアドレス （#→@）	メールアドレスは初回授業時に提示 する。		
講義内容	初回到研究活動についてのオリエンテーションを行う				
	予習	適宜指示する			1.5 時間
	復習	適宜指示する			1.5 時間
合計時間（予習・復習）					45 時間
備考	■：実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究及び演習）				科目 ナンバリング	SWT401
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅠ				講義形態	講義
担当教員	戸澤 由美恵					
科目に関連した 実務経験	国立療養所栗生楽泉園人権擁護委員会外部委員					
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	ハンセン病問題を中心に現地演習やグループワーク等を通じて、社会福祉従事者として問題に向き合う姿勢、問題解決の実践方法や支援者の役割を理解する。 全体を通して、ハンセン病問題の事象や当事者のイメージが持てるように、視聴覚教材を多用する。それに基づいてグループワークなどを行う。 入所者とのイベント・交流を実施する。					
到達目標	1.当事者との交流を通じて、当事者が抱える感情や課題、ストレングスを理解するとともに、それらを尊重した関わりとイベント企画ができる 2.イベント企画と現地演習を通じて、支援者である他団体・多職種の存在と役割を理解し、自身も支援者として支援方法やソーシャルアクションの方法の一部を実践・修得できる 3. 身近にある差別や偏見、社会的排除等に目を向け、福祉と人権について自分なりの考えを持てる					
評価方法	1.レポート作成と発表、リアクションペーパー・ミニレポート等の提出物の状況等 2.グループディスカッションやグループワークへの参加姿勢や貢献度、課題の達成状況等 3.療養所等見学や入所者や支援者との交流、イベント等への参加姿勢と実践、協力・貢献度等を総合して評価する					
使用教材	視聴覚教材を活用し、レジュメや資料をその都度配布する					
参考文献	参考文献等は随時紹介する					
課題に対する フィードバック	リアクションペーパーやレポートの記載を実施し、後日、全員への共有を原則とする（一部、入所者や外部とも共有）。必要に応じて、全体への追加説明やコメント等を行う					
オフィスアワー (研究室)	水曜 2 限 3 階 303		メールアドレス (#→@)		tozawa#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで、授業内容や講義の目標などを理解する			0.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容、到達目標、評価方法などを確認し、学習の全体像を把握する			0.5 時間
2	講義内容	ハンセン病問題を理解する①ハンセン病とハンセン病問題の基礎的理解■				
	該当到達目標	予習	1 回目の資料を元に自分なりに調べ、疑問点を明らかにする			1.5 時間
	1,2	復習	配布資料や映像を元に、新たな知識をノートに整理する			1.5 時間
3	講義内容	ハンセン病問題を理解する②ハンセン病問題の歴史と国立療養所栗生楽泉園を知る■				
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、自分なりの意見を持ち、疑問点を明らかにする			1.5 時間
	1,2	復習	配布資料や映像を元に、新たな知識や疑問をノートに整理する			1.5 時間
4	講義内容	ハンセン病問題を理解する③当事者(入所者)の思いを知る■				
	該当到達目標	予習	配布資料をノートに整理し、自分なりに調べる			1.5 時間
	1,2	復習	配布資料や映像を元に、新たな知識や疑問をノートに整理する			1.5 時間
5	講義内容	ハンセン病問題を理解する④当事者(退所者)の思いを知る■				
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、自分なりの意見を持ち、調べ、疑問点を明らかにする			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	配布資料や映像を元に、新たな知識や疑問をノートに整理する	1.5 時間
6	講義内容	ハンセン病問題を理解する⑤ハンセン病国家賠償請求訴訟、ハンセン病家族訴訟を知る■		
	該当到達目標	予習	自分なりに調べる	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料全てを読み、新たな知識や疑問をノートに整理する	1.5 時間
7	講義内容	ハンセン病問題を理解する⑥国立ハンセン病療養所栗生楽泉園・重監房資料館を見学し、入所者と交流し、思いを理解する■		
	該当到達目標	予習	これまでの学びを元に、自分なりの目標や疑問を持つ	1.5 時間
	1,2,3	復習	見学交流を踏まえ、自分なりの意見や感想を持ちレポートにまとめる	1.5 時間
8	講義内容	身近にある差別や偏見を理解する①具体的な事象・対象を知る■		
	該当到達目標	予習	見学や入所者との交流を踏まえて、自分なりに考え調べ、発表に備える	1.5 時間
	1,2,3	復習	他のゼミ生の発表を聞き、自分なりの感想や意見を持ち、ノートに整理する	1.5 時間
9	講義内容	身近にある差別や偏見を理解する②事象の背景を考える■		
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、自分なりに調べ、疑問点を明らかにする	1.5 時間
	1,2,3	復習	他のゼミ生の発表・ディスカッションを踏まえて、自分の考え・疑問を整理する	1.5 時間
10	講義内容	身近にある差別や偏見を理解する③事象の現状を知る		
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、自分なりに調べて発表に備える■	1.5 時間
	1,2,3	復習	他のゼミ生の発表・ディスカッションを踏まえて、自分の考え・疑問を整理する	1.5 時間
11	講義内容	身近にある差別や偏見を理解する④事象への対処や解決・支援の方法を考える■		
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、自分なりに調べて発表に備える	1.5 時間
	1,2,3	復習	身近にある差別や偏見に自分なりの意見を持ち、解決や支援の方法を考える	1.5 時間
12	講義内容	入所者とのイベント・交流を企画する①企画の対象を決定し、意義と目的を考える■		
	該当到達目標	予習	これまでの学びを元に、対象や自分達にとっての企画の意義と目的を考える	1.5 時間
	1,2,3	復習	意義と目的を達成する方法を自分なりに調べ、ノートにまとめる	1.5 時間
13	講義内容	入所者とのイベント・交流を企画する②効果的な実施方法を考える■		
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、企画の提案に備える	1.5 時間
	1,2,3	復習	他のゼミ生の提案・ディスカッションをふまえて、自分の役割を考えノートにまとめる	1.5 時間
14	講義内容	入所者とのイベント・交流を企画する③必要な物品の調達や場所の確保・交渉を行う■		
	該当到達目標	予習	ノートに整理した役割や分担を確認し、グループで準備を始める	1.5 時間
	1,2,3	復習	準備・交渉過程を確認し、ゼミ生と共有・協力して準備を進める	1.5 時間
15	講義内容	入所者とのイベント・交流を企画する④準備を進める■		
	該当到達目標	予習	準備を通し、不明な点を確認し、自分なりの目標を持って実施に備える	2.5 時間
	1,2,3	復習	他者と協力して、ゼミと自分の目標の達成や評価を自分なりにまとめ評価する 前期の活動を踏まえて、後期の研究テーマ・研究計画を考える	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	* グループワークなどを行いますので、欠席をしないようにしましょう。 * 日頃から新聞を読み、ニュースや映画を見るなどして社会の情勢・動きに興味を持つようにしましょう。 * 不明な点、疑問点、質問等がある場合は、まずはメールで連絡してください。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		総合演習 I（卒業研究及び演習）			科目ナンバリング	SWT401
英文名		Seminar in Advanced Studies I			講義形態	演習
担当教員		原田 欣宏				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性		✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		福祉・医療・司法専門職と地域住民との協働による福祉実践を中心としたソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。 授業では文献や実地調査とグループワーク、ディスカッションを行い、適宜コメントする。				
到達目標		1.現地での演習を通じて、地域住民が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。 2.現地での演習を通じて、ソーシャルワーカーのソーシャルアクションに関する企画、広報、連絡調整の技術を修得する。 3.ソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。 4.ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。				
評価方法		①専門分野における演習の取り組み、②課題に取り組むことによる、より専門的な学修、知識の獲得、等により評価 100%、60%以上を合格とする。				
使用教材		テキストは使用しない				
参考文献		適宜文献を提示する				
課題に対するフィードバック		演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。				
オフィスアワー (研究室)		火曜 3 限 (1 号館 506 研究室)		メールアドレス (#→@)	harada#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、到達目標、授業計画を理解する。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
2	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
3	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
4	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
5	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
6	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

7	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
8	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
9	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
10	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
11	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
12	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
13	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
14	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
15	講義内容	今後のゼミ研究・実践を自分なりにまとめる		
	該当到達目標	予習	今期のゼミ研究・実践を自分なりにまとめる.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミでの振り返りを踏まえて, 次期に向けた準備を進める.	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	ゼミの運営は学生が主体的にかつ協力しながら運営することで学びがさらに深まることを期待しています.			

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究及び演習）				科目ナンバリング	SWT401
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅠ				講義形態	演習
担当教員	根岸 洋人					
科目に関連した実務経験	高崎市障害者支援協議会副会長（現在） 高崎市障害者虐待対策協議会会長（現在）					
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 （テーマ・内容）	障害のある人を取り巻く環境（制度、文化、支援技術等）についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を培う。 授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。授業時間以外での学修や活動を行うことが前提となる。					
到達目標	1.障害のある人を取り巻く環境について理解することができる■ 2.問題点を発見し、課題解決に向けた研究を行うことができる 3.自分の取り上げた研究テーマをプレゼンテーションすることができる					
評価方法	ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する（100％）					
使用教材	適宜指示する					
参考文献	適宜指示する					
課題に対するフィードバック	授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う					
オフィスアワー （研究室）	火曜 5 限及び金曜 5 限		メールアドレス （#→@）	negishi#takasaki-u.ac.jp		
講義内容	設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。■					
	予習	適宜指示する				8 時間
	復習	適宜指示する				8 時間
合計時間（予習・復習）					16 時間	
備考	予習・復習についての時間は参考であり、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること ■：実務経験に基づく内容を示す。					

科目名	総合演習 I (卒業研究及び演習)			科目 ナンバリング	SWT401
英文名	Seminar in Advanced Studies I			講義形態	演習
担当教員	池田 朋広				
科目に関連した 実務経験	①精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)として大学病院において 21 年の勤務経験あり。 ②非常勤として精神科クリニックデイケアに勤務。 ③精神保健参与員(精神保健福祉士)として、東京地方裁判所に登録。 ④外部講師(精神保健福祉士)として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加。				
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	おもに薬物使用者を支援の対象として、精神科医療と刑事司法の境界領域におけるソーシャルワーク実践について考えを深めていく。また、支援対象者への介入手段の一つとして、病院や矯正施設等で行なわれる心理社会的治療プログラムや、精神保健分野における多職種チームアプローチの技法についても、詳しく紹介していく。基本は演習形式で授業を行うが、外部講師を招いて講義形式にて行うこともある。課外授業やゼミ合宿も実施予定である。授業の進行については、ゼミメンバーにて話し合って決める。 ・初回講義で、後期の講義全体(研究活動)のオリエンテーションを行う。 ・社会福学科研究発表会の発表準備及びプレゼンテーションの練習、発表会での報告。				
到達目標	これまでの学習の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学習、知識の獲得することができる。メンタルヘルス領域・司法福祉領域から各自が関心のある分野や課題を選び、研究報告会にむけての具体的なテーマを決める。学期中はゼミ時間を自主的な学習調査に利用し、月 1 回程度進捗状況をゼミで報告する。■				
評価方法	発表テーマの立案、調査計画に関する課題の提出、出席や参加度を 100% 60%以上を合格とする。				
使用教材	必要に応じて指示する。				
参考文献	必要に応じて指示する。				
課題に対する フィードバック	学生から提出された成果物の内容を修正し、全体に向けて解説する。				
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 時限, 水曜日 2 時限		メールアドレス (#→@)	ikedat#takasaki-u.ac.jp	
講義内容	チーム作り。コミュニケーションをとっていき、お互いに意見を言えるような関係性を構築する。見学を踏まえて、発表内容を決めて、分担して調べたものをゼミで発表する。				
	予習	発表の準備・練習。■			8 時間
	復習	授業で考察したものをまとめる。発表準備・練習を進める。■			8 時間
合計時間(予習・復習)					16 時間
備考	自分から積極的に教員とアポイント(連絡や相談)を取ることができることを望ましい。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究及び演習）				科目 ナンバリング	SWT401
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅠ				講義形態	演習
担当教員	石坂 公俊					
科目に関連した 実務経験						
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	1.「子どもの貧困」をテーマとし、貧困で何が起きているのか、なぜ貧困があるのかを理解する。 2.「子どもの貧困」を背景とした多角的な視点を醸成する。 3.フィールドワークに参加しながら、貧困問題などについて自分の目と耳で考える。 上記 3 つを講義目標とし、「貧困の中でしんどい思いをしている子ども達」、「なぜ貧困があるのか」について中心的に理解する。グループワーク、文献・資料等も活用し、学びを深める方法をとる。さらにゼミ内で国家試験学習も行っていく。それらの取り組みを通じて、教員、ゼミ生同士の相互交流を図ることが主な目的となる。					
到達目標	1.貧困の中で育つ子どもの生活実態を理解することができる。 2.「子どもの貧困」をめぐる背景や諸動向を理解することができる。 3.社会福祉の関連事象には背景に貧困問題があるかもしれないという感度を持つことができる。					
評価方法	1.履修の条件として、子どもの貧困やホームレス問題などに関心のある学生を希望する。 2.ゼミ活動としてフィールドワークへの参加に意欲的な学生を希望する。 上記を目安に総合的に評価する。					
使用教材	必要に応じて指示するが、参考文献などは授業中にも適宜紹介していく。 授業内容によっては DVD などを視聴する機会も設け、レジュメや参考資料なども配付する。					
参考文献	特記事項なし					
課題に対する フィードバック	発表、提出物等に対してコメントする。 必要に応じて面談、個別指導を随時実施する。					
オフィスアワー (研究室)	水曜日 4 時限、質問はメールでも受け 付ける。(1 号館 5 階 503 研究室)	メールアドレス (#→@)	kimi#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	「子どもの貧困問題」がメインテーマとなる。子どもの貧困の実態、困難を抱えた子どもや家族の「声」を社会に発信し、解決への道筋を考えていく。本講座では将来にわたって、貧困問題に対するアンテナを持ち続けられる支援者を目指す。総合演習Ⅲを履修する 4 年生と合同で実施する。					
	予習	毎回提示する。				8 時間
	復習	毎回提示する。				8 時間
合計時間(予習・復習)					16 時間	
備考	フィールドワークとして子ども無料学習会、ホームレス配食(聞き取り調査も実施)の活動に参加が可能となる。					

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究及び演習）				科目ナンバリング	SWT401
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅠ				講義形態	演習
担当教員	渡邊 洋子					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	「ケア-ケアすること」をテーマに、ケアする立場や職種により、生じる解釈の差異を、文献やグループ討議などで、多面的にアプローチし、理解を深める。 近年は、「福祉専門職をめざす学生の死生観形成や意識」について、探究する。 これまでの研究成果を土台に、3・4 年生が、ペアまたは複数の小グループになり、文献レビュー、アンケート調査及び分析等による手法で、ゼミ内で討議し、結論を導き出す。					
到達目標	研究や研究方法の基礎を理解することができる。 文献レビューから、研究テーマにおける課題を導くことができる。 文献レビューから、課題を導き出すようにグループで討議することができる。 上記の過程を踏まえ、適切な手法で、結論を導くことができる。					
評価方法	テーマにおける課題をもとに、文献レビューし、一定の手法で結論を導き出す課題の提出 上記の他に、授業への参加度、グループメンバーとの協調性を、総合的に評価する 100%、60%を合格とする。					
使用教材	必要に応じて指示する					
参考文献						
課題に対するフィードバック	課題の進捗状況により、グループあるいは、個別にフィードバックする					
オフィスアワー (研究室)	火曜 2 時限 研究室:1 号館 5 階 505 (メール等でご予約ください。)		メールアドレス (#→@)		初回授業時に配布する詳細シラバスに記載	
講義内容	初回の講義時間に講義全体についてのオリエンテーションを行う					
	予習	毎回指示する。				8 時間
	復習	毎回指示する。				8 時間
合計時間(予習・復習)					16 時間	
備考						

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究及び演習）				科目ナンバリング	SWT401
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅠ				講義形態	演習
担当教員	大川 健次郎					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	児童家庭福祉の諸問題を中心に扱う。現在の児童や家庭、女性問題などに焦点を当てて、これまでの大学の講義や演習等で学んだことを、自分の興味範囲を定めて深めて研究することを目的とする。これまでの先行研究や文献等を調べ、自分なりの問題意識をもって課題を設定し、ウェルビーイング社会を実現するために必要な施策やあり方等を導き出すことを目指す。					
到達目標	1.各学生が各自で研究テーマを設定し、その重要性を他者に伝えることができる。 2.研究計画を策定し、成果を導き出すための手段を正確に踏むことができる。 3.研究計画に沿って、文献等の情報を適切に扱うことができる。 4.成果を文章化することができる。 5.成果をゼミ生同士で討議し、自分の考えを深めることができる。 6.討議した結果、自分の考えに客観性を持つことができる。					
評価方法	研究計画書・発表文書(60%)、他のゼミ生への提案(20%)、ゼミ活動への貢献度(20%)					
使用教材	教科書は使用しないが、ゼミにおいて資料の配布、参考書の紹介などを予定している。					
参考文献						
課題に対するフィードバック	研究計画書・発表文書作成段階で、個別指導を実施する。					
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 時限		メールアドレス (#→@)		okawa#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	教員による授業(直近の児童家庭福祉の動向について【その 1】)				
	該当到達目標	予習	福祉に関する新聞等により直近の児童家庭福祉の動向を学習すること。			1 時間
	1	復習	これまでのテキスト以降の児童家庭福祉制度の変更点を確認すること。			1 時間
2	講義内容	教員による授業(直近の児童家庭福祉の動向について【その 2】)				
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習すること。			1 時間
	1	復習	これまでのテキスト以降の児童家庭福祉制度の変更点を確認すること。			1 時間
3	講義内容	個人発表・グループ学習・研究計画書の方法と手続きの講義【全体】				
	該当到達目標	予習	文献の扱い方等、学習の方法・研究計画書について予習すること。			1 時間
	1,2,3,4	復習	自分の関心ごとを文章化する際の留意点等を確認すること。			1 時間
4	講義内容	個人発表・グループ学習・研究計画書の方法と手続きの講義【個別指導】①				
	該当到達目標	予習	文献の扱い方等、学習の方法について予習すること。			1 時間
	1,2,3,4	復習	自分の関心ごとを文章化する際の留意点等を確認すること。			1 時間
5	講義内容	個人発表・グループ学習・研究計画書の方法と手続きの講義【個別指導】②				
	該当到達目標	予習	自分の研究テーマを考察すること			1 時間
	1,2,3,4	復習	グループ内の各学生の研究テーマについて考察すること			1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

6	講義内容	個人発表・グループ学習		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	レジュメを使った発表を行う。自分が担当となった項目について、指定されたやり方でレジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。	1 時間
		復習	学生の発表した内容とグループにて討議した内容について、その重要性を理解すること。	1 時間
7	講義内容	個人発表・グループ学習		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	レジュメを使った発表を行う。自分が担当となった項目について、指定されたやり方でレジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。	1 時間
		復習	学生の発表した内容とグループにて討議した内容について、その重要性を理解すること。	1 時間
8	講義内容	個人発表・グループ学習		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	レジュメを使った発表を行う。自分が担当となった項目について、指定されたやり方でレジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。	1 時間
		復習	学生の発表した内容とグループにて討議した内容について、その重要性を理解すること。	1 時間
9	講義内容	個人発表・グループ学習		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	レジュメを使った発表を行う。自分が担当となった項目について、指定されたやり方でレジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。	1 時間
		復習	学生の発表した内容とグループにて討議した内容について、その重要性を理解すること。	1 時間
10	講義内容	個人発表・グループ学習		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	レジュメを使った発表を行う。自分が担当となった項目について、指定されたやり方でレジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。	1 時間
		復習	学生の発表した内容とグループにて討議した内容について、その重要性を理解すること。	1 時間
11	講義内容	個人発表・グループ学習		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	レジュメを使った発表を行う。自分が担当となった項目について、指定されたやり方でレジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。	1 時間
		復習	学生の発表した内容とグループにて討議した内容について、その重要性を理解すること。	1 時間
12	講義内容	個人発表・グループ学習		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	レジュメを使った発表を行う。自分が担当となった項目について、指定されたやり方でレジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。	1 時間
		復習	学生の発表した内容とグループにて討議した内容について、その重要性を理解すること。	1 時間
13	講義内容	研究発表会に向けたグループ学習		
	該当到達目標 5,6	予習	各学生の発表した内容について、確認しておくこと。	1 時間
		復習	グループで討議した内容について、各自まとめておくこと。	1 時間
14	講義内容	研究発表会に向けたグループ学習【テーマ設定】		

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	ゼミ全体での研究発表を前提に各自ゼミとしてのテーマについて考察しておくこと。	1 時間
	5,6	復習	授業で設定したテーマについて、その重要性や意義を深めておくこと。	1 時間
15	講義内容	まとめと討論		
	該当到達目標	予習	前期の各ゼミ生の発表のまとめをしておくこと。	1 時間
	5,6	復習	前期のゼミでの討議を後期に向けて深めておくこと	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考				

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究及び演習）			科目 ナンバリング	SWT401
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅠ			講義形態	演習
担当教員	大口 達也				
科目に関連した 実務経験	社会福祉士として地域包括支援センター（行政直営）に勤務（経験） 社会福祉士として基幹型地域包括支援センター（行政直営）に勤務（経験） 社会福祉士・専門相談員として高齢者権利擁護支援センター（東京都）に勤務（経験） 社会福祉士として公益社団法人の権利擁護ネットワーク組織に勤務（経験）				
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	今後、「地域共生社会」のコンセプトが広まり、子どもから高齢者まで、幅広い分野・業界でソーシャルワークが必要になる社会が到来する。そのような社会では、「ソーシャルワークの価値や原則」を、様々な場面で役立つ「一生モノの学び」として人から人へ伝承することがソーシャルワーカーに求められる。 それらを実現する手法として、デービッド・コルブ(David A. Kolb)の「経験学習(Experiential Learning)」が挙げられる。ジェネラリスト・ソーシャルワークの理論に基づき、これまでの学習を踏まえ、学生自らが「経験学習」を企画・開発・実践し、ソーシャルワークの価値・技能・知識・能力・実践の観点から効果を測定する。 以上の研究活動を行うことで、今までの学習を概念化(持論化)し、専門的な知識・技術を定着させ、応用・実践する能力を獲得することができる。 ゼミ形式で議論・演習・企画検討等を行う。授業外の課外活動も行う予定である。				
到達目標	1. ジェネラリスト・ソーシャルワークと「経験学習」の理論を理解し、説明することができる。■ 2. 研究テーマを選定し、テーマに基づいた「経験学習」を企画・開発・実践することができる。■ 3. 経験をソーシャルワークの価値・技能・知識・能力・実践の観点から効果測定できる。■ 4. 「ソーシャルワークの価値や原則」を概念化(持論化)し、説明することができる。■				
評価方法	研究テーマに基づいた「経験学習」の企画・開発・実践 60% ソーシャルワークの価値・技能・知識・能力・実践の観点からの効果測定実施 40% 60%以上を合格とする				
使用教材	必要に応じて指示する。				
参考文献	必要に応じて紹介する。				
課題に対する フィードバック	毎回の講義で進捗状況を確認し、課題に対するフィードバックを随時行う。 実践した「経験学習」は、教員だけではなく、「経験学習」を受けた者からもフィードバックを行う。				
オフィスアワー （研究室）	火曜日 3 時限, 水曜日 2 時限		メールアドレス （#→@）	oguchi#takasaki-u.ac.jp	
講義内容	初回講義で、前期の講義全体(研究活動)のオリエンテーションを行う。 ・ 4年生の「経験学習」を受け、ジェネラリスト・ソーシャルワークと「経験学習」の理論と研究内容を理解する。 ・ 研究テーマを教員と相談しながら選定し、テーマに基づいた「経験学習」を企画・開発する。 ・ 自らの「経験学習」を4年生に実施し、フィードバックを受けて改善・改良する。 ・ 他者に「経験学習」を実施し、ソーシャルワークの価値・技能・知識・能力・実践の観点から効果測定を行う。				
	予習	「経験学習」の企画・開発・実践、効果測定の準備■			8 時間
	復習	授業で受けた指摘をもとに、「経験学習」の企画・開発・実践を進める■			8 時間
合計時間(予習・復習)					16 時間

備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究及び演習）			科目ナンバリング	SWT401
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅠ			講義形態	演習
担当教員	堀口 美奈子				
科目に関連した実務経験	介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務(10年)				
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	必修 1単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	社会福祉は、ひとりよりみんな、他者とともに生きる＝共生社会のなかで育まれる。そこで本科目では、共生社会の原点である「自己」について知り、社会福祉専門職に求められる「社会福祉を構成するちから」について検討していく。 授業では、講義の他、事例などを踏まえた演習を行う。演習では個人ワークの他、グループワークを行い、相互作用による学習の定着を図る。				
到達目標	1.具体的なワークを通して、チームで働く力や前に踏み出す力、考え抜く力を身につけることができる。■ 2.実践経験から内省的観察を行い、共生社会の構成時に必要となる抽象的概念を抽出、言語化できる。■ 3.得られた概念を、社会の中での能動的実践に活かすことができる。■ 4.ワークや他者との交流を通して、自己についての考えを深めることができる。				
評価方法	テーマに関する課題の提出物 60%、演習での活発な参加と議論・活動への貢献度 40%				
使用教材	教科書は使用しないが、必要に応じて資料の配布、参考書の紹介を予定している。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜コメントを付しての返却を予定している。				
オフィスアワー (研究室)	月曜・水曜 3限		メールアドレス (#→@)	初回授業時にアナウンスする。	
1	講義内容	オリエンテーション、総合演習の意義と目的■			
	該当到達目標	予習	不要	0.5 時間	
	1,2,3,4	復習	初回ゼミで指導教員から説明があった点、今後の授業方針を確認する。		0.5 時間
2	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 1-1■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。		0.5 時間
3	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 1-2■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。		0.5 時間
4	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 2-1■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。		0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

5	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 2-2■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間	
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間	
6	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 3-1■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間	
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間	
7	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 3-2■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間	
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間	
8	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 4-1■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間	
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間	
9	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 4-2■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間	
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間	
10	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 5-1			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間	
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間	
11	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 5-2			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間	
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間	
12	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 5-3			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間	
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間	
13	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 5-4			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間	
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間	
14	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 5-5			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間	
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間	
15	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 5-6、まとめと対話■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	前期に行った演習に関する配付物やリフレクションシートを読み返す。	0.5 時間	
		復習	対話や前期の実践内容から感じたことなどを、指定様式に記入する。	0.5 時間	
合計時間(予習・復習)					15 時間
備考	予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名		総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習)			科目 ナンバリング	SWT402
英文名		Seminar in Advanced StudiesⅡ			講義形態	講義
担当教員		安達 正嗣				
科目に関連した 実務経験		兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。				
学年・開講期		3年 後期	選必・単位数	必修 1単位		
種別						
学位授与方針 との対応		豊かな人間性		✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		現代の日本社会において、高齢化に関する福祉社会学的ならびに家族社会学的な視点・分析能力の養成は、さまざまな学術分野のみならず、社会福祉・精神保健・介護の現場のなかで重要性を増してきている。本演習では、高齢者福祉のあり方を考えることを通じて、こうした視点・分析能力を身につけることを目指すものである。 受講生が主体となって、司会と報告者の役割をおこない、教科書の担当章に関する報告者の報告内容・レジュメをめぐって議論して、担当教員が適宜に助言しながら、教科書の内容の理解を深めるものである。				
到達目標		(1) 高齢化の現状と高齢者福祉政策の動向について理解できる。 (2) 高齢社会における課題を明確化して認識することができる。 (3) 受講生が自らの問題意識から研究テーマを発見でき、プレゼンテーションの能力を養うことができる。 (4) 福祉社会学・家族社会学の研究手法(調査方法を含む)を習得できる。■ (5) ゼミ論を作成することによって、卒論を作成する能力を身につけることができる。				
評価方法		受講生に対する評価の内訳は、演習中の研究課題への取り組みに対する評価(50%)、学期末に提出するレポート(ゼミ論)の評価(50%)、合計100%で評価する。				
使用教材		G・エスピン＝アンデルセン『アンデルセン、福祉を語る』NTT出版				
参考文献		講義中、適宜指示する。				
課題に対する フィードバック		毎回の報告、提出された学期末レポートについて、コメントをつけて返却して、書き直したレポートを点検する。				
オフィスアワー (研究室)		火曜日 5限・6限		メールアドレス (#→@)	adachi-m#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション(教科書とゼミ運営・今後の予定の説明、教科書の各章に関する報告の順番の決定)。実務経験で得た調査データの分析を通じた政策提言に関して解説する。■				
	該当到達目標	予習	教科書を読んで、自分の報告したい章を3つ以上、選んでおくこと。			1.5 時間
	1,2,3	復習	自分が報告することになった章を熟読し、関連の資料や文献を調べて、報告レジュメを作成しておくこと。			1.5 時間
2	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。				
	該当到達目標	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。			1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。			1.5 時間
3	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。				
	該当到達目標	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。			1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4,5	復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
4	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		
	該当到達目標	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		
	該当到達目標	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		
	該当到達目標	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		
	該当到達目標	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		
	該当到達目標	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		
	該当到達目標	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		
	該当到達目標	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		
	該当到達目標	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4,5	復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		
	該当到達目標	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		
	該当到達目標	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		
	該当到達目標	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	ゼミ論の作成について解説する。		
	該当到達目標	予習	教科書の内容とこれまでの議論を整理しておくこと。	3 時間
	1,2,3,4,5	復習	ゼミ論の作成をすること。	3 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間
備考	報告者が無断欠席をすると、単位が不可となります。必ず、報告者以外の受講生は、質問や意見を述べるのが義務となっています。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）				科目 ナンバリング	SWT402
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅡ				講義形態	講義
担当教員	金井 敏					
科目に関連した 実務経験	コミュニティソーシャルワークの実践主体としての社会福祉協議会に勤務していた。実務を担当するとともに、ソーシャルワーカーの育成にも従事した。現在、行政や社協、民生委員協議会、団体の計画づくりや実践の企画・評価に携わっている。					
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	地域福祉実践を中心としてコミュニティソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。 ゼミの運営は学生が主体的に協力しながら運営する。研究・実践活動は、歴代のゼミの先輩が実践してきた内容＝ふれあい・いきいきサロン、大類地域福祉教育の会運営、赤い羽共同募金などの企画・運営・振り返りをベースとします。教員は自身の研究テーマと教育スタンスにより、フィールドの実践やアドバイスを行います。					
到達目標	1.現地演習を通じて、地域住民や団体が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。■ 2.現地演習を通じて、地域団体の運営方法や事業の企画、広報、連絡調整の技術を修得する。■ 3.コミュニティソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。■ 4.ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。■					
評価方法	①専門分野における演習の取り組み、②地域課題への取り組み、③グループ学習による取り組み、による専門的な学修、知識の獲得等により評価 100%。					
使用教材	テキストは使用しない。					
参考文献	その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付します。					
課題に対する フィードバック	演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。					
オフィスアワー (研究室)	月曜日 12 時 15 分～13 時 水曜日 12 時 15 分～13 時 で相談に応じます。 研究室:1 号館 3 階 310 研究室。		メールアドレス (#→@)		kanai#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、到達目標、授業計画を理解する。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			1.5 時間
2	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■				
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			1.5 時間
3	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■				
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			1.5 時間
4	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■				
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			1.5 時間
5	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■				
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。			1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
6	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
7	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
8	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
9	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
10	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
11	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
12	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
13	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
14	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
15	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	●シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表しています。			

科目名	総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習)				科目ナンバリング	SWT402
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅡ				講義形態	演習
担当教員	上原 徹					
科目に関連した実務経験	精神科医として大学病院等で勤務経験 30 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている					
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性			学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		✓	応用・実践する能力	
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力		✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	これまでの学習の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学習、知識の獲得することができる。 4 月の段階で「精神医療」、「メンタルヘルス」、「PSW」、「MSW」、「小児保健福祉(こどもの疾病、障害、虐待などの社会問題)」、などをキーワードに、各自興味のある課題分野の中から研究発表会に向けて具体的テーマを決定する。主なゼミ時間は自主的調査や自律的学習に利用し、月 1 回程度進捗状況をゼミで報告する。学習調査の結果を 9 月中にまとめ、10 月末予定されている報告会でプレゼンテーションと質疑応答を担当する。適宜、DVD を利用した情報提供も行う。					
到達目標	調査報告の基礎を理解することができる。テーマを選定し、計画を立てることができる。■					
評価方法	①ゼミごとのテーマに沿ったより専門的な知識の獲得、②研究発表会でのプレゼン、③出席や参加度など 100%とし、60%以上を合格とする。					
使用教材	必要に応じて指示する					
参考文献	田坂広志 著 「なぜ、働くのか」、「成長し続けるための 77 の言葉」「忘れられた叡智」					
課題に対するフィードバック	能動的に課題のフィードバックや相談を進める。					
オフィスアワー (研究室)	月 4、金 2 研究室:1 号館 5 階 501		メールアドレス (#→@)		授業で提示する	
講義内容	初回の講義時間に講義全体についてのオリエンテーションを行う■					
	予習	毎回指示する				8 時間
	復習	毎回指示する				8 時間
					合計時間(予習・復習)	16 時間
備考	精神保健福祉や医療保健領域に興味関心・問題意識があること。自主的な学習や調査に抵抗感や苦手意識がないこと。自発的・自律的にゼミ時間を自身の学習調査に活用できること、自分から積極的に教員とアポイント(連絡や相談)を取ることでできる学生を強く求める。 ■:実務経験に基づく内容を示す。					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）			科目ナンバリング	SWT402
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅡ			講義形態	演習
担当教員	永田 理香				
科目に関連した実務経験	研修担当者として社会福祉研修実施機関（県社会福祉協議会）に勤務（経験）				
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	現在、福祉人材確保政策において人材育成の重要性が注目され、キャリアパスの策定や人材育成認証評価制度等の取組みが進められてきている。本演習では、人材育成を組織的な学習・教育活動と捉え、福祉専門職が将来展望を持ちながらキャリアアップできる人材育成のあり方について学んでいく。 基本的な研究の流れと方法が理解できるよう、個人のニーズに合わせ段階的に演習を進めていく。プレゼンテーションスキルの向上を目指し、スライドの構成・作成方法、発表方法について実践的に指導を行なう。				
到達目標	1.研究計画に基づき研究活動を展開することができる。 2.調査結果を検討し、研究目的に基づいた考察ができる。■ 3.研究の成果を整理し、研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。				
評価方法	問題解決学習を中心とした授業展開とするため、段階的に形成的評価を行なう。その内訳は、授業における発言内容（30%）、研究活動への貢献度（40%）、プレゼンテーション（30%）とし、60%以上を合格とする。				
使用教材	必要に応じて指示する				
参考文献					
課題に対するフィードバック	提出された課題については、出題した意図ついて解説を行い、コメントを付け返却を行なう。				
オフィスアワー （研究室）	火曜日 3 時限と水曜日 2 時限	メールアドレス （#→@）	メールアドレスは初回授業時に提示する。		
講義内容	初回に研究活動についてのオリエンテーションを行う				
	予習	適宜指示する			1.5 時間
	復習	適宜指示する			1.5 時間
合計時間（予習・復習）					45 時間
備考	■：実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）			科目 ナンバリング	SWT402
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅡ			講義形態	講義
担当教員	戸澤 由美恵				
科目に関連した 実務経験	国立療養所栗生楽泉園人権擁護委員会外部委員				
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	これまでのハンセン病問題に関する知識と実践をベースに、個人やグループのテーマに基づいた研究と発表を通して、より専門的な学習、知識の修得ができる。 全体の流れとして、前期のハンセン病問題をベースとしたゼミ活動と実践をもとに、個人やグループで意見交換などをしながらレジュメ作成・発表などを通して各自の研究テーマを深めていく。 療養所見学と入所者・対処者とその家族との交流を実施する。				
到達目標	1.個別・グループの研究テーマに基づいて、研究計画を立案し研究の成果をまとめることができる 2.社会福祉学科研究発表会やゼミ内での発表を通し、研究成果のプレゼンテーションができる 3.ゼミ活動や研究発表を通して、社会福祉従事者として自身の課題を明確にし、問題解決の実践方法や支援者の役割について自分なりの考えを持てる				
評価方法	1.レポート作成と発表、授業時間内に記入するリアクションペーパー・ミニレポート等の提出物の状況等 2.個別またはグループによる研究課題への取り組み姿勢と貢献度、プレゼンテーションの状況等 3.療養所等見学や入所者や支援者、ゼミメンバーとの交流等への参加姿勢と協力等 などを総合して評価する				
使用教材	各個人・グループの研究テーマに基づき、レジュメや配布資料を学生自身が準備・紹介する。 教員は、必要に応じて補足資料を配布する。				
参考文献	参考文献等を随時紹介する				
課題に対する フィードバック	感想・リアクションペーパー記載や研究レポート作成を行い、後日、全員への共有と意見交換を原則とする(一部、入所者や外部とも共有)。必要に応じて、全体への追加説明やコメント等を行う				
オフィスアワー (研究室)	水曜 2 限 3 階 303		メールアドレス (#→@)	tozawa#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション■			
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで、後期の内容や目標などを理解する		0.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容、到達目標、評価方法などを確認し、学習の全体像を把握する。 前期のまとめを行い、自身の課題と研究テーマを考える		0.5 時間
2	講義内容	社会福祉学科研究発表会への準備①前期の学びと企画実践を検証する■			
	該当到達目標	予習	前期のノートを元に成果と課題を自分なりにまとめ、発表に備える		1.5 時間
	1,2	復習	ゼミ生の発表とディスカッションをノートに整理する		1.5 時間
3	講義内容	社会福祉学科研究発表会への準備②発表の骨子と担当・役割を決める■			
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、自分なりの視点と構想をまとめ、骨子提案に備える		1.5 時間
	1,2	復習	ディスカッションをもとに自分の担当部分をまとめ、ノートに整理する		1.5 時間
4	講義内容	社会福祉学科研究発表会への準備③発表内容をまとめる■			
	該当到達目標	予習	前回のノートを元に、レジュメを作成し提案に備える		1.5 時間
	1,2	復習	ディスカッションをもとに内容をまとめ、プレゼンテーション資料を作成する		1.5 時間
5	講義内容	社会福祉学科研究発表会への準備④プレゼンテーション資料を作成する■			

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	プレゼン資料を提案する	1.5 時間
	1,2	復習	ディスカッションをもとにプレゼン資料、発表原稿をまとめる	1.5 時間
6	講義内容	社会福祉学科研究発表会でのプレゼンテーション■		
	該当到達目標	予習	役割分担にそって、自分なりに発表の準備をする	1.5 時間
	1,2	復習	ゼミの発表について、他ゼミの発表を聞いて、レポートを作成する	1.5 時間
	講義内容	個別またはグループによる研究課題①研究テーマの決定■		
7	該当到達目標	予習	これまでの学びを元に、自分なりの疑問や関心をノートに整理する	1.5 時間
	1,2,3	復習	ディスカッションを踏まえ、自分やグループのテーマを決め研究計画をまとめる	1.5 時間
8	講義内容	個別またはグループによる研究課題②■		
	該当到達目標	予習	自分またはグループで調べ、まとめる	1.5 時間
	1,2,3	復習	ディスカッションを踏まえて、更に調べ、まとめる	1.5 時間
	講義内容	個別またはグループによる研究課題③■		
9	該当到達目標	予習	自分またはグループで調べ、まとめる	1.5 時間
	1,2,3	復習	ディスカッションを踏まえて、更に調べ、ノートにまとめる	1.5 時間
10	講義内容	個別またはグループによる研究課題④中間報告■		
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、レジュメを作成し中間報告に備える	1.5 時間
	1,2,3	復習	報告に基づいてディスカッションを行い、更に調べ、レジュメにまとめる	1.5 時間
	講義内容	個別またはグループによる研究課題⑤■		
11	該当到達目標	予習	レジュメを作成する	1.5 時間
	1,2,3	復習	レジュメを作成する	1.5 時間
12	講義内容	個別またはグループによる研究課題⑥プレゼンテーション 1■		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションと質疑応答に備える	1.5 時間
	1,2,3	復習	自身の発表、他学生の発表を聞き、プレゼンテーションの内容や課題達成の評価をする。自己の課題をまとめたレポートを作成する。	1.5 時間
	講義内容	個別またはグループによる研究課題⑦プレゼンテーション 2■		
13	該当到達目標	予習	プレゼンテーションと質疑応答に備える	1.5 時間
	1,2,3	復習	自身の発表、他学生の発表を聞き、プレゼンテーションの内容や課題達成の評価をする。自己の研究課題のまとめとレポートを作成する。	1.5 時間
14	講義内容	国立療養所見学と入所者・対処者とその家族等との交流■		
	該当到達目標	予習	研究課題・事前学習を踏まえて準備を行い、不明な点を確認し、自分なりの目標を持って実施に備える	1.5 時間
	1,2,3	復習	見学・交流の目標の達成や評価を行う	1.5 時間
	講義内容	まとめ■		
15	該当到達目標	予習	1年間の学びを踏まえた見学・交流の感想や考察をレジュメにまとめる	2.5 時間
	1,2,3	復習	1年間の活動の総括レポートを作成し自己の課題を明確にする	2.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	* 日頃から新聞を読み、ニュースや映画を見るなどして社会の情勢・動きに興味を持つようにしましょう * 不明な点、疑問点、質問等がある場合は、まずはメールで連絡してください ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）			科目ナンバリング	SWT401
英文名		Seminar in Advanced StudiesⅡ			講義形態	演習
担当教員		原田 欣宏				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性		✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		福祉・医療・司法専門職と地域住民との協働による福祉実践を中心としたソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。 授業では文献や実地調査とグループワーク、ディスカッションを行い、適宜コメントする。				
到達目標		1.現地での演習を通じて、地域住民が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。 2.現地での演習を通じて、ソーシャルワーカーのソーシャルアクションに関する企画、広報、連絡調整の技術を修得する。 3.ソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。 4.ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。				
評価方法		①専門分野における演習の取り組み、②課題に取り組むことによる、より専門的な学修、知識の獲得、等により評価 100%、60%以上を合格とする。				
使用教材		テキストは使用しない				
参考文献		適宜文献を提示する				
課題に対するフィードバック		演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。				
オフィスアワー (研究室)		火曜 3 限 (1 号館 506 研究室)		メールアドレス (#→@)	harada#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、到達目標、授業計画を理解する。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
2	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
3	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
4	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
5	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
6	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

7	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
8	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
9	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
10	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
11	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
12	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
13	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
14	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
15	講義内容	今後のゼミ研究・実践を自分なりにまとめる		
	該当到達目標	予習	今期のゼミ研究・実践を自分なりにまとめる.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミでの振り返りを踏まえて, 次期に向けた準備を進める.	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	ゼミの運営は学生が主体的にかつ協力しながら運営することで学びがさらに深まることを期待しています.			

科目名	総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習)				科目ナンバリング	SWT402
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅡ				講義形態	演習
担当教員	根岸 洋人					
科目に関連した実務経験	高崎市障害者支援協議会副会長(現在) 高崎市障害者虐待対策協議会会長(現在)					
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	障害のある人を取り巻く環境(制度、文化、支援技術等)についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を培う。 授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。授業時間以外での学修や活動を行うことが前提となる。					
到達目標	1.障害のある人を取り巻く環境について理解することができる■ 2.問題点を発見し、課題解決に向けた研究を行うことができる 3.自分の取り上げた研究テーマをプレゼンテーションすることができる					
評価方法	ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する(100%)					
使用教材	適宜指示する					
参考文献	適宜指示する					
課題に対するフィードバック	授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う					
オフィスアワー (研究室)	火曜 5 限及び金曜 5 限		メールアドレス (#→@)	negishi#takasaki-u.ac.jp		
講義内容	設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。■					
	予習	適宜指示する				8 時間
	復習	適宜指示する				8 時間
合計時間(予習・復習)					16 時間	
備考	予習・復習についての時間は参考であり、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること ■:実務経験に基づく内容を示す。					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）				科目 ナンバリング	SWT402
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅡ				講義形態	演習
担当教員	池田 朋広					
科目に関連した 実務経験	①精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として大学病院において 21 年の勤務経験あり。 ②非常勤として精神科クリニックデイケアに勤務。 ③精神保健参与員（精神保健福祉士）として、東京地方裁判所に登録。 ④外部講師（精神保健福祉士）として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加。					
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 （テーマ・内容）	おもに薬物使用者を支援の対象として、精神科医療と刑事司法の境界領域におけるソーシャルワーク実践について考えを深めていく。また、支援対象者への介入手段の一つとして、病院や矯正施設等で行なわれる心理社会的治療プログラムや、精神保健分野における多職種チームアプローチの技法についても、詳しく紹介していく。基本は演習形式で授業を行うが、外部講師を招いて講義形式にて行うこともある。課外授業やゼミ合宿も実施予定である。授業の進行については、ゼミメンバーにて話し合っている。 ・初回講義で、後期の講義全体（研究活動）のオリエンテーションを行う。 ・社会福学科研究発表会の発表準備及びプレゼンテーションの練習、発表会での報告。					
到達目標	これまでの学習の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学習、知識の獲得することができる。メンタルヘルス領域・司法福祉領域から各自が関心のある分野や課題を選び、研究報告会にむけての具体的なテーマを決める。学期中はゼミ時間を自主的な学習調査に利用し、月 1 回程度進捗状況をゼミで報告する。■					
評価方法	発表テーマの立案、調査計画に関する課題の提出、出席や参加度を 100% 60%以上を合格とする。					
使用教材	必要に応じて指示する。					
参考文献	必要に応じて指示する。					
課題に対する フィードバック	学生から提出された成果物の内容を修正し、全体に向けて解説する。					
オフィスアワー （研究室）	火曜日 3 時限，水曜日 2 時限		メールアドレス （＃→＠）		ikedat#takasaki-u.ac.jp	
講義内容	前期に調べて、発表したものをまとめる。全員で発表の振り返りをして、次年度への参考とする。					
	予習	発表の準備・練習。■				8 時間
	復習	授業で考察したものをまとめる。発表準備・練習を進める。■				8 時間
合計時間（予習・復習）						16 時間
備考	自分から積極的に教員とアポイント（連絡や相談）を取ることができると望ましい。 ■：実務経験に基づく内容を示す。					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）				科目 ナンバリング	SWT402
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅡ				講義形態	演習
担当教員	石坂 公俊					
科目に関連した 実務経験						
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	1.「子どもの貧困」をテーマとし、貧困で何が起きているのか、なぜ貧困があるのかを理解する。 2.「子どもの貧困」を背景とした多角的な視点を醸成する。 3.フィールドワークに参加しながら、貧困問題などについて自分の目と耳で考える。 上記 3 つを講義目標とし、総合演習Ⅰをふまえ、子どもの貧困に関するテーマを具体的に絞り、グループごとに成果をまとめる。その成果はゼミ合宿、研究発表会などで報告する。さらに大学内だけでなく、学会報告など外部に情報発信する。またゼミ内で国家試験学習も集中的に行い、国家試験合格を目指す。					
到達目標	1.貧困の中で育つ子どもの生活実態を理解することができる。 2.「子どもの貧困」をめぐる背景や諸動向を理解することができる。 3.社会福祉の関連事象には背景に貧困問題があるかもしれないという感度を持つことができる。					
評価方法	1.履修の条件として、子どもの貧困やホームレス問題などに関心のある学生を希望する。 2.ゼミ活動としてフィールドワークへの参加に意欲的な学生を希望する。 上記を目安に総合的に評価する。					
使用教材	必要に応じて指示するが、参考文献などは授業中にも適宜紹介していく。 授業内容によっては DVD などを視聴する機会も設け、レジュメや参考資料なども配付する。					
参考文献	特記事項なし					
課題に対する フィードバック	発表、提出物等に対してコメントする。 必要に応じて面談、個別指導を随時実施する。					
オフィスアワー (研究室)	水曜日 4 時限、質問はメールでも受け付ける。(1 号館 5 階 503 研究室)	メールアドレス (#→@)	kimi#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	「子どもの貧困問題」がメインテーマとなる。子どもの貧困の実態、困難を抱えた子どもや家族の「声」を社会に発信し、解決への道筋を考えていく。本講座では将来にわたって、貧困問題に対するアンテナを持ち続けられる支援者を目指す。総合演習Ⅳを履修する 4 年生と合同で実施する。					
	予習	毎回提示する。				8 時間
	復習	毎回提示する。				8 時間
合計時間(予習・復習)						16 時間
備考	総合演習Ⅰに引き続き、子ども無料学習会、ホームレス配食の活動にも参加が可能。					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）				科目 ナンバリング	SWT402
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅡ				講義形態	演習
担当教員	渡邊 洋子					
科目に関連した 実務経験						
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	「ケア・ケアすること」をテーマに、ケアする立場や職種により、生じる解釈の差異を、文献やグループ討議などで、多面的にアプローチし、理解を深める。 近年は、「福祉専門職をめざす学生の死生観形成や意識」について、探究する。 これまでの研究成果を土台に、3・4 年生が、ペアまたは複数の小グループになり、文献レビュー、アンケート調査及び分析等による手法で、ゼミ内で討議し、結論を導き出す。					
到達目標	社会福祉学科研究発表会において、学生全体でまとめた成果を、プレゼンテーションできる。					
評価方法	前期の研究テーマにおける「問い」から、導き出した結論までのプロセスをもとに、一定の形式に整えて、発表し、質疑応答する 100%、60%以上を合格とする					
使用教材	必要に応じて指示する					
参考文献						
課題に対する フィードバック	テーマにおける「問い」をもとに、文献レビューし、一定の手法で結論を導き出す課題の提出 後日、発表の際に、内容についてディスカッションし、フィードバックしながら、方向性を定める					
オフィスアワー (研究室)	火曜 2 時限 研究室:1 号館 5 階 505 (メール等でご予約ください。)		メールアドレス (#→@)		初回授業時に配布する詳細シラバスに 記載	
講義内容	初回の講義時間に講義全体についてのオリエンテーションを行う					
	予習	毎回指示する。				8 時間
	復習	毎回指示する。				8 時間
合計時間(予習・復習)					16 時間	
備考						

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）				科目ナンバリング	SWT402
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅡ				講義形態	講義
担当教員	大川 健次郎					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	児童家庭福祉の諸問題を中心に扱う。現在の児童や家庭、女性問題などに焦点を当てて、これまでの大学の講義や演習等で学んだことを、自分の興味範囲を定めて深めて研究することを目的とする。前期の総合演習の学習内容を踏まえ、それらを他者に分かりやすく伝える力をつける。また、他ゼミの学習内容を参考として、その重要性などを理解する。					
到達目標	1.自分たちの考えを他者に分かりやすく伝える技術を学ぶことができる。 2.他者の学びを、自らの問題としてとらえ、深めることを学ぶことができる。 3.大学卒業後の進路を考え具体的な目標を立てることができる					
評価方法	研究計画書・発表文書(60%)、他のゼミ生への提案(20%)、ゼミ活動への貢献度(20%)					
使用教材	教科書は使用しないが、ゼミにおいて資料の配布、参考書の紹介などを予定している。					
参考文献						
課題に対するフィードバック	研究計画書・発表文書作成段階で、個別指導を実施する。					
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 時限			メールアドレス (#→@)	okawa#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション(講義予定・評価方法の説明)				
	該当到達目標	予習	前期の総合演習での学びを自分なりにまとめる。			1 時間
	1,2	復習	初回ゼミにおいて教員から説明があった点、今後の授業方針の確認			1 時間
2	講義内容	グループ学習【その 1】				
	該当到達目標	予習	研究発表会に向けて、各自の枠割を確認する			1 時間
	1,2	復習	研究発表会用のパワーポイント資料を作成する			1 時間
3	講義内容	グループ学習【その 2】				
	該当到達目標	予習	作成した資料の発表の練習を行う。			1 時間
	1,2	復習	授業で修正した点を踏まえて、作成した資料の発表の練習を行う。			1 時間
4	講義内容	グループ学習【その 3】				
	該当到達目標	予習	作成した資料の発表の練習を行う。			1 時間
	1,2	復習	授業で修正した点を踏まえて、作成した資料の発表の練習を行う。			1 時間
5	講義内容	社会福祉学科研究発表会				
	該当到達目標	予習	自分たちの作成した資料を分かりやすく伝える練習			1 時間
	1,2	復習	反省点をまとめる			1 時間
6	講義内容	研究発表会の反省討議				
	該当到達目標	予習	研究発表会の反省点を出し合う			1 時間
	1,2	復習	次年度に向けて改善点を出し合う			1 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

7	講義内容	大学卒業後の進路について考える【グループ内発表】		
	該当到達目標	予習	将来の進路について考えをまとめる	1 時間
	3	復習	国家試験対策等の行動計画をまとめる	1 時間
8	講義内容	大学卒業後の進路に関する行動【その１】		
	該当到達目標	予習	国家試験等の行動計画に沿った活動	1 時間
	3	復習	同上	1 時間
9	講義内容	大学卒業後の進路に関する行動【その２】		
	該当到達目標	予習	国家試験等の行動計画に沿った活動	1 時間
	3	復習	同上	1 時間
10	講義内容	大学卒業後の進路に関する行動【その３】		
	該当到達目標	予習	国家試験等の行動計画に沿った活動	1 時間
	3	復習	同上	1 時間
11	講義内容	大学卒業後の進路に関する行動【その４】		
	該当到達目標	予習	国家試験等の行動計画に沿った活動	1 時間
	3	復習	同上	1 時間
12	講義内容	大学卒業後の進路に関する行動【その５】		
	該当到達目標	予習	国家試験等の行動計画に沿った活動	1 時間
	3	復習	同上	1 時間
13	講義内容	大学卒業後の進路に関する行動【その６】		
	該当到達目標	予習	国家試験等の行動計画に沿った活動	1 時間
	3	復習	同上	1 時間
14	講義内容	大学卒業後の進路に関する行動【その７】		
	該当到達目標	予習	国家試験等の行動計画に沿った活動	1 時間
	3	復習	同上	1 時間
15	講義内容	まとめと討論		
	該当到達目標	予習	ゼミ活動のまとめをしておくこと	1 時間
	1,2,3	復習	振り返り	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考				

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）			科目 ナンバリング	SWT402
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅱ			講義形態	演習
担当教員	大口 達也				
科目に関連した 実務経験	社会福祉士として地域包括支援センター（行政直営）に勤務（経験） 社会福祉士として基幹型地域包括支援センター（行政直営）に勤務（経験） 社会福祉士・専門相談員として高齢者権利擁護支援センター（東京都）に勤務（経験） 社会福祉士として公益社団法人の権利擁護ネットワーク組織に勤務（経験）				
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	今後、「地域共生社会」のコンセプトが広まり、子どもから高齢者まで、幅広い分野・業界でソーシャルワークが必要になる社会が到来する。そのような社会では、「ソーシャルワークの価値や原則」を、他者の印象に残るように、わかりやすく伝えることがソーシャルワーカーに求められる。 前期の研究活動で得られた効果測定データを分析し、自らの学びとして研究活動のキーワードを概念化（持論化）して考察する。研究成果を報告書式にまとめ、他者の印象に残るような発表を準備する。 分析及び研究発表に取り組み、学際的な視点から取り組む力を身につけ、ソーシャルワーカーとして社会に働きかけ、貢献できる力を獲得することができる。 ゼミ形式で議論・演習・企画検討等を行う。授業外の課外活動も行う予定である。				
到達目標	1. ジェネラリスト・ソーシャルワークと「経験学習」の理論を理解し、説明することができる。 2. 企画・開発・実践した「経験学習」の効果測定データを分析することができる。■ 3. 分析結果に基づき、研究活動のキーワードを概念化して考察することができる。■ 4. 社会福学科研究発表会にて他者の印象に残るようなわかりやすいプレゼンテーションができる。				
評価方法	「経験学習」の効果測定データを分析し、研究活動のキーワードを概念化（持論化）して考察できる 60% 研究成果を他者の印象に残るように、分かりやすくプレゼンテーションできる 40% 60%以上を合格とする				
使用教材	必要に応じて指示する。				
参考文献	必要に応じて紹介する。				
課題に対する フィードバック	毎回の講義で進捗状況を確認し、課題に対するフィードバックを随時行う。 プレゼンテーションの分かりやすさは、教員からだけではなく、ゼミ生間でのフィードバックも行う。				
オフィスアワー （研究室）	火曜日 3 時限、水曜日 2 時限		メールアドレス （#→@）	oguchi#takasaki-u.ac.jp	
講義内容	初回講義で、後期の講義全体（研究活動）のオリエンテーションを行う。 ・ 「経験学習」の効果測定データの分析方法のレクチャー・統計分析の実践。 ・ 教員と相談しながら、研究活動のキーワードの概念化（持論化）し、考察する。 ・ 社会福学科研究発表会の発表準備及びプレゼンテーションの練習、発表会での報告。				
	予習	「経験学習」の効果測定データの分析、まとめの作成、発表の準備・練習。■			8 時間
	復習	授業で受けた指摘をもとに、分析、まとめの作成、発表準備・練習を進める。■			8 時間
合計時間（予習・復習）					16 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■：実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）			科目ナンバリング	SWT402
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅡ			講義形態	演習
担当教員	堀口 美奈子				
科目に関連した実務経験	介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務（10 年）				
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 （テーマ・内容）	社会福祉は、ひとりよりみんな、他者とともに生きる＝共生社会のなかで育まれる。そこで本科目では、社会のなかでのフィールドワークや実証研究を通して、前期で学んだ社会福祉専門職に求められる「社会福祉を構成するちから」の理解をより深め、卒後、共生社会で生きる社会人としての力の獲得を目指す。 授業では、これまで行ってきた実証研究を発表するための準備を行い、発表する。発表後は、実施内容に関する振り返りを行う。そのほか、学生の興味関心に応じた個人もしくはグループ学習を行う。				
到達目標	1.教員と参加学生による関心や問題意識を基に、フィールドワークや実証研究を実践できる。 2.具体的な実践を通して、チームで働く力や前に踏み出す力、考え抜く力を身につけることができる。 3.実践経験から内省的観察を行い、共生社会の構成時に必要となる抽象的概念を抽出、言語化できる。 4.得られた概念を、社会の中での能動的実践に活かすことができる。 5.実践や他者との交流を通して、自己についての考えを深めることができる。 6.社会福祉学科研究発表会にて、学生全体でまとめた学習成果をプレゼンテーションできる。				
評価方法	実践活動での活発な参加と議論・活動への貢献度 60%、研究発表会での事前準備・プレゼンテーション 40%				
使用教材	教科書は使用しないが、必要に応じて資料の配布、参考書の紹介を予定している。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜コメントを付しての返却を予定している。				
オフィスアワー （研究室）	月曜・水曜 3 限		メールアドレス （＃→＠）	初回授業時にアナウンスする。	
1	講義内容	オリエンテーション、ゼミ内でのグループ分け等			
	該当到達目標	予習	不要	0.5 時間	
	2,3,4,5,6	復習	初回ゼミで指導教員から説明があった点、今後の授業方針を確認する。		0.5 時間
2	講義内容	研究発表会発表準備 1			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	発表に関するルールや担当する役割を確認する。		0.5 時間
3	講義内容	研究発表会発表準備 2			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	発表に関するルールや担当する役割を確認する。		0.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

4	講義内容	研究発表会発表準備 3		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	発表に関するルールや担当する役割を確認する。	0.5 時間
5	講義内容	社会福祉学科研究発表会でのプレゼンテーション		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
6	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 1		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
7	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 2		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
8	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 3		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
9	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 4		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
10	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 5		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
11	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 6		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
12	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 7		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
13	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 8		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
14	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 9		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
15	講義内容	まとめと対話■		
	該当到達目標	予習	前期に行った演習に関する配付物やリフレクションシートを読み返す。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	対話や後期の実践内容から感じたことなどを、指定様式に記入する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること			

と。

■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名		総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)			科目 ナンバリング	SWT403
英文名		Seminar in Advanced StudiesⅢ			講義形態	講義
担当教員		安達 正嗣				
科目に関連した 実務経験		兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。				
学年・開講期		4年 前期	選必・単位数	必修 1単位		
種別						
学位授与方針 との対応			豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		現代の日本社会において、高齢化に関する福祉社会学的ならびに家族社会学的な視点・分析能力の養成は、さまざまな学術分野のみならず、社会福祉・精神保健・介護の現場のなかで重要性を増してきている。本演習では、高齢者福祉のあり方を考えることを通じて、こうした視点・分析能力を身につけることを目指すものである。 受講生が主体となって、司会と報告者の役割をおこない、教科書の担当章に関する報告者の報告内容・レジュメをめぐって議論して、担当教員が適宜に助言しながら、教科書の内容の理解を深めるものである。				
到達目標		(1) 高齢化の現状と高齢者福祉政策の動向について理解できる。 (2) 高齢社会における課題を明確化して認識することができる。 (3) 受講生が自らの問題意識から研究テーマを発見でき、プレゼンテーションの能力を養うことができる。 (4) 福祉社会学・家族社会学の研究手法(調査方法を含む)を習得できる。■ (5) ゼミ論を作成することによって、卒論を作成する能力を身につけることができる。				
評価方法		受講生に対する評価の内訳は、演習中の研究課題への取り組みに対する評価(50%)、学期末に提出するレポート(プレ・ゼミ論)の評価(50%)、合計100%で評価する。				
使用教材		直井道子・中野いく子・和気純子『高齢者福祉の世界』有斐閣アルマ(補訂版)				
参考文献		講義中、適宜指示する。				
課題に対する フィードバック		毎回の報告、提出された学期末卒論中間レポートについて、コメントをつけて返却して、書き直したレポートを点検する。				
オフィスアワー (研究室)		火曜日 5限・6限		メールアドレス (#→@)	adachi-m#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション(自己紹介、教科書とゼミ運営・今後の予定の説明、教科書の各章に関する報告の順番の決定、ゼミ長の選出)。実務経験で得た調査データの分析を通じた政策提言に関して解説する。■				
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書を読んで、自分の報告したい章を3つ以上、選んでおくこと。			1.5 時間
		復習	自分が報告することになった章を熟読し、関連の資料や文献を調べて、報告レジュメを作成しておくこと。			1.5 時間
2	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。				
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。			1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。			1.5 時間
3	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。				

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
4	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
5	該当到達目標 1,2,3,4,	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
6	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
7	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
8	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
9	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
10	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	報告者はレジюмеを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジюмеを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	報告者はレジюмеを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジюмеを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	報告者はレジюмеを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジюмеを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	報告者はレジюмеを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	卒論中間レポートの作成について解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	教科書の内容とこれまでの議論を整理しておくこと。	3 時間
		復習	卒論中間レポートの作成をすること。	3 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間
備考	報告者が無断欠席をすると、単位が不可となります。必ず、報告者以外の受講生は、質問や意見を述べるのが義務となっています。 (重要)注意:必ず「卒業論文」を履修登録しておくこと。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)				科目 ナンバリング	SWT403
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅢ				講義形態	講義
担当教員	金井 敏					
科目に関連した 実務経験	コミュニティソーシャルワークの実践主体としての社会福祉協議会に勤務していた。実務を担当するとともに、ソーシャルワーカーの育成にも従事した。現在、行政や社協、民生委員協議会、団体の計画づくりや実践の企画・評価に携わっている。					
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	地域福祉実践を中心としてコミュニティソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。 ゼミの運営は学生が主体的に協力しながら運営する。研究・実践活動は、歴代のゼミの先輩が実践してきた内容＝ふれあい・いきいきサロン、大類地域福祉教育の会運営、赤い羽共同募金などの企画・運営・振り返りをベースとします。教員は自身の研究テーマと教育スタンスにより、フィールドの実践やアドバイスを行います。					
到達目標	1.現地演習を通じて、地域住民や団体が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。■ 2.現地演習を通じて、地域団体の運営方法や事業の企画、広報、連絡調整の技術を修得する。■ 3.コミュニティソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。■ 4.ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。■					
評価方法	①専門分野における演習の取り組み、②地域課題への取り組み、③グループ学習による取り組み、による専門的な学修、知識の獲得等により評価 100%。					
使用教材	テキストは使用しない。					
参考文献	その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付します。					
課題に対する フィードバック	演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。					
オフィスアワー (研究室)	月曜日 12 時 15 分～13 時 水曜日 12 時 15 分～13 時 で相談に応じます。 研究室:1 号館 3 階 310 研究室。		メールアドレス (#→@)		kanai#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、到達目標、授業計画を理解する。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			1.5 時間
2	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■				
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			1.5 時間
3	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■				
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			1.5 時間
4	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■				
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			1.5 時間
5	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■				
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。			1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
6	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
7	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
8	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
9	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
10	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
11	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
12	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
13	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
14	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
15	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	●シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表しています。			

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)				科目ナンバリング	SWT403
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅲ				講義形態	演習
担当教員	上原 徹					
科目に関連した実務経験	精神科医として大学病院等で勤務経験 30 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている					
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	これまでの学習の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学習、知識の獲得することができる。 4 月の段階で「精神医療」、「メンタルヘルス」、「PSW」、「MSW」、「小児保健福祉(こどもの疾病、障害、虐待などの社会問題)」、などをキーワードに、各自興味のある課題分野の中から研究発表会に向けて具体的テーマを決定する。主なゼミ時間は自主的調査や自律的学習に利用し、月 1 回程度進捗状況をゼミで報告する。学習調査の結果を 9 月中にまとめ、10 月末に予定されている報告会でプレゼンテーションと質疑応答を担当する。適宜、DVD を利用した情報提供も行う。					
到達目標	調査報告の基礎を理解することができる。テーマを選定し、計画を立てることができる。■					
評価方法	①ゼミごとのテーマに沿ったより専門的な知識の獲得、②研究発表会でのプレゼン、③出席や参加度など 100%とし、60%以上を合格とする。					
使用教材	必要に応じて指示する					
参考文献	田坂広志 著 「なぜ、働くのか」、「成長し続けるための 77 の言葉」「忘れられた叢智」					
課題に対するフィードバック	能動的に課題のフィードバックや相談を進める。					
オフィスアワー (研究室)	月 4、金 3 研究室:1 号館 5 階 501	メールアドレス (#→@)		授業で提示する		
講義内容	初回の講義時間に講義全体についてのオリエンテーションを行う■					
	予習	毎回指示する				8 時間
	復習	毎回指示する				8 時間
					合計時間(予習・復習)	16 時間
備考	精神保健福祉や医療保健領域に興味関心・問題意識があること。自主的な学習や調査に抵抗感や苦手意識がないこと。自発的・自律的にゼミ時間を自身の学習調査に活用できること、自分から積極的に教員とアポイント(連絡や相談)を取ることでできる学生を強く求める。 ■:実務経験に基づく内容を示す。					

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)			科目ナンバリング	SWT403
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅲ			講義形態	演習
担当教員	永田 理香				
科目に関連した実務経験	研修担当者として社会福祉研修実施機関(県社会福祉協議会)に勤務(経験)				
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	現在、福祉人材確保政策において人材育成の重要性が注目され、キャリアパスの策定や人材育成認証評価制度等の取組みが進められてきている。本演習では、人材育成を組織的な学習・教育活動と捉え、福祉専門職が将来展望を持ちながらキャリアアップできる人材育成のあり方について学んでいく。 基本的な研究の流れと方法が理解できるよう、個人のニーズに合わせ段階的に演習を進めていく。プレゼンテーションスキルの向上を目指し、スライドの構成・作成方法、発表方法について実践的に指導を行なう。				
到達目標	1.福祉人材育成の今日的動向について理解できる。■ 2.福祉人材育成における課題を明確化することができる。■ 3.研究テーマに基づき研究計画を立案することができる。				
評価方法	問題解決学習を中心とした授業展開とするため、段階的に形成的評価を行なう。その内訳は、授業における発言内容(30%)、研究計画の妥当性(30%)、研究活動への貢献度(40%)とし、60%以上を合格とする。				
使用教材	必要に応じて指示する				
参考文献					
課題に対するフィードバック	提出された課題については、出題した意図について解説を行い、コメントを付け返却を行なう。				
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 時限と水曜日 2 時限		メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。	
講義内容	初回到研究活動についてのオリエンテーションを行う				
	予習	適宜指示する			1.5 時間
	復習	適宜指示する			1.5 時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)			科目ナンバリング	SWT403
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅢ			講義形態	講義
担当教員	戸澤 由美恵				
科目に関連した実務経験	国立療養所栗生楽泉園人権擁護委員会外部委員				
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	ハンセン病問題を中心に現地演習やグループワーク等を通じて、社会福祉従事者として問題に向き合う姿勢、問題解決の実践方法や支援者の役割を理解する。 全体を通して、ハンセン病問題の事象や当事者のイメージが持てるように、視聴覚教材を多用する。それに基づいてグループワークなどを行う。 入所者とのイベント・交流を実施する。				
到達目標	1.当事者との交流を通じて、当事者が抱える感情や課題、ストレスを理解するとともに、それらを尊重した関わりとイベント企画ができる 2.イベント企画と現地演習を通じて、支援者である他団体・多職種の存在と役割を理解し、自身も支援者として支援方法やソーシャルアクションの方法の一部を実践・修得できる 3. 身近にある差別や偏見、社会的排除等に目を向け、福祉と人権について自分なりの考えを持てる				
評価方法	1.レポート作成と発表、リアクションペーパー・ミニレポート等の提出物の状況等 2.グループディスカッションやグループワークへの参加姿勢や貢献度、課題の達成状況等 3.療養所等見学や入所者や支援者との交流、イベント等への参加姿勢と実践、協力・貢献度等をなどを総合して評価する				
使用教材	視聴覚教材を活用し、レジュメや資料をその都度配布する				
参考文献	参考文献等は随時紹介する				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーやレポートの記載を実施し、後日、全員への共有を原則とする(一部、入所者や外部とも共有)。必要に応じて、全体への追加説明やコメント等を行う				
オフィスアワー (研究室)	水曜 2 限 3 階 303		メールアドレス (#→@)	tozawa#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで、授業内容や講義の目標などを理解する		0.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容、到達目標、評価方法などを確認し、学習の全体像を把握する		0.5 時間
2	講義内容	ハンセン病問題を理解する①ハンセン病とハンセン病問題の基礎的理解■			
	該当到達目標	予習	1 回目の資料を元に自分なりに調べ、疑問点を明らかにする		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料や映像を元に、新たな知識をノートに整理する		1.5 時間
3	講義内容	ハンセン病問題を理解する②ハンセン病問題の歴史と国立療養所栗生楽泉園を知る■			
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、自分なりの意見を持ち、疑問点を明らかにする		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料や映像を元に、新たな知識や疑問をノートに整理する		1.5 時間
4	講義内容	ハンセン病問題を理解する③当事者(入所者)の思いを知る■			
	該当到達目標	予習	配布資料をノートに整理し、自分なりに調べる		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料や映像を元に、新たな知識や疑問をノートに整理する		1.5 時間
5	講義内容	ハンセン病問題を理解する④当事者(退所者)の思いを知る■			
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、自分なりの意見を持ち、調べ、疑問点を明らかにする		1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	配布資料や映像を元に、新たな知識や疑問をノートに整理する	1.5 時間
6	講義内容	ハンセン病問題を理解する⑤ハンセン病国家賠償請求訴訟、ハンセン病家族訴訟を知る■		
	該当到達目標	予習	自分なりに調べる	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料全てを読み、新たな知識や疑問をノートに整理する	1.5 時間
7	講義内容	ハンセン病問題を理解する⑥国立ハンセン病療養所栗生楽泉園・重監房資料館を見学し、入所者と交流し、思いを理解する■		
	該当到達目標	予習	これまでの学びを元に、自分なりの目標や疑問を持つ	1.5 時間
	1,2,3	復習	見学交流を踏まえ、自分なりの意見や感想を持ちレポートにまとめる	1.5 時間
8	講義内容	身近にある差別や偏見を理解する①具体的な事象・対象を知る■		
	該当到達目標	予習	見学や入所者との交流を踏まえて、自分なりに考え調べ、発表に備える	1.5 時間
	1,2,3	復習	他のゼミ生の発表を聞き、自分なりの感想や意見を持ち、ノートに整理する	1.5 時間
9	講義内容	身近にある差別や偏見を理解する②事象の背景を考える■		
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、自分なりに調べ、疑問点を明らかにする	1.5 時間
	1,2,3	復習	他のゼミ生の発表・ディスカッションを踏まえて、自分の考え・疑問を整理する	1.5 時間
10	講義内容	身近にある差別や偏見を理解する③事象の現状を知る		
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、自分なりに調べて発表に備える■	1.5 時間
	1,2,3	復習	他のゼミ生の発表・ディスカッションを踏まえて、自分の考え・疑問を整理する	1.5 時間
11	講義内容	身近にある差別や偏見を理解する④事象への対処や解決・支援の方法を考える■		
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、自分なりに調べて発表に備える	1.5 時間
	1,2,3	復習	身近にある差別や偏見に自分なりの意見を持ち、解決や支援の方法を考える	1.5 時間
12	講義内容	入所者とのイベント・交流を企画する①企画の対象を決定し、意義と目的を考える■		
	該当到達目標	予習	これまでの学びを元に、対象や自分達にとっての企画の意義と目的を考える	1.5 時間
	1,2,3	復習	意義と目的を達成する方法を自分なりに調べ、ノートにまとめる	1.5 時間
13	講義内容	入所者とのイベント・交流を企画する②効果的な実施方法を考える■		
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、企画の提案に備える	1.5 時間
	1,2,3	復習	他のゼミ生の提案・ディスカッションをふまえて、自分の役割を考えノートにまとめる	1.5 時間
14	講義内容	入所者とのイベント・交流を企画する③必要な物品の調達や場所の確保・交渉を行う■		
	該当到達目標	予習	ノートに整理した役割や分担を確認し、グループで準備を始める	1.5 時間
	1,2,3	復習	準備・交渉過程を確認し、ゼミ生と共有・協力して準備を進める	1.5 時間
15	講義内容	入所者とのイベント・交流を企画する④準備を進める■		
	該当到達目標	予習	準備を通し、不明な点を確認し、自分なりの目標を持って実施に備える	1.5 時間
	1,2,3	復習	他者と協力して、ゼミと自分の目標の達成や評価を自分なりにまとめ評価する 前期の活動を踏まえて、後期の研究テーマ・研究計画を考える	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	* グループワークなどを行いますので、欠席をしないようにしましょう。 * 日頃から新聞を読み、ニュースや映画を見るなどして社会の情勢・動きに興味を持つようにしましょう。 * 不明な点、疑問点、質問等がある場合は、まずはメールで連絡してください。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		総合演習Ⅲ（卒業研究及び演習）			科目ナンバリング	SWT401
英文名		Seminar in Advanced StudiesⅢ			講義形態	演習
担当教員		原田 欣宏				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性		✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力		✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力		✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要（テーマ・内容）		福祉・医療・司法専門職と地域住民との協働による福祉実践を中心としたソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。 授業では文献や実地調査とグループワーク、ディスカッションを行い、適宜コメントする。				
到達目標		1.現地での演習を通じて、地域住民が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。 2.現地での演習を通じて、ソーシャルワーカーのソーシャルアクションに関する企画、広報、連絡調整の技術を修得する。 3.ソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。 4.ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。				
評価方法		①専門分野における演習の取り組み、②課題に取り組むことによる、より専門的な学修、知識の獲得、等により評価 100%、60%以上を合格とする。				
使用教材		テキストは使用しない				
参考文献		適宜文献を提示する				
課題に対するフィードバック		演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。				
オフィスアワー（研究室）		火曜 3 限 （1 号館 506 研究室）		メールアドレス （#→@）	harada#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、到達目標、授業計画を理解する。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
2	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
3	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
4	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
5	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
6	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

7	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
8	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
9	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
10	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
11	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
12	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
13	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
14	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める.	0.5 時間
15	講義内容	今後のゼミ研究・実践を自分なりにまとめる		
	該当到達目標	予習	今期のゼミ研究・実践を自分なりにまとめる.	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミでの振り返りを踏まえて, 次期に向けた準備を進める.	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	ゼミの運営は学生が主体的にかつ協力しながら運営することで学びがさらに深まることを期待しています.			

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)			科目ナンバリング	SWT403
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅢ			講義形態	演習
担当教員	根岸 洋人				
科目に関連した実務経験	高崎市障害者支援協議会副会長(現在) 高崎市障害者虐待対策協議会会長(現在)				
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針との対応	豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
	基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
	問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	障害のある人を取り巻く環境(制度、文化、支援技術等)についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を培う。 授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。授業時間以外での学修や活動を行うことが前提となる。				
到達目標	1.障害のある人を取り巻く環境について理解することができる■ 2.問題点を発見し、課題解決に向けた研究を行うことができる 3.自分の取り上げた研究テーマをプレゼンテーションすることができる				
評価方法	ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する(100%)				
使用教材	適宜指示する				
参考文献	適宜指示する				
課題に対するフィードバック	授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う				
オフィスアワー (研究室)	火曜 5 限及び金曜 5 限	メールアドレス (#→@)	negishi#takasaki-u.ac.jp		
講義内容	設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。■				
	予習	適宜指示する			8 時間
	復習	適宜指示する			8 時間
合計時間(予習・復習)					16 時間
備考	予習・復習についての時間は参考であり、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)			科目ナンバリング	SWT403
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅢ			講義形態	演習
担当教員	池田 朋広				
科目に関連した実務経験	①精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)として大学病院において 21 年の勤務経験あり。 ②非常勤として精神科クリニックデイケアに勤務。 ③精神保健参与員(精神保健福祉士)として、東京地方裁判所に登録。 ④外部講師(精神保健福祉士)として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加。				
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	おもに薬物使用者を支援の対象として、精神科医療と刑事司法の境界領域におけるソーシャルワーク実践について考えを深めていく。また、支援対象者への介入手段の一つとして、病院や矯正施設等で行なわれる心理社会的治療プログラムや、精神保健分野における多職種チームアプローチの技法についても、詳しく紹介していく。基本は演習形式で授業を行うが、外部講師を招いて講義形式にて行うこともある。課外授業やゼミ合宿も実施予定である。授業の進行については、ゼミメンバーにて話し合っている。 ・初回講義で、後期の講義全体(研究活動)のオリエンテーションを行う。 ・社会福学科研究発表会の発表準備及びプレゼンテーションの練習、発表会での報告。				
到達目標	これまでの学習の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学習、知識の獲得することができる。メンタルヘルス領域・司法福祉領域から各自が関心のある分野や課題を選び、研究報告会にむけての具体的なテーマを決める。学期中はゼミ時間を自主的な学習調査に利用し、月 1 回程度進捗状況をゼミで報告する。■				
評価方法	発表テーマの立案、調査計画に関する課題の提出、出席や参加度を 100% 60%以上を合格とする。				
使用教材	必要に応じて指示する。				
参考文献	必要に応じて指示する。				
課題に対するフィードバック	学生から提出された成果物の内容を修正し、全体に向けて解説する。				
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 時限, 水曜日 2 時限		メールアドレス (#→@)	ikedat#takasaki-u.ac.jp	
講義内容	見学を踏まえて、発表内容を決めて、分担して調べたものをゼミで発表する。				
	予習	発表の準備・練習。■			8 時間
	復習	授業で考察したものをまとめる。発表準備・練習を進める。■			8 時間
合計時間(予習・復習)					16 時間
備考	自分から積極的に教員とアポイント(連絡や相談)を取ることができると望ましい。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)				科目ナンバリング	SWT401
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅲ				講義形態	演習
担当教員	石坂 公俊					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	1.「子どもの貧困」をテーマとし、貧困で何が起きているのか、なぜ貧困があるのかを理解する。 2.「子どもの貧困」を背景とした多角的な視点を醸成する。 3.フィールドワークに参加しながら、貧困問題などについて自分の目と耳で考える。 上記 3 つを講義目標とし、「貧困の中でしんどい思いをしている子ども達」、「なぜ貧困があるのか」について中心的に理解する。グループワーク、文献・資料等も活用し、学びを深める方法をとる。さらにゼミ内で国家試験学習も行っていく。それらの取り組みを通じて、教員、ゼミ生同士の相互交流を図ることが主な目的となる。					
到達目標	1.貧困の中で育つ子どもの生活実態を理解することができる。 2.「子どもの貧困」をめぐる背景や諸動向を理解することができる。 3.社会福祉の関連事象には背景に貧困問題があるかもしれないという感度を持つことができる。					
評価方法	1.履修の条件として、子どもの貧困やホームレス問題などに関心のある学生を希望する。 2.ゼミ活動としてフィールドワークへの参加に意欲的な学生を希望する。 上記を目安に総合的に評価する。					
使用教材	必要に応じて指示するが、参考文献などは授業中にも適宜紹介していく。 授業内容によっては DVD などを視聴する機会も設け、レジュメや参考資料なども配付する。					
参考文献	特記事項なし					
課題に対するフィードバック	発表、提出物等に対してコメントする。 必要に応じて面談、個別指導を随時実施する。					
オフィスアワー (研究室)	水曜日 4 時限、質問はメールでも受け付ける。(1 号館 5 階 503 研究室)	メールアドレス (#→@)	kimi#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	「子どもの貧困問題」がメインテーマとなる。子どもの貧困の実態、困難を抱えた子どもや家族の「声」を社会に発信し、解決への道筋を考えていく。本講座では将来にわたって、貧困問題に対するアンテナを持ち続けられる支援者を目指す。総合演習Ⅲを履修する 4 年生と合同で実施する。					
	予習	毎回提示する。				8 時間
	復習	毎回提示する。				8 時間
合計時間(予習・復習)					16 時間	
備考	フィールドワークとして子ども無料学習会、ホームレス配食(聞き取り調査も実施)の活動に参加が可能となる。					

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)				科目 ナンバリング	SWT403
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅢ				講義形態	演習
担当教員	渡邊 洋子					
科目に関連した 実務経験						
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	「ケア-ケアすること」をテーマに、ケアする立場や職種により、生じる解釈の差異を、文献やグループ討議などで、多面的にアプローチし、理解を深める。 近年は、「福祉専門職をめざす学生の死生観形成や意識」について、探究する。 これまでの研究成果を土台に、3・4 年生が、ペアまたは複数の小グループになり、文献レビュー、アンケート調査及び分析等による手法で、ゼミ内で討議し、結論を導き出す。					
到達目標	研究や研究方法の基礎を理解することができる。 文献レビューから、研究テーマにおける課題を導くことができる。 文献レビューから、課題を導き出すようにグループで討議することができる。 上記の過程を踏まえ、適切な手法で、結論を導くことができる。					
評価方法	テーマにおける課題をもとに、文献レビューし、一定の手法で結論を導き出す課題の提出 上記の他に、授業への参加度、グループメンバーとの協調性を、総合的に評価する 100%、60%を合格とする。					
使用教材	必要に応じて指示する					
参考文献						
課題に対する フィードバック	課題の進捗状況により、グループあるいは、個別にフィードバックする					
オフィスアワー (研究室)	火曜 2 時限 研究室:1 号館 5 階 505 (メール等でご予約ください。)		メールアドレス (#→@)		初回授業時に配布する詳細シラバスに 記載	
講義内容	初回の講義時間に講義全体についてのオリエンテーションを行う					
	予習	毎回指示する。				8 時間
	復習	毎回指示する。				8 時間
合計時間(予習・復習)					16 時間	
備考						

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)				科目 ナンバリング	SWT403
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅢ				講義形態	演習
担当教員	大川 健次郎					
科目に関連した 実務経験						
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	児童家庭福祉の諸問題を中心に扱う。現在の児童や家庭、女性問題などに焦点を当てて、これまでの大学の講義や演習等で学んだことを、自分の興味範囲を定めて深めて研究することを目的とする。これまでの先行研究や文献等を調べ、自分なりの問題意識をもって課題を設定し、ウェルビーイング社会を実現するために必要な施策やあり方等を導き出すことを目指す。					
到達目標	1.各学生が各自で研究テーマを設定し、その重要性を他者に伝えることができる。 2.研究計画を策定し、成果を導き出すための手段を正確に踏むことができる。 3.研究計画に沿って、文献等の情報を適切に扱うことができる。 4.成果を文章化することができる。 5.成果をゼミ生同士で討議し、自分の考えを深めることができる。 6.討議した結果、自分の考えに客観性を持つことができる。					
評価方法	研究計画書・発表文書(60%)、他のゼミ生への提案(20%)、ゼミ活動への貢献度(20%)					
使用教材	教科書は使用しないが、ゼミにおいて資料の配布、参考書の紹介などを予定している。					
参考文献						
課題に対する フィードバック	研究計画書・発表文書作成段階で、個別指導を実施する。					
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 時限			メールアドレス (#→@)	okawa#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	教員による授業(直近の児童家庭福祉の動向について【その 1】)				
	該当到達目標	予習	福祉に関する新聞等により直近の児童家庭福祉の動向を学習すること。			1 時間
	1	復習	これまでのテキスト以降の児童家庭福祉制度の変更点を確認すること。			1 時間
2	講義内容	教員による授業(直近の児童家庭福祉の動向について【その 2】)				
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習すること。			1 時間
	1	復習	これまでのテキスト以降の児童家庭福祉制度の変更点を確認すること。			1 時間
3	講義内容	個人発表・グループ学習・研究計画書の方法と手続きの講義【全体】				
	該当到達目標	予習	文献の扱い方等、学習の方法・研究計画書について予習すること。			1 時間
	1,2,3,4	復習	自分の関心ごとを文章化する際の留意点等を確認すること。			1 時間
4	講義内容	個人発表・グループ学習・研究計画書の方法と手続きの講義【個別指導】①				
	該当到達目標	予習	文献の扱い方等、学習の方法について予習すること。			1 時間
	1,2,3,4	復習	自分の関心ごとを文章化する際の留意点等を確認すること。			1 時間
5	講義内容	個人発表・グループ学習・研究計画書の方法と手続きの講義【個別指導】②				
	該当到達目標	予習	自分の研究テーマを考察すること			1 時間
	1,2,3,4	復習	グループ内の各学生の研究テーマについて考察すること			1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

6	講義内容	個人発表・グループ学習		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	レジュメを使った発表を行う。自分が担当となった項目について、指定されたやり方でレジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。	1 時間
		復習	学生の発表した内容とグループにて討議した内容について、その重要性を理解すること。	1 時間
7	講義内容	個人発表・グループ学習		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	レジュメを使った発表を行う。自分が担当となった項目について、指定されたやり方でレジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。	1 時間
		復習	学生の発表した内容とグループにて討議した内容について、その重要性を理解すること。	1 時間
8	講義内容	個人発表・グループ学習		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	レジュメを使った発表を行う。自分が担当となった項目について、指定されたやり方でレジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。	1 時間
		復習	学生の発表した内容とグループにて討議した内容について、その重要性を理解すること。	1 時間
9	講義内容	個人発表・グループ学習		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	レジュメを使った発表を行う。自分が担当となった項目について、指定されたやり方でレジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。	1 時間
		復習	学生の発表した内容とグループにて討議した内容について、その重要性を理解すること。	1 時間
10	講義内容	個人発表・グループ学習		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	レジュメを使った発表を行う。自分が担当となった項目について、指定されたやり方でレジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。	1 時間
		復習	学生の発表した内容とグループにて討議した内容について、その重要性を理解すること。	1 時間
11	講義内容	個人発表・グループ学習		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	レジュメを使った発表を行う。自分が担当となった項目について、指定されたやり方でレジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。	1 時間
		復習	学生の発表した内容とグループにて討議した内容について、その重要性を理解すること。	1 時間
12	講義内容	個人発表・グループ学習		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	レジュメを使った発表を行う。自分が担当となった項目について、指定されたやり方でレジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。	1 時間
		復習	学生の発表した内容とグループにて討議した内容について、その重要性を理解すること。	1 時間
13	講義内容	研究発表会に向けたグループ学習		
	該当到達目標 5,6	予習	各学生の発表した内容について、確認しておくこと。	1 時間
		復習	グループで討議した内容について、各自まとめておくこと。	1 時間
14	講義内容	研究発表会に向けたグループ学習【テーマ設定】		

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	ゼミ全体での研究発表を前提に各自ゼミとしてのテーマについて考察しておくこと。	1 時間
	5,6	復習	授業で設定したテーマについて、その重要性や意義を深めておくこと。	1 時間
15	講義内容	まとめと討論		
	該当到達目標	予習	前期の各ゼミ生の発表のまとめをしておくこと。	1 時間
	5,6	復習	前期のゼミでの討議を後期に向けて深めておくこと	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考				

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)			科目ナンバリング	SWT403
英文名	Seminar in Advanced Studies III			講義形態	演習
担当教員	大口 達也				
科目に関連した実務経験	社会福祉士として地域包括支援センター(行政直営)に勤務(経験) 社会福祉士として基幹型地域包括支援センター(行政直営)に勤務(経験) 社会福祉士・専門相談員として高齢者権利擁護支援センター(東京都)に勤務(経験) 社会福祉士として公益社団法人の権利擁護ネットワーク組織に勤務(経験)				
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	今後、「地域共生社会」のコンセプトが広まり、子どもから高齢者まで、幅広い分野・業界でソーシャルワークが必要になる社会が到来する。そのような社会では、「ソーシャルワークの価値や原則」を、様々な場面で役立つ「一生モノの学び」として人から人へ伝承することがソーシャルワーカーに求められる。 それらを実現する手法として、デービッド・コルブ(David A. Kolb)の「経験学習(Experiential Learning)」が挙げられる。ジェネラリスト・ソーシャルワークの理論に基づき、これまでの学習を踏まえ、学生自らが「経験学習」を企画・開発・実践し、ソーシャルワークの価値・技能・知識・能力・実践の観点から効果を測定する。 以上の研究活動を行い、国家試験の学習も踏まえ、今までの学習を概念化(持論化)し、専門的な知識・技術を定着させ、応用・実践する能力を獲得することができる。 ゼミ形式で議論・演習・企画検討等を行う。授業外の課外活動も行う予定である。				
到達目標	1. ジェネラリスト・ソーシャルワークと「経験学習」の理論を理解し、説明することができる。■ 2. 研究テーマを選定し、テーマに基づいた「経験学習」を企画・開発・実践することができる。■ 3. 経験をソーシャルワークの価値・技能・知識・能力・実践の観点から効果測定できる。■ 4. 「ソーシャルワークの価値や原則」を概念化(持論化)し、説明することができる。■				
評価方法	研究テーマに基づいた「経験学習」の企画・開発・実践 60% ソーシャルワークの価値・技能・知識・能力・実践の観点からの効果測定実施 40% 60%以上を合格とする				
使用教材	必要に応じて指示する。				
参考文献	必要に応じて紹介する。				
課題に対するフィードバック	毎回の講義で進捗状況を確認し、課題に対するフィードバックを随時行う。 実践した「経験学習」は、教員だけではなく、「経験学習」を受けた者からもフィードバックを行う。				
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 時限, 水曜日 2 時限		メールアドレス (#→@)	oguchi#takasaki-u.ac.jp	
講義内容	初回講義で、前期の講義全体(研究活動)のオリエンテーションを行う。 ・ 4 年生の「経験学習」を受け、ジェネラリスト・ソーシャルワークと「経験学習」の理論と研究内容を理解する。 ・ 研究テーマを教員と相談しながら選定し、テーマに基づいた「経験学習」を企画・開発する。 ・ 自らの「経験学習」を 4 年生に実施し、フィードバックを受けて改善・改良する。 ・ 他者に「経験学習」を実施し、ソーシャルワークの価値・技能・知識・能力・実践の観点から効果測定を行う。				
	予習	「経験学習」の企画・開発・実践、効果測定の準備■			8 時間
	復習	授業で受けた指摘をもとに、「経験学習」の企画・開発・実践を進める■			8 時間
合計時間(予習・復習)					16 時間

備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)			科目ナンバリング	SWT403
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅢ			講義形態	演習
担当教員	堀口 美奈子				
科目に関連した実務経験	介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務(10 年)				
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	社会福祉は、ひとりよりみんな、他者とともに生きる＝共生社会のなかで育まれる。そこで本科目では、共生社会の原点である「自己」について知り、社会福祉専門職に求められる「社会福祉を構成するちから」について検討していく。 授業では、講義の他、事例などを踏まえた演習を行う。演習では個人ワークの他、グループワークを行い、相互作用による学習の定着を図る。				
到達目標	1.具体的なワークを通して、チームで働く力や前に踏み出す力、考え抜く力を身につけることができる。■ 2.実践経験から内省的観察を行い、共生社会の構成時に必要となる抽象的概念を抽出、言語化できる。■ 3.得られた概念を、社会の中での能動的実践に活かすことができる。■ 4.ワークや他者との交流を通して、自己についての考えを深めることができる。				
評価方法	テーマに関する課題の提出物 60%、演習での活発な参加と議論・活動への貢献度 40%				
使用教材	教科書は使用しないが、必要に応じて資料の配布、参考書の紹介を予定している。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜コメントを付しての返却を予定している。				
オフィスアワー (研究室)	月曜・水曜 3 限		メールアドレス (#→@)	初回授業時にアナウンスする。	
1	講義内容	オリエンテーション、総合演習の意義と目的■			
	該当到達目標	予習	不要	0.5 時間	
	1,2,3,4	復習	初回ゼミで指導教員から説明があった点、今後の授業方針を確認する。		0.5 時間
2	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 1-1■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。		0.5 時間
3	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 1-2■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。		0.5 時間
4	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 2-1■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。		0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

5	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 2-2■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。		0.5 時間
6	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 3-1■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。		0.5 時間
7	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 3-2■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。		0.5 時間
8	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 4-1■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。		0.5 時間
9	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 4-2■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。		0.5 時間
10	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 5-1			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。		0.5 時間
11	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 5-2			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。		0.5 時間
12	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 5-3			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。		0.5 時間
13	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 5-4			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。		0.5 時間
14	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 5-5			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
		復習	実施した演習内容を確認し、リフレクションシートを記入する。		0.5 時間
15	講義内容	指導教員による個人及びグループ学習 5-6、まとめと対話■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	前期に行った演習に関する配付物やリフレクションシートを読み返す。		0.5 時間
		復習	対話や前期の実践内容から感じたことなどを、指定様式に記入する。		0.5 時間
合計時間(予習・復習)					15 時間
備考	予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名		総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)			科目 ナンバリング	SWT404
英文名		Seminar in Advanced StudiesⅣ			講義形態	講義
担当教員		安達 正嗣				
科目に関連した 実務経験		兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。				
学年・開講期		4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別						
学位授与方針 との対応			豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
			基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
			問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)		現代の日本社会において、高齢化に関する福祉社会学的ならびに家族社会学的な視点・分析能力の養成は、さまざまな学術分野のみならず、社会福祉・精神保健・介護の現場のなかで重要性を増してきている。本演習では、高齢者福祉のあり方を考えることを通じて、こうした視点・分析能力を身につけることを目指すものである。 受講生が主体となって、司会と報告者の役割をおこない、教科書の担当章に関する報告者の報告内容・レジュメをめぐって議論して、担当教員が適宜に助言しながら、教科書の内容の理解を深めるものである。				
到達目標		(1) 高齢化の現状と高齢者福祉政策の動向について理解できる。 (2) 高齢社会における課題を明確化して認識することができる。 (3) 受講生が自らの問題意識から研究テーマを発見でき、プレゼンテーションの能力を養うことができる。 (4) 福祉社会学・家族社会学の研究手法(調査方法を含む)を習得できる。■ (5) ゼミ論を作成することによって、卒論を作成する能力を身につけることができる。				
評価方法		受講生に対する評価の内訳は、演習中の研究課題への取り組みに対する評価(50%)、学期末に提出するレポート(プレ・ゼミ論)の評価(50%)、合計 100%で評価する。				
使用教材		G・エスピノー＝アンデルセン『アンデルセン、福祉を語る』NTT出版				
参考文献		講義中、適宜指示する。				
課題に対する フィードバック		毎回の報告、提出された学期末卒論中間レポートについて、コメントをつけて返却して、書き直したレポートを点検する。				
オフィスアワー (研究室)		火曜日 5 限・6 限		メールアドレス (#→@)	adachi-m#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション(自己紹介、教科書とゼミ運営・今後の予定の説明、教科書の各章に関する報告の順番の決定、ゼミ長の選出)。実務経験で得た調査データの分析を通じた政策提言に関して解説する。■				
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書を読んで、自分の報告したい章を3つ以上、選んでおくこと。			1.5 時間
		復習	自分が報告することになった章を熟読し、関連の資料や文献を調べて、報告レジュメを作成しておくこと。			1.5 時間
2	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。				
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。			1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。			1.5 時間
3	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。				

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
4	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
5	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
6	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
7	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
8	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
9	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
10	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。	
		予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。		

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	1,2,3,4,5	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
			復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。			
	該当到達目標	1,2,3,4,5	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
			復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。			
	該当到達目標	1,2,3,4,5	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
			復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。			
	該当到達目標	1,2,3,4,5	予習	報告者はレジュメを作成して、報告の準備をしておくこと。それ以外の受講生は、その章をよく読んでおくこと。	1.5 時間
			復習	報告者は、質疑応答と議論の内容を整理しておくこと。それ以外の受講生は、報告の準備をしておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	卒論の作成について解説する。			
	該当到達目標	1,2,3,4,5	予習	教科書の内容とこれまでの議論を整理しておくこと。	3 時間
			復習	卒論の作成をすること。	3 時間
合計時間(予習・復習)					48 時間
備考	報告者が無断欠席をすると、単位が不可となります。必ず、報告者以外の受講生は、質問や意見を述べるのが義務となっています。 (重要)注意:必ず「卒業論文」を履修登録しておくこと。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)				科目 ナンバリング	SWT404
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅣ				講義形態	講義
担当教員	金井 敏					
科目に関連した 実務経験	コミュニティソーシャルワークの実践主体としての社会福祉協議会に勤務していた。実務を担当するとともに、ソーシャルワーカーの育成にも従事した。現在、行政や社協、民生委員協議会、団体の計画づくりや実践の企画・評価に携わっている。					
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
	✓	問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	地域福祉実践を中心としてコミュニティソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。 ゼミの運営は学生が主体的に協力しながら運営する。研究・実践活動は、歴代のゼミの先輩が実践してきた内容＝ふれあい・いきいきサロン、大類地域福祉教育の会運営、赤い羽共同募金などの企画・運営・振り返りをベースとします。教員は自身の研究テーマと教育スタンスにより、フィールドの実践やアドバイスを行います。					
到達目標	1.現地演習を通じて、地域住民や団体が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。■ 2.現地演習を通じて、地域団体の運営方法や事業の企画、広報、連絡調整の技術を修得する。■ 3.コミュニティソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。■ 4.ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。■					
評価方法	①専門分野における演習の取り組み、②地域課題への取り組み、③グループ学習による取り組み、による専門的な学修、知識の獲得等により評価 100%。					
使用教材	テキストは使用しない。					
参考文献	その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付します。					
課題に対する フィードバック	演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。					
オフィスアワー (研究室)	月曜日 12 時 15 分～13 時 水曜日 12 時 15 分～13 時 で相談に応じます。 研究室:1 号館 3 階 310 研究室。		メールアドレス (#→@)		kanai#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、到達目標、授業計画を理解する。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			1.5 時間
2	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■				
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			1.5 時間
3	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■				
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			1.5 時間
4	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■				
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			1.5 時間
5	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■				
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
6	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
7	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
8	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
9	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
10	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
11	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
12	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
13	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
14	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
15	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動■		
	該当到達目標	予習	本時の研究・実践活動の課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	●シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表しています。			

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)				科目ナンバリング	SWT404
英文名	Seminar in Advanced Studies IV				講義形態	演習
担当教員	上原 徹					
科目に関連した実務経験	精神科医として大学病院等で勤務経験 30 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている					
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	これまでの学習の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学習、知識の獲得することができる。 4 月の段階で「精神医療」、「メンタルヘルス」、「PSW」、「MSW」、「小児保健福祉(こどもの疾病、障害、虐待などの社会問題)」、などをキーワードに、各自興味のある課題分野の中から研究発表会に向けて具体的テーマを決定する。主なゼミ時間は自主的調査や自律的学習に利用し、月 1 回程度進捗状況をゼミで報告する。学習調査の結果を 9 月中にまとめ、10 月末に報告会でプレゼンテーションと質疑応答を担当する。適宜、DVD を利用した情報提供も行う。					
到達目標	調査報告の基礎を理解することができる。テーマを選定し、計画を立てることができる。■					
評価方法	①ゼミごとのテーマに沿ったより専門的な知識の獲得、②研究発表会でのプレゼン、③出席や参加度など 100%とし、60%以上を合格とする。					
使用教材	必要に応じて指示する					
参考文献	田坂広志 著 「なぜ、働くのか」、「成長し続けるための 77 の言葉」「忘れられた叡智」					
課題に対するフィードバック	能動的に課題のフィードバックや相談を進める。					
オフィスアワー (研究室)	月 4、金 2 研究室:1 号館 5 階 501	メールアドレス (#→@)	授業で提示する			
講義内容	初回の講義時間に講義全体についてのオリエンテーションを行う■					
	予習	毎回指示する			8 時間	
	復習	毎回指示する			8 時間	
合計時間(予習・復習)					16 時間	
備考	精神保健福祉や医療保健領域に興味関心・問題意識があること。自主的な学習や調査に抵抗感や苦手意識がないこと。自発的・自律的にゼミ時間を自身の学習調査に活用できること、自分から積極的に教員とアポイント(連絡や相談)を取ることでできる学生を強く求める。 ■:実務経験に基づく内容を示す。					

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)				科目ナンバリング	SWT404
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅣ				講義形態	演習
担当教員	永田 理香					
科目に関連した実務経験	研修担当者として社会福祉研修実施機関(県社会福祉協議会)に勤務(経験)					
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	現在、福祉人材確保政策において人材育成の重要性が注目され、キャリアパスの策定や人材育成認証評価制度等の取組みが進められてきている。本演習では、人材育成を組織的な学習・教育活動と捉え、福祉専門職が将来展望を持ちながらキャリアアップできる人材育成のあり方について学んでいく。 基本的な研究の流れと方法が理解できるよう、個人のニーズに合わせ段階的に演習を進めていく。プレゼンテーションスキルの向上を目指し、スライドの構成・作成方法、発表方法について実践的に指導を行なう。					
到達目標	1.研究計画に基づき研究活動を展開することができる。 2.調査結果を検討し、研究目的に基づいた考察ができる。■ 3.研究の成果を整理し、研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。					
評価方法	問題解決学習を中心とした授業展開とするため、段階的に形成的評価を行なう。その内訳は、授業における発言内容(30%)、研究活動への貢献度(40%)、プレゼンテーション(30%)とし、60%以上を合格とする。					
使用教材	必要に応じて指示する					
参考文献						
課題に対するフィードバック	提出された課題については、出題した意図ついて解説を行い、コメントを付け返却を行なう。					
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 時限と水曜日 2 時限		メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。		
講義内容	初回到研究活動についてのオリエンテーションを行う					
	予習	適宜指示する				1.5 時間
	復習	適宜指示する				1.5 時間
合計時間(予習・復習)						45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。					

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)			科目ナンバリング	SWT404
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅣ			講義形態	講義
担当教員	戸澤 由美恵				
科目に関連した実務経験	国立療養所栗生楽泉園人権擁護委員会外部委員				
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	これまでのハンセン病問題に関する知識と実践をベースに、個人やグループのテーマに基づいた研究と発表を通して、より専門的な学習、知識の修得ができる。 全体の流れとして、前期のハンセン病問題をベースとしたゼミ活動と実践をもとに、個人やグループで意見交換などをしながらレジュメ作成・発表などを通して各自の研究テーマを深めていく。 療養所見学と入所者・対処者とその家族との交流を実施する。				
到達目標	1.個別・グループの研究テーマに基づいて、研究計画を立案し研究の成果をまとめることができる 2.社会福祉学科研究発表会やゼミ内での発表を通し、研究成果のプレゼンテーションができる 3.ゼミ活動や研究発表を通して、社会福祉従事者として自身の課題を明確にし、問題解決の実践方法や支援者の役割について自分なりの考えを持てる				
評価方法	1.レポート作成と発表、授業時間内に記入するリアクションペーパー・ミニレポート等の提出物の状況等 2.個別またはグループによる研究課題への取り組み姿勢と貢献度、プレゼンテーションの状況等 3.療養所等見学や入所者や支援者、ゼミメンバーとの交流等への参加姿勢と協力等 などを総合して評価する				
使用教材	各個人・グループの研究テーマに基づき、レジュメや配布資料を学生自身が準備・紹介する。 教員は、必要に応じて補足資料を配布する。				
参考文献	参考文献等を随時紹介する				
課題に対するフィードバック	感想・リアクションペーパー記載や研究レポート作成を行い、後日、全員への共有と意見交換を原則とする(一部、入所者や外部とも共有)。必要に応じて、全体への追加説明やコメント等を行う				
オフィスアワー (研究室)	水曜 2 限 3 階 303		メールアドレス (#→@)	tozawa#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション■			
	1,2,3	該当到達目標	予習	シラバスを読んで、後期の内容や目標などを理解する	
		復習	講義内容、到達目標、評価方法などを確認し、学習の全体像を把握する。 前期のまとめを行い、自身の課題と研究テーマを考える		0.5 時間
2	講義内容	社会福祉学科研究発表会への準備①前期の学びと企画実践を検証する■			
	1,2	該当到達目標	予習	前期のノートを元に成果と課題を自分なりにまとめ、発表に備える	
		復習	ゼミ生の発表とディスカッションをノートに整理する		1.5 時間
3	講義内容	社会福祉学科研究発表会への準備②発表の骨子と担当・役割を決める■			
	1,2	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、自分なりの視点と構想をまとめ、骨子提案に備える	
		復習	ディスカッションをもとに自分の担当部分をまとめ、ノートに整理する		1.5 時間
4	講義内容	社会福祉学科研究発表会への準備③発表内容をまとめる■			
	1,2	該当到達目標	予習	前回のノートを元に、レジュメを作成し提案に備える	
		復習	ディスカッションをもとに内容をまとめ、プレゼンテーション資料を作成する		1.5 時間
5	講義内容	社会福祉学科研究発表会への準備④プレゼンテーション資料を作成する■			

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標	予習	プレゼン資料を提案する	1.5	時間
	1,2	復習	ディスカッションをもとにプレゼン資料、発表原稿をまとめる	1.5	時間
6	講義内容	社会福祉学科研究発表会でのプレゼンテーション■			
	該当到達目標	予習	役割分担にそって、自分なりに発表の準備をする	1.5	時間
	1,2	復習	ゼミの発表について、他ゼミの発表を聞いて、レポートを作成する	1.5	時間
	講義内容	個別またはグループによる研究課題①研究テーマの決定■			
7	該当到達目標	予習	これまでの学びを元に、自分なりの疑問や関心をノートに整理する	1.5	時間
	1,2,3	復習	ディスカッションを踏まえ、自分やグループのテーマを決め研究計画をまとめる	1.5	時間
8	講義内容	個別またはグループによる研究課題②■			
	該当到達目標	予習	自分またはグループで調べ、まとめる	1.5	時間
	1,2,3	復習	ディスカッションを踏まえて、更に調べ、まとめる	1.5	時間
	講義内容	個別またはグループによる研究課題③■			
9	該当到達目標	予習	自分またはグループで調べ、まとめる	1.5	時間
	1,2,3	復習	ディスカッションを踏まえて、更に調べ、ノートにまとめる	1.5	時間
10	講義内容	個別またはグループによる研究課題④中間報告■			
	該当到達目標	予習	前回作成のノートを元に、レジュメを作成し中間報告に備える	1.5	時間
	1,2,3	復習	報告に基づいてディスカッションを行い、更に調べ、レジュメにまとめる	1.5	時間
	講義内容	個別またはグループによる研究課題⑤■			
11	該当到達目標	予習	レジュメを作成する	1.5	時間
	1,2,3	復習	レジュメを作成する	1.5	時間
12	講義内容	個別またはグループによる研究課題⑥プレゼンテーション 1■			
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションと質疑応答に備える	1.5	時間
	1,2,3	復習	自身の発表、他学生の発表を聞き、プレゼンテーションの内容や課題達成の評価をする。自己の課題をまとめたレポートを作成する。	1.5	時間
	講義内容	個別またはグループによる研究課題⑦プレゼンテーション 2■			
13	該当到達目標	予習	プレゼンテーションと質疑応答に備える	1.5	時間
	1,2,3	復習	自身の発表、他学生の発表を聞き、プレゼンテーションの内容や課題達成の評価をする。自己の研究課題のまとめとレポートを作成する。	1.5	時間
14	講義内容	国立療養所見学と入所者・対処者とその家族等との交流■			
	該当到達目標	予習	研究課題・事前学習を踏まえて準備を行い、不明な点を確認し、自分なりの目標を持って実施に備える	1.5	時間
	1,2,3	復習	見学・交流の目標の達成や評価を行う	1.5	時間
	講義内容	まとめ■			
15	該当到達目標	予習	1年間の学びを踏まえた見学・交流の感想や考察をレジュメにまとめる	2.5	時間
	1,2,3	復習	1年間の活動の総括レポートを作成し自己の課題を明確にする	2.5	時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	* 日頃から新聞を読み、ニュースや映画を見るなどして社会の情勢・動きに興味を持つようにしましょう * 不明な点、疑問点、質問等がある場合は、まずはメールで連絡してください ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名		総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)			科目ナンバリング	SWT401
英文名		Seminar in Advanced StudiesⅣ			講義形態	演習
担当教員		原田 欣宏				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)		福祉・医療・司法専門職と地域住民との協働による福祉実践を中心としたソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。 授業では文献や実地調査とグループワーク、ディスカッションを行い、適宜コメントする。				
到達目標		1.現地での演習を通じて、地域住民が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。 2.現地での演習を通じて、ソーシャルワーカーのソーシャルアクションに関する企画、広報、連絡調整の技術を修得する。 3.ソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。 4.ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。				
評価方法		①専門分野における演習の取り組み、②課題に取り組むことによる、より専門的な学修、知識の獲得、等により評価 100%. 60%以上を合格とする。				
使用教材		テキストは使用しない				
参考文献		適宜文献を提示する				
課題に対するフィードバック		演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。				
オフィスアワー (研究室)		火曜 3 限 (1 号館 506 研究室)		メールアドレス (#→@)	harada#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、到達目標、授業計画を理解する。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
2	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
3	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
4	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
5	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間
6	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動				
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。			0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り、次の課題への準備を進める。			0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

7	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	0.5 時間
8	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	0.5 時間
9	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	0.5 時間
10	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	0.5 時間
11	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	0.5 時間
12	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	0.5 時間
13	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	0.5 時間
14	講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動		
	該当到達目標	予習	研究・実践活動の課題に取り組む。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミ研究・実践活動を振り返り, 次の課題への準備を進める。	0.5 時間
15	講義内容	今後のゼミ研究・実践を自分なりにまとめる		
	該当到達目標	予習	今期のゼミ研究・実践を自分なりにまとめる。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミでの振り返りを踏まえて, 卒業後の活動に向けた準備を進める。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	ゼミの運営は学生が主体的にかつ協力しながら運営することで学びがさらに深まることを期待しています。			

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)				科目 ナンバリング	SWT404
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅣ				講義形態	演習
担当教員	根岸 洋人					
科目に関連した 実務経験	高崎市障害者支援協議会副会長(現在) 高崎市障害者虐待対策協議会会長(現在)					
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	障害のある人を取り巻く環境(制度、文化、支援技術等)についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を培う。 授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。授業時間以外での学修や活動を行うことが前提となる。					
到達目標	1.障害のある人を取り巻く環境について理解することができる■ 2.問題点を発見し、課題解決に向けた研究を行うことができる 3.自分の取り上げた研究テーマをプレゼンテーションすることができる					
評価方法	ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する(100%)					
使用教材	適宜指示する					
参考文献	適宜指示する					
課題に対する フィードバック	授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う					
オフィスアワー (研究室)	火曜 5 限及び金曜 5 限		メールアドレス (#→@)		negishi#takasaki-u.ac.jp	
講義内容	設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。■					
	予習	適宜指示する				8 時間
	復習	適宜指示する				8 時間
					合計時間(予習・復習)	16 時間
備考	予習・復習についての時間は参考であり、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること ■:実務経験に基づく内容を示す。					

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)			科目 ナンバリング	SWT404
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅣ			講義形態	演習
担当教員	池田 朋広				
科目に関連した 実務経験	①精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)として大学病院において 21 年の勤務経験あり。 ②非常勤として精神科クリニックデイケアに勤務。 ③精神保健参与員(精神保健福祉士)として、東京地方裁判所に登録。 ④外部講師(精神保健福祉士)として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加。				
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	おもに薬物使用者を支援の対象として、精神科医療と刑事司法の境界領域におけるソーシャルワーク実践について考えを深めていく。また、支援対象者への介入手段の一つとして、病院や矯正施設等で行なわれる心理社会的治療プログラムや、精神保健分野における多職種チームアプローチの技法についても、詳しく紹介していく。基本は演習形式で授業を行うが、外部講師を招いて講義形式にて行うこともある。課外授業やゼミ合宿も実施予定である。授業の進行については、ゼミメンバーにて話し合って決める。 ・初回講義で、後期の講義全体(研究活動)のオリエンテーションを行う。 ・社会福学科研究発表会の発表準備及びプレゼンテーションの練習、発表会での報告。				
到達目標	これまでの学習の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学習、知識の獲得することができる。メンタルヘルス領域・司法福祉領域から各自が関心のある分野や課題を選び、研究報告会にむけての具体的なテーマを決める。学期中はゼミ時間を自主的な学習調査に利用し、月 1 回程度進捗状況をゼミで報告する。■				
評価方法	発表テーマの立案、調査計画に関する課題の提出、出席や参加度を 100% 60%以上を合格とする。				
使用教材	必要に応じて指示する。				
参考文献	必要に応じて指示する。				
課題に対する フィードバック	学生から提出された成果物の内容を修正し、全体に向けて解説する。				
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 時限, 水曜日 2 時限		メールアドレス (#→@)	ikedat#takasaki-u.ac.jp	
講義内容	前期に調べて、発表したものをまとめる。全員で発表の振り返りをする。				
	予習	発表の準備・練習。■			8 時間
	復習	授業で考察したものをまとめる。発表準備・練習を進める。■			8 時間
合計時間(予習・復習)					16 時間
備考	自分から積極的に教員とアポイント(連絡や相談)を取ることができると望ましい。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)				科目ナンバリング	SWT402
英文名	Seminar in Advanced Studies IV				講義形態	演習
担当教員	石坂 公俊					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	1.「子どもの貧困」をテーマとし、貧困で何が起きているのか、なぜ貧困があるのかを理解する。 2.「子どもの貧困」を背景とした多角的な視点を醸成する。 3.フィールドワークに参加しながら、貧困問題などについて自分の目と耳で考える。 上記 3 つを講義目標とし、総合演習Ⅲをふまえ、子どもの貧困に関するテーマを具体的に絞り、グループごとに成果をまとめる。その成果はゼミ合宿、研究発表会などで報告する。さらに大学内だけでなく、学会報告など外部に情報発信する。またゼミ内で国家試験学習も集中的に行い、国家試験合格を目指す。					
到達目標	1.貧困の中で育つ子どもの生活実態を理解することができる。 2.「子どもの貧困」をめぐる背景や諸動向を理解することができる。 3.社会福祉の関連事象には背景に貧困問題があるかもしれないという感度を持つことができる。					
評価方法	1.履修の条件として、子どもの貧困やホームレス問題などに関心のある学生を希望する。 2.ゼミ活動としてフィールドワークへの参加に意欲的な学生を希望する。 上記を目安に総合的に評価する。					
使用教材	必要に応じて指示するが、参考文献などは授業中にも適宜紹介していく。 授業内容によっては DVD などを視聴する機会も設け、レジュメや参考資料なども配付する。					
参考文献	特記事項なし					
課題に対するフィードバック	発表、提出物等に対してコメントする。 必要に応じて面談、個別指導を随時実施する。					
オフィスアワー (研究室)	水曜日 4 時限、質問はメールでも受け付ける。(1 号館 5 階 503 研究室)	メールアドレス (#→@)	kimi#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	「子どもの貧困問題」がメインテーマとなる。子どもの貧困の実態、困難を抱えた子どもや家族の「声」を社会に発信し、解決への道筋を考えていく。本講座では将来にわたって、貧困問題に対するアンテナを持ち続けられる支援者を目指す。総合演習Ⅳを履修する 4 年生と合同で実施する。					
	予習	毎回提示する。				8 時間
	復習	毎回提示する。				8 時間
合計時間(予習・復習)						16 時間
備考	総合演習Ⅲに引き続き、子ども無料学習会、ホームレス配食の活動にも参加が可能。					

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)				科目 ナンバリング	SWT404
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅣ				講義形態	演習
担当教員	渡邊 洋子					
科目に関連した 実務経験						
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針 との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	「ケア・ケアすること」をテーマに、ケアする立場や職種により、生じる解釈の差異を、文献やグループ討議などで、多面的にアプローチし、理解を深める。 近年は、「福祉専門職をめざす学生の死生観形成や意識」について、探究する。 これまでの研究成果を土台に、3・4 年生が、ペアまたは複数の小グループになり、文献レビュー、アンケート調査及び分析等による手法で、ゼミ内で討議し、結論を導き出す。					
到達目標	社会福祉学科研究発表会において、学生全体でまとめた成果を、プレゼンテーションできる。					
評価方法	前期の研究テーマにおける「問い」から、導き出した結論までのプロセスをもとに、一定の形式に整えて、発表し、質疑応答する 100%、60%以上を合格とする					
使用教材	必要に応じて指示する					
参考文献						
課題に対する フィードバック	テーマにおける「問い」をもとに、文献レビューし、一定の手法で結論を導き出す課題の提出 後日、発表の際に、内容についてディスカッションし、フィードバックしながら、方向性を定める					
オフィスアワー (研究室)	火曜 2 時限 研究室:1 号館 5 階 505 (メール等でご予約ください。)		メールアドレス (#→@)		初回授業時に配布する詳細シラバスに 記載	
講義内容	初回の講義時間に講義全体についてのオリエンテーションを行う					
	予習	毎回指示する。				8 時間
	復習	毎回指示する。				8 時間
合計時間(予習・復習)					16 時間	
備考						

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)				科目ナンバリング	SWT404
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅣ				講義形態	演習
担当教員	大川 健次郎					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位			
種別						
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力		
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力		
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
講義概要 (テーマ・内容)	児童家庭福祉の諸問題を中心に扱う。現在の児童や家庭、女性問題などに焦点を当てて、これまでの大学の講義や演習等で学んだことを、自分の興味範囲を定めて深めて研究することを目的とする。前期の総合演習の学習内容を踏まえ、それらを他者に分かりやすく伝える力をつける。また、他ゼミの学習内容を参考として、その重要性などを理解する。					
到達目標	1.自分たちの考えを他者に分かりやすく伝える技術を学ぶことができる。 2.他者の学びを、自らの問題としてとらえ、深めることを学ぶことができる。 3.大学卒業後の進路を考え具体的な目標を立てることができる					
評価方法	研究計画書・発表文書(60%)、他のゼミ生への提案(20%)、ゼミ活動への貢献度(20%)					
使用教材	教科書は使用しないが、ゼミにおいて資料の配布、参考書の紹介などを予定している。					
参考文献						
課題に対するフィードバック	研究計画書・発表文書作成段階で、個別指導を実施する。					
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 時限			メールアドレス (#→@)	okawa#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション(講義予定・評価方法の説明)				
	該当到達目標	予習	前期の総合演習での学びを自分なりにまとめる。			1 時間
	1,2	復習	初回ゼミにおいて教員から説明があった点、今後の授業方針の確認			1 時間
2	講義内容	グループ学習【その 1】				
	該当到達目標	予習	研究発表会に向けて、各自の枠割を確認する			1 時間
	1,2	復習	研究発表会用のパワーポイント資料を作成する			1 時間
3	講義内容	グループ学習【その 2】				
	該当到達目標	予習	作成した資料の発表の練習を行う。			1 時間
	1,2	復習	授業で修正した点を踏まえて、作成した資料の発表の練習を行う。			1 時間
4	講義内容	グループ学習【その 3】				
	該当到達目標	予習	作成した資料の発表の練習を行う。			1 時間
	1,2	復習	授業で修正した点を踏まえて、作成した資料の発表の練習を行う。			1 時間
5	講義内容	社会福祉学科研究発表会				
	該当到達目標	予習	自分たちの作成した資料を分かりやすく伝える練習			1 時間
	1,2	復習	反省点をまとめる			1 時間
6	講義内容	研究発表会の反省討議				
	該当到達目標	予習	研究発表会の反省点を出し合う			1 時間
	1,2	復習	次年度に向けて改善点を出し合う			1 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

7	講義内容	大学卒業後の進路について考える【グループ内発表】		
	該当到達目標	予習	将来の進路について考えをまとめる	1 時間
	3	復習	国家試験対策等の行動計画をまとめる	1 時間
8	講義内容	大学卒業後の進路に関する行動【その１】		
	該当到達目標	予習	国家試験等の行動計画に沿った活動	1 時間
	3	復習	同上	1 時間
9	講義内容	大学卒業後の進路に関する行動【その２】		
	該当到達目標	予習	国家試験等の行動計画に沿った活動	1 時間
	3	復習	同上	1 時間
10	講義内容	大学卒業後の進路に関する行動【その３】		
	該当到達目標	予習	国家試験等の行動計画に沿った活動	1 時間
	3	復習	同上	1 時間
11	講義内容	大学卒業後の進路に関する行動【その４】		
	該当到達目標	予習	国家試験等の行動計画に沿った活動	1 時間
	3	復習	同上	1 時間
12	講義内容	大学卒業後の進路に関する行動【その５】		
	該当到達目標	予習	国家試験等の行動計画に沿った活動	1 時間
	3	復習	同上	1 時間
13	講義内容	大学卒業後の進路に関する行動【その６】		
	該当到達目標	予習	国家試験等の行動計画に沿った活動	1 時間
	3	復習	同上	1 時間
14	講義内容	大学卒業後の進路に関する行動【その７】		
	該当到達目標	予習	国家試験等の行動計画に沿った活動	1 時間
	3	復習	同上	1 時間
15	講義内容	まとめと討論		
	該当到達目標	予習	ゼミ活動のまとめをしておくこと	1 時間
	1,2,3	復習	振り返り	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考				

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)			科目ナンバリング	SWT404
英文名	Seminar in Advanced Studies IV			講義形態	演習
担当教員	大口 達也				
科目に関連した実務経験	社会福祉士として地域包括支援センター(行政直営)に勤務(経験) 社会福祉士として基幹型地域包括支援センター(行政直営)に勤務(経験) 社会福祉士・専門相談員として高齢者権利擁護支援センター(東京都)に勤務(経験) 社会福祉士として公益社団法人の権利擁護ネットワーク組織に勤務(経験)				
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位		
種別					
学位授与方針との対応	豊かな人間性		✓	学際的な視点から取り組む力	
	基礎的知識力		✓	応用・実践する能力	
	問題解決能力・コミュニケーション能力		✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	今後、「地域共生社会」のコンセプトが広まり、子どもから高齢者まで、幅広い分野・業界でソーシャルワークが必要になる社会が到来する。そのような社会では、「ソーシャルワークの価値や原則」を、他者の印象に残るように、わかりやすく伝えることがソーシャルワーカーに求められる。 前期の研究活動で得られた効果測定データを分析し、自らの学びとして研究活動のキーワードを概念化(持論化)して考察する。研究成果を報告書式にまとめ、他者の印象に残るような発表を準備する。 分析及び研究発表に取り組み、学際的な視点から取り組む力を身につけ、ソーシャルワーカーとして社会に働きかけ、貢献できる力を獲得することができる。 ゼミ形式で議論・演習・企画検討等を行う。授業外の課外活動も行う予定である。				
到達目標	1. ジェネラリスト・ソーシャルワークと「経験学習」の理論を理解し、説明することができる。 2. 企画・開発・実践した「経験学習」の効果測定データを分析することができる。■ 3. 分析結果に基づき、研究活動のキーワードを概念化して考察することができる。■ 4. 社会福学科研究発表会にて、他者の印象に残るようなわかりやすいプレゼンテーションができる。				
評価方法	「経験学習」の効果測定データを分析し、研究活動のキーワードを概念化(持論化)して考察できる 60% 研究成果を他者の印象に残るように、分かりやすくプレゼンテーションできる 40% 60%以上を合格とする				
使用教材	必要に応じて指示する。				
参考文献	必要に応じて紹介する。				
課題に対するフィードバック	毎回の講義で進捗状況を確認し、課題に対するフィードバックを随時行う。 プレゼンテーションの分かりやすさは、教員からだけではなく、ゼミ生間でのフィードバックも行う。				
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 時限, 水曜日 2 時限		メールアドレス (#→@)	oguchi#takasaki-u.ac.jp	
講義内容	・ 初回講義で、後期の講義全体(研究活動)のオリエンテーションを行う。 ・ 「経験学習」の効果測定データの分析方法のレクチャー・統計分析の実践。 ・ 教員と相談しながら、研究活動のキーワードの概念化(持論化)し、考察する。 ・ 社会福学科研究発表会の発表準備及びプレゼンテーションの練習、発表会での報告。				
	予習	「経験学習」の効果測定データの分析、まとめの作成、発表の準備・練習。■			8 時間
	復習	授業で受けた指摘をもとに、分析、まとめの作成、発表準備・練習を進める。■			8 時間
合計時間(予習・復習)					16 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)			科目ナンバリング	SWT404
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅣ			講義形態	演習
担当教員	堀口 美奈子				
科目に関連した実務経験	介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務(10年)				
学年・開講期	4年 後期	選必・単位数	必修 1単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性	✓	学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	社会福祉は、ひとりよりみんな、他者とともに生きる＝共生社会のなかで育まれる。そこで本科目では、社会のなかでのフィールドワークや実証研究を通して、前期で学んだ社会福祉専門職に求められる「社会福祉を構成するちから」の理解をより深め、卒後、共生社会で生きる社会人としての力の獲得を目指す。 授業では、これまで行ってきた実証研究を発表するための準備を行い、発表する。発表後は、実施内容に関する振り返りを行う。そのほか、学生の興味関心に応じた個人もしくはグループ学習を行う。				
到達目標	1.教員と参加学生による関心や問題意識を基に、フィールドワークや実証研究を実践できる。 2.具体的な実践を通して、チームで働く力や前に踏み出す力、考え抜く力を身につけることができる。 3.実践経験から内省的観察を行い、共生社会の構成時に必要となる抽象的概念を抽出、言語化できる。 4.得られた概念を、社会の中での能動的実践に活かすことができる。 5.実践や他者との交流を通して、自己についての考えを深めることができる。 6.社会福祉学科研究発表会にて、学生全体でまとめた学習成果をプレゼンテーションできる。				
評価方法	実践活動での活発な参加と議論・活動への貢献度 60%、研究発表会での事前準備・プレゼンテーション 40%				
使用教材	教科書は使用しないが、必要に応じて資料の配布、参考書の紹介を予定している。				
参考文献					
課題に対するフィードバック	提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜コメントを付しての返却を予定している。				
オフィスアワー (研究室)	月曜・水曜 3限		メールアドレス (#→@)	初回授業時にアナウンスする。	
1	講義内容	オリエンテーション、ゼミ内でのグループ分け等			
	該当到達目標	予習	不要	0.5 時間	
	2,3,4,5,6	復習	初回ゼミで指導教員から説明があった点、今後の授業方針を確認する。		0.5 時間
2	講義内容	研究発表会発表準備 1			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	発表に関するルールや担当する役割を確認する。		0.5 時間
3	講義内容	研究発表会発表準備 2			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	発表に関するルールや担当する役割を確認する。		0.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

4	講義内容	研究発表会発表準備 3		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	発表に関するルールや担当する役割を確認する。	0.5 時間
5	講義内容	社会福祉学科研究発表会でのプレゼンテーション		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
6	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 1		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
7	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 2		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
8	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 3		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
9	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 4		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
10	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 5		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
11	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 6		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
12	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 7		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
13	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 8		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
14	講義内容	教員と参加学生 協同による個人又はグループ学習 9		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実施した内容を確認し、リフレクションシートを記入する。	0.5 時間
15	講義内容	まとめと対話■		
	該当到達目標	予習	前期に行った演習に関する配付物やリフレクションシートを読み返す。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	対話や後期の実践内容から感じたことなどを、指定様式に記入する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること			

と。

■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	卒業研究(卒業論文)(卒業研究及び演習)			科目ナンバリング	SWT405
英文名	Seminars in Graduation Studies			講義形態	演習
担当教員	社会福祉学科教員				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	4 年 通年	選必・単位数	選択 4 単位		
種別					
学位授与方針との対応		豊かな人間性		学際的な視点から取り組む力	
		基礎的知識力	✓	応用・実践する能力	
		問題解決能力・コミュニケーション能力	✓	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	卒業研究は、4 年間の講義や現場実習等の成果の集大成として、学生が自分で選択した分野に関わるテーマについてさらに深く研究し、その成果をまとめるものである。その過程を通じ、社会福祉の専門職として求められる研究能力や課題解決・改善能力を身につける。 各自が研究テーマを設定し、研究計画を立案、文献検索や調査、フィールドワーク等さまざまな過程を経て、最終的には研究結果を論文としてまとめる。担当教員は適宜その内容についてレポート、あるいは口頭で発表、報告により論文作成に必要な指導を行う。				
到達目標	1.社会福祉分野における課題を発見することができる 2.発見した課題に対し研究計画を立案することができる 3.立案した研究計画に基づき、課題についてさまざまな手法を用いて探求することができる。 4.研究の結果を論文としてまとめることができる				
評価方法	研究の過程で行う報告 30%, 提出された論文 70%				
使用教材					
参考文献	研究の過程で随時紹介する				
課題に対するフィードバック	研究の過程で随時行う				
オフィスアワー (研究室)	総合演習Ⅰ～Ⅳと同様		メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する	
講義内容	自ら選んだテーマをもとに研究計画を立案し、文献調査、フィールドワーク、アンケート調査に必要な準備と実施、評価、考察、結論をまとめ、論文を執筆する。				
	予習	論文を執筆する過程に合わせて教員から課されたレポートなどを行うとともに、論文の執筆に必要な文献検索、フィールドワークやアンケートに必要な情報の整理を行う。			45 時間
	復習	授業内で指摘された内容をもとにレポートなどの加筆修正を行うとともに、研究に関連する文献、情報を整理して、論文に必要な情報収集と研究に必要な知識と技術を得る			45 時間
合計時間(予習・復習)					90 時間
備考					

科目名	生涯学習社会と図書館(司書)				科目ナンバリング	—
英文名	Lifelong Learning Society and Library				講義形態	講義
担当教員	斎藤 順二					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位			
種別	司書科目					
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養		—	学際的な視点から取り組む力	
	—	基礎的知識力		—	応用・実践する能力	
	—	問題解決能力・コミュニケーション能力		—	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力	
講義概要 (テーマ・内容)	生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本について理解できる。 授業では、テキストを單元ごとに読解し要約する。また「日本の名作」の朗読 CD を補助教材として使用する。					
到達目標	1.高齢社会の到来で、従来の学歴社会から生涯学習社会への移行が進展している現況を理解できる。 2.図書館は社会生活で「知の拠点」として大きな役割を果たすことが求められていると認識している。 3.図書館にあって、地域住民の課題解決と学習支援サービスに対応できる司書を目指す。					
評価方法	まとめのミニレポート(各章の要約と朗読 CD の感想)15 回で 90%評価する。授業参加度を 10%加味する。総合評価 60%以上を合格とする。					
使用教材						
参考文献						
課題に対するフィードバック	まとめのミニレポートは毎回提出してもらい、次回採点・評価して返却する。					
オフィスアワー (研究室)	質問には授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。		メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	生涯学習と社会教育				
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT1 に目を通す。			1 時間
	1	復習	生涯学習へのアプローチ			1.5 時間
2	講義内容	〈社会〉と〈教育〉				
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT2 に目を通す。			1 時間
	1	復習	生涯学習の展開と学習の実際を理解する。			1.5 時間
3	講義内容	〈社会教育〉の始まり				
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT3 に目を通す。			1 時間
	1	復習	生涯学習社会の役割と連携を理解する。			1.5 時間
4	講義内容	誰のための教育か？				
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT4 に目を通す。			1 時間
	1	復習	生涯学習振興施策の立案と推進を理解する。			1.5 時間
5	講義内容	誰が〈教育する〉のか？				
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT5 に目を通す。			1 時間
	1	復習	社会教育の意義・発展・特質を理解する。			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

6	講義内容	公教育とは何か？		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT6 に目を通す。	1 時間
	1	復習	社会教育行政の意義・役割を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	戦後日本の教育政策		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT7 に目を通す。	1 時間
	1	復習	自治体の制度と教育関連法規を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	教育の自由		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT8 に目を通す。	1 時間
	1	復習	社会教育の内容・方法・形態を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	ユネスコの生涯教育論		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT9 に目を通す。	1 時間
	1	復習	学習への支援と学習成果の評価と活用を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	学校教育と生涯教育		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT10 に目を通す。	1 時間
	3	復習	社会教育施設・生涯学習関連施設の管理・運営を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	社会教育と生涯教育		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT11 に目を通す。	1 時間
	3	復習	社会教育指導者の役割を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	生涯教育理念の普及と変質		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT12 に目を通す。	1 時間
	3	復習	生涯学習の実際(群馬県生涯学習センター・指導者バンク)を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	わが国における生涯学習論の展開		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT13 に目を通す。	1 時間
	3	復習	生涯学習の実際(高崎市生涯学習推進本部の学習推進計画)を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	わが国における生涯学習理念の普及と変質		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT14 に目を通す。	1 時間
	3	復習	生涯学習の実際(講演会・放送大学・フィールドワーク等)を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	生涯学習体験報告会		
	該当到達目標	予習	まとめのレポート	1 時間
	1,2,3	復習	私の生涯学習計画をまとめて発表する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名		図書館概論(司書)		科目ナンバリング	—
英文名		Introduction to Library		講義形態	講義
担当教員		秋山 美和子			
科目に関連した実務経験		地方公務員(管理職)として公共図書館に勤務(現在)			
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	選択	2 単位
種別		司書科目			
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養		—	コミュニケーションスキル
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能		—	生涯学習力
	—	問題解決力			
講義概要(テーマ・内容)		図書館情報学の入門として、図書館の歴史、社会的意義、機能、役割、組織の運営、図書館の課題と展望までを概観し、図書館とは何かを理解できるようにする。			
到達目標		1.図書館の社会的意義、機能、役割等について論述できるようにする。 2.図書館の歴史から将来展望までを、社会の変化に合わせて理解する。 3.図書館の組織の運営について理解する。■			
評価方法		最終レポート 60%、課題 3 回 30%、講義への参加態度 10%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。			
使用教材		高山正也・岸田和明編著『改訂 図書館概論』(樹村房) ISBN 978-4-88367-271-4 必要に応じて資料を配布			
参考文献					
課題に対するフィードバック		各講義終了時に学生から感想等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次の講義で解説する。			
オフィスアワー(研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。	メールアドレス(#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス(授業の進め方、評価方法)、図書館の社会的意義			
	該当到達目標	予習	シラバス、教科書の監修者の言葉から1章の該当箇所までを読み、本講義の目標および図書館の社会的意義について確認する。		1 時間
	1	復習	講義概要、到達目標、評価方法を理解し、自分なりの学習計画を立てる。図書館の社会的意義について理解する。		2 時間
2	講義内容	図書館の歴史			
	該当到達目標	予習	1章の該当箇所を読み、図書館の歴史について表にまとめるなどして整理し、場合によっては調べてみる。		1 時間
	1,2	復習	図書館の歴史と社会の変化を、関連づけて考えられるようにする。		2 時間
3	講義内容	図書館の機能とサービス			
	該当到達目標	予習	2章の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。		1 時間
	1	復習	図書館資料を知り、図書館の機能とサービスの基本的な考え方について理解する。		2 時間
4	講義内容	パブリックサービスとテクニカルサービス■			
	該当到達目標	予習	2章の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。		1 時間
	1	復習	利用者への直接サービス(パブリックサービス)と、それを支える間接的な業務(テクニカルサービス)について理解する。		2 時間
5	講義内容	図書館員の基本理念			
	該当到達目標	予習	2章の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。		1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1	復習	図書館員の基本理念となる宣言等について、制定された社会的背景や意義、事例等を調べて図書館員のあるべき姿について理解する。	2 時間
6	講義内容	公共図書館(存在意義とあるべき姿)■		
	該当到達目標	予習	3章の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べる。	1 時間
	1,3	復習	公共図書館の存在意義とあるべき姿について、基本的な考え方を理解する。	2 時間
7	講義内容	公共図書館(成立と展開)		
	該当到達目標	予習	3章の該当箇所を読み、自分が関心のある公共図書館について調べる。	1 時間
	1,2,3	復習	近代公共図書館の変遷と、図書館改革の動きについて理解する。	2 時間
8	講義内容	各種図書館(国立図書館、学校図書館)		
	該当到達目標	予習	4章の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べる。	1 時間
	1,3	復習	国立国会図書館のサイトを実際に利用し、国立図書館としての機能と役割について理解する。また、学校図書館の意義について理解する。	2 時間
9	講義内容	各種図書館(大学図書館、専門図書館)		
	該当到達目標	予習	4章の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べる。	1 時間
	1,3	復習	大学図書館の機能と役割について、体験を通して理解する。また、専門図書館、図書館類縁施設等の機能と役割について理解する。	2 時間
10	講義内容	図書館の経営、連携・協力■		
	該当到達目標	予習	5章の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べる。	1 時間
	1,2,3	復習	図書館経営と図書館の連携・協力の種類について理解する。	2 時間
11	講義内容	図書館の職員と組織■		
	該当到達目標	予習	5章の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べる。	1 時間
	1,2,3	復習	図書館の職員(体制、職務、資質向上に関すること)および図書館の組織構造について理解する。	2 時間
12	講義内容	図書館の施設・設備		
	該当到達目標	予習	5章の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べる。	1 時間
	1,2,3	復習	講義内容を参考にしながら、実際に公共図書館を訪問して施設・設備について調査し、理解する。	2 時間
13	講義内容	図書館に関連する機関・団体		
	該当到達目標	予習	6章を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べる。	1 時間
	1,2,3	復習	図書館関連団体、出版・書店・取次の制度、その他の関連組織・団体等について理解する。	2 時間
14	講義内容	図書館の課題と展望		
	該当到達目標	予習	7章を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べる。	1 時間
	1,2,3	復習	社会の変化に対応した図書館のあり方について理解する。	2 時間
15	講義内容	講義のまとめ		
	該当到達目標	予習	教科書、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理し、疑問点や質問事項があれば講師にメールで連絡する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	図書館とは何かを自ら考え、論述できるようにする。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	講義では、積極的に発言することを期待する。 復習に力点をおいて、学習内容を深めること。			

できるだけ多くの図書館を訪ねたり、インターネットで検索したりして実際に体験してみること。

■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	図書館制度・経営論(司書)			科目 ナンバリング	—
英文名	Introduction to Library Administration and Management			講義形態	講義
担当教員	秋山 美和子				
科目に関連した 実務経験	公共図書館に管理職として勤務(司書)				
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別	司書科目				
学位授与方針 との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養		—	コミュニケーションスキル
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能		—	生涯学習力
	—	問題解決力			
講義概要 (テーマ・内容)	図書館職員となるための知識として、図書館に関する法律、自治体行政の制度・図書館政策について学ぶ。また、「図書館学は実学である」という視点に立ち、できる限り実際の図書館の状況を交えながら図書館経営の考え方、職員、施設・設備等の経営資源、サービス計画、調査と評価、管理形態等について解説する。				
到達目標	1.図書館に関する法制度、自治体行政の制度・政策について理解する。 2.図書館の理念を踏まえ、それが実際の図書館の運営にどのように反映されているか理解する。■ 3.図書館職員の職務を学び、経営的な視点を身につける。■				
評価方法	レポート 60%、課題 3 回 30%、講義への参加態度 10%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
使用教材	糸賀雅児・葉袋秀樹編集『改訂 図書館制度・経営論』(樹村房) ISBN 978-4-88367-202-8 必要に応じて資料を配布				
参考文献					
課題に対する フィードバック	各講義終了時に学生から感想等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次の講義で解説する。				
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。		メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。	
1	講義内容	ガイダンス(授業の進め方、評価方法)、図書館における制度と経営			
	該当到達目標	予習	シラバスに目を通し、講義の進め方等を理解する。教科書の監修者の言葉、序文、序章を読み、本講座の趣旨を理解する。		1 時間
	1	復習	講義内容、到達目標、評価方法を理解し、自分なりの学習計画を立てる。図書館における制度と経営を学ぶ必要性を理解する。		2 時間
2	講義内容	図書館制度の概観			
	該当到達目標	予習	I 部 1 章を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。		1 時間
	1	復習	図書館関係法規の体系等を把握し、図書館制度の学習について理解する。		2 時間
3	講義内容	図書館の制度(日本国憲法、教育基本法、地方自治法等)			
	該当到達目標	予習	I 部 2 章を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。		1 時間
	1	復習	各法律と図書館との関係を理解する。		2 時間
4	講義内容	図書館の制度(図書館法)			
	該当到達目標	予習	I 部 3 章を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。		1 時間
	1	復習	図書館制度・経営の基本となる図書館法について理解する。		2 時間
5	講義内容	図書館の制度(他館種の図書館に関連する法規)			
	該当到達目標	予習	I 部 4 章を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。		1 時間
	1	復習	公共図書館以外他館種の法律について理解する。		2 時間
6	講義内容	図書館の制度(子ども読書活動推進法・文字活字文化振興法)			
	該当到達目標	予習	I 部 5 章を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。		1 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	図書館サービスの柱の一つである子供の読書活動の推進に関する法規を理解する。	2 時間
7	講義内容	図書館の制度(図書館サービス、経営関係法規)		
	該当到達目標	予習	I部6章を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。	1 時間
	1,2	復習	図書館サービスや経営に関連した法規を理解する。	2 時間
8	講義内容	図書館政策(国・地方自治体)		
	該当到達目標	予習	I部7章を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。	1 時間
	1,2	復習	国の図書館政策として主な基準・答申・報告および地方公共団体の図書館政策について理解する。	2 時間
9	講義内容	図書館の経営(公共性)■		
	該当到達目標	予習	II部1章を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。	1 時間
	1,2,3	復習	図書館の公共性と経営について理解する。	2 時間
10	講義内容	図書館の経営(館種ごとの経営論)		
	該当到達目標	予習	II部2章を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。	1 時間
	1,2,3	復習	館種ごとの経営論およびガバナンスについて理解する。	2 時間
11	講義内容	図書館の経営(組織と職員)■		
	該当到達目標	予習	II部3章を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。	1 時間
	1,2,3	復習	図書館を運営していくための組織、職員体制、職員の役割について理解する。また、図書館ボランティアの活動についても調べてみる。	2 時間
12	講義内容	図書館の経営(計画とマーケティング、予算の確保)■		
	該当到達目標	予習	II部4章、5章を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。	1 時間
	1,2,3	復習	図書館の各種計画について理解し、図書館経営を可能にする予算確保の方法について知る。	2 時間
13	講義内容	図書館の経営(経営評価)		
	該当到達目標	予習	II部6章を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。	1 時間
	1,2,3	復習	図書館の経営評価の意義と目的、方法、課題について理解する。	2 時間
14	講義内容	図書館の経営(多様な管理形態)		
	該当到達目標	予習	II部7章を読み、自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。	1 時間
	1,2,3	復習	業務委託、指定管理者制度等、多様化する管理形態の現状、課題について理解する。	2 時間
15	講義内容	講義のまとめ		
	該当到達目標	予習	教科書、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理し、疑問点や質問事項があれば講師にメールで連絡する。	1 時間
	1,2,3	復習	図書館の制度・経営論について自ら考え、論述できるようにする。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	講義では、積極的に発言することを期待する。 復習に力点をおいて、学習内容を深めること。 できるだけ多くの図書館を訪ねたり、インターネットで検索したりして実際に体験してみること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	図書館情報技術論(司書)				科目ナンバリング	—
英文名	Introduction to Library Service Technology				講義形態	講義
担当教員	田村 拓郎					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位			
種別	司書科目					
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養		—	コミュニケーションスキル	
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能		—	生涯学習力	
	—	問題解決力				
講義概要 (テーマ・内容)	近年の情報機器の多様化や進歩には目覚ましいものがある。図書館においても CD、DVD、コンピュータソフトなどの多様なメディアやコンピュータに代表される各種の情報機器が整備されてきている。また、これらの図書館資料にネットワーク情報資源を加えて、図書館情報資源としてとらえる必要がある。図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説し、利用法について学修する。 授業では、教員が各回の内容を教材や実演を通じて説明し、学生は指示された課題を実施しファイルにまとめて提出する。					
到達目標	1.図書館業務やサービスに必要な、情報機器やコンピュータシステムの知識を習得できる。 2.実際にコンピュータ等を利用し検索などができる。					
評価方法	課題提出状況(70%)、学習姿勢(30%)で評価する。					
使用教材	図書館情報技術論					
参考文献						
課題に対するフィードバック	課題発表を行い、受講生同士の質疑応答を行なう。					
オフィスアワー (研究室)	月曜日 4,5 限			メールアドレス (#→@)	tamura-t#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	講義全体のガイダンス				
	該当到達目標	予習	シラバスを確認しておく。			0 時間
	1	復習	講義内容・到達目標・学位授与方針・成績評価方法などを理解する。			0.5 時間
2	講義内容	コンピュータとネットワークの基礎				
	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。			0.5 時間
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。			2 時間
3	講義内容	LAN の構成、プロトコル				
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。			1 時間
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。			2 時間
4	講義内容	コンピュータシステムの管理				
	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。			0.5 時間
	1	復習	授業の課題の再確認を行い、発表の準備をする。			1 時間
5	講義内容	データベースの仕組み				
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。			1 時間
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。			2 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

6	講義内容	図書館業務システムの仕組み		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
7	講義内容	図書館における情報技術活用の現状		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
8	講義内容	電子資料		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
9	講義内容	電子資料の管理技術		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
10	講義内容	電子図書館とデジタルアーカイブ		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
11	講義内容	情報技術と社会		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
12	講義内容	インターネットと図書館		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
13	講義内容	最新の情報技術と図書館		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
14	講義内容	Web2.0 と Library2.0		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
15	講義内容	展望、まとめ		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	4 時間
合計時間(予習・復習)				42.5 時間
備考	予習・復習の時間は参考程度であり、自らの習熟状況をふまえ必要に応じ各自で補完すること。			

科目名	図書館サービス概論(司書)			科目ナンバリング	—
英文名	Introduction to Library Services			講義形態	講義
担当教員	太田 克子				
科目に関連した実務経験	司書として県立図書館に勤務(経験)、学校司書として県立高校に勤務(経験) 司書として県総合教育センターにて教育専門図書館を担当(経験)				
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別	司書科目				
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養	—	コミュニケーションスキル	
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能	—	生涯学習力	
	—	問題解決力			
講義概要 (テーマ・内容)	図書館サービスの考え方を理解し、様々なサービスを展開する上での知識と技術を学びます。 授業は、教科書と教員の作成するプリントを使って説明します。パワーポイントによる図の提示を行います。				
到達目標	1.公共図書館が行っている様々なサービスの意義を理解する■ 2.住民を支援するサービス展開ができる知識と技術を習得する■ 3.課題解決型サービスを理解する■ 4.アウトリーチサービスを理解する■ 5.学校図書館・類縁機関等との連携を理解する■				
評価方法	筆記試験 80% レポート課題(1 回)・小テスト 20% 総合評価 60%以上を合格とする				
使用教材	『図書館サービス概論』 高山 正也・村上篤太郎 編著 樹村房 2019 年 2000 円				
参考文献	『図書館情報学基礎資料』今まど子・小山 憲司編著 樹村房 2019 年 1000 円 『図書館のめざすもの』 竹内愷著 日本図書館協会 2014 年 『生きるための図書館』(岩波新書) 竹内愷著 岩波書店 2019 年 780 円				
課題に対するフィードバック	提出課題にコメントを付けて返却する。				
オフィスアワー (研究室)	水曜日 3 限(研究室 1 号館 5 階 509)		メールアドレス (#→@)	ota-y#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション 図書館サービスの理念			
	該当到達目標 1	予習	教科書 p1～p9 を読んでおくこと		1.5 時間
		復習	「図書館員の倫理綱」「図書館法」「ユネスコ公共図書館宣言」を復習する		1.5 時間
2	講義内容	図書館サービスの意義			
	該当到達目標 1	予習	教科書 p10～p22 を読んでおくこと		1.5 時間
		復習	「ランガナータン 5 法則」を復習する		1.5 時間
3	講義内容	図書館サービスの変遷(1)			
	該当到達目標 1,2	予習	教科 p23～p32 を読んでおくこと		1.5 時間
		復習	『市民の図書館』について調べる		1.5 時間
4	講義内容	図書館サービスの変遷(2)			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 p33～p43 を読んでおくこと		1.5 時間
		復習	「公貸権」を調べる		1.5 時間
5	講義内容	図書館サービスの種類と方法			
	該当到達目標 1,2,4	予習	教科書 p44～p56 を読んでおくこと		1.5 時間
		復習	図書館サービスの種類と方法を理解する		1.5 時間
6	講義内容	資料提供サービス 相互貸借の実際■			
	該当到達目標	予習	教科書 p58～p79 を読んでおくこと		1.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2,5	復習	相互貸借のしくみを理解する	1.5 時間
7	講義内容	情報提供サービス■		
	該当到達目標	予習	教科書 p80～p95 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2	復習	情報提供サービスをまとめる	1.5 時間
8	講義内容	利用対象別サービス(1) ビジネス支援サービスの実際■		
	該当到達目標	予習	教科書 p96～p117 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	利用対象者別サービスを理解する	1.5 時間
9	講義内容	利用対象別サービス(2) 多文化サービスの実際■アウトリーチサービスの実際■		
	該当到達目標	予習	教科書 p96～p117 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	障害者サービスの種類をまとめる	1.5 時間
10	講義内容	図書館サービスとコミュニケーション(1)■		
	該当到達目標	予習	教科書 p118～p127 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,	復習	各自近隣の図書館と書店に出向き、掲示やサインについてレポートすること	4.5 時間
11	講義内容	図書館サービスとコミュニケーション(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書 p128～p133 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,	復習	コミュニケーションをとるべき関係機関、類縁機関等を一覧にする	1.5 時間
12	講義内容	図書館サービスと著作権 学校図書館と著作権■		
	該当到達目標	予習	教科書 p134～p151 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,3	復習	司書として想定できる著作権の設問を 3 つ作成し提出	1.5 時間
13	講義内容	図書館サービスの協力と連携■		
	該当到達目標	予習	教科書 p152～p174 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,5	復習	学校支援サービスについてまとめる	1.5 時間
14	講義内容	図書館サービスの課題と展望 および 資料保存について■		
	該当到達目標	予習	教科書 p175～p186 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	資料保存に筆余蘊ことをまとめる	1.5 時間
15	講義内容	図書館サービスと図書館員の心得 まとめ		
	該当到達目標	予習	嘗て、図書館が破壊されたり、資料が焼かれたりした事実を調べて提出	1.5 時間
	1	復習	「図書館員の倫理綱」「図書館法」「ユネスコ公共図書館宣言」「アメリカ社会に役立つ図書館の 12 か条」を読む	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	情報サービス論(司書)				科目ナンバリング	—
英文名	Introduction to Information Services				講義形態	講義
担当教員	太田 克子					
科目に関連した実務経験	司書として県立図書館に勤務(経験)、学校司書として県立高校に勤務(経験) 司書として県総合教育センターにて教育専門図書館を担当(経験)					
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位			
種別	司書科目					
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養		—	コミュニケーションスキル	
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能		—	生涯学習力	
	—	問題解決力				
講義概要 (テーマ・内容)	図書館には、人々が様々な目的で訪れます。教養や趣味で生活を豊かにという方もいれば、必要な情報を得たい方もいます。商店開業・仕事の調べものなどのビジネス、まちおこし、出産・育児、闘病・介護、障害、多文化、災害、貧困など図書館が情報サポートする場面は多岐にわたっています。図書館が蓄積した知は市井の人々を支援する情報基盤です。この授業では、利用者と情報を結びつける図書館員の専門的な役割を扱います。 授業は、教科書と教員の作成するプリントを使って説明します。パワーポイントによる図の提示を行います。					
到達目標	1.図書館における情報サービスの意義を理解する 2.情報サービスの種類と内容を理解する 3.各種情報源の特徴と利用法を理解する■ 4.レファレンスサービスにおける回答の方法を学び、実践的に対応できるようになる■ 5.発信型情報サービスの意義を理解する■					
評価方法	筆記試験 80% 課題・小テスト 20% 総合評価 60%以上を合格とする					
使用教材	『情報サービス論』 山口真也[ほか]編著 ミネルヴァ書房 2018 年 2,800 円					
参考文献	『情報サービス論』山崎久道編 樹村房 2019 年 『情報サービス論』竹之内禎編著 学文社 2013 年 『夜明けの図書館 1～5』 埜納タオ著 双葉社 2011 年～2017 年 『レファレンスサービス』 長澤雅男著 丸善 1995 年					
課題に対するフィードバック	小テストにコメントを付けて返却する。					
オフィスアワー (研究室)	水曜日 3 限(研究室 1 号館 5 階 509)			メールアドレス (#→@)	ota-y#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション 情報社会と図書館の情報サービス				
	該当到達目標	予習	教科書 p1～p11 を読んでおくこと			1.5 時間
	1	復習	p12～p14 コラムを読んで意見を提出する			1.5 時間
2	講義内容	図書館における情報サービスの種類				
	該当到達目標	予習	教科書 p15～p41 を読んでおくこと			1.5 時間
	1,2	復習	p42～p44 のコラムを読んで意見を提出する			1.5 時間
3	講義内容	レファレンスサービスの理論と実践(1)レファレンスサービスの定義・種類				
	該当到達目標	予習	教科書 p45～p57 を読んでおくこと			1.5 時間
	1,2	復習	図書館の館種とそれぞれに重視される情報サービスを理解する			1.5 時間
4	講義内容	レファレンスサービスの理論と実践(2)レファレンスサービスの機能・情報探索行動				
	該当到達目標	予習	教科書 p58～p65 を読んでおくこと			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	次世代 OPAC の特徴を理解する	1.5 時間
5	講義内容	レファレンスサービスの理論と実践(3)レファレンスプロセス・レファレンスインタビュー■		
	該当到達目標	予習	教科書 p66～p97 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2	復習	レファレンスプロセスを理解する	1.5 時間
6	講義内容	レファレンスサービスの理論と実践(4)レファレンスライブラリアン・コレクション・思考ツール■		
	該当到達目標	予習	教科書 p98～p121 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2	復習	デジタルレファレンスサービスの種類と機能を理解する	1.5 時間
7	講義内容	ブックリストをつくってみよう(1)		
	該当到達目標	予習	「健康」「福祉」をキーワードにブックリストのテーマを考えておく	1.5 時間
	1,2,5	復習	テーマに合う図書をグレードや内容によってグルーピングしておく	1.5 時間
8	講義内容	ブックリストをつくってみよう(2)発表		
	該当到達目標	予習	テーマに沿ったブックリストを制作する	3 時間
	1,2,5	復習		0 時間
9	講義内容	情報検索の理論と方法■		
	該当到達目標	予習	教科書 p122～p142 を読んでおくこと	1.5 時間
	3,4	復習	自由語検索と統制語検索を理解する	1.5 時間
10	講義内容	各種情報源の特質と利用法(1)■		
	該当到達目標	予習	教科書 p143～p150 を読んでおくこと	1.5 時間
	3,4	復習	事実調査の種類と特性を理解する	1.5 時間
11	講義内容	各種情報源の特質と利用法(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書 p151～p166 を読んでおくこと	1.5 時間
	3,4	復習	文献調査の情報源を確認する	1.5 時間
12	講義内容	各種情報源の特質と利用法(3)■		
	該当到達目標	予習	教科書 p167～p203 を読んでおくこと	1.5 時間
	3,4	復習	各種情報源の特質と利用法の概要を理解する	1.5 時間
13	講義内容	発信型情報サービス&著作権■		
	該当到達目標	予習	教科書 p204～p218 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,5	復習	発信型情報サービスの種類を理解する	1.5 時間
14	講義内容	利用教育・情報リテラシー教育の展開、学校図書館利用教育■		
	該当到達目標	予習	教科書 p219～p228 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,5	復習	探求学習の過程における学校図書館の情報サービスを確認する	1.5 時間
15	講義内容	これからの情報サービス担当者としての役割		
	該当到達目標	予習	教科書 p229～p237 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,5	復習	レファレンスサービスと利用者サービスの担当者の条件を確認する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	児童サービス論(司書)			科目ナンバリング	—
英文名	Library Service for Children			講義形態	講義
担当教員	小柳 聡美				
科目に関連した実務経験	学校図書館司書として公立小中学校に勤務(経験) 教務職員として進学塾に勤務(経験)				
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
種別	司書科目				
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養	—	コミュニケーションスキル	
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能	—	生涯学習力	
	—	問題解決力			
講義概要 (テーマ・内容)	児童サービス(対象は乳幼児からヤングアダルトまで)の概要と意義、担当者の専門的職務、歴史的変遷と発展内容、児童資料の特色と選択、発達と学習への「読書」の役割、児童コレクションの形成と管理、さらにヤングアダルトサービスの概要と資料の特色を認識する。 生涯学習の一環としての児童サービスの重要性を理解するとともに、どのようにすれば子ども達に読書の楽しさと喜びを伝えられるかについて学ぶ授業です。特に各自がオリジナルの図書館案内を作成することによって、児童サービスの内容を認識でき、キャリアプランへの構築へと繋がります。				
到達目標	1.公共図書館における児童サービスの重要性を理解する。 2.児童資料の類型について理解し、選択・評価できる。 3.公共図書館を利用する児童のニーズを理解し、対応できる能力を身につける。■ 4.子どもと本を結びつけることの重要性を理解し、援助できる。				
評価方法	筆記試験 70%、オリジナル図書館案内(児童向け)の作成 20%、授業参加度 10%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。なお詳しい評価基準は、初回講義時に提示する。				
使用教材					
参考文献	教科書『児童サービス論』JAL 図書館情報学テキストシリーズⅢ6 堀川照代 編著(日本図書館協会) ISBN978-4-8204-1315-8				
課題に対するフィードバック	提出物は講義内で発表時間を設け、講評する。 筆記試験の意図は、第 1 回の講義で説明する。				
オフィスアワー (研究室)	質問には授業開始前もしくは終了後に教室等で応じます。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示します。	
1	講義内容	児童サービスの概要と意義			
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。 なぜ司書資格を取得しようと考えたか、という点を交えて自己紹介が出来るようにしておく。		1.5 時間
	1	復習	教科書 p.9～p.18を読む。		1.5 時間
2	講義内容	児童サービス担当者の専門的職務			
	該当到達目標	予習	教科書 p.19～p.39 に目を通す。		1.5 時間
	1	復習	児童サービス担当者の専門性を理解する。 教科書 p.255～p.261を読む。		1.5 時間
3	講義内容	児童資料の類型			
	該当到達目標	予習	教科書 p.40～p.42 に目を通す。		1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	児童資料の形態と内容を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	児童資料の特色と選択 1 絵本の種類とグレード		
	該当到達目標	予習	教科書 p.43～p.48 に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	学んだ種類の絵本を、図書館等で探し、読む。	1.5 時間
5	講義内容	児童資料の特色と選択 2 児童文学・創作児童文学、昔話・伝承文学、詩		
	該当到達目標	予習	教科書 p.49～p.58 に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	紹介された作品の中から1作品を選び、読む。	1.5 時間
6	講義内容	児童資料の特色と選択 3 ノンフィクション、レファレンスブック		
	該当到達目標	予習	教科書 p.59～p.79 に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	レファレンスブックとは何か理解する。 図書館においてレファレンスブックの位置を確認する。	1.5 時間
7	講義内容	児童資料の特色と選択 4 児童資料の出版と流通		
	該当到達目標	予習	児童資料に限らず、現在の出版と流通について調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	児童資料の出版と流通について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	児童資料の特色と選択 5 児童コレクションの形成と評価		
	該当到達目標	予習	教科書 p.80～p.92 に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	児童コレクションの形成について理解し、評価できるようにする。	1.5 時間
9	講義内容	児童サービスの業務 1 資料提供サービス		
	該当到達目標	予習	教科書の p.93～p.98 に目を通す。	1.5 時間
	1,3,4	復習	資料提供サービスについて理解する。	1.5 時間
10	講義内容	児童サービスの業務 2 情報サービス		
	該当到達目標	予習	教科書の p.99～p.104 に目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	情報サービスについて理解する。	1.5 時間
11	講義内容	児童サービスの業務 3 乳幼児サービス		
	該当到達目標	予習	教科書の p.174～p.188 に目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	乳幼児サービスについて理解する。	1.5 時間
12	講義内容	児童サービスの方法・技術(読み聞かせとストーリーテリング)■		
	該当到達目標	予習	教科書の p.155～p.173 に目を通す。	1.5 時間
	1,3,4	復習	次週、読み聞かせの実践で使用する絵本(1～3 冊)と、ストーリーテリングしてみたい作品を選ぶ。	1.5 時間
13	講義内容	絵本読み聞かせ指導■		
	該当到達目標	予習	選んだ絵本、作品を読む練習をする。	1.5 時間
	1,4	復習	読み聞かせの方法について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	ヤングアダルトサービスの概要と資料の特色		
	該当到達目標	予習	教科書 p.189～p.207 に目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	ヤングアダルトサービスとは何か理解する。	1.5 時間
15	講義内容	児童サービス対象者向けオリジナル図書館案内の提出・発表		
	該当到達目標	予習	図書館案内の作成。	1.5 時間
	1,3	復習	全講義の振り返り。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	近隣の公共図書館を来館し、現在の児童サービスの現状を実際に見聞して来てください。			

	■:実務経験に基づく内容を示します。

科目名		情報サービス演習(司書)		科目ナンバリング	—
英文名		Practicum of Information Retrieval		講義形態	講義
担当教員		太田 克子、田村 拓郎			
科目に関連した実務経験		(太田)司書として県立図書館に勤務(経験)、学校司書として県立高校に勤務(経験) 司書として県総合教育センターにて教育専門図書館を担当(経験)			
学年・開講期		3 年 通年	選必・単位数	選択	4 単位
種別		司書科目			
学位授与方針との対応		—	豊かな人間性と幅広い教養	—	コミュニケーションスキル
		—	健康・医療および情報に関する知識・技能	—	生涯学習力
		—	問題解決力		
講義概要 (テーマ・内容)		情報サービスの組織化、情報源整備、情報源の評価、情報検索の実際、レファレンス質問への対応、発信型情報サービスについて、公共図書館職員の実務を想定した課題に取り組みながら学びます。また、学校図書館における情報サービスの事例についても紹介します。レファレンスツールの適切な活用法を身につけます。 授業では、本学の図書館で実際にレファレンスブックを使って、事例課題についての資料探索を体験するほか、各自行った事前課題についてグループで検討し、成果発表による学修の共有を行います。毎回課題を出しますので、本学図書館や公共図書館等を利用して取り組んでください。			
到達目標		1.蓄積された大量の情報の中から必要な情報を迅速・的確に検索する技能を習得する■ 2.情報サービスの組織化、情報源の評価や整備、発信型情報サービスについて、演習を通して体験し、実務をイメージできるようになる 3.基本的なレファレンスブックの特徴を把握し、レファレンス質問の内容に合わせて選択することができる■ 4.各種のレファレンスブックについて、索引などを活用して探索ができる■ 5.レファレンス質問をめぐる図書館利用者とのコミュニケーションの基本を理解する■ 6.レファレンス質問処理の記録を作成、活用できる■			
評価方法		毎回の課題 85%、授業中のグループ活動等貢献度 15%、総合評価 60%以上を合格とする。			
使用教材		配付資料			
参考文献		『レファレンスブックス』 長澤雅男・石黒祐子共著 日本図書館協会 2016			
課題に対するフィードバック		(太田)課題にコメントをつけて返却する (田村)課題発表を行い、受講生同士の質疑応答を行なう。			
オフィスアワー (研究室)		(太田) 水曜日 3 限(1 号館 5 階 509 研究室) (田村) 月曜日 4,5 限	メールアドレス (#→@)	(太田) ota-y#takasaki-u.ac.jp (田村) tamura-t#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション 情報検索の基礎知識■			
	該当到達目標	予習	図書館におけるレファレンスサービスとは何か調べておく		1.5 時間
	2,3,4,6	復習	レファレンス質問処理記録の取り方を理解する		1.5 時間
2	講義内容	レファレンスブックによる調査の基本■			
	該当到達目標	予習	レファレンスプロセス、保守理論、中間理論、自由理論を理解する		1.5 時間
	2,3,4,6	復習	レファレンス課題に回答の方針を立てる		1.5 時間
3	講義内容	言葉・文字の情報を探す■			
	該当到達目標	予習	レファレンス課題と評価課題を作成提出する		1.5 時間
	1,2,3,4,6	復習	レファレンス課題に回答の方針を立てる		1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

4	講義内容	事物・事柄の情報を探す■		
	該当到達目標	予習	レファレンス課題と評価課題を作成提出する	1.5 時間
	1,2,3,4,6	復習	レファレンス課題に回答の方針を立てる	1.5 時間
5	講義内容	展示コーナーのプレゼンテーション■		
	該当到達目標	予習	利用者を設定し展示コーナーの企画を立てる。授業には展示する図書を持参して臨む。	3.0 時間
	2	復習		0 時間
6	講義内容	歴史・日時の情報を探す■		
	該当到達目標	予習	レファレンス課題と評価課題を作成提出する	1.5 時間
	1,2,3,4,6	復習	レファレンス課題に回答の方針を立てる	1.5 時間
7	講義内容	地名・地理・地図の情報を探す■		
	該当到達目標	予習	レファレンス課題と評価課題を作成提出する	1.5 時間
	1,2,3,4,6	復習	レファレンス課題に回答の方針を立てる	1.5 時間
8	講義内容	POPの発表■		
	該当到達目標	予習	各自紹介したいレファレンスブックをPOPにして提出する	3.0 時間
	2	復習		0 時間
9	講義内容	人物・団体情報を探す■		
	該当到達目標	予習	レファレンス課題と評価課題を作成提出する	1.5 時間
	1,2,3,4,6	復習	レファレンス課題に回答の方針を立てる	1.5 時間
10	講義内容	新聞・雑誌・郷土資料・書誌情報を探す■		
	該当到達目標	予習	レファレンス課題と評価課題を作成提出する	1.5 時間
	1,2,3,4,6	復習	レファレンス課題に回答の方針を立てる	1.5 時間
11	講義内容	白書・統計・法情報を探す■		
	該当到達目標	予習	レファレンス課題と評価課題を作成提出する	1.5 時間
	1,2,3,4,6	復習	白書・統計・法情報のURLをまとめる	1.5 時間
12	講義内容	実際のレファレンスインタビューを想定してシナリオを考える■		
	該当到達目標	予習	レファレンスをするときの利用者の心理を想定して考えること	1.5 時間
	5	復習	実際のレファレンスインタビューを想定して実演し、動画制作をする	1.5 時間
13	講義内容	実際のレファレンスインタビューを想定して実演・発表する■		
	該当到達目標	予習	実際のレファレンスインタビューを想定して実演し、動画で提出する	2.5 時間
	5	復習	レファレンスを受ける図書館員の期待される姿をまとめる	0.5 時間
14	講義内容	情報サービス(レフェラルサービス・メールマガジン・パスファインダー等)、事例を紹介する■		
	該当到達目標	予習	利用者の立場でどのような発信型情報サービスを受けたいか考えてくること	0.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	図書館として情報を必要とする人に対する企画を具体的にミニレポートにする	2.5 時間
15	講義内容	パスファインダーの発表■		
	該当到達目標	予習	パスファインダー制作して提出する	0.5 時間
	1,2,3	復習	情報サービスを通して、利用者も図書館員も育つ図書館の姿を考えること	0.5 時間
16	講義内容	情報検索の概要		
	該当到達目標	予習	特になし	0 時間
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
17	講義内容	情報検索システムの基本機能		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
18	講義内容	OPACによる検索の実際		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
19	講義内容	主要なサーチエンジンの概要		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
20	講義内容	サーチエンジンによる検索の実際		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
21	講義内容	シソーラスの利用		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
22	講義内容	検索システムの仕組み		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
23	講義内容	論文検索の概要		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
24	講義内容	検索システムの仕組み 2		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
25	講義内容	論文検索の概要		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
26	講義内容	論文検索		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
27	講義内容	論文検索の実際		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
28	講義内容	論文検索の実際 2		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
29	講義内容	論文検索の実際 3		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
30	講義内容	講義のまとめ		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	4 時間
合計時間(予習・復習)				90 時間
備考	この科目は「情報サービス論」を履修していなければ受講できません この科目は課題提出等で基本的なパソコンの操作が必要です。各自で習得しておいてください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	図書館情報資源概論(司書)				科目ナンバリング	—
英文名	Introduction to Library Information Resources				講義形態	講義
担当教員	斎藤 順二					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位			
種別	司書科目					
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養		—	コミュニケーションスキル	
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能		—	生涯学習力	
	—	問題解決力				
講義概要 (テーマ・内容)	高度情報化社会の進展に伴い、図書館環境も大きく変わりつつある。ここでは、印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源について、類型と特質、選択・収集・保存等、図書館業務に必要な情報資源に関する知識の基本について理解できることを目標にする。 授業では、テキストを單元ごとに読解し要約する。また「日本の名作」の朗読 CD を補助教材として使用する。					
到達目標	1.多様化する図書館情報資源(印刷メディア)の有効活用を考えることができる。 2.多様化する図書館情報資源(非印刷メディア)の有効活用を考えることができる。 3.多様化する図書館情報資源(電子メディア)の有効活用を考えることができる。					
評価方法	まとめのミニレポート(各章の要約と朗読 CD の感想)15 回で 90%評価する。授業参加度を 10%加味する。総合評価 60%以上を合格とする。					
使用教材	馬場俊明編著『図書館情報資源概論』(日本図書館協会)定価(1,900 円+税)					
参考文献						
課題に対するフィードバック	まとめのミニレポートは毎回提出してもらい、次回採点・評価して返却する。					
オフィスアワー (研究室)	質問には授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。			メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	図書館情報資源の意義				
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT1 に目を通す。			1 時間
	1,2,3	復習	図書館情報資源の定義と類型について理解する。			1.5 時間
2	講義内容	図書館情報資源と図書館の自由				
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT2 に目を通す。			1 時間
	1,2,3	復習	表現の自由と検閲の問題を理解する。			1.5 時間
3	講義内容	印刷資料の類型と特質				
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT3 に目を通す。			1 時間
	1	復習	図書・雑誌・新聞の特質を理解する。			1.5 時間
4	講義内容	非印刷資料の類型と特質				
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT4 に目を通す。			1 時間
	3	復習	映像・音声資料の特質を理解する。			1.5 時間
5	講義内容	電子資料の類型と特質				
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT5 に目を通す。			1 時間
	3	復習	電子メディアの特質を理解する。			1.5 時間

令和2年度 社会福祉学科 シラバス

6	講義内容	ネットワーク情報資源の類型と特質		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT6 に目を通す。	1 時間
	3	復習	通信メディアの特質を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	地域資料・行政資料		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT7 に目を通す。	1 時間
	1,2	復習	政府刊行物・灰色文献についても理解する。	1.5 時間
8	講義内容	情報資源の生産(出版)と流通		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT8 に目を通す。	1 時間
	1,2	復習	主な出版社の基本的な知識を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	図書館業務と情報資源に関する知識		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT9 に目を通す。	1 時間
	1,2	復習	主な著者の基本的な知識を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	コレクション形成の理論		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT10 に目を通す。	1 時間
	1,2	復習	資料の選択・収集について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	コレクション形成の方法		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT11 に目を通す。	1 時間
	3	復習	選択ツールの利用・選定を理解する	1.5 時間
12	講義内容	人文・社会科学分野の情報資源とその特性		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT12 に目を通す。	1 時間
	1,2,3	復習	各分野の情報資源を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	科学技術・生活分野の情報資源とその特性		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT13 に目を通す。	1 時間
	1,2,3	復習	各分野の情報資源を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	資料の受入・除籍・保存・管理		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT14 に目を通す。	1 時間
	1,2,3	復習	資料の補修・配架・展示・点検等も理解する。	1.5 時間
15	講義内容	学習の整理と展望		
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT15 に目を通す。	1 時間
	1,2,3	復習	近未来の図書館構想も視野に入れて理解を深める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名	情報資源組織論(司書)				科目ナンバリング	—
英文名	Introduction to Library Information Resources Organization				講義形態	講義
担当教員	太田 克子					
科目に関連した実務経験	司書として県立図書館に勤務(経験)、学校司書として県立高校に勤務(経験) 司書として県総合教育センターにて教育専門図書館を担当(経験)					
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位			
種別	司書科目					
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養		—	コミュニケーションスキル	
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能		—	生涯学習力	
	—	問題解決力				
講義概要 (テーマ・内容)	図書館には膨大かつ多種多様な情報資源が備わっています。それらに利用者がアクセスするには、情報資源を一定のルールに従って分類し、整理し、保存され、その仕組みが維持されていなければなりません。いかなる利用者も目的の資料に迅速かつ的確に辿り着ける仕組みは、情報資源の組織化にかかっています。その図書館の根幹に関わる技術の意義と機能を理解します。 授業は、教科書を使って説明する。パワーポイントによる図の提示を行っていく。					
到達目標	1.情報資源を組織化する意義を理解する■ 2.記述目録法を理解する■ 3.主題目録法(分類・件名)を理解する■ 4.その他、図書記号の付与、排架等組織化に関する技術を理解する■					
評価方法	筆記試験 90% 小テスト 10% 総合評価 60%以上を合格とする					
使用教材	『情報資源組織法』 志保田務ほか編著 第一法規 2016 年 2,600 円 『日本十進分類法 新訂 10 版簡易版』 もりきよし原編 日本図書館協会 2018 年 3,000 円					
参考文献	『日本目録規則 2018 年版』 日本図書館協会 2018 年 『日本目録規則 1987年版改訂 3 版』 日本図書館協会 2006 年 『日本十進分類法 新訂 10 版』 もりきよし原著 日本図書館協会 2015 年 『基本件名標目表 第 4 版』 日本図書館協会 1999 年					
課題に対するフィードバック	小テストにコメントを付けて返却する。					
オフィスアワー (研究室)	水曜日 3 限(研究室 1 号館 5 階 509)			メールアドレス (#→@)	ota-y#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション 情報資源組織化の意義				
	該当到達目標 1	予習	教科書 p1～p33 を読んでおくこと			1.5 時間
		復習	教科書 p.7 の受入の流れを理解すること			1.5 時間
2	講義内容	目録法総論・書誌コントロール				
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 p35～p45 を読んでおくこと			1.5 時間
		復習	書誌コントロールを解説するミニレポートを作成する			1.5 時間
3	講義内容	和資料記入の作成(単行書誌)■				
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 p47～p66 を読んでおくこと			1.5 時間
		復習	課題の単行レベルの記述をすること			1.5 時間
4	講義内容	和資料記入の作成(書誌階層)■				
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 p66～p99 を読んでおくこと			1.5 時間
		復習	課題の単行レベル・集合レベル・構成レベルの記述すること			1.5 時間
5	講義内容	和資料記入の作成(復習・小テスト)■				
	該当到達目標	予習	教科書 p1～p99 を読んでおくこと			1.5 時間

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	1,2	復習	復習課題の目録記述をすること	1.5 時間
6	講義内容	和資料記入の作成(逐次刊行物・その他の資料)■		
	該当到達目標	予習	教科書 p99～p118 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2	復習	逐次刊行物課題の目録記述をすること	1.5 時間
7	講義内容	アクセスポイント(著者)■		
	該当到達目標	予習	教科書 p118～p132 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2	復習	アクセスポイント(著者)についての規定を理解すること	1.5 時間
8	講義内容	アクセスポイント(タイトル)■		
	該当到達目標	予習	教科書 p118～p132 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2	復習	アクセスポイント(タイトル)についての規定を理解すること	1.5 時間
9	講義内容	洋資料記入の作成 外国語資料の収集・整備に触れる■		
	該当到達目標	予習	教科書 p133～p161 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2	復習	出版社と注記の記述を理解すること	1.5 時間
10	講義内容	主題目録法(件名と分類記号)■		
	該当到達目標	予習	教科書 p163～p180 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,3	復習	書架分類と書誌分類の特徴を理解する	1.5 時間
11	講義内容	日本十進分類法		
	該当到達目標	予習	教科書 p181～p193 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,3	復習	海外の主要分類表の特徴を理解する 日本十進分類表の問題点をまとめる	1.5 時間
12	講義内容	分類作業■		
	該当到達目標	予習	教科書 p193～p202 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,3	復習	分類表第 2 次区分を覚えること	1.5 時間
13	講義内容	分類規定■		
	該当到達目標	予習	教科書 p202～p256 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,3	復習	分類規定を理解する	1.5 時間
14	講義内容	図書記号の付与と排架並びに図書以外の資料の保存 公共図書館学校図書館の事例■		
	該当到達目標	予習	教科書 p257～p267 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,4	復習	図書記号の付与と排架について理解する	1.5 時間
15	講義内容	ネットワーク情報資源の組織化とネットワーク		
	該当到達目標	予習	教科書の p267～p277 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ネットワーク情報資源について理解する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	情報資源組織演習(司書)				科目 ナンバリング	—
英文名	Library Information Resources Organization Practice				講義形態	講義
担当教員	太田 克子					
科目に関連した 実務経験	司書として県立図書館に勤務(経験)、学校司書として県立高校に勤務(経験) 司書として県総合教育センター教育専門図書館を担当(経験)					
学年・開講期	2 年 通年	選必・単位数	選択 4 単位			
種別	司書科目					
学位授与方針 との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養		—	コミュニケーションスキル	
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能		—	生涯学習力	
	—	問題解決力				
講義概要 (テーマ・内容)	図書館の実際の業務を想定して、情報資源の組織化に関する演習を行う。利用者が資料・情報に迅速かつ的確に辿り着けるように、多様な情報資源の組織化を行うための実践的なスキルを習得する。 多様なメディア(視聴覚資料、地図、紙芝居、楽譜、灰色文献等)の記述にも触れる。 受講生には、毎回課題の解答を板書して発表してもらう。特に分類作業については、グループで主題分析の検討をした結果を説明してもらう。この過程を通して利用者の資料・情報探索のニーズを考え、図書館の対応のあり方を考える 授業の進め方については、前半は、教科書を使って要点をまとめていく。後半は演習問題の解答合わせをする。					
到達目標	1.『日本目録規則』(NCR)に準拠し情報資源の目録記述ができる。■ 2.アクセスポイントの排列ができる。■ 3.『日本十進分類法』(NDC)と『基本件名標目表』(BSH)に準拠し、その使い方を習得し、情報資源の主題分析ができ、分類記号付与、件名付与ができる。■ 4.請求記号を付与できる。■					
評価方法	試験 90% 小テスト・授業貢献度等 10% 総合評価 60%以上を合格					
使用教材	『目録法キイノート』 宮沢厚雄著 樹村房 2016 年 1,500 円 『分類法キイノート』 宮沢厚雄著 樹村房 2019 年 1,500 円 『日本十進分類法 新訂 10 版簡易版』 もりきよし原編 日本図書館協会 2018 年 3,000 円					
参考文献	『日本目録規則 2018 年版』 日本図書館協会 2018 年 『日本目録規則 1987年版改訂 3 版』 日本図書館協会 2006 年 『日本十進分類法 新訂 10 版』 もりきよし原著 日本図書館協会 2015 年 『基本件名標目表 第 4 版』 日本図書館協会 1999 年					
課題に対する フィードバック	小テストを添削して返却する。					
オフィスアワー (研究室)	水曜日 3 限(研究室 1 号館 5 階 509)			メールアドレス (#→@)	ota-y#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション 目録の意義 目録の種類について事例を紹介する■				
	該当到達目標 1	予習	教科書『目録法キイノート』の第 1 章を読んでおくこと			1.5 時間
		復習	目録の種類と書誌の種類をまとめる			1.5 時間
2	講義内容	日本目録規則■				
	該当到達目標 1	予習	教科書『目録法キイノート』の第 2 章を読んで問題を解いておくこと			1.5 時間
		復習	書誌事項のエリアを把握する 記述の情報源の優先順をまとめる			1.5 時間
3	講義内容	タイトルと責任表示(1)■				
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第 3 章を読んで問題を解いておくこと			1.5 時間

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	1	復習	責任表示の役割を調べる	1.5 時間
4	講義内容	タイトルと責任表示(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第 4 章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
	1	復習	部編名、別タイトル、複数作品を収録する図書についてまとめる	1.5 時間
5	講義内容	タイトルと責任表示に関する総合演習問題■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第 5 章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
	1	復習	p25～p27 を復習する	1.5 時間
6	講義内容	版表示、出版・頒布等の事項■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第 6 章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
	1	復習	版と刷、出版地についてまとめる	1.5 時間
7	講義内容	形態、注記、ISBN■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第 7 章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
	1	復習	p34～p38 を復習する	1.5 時間
8	講義内容	単行書に関する総合演習問題■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第 8 章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
	1	復習	p41～p45 を復習する	1.5 時間
9	講義内容	書誌単位(1)■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第 9 章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
	1	復習	単行(基礎)単位と集合単位について復習する	1.5 時間
10	講義内容	書誌単位(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第 10 章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
	1	復習	シリーズものとセットものについて復習する	1.5 時間
11	講義内容	3 層の書誌階層(1) 構成単位の例■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第 11 章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
	1	復習	単行(基礎)単位、集合単位、構成単位について復習する	1.5 時間
12	講義内容	3 層の書誌階層(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第 12 章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
	1	復習	p76～p78 を復習する	1.5 時間
13	講義内容	書誌単位に関する総合演習問題■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第 13 章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
	1	復習	p83～p88 を復習する	1.5 時間
14	講義内容	目録法に関する総合演習問題 雑誌・灰色文献・地図等の例■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第 14 章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
	1	復習	p94～p95 をまとめる	1.5 時間
15	講義内容	見出し項目の選出と編成■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第 15 章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
	1,2	復習	第 15 章より、統一タイトルと排列のルールをまとめる	1.5 時間
16	講義内容	分類記号の位置づけと日本十進分類法■		
	該当到達目標	予習	教科書『分類法キイノート』の第 1・2 章を読んでおくこと	1.5 時間
	3	復習	第 1・2 章より主要な図書館分類法についてまとめる	1.5 時間
17	講義内容	主題分析 本表の見方と階層構造■		
	該当到達目標	予習	教科書『分類法キイノート』の第 3 章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
	3	復習	第 3 章より本表の見方を理解する	1.5 時間
18	講義内容	主題分析 主題の特定と相関関係■		

令和２年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 3	予習	教科書『分類法キイノート』の第４章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
		復習	第４章より分類記号付与の注意点をまとめる	1.5 時間
19	講義内容 該当到達目標 3	補助表 形式区分■		
		予習	教科書『分類法キイノート』の第５章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
		復習	教科書 p36～p37 を復習する	1.5 時間
20	講義内容 該当到達目標 3	補助表 地理区分・海洋区分■		
		予習	教科書『分類法キイノート』の第６章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
		復習	地理区分・日本地方区分・海洋区分を理解する	1.5 時間
21	講義内容 該当到達目標 3	補助表 言語区分・言語共通区分■		
		予習	教科書『分類法キイノート』の第６章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
		復習	地理区分と言語区分について p.48 を復習すること	1.5 時間
22	講義内容 該当到達目標 3	補助表 文学共通区分・地域的論述の細区分・その他の固有補助表■		
		予習	教科書『分類法キイノート』の第８章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
		復習	文学について、日本の時代区分と海外の時代区分をまとめて表にすること	1.5 時間
23	講義内容 該当到達目標 3	補助表に関する演習問題■		
		予習	教科書『分類法キイノート』の第９章の問題を解いておくこと	1.5 時間
		復習	p.63 を復習すること	1.5 時間
24	講義内容 該当到達目標 3	分類規程 複数主題(対等と相互作用)■		
		予習	教科書『分類法キイノート』の第１０章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
		復習	p67～p70 を復習すること	1.5 時間
25	講義内容 該当到達目標 3	分類規程 複数主題(重点処置)■		
		予習	教科書『分類法キイノート』の第１１章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
		復習	p82～p83 を復習すること	1.5 時間
26	講義内容 該当到達目標 3	分類規程 伝記■		
		予習	教科書『分類法キイノート』の第１２章を読んで問題を解いておくこと	1.5 時間
		復習	p84～p87 を復習すること	1.5 時間
27	講義内容 該当到達目標 3	分類規程に関する演習問題 館種による分類について■		
		予習	教科書『分類法キイノート』の第１３章の問題を解いておくこと	1.5 時間
		復習	p.90 の分類法の心得 25 選を復習すること	1.5 時間
28	講義内容 該当到達目標 3	分類法に関する演習問題■		
		予習	教科書『分類法キイノート』の第１４章の問題を解いておくこと	1.5 時間
		復習	p.98 の問題を復習すること	1.5 時間
29	講義内容 該当到達目標 3,4	所在記号 件名 多様な館種の請求記号の事例を紹介しながらイメージできるようにする■		
		予習	最寄りの公共図書館に出向いて、所在記号や別置記号にどんなものがあるか、まとめておく	1.5 時間
		復習	教科書『分類法キイノート』の第１５章を読んで復習すること	1.5 時間
30	講義内容 該当到達目標 1,2,3,4	まとめ 情報資源組織化の意義		
		予習	情報資源組織化の意義を考えること	1.5 時間
		復習	情報資源組織化の意義をまとめる	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				90 時間
備考	この科目は「情報資源組織論」を履修していなければ受講できません。 『日本十進分類法第 10 版』第 2 区分表を必ず覚えてから受講してください。 各章の演習問題を解いて授業に臨んでください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	図書館サービス特論(司書)			科目ナンバリング	—	
英文名	Lecture on Library Services			講義形態	講義	
担当教員	小柳 聡美					
科目に関連した実務経験	学校図書館司書として公立小中学校に勤務(経験) 教務職員として進学塾に勤務(経験)					
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位			
種別	司書科目					
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養		—	コミュニケーションスキル	
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能		—	生涯学習力	
	—	問題解決力				
講義概要 (テーマ・内容)	司書資格取得必修科目で学んだ内容を実際に司書業務の中に活かすには、カウンターサービス並びにフロアワークに必要なコミュニケーション能力を伸ばすことが不可欠である。特に日本人に固有なノンバーバル・コミュニケーションの理解と将来の超高齢化・少子化を考慮しながらのコミュニケーション能力の育成により、生涯学習としての図書館利用を促せるサービス環境の構築を目指す。 第 2 回の授業より、導入で前回の講義内容を 400 字にまとめて発表してもらう。					
到達目標	1.対人業務に必要なコミュニケーション能力を学び、その能力を具体的に修得できる。■ 2.コミュニケーションの定義を正確に理解する。 3.多種多様な利用者に対し、円滑なコミュニケーションが実現できる対応力を身につける。■					
評価方法	筆記試験 70%、授業時間内提出物 20%、授業参加度 10%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。なお詳しい評価基準は、初回講義時に提示する。					
使用教材	教科書『コミュニケーション学入門』大田信男(大修館書店) ISBN4-469-21186-9					
参考文献						
課題に対するフィードバック	提出物は講義内で発表時間を設け、講評する。 筆記試験の意図は、第 1 回の講義で説明する。					
オフィスアワー (研究室)	質問には授業開始前もしくは終了後に教室等で応じます。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示します。		
1	講義内容	コミュニケーションの必要性				
	該当到達目標	1,2	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。 なぜ司書資格を取得しようと考えたか、という点を交えて自己紹介が出来るようにしておく。		2 時間
		復習	教科書第 1 章を読み、コミュニケーションとは何かを理解する。			2 時間
2	講義内容	ノンバーバル・コミュニケーションのメッセージ性				
	該当到達目標	1,2	予習	教科書第 3 章に目を通す。		2 時間
		復習	バーバル・コミュニケーション、ノンバーバル・コミュニケーションとは何か理解する。			2 時間
3	講義内容	マス・コミュニケーションと社会				
	該当到達目標	1	予習	教科書第 5 章に目を通す。		1.5 時間
		復習	マス・コミュニケーション、マス・メディアとは何か理解する。			2 時間
4	講義内容	若者文化とコミュニケーション				

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,3	予習	教科書第 9 章に目を通す。	1.5 時間
		復習	(現在「若者」である)自分にとっての若者文化とは何か考察する。	2 時間
5	講義内容	図書館サービスとコミュニケーションの関係		
	該当到達目標 1,4	予習	図書館における自身の「コミュニケーション」体験について発表できるように準備しておく。	1.5 時間
		復習	図書館において必要なコミュニケーションとは何か考察する。	1.5 時間
6	講義内容	カウンターサービスとフロアワークの目的と意義■		
	該当到達目標 1,4	予習	教科書第 4 章に目を通す。	1.5 時間
		復習	カウンターサービス、フロアワークとは何か、違いも含めて理解する。	1.5 時間
7	講義内容	情報化の進展と図書館サービス		
	該当到達目標 1	予習	教科書 11, 12 章に目を通す。	2 時間
		復習	図書館における情報化の必要性について理解する。	2 時間
8	講義内容	「モノ」と「コト」に付けられた「名前」		
	該当到達目標 1	予習	教科書第 2 章に目を通す。	2 時間
		復習	全講義の振り返り。	2 時間
合計時間(予習・復習)				29 時間
備考	キーワード:「ノンバーバル・コミュニケーション」「フロアワーク」「カウンターサービス」「生涯学習」 ■:実務経験に基づく内容を示します。			

科目名	図書館情報資源特論(司書)				科目ナンバリング	—
英文名	Lecture on Library Information Resources				講義形態	講義
担当教員	斎藤 順二					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位			
種別	司書科目					
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養		—	コミュニケーションスキル	
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能		—	生涯学習力	
	—	問題解決力				
講義概要 (テーマ・内容)	「図書館情報資源概論」で学んだ内容をさらに発展的に学習し理解を深める観点から、図書館情報資源に関する領域の課題を選択し、高度化・多様化する利用者のニーズに応えられることを目標にする。 授業では、テキストを単元ごとに読解し要約する。また「日本の名作」の朗読 CD を補助教材として使用する。					
到達目標	1.各分野の情報資源の特性を知る。 2.各分野の情報資源にアクセスできる。					
評価方法	まとめのミニレポート(各章の要約と朗読 CD の感想)15 回で 90%評価する。授業参加度を 10%加味する。総合評価 60%以上を合格とする。					
使用教材						
参考文献	『図書館情報資源概論』(継続使用)					
課題に対するフィードバック	まとめのミニレポートは毎回提出してもらい、次回採点評価して返却する。					
オフィスアワー (研究室)	質問には授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。			メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。	
1	講義内容	資料特論(灰色文献)				
	該当到達目標	予習	教科書 UNIT18 に目を通す。			1 時間
	1,2	復習	灰色文献にアクセスし、理解を深める。			1.5 時間
2	講義内容	資料特論(政府刊行物)				
	該当到達目標	予習	教科書 UNIT19 に目を通す。			1 時間
	1,2	復習	政府刊行物にアクセスし、理解を深める。			1.5 時間
3	講義内容	資料特論(地域資料)				
	該当到達目標	予習	教科書 UNIT20 に目を通す。			1 時間
	1,2	復習	地域社会分野の情報資源にアクセスし、理解を深める。			1.5 時間
4	講義内容	人文科学分野の情報資源				
	該当到達目標	予習	教科書 UNIT21 に目を通す。			1 時間
	1,2	復習	人文科学分野の情報資源にアクセスし、理解を深める。			1.5 時間
5	講義内容	社会科学分野の情報資源				
	該当到達目標	予習	教科書 UNIT22 に目を通す。			1 時間
	1,2	復習	社会科学分野の情報資源にアクセスし、理解を深める。			1.5 時間
6	講義内容	科学技術分野の情報資源				

令和 2 年度 社会福祉学科 シラバス

	該当到達目標 1,2	予習	教科書 UNIT28 に目を通す。	1 時間
		復習	科学技術分野の情報資源にアクセスし、理解を深める。	1.5 時間
7	講義内容	生活分野の情報資源		
	該当到達目標	予習	教科書 UNIT29 に目を通す。	1 時間
	1,2	復習	生活分野の情報資源にアクセスし、理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	NIE(教育に新聞を！)の活動報告		
	該当到達目標	予習	教科書 UNIT38 に目を通す。	1 時間
	1	復習	NIE 活動に参加し、新聞記事をスクラップにまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				20 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完してください。			